

7.5

*IBM WebSphere MQ* リファレンス

**IBM**

## 注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[897 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® WebSphere® MQ バージョン 7 リリース 5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様が IBM に情報を送信する場合、お客様は IBM に対し、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で情報を使用または配布する非独占的な権利を付与します。

© Copyright International Business Machines Corporation 2007 年, 2024.

# 目次

<b>参照</b> .....	<b>5</b>
構成リファレンス PDF.....	5
管理リファレンス PDF.....	5
アプリケーションの開発のリファレンス PDF.....	5
IBM WebSphere MQ Telemetry のリファレンス.....	5
MQ Telemetry Transport のフォーマットおよびプロトコル.....	5
IBM WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用).....	5
MQXR プロパティ.....	23
セキュリティに関する参照情報.....	23
API 出口.....	23
API 交差出口.....	25
UNIX、Linux、および Windows システム上での証明書の妥当性検査およびトラスト・ポリシー の設計.....	26
暗号ハードウェア.....	39
SSLPEER 値についての IBM WebSphere MQ の規則.....	39
GSKit: FIPS 140-2 に準拠するデジタル証明書署名アルゴリズム.....	41
IBM WebSphere MQ AMS メッセージで使用される GSKit 戻りコード.....	41
AltGSKit の IBM WebSphere MQ バージョン 7.0.1 からバージョン V7.1 へのマイグレーション....	45
CipherSpec のミスマッチ.....	48
認証の失敗.....	48
パフォーマンスおよびモニターに関する参照情報.....	49
構造データ型.....	49
オブジェクト属性のイベント・データ.....	74
イベント・メッセージ参照.....	108
トラブルシューティングとサポートのリファレンス.....	213
IBM WebSphere MQ for Windows のトレース・データの例.....	214
IBM WebSphere MQ for UNIX システムのトレース・データの例.....	215
MQPut からのトレース出力の例.....	219
CEDF の出力例.....	221
メッセージ.....	231
診断メッセージ: AMQ4000-9999.....	231
AMQXR メッセージ.....	842
MQJMS メッセージ.....	852
IBM WebSphere MQ AMS メッセージ.....	867
<b>特記事項</b> .....	<b>897</b>
プログラミング・インターフェース情報.....	898
商標.....	898



## 参照

---

このセクションにある参照情報を使用して、ビジネスの必要に対処するタスクを実行します。

- [構文図](#)
- [213 ページの『トラブルシューティングとサポートのリファレンス』](#)

## 構成リファレンス PDF

---

2021 年 5 月以降、構成参照情報は別の PDF に移動しました。

[mq75.refconfig.pdf](#) は、[mq75.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

## 管理リファレンス PDF

---

2021 年 5 月以降、管理参照情報は別の PDF に移動しました。

[mq75.refadmin.pdf](#) は、[mq75.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

## アプリケーションの開発のリファレンス PDF

---

2021 年 5 月以降、開発中のアプリケーション参照情報は別の PDF に移動しました。

[mq75.refdev.pdf](#) は、[mq75.reference.pdf](#) と同じディレクトリーにあります。

## IBM WebSphere MQ Telemetry のリファレンス

---

MQTT クライアントのプログラミングに関する情報

- 

### MQ Telemetry Transport のフォーマットおよびプロトコル

MQ Telemetry Transport (MQTT) は、多数のリモート・センサーおよび制御デバイスに接続するために TCP/IP を介してフローする単純なパブリッシュ/サブスクライブ・プロトコルです。MQTT は、低帯域幅および信頼性の低い通信に耐えなければならない小さなフットプリント・デバイス上の特殊なアプリケーションによって使用されます。公開されているプロトコルを使用する独自のクライアントを作成することも、IBM WebSphere MQ Telemetry のインストールに付属するいずれかのクライアントを使用することもできます。SupportPacs として、またビジネス・パートナーから入手できる追加の MQTT クライアントがあります。

IBM WebSphere MQ Telemetry は、MQ Telemetry Transport (MQTT) プロトコルのバージョン 3.1 を使用します。IBM <https://public.dhe.ibm.com/software/dw/webservices/ws-mqtt/mqtt-v3r1.html> でプロトコル仕様を公開します。

IBM WebSphere MQ のインストール以外のソースから MQTT クライアントを入手した場合、クライアントでサポートされる MQTT プロトコルのバージョンを検査してください。

現在、IBM WebSphere MQ Telemetry 以外のソースからのクライアントは通常、異なるレベルの MQTT プロトコルをサポートしており、IBM WebSphere MQ Telemetry サービスと一緒に正しく機能しません。それらのクライアントでは、クライアントを MQTT v3.1 に変換する薄い変換レイヤーが必要です。使用予定のクライアントに対する更新として使用できる変換レイヤーがあるかどうか、クライアントのソースを調べてください。

### IBM WebSphere MQ Telemetry Telemetry デーモン (デバイス用) の参照情報

WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成に関する参照情報。

## WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成ファイル

デーモン構成ファイルを使用して、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成パラメーターを設定します。構成ファイルには、デーモンを制御するグローバル・パラメーター、ブリッジ・パラメーター、およびリスナー・パラメーターという 3 つのタイプのパラメーターが含まれています。

### Daemon configuration file

WebSphere MQ Telemetry daemon for devices configuration options are selected by entries in the daemon configuration file. The default configuration file is named `amqtdd.cfg`. It is in the same directory as the daemon executable program.

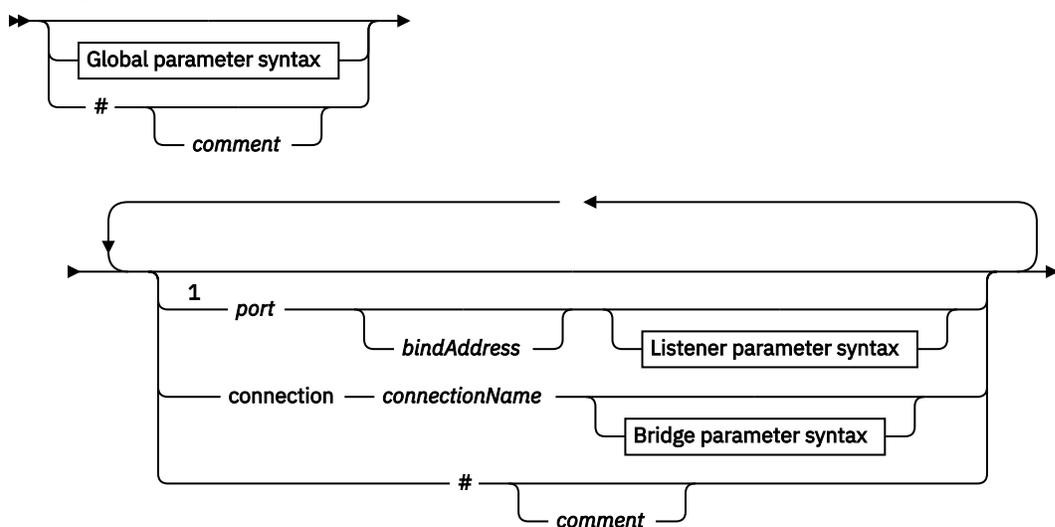
Specify a different configuration file by passing the path and file name as a single parameter when you start the daemon. For example, if the configuration file is called `testdaemon.cfg`, enter the following command to start the daemon:

```
./amqtdd testdaemon.cfg
```

When started, the daemon checks for the existence of the configuration file. If the file does not exist, the daemon runs with default settings.

You can change some of the configuration options while the WebSphere MQ Telemetry daemon for devices is running. Place the updates in a file named `amqtdd.upd`. See [Modifying daemon configuration while it is running](#) for the complete list of the commands and options that you can place in `amqtdd.upd`.

### Configuration file syntax



### Global parameter syntax

➤ 2

### Bridge parameter syntax

➤ 3

### Listener parameter syntax

➤ 4

注:

<sup>1</sup> A default listener exists on `port`. `port` is a global parameter and defaults to 1883

<sup>2</sup> See 8 ページの『グローバル・パラメーターの構文』.

<sup>3</sup> See [Bridge parameters syntax](#).

<sup>4</sup> See [Listener parameters syntax](#).

The configuration file is a text file. Type each configuration parameter in the configuration file on a single line. You can format the file with spaces and tabs anywhere on a line.

## 構成ファイルのパラメーター

### ブリッジ・パラメーター

ブリッジ・パラメーターは、このデーモンが MQTT v3 プロトコルを使用して別のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーを接続する方法を制御します (15 ページの『ブリッジ・パラメーター』を参照)。

ブリッジ・パラメーターは、すべてのグローバル・パラメーターの後ろに置く必要があります。各接続に対するブリッジ・パラメーターはすべて連続行になければなりません。

**注:**ブリッジという用語は、デーモンのブリッジ・コンポーネントを指す場合に使用します。ブリッジ・コンポーネントは、MQTT V3 プロトコルを使用して他のブローカーに接続し、ブローカーからブローカーにパブリケーションを伝搬します。WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のブリッジ WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のブリッジを参照してください。接続は、特定のブローカーに接続するブリッジのインスタンスです。例えば、WebSphere MQ Telemetry チャンネルを使用した WebSphere MQ への接続や、別のデーモンへの接続などがあります。

### connection *connectionName*

接続の名前。この名前は、connection1 などのように、英数字でなければなりません。WebSphere MQ Telemetry チャンネルを使用したデーモンからキュー・マネージャーへの接続、またはリスナーを使用した別のデーモンへの接続が行われます (18 ページの『WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のリスナー・パラメーター』を参照)。

*connectionName* は、システム *hostname* と結合され、ClientIdentifier が作成されます。ClientIdentifier は、接続先のリスナーまたはテレメトリー・チャンネルとのブリッジを識別します。ブリッジは、MQTT v3 クライアントです。

Connection は、構成ファイルのブリッジ接続セクションの開始を示し、すべてのグローバル・パラメーターの後ろに置く必要があります。リスナー・セクションとブリッジ・セクションは任意の順序で指定できます。

### グローバル・パラメーター

グローバル・パラメーターは、デーモンの操作全体を制御します (10 ページの『グローバル・パラメーター』を参照)。グローバル・パラメーターは、リスナー・パラメーターまたはブリッジ・パラメーターの前に置く必要があります。

### listener *portNumber* | default *bindAddress*

指定した *portNumber* とオプションのローカル *bindAddress* を使用して、新しいリスナーを作成します (*bind\_address* を参照)。リスナーは MQTT クライアントをデーモンに接続します。

listener は、構成ファイルのリスナー・セクションの開始を示し、すべてのグローバル設定の後ろに置く必要があります。リスナー・セクションとブリッジ・セクションは任意の順序で指定できます。

### リスナー・パラメーター

リスナー・パラメーターは、MQTT クライアントと他のデーモンがこの WebSphere MQ デーモン (デバイス用) に接続する方法を制御します (18 ページの『リスナー・パラメーター』を参照)。リスナー・パラメーターはすべてのグローバル・パラメーターの後ろに置く必要があります。各リスナーに対するリスナー・パラメーターはすべて連続行になければなりません。

### # *comment*

コメントは、ファイルの任意の行に配置することができます。その場合、行の最初の空白以外の文字として # を配置します。行の末尾のコメントはサポートされていません。

## 構成ファイルの例

```
# Sample configuration
# Daemon listens on port 1882 with persistence in /tmp
port 1882
persistence_location /tmp/
retained_persistence true
```

## 関連資料

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のグローバル・パラメーター](#)

[IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ・パラメーター](#)

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のリスナー・パラメーター](#)

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のコマンド・ファイル](#)

## WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のグローバル・パラメーター

デーモン構成ファイルでグローバル・パラメーターを設定して、デーモンを制御します。

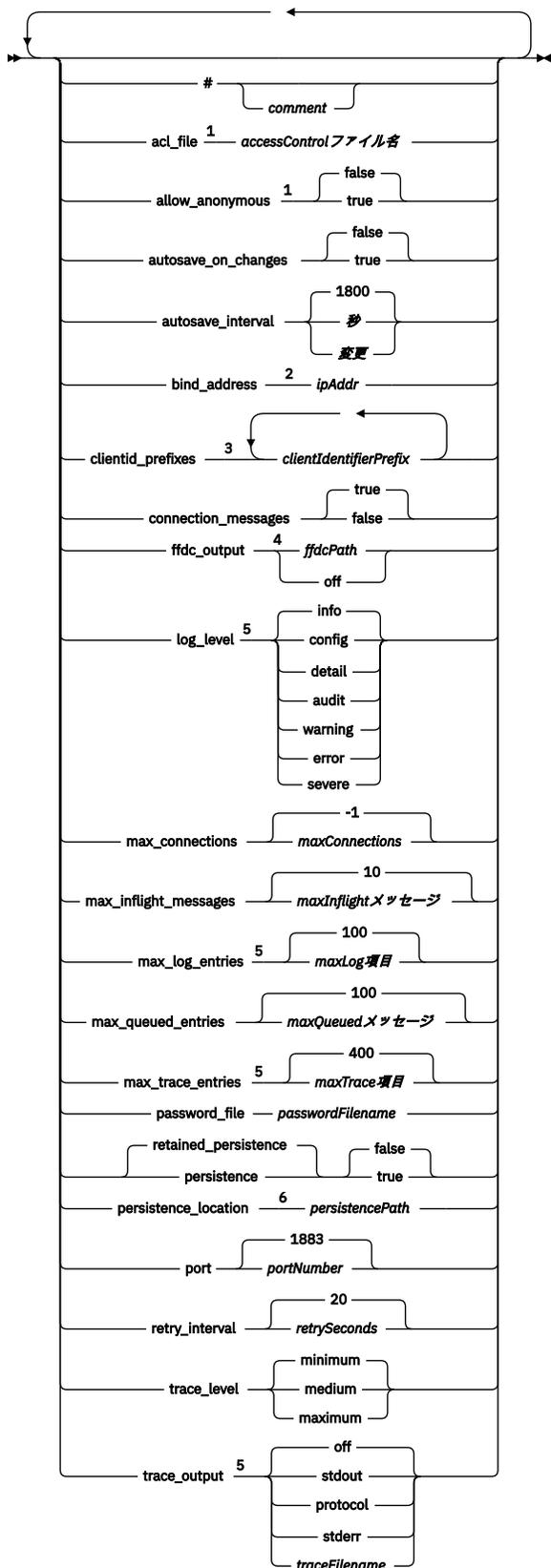
### グローバル・パラメーターの構文

グローバル・パラメーターの設定は、構成ファイル内のすべてのブリッジ・セクションおよびリスナー・セクションの前になければなりません。

構成ファイルの名前および形式については、6 ページの『[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル](#)』を参照してください。

更新を `amqtdc.upd` ファイルに配置することで、デーモンの実行中に一部のパラメーターを変更することができます ([実行中のデーモンの変更](#)を参照)。

## グローバル・パラメーターの構文



注:

<sup>1</sup> *passwordFilename* が指定されている場合にのみ許可されます。

<sup>2</sup> デフォルトでは、すべてのネットワーク・インターフェースからの接続が許可されます。

- 3 デフォルトでは、いずれのクライアント ID も許可されます。
- 4 デフォルト・パスは `persistencePath` です。
- 5 このパラメーターは、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の実行中に、`amqtdm.upd` ファイルに配置して更新します。
- 6 デフォルト・パスは、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のインストール・ディレクトリーです。

## グローバル・パラメーター

グローバル・パラメーターは、デーモンの操作全体を制御します。

### # comment

コメントは、ファイルの任意の行に配置することができます。その場合、行の最初の空白以外の文字として # を配置します。行の末尾のコメントはサポートされていません。

### acl\_file accessControl ファイル名

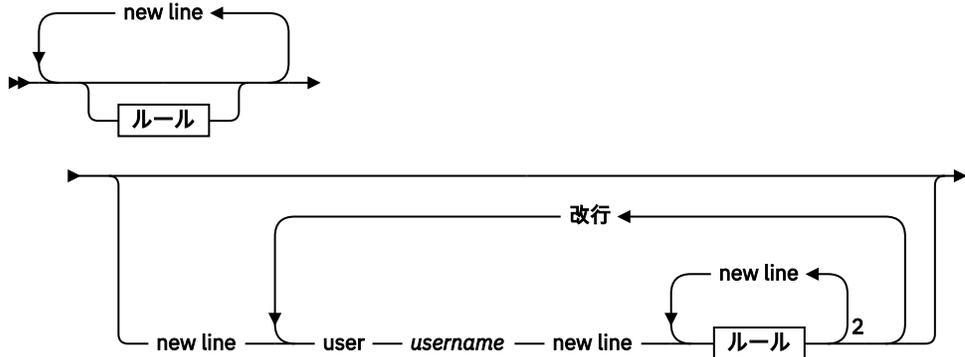
`accessControlFilename` は、アクセス制御規則を含むファイルの名前です。デフォルトでは、アクセス制御ファイルが提供されないため、アクセス制御は適用されません。アクセス制御は、`password_file` と `accessControlFilename` が指定されている場合にのみ、オンになります。アクセス制御がオンの場合、デフォルトですべてのトピックへのアクセスが制限されます。アクセス制御ファイルの規則に従って、トピックへのアクセスが許可されます。

ファイルはプレーン・テキストであり、1 行に 1 つのアクセス制御規則を記述します。最初の規則セットは汎用であり、匿名ユーザーを含むすべてのユーザーに適用されます。これらの汎用規則の後に、パスワード定義ファイルにある任意のユーザーの規則セットを記述します。

各規則はアクセス権に関するものであり、アクセス権が適用されるトピックを識別する、ワイルドカードを含めることができるトピック・ストリングがその後続きます。規則の効果は累積されます。つまり、すべてのユーザーにどのトピックへのアクセスも許可されていない状態で、デーモンが開始されます。デーモンは、各規則を適用して、読み取りと書き込みを許可されている各ユーザーをトピックに追加します。

ファイルは次のように編成されています。

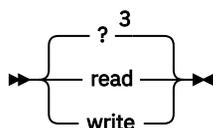
### アクセス制御ファイルの構文



### ルール



### アクセス権



注:

<sup>1</sup> Universal rules

<sup>2</sup> User-specific rules

<sup>3</sup> read/write

アクセス制御ファイルには以下のパラメーターがあります。

### ***permissiontopicString***

*topicString* と一致するトピックへ読み取りまたは書き込み、あるいはその両方の許可を追加します。規則は、すべてのユーザー、またはファイルのユーザー・セクション内の個々のユーザーに適用されます。規則の効果は追加されていきます。規則により、ユーザーが読み取りと書き込みを許可されているトピックのセットが拡張されます。

フルアクセスまたは読み取りアクセスを提供する規則では、+ワイルドカードを使用できません。書き込み専用規則では+ワイルドカードを使用できます。

アクセス制御リスト・ファイルのトピックには、マウント・ポイントを使用することで適用されるトピック接頭部が含まれていなければなりません。

### **user ユーザー名**

続く規則は、ユーザー ID が *username* の、パスワード・ファイルにあるユーザーに適用されます。

### **allow\_anonymous true|false**

*allow\_anonymous* は、*password\_file* が指定されている場合にのみ適用可能です。

*allow\_anonymous* を true に設定すると、クライアントは認証情報を提供せずに接続できます。

*allow\_anonymous* を false に設定すると、クライアントに認証情報の提供が強制されます。[クライアントの認証](#)を参照してください。

### **autosave\_on\_changes true|false**

*autosave\_on\_changes* を設定して、*autosave\_interval* の値の使用方法を変更します。

*autosave\_on\_changes* を true に設定すると、変更数が *autosaveChanges* に達したときに自動保存が開始されます。*autosave\_on\_changes* を false に設定すると、最後に自動保存が行われたときからの秒数が *autosaveSeconds* に達したときに自動保存が開始されます。

### **autosave\_interval autosaveSeconds|autosaveChanges|1800**

*autosave\_interval* は自動保存インターバルの長さであり、*autosave\_on\_changes* 設定に応じて、秒数または変更数で示されます。0 は自動保存が行われないことを意味します。[保存メッセージおよびサブスクリプションの保存](#)を参照してください。

### **bind\_address ipAddr**

デフォルトの *bind\_address* 値の場合、デーモンはすべてのネットワーク・インターフェースからの接続を許可します。

*ipAddr* は、デフォルト・リスナーのバインド先のローカル IP アドレスです。ホスト・システムに複数のネットワーク・カードがあり、1つのネットワークからのアクセスのみに制限する場合に、*bind\_address* を使用します。*ipAddr* を 127.0.0.1 と指定すると、クライアント接続は、デーモンと同じワークステーションからの接続のみに制限されます。

### **clientid\_prefixes clientIdentifierPrefix**

*clientid\_prefixes* は、デーモンへの接続が許可されるクライアントを制限するための接頭部のリストです。*clientIdentifierPrefix* で始まるクライアント ID を持つクライアントのみが接続を許可されます。それ以外の接続はすべて拒否されます。例えば、*clientIdentifierPrefix* を *test\_* に設定すると、*test\_1* や *test\_connection* などのクライアント ID を持つクライアントのみが接続を許可されます。

### **connection\_messages true|false**

*connection\_messages* を true に設定すると、クライアントの接続と切断のメッセージがログに記録されます。*connection\_messages* を false に設定すると、接続メッセージはログに記録されません。

### **ffdc\_output ffdcPath|off|Persistence location**

*ffdc\_output* のデフォルト値は [persistencePath](#) です。

*ffdcPath* は、ファイル名を除く、ディレクトリー・パスであり、FFDC ファイルの保管に使用されます。接頭部には、末尾にディレクトリー分離文字 / または \ を含める必要があります。

値を off にすると、FFDC の書き込みは完全にオフになります。FFDC 書き込みをオフにすると、問題判別が困難になります。

### **log\_level config|detail|\_info|audit|warning|error|severe**

*log\_level* は、必要なログ出力のレベルです。ログ・レベルは、重要性の低い方から順にリストされます。

ログ・メッセージは stdout および \$SYS/broker/log トピックに書き込まれます。

### **max\_connections maxConnections|\_1**

*max\_connections* のデフォルト値は -1 であり、制限がないことを示します。

*maxConnections* は、デフォルト・ポートに接続可能なアクティブ・クライアントの最大数です。他のポートでこのパラメーターを設定する場合は、[リスナー設定](#)を参照してください。

### **max\_inflight\_messages maxInflight メッセージ|\_10**

*maxInflightMessages* は、確認中またはクライアントに再送中の QoS=1 または QoS=2 アウトバウンド・メッセージの最大数です (MQ Telemetry Transport クライアントによって提供されるサービス品質を参照)。

### **max\_log\_entries maxLog エントリー|\_100**

*maxLogEntries* は、**trace\_dump** コマンドによって、または FFDC で、検索のために記録されるログ項目の最大数です。

### **max\_queued\_entries maxQueued メッセージ|\_100**

*maxQueuedMessages* は、各クライアントに送達するためにキューに入れることができる QoS=1 または QoS=2 メッセージの最大数です (MQ Telemetry Transport クライアントによって提供されるサービス品質を参照)。

**注:** クライアントのメッセージのキューがいっぱいになると、そのクライアントのための後続メッセージはすべて破棄され、クライアントに送達されません。キューが再びメッセージを受け入れられるようになると、通常のメッセージ送達が再開されます。

### **max\_trace\_entries maxTrace 項目|\_400**

*maxTraceEntries* は、**trace\_dump** コマンドによって、または FFDC で、検索のために記録されるトレース項目の最大数です。

### **password\_file passwordFilename**

デフォルトではパスワード・ファイルが設定されないため、認証は適用されません。

*passwordFilename* は、ユーザー名とパスワード認証情報を含むファイルの名前です。ファイルはプレーン・テキストであり、1 行に 1 つのパスワード定義が示されます。各定義の形式は以下のとおりです。

```
username:password
```

### **persistence|\_retained\_persistence true|\_false**

*retained\_persistence* を true に設定すると、デーモンのシャットダウン時に保存パブリケーションおよび永続サブスクリプションが保存され、デーモンの再始動時に復元されます。

*retained\_persistence* を false に設定すると、保存メッセージとサブスクリプションは破棄されます。[保存メッセージおよびサブスクリプションの保存](#)を参照してください。

**注:** Persistence と *retained\_persistence* は同義語です。persistence より *retained\_persistence* を優先して使用してください。

### **persistence\_location persistencePath**

デフォルトの *persistence\_location* は、デーモンがインストールされているディレクトリーです。

*persistencePath* は、保存メッセージと永続サブスクリプションを保管するディレクトリーのパスです。パスには、末尾のディレクトリー分離文字 / または \ を含める必要があり、ファイル名は含まれません。

#### **port *portNumber* | 1883**

デフォルト・リスナーは *portNumber* を使用して、MQTT クライアント接続を listen します。

#### **retry\_interval *retrySeconds* | 20**

*retrySeconds* は、サービス品質が最低 1 回または最高 1 回に設定されている未確認メッセージの再送をデーモンが試行するまでの秒数です。

#### **trace\_level minimum | medium | maximum**

*trace\_level* は、取得されて内部バッファに保管されるトレースのレベルです。

#### **trace\_output off | stdout | stderr | protocol | *tracePath***

*trace\_output* は、トレース項目が発生したときの書き込み先です。完全なトレースを取得するか、メッセージ・トレースのみを取得するかの制御も行います。

トレースは明示的にオフにされるまで無期限に続くため、ファイルが大きくなります。

**protocol** を設定すると、クライアントとの間で送受信されるすべての MQTT メッセージの項目が stdout に書き込まれます。

stdout、stderr および *tracePath* を設定すると、指定された宛先に完全なトレースが書き込まれます。

*tracePath* は、作業ディレクトリーからの相対パス、または相対ファイル名です。

### **関連資料**

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル](#)

デーモン構成ファイルを使用して、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成パラメーターを設定します。構成ファイルには、デーモンを制御するグローバル・パラメーター、ブリッジ・パラメーター、およびリスナー・パラメーターという 3 つのタイプのパラメーターが含まれています。

[IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ・パラメーター](#)

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のリスナー・パラメーター](#)

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のコマンド・ファイル](#)

## **IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ・パラメーター**

IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ接続は、デーモン構成ファイルのブリッジ・パラメーターを設定して構成します。

ブリッジ接続が IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices との間でパブリケーションを伝搬する方法を示す説明と例については、[IBM WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のブリッジ](#) を参照してください。

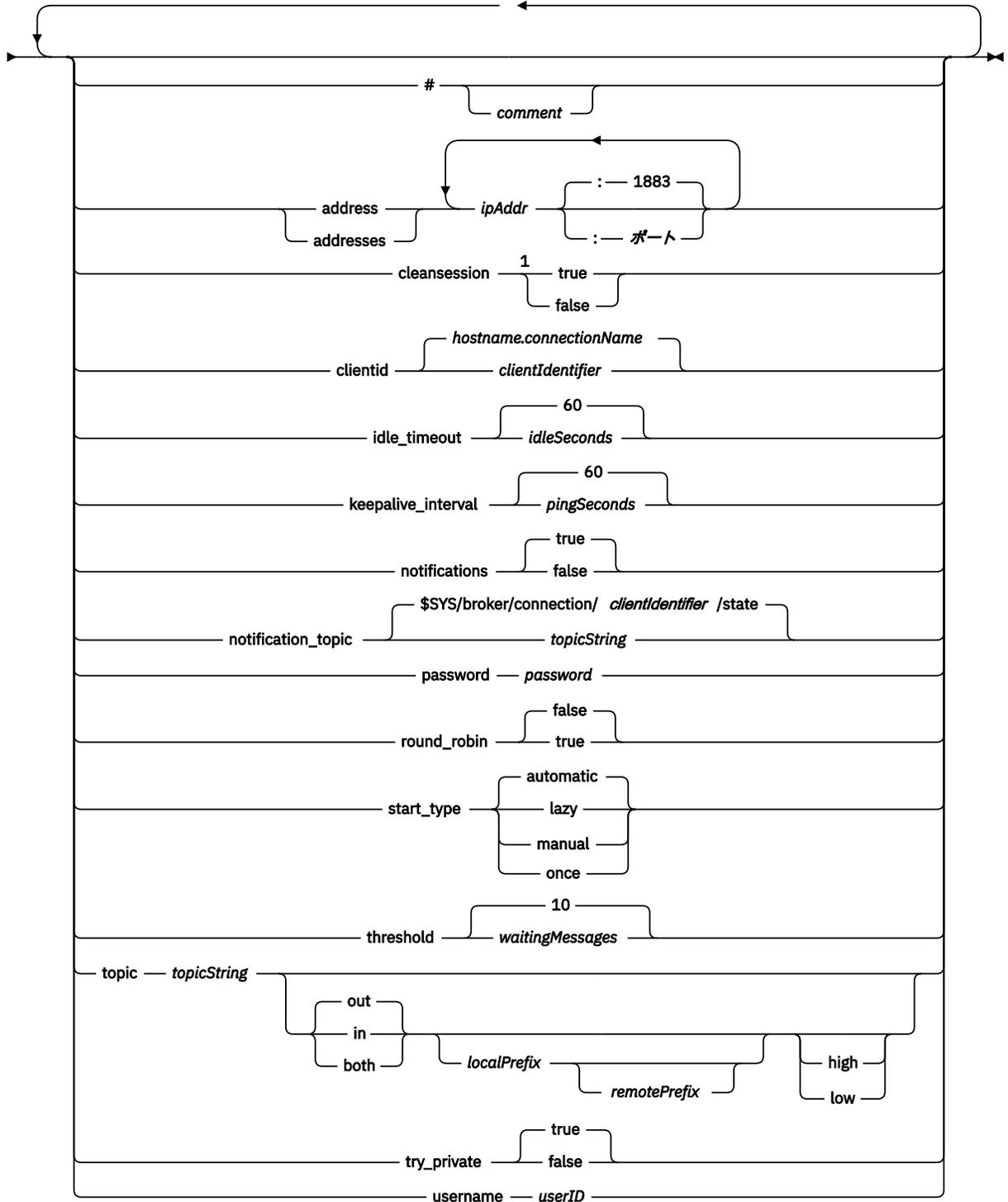
### **ブリッジ・パラメーターの構文**

構成ファイルのブリッジ・セクションはそれぞれ、**connection** パラメーターで始まります (6 ページの『[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル](#)』を参照)。特定の接続に固有のパラメーターが **connection** 項目のすぐ後に続きます。

ファイル内でブリッジ・セクションの後に置くことができるパラメーターは、リスナー・セクションまたは追加のブリッジ・セクションに属しているパラメーターのみです。

### **接続**

→ connection — connectionName →



注:

1 アドレスの数が 1 より大きい場合、cleansession はデフォルトで true に設定され、それ以外の場合は false になります。

## ブリッジ・パラメーター

### # comment

コメントは、ファイルの任意の行に配置することができます。その場合、行の最初の空白以外の文字として # を配置します。行の末尾のコメントはサポートされていません。

### address|addresses ipAddr :ポート|\_1883

住所<sup>1</sup>は、デーモンがブリッジ接続を試行する TCP/IP ソケット・アドレスのリストです。デフォルトでは、リスト内の最初のアドレスが 1 次サーバーとして扱われます ([round\\_robin](#) を参照)。

以下の構成では、IBM WebSphere MQ Telemetry で複数のアドレスを使用します。

#### 複数のキュー・マネージャーと複数のネットワーク・アドレス。

*ipAddr* のリストは、異なるキュー・マネージャーのテレメトリー・チャンネルに接続されます。1 つのネットワーク・アドレスを優先させる場合は、*round\_robin* を *false* に設定します。このアドレスを、リストの最初のアドレスにします。*cleansession* は *true* に設定します。*cleansession* が *false* に設定されている場合、パブリケーションやサブスクリプションが失われるなどの予測不能な動作が発生します。

#### 単一の複数インスタンス・キュー・マネージャー

2 つのアドレスを指定します。1 つ目のアドレスはアクティブ・キュー・マネージャー・インスタンスで、2 つ目のアドレスはスタンバイ・インスタンスです。*round\_robin* を *true* に設定して、*cleansession* を *false* に設定します。

#### 単一のキュー・マネージャーと複数のネットワーク・アドレス

この構成では、IP アドレスのリストはすべて、異なるネットワーク・パスを介して同じキュー・マネージャーに接続されます。キュー・マネージャーは、異なるソケット・アドレスを *listen* する複数のテレメトリー・チャンネルを持つように構成されます。この方法で、ネットワーク接続に冗長性を持たせたり、多数のクライアント接続の負荷を複数のネットワーク・アダプターに分散したりするように、サーバーを構成することができます。1 つのネットワーク・アドレスを優先させる場合は、*round\_robin* を *false* に設定します。このアドレスを、リストの最初のアドレスにします。*cleansession* は *false* に設定します。

複数のアドレスを使用する方法の詳細については、[IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ接続の可用性](#)を参照してください。

### cleansession true|false

アドレスの数が 1 より大きい場合、*cleansession* のデフォルト値は *true* になり、それ以外の場合は *false* になります。

*cleansession* は、デーモンの接続時、切断時、および再接続時のセッション状態を制御します。セッション状態には、サブスクリプションとキューに入れられたメッセージが含まれます。

*cleansession* を *true* に設定すると、接続および切断時にセッション状態が破棄されます。

*cleansession* を *false* に設定すると、切断時に状態が保存され、再接続時に状態が復元されます (可能な場合)。

**注:** *addresses* に複数の IP アドレスがリストされており、IP アドレスが異なるキュー・マネージャーにホストされているテレメトリー・チャンネルに接続されているか、異なるテレメトリー・デーモンに接続されている場合は、*cleansession* を *false* に設定しないでください。セッション状態は、キュー・マネージャー間やデーモン間では転送されません。異なるキュー・マネージャーまたはデーモンで既存のセッションを再開しようとする、新規セッションが開始されます。未確定メッセージは失われ、サブスクリプションが予期したとおりに動作しない可能性があります。

### clientid clientIdentifier|hostname.connectionName

デフォルトの *clientIdentifier* は、デーモンのホスト名を *connectionName* と連結して構成します。ホスト名の最初の '.' 文字の後に続く文字、または 14 文字を超える文字は切り捨てられます (いずれか短い方を使用)。組み合わせた名前が 23 文字より長い場合は、23 文字で切り捨てられます。

*clientid* は、接続時にリモート・サーバーに渡されます。

*clientid* には、A-Z, a-z, 0-9, '.\_/%' の範囲の文字のみを使用する必要があります。

<sup>1</sup> 「アドレス」と「アドレス」は同義語です。どちらかを使用してください。

## **connection *connectionName***

接続の名前。この名前は、`connection1` などのように、英数字でなければなりません。WebSphere MQ Telemetry チャンネルを使用したデーモンからキュー・マネージャーへの接続、またはリスナーを使用した別のデーモンへの接続が行われます (18 ページの『WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のリスナー・パラメーター』を参照)。

`connectionName` は、システム `hostname` と結合され、`ClientIdentifier` が作成されます。`ClientIdentifier` は、接続先のリスナーまたはテレメトリー・チャンネルとのブリッジを識別します。ブリッジは、MQTT v3 クライアントです。

`Connection` は、構成ファイルのブリッジ接続セクションの開始を示し、すべてのグローバル・パラメーターの後ろに置く必要があります。リスナー・セクションとブリッジ・セクションは任意の順序で指定できます。

## **idle\_timeout *idleSeconds*|60**

`idleSeconds` は、接続がクローズされるまでに経過する秒数を設定します。

## **keepalive\_interval *pingSeconds*|60**

`pingSeconds` は、他のトラフィックがない場合に、リモート・システムに 1 つの MQTT ping 要求を送信してから次の要求を送信するまでの秒数を設定します。最小値は 5 です。

## **notifications *true*|*false***

`notifications` を `true` に設定すると、ブリッジ接続通知がオンに切り替わります。`notifications` を `false` に設定すると、ブリッジ通知はオフに切り替わります。

通知は、ブリッジの両端で、特別に定義されたトピックにパブリッシュされる保存メッセージです (`notification_topic` を参照)。

通知パブリケーションには、ブリッジ接続の状況を示す 1 文字が含まれます。状況は 1 (接続) または 0 (切断) のいずれかです。

ブリッジ接続の状況はいつでも確認できます。

## **notification\_topic *topicString*|\$SYS/broker/connection/*clientIdentifier*/state**

デフォルトの `notification_topic` は `$SYS/broker/connection/clientIdentifier/state` です。デフォルトのトピックには、ブリッジ接続の `clientIdentifier` が含まれます。

異なるトピックを使用して接続状況を追跡する場合は、`topicString` を代替トピックに設定します。値が 1 (接続) または 0 (切断) の接続通知メッセージは、このトピックにパブリッシュされます。

**注:** デフォルトの `topicString` には、接頭部 `$SYS` が含まれます。`$SYS` で始まるトピックには、`$SYS` で始まるトピック・フィルターを定義してサブスクライブします。トピック・フィルター # (すべてにサブスクライブ) の場合、デーモンの `$SYS` で始まるトピックにはサブスクライブしません。`$SYS` は、アプリケーション・トピック・スペースとは異なる特殊なシステム・トピック・スペースを定義するものと考えてください。

## **password パスワード**

デフォルトでは、`password` は設定されません。

リモート・ブローカーへの接続を認証する場合に `userID` と組み合わせて使用される `password` を設定します。WebSphere MQ テレメトリー・チャンネルへのリモート接続の場合、`userID` は JAAS を使用して認証されます。

## **round\_robin *true*|*false***

`round_robin` を `true` に設定すると、正常に接続されるまで、`addresses` リストの各アドレスに接続します。デーモンは、最初のアドレス (1 次サーバー) から順にアドレスへの接続を 1 つずつ試行します。

`round_robin` を `false` に設定すると、使用可能な場合は常に、デーモンで強制的に 1 次サーバーへの接続が行われます。

1 次サーバーが使用不可の場合、接続されるまで、デーモンは順にアドレスへの接続を 1 つずつ試行します。1 次サーバーへの接続は、バックグラウンドで引き続き試行されます。デーモンは、1

次サーバーが再び使用可能になるとすぐに、その 1 次サーバーに再接続して、現在使用中の接続を切断します。

### **start\_type automatic|lazy|once|manual**

`start_type` を `automatic` に設定すると、ブリッジは接続したままになります。接続は、デーモンが始動するとすぐに開きます。接続に失敗すると、デーモンは約 20 秒後にその接続を再開します。

`start_type` を `lazy` に設定すると、ネットワークの使用量とコストが減ります。接続は、待機メッセージの数が `waitingMessages` に達すると開始されます。`idleSeconds` の期間にわたってブリッジがアイドル状態になっている場合、その接続は閉じられます。

開始コマンドおよび停止コマンドを使用して、ブリッジを開始および停止する場合は、`start_type` を `manual` に設定します (デーモン実行中の構成の変更を参照)。

デーモンが開始されたときにブリッジを接続し、デーモンが停止または切断された場合にブリッジを削除するには、`start_type` を `once` に設定します。`start_type` が `once` に設定されており、ブリッジが手動で停止されたか、エラーが原因で切断された場合、デーモンが再始動するまでそのブリッジを再始動できません。

### **threshold waitingMessages**

`start_type` が `lazy` の場合、キューに入れられたメッセージの数が `waitingMessages` に達すると接続が開始されます。

### **topic topicString [ in ] |out| [ both ] local\_prefix remote\_prefix [high] | [ low]**

`topic` パラメーターの値は、最大 5 つの部分で構成されます。

第 1 の部分 `topicString` には、付加的なトピック・ストリングとして `localPrefix` または `remotePrefix` を接頭部として付けることが可能です。`topicString` とは異なり、`localPrefix` および `remotePrefix` にはワイルドカードを含めることはできません。ブリッジの両端のトピック階層に合わせるために、`localPrefix` および `remotePrefix` の末尾は、通常、/ 文字になります。

2 番目の部分 (値 [ `in` ] |`out`| [ `both` ] ) は、`direction` パラメーターと呼ばれます。`out` はデフォルトの設定値です。

`direction` が `out` の場合、ブリッジ接続では、トピック・フィルター `localPrefix||topicString` を使用して、ローカル・デーモンのパブリケーションにサブスクライブします。選択されたパブリケーションは、トピック・ストリング `remotePrefix||topicString` を使用して、リモート接続されたブローカーにパブリッシュされます。

`direction` が `in` の場合、ブリッジ接続では、トピック・フィルター `remotePrefix||topicString` を使用して、リモート・ブローカーのパブリケーションにサブスクライブします。選択されたパブリケーションは、トピック・ストリング `localPrefix||topicString` を使用して、ローカル・デーモンにパブリッシュされます。

`direction` が `both` の場合の結果は、2 つのトピック設定 (1 つは `in` に設定して、もう 1 つは `out` に設定) の場合と同じです。`both` 設定は、ブローカーにパブリケーション・ループ検出メカニズムが備わっている場合にのみ使用します。ループ検出メカニズムは、パブリケーションが永久ループに入るのを防ぎます。ブリッジが WebSphere MQ テレメトリー・チャンネルに接続されている場合、ループ検出は実行されません (`try_private` を参照)。

第 5 の部分は優先順位であり、これはオプションです。これは、トピックが `topicString` に一致する場合に、ブリッジを通じて送受信されるメッセージに割り当てられる優先順位です。この優先順位は、IBM WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) 内でのみ適用されます。[ `high` ] または [ `low` ] の値を指定できます。値を指定しない場合、優先順位は [ `high` ] と [ `low` ] の間になります。メッセージがクライアント接続またはブリッジ接続のためのキューに入れられた場合、優先順位の最も高いメッセージが最初に送信されます。1 つのブリッジ接続に複数のトピックが適用される場合、メッセージに適用される優先順位は、最初に一致するトピックのものになります。したがって、構成ファイルの中で優先順位の値を設定する順序を考慮することは重要です。

トピック・パラメーターの使用例については、ブリッジのトピック設定例 [WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) ブリッジ](#) を参照してください。

### **try\_private true|false**

リモート・ブローカーがデーモンの別のインスタンスであるかどうかを確認する場合に、`try_private` を設定します。リモート・ブローカーが別の IBM WebSphere MQ Telemetry デーモ

ン (デバイス用) であり、`try_private` が `true` に設定されている場合は、デーモン・ペア間のパブリケーション・ループが検出されます。トポロジーがより複雑なループは検出されない場合があります。

## username *userID*

デフォルトでは、*userID* は設定されません。

リモート・ブローカーへの接続を認証する場合に、*password* と組み合わせて使用される *userID* を設定します。WebSphere MQ テレメトリー・チャンネルへのリモート接続の場合、*userID* は JAAS を使用して認証されます。

*userID* は、デーモンへのリモート接続の場合に、アクセス制御のために使用されます。テレメトリー・チャンネルへのリモート接続の場合、許可を取得するのに *userID* を使用するか、または別の ID を使用するよう選択できます ([MQTT クライアントの識別、許可、および認証](#)を参照)。

## 関連資料

### [WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル](#)

デーモン構成ファイルを使用して、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成パラメーターを設定します。構成ファイルには、デーモンを制御するグローバル・パラメーター、ブリッジ・パラメーター、およびリスナー・パラメーターという 3 つのタイプのパラメーターが含まれています。

### [WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のグローバル・パラメーター](#)

### [WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のリスナー・パラメーター](#)

### [WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のコマンド・ファイル](#)

## WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のリスナー・パラメーター

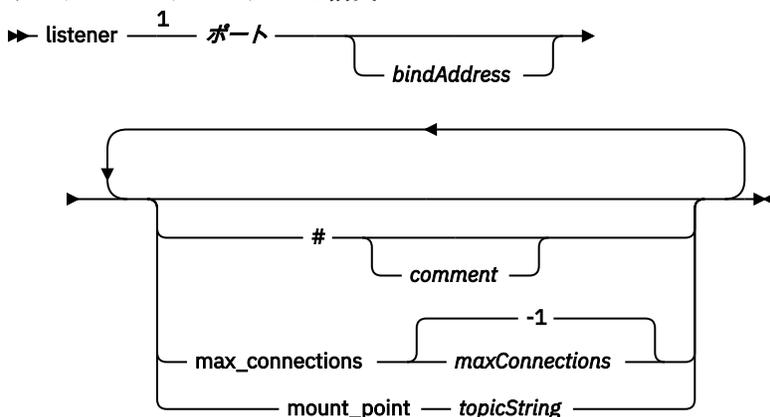
WebSphere MQ デーモン (デバイス用) のリスナーの構成は、デーモン構成ファイルのリスナー・パラメーターを設定して行います。MQTT クライアントと他のデーモンはリスナーに接続して、デーモンのトピックにパブリッシュおよびサブスクライブすることができます。

## リスナー・パラメーターの構文

構成ファイルのリスナー・セクションはそれぞれ、`listener` パラメーターで始まります ([6 ページの『WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル』](#)を参照)。特定のリスナーに固有のパラメーターがリスナー項目のすぐ後に続きます。

ファイル内でリスナー・セクションの後に置くことができるパラメーターは、ブリッジ・セクションまたは追加のリスナー・セクションのみです。

### リスナー・パラメーターの構文



注:

<sup>1</sup> `port` にはデフォルトのリスナーが存在します。 `port` はグローバル・パラメーターであり、デフォルトでは 1883 に設定されます。

## リスナー・パラメーター

リスナーは、以下のパラメーターを使用して構成します。

## # comment

コメントは、ファイルの任意の行に配置することができます。その場合、行の最初の空白以外の文字として # を配置します。行の末尾のコメントはサポートされていません。

## listener *portNumber* | default *bindAddress*

指定した *portNumber* とオプションのローカル *bindAddress* を使用して、新しいリスナーを作成します (*bind\_address* を参照)。リスナーは MQTT クライアントをデーモンに接続します。

listener は、構成ファイルのリスナー・セクションの開始を示し、すべてのグローバル設定の後ろに置く必要があります。リスナー・セクションとブリッジ・セクションは任意の順序で指定できます。

## max\_connections *maxConnections* | -1

max\_connections のデフォルト値は -1 であり、制限がないことを示します。

*maxConnections* は、ポートへの同時接続が許可されるアクティブ・クライアントの最大数に設定します。

グローバル・パラメーターの max\_connections を設定することによって、デフォルト・ポートの *maxConnections* を設定できます。

## mount\_point *topicString*

このリスナーに接続しているクライアントによってパブリッシュおよびサブスクライブされるすべてのトピック・ストリングに、接頭部として付けられるストリング。これを使用することで、異なるリスナーのクライアントが互いに干渉できないようにすることができます (マウント・ポイント を参照)。

## 関連資料

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル](#)

デーモン構成ファイルを使用して、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成パラメーターを設定します。構成ファイルには、デーモンを制御するグローバル・パラメーター、ブリッジ・パラメーター、およびリスナー・パラメーターという 3 つのタイプのパラメーターが含まれています。

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のグローバル・パラメーター](#)

[IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ・パラメーター](#)

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のコマンド・ファイル](#)

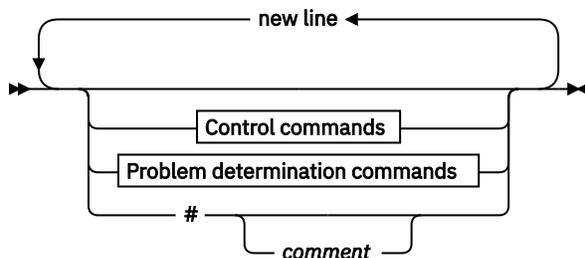
## WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) のコマンド・ファイル

デーモンのコマンド・ファイルを使用して、実行中のデーモンの動作を変更します。ブリッジ接続の開始と停止、デーモンの停止、保存パブリケーションの消去、および問題判別を行うことができます。

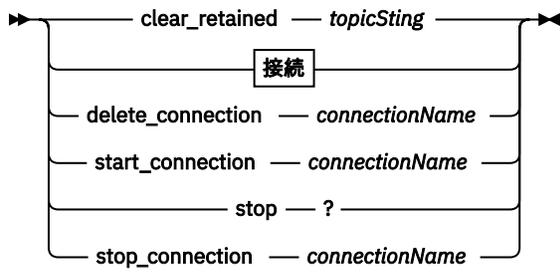
## Command file syntax

Place commands in the command file, `amqtdc.upd`. Every 5 seconds the daemon runs the commands in the file, and deletes the file.

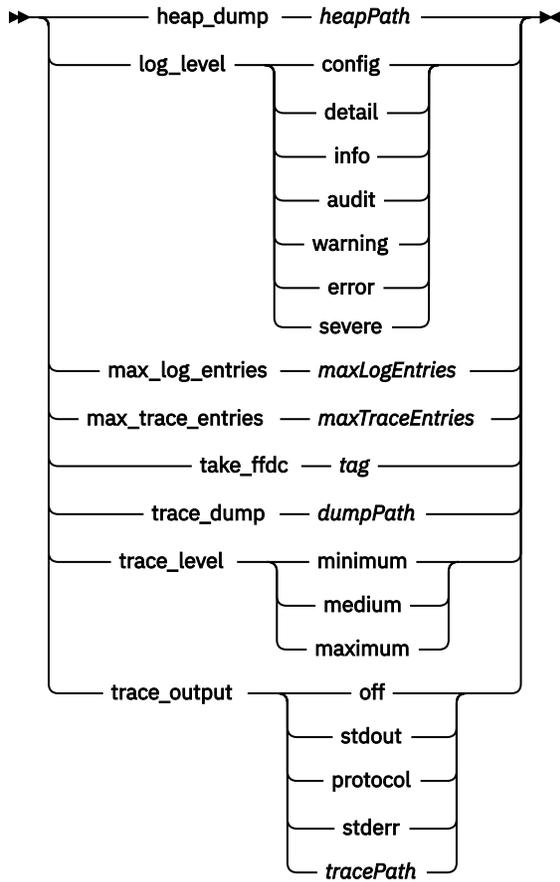
Each command is a separate line in the command file. The commands are acted upon, in order, line by line. Unrecognized commands are written to the command window from which the daemon was started.



## Control commands

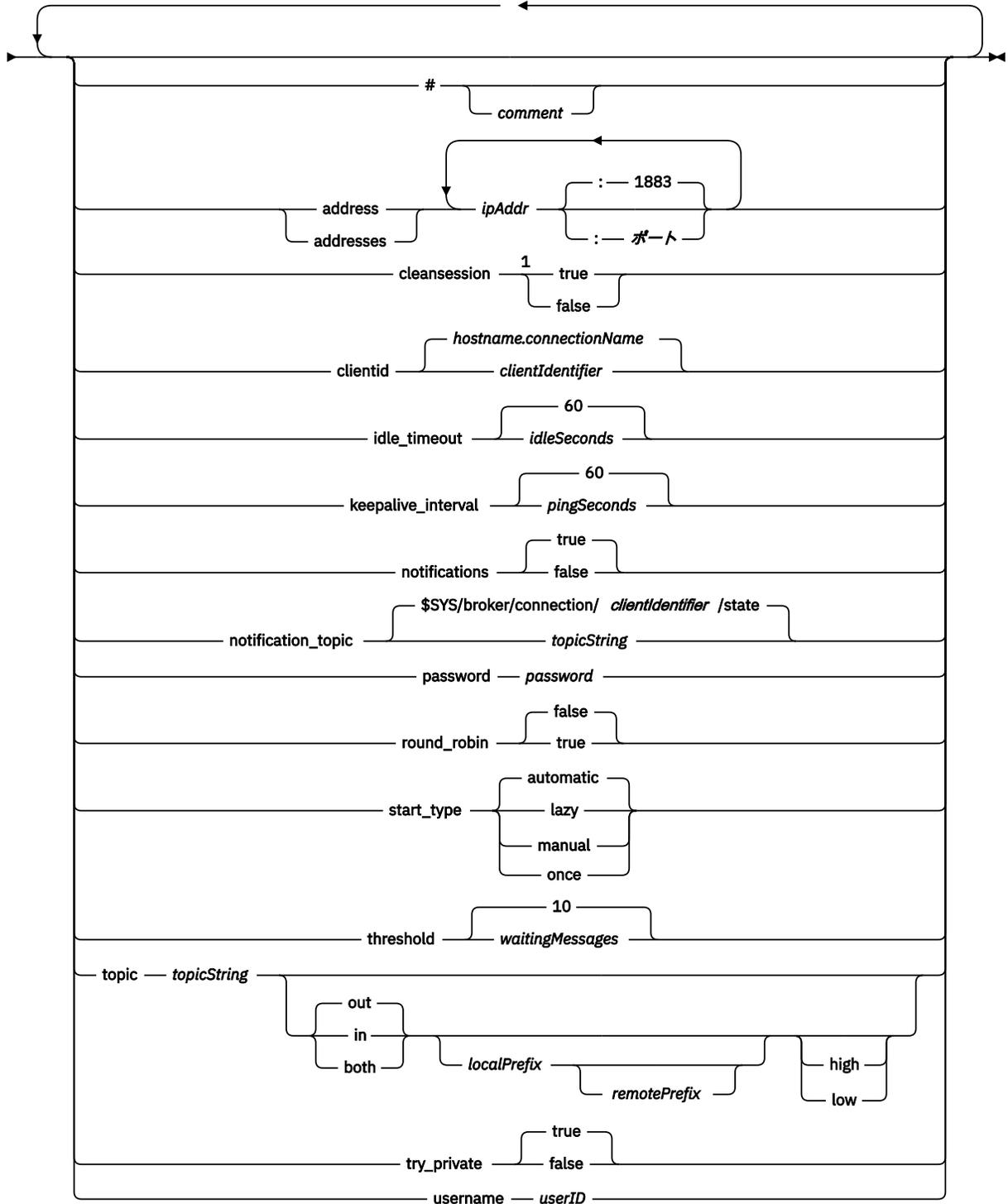


**Problem determination commands**



接続

→ connection — connectionName →



注:

1 アドレスの数が 1 より大きい場合、cleansession はデフォルトで true に設定され、それ以外の場合は false になります。

## 制御コマンド

### **clear\_retained *topicString***

*topicString* と一致するすべてのトピックの保存メッセージを削除します。 *topicString* にはワイルドカードを含めることができます。

### **Connection**

15 ページの『ブリッジ・パラメーター』を参照。

### **delete\_connection *connectionName***

ブリッジ接続 *connectionName* を削除します。 接続が実行中の場合、まずその接続が停止されます。

### **start\_connection *connectionName***

ブリッジ接続 *connectionName* を開始します。

### **stop\_connection *connectionName***

ブリッジ接続 *connectionName* を停止します。

## 問題判別コマンド

問題判別コマンドを使用して、*log\_level*、*max\_log\_entries*、*max\_trace\_entries*、および *trace\_output* の設定を変更することができます。 また、ヒープ・ダンプ、FFDC スナップショット、あるいはトレース・バッファ・ダンプも取得できます。

### **heap\_dump *heapPath***

ヒープ・ダンプを作成し、それを *heapPath* に書き込みます。 *heapPath* は、作業ディレクトリーからの相対パス、または相対ファイル名です。

### **log\_level *config|detail|info|audit|warning|error|severe***

*log\_level* は、必要なログ出力のレベルです。 ログ・レベルは、重要性の低い方から順にリストされます。

ログ・メッセージは *stdout* および *\$SYS/broker/log* トピックに書き込まれます。

### **max\_log\_entries *maxLog* 項目**

*maxLogEntries* は、**trace\_dump** コマンドによって、または FFDC で、検索のために記録されるログ項目の最大数です。

### **max\_trace\_entries *maxTrace* 項目**

*maxTraceEntries* は、**trace\_dump** コマンドによって、または FFDC で、検索のために記録されるトレース項目の最大数です。

### **take\_ffdc タグ**

デーモンの状態の First Failure Data Capture (FFDC) スナップショットを取ります。 スナップショットは、デーモンの構成パラメーター *ffdc\_output* で定義されたフォルダー内の *.fdc* ファイルに書き込まれます (*ffdc\_output* を参照)。 *tag* は、識別目的でこのファイルに組み込まれます。

### **trace\_dump *dumpPath***

トレース・バッファを *dumpPath* にダンプします。 *dumpPath* は、作業ディレクトリーからの相対パス、または相対ファイル名です。

### **trace\_level *minimum|medium|maximum***

*trace\_level* は、取得されて内部バッファに保管されるトレースのレベルです。

### **trace\_output *off|stdout|stderr|protocol|tracePath***

*trace\_output* は、トレース項目が発生したときの書き込み先です。 完全なトレースを取得するか、メッセージ・トレースのみを取得するかの制御も行います。

トレースは明示的にオフにされるまで無期限に続くため、ファイルが大きくなります。  
**protocol** を設定すると、クライアントとの間で送受信されるすべての MQTT メッセージの項目が stdout に書き込まれます。

stdout、stderr および *tracePath* を設定すると、指定された宛先に完全なトレースが書き込まれます。

*tracePath* は、作業ディレクトリーからの相対パス、または相対ファイル名です。

## 関連資料

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) の構成ファイル](#)

デーモン構成ファイルを使用して、WebSphere MQ Telemetry デーモン (デバイス用) の構成パラメーターを設定します。構成ファイルには、デーモンを制御するグローバル・パラメーター、ブリッジ・パラメーター、およびリスナー・パラメーターという 3 つのタイプのパラメーターが含まれています。

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のグローバル・パラメーター](#)

[IBM WebSphere MQ Telemetry daemon for devices のブリッジ・パラメーター](#)

[WebSphere MQ Telemetry デーモン \(デバイス用\) のリスナー・パラメーター](#)

## MQXR プロパティー

MQXR プロパティー設定は、プラットフォーム固有のプロパティー・ファイル (`mqxr_win.properties` または `mqxr_unix.properties`) に保管されます。通常これらのプロパティーは、MQSC 管理コマンドか MQ エクスプローラーを使用して構成します。

キュー・マネージャーを初めて開始するときに、ご使用のプラットフォーム用の MQXR プロパティー・ファイルのテンプレート・バージョンが `mqinstall/mqxr/config` ディレクトリーから `mqinstall/qmgrs/qmgr_name/mqxr/config` ディレクトリーにコピーされます。

通常、MQXR プロパティー・ファイルを直接編集する必要はありません。1つを除くすべてのプロパティーを MQSC 管理コマンドまたは MQ エクスプローラーを介して構成できるからです。ファイルを直接編集する場合、変更を行う前にキュー・マネージャーを停止してください。

ファイルを直接編集することによってのみ設定できるプロパティーは、**webcontentpath** です。テレメトリー・クライアント・アプリケーションが Web アプリケーションである場合は、Web アプリケーション実行可能 JavaScript をブラウザーに提供する必要があります。この要件については、[JavaScript 用の MQTT メッセージング・クライアントと Web アプリケーション](#)で説明しています。**webcontentpath** プロパティーは、Web アプリケーション実行可能ファイルの提供元ディレクトリーを指定するときに使用します。

- デフォルトでは、**webcontentpath** は MQXR プロパティー・ファイルに存在しません。  
**webcontentpath** が存在しない場合、MQ テレメトリー・サーバーは、デフォルト・ロケーション `mqinstall/qmgrs/qmgr_name/mqxr/WebContent/your_client_app` から Web アプリケーション実行可能ファイルを提供します。
- **webcontentpath** にパスが指定されている場合、MQ テレメトリー・サーバーは、その場所から Web アプリケーション実行可能ファイルを提供します。
- **webcontentpath** が存在し、ブランクの場合、MQ テレメトリー・サーバーは Web アプリケーション実行可能ファイルを提供しません。

## 関連概念

[遠隔測定 \(MQXR\) サービス](#)

## セキュリティに関する参照情報

IBM WebSphere MQ のセキュリティを構成するには、このセクションの参照情報を使用してください。

## API 出口

API 出口 とは、MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラム・モジュールです。API 出口は、複数の API 出口機能から構成されており、モジュール内の各出口は独自の入り口点を持っています。

注：このセクションの情報は、WebSphere MQ for z/OS® には適用されません。

出口機能には、次の2つのカテゴリがあります。

### **MQI 呼び出しに関連付けられている出口機能**

このカテゴリには MQI 呼び出しごとの2つの出口機能、および MQGMO\_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出し用の追加の出口機能があります。MQCONN および MQCONNX 呼び出しは、同じ出口機能を共有します。

MQI 呼び出しごとに、キュー・マネージャーが呼び出しの処理を開始する前に、2つの出口機能の一方が起動され、キュー・マネージャーが呼び出しの処理を完了した後に、もう一方の出口機能が起動されます。MQGMO\_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しの出口機能は、キュー・マネージャーによってメッセージがキューから取り出された後から、任意のデータ変換が行われる前までの間に、MQGET 呼び出し中に起動されます。例えば、これによって、データ変換前にメッセージを復号できます。

出口機能は、MQI 呼び出し上の任意のパラメーターを検査し、変更することができます。例えば、MQPUT 呼び出し時に、呼び出しの処理前に起動される出口機能は、次のことを行うことができます。

- キューに入れられるメッセージ内のアプリケーション・データのコンテンツを検査し、変更する
- メッセージ内のアプリケーション・データの長さを変更する
- メッセージ記述子構造 MQMD 内のフィールドのコンテンツを変更する
- put message options 構造 MQPMO 内のフィールドのコンテンツを変更する

MQI 呼び出しの処理が開始する前に起動される出口機能は、その呼び出しを完全に抑止することができます。MQGMO\_CONVERT オプションを指定した MQGET 呼び出しの出口機能は、取り出されるメッセージのデータ変換を抑止することができます。

### **初期化と終了の出口機能**

このカテゴリには、初期化出口機能と終了出口機能の2つの出口機能があります。

アプリケーションがキュー・マネージャーに接続すると、初期化出口機能が、キュー・マネージャーによって起動されます。初期化出口機能の主な目的は、出口機能とその入り口点をキュー・マネージャーに登録し、初期化処理を実行することです。登録する必要があるのは、すべての出口機能ではなく、この接続に必要な出口機能だけです。アプリケーションがキュー・マネージャーから切り離されると、登録は自動的に削除されます。

また、初期化出口機能は、その出口によって要求されるストレージを取得し、環境変数の値を調べるのにも使用できます。

アプリケーションがキュー・マネージャーから切り離されると、終了出口機能が、キュー・マネージャーによって起動されます。終了出口機能の目的は、出口が使用するストレージを解放し、必要なクリーンアップ操作を実行することです。

API 出口は、MQI への呼び出しを発行することができますが、この呼び出しを発行すると、その API 出口は、再度繰り返して起動されることはありません。ただし、後続の出口機能は、それらの出口機能が起動される時点で正しい環境が存在しないために、MQI 呼び出しを発行できません。

- 初期化出口機能
- キュー・マネージャーが呼び出しの処理を開始する前に 起動される、MQCONN および MQCONNX 呼び出しの出口機能
- キュー・マネージャーが呼び出しの処理を完了した後で 起動される、MQDISC 呼び出しの出口機能
- 終了出口機能

また、API 出口は、使用可能な他の API も使用できます。例えば、DB2® に対する呼び出しを発行できます。

API 出口は、WebSphere MQ クライアント・アプリケーションと一緒に使用できますが、その出口は、MQI チャンネルのサーバー側で起動されることに注意してください。詳細については、[リンク・レベル・セキュリティとアプリケーション・レベル・セキュリティの比較](#)を参照してください。

API 出口は、C プログラミング言語を使用して作成されます。

API 出口を使用可能にするには、その出口を構成する必要があります。IBM i、Windows、UNIX and Linux® のシステムでその操作を実行するには、WebSphere MQ の構成ファイル mqs.ini とキュー・マネージャーの構成ファイル qm.ini をキュー・マネージャーごとに編集します。

クライアントの場合、mqclient.ini ファイルの ApiExitLocal スタンザを変更して、キュー・マネージャーの API 出口ルーチンを特定します。

API 出口を構成するには、次の情報を提供します。

- API 出口の記述名
- モジュールの名前とその位置。例えば、絶対パス名。
- 初期化出口機能用の入り口点の名前
- API 出口が、他の API 出口と相対的に起動される順序。1つのキュー・マネージャーには複数の API 出口を構成できます。
- オプションとして、API 出口に渡される任意のデータ

API 出口の構成方法の詳細については、[API 出口の構成](#)を参照してください。

API 出口の作成方法については、『[API 出口の使用と作成](#)』を参照してください。

## API 交差出口

API 交差出口は、z/OS 上の CICS® アプリケーションによって発行される MQI 呼び出しの機能をモニターまたは変更するプログラムです。

注：このセクションの情報は、z/OS 上の CICS アプリケーションにのみ適用されます。

API 交差出口プログラムは、CICS アダプターによって呼び出され、CICS アドレス・スペースで実行されます。

API 交差出口は、次の MQI 呼び出しに対してのみ起動されます。

```
MQBUFMH
MQCB
MQCB_FUNCTION
MQCLOSE
MQCRTMH
MQCTL
MQDLTMH
MQGET
MQINQ
MQOPEN
MQPUT
MQPUT1
MQSET
MQSTAT
MQSUB
MQSUBRQ
```

MQI 呼び出しごとに、呼び出しの処理が開始する前に 1 回、呼び出しの処理が完了した後で 1 回、API 交差出口が起動されます。

出口プログラムは、MQI 呼び出しの名前を判別することができ、その呼び出し上の任意のパラメーターを検査し、変更することができます。MQI 呼び出しの処理前に起動される場合、その呼び出しを完全に抑止することができます。

出口プログラムは、CICS タスク関連のユーザー出口が使用できる任意の API を使用できます。例えば、IMS、DB2、および CICS API です。また、MQCONN、MQCONNX、および MQDISC を除くすべての MQI 呼び出しを使用できます。しかし、出口プログラムによって発行される MQI 呼び出しは、出口プログラムをもう一度起動することはありません。

API 交差出口は、WebSphere MQ for z/OS によってサポートされる任意のプログラム言語で作成できます。

CICS アダプターがキュー・マネージャーに接続する場合、API 交差出口が使用できるようになる前に、出口プログラムのロード・モジュールが使用可能でなければなりません。このロード・モジュールは、CSQCAPX という名前を持ち、DFHRPL 連結シーケンス内のライブラリーに置かれる CICS プログラムです。CSQCAPX は、CICS システム定義ファイル (CSD) 内で定義される必要があり、プログラムが使用可能でなければなりません。

API 交差出口は、CICS アダプター制御パネル CKQC を使用して管理することができます。CSQCAPX がロードされると、アダプター制御パネルまたはシステム・コンソールに確認メッセージが書き込まれます。アダプター制御パネルは、出口プログラムを使用可能または使用不可にするのにも使用できます。

API 交差出口の記述および実装方法について詳しくは、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 4.1 製品資料 (CICS Transaction Server for z/OS Version 4.1, The CICS-WebSphere MQ adapter) の『CICS-WebSphere MQ Adapter』のセクションを参照してください。

## UNIX、Linux および Windows システム上での証明書の妥当性検査およびトラスト・ポリシーの設計

WebSphere MQ は、2 種類のポリシー (基本および標準) に応じて SSL または TLS 証明書の妥当性検査を実行します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

これらのトピックの情報は、以下のシステムに適用されます。

- WebSphere MQ for UNIX and Linux システム
- WebSphere MQ for Windows システム

このセクションでは以下の用語が使用されます。

### 証明書ポリシー

証明書のどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

### OCSP ポリシー

OCSP 要求または応答のどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

### CRL ポリシー

証明書取り消しリストのどのフィールドを認識し、処理するかを決定します。

### パスの妥当性検査ポリシー

証明書チェーン (トラスト・ポイント「RootCA」からエンド・エンタリー「EE」まで) が有効であるかどうかを判別するために、証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互に対話する方法を決定します。

パス妥当性検査の基本ポリシーと標準ポリシーは、別々に説明します。これは、WebSphere MQ for UNIX、Linux、および Windows の各システム内での実装を反映するものだからです。しかし、OCSP および CRL の標準ポリシーは基本ポリシーと同じであり、証明書の標準ポリシーは基本ポリシーの拡張バージョンなので、それらのポリシーは個別には記述しません。

WebSphere MQ では、デフォルトで基本妥当性検査ポリシーが最初に適用されます。基本ポリシー検証が失敗すると、WebSphere MQ は標準ポリシー (RFC 5280) 検証を適用します。基本ポリシー検証が成功した場合には、標準ポリシー検証は適用されません。したがって、検証の失敗とは、基本ポリシー検証と標準ポリシー検証の両方が、さまざまな理由で失敗したことを意味します。妥当性検査の成功とは、基本ポリシー検証が成功したために標準ポリシー検証が適用されなかったか、基本ポリシー検証が失敗して標準ポリシー検証が成功したかのいずれかを意味します。

## RFC 5280 準拠の厳格な適用

RFC 5280 準拠を厳格に適用するには、証明書妥当性検査ポリシーの構成設定値を使用します。この設定値により、基本ポリシーを無効にして RFC 5280 の標準ポリシーのみ使用されるようにすることができます。証明書妥当性検査ポリシーの構成設定値について詳しくは、[WebSphere MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

以下の例では、証明書妥当性検査の基本ポリシーでは受け入れられるものの、RFC 5280 準拠の標準ポリシーによって拒否されるデジタル証明書について示します。デジタル証明書チェーンが信頼できるものとされるためには、構成されている妥当性検査ポリシーがチェーン全体で満たされていなければなりません。

デジタル証明書の全詳細を表示するには、**runmqakm** コマンドを使用します。

```
runmqakm -cert -details -db key.kdb -pw password -label certificate_label
```

**runmqakm** の出力で証明書の信頼状況が有効になっていても、SSL または TLS ハンドシェイクで使用される場合には必ずしもトラステッドとは限りません。信頼状況が有効となっているということは、その証明書が、さらに証明書妥当性検査ポリシーのルールも満たしているなら、その証明書が他の証明書を検証するための CA 証明書として使用する上で適格であるということを意味しています。RFC 5280 準拠の標準証明書妥当性検査ポリシーについては、35 ページの『標準パスの妥当性検査ポリシー』を参照してください。

### 証明書の例 1 - 鍵使用法が間違っている場合

この例では、鍵使用法フィールドが、CA 証明書に関する標準証明書妥当性検査ポリシーの規則に準拠していない証明書について示します。証明書が CA 証明書としての使用について有効であるための要件の 1 つは、**keyCertSign** フラグを使用して他の証明書に署名することが許可されていることが鍵使用法フィールドに示されていなければならないということです。このフラグのない証明書を CA 証明書として使用することはできません。

```
Label : root
Key Size : 1024
Version : X509 V3
Serial : 54cb6f740c7ee410
Issuer : CN=Example Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Example Root CA,O=Example,C=GB
Not Before : 9 February 2012 17:19:00 GMT
Not After : 1 October 2019 18:19:00 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 CC 44 D9
 25 6D 26 1C 9D B9 FF DE B8 AC 44 AB E3 64 80 44
 AF BE E0 00 93 53 92 33 F8 7E BD D7 71 ED 21 52
 24 75 DF D6 EE 3C 54 97 84 29 EA 93 4C 4A D1 19
 5D C1 A0 82 F5 74 E1 AD D9 87 10 D5 6A 2B 6F 90
 04 0F 7E 6E 85 6D 32 99 33 9C D9 BB 57 86 DE 68
 23 C9 F2 6D 53 E3 F5 FF D1 0B E7 23 19 3A F6 70
 6B C8 C7 EB DB 78 8E 8C 9E 55 58 66 B6 31 DB 40
 5F 6A 97 AB 12 D7 E2 3E 2E 79 EE 78 7B 02 03 01
 00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
 EE 68 D4 4F 73 4F F4 21 DE 1A 01 11 5E DE B1 B8
 DF 40 AA D8
Fingerprint : MD5 :
 50 B5 E9 B2 D7 35 05 6A DC 6D 4B 1E B2 F2 DF A4
Fingerprint : SHA256 :
 B4 D7 6E C4 47 26 24 C7 4F 41 C3 83 03 6F 5C C7
 07 11 61 E0 0E 36 59 1F 1C E6 69 39 2D 18 05 D2
Extensions
  basicConstraints
    ca = true
    pathLen = 1239876
    critical
  key usage: encipherOnly
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
 9D AE 54 A9 9D 68 01 68 15 B5 53 9F 96 C9 5B D1
 52 40 DB CB 33 AF FD B9 26 D5 90 3F 1E 0B FC A6
 D9 8C 04 90 EB AA FD A8 7A 3C AB 60 5F 20 4F 0D
 7B 73 41 27 6A 2B BF 8C 99 91 B6 49 96 82 6A 24
 0A E8 B9 A5 AF 69 3D 2C A3 3C C8 12 39 FB 56 58
 4E 2A FE AC AC 10 89 53 B1 8F 0F C0 50 BF 5E 00
 91 64 B4 A1 4C 9A 4E D5 1F 38 7C AD 32 A9 8A E1
 91 16 2C 6D 1E 4A CA 99 8D CC 22 CD BF 90 49 FC
Trust Status : Enabled
```

この例の場合、鍵使用法フィールドに含まれているのは **encipherOnly** フラグのみです。 **keyCertSign** フラグはセットされていないため、この証明書で他の証明書を署名することは許可されません。したがって、CA 証明書として使用することはできません。

## 証明書の例 2 - 基本制約拡張が欠落している場合

この例では、基本制約拡張が欠落している証明書について示します。基本制約拡張は、この証明書が CA としての使用を許可されているかどうかを示すために使用されます。また、この証明書によって署名されることが可能な証明書チェーンの最大長を示すためにも使用されます。標準証明書妥当性検査ポリシーでは、CA として使用するために証明書の基本制約拡張で isCA フラグがセットされていることが必要です。

```
Label : root
Key Size : 1024
Version : X509 V3
Serial : 1c7dfea316570bf6
Issuer : CN=Second Example Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Second Example Root CA,O=Example,C=GB
Not Before : 9 February 2012 17:18:22 GMT
Not After : 1 October 2019 18:18:22 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 B2 70 49
 7C AE 1B A7 B3 06 49 6C 99 19 BC A8 77 BE 86 33
 21 6B C9 26 CC A6 28 52 9F 7B CF 03 A4 37 A7 4D
 6B 06 AA ED 7D 58 E3 70 F3 F7 C1 06 DA E8 27 C6
 3D 1B AC FA EF AA 59 7A 9A AB C1 14 4E AF 13 14
 4B 71 CA 8D FE C3 F5 2F E8 AC AD EF 21 80 6D 12
 89 4A 2A 84 AA 9D E0 4F C1 93 B1 3E 16 E8 3C 75
 39 2A 74 1E 90 CC B1 C3 2B 1D 55 26 76 D2 65 C1
 06 47 2A BF 79 96 42 76 A9 6E 65 88 5F 02 03 01
 00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
 33 9F A1 81 43 F1 43 95 48 A5 66 B4 CD 98 E8 15
 9C B3 CA 90
Fingerprint : MD5 :
 91 EA D9 C0 2C 05 5B E2 CD 0B F6 DD 8A 11 44 23
Fingerprint : SHA256 :
 62 46 35 0B 0E A1 A7 2A D5 74 70 0F AA 47 9A 9C
 6B 80 1B F1 0B 4C 81 05 85 0E 91 11 A4 21 D2 34
Extensions
 key usage: digitalSignature, keyCertSign
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
 79 34 BA 5B 6F DC 06 A3 99 24 4E 8A 2B 27 05 47
 0D 4D BE 6A 77 D1 1D 5F 54 82 9D CC F6 92 D4 9A
 AB 4D B6 DD 6E AD 86 C3 6A A3 32 E3 B3 ED E0 62
 4A EB 51 08 AC BE 49 9E 9C D7 FE AE C8 9D 17 16
 68 31 6B F4 BA 74 1E 4F 5F 05 48 9F E7 46 BA DC
 17 7A 60 88 F8 5B DB 3C 51 D4 98 97 28 82 CF 36
 47 DA D2 0F 47 FF 70 EA 45 3A 49 66 E6 E2 F9 67
 2C C8 3E 24 A2 3B EC 76 1F D6 31 2B BD A9 B5 08
Trust Status : Enabled
```

この例では、証明書に基礎制約フィールド全体が欠落しています。したがって、この証明書を CA 証明書として使用することはできません。

## 証明書の例 3 - X.509 の旧バージョンによる中間 CA

この例は、X.509 バージョン 1 の中間 CA 証明書を示しています。標準の証明書妥当性検査ポリシーでは、すべての中間 CA 証明書が少なくとも X.509 バージョン 3 でなければなりません。ルート CA 証明書は、存在する場合、一般的に使用されるバージョン 1 ルート CA 証明書が存在するため、この要件から除外されます。しかし、これは将来変更される可能性があります。

```
Label : intermediate
Key Size : 1024
Version : X509 V1
Serial : 02
Issuer : CN=Test Root CA,O=Example,C=GB
Subject : CN=Test Intermediate CA,O=Example,C=GB
Not Before : 10 February 2012 17:33:45 GMT
Not After : 11 April 2018 18:33:45 GMT+01:00
Public Key
 30 81 9F 30 0D 06 09 2A 86 48 86 F7 0D 01 01 01
 05 00 03 81 8D 00 30 81 89 02 81 81 00 C0 07 C2
 D0 9F 84 DB 7C 20 8F 51 F9 C2 1A 3F CF E2 D7 F2
 F1 56 F2 A4 8F 8F 06 B7 3B 01 31 DE 7C CC 03 63
 AA D3 2F 1C 50 15 E3 56 80 40 7D FF 75 87 D3 F3
 00 89 9A 26 F5 57 05 FA 4F ED 3B DD 93 FA F2 DF
 38 26 D4 3A 92 51 CC F3 70 27 42 7A 9F AD 51 45
 67 B7 AE 11 AD 4F 2D AB D2 CF 73 E6 F0 45 92 F0
```

```

47 16 66 7E 01 C7 76 A3 7B EC D2 76 3F E5 15 EC
D7 72 2C FE 14 F5 78 83 AA C4 20 AB F7 02 03 01
00 01
Public Key Type : RSA (1.2.840.113549.1.1.1)
Fingerprint : SHA1 :
DE BB 75 4B 14 E1 44 B9 B6 44 33 97 49 D0 82 6D
81 F2 2F DE
Fingerprint : MD5 :
72 49 44 42 E2 E6 89 F1 CC 37 C9 F6 B5 8F F3 AE
Fingerprint : SHA256 :
83 A4 52 AF 49 34 F1 DC 49 E6 95 AE 93 67 80 13
C2 64 D9 26 22 A0 E8 0A 5A A9 71 EC E8 33 E1 D1
Signature Algorithm : SHA256WithRSASignature (1.2.840.113549.1.1.11)
Value
40 4A 09 94 A0 18 07 5E 96 D7 A6 52 6B 8D 20 50
E8 91 F7 7E EA 76 B4 08 DF 76 66 1F FA FF 91 79
2E E0 66 8B 9F 40 FA 14 13 79 81 DB 31 A5 55 1D
44 67 41 F4 EA 1A F7 83 4F 21 F4 43 78 4E F8 5E
6F B2 B8 3A F7 6B B4 F5 C6 F8 EB 4C BF 62 6F 3E
C7 20 EC 53 B3 40 51 36 C1 0A 4E 73 ED 74 D1 93
02 C5 FB 61 F7 87 64 A5 94 06 7D 25 7C E3 73 DD
08 D4 07 D0 A4 3F 77 88 12 59 DB A4 DB 68 8F C1
Trust Status : Enabled

```

この例において、バージョン・フィールドは X.509 V1 となっています。この証明書は X.509 バージョン 1 の証明書であるため、中間 CA として使用することはできません。

## 基本および標準証明書ポリシー

基本証明書ポリシーと標準証明書ポリシーは、同じフィールドをサポートします。標準ポリシーは追加の証明書拡張をサポートします。

基本および標準ポリシーの両方でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- OuterSigAlgID<sup>2</sup>
- Signature<sup>3</sup>
- バージョン
- SerialNumber
- InnerSigAlgID<sup>4</sup>
- 発行者
- Validity
- SubjectName
- SubjectPublicKeyInfo
- IssuerUniqueID
- SubjectUniqueID

基本ポリシーでサポートされる拡張は、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、WebSphere MQ はその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- AuthorityKeyID
- AuthorityInfoAccess
- SubjectKeyID
- IssuerAltName
- SubjectAltName
- KeyUsage
- BasicConstraints

<sup>2</sup> このフィールドは、RFC 5280 では *signatureAlgorithm* と呼ばれます。

<sup>3</sup> このフィールドは、RFC 5280 では *signatureValue* と呼ばれます。

<sup>4</sup> このフィールドは、RFC 5280 では *signature* と呼ばれます。

- PrivateKeyUsage
- CRLDistributionPoints
  - DistributionPoint
    - DistributionPointName (X.500 名および LDAP 形式の URI のみ)
    - NameRelativeToCRLIssuer (サポートされていない)
    - Reasons (無視される)
    - CRLIssuer フィールド (サポートされていない)

標準ポリシーでサポートされる拡張は、基本ポリシーについてリストされたすべての拡張、および以下のリストに含まれる拡張です。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、WebSphere MQ はその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- NameConstraints
- ExtendedKeyUsage
- CertificatePolicies
  - PolicyInformation
    - PolicyIdentifier
    - PolicyQualifiers (サポートされていない)
- PolicyMappings
- PolicyConstraints

## 基本 OCSP ポリシーと標準 OCSP ポリシー

基本 OCSP ポリシーと標準 OCSP ポリシーは、同じフィールドをサポートします。

要求でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、WebSphere MQ はその特定タイプのフィールドを含む要求の処理を試みませんが、それより高いレベルのフィールドを含む他の要求を処理します。

- Signature (オプション)
- Version (バージョン 1 のみ)
- RequesterName (オプション)
- RequestList (単一要求のみ)
  - CertID<sup>5</sup>
  - singleRequestExtensions (サポートされていない)
- RequestExtensions
  - Nonce (使用可能になっている場合)

応答でサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- ResponseStatus
- 応答
  - responseType (id-pkix-ocsp-basic)
  - BasicOCSPResponse
    - Signature
    - Certs
      - Extensions

---

<sup>5</sup> このフィールドは RFC 2560 では reqCert と呼ばれています。

- extendedKeyUsage
  - id-kp-OCSPSigning
- id-pkix-ocsp-nocheck
- ResponseData
  - Version (バージョン 1 のみ)
  - ResponderID (名前またはハッシュで指定)
  - ProducedAt (無視される)
  - Responses (複数応答がサポートされる)
    - SingleResponse
      - certID
      - certStatus
        - RevokedInfo (無視される)
      - thisUpdate (無視される)
      - nextUpdate
      - singleExtensions (無視される)
  - responseExtensions
    - Nonce (使用可能になっている場合)

## 基本および標準 CRL ポリシー

基本 CRL ポリシーと標準 CRL ポリシーは、同じフィールドおよび拡張をサポートします。

これらのポリシーでサポートされるフィールドは、以下のとおりです。

- OuterSigAlgID<sup>6</sup>
- Signature<sup>7</sup>
- バージョン
- InnerSigAlgID<sup>8</sup>
- 発行者
- ThisUpdate
- NextUpdate
- RevokedCertificate
  - UserCertificate
  - RevocationDate

サポートされている CRLEntry 拡張はありません。

これらのポリシーでサポートされる CRL 拡張は、以下のとおりです。項目に「サポートされていない」というマークが付けられている場合、WebSphere MQ はその特定タイプのフィールドを含む拡張の処理を試みず、同じ拡張の別のタイプを処理します。

- AuthorityKeyID
- IssuerAltName
- CRLNumber
- IssuingDistributionPoint

<sup>6</sup> このフィールドは、RFC 5280 では *signatureAlgorithm* と呼ばれます。

<sup>7</sup> このフィールドは、RFC 5280 では *signatureValue* と呼ばれます。

<sup>8</sup> このフィールドは、RFC 5280 では *signature* と呼ばれます。

- DistributionPoint
- DistributionPointName
  - FullName (X.500 名および LDAP 形式の URI のみ)
  - NameRelativeToCRLIssuer (サポートされていない)
- Reasons (無視される)
- CRLIssuer
- OnlyContainsUserCerts (サポートされていない)
- OnlyContainsCACerts (サポートされていない)
- OnlySomeReasons (サポートされていない)
- IndirectCRL<sup>9</sup>(拒否される)

## 基本パスの妥当性検査ポリシー

基本パスの妥当性検査ポリシーは、証明書チェーンが有効であるかどうかを判別するために証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互にどのように対話するのかを決定します。

チェーンの妥当性検査は、以下の方法で実行されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 証明書の発行者の名前が以前の証明書の所有者の名前に等しいこと、およびこの証明書に空の発行者の名前、または以前の証明書所有者の名前がないことを確認します。パスに以前の証明書が存在しない場合に、これがチェーン内の最初の証明書である場合は、発行者名とサブジェクト名が同一であることと、証明書に対してトラスト状況が設定されていることを確認してください。<sup>10</sup>

**注:** WebSphere MQ for UNIX、Linux、および Windows システムでは、パス内の前の証明書のサブジェクト名が現在の証明書と同じである場合、パスの検証に失敗します。

2. 証明書の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、証明書に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが証明書内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。
3. 証明書の署名を検証するために、パスにある以前の証明書から所有者の公開鍵を使用して、証明書が発行者によって署名済みであることを確認します。以前の証明書が存在せず、これが最初の証明書である場合は、証明書の所有者の公開鍵を使用して、その証明書の署名を検証します。WebSphere MQ は DSA および RSA 署名アルゴリズムをサポートしますが、DSA パラメーター継承はサポートしません。
4. 証明書が既知の X509 バージョンであり、バージョン 1 の証明書用の固有 ID が存在せず、バージョン 1 およびバージョン 2 の証明書に拡張が存在しないことを確認します。
5. 証明書の有効期限が切れていないか、まだ有効化されていないこと、および有効期間が良好であることを確認してください<sup>11</sup>。
6. 不明でクリティカルな拡張や重複した拡張がないことを確認します。
7. 証明書が取り消されていないことを確認します。以下の操作が適用されます。
  - a. OCSP 接続が使用可能になっていて、応答側アドレスが構成されているか、または HTTP 形式の GENERALNAME\_uniformResourceID が指定された有効な AuthorityInfoAccess 拡張が証明書に含まれている場合には、OCSP を使用して失効状況を確認します。

<sup>9</sup> IndirectCRL 拡張機能により、CRL の検証が失敗します。IndirectCRL 拡張機能は、同一の証明書が拒否されない原因となるため、使用しないでください。

<sup>10</sup> トラスト状況は、鍵データベース・ファイル内の管理設定です。iKeyman で、特定の署名者証明書のトラスト状況へのアクセスおよび変更を実行できます。署名者リストから必要な証明書を選択し、「表示/編集...」をクリックします。結果のパネルの「証明書をトラステッド・ルートとして設定」チェック・ボックスは、トラスト状況を示します。iKeycmd を **-cert-modify** コマンドの **-trust** フラグとともに使用して、トラスト状況を設定することもできます。このコマンドについて詳しくは、[鍵と証明書の管理](#)を参照してください。

<sup>11</sup> 対象の妥当性が発行者の妥当性の範囲内にあることを確認するための検査は行われません。これは必須ではありませんが、一部の CA の証明書はそのような検査をパスしないことが示されています。

- b. 上の 32 ページの『7.a』で調べた失効状況が不明な場合には、CRLDistributionPoints 拡張に X.500 識別名 GENERALNAME\_directoryname および URI GENERALNAME\_uniformResourceID のリストが含まれているかどうか検査されます。LDAP、HTTP および FILE 形式の URI のみがサポートされます。この拡張が存在しない場合、または CRLDistributionPoints 拡張を使用しても状況が不明で、この拡張がクリティカルでない場合、証明書の発行者名を使用して失効状況が照会されます。CRL データベース (LDAP) で CRL が照会されます。証明書が最後の証明書ではないか、または最後の証明書が「isCA」フラグをオンに設定した基本制約拡張を持つ場合、データベースでは代わりに ARL および CRL が照会されます。CRL 検査が有効であり、CRL データベースを照会できない場合に、証明書は取り消し済みとして扱われます。現在、X500 ディレクトリー名の形式と LDAP/HTTP/FILE URI フォームは、CRL および ARL を検索するために使用される唯一の名前形式です。<sup>12</sup>

注 : RelativeDistinguishedNames はサポートされていません。

- c. 32 ページの『7.a』と 33 ページの『7.b』の両方からの失効状況が判別できない場合、WebSphere MQ は OCSPAuthentication 構成設定を検査して、接続を許可するかどうかを決定します。<sup>13</sup>
8. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
  - DNS
  - directory
  - URI
  - IPAddress(v4/v6)
9. subjectAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
- rfc822
  - DNS
  - directory
  - URI
  - IPAddress(v4/v6)
10. KeyUsage 拡張が EE 以外の証明書でクリティカルである場合、keyCertSign フラグがオンになっていること、および BasicConstraints 拡張が存在する場合は、「isCA」フラグが true であることを確認します。
11. BasicConstraints 拡張が存在する場合は、次の検査が行われます。
- 「isCA」フラグが false である場合、証明書がチェーン内の最後の証明書であり、pathLength フィールドが存在しないことを確認します。
  - 「isCA」フラグが true であり、証明書がチェーン内の最後の証明書ではない場合、チェーンの最後の証明書までの証明書の数が pathLength フィールドよりも大きくないことを確認します。
12. AuthorityKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。
13. SubjectKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。
14. PrivateKeyUsagePeriod 拡張は、CA が証明書に実際に署名した時を判別できないので、妥当性検査エンジンによって無視されます。この拡張は常に非クリティカルなので、無視することができます。
- OCSP 応答についても妥当性検査が行われ、応答自体が有効であることが確認されます。妥当性検査は、以下の方法で実行されます (ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

<sup>12</sup> データベースから取得されると、ARL は CRL とまったく同じ方法で評価されます。多くの CA は ARL を発行しません。ただし、WebSphere MQ は、CA 証明書の失効状況を検査する場合は、ARL および CRL を検索します。

<sup>13</sup> OCSPAuthentication が WARN に設定されている場合、WebSphere MQ は不明な失効状況をログに記録し、接続の続行を許可します。

1. 応答状況が成功で、応答タイプが PKIX\_AD\_OCSP\_basic.r であることを確認します。
  2. 応答バージョン・データが存在すること、および応答が正しいバージョン (バージョン 1) のものであることを確認します。
  3. 応答が正しく署名されていることを確認します。署名者が以下の基準の少なくとも 1 つを満たさない場合、その署名は拒否されます。
    - 署名者は、OCSP 署名権限のローカル構成に一致します。<sup>14</sup>。
    - 署名者は、公開鍵が CA 証明書に含まれている CA 鍵を使用しています。つまり、CA 自体が応答に直接署名します。
    - 署名者は、失効情報が検査されている証明書に署名した CA の直接副順序であり、ExtendedKeyUsage エクステンションに id-ad-ocspSigning の値を組み込むことによって、CA によって許可されます。
- 注 : id-pkix-ocsp-nocheck 拡張が存在する場合には、応答署名者証明書の失効検査は実行されません。
4. 応答のハッシュ・アルゴリズム serialNumber、issuerNameHash、および issuerKeyHash が要求のハッシュ・アルゴリズムに一致していることを確認します。
  5. 応答の有効期限が切れていないこと、つまり、nextUpdate 時刻が現行時刻よりも後になっていることを確認します。<sup>15</sup>
  6. 証明書の失効状況が有効になっていることを確認します。

CRL の妥当性検査も実行され、CRL 自体が有効であり、以下の方法で実行されることが確認されます (ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. CRL の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、CRL に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが CRL 内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。
2. CRL が証明書発行者の鍵を使用して署名されたことを検証し、CRL が該当する証明書の発行者によって署名されたことを確認します。
3. CRL が有効期限切れでないことを確認<sup>16</sup> または、まだアクティブにされていないこと、および有効期間内にあることを確認します。
4. バージョン・フィールドが存在している場合は、それがバージョン 2 であることを確認してください。それ以外の場合、CRL はバージョン 1 で、拡張子を持つことはできません。ただし、WebSphere MQ for UNIX、Linux、および Windows システムは、バージョン 1 CRL の重要な拡張機能が存在しないことのみを検査します。
5. 該当する証明書が revokedCertificates フィールド・リストにあり、取り消し日付が将来の日付ではないことを確認します。
6. 重複した拡張がないことを確認します。
7. クリティカルなエントリー拡張機能を含む不明な重要な拡張機能が CRL で検出された場合は、これにより、識別された証明書が取り消されたものとして扱われます。<sup>17</sup>(CRL がそれ以外のすべてのチェックにパスする場合)。

<sup>14</sup> これは、ユーザーがインストール済みで、トラスト状況が設定されている鍵ストア内の証明書です。

<sup>15</sup> 現在の OCSP 応答がレスポンスから返されない場合、WebSphere MQ は、証明書の失効状況を判別する際に古い応答を使用しようとします。WebSphere MQ は、セキュリティーが低下しないように、古い応答を使用しようとします。

<sup>16</sup> 現行 CRL が見つからない場合、WebSphere MQ for UNIX、Linux、および Windows の各システムは、古い CRL を使用して証明書の取り消し状況を判別しようとします。現在の CRL が存在しない場合にどのアクションを取るかについては、RFC 5280 で明確に指定されません。WebSphere MQ for UNIX、Linux および Windows システムは、セキュリティーが低下しないように、古い CRL を使用しようとします。

<sup>17</sup> ITU X.509 および RFC 5280 は、この場合は競合しています。RFC には、クリティカルな拡張機能が不明な CRL は検証に失敗する必要があるためです。しかし、CRL がそれ以外の検査にすべてパスする場合に、ITU X.509 は識別された証明書を取り消し済みとして扱われなければならないためです。WebSphere MQ for UNIX、Linux、および Windows システムでは、セキュリティーが低下しないように、ITU X.509 ガイダンスが採用されています。

CRL を発行する CA が不明かつクリティカルな拡張を設定する場合に、それ以外のすべての妥当性検査のチェックが正常に実行されても、識別される証明書が取り消し済みとして見なされないためアプリケーション

8. CRL の authorityKeyID 拡張および CA 証明書の subjectKeyID が存在し、keyIdentifier フィールドが CRL の authorityKeyID 内に存在する場合、それを CACertificate の subjectKeyID に突き合わせます。
9. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。
  - rfc822
  - DNS
  - directory
  - URI
  - IPAddress(v4/v6)
10. issuingDistributionPoint 拡張が CRL に存在する場合、以下のように処理します。
  - issuingDistributionPoint で InDirectCRL が指定されている場合、CRL 妥当性検査に失敗します。
  - issuingDistributionPoint が CRLDistributionPoint は存在するが DistributionPointName が見つからないことを示している場合、CRL 妥当性検査に失敗します。
  - issuingDistributionPoint で、CRLDistributionPoint が存在することが示され、DistributionPointName が指定されている場合、証明書の CRLDistributionPoint によって指定された名前または証明書の発行者の名前に一致する GeneralName または LDAP 形式の URI であることを確認します。DistributionPointName が GeneralName でない場合は、CRL 妥当性検査が失敗します。

注：RelativeDistinguishedNames はサポートされておらず、これが検出された場合には CRL 妥当性検査は失敗します。

## 標準パスの妥当性検査ポリシー

標準パスの妥当性検査ポリシーは、証明書チェーンが有効であるかどうかを判別するために証明書、OCSP、および CRL の各ポリシー・タイプが相互にどのように対話するのかを決定します。標準ポリシーの検査は、RFC 5280 に準拠して行われます。

パスの妥当性検査では、以下の概念が使用されます。

- 長さ  $n$  の認証パス。ここでトラスト・ポイントまたはルート証明書は証明書 1 で、EE は  $n$  です。
  - 一連の初期ポリシー ID (それぞれは一連のポリシー・エレメント ID から成る)。これは、1 つ以上の証明書ポリシー、証明書パスの処理用に受け入れ可能なポリシーのいずれか 1 つ、または特殊値「any-policy」を識別します。現在、これは「any-policy」に常に設定されています。
- 注：UNIX、Linux および Windows システム用の WebSphere MQ は、UNIX、Linux および Windows システム用の WebSphere MQ によって作成されたポリシー ID のみをサポートします。
- 受け入れ可能なポリシー・セット: ポリシー・マッピングにより同等と見なされるポリシーと共に、公開鍵ユーザーによって認識されるポリシー (複数の場合あり) からなる一連の証明書ポリシー ID。受け入れ可能なポリシー・セットの初期値は、特殊値「any-policy」です。
  - 制約されたサブツリー: 証明書パス内の後続の証明書にあるすべてのサブジェクト名が入る一連のサブツリーを定義する一連のルート名。初期値は「unbounded」です。
  - 除外されたサブツリー: 証明書パス内の後続の証明書にあるサブジェクト名が入らない一連のサブツリーを定義する一連のルート名。初期値は「empty」です。
  - 明示的なポリシー: 明示的なポリシー ID が必要であるかどうかを示す整数。この整数は、この要件が課されるパスの最初の証明書を示します。設定されている場合、この変数を減らすことはできませんが増やすことはできません。(つまり、パス内の証明書に明示的なポリシー ID が必要な場合、その後の証明書はこの要件を除外することはできません。) 初期値は  $n+1$  です。

---

によって拒否されないことを示すという潜在的なシナリオが存在します。このシナリオでは、X.509、WebSphere MQ for UNIX、Linux、および Windows システムに続いて、フェイルセキュア・モードの操作で機能します。つまり、それらは CA が拒否しようとしなかった証明書を拒否し、一部の有効なユーザーに対するサービスを否認する可能性があります。フェールインセキュア (fail-insecure) モードは、CRL には不明でクリティカルな拡張があるため CRL を無視し、CA が取り消そうとする証明書が受け入れられます。システムの管理者は、発行側 CA でこの動作を照会します。

- ポリシー・マッピング: ポリシー・マッピングが許可されているかどうかを示す整数。整数は、ポリシー・マッピングが適用される可能性のある最後の証明書を示します。設定されている場合、この変数を減らすことはできますが増やすことはできません。(つまり、パス内の証明書でポリシー・マッピングを許可しないように指定されている場合、それをその後の証明書によって指定変更することはできません。)初期値は n+1 です。

チェーンの妥当性検査は、以下の方法で実行されます(ただし、必ずしも以下の順序で行われるとは限りません)。

1. 次の段落の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の発行者の名前が以前の証明書の所有者の名前に等しいこと、およびこの証明書に空の発行者の名前、または以前の証明書所有者の名前がないことを確認します。パスに以前の証明書が存在しない場合に、これがチェーン内の最初の証明書である場合は、発行者名とサブジェクト名が同一であること、証明書に対してトラスト状況が設定されていることを確認してください。<sup>18</sup>

証明書に所有者の名前がない場合、subjectAltName 拡張は存在しなければならず、クリティカルである必要があります。

2. 次の段落の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の発行者の署名アルゴリズム ID が署名データのアルゴリズム ID に一致することを確認して、証明書に実際に署名するのに使用される署名アルゴリズムが証明書内で示される署名アルゴリズムに一致することを確認します。

証明書の issuersUniqueID および発行者の subjectUniqueID が存在する場合、それが一致することを確認します。

3. 次の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の署名を検証するために、パスにある以前の証明書から所有者の公開鍵を使用して、証明書が発行者によって署名済みであることを確認します。以前の証明書が存在せず、これが最初の証明書である場合は、証明書の所有者の公開鍵を使用して、その証明書の署名を検証します。

4. 次の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書が既知の X509 バージョンであり、バージョン 1 の証明書用の固有 ID が存在せず、バージョン 1 およびバージョン 2 の証明書に拡張が存在しないことを確認します。

5. 次の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書の有効期限が切れていないか、まだ有効化されていないこと、および有効期間が良好であることを確認してください。<sup>19</sup>

6. 次の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

不明でクリティカルな拡張や重複した拡張がないことを確認します。

7. 次の情報は、[32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』](#)で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

証明書が取り消されていないことを確認します。以下の操作が適用されます。

<sup>18</sup> トラスト状況は、鍵データベース・ファイル内の管理設定です。iKeyman で、特定の署名者証明書のトラスト状況へのアクセスおよび変更を実行できます。署名者リストから必要な証明書を選択し、「表示/編集...」をクリックします。結果のパネルの「証明書をトラステッド・ルートとして設定」チェック・ボックスは、トラスト状況を示します。また、**-cert -modify** コマンドに **-trust** フラグを指定し、iKeycmd を使用して、トラスト状況を設定することもできます。このコマンドについて詳しくは、[鍵と証明書の管理](#) を参照してください。

<sup>19</sup> 対象の妥当性が発行者の妥当性の範囲内にあることを確認するための検査は行われません。これは必須ではありません。また、一部の CA からの証明書がこのようなチェックをパスしないことが示されています。

- a. OCSP 接続が使用可能になっていて、応答側アドレスが構成されているか、または HTTP 形式の GENERALNAME\_uniformResourceID が指定された有効な AuthorityInfoAccess 拡張が証明書に含まれている場合には、OCSP を使用して失効状況を確認します。
  - i) UNIX および Windows システム用の WebSphere MQ では、構成済み応答側用の署名を OCSP 要求にオプションで付けることが許されますが、これは OCSP 応答処理には影響を与えません。
- b. 7a で調べた失効状況が不明な場合には、X.500 識別名 GENERALNAME\_directoryname および URI GENERALNAME\_uniformResourceID のリストに CRLDistributionPoints 拡張が含まれているかどうか検査されます。拡張が存在しない場合、証明書の発行者の名前が使用されます。CRL データベース (LDAP) で CRL が照会されます。証明書が最後の証明書ではない場合、または「isCA」フラグをオンに設定した基本制約拡張が最後の証明書に含まれる場合、データベースでは代わりに ARL および CRL が照会されます。CRL 検査が有効であり、CRL データベースを照会できない場合に、証明書は取り消し済みとして扱われます。現在、CRL および ARL の検索に使用するためにサポートされている名前形式は、X500 ディレクトリー名の形式と LDAP/HTTP/FILE の URI 形式のみです。

注: RelativeDistinguishedNames はサポートされていません。

8. 次の情報は、32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

subjectAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。

- rfc822
- DNS
- directory
- URI
- IPAddress(v4/v6)

9. サブジェクト名および subjectAltName エクステンション (クリティカルまたは非クリティカル) が、制約条件および除外されたサブツリーの状態変数と整合していることを確認してください。
10. EmailAddress OID が IA5 文字列として所有者名のフィールドに存在し subjectAltName 拡張がない場合、EmailAddress は、制約され、除外されたサブツリーの状態変数と整合していなければなりません。
11. ポリシー情報が初期ポリシー・セットと整合していることを確認します。
  - a. 明示的なポリシーの状態変数が現在の証明書の数値シーケンス値より小さいか等しい場合、証明書のポリシー ID は初期のポリシー設定に入れられます。
  - b. ポリシー・マッピング変数が現在の証明書の数値シーケンス値より小さいか等しい場合、ポリシー ID をマッピングすることはできません。
12. ポリシー情報が受け入れ可能なポリシー・セットと整合していることを確認します。
  - a. 証明書ポリシー拡張にクリティカルのマークが付いている場合<sup>20</sup> ポリシー拡張と受け入れ可能なポリシー・セットの共通部分がヌル以外です。
  - b. 受け入れ可能なポリシー・セットに、結果の交点が新規の値として割り当てられます。
13. 受け入れ可能なポリシー・セットと初期のポリシー・セットの交点がヌル以外であることを確認します。anyPolicy の特殊ポリシーが存在するときには、このチェーン位置で inhibitAnyPolicy 拡張によって使用禁止にされていない場合にのみ、そのポリシーを許可します。
14. inhibitAnyPolicy 拡張が存在する場合、それに「クリティカル」のマークが付いていることを確認し、そのマークが付いている場合には、inhibitAnyPolicy 状態を設定し、チェーン位置を拡張の整数値に設定します (拡張の整数値が現行値を超えていない場合)。これは、anyPolicy ポリシーを設定して発行できる証明書の数で、この数値に達すると anyPolicy ポリシーは許可されなくなります。
15. 以下のステップは、最後のステップを除き、すべての証明書に対して実行されます。
  - a. issuerAltName 拡張がクリティカルにマークされた場合、名前の形式が認識されていることを確認します。現在、以下の一般的な名前の形式が認識されています。

<sup>20</sup> これは、RFC2459 (6.1 (e)(1)) からのレガシー要件として維持されます。

- rfc822
  - DNS
  - directory
  - URI
  - IPAddress(v4/v6)
- b. i) BasicConstraints 拡張が存在しない場合、証明書は EE 証明書としてのみ有効です。
- ii) BasicConstraints 拡張が存在する場合、「isCA」フラグが true になっていることを確認します。チェーン作成自体に含まれるよう、「isCA」が true であるかどうか常にチェックされますが、この特定のテストが依然として行われます。pathLength フィールドが存在する場合、最後の証明書までの証明書の数が pathLength フィールドよりも大きくないことを確認します。
- c. KeyUsage エクステンションがクリティカルである場合は、keyCertSign フラグがオンになっていることを確認し、BasicConstraints 拡張が存在するかどうかを確認し、「isCA」フラグが true であることを確認してください。<sup>21</sup>
- d. ポリシー制約拡張が証明書に含まれる場合、以下のように明示的なポリシーおよびポリシー・マッピング状態変数を変更します。
- i. requireExplicitPolicy が存在し、その値が  $r$  である場合、明示的なポリシー状態変数が、その現行値と、 $r$  と  $i$  (シーケンス内の現行の証明書) の和の、いずれか小さい方の値に設定されます。
  - ii. inhibitPolicyMapping が存在し、その値が  $q$  である場合、ポリシー・マッピング状態変数が、その現行値と、 $q$  と  $i$  (シーケンス内の現行の証明書) の和の、いずれか小さい方の値に設定されます。
- e. policyMappings 拡張が存在する場合 (12(b) を参照)、これがクリティカルではなく、ポリシー・マッピングが許容される場合、これらのマッピングが証明書のポリシーと署名者のポリシー間のマッピングを行うために使用されることを確認します。
- f. nameConstraints 拡張が存在する場合、それが重大であること、および許可されたサブツリーと除外されたサブツリーが以下の規則に従っていることを確認してから、RFC 5280 セクション 6.1.4 の部分 (g) で説明されているアルゴリズムに従ってチェーンのサブツリーの状態を更新してください。
- i) 最小フィールドはゼロに設定されます。
  - ii) 最大フィールドは存在しません。
  - iii) 基本フィールド名の形式は認識されています。現在、以下の一般的な名前形式が認識されています。
    - rfc822
    - DNS
    - directory
    - URI
    - IPAddress(v4/v6)
16. ExtendedKeyUsage 拡張は WebSphere MQ では検査されません。
17. 次の情報は、32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。
- AuthorityKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。
18. 次の情報は、32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。
- SubjectKeyID 拡張はパスの妥当性検査には使用されませんが、証明書チェーンを作成するときに使用されます。

<sup>21</sup> このチェックは、ステップ (b) のために冗長になっていますが、チェックはまだ行われています。

19. 次の情報は、32 ページの『基本パスの妥当性検査ポリシー』で説明されている基本パスの妥当性検査ポリシーと整合しています。

PrivateKeyUsagePeriod 拡張は、CA が証明書に実際に署名した時を判別できないので、妥当性検査エンジンによって無視されます。この拡張は常に非クリティカルなので、無視することができます。

## 暗号ハードウェア

UNIX、Linux、および Windows システムでは、WebSphere MQ は、PKCS #11 インターフェースを使用するさまざまな暗号ハードウェアに対するサポートを提供します。IBM i および z/OS では、オペレーティング・システムが、暗号ハードウェアのサポートを提供します。

現在サポートされている暗号化カードのリストについては、[WebSphere MQ 用の暗号化カードのリスト](#)を参照してください。

すべてのプラットフォーム上では、暗号ハードウェアは SSL ハンドシェイク段階および秘密鍵のリセット時に使用されます。

IBM i では、DCM を使用して証明書の作成または更新を行う場合に、コプロセッサに鍵を直接格納することも、コプロセッサのマスター鍵を使用し、秘密鍵を暗号化してから特別な鍵ストア・ファイルに格納することもできます。

z/OS では、RACF® を使用して証明書を作成する場合に、ICSF (Integrated Cryptographic Service Facility) を使用して鍵を格納し、パフォーマンスを向上させ、鍵を安全に保管することができます。SSL ハンドシェイクおよび秘密鍵のネゴシエーションの際、Crypto Express カード (使用可能な場合) を使用して RSA 操作が行われます。ハンドシェイクが完了してデータが流れ始めた後、データは CPACF で暗号化解除され、Crypto Express カードは使用されません。

UNIX、Linux、および Windows システムでは、SSL 暗号ハードウェア対称暗号操作のための WebSphere MQ サポートも提供されています。SSL 暗号ハードウェア対称暗号操作を使用した場合、SSL または TLS 接続で送信されたデータは暗号ハードウェア製品によって暗号化/暗号化解除されます。

キュー・マネージャーでこの設定をオンにするには、SSLCryptoHardware キュー・マネージャー属性を適宜設定します ([ALTER QMGR](#) と [Change Queue Manager](#) を参照してください)。WebSphere MQ MQI クライアントでは、これに相当する変数が提供されています ([クライアント構成ファイルの SSL スタンザ](#)を参照)。デフォルト設定はオフです。

この属性がオンにされると、WebSphere MQ は、現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対して暗号ハードウェア製品がそれらをサポートしているかどうかに関わらず、対称暗号操作を使用しようとします。暗号ハードウェア製品がこれをサポートしていない場合、WebSphere MQ はデータ自体の暗号化および暗号化解除を実行し、エラーは報告されません。現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対して暗号ハードウェア製品が対称暗号操作をサポートしている場合は、この機能がアクティブになり、送信されたデータの暗号化および暗号化解除が暗号ハードウェア製品によって実行されます。

プロセッサの使用量が少ない状況では、多くの場合、データをカードにコピーしてからそれを暗号化/暗号化解除して SSL プロトコル・ソフトウェアに再びコピーするよりも、ソフトウェアで暗号化/暗号化解除を実行する方が時間がかかりません。ハードウェア対称暗号操作は、プロセッサの使用量が多い場合には大変便利です。

暗号ハードウェアを備えた z/OS では、対称暗号操作がサポートされています。つまり、ハードウェアが、選択されている CipherSpec に対してこの機能を備え、データの暗号化および暗号化解除をサポートするよう構成されている場合、ユーザーのデータはハードウェアによって暗号化および暗号化解除されます。

IBM i では、現在の CipherSpec で指定されている暗号化アルゴリズムに対してハードウェアがそのような暗号化を実行する機能を備えていても、ユーザーのデータの暗号化や暗号化解除に暗号ハードウェアは使用されません。

## SSLPEER 値の IBM WebSphere MQ Telemetry 規則

SSLPEER 属性は、IBM WebSphere MQ チャネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはピア・クライアントから送られてくる証明書の識別名 (DN) を検査するときに使用される属性です。IBM WebSphere MQ これらの値の比較時に特定の規則を使用する

SSLPEER 値が DN と比較されるときに、属性値を指定して突き合わせる場合の規則は、次のとおりです。

1. コンマかセミコロンのどちらかを、区切り文字として使用することができます。
2. 区切り文字の前または後のスペースは無視されます。以下に例を示します。

```
CN=John Smith, O=IBM ,OU=Test , C=GB
```

3. 属性タイプ SERIALNUMBER, MAIL, E, UID OR USERID, CN, T, OU, DC, O, STREET, L, ST, SP, S, PC, C, UNSTRUCTUREDNAME, UNSTRUCTUREDADDRESS, DNQ の値は、通常、以下のみを含むテキスト・ストリングです。

- アルファベットの A から Z まで、および a から z まで
- 数字の 0 から 9
- スペース文字
- 文字, . ; ' " ( ) / -

異なるプラットフォーム間の変換の問題を避けるために、属性値に上記以外の文字を使用しないでください。属性タイプ (CN など) は、大文字でなければなりません。

4. 同じ英字が入っているストリングは、大文字小文字の区別なく、一致します。
5. 属性タイプと = 文字の間にスペースを使用することはできません。
6. オプションで、属性値を二重引用符で囲むことができます。例えば、CN="John Smith" です。この引用符は、値を突き合わせる時は破棄されます。
7. ストリングの前と後のスペースは、ストリングが二重引用符で囲まれていない場合は無視されます。
8. 二重引用符で囲まれる場合、コンマとセミコロンの属性区切り文字は、ストリングの一部と見なされます。
9. 属性タイプの名前 (例えば、CN または OU) は、二重引用符で囲まれたときにストリングの一部と見なされます。
10. 州・県名には、属性タイプ ST、SP、および S のいずれかを使用することができます。
11. 任意の属性値には、先頭、末尾、またはその両方のパターン・マッチング文字として、アスタリスク (\*) を使用することができます。このアスタリスク文字は、突き合わせるストリングの先頭または末尾の任意の数の文字の代わりに使用されます。この文字は、SSLPEER の指定が、一連の識別名と一致することができます。例えば、OU=IBM\* は、IBM で始まるすべての組織単位 (例えば、「IBM Corporation) と一致します。

アスタリスク文字は、識別名の有効文字としても使用できます。ストリングの先頭または末尾にアスタリスクがある完全一致を取得するには、アスタリスクの前に円記号エスケープ文字 (\) を付ける必要があります: \\*。ストリングの中央にあるアスタリスクは、ストリングの一部と見なされ、エスケープ文字は必要ありません。

12. 識別名には、複数の OU 属性および複数の DC 属性を含めることができます。
13. 複数の OU 属性を指定する場合は、すべての属性が存在し、降順の階層になっている必要があります。例については、[DEFINE CHANNEL](#) を参照してください。
14. デジタル証明書の所有者の識別名には、OU および DC 以外の同じタイプの複数の属性を追加できます。ただし、これを行うことができるのは、繰り返される属性タイプで SSLPEER 値によるフィルタリングが行われない場合のみです。例えば、証明書に以下の所有者の識別名が含まれている場合を考えてみます。

```
CN=First, CN=Second, O=IBM, C=US
```

O=IBM, C=US の SSLPEER 値は CN ではフィルターに掛けられないため、この証明書に一致し、接続を許可します。証明書に複数の CN 属性が含まれているため、SSLPEER 値 CN=First, O=IBM, C=US はこの証明書との突き合わせに失敗します。複数の CN 値と突き合わせることはできません。

## 関連概念

### 識別名

## **GSKit: FIPS 140-2 に準拠するデジタル証明書署名アルゴリズム**

GSKit における FIPS 140-2 に準拠するデジタル証明書署名アルゴリズムのリスト

- RSA + SHA-1
- RSA + SHA-224
- RSA + SHA-256
- RSA + SHA-384
- RSA + SHA-512
- DSA + SHA-1
- ECDSA + SHA-1
- ECDSA + SHA-224
- ECDSA と SHA-256
- ECDSA と SHA-384
- ECDSA + SHA-512
- 曲線 P-192
- 曲線 P-224
- 曲線 P-256
- 曲線 P-384
- 曲線 P-521
- 曲線 K-163
- 曲線 K-233
- 曲線 K-283
- 曲線 K-409
- 曲線 K-571
- 曲線 B-163
- 曲線 B-233
- 曲線 B-283
- 曲線 B-409
- 曲線 B-571

### **関連概念**

[WebSphere MQ におけるデジタル証明書と CipherSpec の互換性](#)

## **IBM WebSphere MQ AMS メッセージで使用される GSKit 戻りコード**

このトピックでは、一部の IBM WebSphere MQ AMS メッセージに表示される IBM Global Security Kit (GSKit) の戻りコードについて説明します。

GSKit によって生成される数値の戻りコードを受け取った場合は、次の表を参照して、メッセージ・コードまたは説明を判別してください。

表 1. GSKit エラー・メッセージ (10 進戻りコード順)

10 進戻りコード	メッセージ・コード	説明
0	GSS_S_MINOR_OK	OK. エラーはありません。
0	GSS_S_MINOR_SUCCESS	OK. エラーはありません。
1	GSS_S_MINOR_MEMORY_ALLOCATION_FAILURE	汎用メモリー割り振り失敗が発生しました。
1	GSS_S_MINOR_INSUFFICIENT_STORAGE	汎用メモリー割り振り失敗が発生しました。
2	GSS_S_MINOR_NOT_MECHANISM_NAME	名前がメカニズム名ではありません。
3	GSS_S_MINOR_INVALID_NAME	指定された名前は無効です。
4	GSS_S_MINOR_GSK_ERROR	GSKit からエラーが返されました。
5	GSS_S_MINOR_NO_MORE_NAME	名前オブジェクトにはこれ以上解析する名前がありません。
6	GSS_S_MINOR_MEMBER_NOT_FOUND	オブジェクトが1つのセットから参照されましたが、要求されたオブジェクトは見つかりませんでした。
7	GSS_S_MINOR_BAD_QUALITY_OF_PROTECTION_ALGORITHM	保護品質アルゴリズムに誤りがあります。
8	GSS_S_MINOR_BAD_QUALITY_OF_SIGNING_ALGORITHM	署名品質アルゴリズムに誤りがあります。
9	GSS_S_MINOR_BAD_DIGEST_ENCRYPTION_ALGORITHM	ダイジェスト暗号化アルゴリズムに誤りがあります。
10	GSS_S_MINOR_BAD_INPUT	1つ以上の必須の入力パラメーターが NULL です。
11	GSS_S_MINOR_HANDLE_INVALID	オブジェクト・ハンドルが無効です。
12	GSS_S_MINOR_NO_PRIVKEY_IN_KEYRING	データベースに秘密鍵を持つエントリーがありません。
12	GSS_S_MINOR_NO_PRIVKEY_IN_DB	データベースに秘密鍵を持つエントリーがありません。
13	GSS_S_MINOR_BAD_KEYRING_TYPE	データベースのエントリー・タイプに誤りがあります。
14	GSS_S_MINOR_KEYRING_ACCESS_EXCEPTION	データベースへのアクセスで例外が発生しました。  追加情報: すべての GSKit ライブラリーがアクセス可能で壊れていないこと確認してください。また、HP-UX 上で使用している場合は、SHLIB_PATH がプログラムに対して正しく有効化されていることを確認してください。
15	GSS_S_MINOR_API_NOT_SUPPORTED	このアプリケーション・インターフェース (API) はサポートされていません。
16	GSS_S_MINOR_CREDENTIAL_STILL_EXISTS	この資格情報はすでに存在します。

表 1. GSKit エラー・メッセージ (10 進戻りコード順) (続き)

10 進戻りコード	メッセージ・コード	説明
17	GSS_S_MINOR_ENV_STILL_EXISTS	環境はすでに存在しています。
18	GSS_S_MINOR_EXPIRED_CREDENTIAL	資格情報の有効期限が切れています。
19	GSS_S_MINOR_NO_SIGNER	指定された資格情報に使用できる署名者がいません。
20	GSS_S_MINOR_PIDU_HAD_INVALID_CONTENT_TYPE	この保護独立データ単位 (Protected Independent Data Unit (PIDU)) のコンテンツ・タイプが無効です。
21	GSS_S_MINOR_PIDU_HAD_INVALID_CONTENT_ENCRYPTION_ALGORITHM	この保護独立データ単位 (PIDU) のコンテンツ暗号化アルゴリズムは無効です。
22	GSS_S_MINOR_BLOB_ALREADY_EXISTS	この blob はすでに存在しています。
23	GSS_S_MINOR_INVALID_MECH	メカニズム・タイプのオブジェクト ID が構文的に無効です。
24	GSS_S_MINOR_MECH_NOT_SUPPORTED	示されたメカニズム・タイプはこの実装環境ではサポートされていません。
25	GSS_S_MINOR_STATIC_OID	静的なオブジェクト ID (OID) を解放しようとする試みがありましたが、解放できません。
26	GSS_S_MINOR_PIDU_INVALID_SESSION_KEY	この保護独立データ単位 (PIDU) のセッション鍵は、そのデータの復号に使用できません。
27	GSS_S_MINOR_PIDU_RECIPIENT_INFO_INVALID	この保護独立データ単位 (PIDU) が参照している証明書は、そのセッション鍵の復号に使用できません。
28	GSS_S_MINOR_PIDU_HAS_UNSUPPORTED_DIGEST_ALGORITHM	この保護独立データ単位 (PIDU) のダイジェスト・アルゴリズムはサポートされていません。
29	GSS_S_MINOR_PIDU_HAS_UNSUPPORTED_DIGEST_ENCRYPTION	この保護独立データ単位 (PIDU) のダイジェスト暗号化アルゴリズムはサポートされていません。
30	GSS_S_MINOR_SIGNING_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、署名操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
31	GSS_S_MINOR_ENCRYPTION_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、暗号化操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
32	GSS_S_MINOR_NO_VALID_TARGET_NAMES_IN_DATABASE	指定された名前がいずれもデータベース内で見つかりませんでした。
33	GSS_S_MINOR_NO_VALID_SIGNERS	署名済み保護独立データ単位 (PIDU) の保護解除中に、どの署名者も検証できませんでした。

表 1. GSKit エラー・メッセージ (10 進戻りコード順) (続き)

10 進戻りコード	メッセージ・コード	説明
34	GSS_S_MINOR_MULTIPLE_SIGNERS	署名済み保護独立データ単位 (PIDU) に複数の署名者が含まれていますが、最初の署名者だけが返されています。
34	GSS_S_MINOR_BAD_SEQUENCE	マルチバッファが正しくない順序で呼び出されました (例えば、end_unprotect が start_protect の後に呼び出されます)。
36	GSS_S_MINOR_INVALID_NAME_TYPE	指定された nametype 引数は無効です。
37	GSS_S_MINOR_FAILURE	一般的な内部障害が発生しました。
38	GSS_S_MINOR_BAD_OID	指定されたオブジェクト ID は構文的に無効です。
39	GSS_S_MINOR_INVALID_CREDENTIAL	資格情報が無効です。
40	GSS_S_MINOR_INVALID_ENVIRONMENT	環境が無効です。
41	GSS_S_MINOR_VERIFY_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、その操作を検証するためにセットアップされていません。この環境は、その操作を検証するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
42	GSS_S_MINOR_DECRYPTION_NOT_ALLOWED_BY_ENV	この環境は、復号操作を実行するためにセットアップされていません。 追加情報: 証明書内のキー使用ビットが、指定された操作を許可していない可能性があります。
43	GSS_S_MINOR_UNABLE_TO_DECRYPT_PIDU	この保護独立データ単位 (PIDU) は復号できません。 追加情報: プライバシー保護されたキュー上の受信側拡張属性に、メッセージの実際の受信側の証明書 DN が含まれていることを確認してください。また、送信側がその受信側 DN 用に持っている公開鍵が、受信側の鍵ストア内の秘密鍵に対応していることを確認してください。
44	GSS_S_MINOR_INVALID_PKCS7_MESSAGE	無効な PKCS7 メッセージを受信しました。
45	GSS_S_MINOR_USAGE_VALIDATION_FAILED	アプリケーションが、正しいレベルの GSKit/ACME でビルドされていないか、ACME API インターフェースの使用を許可されていません。
46	GSS_S_MINOR_DIGEST_ERROR	メッセージ・ダイジェスト中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
47	GSS_S_MINOR_ENCRYPTION_ERROR	データ暗号化中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。
48	GSS_S_MINOR_DECRYPTION_ERROR	データ復号中にエラーが発生し、メッセージが破損している可能性があります。

表 1. GSKit エラー・メッセージ (10 進戻りコード順) (続き)

10 進戻りコード	メッセージ・コード	説明
49	GSS_S_MINOR_ACCELERATOR_NOT_SUPPORTED	指定されたカードはサポートされていないか、または正しくインストールされていません。
50	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_NOTPRESENT	PKCS #11 トークンが見つかりませんでした。
51	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_LABEL_MISMATCH	PKCS #11 トークン・ラベルが正しく入力されませんでした。
52	GSS_S_MINOR_PKCS11_TOKEN_INVALID_PIN	PKCS #11 トークン用に入力されたユーザー PIN が無効です。
53	GSS_S_MINOR_PKCS11_LIBRARY_NOT_LOADED	システムは PKCS #11 ライブラリーをロードできませんでした。
54	GSS_S_MINOR_DECODING_ERROR	証明書または識別名のいずれかの Base 64 または ASN.1 デコード中にエラーが発生しました。
55	GSS_S_MINOR_SIGN_ERROR	署名処理中にエラーが発生しました。
56	GSS_S_MINOR_VERIFY_ERROR	署名検証プロセス中にエラーが発生しました。
57	GSS_S_MINOR_RECIPIENT_CERT_NOT_FOUND	アプリケーションは受信側の証明書を見つけることができませんでした。
58	GSS_S_MINOR_CERT_HpAS_NO_PRIVATE_KEY	証明書に秘密暗号鍵がありません。
59	GSS_S_MINOR_CERT_HAS_BAD_VALIDITY_DATE	証明書の有効期限に誤りがあります。
60	GSS_S_MINOR_BAD_CERTIFICATE	証明書が無効です。
61	GSS_S_MINOR_FIPS_NOT_SUPPORTED	このバージョンでは FIPS モードはサポートされていません。
62	GSS_S_MINOR_SIGNER_CERT_BAD	署名者証明書が信頼されていません。
63	GSS_S_MINOR_SIGNER_CERT_BAD_DATE	署名者証明書の有効期限に誤りがあります。

## AltGSKit の IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.0.1 からバージョン 7.1 へのマイグレーション

このタスクは、代替 GSKit をロードするために AltGSKit 構成設定を使用して IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.0.1 からマイグレーションする場合にのみ実行します。AltGSKit 設定で IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.0.1 により使用される代替 GSKit は、IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.1 により使用される GSKit とは異なります。それぞれの GSKit に対する変更は、他方に影響することはありません。これは、IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.1 がそのインストール・ディレクトリー内で GSKit の専用ローカル・コピーを使用し、代替 GSKit の使用をサポートしないためです。

### AltGSKit の主要なマイグレーション・ステップの概要

AltGSKit を使用する IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.0.1 から IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.1 にマイグレーションするときに、新規 GSKit が正常に作動できるようにするために実行するいくつかのタスクがあります。マイグレーション時に考慮すべき主要なステップは、以下のとおりです。

1. 削除を開始する前に、現在インストールされている代替 GSKit の使用を必要とするアプリケーションがないことを確認してください。

2. AltGSKit 設定を、各キュー・マネージャーおよびクライアント構成ファイルの SSL スタンザから削除します。
3. 代替 GSKit を使用している各 MQI クライアント・アプリケーションを再始動し、代替 GSKit がロードされているクライアント・アプリケーションがないことを確認します。
4. 代替 GSKit を使用している各キュー・マネージャーに対して REFRESH SECURITY TYPE(SSL) を発行し、代替 GSKit がロードされているキュー・マネージャーがないことを確認します。
5. このトピックで概略が示されているプラットフォーム固有の指示に従って、代替 GSKit をアンインストールします。
6. このトピックで参照されているプラットフォーム固有の指示に従って、代替 GSKit をインストールします。

## AltGSKit 設定の削除

代替 GSKit をアンインストールする前に、AltGSKit 設定を各キュー・マネージャーおよびクライアント構成ファイルの SSL スタンザから削除する必要があります。

キュー・マネージャー構成ファイルの内容を表示する方法、またキュー・マネージャー構成ファイルの詳細については、[キュー・マネージャー構成ファイル qm.ini](#) を参照してください。

クライアント構成ファイルの SSL スタンザについては、[クライアント構成ファイルの SSL スタンザ](#) を参照してください。

構成ファイルが変更された場合は、以下のようにします。

1. 代替 GSKit を使用している各 MQI クライアント・アプリケーションを再始動し、代替 GSKit がロードされているクライアント・アプリケーションがないことを確認します。
2. 代替 GSKit を使用している各キュー・マネージャーに対して REFRESH SECURITY TYPE(SSL) を発行し、代替 GSKit がロードされているキュー・マネージャーがないことを確認します。

## GSKit のアンインストール

ここで、代替 GSKit のアンインストールのためのプラットフォーム固有の手順の概略を示します。

- [46 ページの『Windows 上での GSKit V8 のアンインストール』](#)
- [47 ページの『Linux 上での GSKit V8 のアンインストール』](#)
- [47 ページの『AIX 上での GSKit V8 のアンインストール』](#)
- [47 ページの『HP-UX 上での GSKit V8 のアンインストール』](#)
- [47 ページの『Solaris 上での GSKit V8 のアンインストール』](#)

## Windows 上での GSKit V8 のアンインストール

Windows コントロール・パネルの「プログラムの追加と削除」を使用して、GSKit バージョン 8 を対話式にアンインストールできます。Windows インストーラーの **msiexec** ユーティリティまたは GSKit インストール・ファイルを使用して、GSKit バージョン 8 をサイレントにアンインストールできます。GSKit バージョン 8 をアンインストールするためにアクセス可能なインターフェースを使用する場合は、以下のいずれかのサイレント・アンインストール方式を使用します。

### 手順

- GSKit V8 を **msiexec** を使用してアンインストールするには、以下のようにします。

1. 以下のコマンドを発行します。

```
msiexec /x PackageName
```

PackageName は、GSKit8 SSL 32-bit、GSKit8 Crypt 32-bit、GSKit8 SSL 64-bit、または GSKit8 Crypt 64-bit のいずれかの値です。

2. アンインストール対象の各パッケージに対してこれを繰り返します。

## Linux 上での GSKit V8 のアンインストール

GSKit V8 は **rpm** コマンドを使用してアンインストールできます。

### 手順

以下のコマンドを使用して GSKit v8 をアンインストールします。

```
rpm -ev gskssl32-8.0.X.Y gskcrypt32-8.0.X.Y
```

ここで X.Y は、インストールされている GSKit のバージョン番号を表します。

64 ビット Linux プラットフォームでは、以下の追加コマンドを実行します。

```
rpm -ev gskssl64-8.0.X.Y gskcrypt64-8.0.X.Y
```

## AIX 上での GSKit V8 のアンインストール

GSKit V8 は **installp** コマンドを使用してアンインストールできます。

### 手順

以下のコマンドを使用して GSKit V8 をアンインストールします。

```
installp -u -g -V2 gskcrypt32.ppc.rte gskssl32.ppc.rte gskcrypt64.ppc.rte gskssl64.ppc.rte
```

## HP-UX 上での GSKit V8 のアンインストール

GSKit バージョン 8 は **swremove** コマンドを使用してアンインストールできます。

### 手順

以下のコマンドを使用して GSKit V8 をアンインストールします。

```
swremove gskcrypt32 gskssl32 gskcrypt64 gskssl64
```

## Solaris 上での GSKit V8 のアンインストール

GSKit V8 は **pkgrm** コマンドを使用してアンインストールできます。

### 手順

以下のコマンドを使用して GSKit V8 をアンインストールします。

```
pkgrm gsk8ssl32 gsk8cry32 gsk8ssl64 gsk8cry64
```

## IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.1 上での GSKit のインストール

IBM WebSphere MQ Telemetry V7.1 for Windows の場合、GSKit は自動的にインストールされます。

Linux および UNIX プラットフォーム上の IBM WebSphere MQ Telemetry バージョン 7.1 に GSKit をインストールするには、以下のトピックで概説されている手順を参照してください。

- [Linux システム用の IBM WebSphere MQ コンポーネント](#)
- [HP-UX システム用の IBM WebSphere MQ コンポーネント](#)
- [AIX® システム用の IBM WebSphere MQ コンポーネント](#)
- [Solaris システム用の IBM WebSphere MQ コンポーネント](#)

## CipherSpec のミスマッチ

WebSphere MQ の SSL チャンネルの両端では、同じ CipherSpec を使用する必要があります。ミスマッチは、SSL ハンドシェイク時またはチャンネルの始動時に検出されます。

CipherSpec は、暗号化アルゴリズムとハッシュ関数との組み合わせを識別します。WebSphere MQ SSL チャンネルの両端では、同じ CipherSpec を使用する必要があります。ただし、その CipherSpec の指定方法は、異なってもかまいません。ミスマッチは、次の 2 つの段階で検出されます。

### SSL ハンドシェイク時

SSL クライアントが指定する CipherSpec が、接続の SSL サーバー側の SSL サポートに受け入れ不能である場合、SSL ハンドシェイクは失敗します。SSL ハンドシェイク時に CipherSpec の失敗が発生するのは、SSL クライアントが、SSL サーバー上の SSL 対策によってサポートされない CipherSpec を提示する場合です。例えば、AIX 上で実行されている SSL クライアントが、IBM i 上で実行されている SSL サーバーに対して DES\_SHA\_EXPORT1024 CipherSpec を提案するとします。

### チャンネルの始動時

チャンネルの応答側に指定されている CipherSpec と、チャンネルの呼び出し側に指定されている CipherSpec との間でミスマッチがある場合、チャンネルの始動は失敗します。また、チャンネルの一方の側だけが CipherSpec を指定している場合も、チャンネルの始動は失敗します。

詳細については、[CipherSpecs の指定](#)を参照してください。

**注：** Global Server Certificate が使用される場合、両方のチャンネル定義で指定される CipherSpecs が一致する場合でも、チャンネルの始動時にミスマッチが検出される可能性があります。

Global Server Certificate は、最低レベルの暗号化が、それらが使用されるすべての通信リンクに設定されている必要がある特殊なタイプの証明書です。WebSphere MQ チャンネル構成によって要求される CipherSpec がこの要件を満たさない場合、CipherSpec は SSL ハンドシェイク時に再調整されます。これは、CipherSpec がチャンネルで指定された CipherSpec と一致しないため、WebSphere MQ チャンネルの始動時に失敗として検出されます。

この場合、チャンネルの両側で、CipherSpec を Global Server Certificate の要件を満たすものに変更します。ユーザーに発行された証明書が Global Server Certificate であるかどうかを設定するには、その証明書を発行した認証局に問い合わせてください。

UNIX、Linux、または Windows システムの SSL クライアント・チャンネルで DES\_SHA\_EXPORT1024 CipherSpec が指定されていて、一方、UNIX、Linux、または Windows システム上のそれに対応する SSL サーバー・チャンネルでは DES\_SHA\_EXPORT CipherSpec が使用されている場合、SSL サーバーでは不一致が検出されません。その場合、チャンネルは通常どおり実行されます。

## 認証の失敗

SSL ハンドシェイク時の認証の失敗の一般的な理由はいくつかあります。

理由には以下にリストしたものが含まれますが、これらに限られる訳ではありません。

### 証明書が証明書取り消しリストまたは権限取り消しリスト内で検出された

証明書を認証局によって公表された取り消しリストと照合して検査することができます。

認証局は、信頼できなくなった証明書を証明書取り消しリスト (CRL) または権限取り消しリスト (ARL) で公開することによって、その証明書を取り消すことができます。詳しくは、[失効した証明書の取り扱い](#)を参照してください。

### OCSP 応答側が証明書を失効済みまたは不明と識別した

証明書は OCSP を使用して検査できます。OCSP 応答側は失効済み (その証明書が有効ではなくなったことを表します) または不明 (その証明書に関する失効データを保有していないことを表します) という応答を戻します。詳しくは、[失効した証明書の取り扱い](#)を参照してください。

### 証明書の有効期限が切れているか、証明書がまだアクティブでない

各デジタル証明書には、有効期間の開始日と終了日があります。したがって、その存続期間外の証明書で認証しようとすると、失敗します。

### 証明書が破壊されている

デジタル証明書内の情報が不完全であったり、損傷したりしていると、認証は失敗します。

### 証明書がサポートされていない

証明書の形式がサポートされていない形式である場合、証明書が存続期間内であっても、認証は失敗します。

### SSL クライアントに証明書がない

SSL サーバーは、クライアント証明書が送信される場合は、常にそのクライアント証明書を検証します。SSL クライアントが証明書を送信しない場合、認証が失敗するのは、SSL サーバーの役目をするチャネルの側が次のように定義されている場合です。

- SSLCAUTH パラメーターを REQUIRED に設定している、または
- SSLPEER パラメーター値を指定している

### 一致する CA ルート証明書がないか、証明書チェーンが不完全である

各デジタル証明書は、認証局 (CA) によって発行されます。CA は、その CA 用の公開鍵が入っているルート証明書も提供します。ルート証明書は、発行側 CA 自体によって署名されます。認証を実行しているコンピューター上の鍵リポジトリに、着信ユーザー証明書を発行した CA に対する有効なルート証明書が含まれていない場合、認証は失敗します。

多くの場合、認証には、信頼される証明書のチェーンが関与します。ユーザー証明書上のデジタル署名は、発行側 CA の証明書からの公開鍵を使用して検証されます。その CA 証明書がルート証明書である場合、検証プロセスは完了します。その CA 証明書が中間 CA によって発行された場合、中間 CA 証明書上のデジタル署名自体が検証されなければなりません。このプロセスは、CA 証明書のチェーンに沿って、ルート証明書に達するまで続きます。このような場合、チェーン内のすべての証明書が、正しく検証されなければなりません。認証を実行するコンピューター上の鍵リポジトリに、着信したルート証明書を発行した CA の有効なルート証明書が入っていない場合、認証は失敗します。

ただし、GSKit、DCM、RACF などの特定の SSL 実装では、trust チェーン内に中間 CA が存在していない場合、トラスト・アンカー (ROOT CA) が存在している限り、証明書が検証されます。したがって、サーバー・サイド証明書ストアに必ず完全な trust チェーンが含まれていることが重要です。また、署名者 (CA) 証明書を選択的に除去する手法を使用して、キュー・マネージャーへの接続を制御しないようにしてください。

詳細については、[証明書チェーンの働き](#)を参照してください。

このトピックで使用される用語の詳細については、次のセクションを参照してください。

- [Secure Sockets Layer \(SSL\) および Transport Layer Security \(TLS\) の概念](#)
- [デジタル証明書](#)

## モニター・リファレンス

IBM WebSphere MQ をモニターするには、このセクションの参照情報を使用してください。

### 関連タスク

[モニターおよびパフォーマンス](#)

## 構造データ型

このトピックでは、WebSphere MQ のモニター技法によって生成されるメッセージ・データで使用される構造データ型について知ることができます。

以下のトピックでは、モニター・メッセージ・データで使用される構造データ型について、言語に依存しない形式で説明しています。宣言については、以下のプログラミング言語で示します。

- C
- COBOL
- PL/I
- RPG (ILE) (IBM i のみ)
- S/390® アセンブラー (z/OS のみ)
- Visual Basic (Windows プラットフォームのみ)
- [50 ページの『MQCFBS - バイト・ストリング・パラメーター』](#)

- [52 ページの『MQCFGR-グループ・パラメーター』](#)
- [54 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)
- [58 ページの『MQCFIL - 整数リスト・パラメーター』](#)
- [60 ページの『MQCFIL64 - 64 ビット整数リスト・パラメーター』](#)
- [62 ページの『MQCFIN - 整数パラメーター』](#)
- [64 ページの『MQCFIN64 - 64 ビット整数パラメーター』](#)
- [65 ページの『MQCFSL - ストリング・リスト・パラメーター』](#)
- [68 ページの『MQCFST - ストリング・パラメーター』](#)
- [71 ページの『MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー』](#)

## MQCFBS - バイト・ストリング・パラメーター

このページを使用して、MQCFBS パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFBS 構造は、バイト・ストリング・パラメーターについて記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFBS 構造を構成する各フィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

### Type

説明:	これは、バイト・ストリング・パラメーターを記述する MQCFBS 構造であることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	<b>MQCF_BYTE_STRING</b> バイト・ストリングを定義する構造。

### StrucLength

説明:	これは MQCFBS 構造の長さ (バイト) で、構造の末尾にある可変長ストリングを含みます ( <i>String</i> フィールド)。
データ型:	MQLONG

### Parameter

説明:	これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG

### StringLength

説明:	これは <i>String</i> フィールド内のデータ長さ (バイト) で、値は 0 以上です。
データ型:	MQLONG

### String

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値です。ストリングはバイト・ストリングであるため、異なるシステム間で送信されるときに文字セット変換は行われません。

注: ストリング内のヌル・バイトは通常のデータとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。

データ型: MQBYTE × *StringLength*

## C 言語宣言

```
struct tagMQCFBS {
    MQLONG  Type;           /* Structure type */
    MQLONG  StrucLength;   /* Structure length */
    MQLONG  Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG  StringLength;  /* Length of string */
    MQBYTE  String[1];    /* String value -- first character */
} MQCFBS;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFBS structure
10 MQCFBS.
** Structure type
15 MQCFBS-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFBS-STRUCLNGTH  PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFBS-PARAMETER   PIC S9(9) BINARY.
** Length of string
15 MQCFBS-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFBS based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 StringLength  fixed bin(31); /* Length of string */
```

## RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D* ..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFBS Structure
D*
D* Structure type
D  BSTYP          1          4I 0 INZ(9)
D* Structure length
D  BSLEN         5          8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D  BSPRM         9          12I 0 INZ(0)
D* Length of string
D  BSSTL        13          16I 0 INZ(0)
D* String value -- first byte
D  BSSRA        17          17    INZ
```

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFBS          DSECT
MQCFBS_TYPE     DS   F Structure type
```

MQCFBS_STRUCLNGTH	DS	F	Structure length
MQCFBS_PARAMETER	DS	F	Parameter identifier
MQCFBS_STRINGLENGTH	DS	F	Length of string
*			
MQCFBS_LENGTH	EQU	*	MQCFBS
	ORG		MQCFBS
MQCFBS_AREA	DS	CL	(MQCFBS_LENGTH)

## MQCFGR-グループ・パラメーター

このページを使用して、MQCFGR パラメーターの構造、およびプログラミング言語 C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic の宣言を表示します。

MQCFGR 構造は、グループ・パラメーターを記述します。宣言へのリンクの後に、MQCFGR 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

MQCFGR 構造は、後続のパラメーター構造が単一の論理装置としてグループ化されるグループ・パラメーターです。組み込まれる後続の構造の数は、*ParameterCount* で指定されます。この構造と、構造に含まれるパラメーター構造は、PCF ヘッダー (MQCFH) の *ParameterCount* パラメーターおよびグループ・パラメーター (MQCFGR) 内で、1 構造としてのみカウントされます。

### Type

説明: 構造タイプが、このグループに含まれるパラメーターを記述する MQCFGRであることを示します。

データ・タイプ: MQLONG。

値: **MQCFT\_GROUP**  
パラメーターのグループを定義する構造体。

### StrucLength

説明: MQCFGR 構造の長さ (バイト)。

データ・タイプ: MQLONG。

値: **MQCFGR\_STRUC\_LENGTH**  
コマンド・フォーマットのグループ・パラメーター構造の長さ。

### Parameter

説明: これは、グループ・パラメーターのタイプを識別します。

データ・タイプ: MQLONG。

### ParameterCount

説明: *Parameter* フィールドで識別されるグループ内に含まれる MQCFGR 構造の後に続くパラメーター構造の数。グループ自体に 1 つ以上のグループが含まれる場合、各グループとそのパラメーターは、1 構造としてのみカウントされます。

データ・タイプ: MQLONG。

## C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFGR {
    MQLONG Type; /* Structure type */
    MQLONG StrucLength; /* Structure length */
    MQLONG Parameter; /* Parameter identifier */
    MQLONG ParameterCount; /* Count of the grouped parameter structures */
} MQCFGR;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFGR structure
10 MQCFGR.
** Structure type
15 MQCFGR-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFGR-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFGR-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Count of grouped parameter structures
15 MQCFGR-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows のみ)

```
dcl
1 MQCFGR based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 ParameterCount fixed bin(31), /* Count of grouped parameter structures */
```

## RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFGR Structure
D*
D* Structure type
D GRTPY 1 4I INZ(20)
D* Structure length
D GRLEN 5 8I INZ(16)
D* Parameter identifier
D GRPRM 9 12I INZ(0)
D* Count of grouped parameter structures
D GRCNT 13 16I INZ(0)
D*
```

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFGR	DSECT	
MQCFGR_TYPE	DS F	Structure type
MQCFGR_STRUCLength	DS F	Structure length
MQCFGR_PARAMETER	DS F	Parameter identifier
MQCFGR_PARAMETERCOUNT	DS F	Count of grouped parameter structures
MQCFGR_LENGTH	EQU	*-MQCFGR Length of structure
	ORG	MQCFGR
MQCFGR_AREA	DS	CL(MQCFGR_LENGTH)

## Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFGR
```

```
Type As Long           ' Structure type
StrucLength As Long    ' Structure length
Parameter As Long      ' Parameter identifier
ParameterCount As Long ' Count of grouped parameter structures
End Type
```

## MQCFH - PCF ヘッダー

このページを使用して、MQCFH ヘッダーの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFH 構造は、モニター・メッセージのメッセージ・データの開始点に存在する情報について記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFH 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

### Type

説明:                   メッセージの内容を示す構造タイプ。

データ型:                MQLONG

値:                      **MQCFT\_ACCOUNTING**  
                          メッセージはアカウントिंग・メッセージです。

**MQCFT\_EVENT**  
                          メッセージは、イベントのレポートです。

**MQCFT\_REPORT**  
                          メッセージはアクティビティ・レポートです。

**MQCFT\_RESPONSE**  
                          メッセージはコマンドへの応答です。

**MQCFT\_STATISTICS**  
                          メッセージは統計メッセージです。

**MQCFT\_TRACE\_ROUTE**  
                          メッセージは経路トレース・メッセージです。

### StrucLength

説明:                   MQCFH 構造の長さ (バイト) です。

データ型:                MQLONG

値:                      **MQCFH\_STRUC\_LENGTH**  
                          コマンド・フォーマットのヘッダー構造の長さ。

### Version

説明:                   構造体のバージョン番号。

データ型:                MQLONG

値: **MQCFH\_VERSION\_1**  
構成イベントおよびコマンド・イベント以外のすべてのイベントのバージョン番号。

**MQCFH\_VERSION\_2**  
構成イベントのバージョン番号。

**MQCFH\_VERSION\_3**  
コマンド・イベント、アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウント・メッセージ、および統計メッセージのバージョン番号。

### **Command**

説明: メッセージのカテゴリを指定します。

データ型: MQLONG

値: 以下の構造記述内の *Command* の値を参照してください。

- [114 ページの『イベント・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)』](#).
- [アクティビティ・レポート MQCFH \(PCF ヘッダー\)](#)。
- [経路トレース・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)](#)。
- [アカウント・メッセージと統計メッセージのメッセージ・データ](#)。

### **MsgSeqNumber**

説明: メッセージ順序番号 これは、関連メッセージのセット内のメッセージの順序番号です。

データ型: MQLONG

### **Control**

説明: 制御オプション。

データ型: MQLONG

値: **MQCFC\_LAST**  
セット内の最後のメッセージ。

**MQCFC\_NOT\_LAST**  
セット内の最後のメッセージ以外のメッセージ。

### **CompCode**

説明: 完了コード

データ型: MQLONG

値: **MQCC\_OK**  
OK 条件、アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウント・メッセージ、または統計メッセージを報告するイベント。

**MQCC\_WARNING**  
イベントは警告条件をレポートします。

### **Reason**

説明: 完了コードを修飾する理由コード。

データ型: MQLONG

値: イベント・メッセージの場合:

### **MQRC\_\***

レポートされるイベントによって異なります。

**注:** 理由コードが同じイベント同士の識別は、さらに、イベント・データの中の *ReasonQualifier* パラメーターを使用して行われます。

アクティビティ・レポート、経路トレース・メッセージ、アカウンティング・メッセージ、および統計メッセージの場合:

### **MQRC\_NONE**

## **ParameterCount**

説明: パラメーター構造のカウンタ。これは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造の数です。

データ型: MQLONG

値: 0 以上。

## **C 言語宣言**

```
typedef struct tagMQCFH {
    MQLONG   Type;           /* Structure type */
    MQLONG   StructLength;  /* Structure length */
    MQLONG   Version;       /* Structure version number */
    MQLONG   Command;       /* Command identifier */
    MQLONG   MsgSeqNumber;  /* Message sequence number */
    MQLONG   Control;       /* Control options */
    MQLONG   CompCode;      /* Completion code */
    MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying completion code */
    MQLONG   ParameterCount; /* Count of parameter structures */
} MQCFH;
```

## **COBOL 言語宣言**

```
** MQCFH structure
   10 MQCFH.
**   Structure type
   15 MQCFH-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**   Structure length
   15 MQCFH-STRULENGTH  PIC S9(9) BINARY.
**   Structure version number
   15 MQCFH-VERSION     PIC S9(9) BINARY.
**   Command identifier
   15 MQCFH-COMMAND     PIC S9(9) BINARY.
**   Message sequence number
   15 MQCFH-MSGSEQUENCE PIC S9(9) BINARY.
**   Control options
   15 MQCFH-CONTROL     PIC S9(9) BINARY.
**   Completion code
   15 MQCFH-COMPCODE    PIC S9(9) BINARY.
**   Reason code qualifying completion code
   15 MQCFH-REASON      PIC S9(9) BINARY.
**   Count of parameter structures
   15 MQCFH-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

## **PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows)**

```
dcl
  1 MQCFH based,
  3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
  3 StructLength  fixed bin(31), /* Structure length */
  3 Version       fixed bin(31), /* Structure version number */
  3 Command       fixed bin(31), /* Command identifier */
```

```

3 MsgSeqNumber    fixed bin(31), /* Message sequence number */
3 Control          fixed bin(31), /* Control options */
3 CompCode        fixed bin(31), /* Completion code */
3 Reason          fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion
                                code */
3 ParameterCount  fixed bin(31); /* Count of parameter structures */

```

## RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1....:....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFH Structure
D*
D* Structure type
D FHTYP          1      4I 0 INZ(1)
D* Structure length
D FHLEN         5      8I 0 INZ(36)
D* Structure version number
D FHVER         9     12I 0 INZ(1)
D* Command identifier
D FHCMD        13     16I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D FHSEQ        17     20I 0 INZ(1)
D* Control options
D FHCTL        21     24I 0 INZ(1)
D* Completion code
D FHCMP        25     28I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D FHREA        29     32I 0 INZ(0)
D* Count of parameter structures
D FHCNT        33     36I 0 INZ(0)
D*

```

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQCFH           DSECT
MQCFH_TYPE      DS  F      Structure type
MQCFH_STRUCLNGTH DS  F      Structure length
MQCFH_VERSION   DS  F      Structure version number
MQCFH_COMMAND   DS  F      Command identifier
MQCFH_MSGSEQNUMBER DS  F      Message sequence number
MQCFH_CONTROL   DS  F      Control options
MQCFH_COMPCODE  DS  F      Completion code
MQCFH_REASON    DS  F      Reason code qualifying
*               completion code
MQCFH_PARAMETERCOUNT DS  F      Count of parameter
*               structures
MQCFH_LENGTH    EQU *-MQCFH Length of structure
                ORG  MQCFH
MQCFH_AREA      DS  CL(MQCFH_LENGTH)

```

## Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFH
  Type As Long      'Structure type
  StruLength As Long 'Structure length
  Version As Long   'Structure version number
  Command As Long   'Command identifier
  MsgSeqNumber As Long 'Message sequence number
  Control As Long   'Control options
  CompCode As Long  'Completion code
  Reason As Long    'Reason code qualifying completion code
  ParameterCount As Long 'Count of parameter structures
End Type

```

## MQCFIL - 整数リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFIL パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFIL 構造は、整数リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIL 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

### Type

説明:	構造タイプが MQCFIL であり、整数リスト・パラメーターについて記述していることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	<b>MQCFT_INTEGER_LIST</b> 整数リストを定義する構造。

### StrucLength

説明:	構造の末尾 ( <i>values</i> フィールド) にある整数の配列を含む、MQCFIL 構造の長さ (バイト) です。
データ型:	MQLONG

### Parameter

説明:	その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG

### Count

説明:	<i>Values</i> 配列内の要素の数。
データ型:	MQLONG
値:	0 以上。

### Values

説明:	<i>Parameter</i> フィールドで識別されたパラメーターの値の配列。
データ型:	MQLONG× <i>Count</i> .

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390® アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体

に MQCFIL を組み込み、MQCFIL の後に、Values フィールドを表す追加フィールドを必要だけ宣言する必要があります。

## C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIL {
    MQLONG Type; /* Structure type */
    MQLONG StructLength; /* Structure length */
    MQLONG Parameter; /* Parameter identifier */
    MQLONG Count; /* Count of parameter values */
    MQLONG Values[1]; /* Parameter values - first element */
} MQCFIL;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFIL structure
10 MQCFIL.
** Structure type
15 MQCFIL-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIL-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIL-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
15 MQCFIL-COUNT PIC S9(9) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIL based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StructLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Count fixed bin(31); /* Count of parameter values */
```

## RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..
D* MQCFIL Structure
D*
D* Structure type
D ILTYP 1 4I 0
D* Structure length
D ILLEN 5 8I 0
D* Parameter identifier
D ILPRM 9 12I 0
D* Count of parameter valuee
D ILCNT 13 16I 0
```

## S/390 アセンブラー言語宣言

MQCFIL	DSECT	
MQCFIL_TYPE	DS F	Structure type
MQCFIL_STRUCLength	DS F	Structure length
MQCFIL_PARAMETER	DS F	Parameter identifier
MQCFIL_COUNT	DS F	Count of parameter values
MQCFIL_LENGTH	EQU	*-MQCFIL Length of structure
	ORG	MQCFIL
MQCFIL_AREA	DS	CL(MQCFIL_LENGTH)

## Visual Basic 言語宣言

```
Type MQCFIL
  Type As Long           ' Structure type
  StrucLength As Long    ' Structure length
  Parameter As Long      ' Parameter identifier
  Count As Long          ' Count of parameter value
End Type
```

### MQCFIL64 - 64 ビット整数リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFIL64 パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFIL64 構造は、64 ビット整数リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIL64 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

#### Type

説明: 構造が 64 ビット整数リスト・パラメーターを記述する MQCFIL64 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT\_INTEGER64\_LIST**  
64 ビット整数リストを定義する構造。

#### StrucLength

説明: 構造の末尾 (*Values* フィールド) にある整数の配列を含む、MQCFIL64 構造の長さ (バイト)。

データ型: MQLONG

#### Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

#### Count

説明: *Values* 配列内の要素の数。

データ型: MQLONG

値: 0 以上。

#### Values

説明: *Parameter* フィールドで識別されたパラメーターの値の配列。

データ型: (MQINT64×*Count*)

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があります、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するとき、より大きな構造体に MQCFIL64 を組み込み、MQCFIL64 の後に、*Values* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

COBOL の場合、追加フィールドは次のように宣言します。

```
PIC S9(18)
```

PL/I の場合、追加フィールドは精度 63 の FIXED BINARY SIGNED として宣言する必要があります。

System/390 アセンブラーの場合、追加フィールドは DS 宣言に D (ダブルワード) として宣言する必要があります。

## C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN64 {
    MQLONG Type; /* Structure type */
    MQLONG StrucLength; /* Structure length */
    MQLONG Parameter; /* Parameter identifier */
    MQLONG Count; /* Count of parameter values */
    MQINT64 Values[1]; /* Parameter value */
} MQCFIL64;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFIL64 structure
10 MQCFIL64.
** Structure type
15 MQCFIL64-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIL64-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIL64-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
15 MQCFIL64-COUNT PIC S9(9) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIL64 based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Count fixed bin(31) /* Count of parameter values */
```

## RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIL64 Structure
D*
D* Structure type
D IL64TYP 1 4I 0 INZ(25)
D* Structure length
D IL64LEN 5 8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D IL64PRM 9 12I 0 INZ(0)
D* Count of parameter values
D IL64CNT 13 16I 0 INZ(0)
```

```
D* Parameter values -- first element
D IL64VAL          17    16    INZ(0)
```

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFIL64          DSECT
MQCFIL64_TYPE     DS    F      Structure type
MQCFIL64_STRUCLNGTH DS    F      Structure length
MQCFIL64_PARAMETER DS    F      Parameter identifier
MQCFIL64_COUNT    DS    F      Parameter value high
MQCFIL64_LENGTH   EQU    *-MQCFIL64 Length of structure
MQCFIL64_AREA     ORG    MQCFIL64
                  DS     CL(MQCFIL64_LENGTH)
```

## MQCFIN - 整数パラメーター

このページを使用して、MQCFIN パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFIN 構造は、整数パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIN 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

### Type

説明: 構造タイプが、整数パラメーターについて記述する MQCFIN 構造タイプであることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT\_INTEGER**  
整数を定義する構造。

### StrucLength

説明: MQCFIN 構造のバイト単位の長さ。

データ型: MQLONG

値: **MQCFIN\_STRUC\_LENGTH**  
MQCFIN 構造体の長さ。

### Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

### Value

説明: *Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値。

データ型: MQLONG

## C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN {
    MQLONG Type; /* Structure type */
    MQLONG StrucLength; /* Structure length */
    MQLONG Parameter; /* Parameter identifier */
    MQLONG Value; /* Parameter value */
} MQCFIN;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFIN structure
10 MQCFIN.
** Structure type
15 MQCFIN-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFIN-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFIN-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Parameter value
15 MQCFIN-VALUE PIC S9(9) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言

```
dcl
1 MQCFIN based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Value fixed bin(31); /* Parameter value */
```

## RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D* .1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..
D* MQCFIN Structure
D*
D* Structure type
D INTYP 1 4I 0
D* Structure length
D INLEN 5 8I 0
D* Parameter identifier
D INPRM 9 12I 0
D* Parameter value
D INVAL 13 16I 0
```

## S/390 アセンブラー言語宣言

```
MQCFIN DSECT
MQCFIN_TYPE DS F Structure type
MQCFIN_STRUCLength DS F Structure length
MQCFIN_PARAMETER DS F Parameter identifier
MQCFIN_VALUE DS F Parameter value
MQCFIN_LENGTH EQU *-MQCFIN Length of structure
MQCFIN_ORG ORG MQCFIN
MQCFIN_AREA DS CL(MQCFIN_LENGTH)
```

## Visual Basic 言語宣言

```
Type MQCFIN
Type As Long ' Structure type
StrucLength As Long ' Structure length
Parameter As Long ' Parameter identifier
```

Value As Long	' Parameter value
End Type	

## MQCFIN64 - 64 ビット整数パラメーター

このページを使用して、MQCFIN64 パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、および S/390 アセンブラー) 用の宣言を確認します。

MQCFIN64 構造は、64 ビット整数パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFIN64 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)

### Type

説明:	構造が 64 ビット整数パラメーターを記述する MQCFIN64 構造であることを示します。
データ型:	MQLONG
値:	<b>MQCFT_INTEGER64</b> 64 ビット整数を定義する構造。

### StrucLength

説明:	MQCFIN64 構造の長さ (バイト)。
データ型:	MQLONG
値:	<b>MQCFIN64_STRUC_LENGTH</b> 64 ビット整数パラメーター構造の長さ。

### Parameter

説明:	その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。
データ型:	MQLONG

### Values

説明:	これは、 <i>Parameter</i> フィールドによって識別されたパラメーターの値です。
データ型:	(MQINT64)

## C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN64 {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;     /* Parameter identifier */
    MQLONG    Reserved;      /* Reserved */
    MQINT64   Value;         /* Parameter value */
} MQCFIN64;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFIN64 structure
   10 MQCFIN64.
**   Structure type
   15 MQCFIN64-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**   Structure length
   15 MQCFIN64-STRUCLNGTH  PIC S9(9) BINARY.
**   Parameter identifier
   15 MQCFIN64-PARAMETER   PIC S9(9) BINARY.
**   Reserved
   15 MQCFIN64-RESERVED    PIC S9(9) BINARY.
**   Parameter value
   15 MQCFIN64-VALUE       PIC S9(18) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言

```
dcl
  1 MQCFIN64 based,
  3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
  3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
  3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
  3 Reserved      fixed bin(31) /* Reserved */
  3 Value         fixed bin(63); /* Parameter value */
```

## RPG/ILE 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFIN64 Structure
D*
D* Structure type
D IN64TYP          1      4I 0 INZ(23)
D* Structure length
D IN64LEN          5      8I 0 INZ(24)
D* Parameter identifier
D IN64PRM          9      12I 0 INZ(0)
D* Reserved field
D IN64RSV          13     16I 0 INZ(0)
D* Parameter value
D IN64VAL          17     16     INZ(0)
```

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```
MQCFIN64          DSECT
MQCFIN64_TYPE     DS    F      Structure type
MQCFIN64_STRUCLNGTH DS    F      Structure length
MQCFIN64_PARAMETER DS    F      Parameter identifier
MQCFIN64_RESERVED DS    F      Reserved
MQCFIN64_VALUE    DS    D      Parameter value
MQCFIN64_LENGTH   EQU    *-MQCFIN64 Length of structure
MQCFIN64_AREA     DS    CL(MQCFIN64_LENGTH)
```

## MQCFSL - スtring・リスト・パラメーター

このページを使用して、MQCFSL パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFSL 構造は、String・リスト・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFSL 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)

- System/390 アセンブラー言語 (z/OS のみ)
- Visual Basic 言語 (Windows のみ)

### **Type**

説明: このフィールドは、構造が文字列・リスト・パラメーターについて記述する MQCFSL 構造であることを示します。

データ型: MQLONG

値: **MQCFT\_STRING\_LIST**  
文字列・リストを定義する構造。

### **StrucLength**

説明: 構造の末尾 (*Strings* フィールド) にある文字列の配列を含む、MQCFSL 構造の長さ (バイト) です。

データ型: MQLONG

### **Parameter**

説明: これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

### **CodedCharSetId**

説明: これは、*Strings* フィールドのデータのコード化文字セット ID を指定します。

データ型: MQLONG

### **Count**

説明: *Strings* フィールドにある文字列の数で、値は 0 以上です。

データ型: MQLONG

### **StringLength**

説明: これは、1つのパラメーター値のバイト単位の長さです。つまり、*Strings* フィールドの 1文字列の長さです。文字列のすべてがこの長さです。

データ型: MQLONG

### **String**

説明: これは、*Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの文字列値のセットです。文字列の数は *Count* フィールドで示され、各文字列の長さは *StringLength* フィールドで示されます。複数の文字列が連結され、隣接する文字列相互間で1バイトもスキップされません。文字列の合計長は、1つの文字列の長さに、存在する文字列の数を乗算した値です (つまり *StringLength* × *Count* です)。

MQFMT\_EVENT メッセージでは、文字列・パラメーターから末尾空白を省略できます (つまり、定義されているパラメーターの長さより短い文字列になる場合があります)。 *StringLength* は、メッセージ内に実際に存在する文字列の長さを示します。

注: MQCFSL 構造では、文字列内のヌル文字は通常のデータとして扱われ、文字列の区切り文字としては機能しません。つまり、受信側アプリケーションが MQFMT\_EVENT メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信します。したがって、データは (例えば、受信側アプリケーションが MQGET 呼び出し時に、MQGMO\_CONVERT オプションを指定することにより) 文字セット間で変換されている場合があります。

データ型: MQCHAR × *StringLength* × *Count*

## COBOL 言語宣言

```
** MQCFSL structure
 10 MQCFSL.
** Structure type
 15 MQCFSL-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
 15 MQCFSL-STRUCLNGTH   PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
 15 MQCFSL-PARAMETER    PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
 15 MQCFSL-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Count of parameter values
 15 MQCFSL-COUNT        PIC S9(9) BINARY.
** Length of one string
 15 MQCFSL-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

## PL/I 言語宣言

```
dcl
 1 MQCFSL based,
 3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
 3 StrucLength   fixed bin(31), /* Structure length */
 3 Parameter     fixed bin(31), /* Parameter identifier */
 3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
 3 Count         fixed bin(31), /* Count of parameter values */
 3 StringLength  fixed bin(31); /* Length of one string */
```

## RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```
D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFSL Structure
D*
D* Structure type
D SLTYP          1      4I 0
D* Structure length
D SLLEN         5      8I 0
D* Parameter identifier
D SLPRM         9     12I 0
D* Coded character set identifier
D SLCSI        13     16I 0
D* Count of parameter values
```

D	SLCNT	17	20I 0
D*	Length of one string		
D	SLSTL	21	24I 0

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFSL	DSECT		
MQCFSL_TYPE	DS	F	Structure type
MQCFSL_STRUCLength	DS	F	Structure length
MQCFSL_PARAMETER	DS	F	Parameter identifier
MQCFSL_CODEDCHARSETID	DS	F	Coded character set identifier
MQCFSL_COUNT	DS	F	Count of parameter values
MQCFSL_STRINGLENGTH	DS	F	Length of one string
*			
MQCFSL_LENGTH	EQU	*	MQCFSL
	ORG		MQCFSL
MQCFSL_AREA	DS		CL(MQCFSL_LENGTH)

## Visual Basic 言語宣言 (Windows システムのみ)

```
Type MQCFSL
  Type           As Long 'Structure type'
  StructLength   As Long 'Structure length'
  Parameter       As Long 'Parameter identifier'
  CodedCharSetId As Long 'Coded character set identifier'
  Count          As Long 'Count of parameter values'
  StringLength   As Long 'Length of one string'
End Type
```

## MQCFST - ストリング・パラメーター

このページを使用して、MQCFST パラメーターの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQCFST 構造は、ストリング・パラメーターを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQCFST 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [System/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

MQCFST 構造は、可変長文字ストリングで終了します。詳細については、*String* フィールドの説明を参照してください。

### Type

説明:	構造タイプが、ストリング・パラメーターについて記述する MQCFST 構造タイプであることを示します。
データ型:	MQQLONG
値:	<b>MQCFST_STRING</b> ストリングを定義する構造。

### StructLength

説明:	構造の末尾 ( <i>String</i> フィールド) にあるストリングを含む、MQCFST 構造の長さ (バイト) です。
-----	---

データ型: MQLONG

### Parameter

説明: その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。

データ型: MQLONG

値: イベント・メッセージによって異なります。

### CodedCharSetId

説明: *String* フィールドのデータのコード化文字セット ID。

データ型: MQLONG

### StringLength

説明: *String* フィールド内のデータの長さ (バイト) で、値は 0 以上です。

データ型: MQLONG

### String

説明: *Parameter* フィールドで識別されたパラメーターの値。

MQFMT\_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾空白を省略できます (つまり、定義されているパラメーターの長さより短いストリングになる場合があります)。 *StringLength* は、メッセージ内に実際に存在するストリングの長さを示します。

データ型: MQCHAR×*StringLength*

値: ストリングには、*CodedCharSetId* によって定義した文字セット内にある文字のうち、*Parameter* によって識別されたパラメーターに有効な文字を入れることができます。

言語に関する考慮事項: このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、System/390 アセンブラー、および Visual Basic の各プログラミング言語では、このフィールドは構造体宣言から省略されます。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFST を組み込み、MQCFST の後に *String* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

ストリング内のヌル文字は通常のデータとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。つまり、受信側アプリケーションが MQFMT\_EVENT メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信します。したがって、データは (例えば、受信側アプリケーションが MQGET 呼び出し時に、MQGMO\_CONVERT オプションを指定することにより) 文字セット間で変換されている場合があります。

## C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFST {
    MQLONG  Type;          /* Structure type */
    MQLONG  StrucLength;   /* Structure length */
    MQLONG  Parameter;     /* Parameter identifier */
}
```

```

MQLONG CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
MQLONG StringLength; /* Length of string */
MQCHAR String[1]; /* String value - first
character */
} MQCFST;

```

## COBOL 言語宣言

```

** MQCFST structure
10 MQCFST.
** Structure type
15 MQCFST-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQCFST-STRUCLNGTH PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15 MQCFST-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQCFST-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Length of string
15 MQCFST-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.

```

## PL/I 言語宣言

```

dcl
1 MQCFST based,
3 Type fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 StringLength fixed bin(31); /* Length of string */

```

## RPG/ILE 宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1.....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQCFST Structure
D*
D* Structure type
D STTYP 1 4I 0
D* Structure length
D STLEN 5 8I 0
D* Parameter identifier
D STPRM 9 12I 0
D* Coded character set identifier
D STCSI 13 16I 0
D* Length of string
D STSTL 17 20I 0

```

## S/390 アセンブラー言語宣言

```

MQCFST DSECT
MQCFST_TYPE DS F Structure type
MQCFST_STRUCLNGTH DS F Structure length
MQCFST_PARAMETER DS F Parameter identifier
MQCFST_CODEDCHARSETID DS F Coded character set
* identifier
MQCFST_STRINGLENGTH DS F Length of string
MQCFST_LENGTH EQU *-MQCFST Length of structure
ORG MQCFST
MQCFST_AREA DS CL(MQCFST_LENGTH)

```

## Visual Basic 言語宣言

```

Type MQCFST
Type As Long ' Structure type

```

```

StrucLength As Long      ' Structure length
Parameter As Long       ' Parameter identifier
CodedCharSetId As Long  ' Coded character set identifier
StringLength As Long    ' Length of string
End Type

```

## MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー

このページを使用して、MQEPH ヘッダーの構造、および各プログラミング言語 (C、COBOL、PL/I、RPG/ILE、S/390 アセンブラー、および Visual Basic) 用の宣言を確認します。

MQEPH 構造体は、メッセージがプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) メッセージである場合に、そのメッセージ内の追加データを記述します。以下の各宣言のリンク先に、MQEPH 構造を構成するフィールドの説明があります。

- [C 言語](#)
- [COBOL 言語](#)
- [PL/I 言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [RPG/ILE 言語 \(IBM i のみ\)](#)
- [S/390 アセンブラー言語 \(z/OS のみ\)](#)
- [Visual Basic 言語 \(Windows のみ\)](#)

追加データは、MQEPH 構造と、その後続く PCF パラメーター構造の配列からなります。MQEPH 構造をメッセージに組み込むには、メッセージ記述子内の *Format* パラメーターを MQFMT\_EMBEDDED に設定します。

### StrucId

説明: 構造体 ID  
 データ型: MQCHAR4.  
 値: **MQEPH\_STRUC\_ID**  
 配布ヘッダー構造の ID。

### Version

説明: 構造体のバージョン番号。  
 データ型: MQLONG  
 値: **MQEPH\_VERSION\_1**  
 組み込み PCF ヘッダー構造のバージョン番号。

### StrucLength

説明: 構造の長さ。これは MQEPH 構造の長さ (バイト) で、次のヘッダー構造に先行するデータ量を設定します。  
 データ型: MQLONG

### Encoding

説明: 数値エンコード。最後の PCF パラメーター構造に続くデータの数値エンコードを指定します。  
 データ型: MQLONG

### CodedCharSetId

説明: コード化文字セット ID。最後の PCF パラメーター構造に続くデータのコード化文字セット ID を指定します。

データ型: MQLONG

### Format

説明: 形式。最後の PCF パラメーター構造に続くデータの形式名を指定します。

データ型: MQCHAR8.

### Flags

説明: フラグ。これは予約フィールドです。

データ型: MQLONG

値: **MQEPH\_NONE**  
フラグは指定されていません。

### MQEPH\_CCSID\_EMBEDDED

文字データを含むパラメーターの文字セットが、各構造の CodedCharSetId フィールド内に個々に指定されています。StrucId フィールドと Format フィールドの文字セットは、MQEPH 構造の前にあるヘッダー構造内の CodedCharSetId フィールドで定義されるか、または MQEPH がメッセージの開始点である場合には MQMD 内の CodedCharSetId フィールドで定義されます。

### PCFHeader

説明: コマンド・フォーマット・ヘッダー。

データ型: MQCFH

## C 言語宣言

```
struct tagMQEPH {
    MQCHAR4 StrucId;           /* Structure identifier */
    MQLONG  Version;          /* Structure version number */
    MQLONG  StrucLength;      /* Structure length */
    MQLONG  Encoding;         /* Numeric encoding */
    MQLONG  CodedCharSetId;   /* Coded character set identifier */
    MQCHAR8 Format;           /* Data format */
    MQLONG  Flags;           /* Flags */
    MQCFH   PCFHeader;       /* PCF header */
} MQEPH;
```

## COBOL 言語宣言

```
** MQEPH structure
10 MQEPH.
** Structure identifier
15 MQEPH-STRUCID PIC X(4).
** Structure version number
15 MQEPH-VERSION PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15 MQEPH-STRUCLENGTH PIC S9(9) BINARY.
** Numeric encoding
15 MQEPH-ENCODING PIC S9(9) BINARY.
** Coded character set identifier
15 MQEPH-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
** Data format
15 MQEPH-FORMAT PIC X(8).
** Flags
15 MQEPH-FLAGS PIC S9(9) BINARY.
** PCF header
15 MQEPH-PCFHEADER.
** Structure type
20 MQEPH-PCFHEADER-TYPE PIC S9(9) BINARY.
```

```

**      Structure length
20 MQEPH-PCFHEADER-STRUCLNGTH PIC S9(9) BINARY.
**      Structure version number
20 MQEPH-PCFHEADER-VERSION PIC S9(9) BINARY.
**      Command identifier
20 MQEPH-PCFHEADER-COMMAND PIC S9(9) BINARY.
**      Message sequence number
20 MQEPH-PCFHEADER-MSGSEQNUMBER PIC S9(9) BINARY.
**      Control options
20 MQEPH-PCFHEADER-CONTROL PIC S9(9) BINARY.
**      Completion code
20 MQEPH-PCFHEADER-COMPCODE PIC S9(9) BINARY.
**      Reason code qualifying completion code
20 MQEPH-PCFHEADER-REASON PIC S9(9) BINARY.
**      Count of parameter structures
20 MQEPH-PCFHEADER-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.

```

## PL/I 言語宣言 (z/OS および Windows)

```

dcl
1 MQEPH based,
3 StrucId char(4), /* Structure identifier */
3 Version fixed bin(31), /* Structure version number */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Encoding fixed bin(31), /* Numeric encoding */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 Format char(8), /* Data format */
3 Flags fixed bin(31), /* Flags */
3 PCFHeader, /* PCF header */
5 Type fixed bin(31), /* Structure type */
5 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
5 Version fixed bin(31), /* Structure version number */
5 Command fixed bin(31), /* Command identifier */
5 MsgSeqNumber fixed bin(31), /* Message sequence number */
5 Control fixed bin(31), /* Control options */
5 CompCode fixed bin(31), /* Completion code */
5 Reason fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion
code */
5 ParameterCount fixed bin(31); /* Count of parameter structures */

```

## RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D*..1....:....2.....3.....4.....5.....6.....7..
D* MQEPH Structure
D*
D* Structure identifier
D EPSID 1 4 INZ('EPH ')
D* Structure version number
D EPVER 5 8I 0 INZ(1)
D* Structure length
D EPLEN 9 12I 0 INZ(68)
D* Numeric encoding
D EPENC 13 16I 0 INZ(0)
D* Coded character set identifier
D EPCSI 17 20I 0 INZ(0)
D* Format name
D EPFMT 21 28I 0 INZ(' ')
D* Flags
D EPFLG 29 32I 0 INZ(0)
D* Programmable Command Format Header
D*
D* Structure type
D EP1TYPE 33 36I 0 INZ(0)
D* Structure length
D EP1LEN 37 40I 0 INZ(36)
D* Structure version number
D EP1VER 41 44I 0 INZ(3)
D* Command identifier
D EP1CMD 45 48I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D EP1SEQ 49 52I 0 INZ(1)
D* Control options
D EP1CTL 53 56I 0 INZ(1)
D* Completion code

```

```

D EP1CMP          57      60I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D EP1REA          61      64I 0 INZ(0)
D* Count of parameter structures
D EP1CNT          65      68I 0 INZ(0)

```

## S/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

```

MQEPH              DSECT
MQEPH_STRUCID      DS    CL4      Structure identifier
MQEPH_VERSION      DS    F        Structure version number
MQEPH_STRUCLNGTH   DS    F        Structure length
MQEPH_ENCODING     DS    F        Numeric encoding
MQEPH_CODEDCHARSETID DS    F        Coded character set identifier
MQEPH_FORMAT       DS    CL8      Data format
MQEPH_FLAGS        DS    F        Flags
MQEPH_PCFHEADER    DS    0F       Force fullword alignment
MQEPH_PCFHEADER_TYPE DS    F        Structure type
MQEPH_PCFHEADER_STRUCLNGTH DS    F        Structure length
MQEPH_PCFHEADER_VERSION DS    F        Structure version number
MQEPH_PCFHEADER_COMMAND DS    F        Command identifier
MQEPH_PCFHEADER_MSGSEQNUMBER DS    F        Message sequence number
MQEPH_PCFHEADER_CONTROL DS    F        Control options
MQEPH_PCFHEADER_COMPCODE DS    F        Completion code
MQEPH_PCFHEADER_REASON DS    F        Reason code qualifying completion code
MQEPH_PCFHEADER_PARAMETERCOUNT DS    F        Count of parameter structures
MQEPH_PCFHEADER_LENGTH EQU    *-MQEPH_PCFHEADER
MQEPH_PCFHEADER_ORG   ORG    MQEPH_PCFHEADER
MQEPH_PCFHEADER_AREA DS    CL(MQEPH_PCFHEADER_LENGTH)
*
MQEPH_LENGTH        EQU    *-MQEPH
MQEPH_ORG            ORG    MQEPH
MQEPH_AREA           DS    CL(MQEPH_LENGTH)

```

## Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQEPH
  StrucId As String*4      'Structure identifier
  Version As Long          'Structure version number
  StrucLength As Long      'Structure length
  Encoding As Long        'Numeric encoding
  CodedCharSetId As Long  'Coded characetr set identifier
  Format As String*8       'Format name
  Flags As Long           'Flags
  Reason As Long          'Reason code qualifying completion code
  PCFHeader As MQCFH      'PCF header
End Type

```

## イベント・データのオブジェクト属性

このページを使用して、WebSphere MQ のモニター手法でイベント・メッセージ内に記録された構成イベント・データに組み込めるオブジェクト属性を確認します。 イベント・データの量は、構成イベントが関連付けられるオブジェクトのタイプによって異なります。

- [75 ページの『認証情報の属性』](#)
- [75 ページの『CF 構造の属性』](#)
- [76 ページの『通信情報の属性』](#)
- [78 ページの『チャネルの属性』](#)
- [84 ページの『チャネル認証属性』](#)
- [85 ページの『リスナーの属性』](#)
- [86 ページの『名前リストの属性』](#)
- [87 ページの『プロセスの属性』](#)
- [88 ページの『キューの属性』](#)

- [93 ページの『キュー・マネージャーの属性』](#)
- [103 ページの『ストレージ・クラスの属性』](#)
- [104 ページの『トピック属性』](#)

## 認証情報の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、認証情報属性を組み込むことができます。

### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

### **AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

### **AuthInfoConnName (MQCFST)**

認証情報接続名 (パラメーター ID: MQCA\_AUTH\_INFO\_CONN\_NAME)。

ストリングの最大長は 48 です。

### **AuthInfoDesc (MQCFST)**

認証情報記述 (パラメーター ID: MQCA\_AUTH\_INFO\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_AUTH\_INFO\_DESC\_LENGTH です。

### **AuthInfoType (MQCFIN)**

認証情報タイプ (パラメーター ID: MQIA\_AUTH\_INFO\_TYPE)。

値は MQAIT\_CRL\_LDAP です。

### **LDAPPassword (MQCFST)**

LDAP パスワード (パラメーター ID: MQCA\_LDAP\_PASSWORD)。

ストリングの最大長は MQ\_LDAP\_PASSWORD\_LENGTH です。

### **LDAPUserName (MQCFST)**

LDAP ユーザー名 (パラメーター ID: MQCA\_LDAP\_USER\_NAME)。

ストリングの最大長は 256 です。

## CF 構造の属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、CF 構造属性を組み込むことができます。

### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

### **AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

### **CFLevel (MQCFIN)**

CF レベル (パラメーター ID: MQIA\_CF\_LEVEL)。

### **CFStrucDesc (MQCFST)**

CF 構造記述 (パラメーター ID: MQCA\_CF\_STRUC\_DESC)。

ストリングの最大長は MQCA\_CF\_STRUC\_DESC\_LENGTH です。

### **Recovery (MQCFIN)**

リカバリー (パラメーター ID: MQIA\_CF\_RECOVER)。

## 通信情報の属性

### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

### **AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

### **Bridge (MQCFIN)**

ブリッジ (パラメーター ID: MQIA\_MCAST\_BRIDGE)。

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされるかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

#### **MQMCB\_DISABLED**

ブリッジングは無効です。

#### **MQMCB\_ENABLED**

ブリッジングは有効です。

### **CCSID (MQCFIN)**

コード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA\_CODED\_CHAR\_SET\_ID)。

メッセージ送信で使用される CCSID。

### **CommEvent (MQCFIN)**

通信イベント (パラメーター ID: MQIA\_COMM\_EVENT)。

この COMMINFO オブジェクトを使用して作成されるマルチキャスト・ハンドルに対してイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します。

値は次のいずれかです。

#### **MQEVR\_DISABLED**

イベント・メッセージは生成されません。

#### **MQEVR\_ENABLED**

イベント・メッセージが生成されます。

#### **MQEVR\_EXCEPTION**

メッセージ信頼性が信頼性しきい値を下回ると、イベント・メッセージが生成されます。

### **CommInfoName (MQCFST)**

通信情報名 (パラメーター ID: MQCA\_COMM\_INFO\_NAME)。

返される情報の対象となる管理通信情報定義の名前。

### **Description (MQCFST)**

説明 (パラメーター ID: MQCA\_COMM\_INFO\_DESC)。

通信情報オブジェクトに関する記述情報を提供するプレーン・テキストのコメント。

### **Encoding (MQCFIN)**

エンコード (パラメーター ID: MQIACF\_ENCODING)。

メッセージ送信のエンコード。

値は次のいずれかです。

#### **MQENC\_AS\_PUBLISHED**

#### **MQENC\_NORMAL**

#### **MQENC\_REVERSED**

**MQENC\_S390**

**MQENC\_TNS**

**GrpAddress (MQCFST)**

グループ・アドレス (パラメーター ID: MQCACH\_GROUP\_ADDRESS)。

グループの IP アドレスまたは DNS 名。

**MonitorInterval (MQCFIN)**

モニターの頻度 (パラメーター ID: MQIA\_MONITOR\_INTERVAL)。

モニター情報の更新およびイベント・メッセージ生成の頻度。

**MulticastHeartbeat (MQCFIN)**

マルチキャスト・ハートビート (パラメーター ID: MQIACH\_MC\_HB\_INTERVAL)。

ハートビート・インターバル (ミリ秒)。

**MulticastPropControl (MQCFIN)**

マルチキャスト・プロパティ制御 (パラメーター ID: MQIACH\_MULTICAST\_PROPERTIES)。

どれだけの MQMD プロパティおよびユーザー・プロパティが、メッセージと共に流れるかを制御します。

値は次のいずれかです。

**MQMCP\_ALL**

すべてのプロパティが送信されます。

**MQMCP\_REPLY**

メッセージへの応答を処理するユーザー・プロパティおよび MQMD フィールドのみ送信されません。

**MQMCP\_USER**

ユーザー・プロパティのみ送信されます。

**MQMCP\_NONE**

プロパティは送信されません。

**MQMCP\_COMPAT**

プロパティは、以前の WebSphere MQ マルチキャスト・クライアントと互換性のある形式で送信されます。

**MsgHistory (MQCFIN)**

メッセージ・ヒストリー (パラメーター ID: MQIACH\_MSG\_HISTORY)。

NACK の場合の再送信を処理するためにシステムで保持されるメッセージ・ヒストリーの量 (キロバイト)。

**NewSubHistory (MQCFIN)**

新しいサブスクライバー・ヒストリー (パラメーター ID: MQIACH\_NEW\_SUBSCRIBER\_HISTORY)。

新しいサブスクライバーが受け取る履歴データの量を制御します。値は次のいずれかです。

**MQNSH\_NONE**

サブスクリプションの時点以降のパブリケーションのみ送信されます。

**MQNSH\_ALL**

認識されている限りのヒストリーが再送されます。

**PortNumber (MQCFIN)**

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH\_PORT)。

送信のポート番号。

**Type (MQCFIN)**

タイプ (パラメーター ID: MQIA\_COMM\_INFO\_TYPE)。

通信情報オブジェクトのタイプ。

## チャンネルの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、チャンネル属性を組み込むことができます。該当するチャンネルのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

### **AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

### **BatchHeartbeat(MQCFIN)**

バッチ・ハートビートに使用される値 (パラメーター ID: MQIACH\_BATCH\_HB)。

値は 0 から 999999 の範囲で指定できます。値 0 は、ハートビートが使用中でないことを示します。

### **BatchInterval(MQCFIN)**

バッチ間隔 (パラメーター ID: MQIACH\_BATCH\_INTERVAL)。

### **BatchSize(MQCFIN)**

バッチ・サイズ (パラメーター ID: MQIACH\_BATCH\_SIZE)。

### **ChannelDesc (MQCFST)**

チャンネル記述 (パラメーター ID: MQCACH\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_CHANNEL\_DESC\_LENGTH です。

### **ChannelMonitoring(MQCFIN)**

チャンネルのモニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA\_MONITORING\_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

#### **MQMON\_OFF**

モニター・データ収集はオフになります。

#### **MQMON\_LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

#### **MQMON\_MEDIUM**

モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

#### **MQMON\_HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

#### **MQMON\_Q\_MGR**

収集されるモニター・データのレベルは、キュー・マネージャー属性 *ChannelMonitoring* に基づきます。

### **ChannelName (MQCFST)**

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH です。

### **ChannelStatistics(MQCFIN)**

チャンネルの統計データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA\_STATISTICS\_CHANNEL)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

#### **MQMON\_OFF**

統計データ収集はオフになります。

#### **MQMON\_LOW**

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

#### **MQMON\_MEDIUM**

統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

**MQMON\_HIGH**

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

**MQMON\_Q\_MGR**

収集される統計データのレベルは、キュー・マネージャー属性 **ChannelStatistics** に基づきます。

**ChannelType(MQCFIN)**

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH\_CHANNEL\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQCHT\_SENDER**

送信側。

**MQCHT\_SERVER**

サーバー。

**MQCHT\_RECEIVER**

受信側。

**MQCHT\_REQUESTER**

要求側。

**MQCHT\_SVRCONN**

サーバー接続 (クライアントが使用)。

**MQCHT\_CLNTCONN**

クライアント接続。

**MQCHT\_CLUSRCVR**

クラスター受信側。

**MQCHT\_CLUSSDR**

クラスター送信側。

**CipherSpec (MQCFST)**

SSL 暗号仕様 (パラメーター ID: MQCACH\_SSL\_CIPHER\_SPEC)。

ストリングの最大長は MQ\_SSL\_CIPHER\_SPEC\_LENGTH です。

**ClusterName (MQCFST)**

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_NAME)。

**ClusterNameList (MQCFST)**

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_NAMELIST)。

**CLWLChannelPriority(MQCFIN)**

クラスター・ワークロード・チャンネル優先度 (パラメーター ID: MQIACH\_CLWL\_CHANNEL\_PRIORITY)。

**CLWLChannelRank(MQCFIN)**

クラスター・ワークロード・チャンネル・ランク (パラメーター ID: MQIACH\_CLWL\_CHANNEL\_RANK)。

**CLWLChannelWeight(MQCFIN)**

クラスター・ワークロード・チャンネル・ウェイト (パラメーター ID: MQIACH\_CLWL\_CHANNEL\_WEIGHT)。

**ConnectionName (MQCFST)**

接続名 (パラメーター ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH です。

**DataConversion(MQCFIN)**

送信側がアプリケーション・データを変換する必要性の有無 (パラメーター ID: MQIACH\_DATA\_CONVERSION)。

値は次のいずれかです。

**MQCDC\_NO\_SENDER\_CONVERSION**

送信側による変換なし。

**MQCDC\_SENDER\_CONVERSION**

送信側による変換。

**DiscInterval(MQCFIN)**

切断間隔 (パラメーター ID: MQIACH\_DISC\_INTERVAL)。

**HeaderCompression (MQCFIL)**

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH\_HDR\_COMPRESSION)。

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

**MQCOMPRESS\_NONE**

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

**MQCOMPRESS\_SYSTEM**

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

**HeartbeatInterval(MQCFIN)**

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH\_HB\_INTERVAL)。

**KeepAliveInterval(MQCFIN)**

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH\_KEEP\_ALIVE\_INTERVAL)。

**LocalAddress (MQCFST)**

チャンネル用のローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH\_LOCAL\_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ\_LOCAL\_ADDRESS\_LENGTH です。

**LongRetryCount(MQCFIN)**

ロング再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH\_LONG\_RETRY)。

**LongRetryInterval(MQCFIN)**

ロング・タイマー (パラメーター ID: MQIACH\_LONG\_TIMER)。

**MaxMsgLength(MQCFIN)**

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH\_MAX\_MSG\_LENGTH)。

**MCAName (MQCFST)**

メッセージ・チャンネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH\_MCA\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_MCA\_NAME\_LENGTH です。

**MCAType(MQCFIN)**

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (パラメーター ID: MQIACH\_MCA\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQMCAT\_PROCESS**

プロセス

**MQMCAT\_THREAD**

スレッド

**MCAUserIdentifier (MQCFST)**

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH\_MCA\_USER\_ID)。

MCA ユーザー ID のストリングの最大長は MQ\_MCA\_USER\_ID\_LENGTH です。

**MessageCompression (MQCFIL)**

チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH\_MSG\_COMPRESSION)。

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

#### **MQCOMPRESS\_NONE**

メッセージ・データ圧縮は実行されません。これはデフォルト値です。

#### **MQCOMPRESS\_RLE**

ラン・レンジス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

#### **MQCOMPRESS\_ZLIBFAST**

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

#### **MQCOMPRESS\_ZLIBHIGH**

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

#### **MQCOMPRESS\_ANY**

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。受信側、要求側、およびサーバー接続チャンネルの場合にのみ有効です。

#### **ModeName (MQCFST)**

モード名 (パラメーター ID: MQCACH\_MODE\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_MODE\_NAME\_LENGTH です。

#### **MsgExit(MQCFSL)**

メッセージ出口名 (パラメーター ID: MQCACH\_MSG\_EXIT\_NAME)。

リスト中の名前のは数は、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。この数は、*MsgUserData* の *Count* と同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超え場合があります。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。

出口名の最大長は MQ\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

#### **MsgRetryCount(MQCFIN)**

メッセージ再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH\_MR\_COUNT)。

失敗メッセージが再試行される回数を指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

#### **MsgRetryExit (MQCFST)**

メッセージ再試行出口名 (パラメーター ID: MQCACH\_MR\_EXIT\_NAME)。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ\_MAX\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

#### **MsgRetryInterval(MQCFIN)**

メッセージ再試行間隔 (パラメーター ID: MQIACH\_MR\_INTERVAL)。

失敗メッセージの再試行を行う最小時間間隔をミリ秒単位で指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

#### **MsgRetryUserData (MQCFST)**

メッセージ再試行出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH\_MR\_EXIT\_USER\_DATA)。

メッセージ再試行出口に渡されるユーザー・データを指定します。

このパラメーターは、受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、および要求側チャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ\_EXIT\_DATA\_LENGTH です。

**MsgUserData(MQCFSL)**

メッセージ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH\_MSG\_EXIT\_USER\_DATA)。

リスト中の名前のは数は、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。この数は、*MsgExit* と同じです。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。

ストリングの最大長は MQ\_EXIT\_DATA\_LENGTH です。

**NetworkPriority(MQCFIN)**

ネットワーク優先度 (パラメーター ID: MQIACH\_NETWORK\_PRIORITY)。

**NonPersistentMsgSpeed(MQCFIN)**

非持続メッセージを送信する速度 (パラメーター ID: MQIACH\_NPM\_SPEED)。

値は次のいずれかです。

**MQNPMS\_NORMAL**

通常速度。

**MQNPMS\_FAST**

高速。

**Password (MQCFST)**

パスワード (パラメーター ID: MQCACH\_PASSWORD)。

ストリングの最大長は MQ\_PASSWORD\_LENGTH です。

**PeerName (MQCFST)**

SSL 対等機能名 (パラメーター ID: MQCACH\_SSL\_PEER\_NAME)。

ストリングの最大長は 256 です。

**PutAuthority(MQCFIN)**

書き込み権限 (パラメーター ID: MQIACH\_PUT\_AUTHORITY)。

値は次のいずれかです。

**MQPA\_DEFAULT**

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

**MQPA\_CONTEXT**

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

**MQPA\_ALTERNATE\_OR\_MCA**

代替または MCA ユーザー ID が使用されます。

**MQPA\_ONLY\_MCA**

MCA ユーザー ID だけが使用されます。

**QMgrName (MQCFST)**

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH です。

**ReceiveExit(MQCFSL)**

受信出口名 (パラメーター ID: MQCACH\_RCV\_EXIT\_NAME)。

リスト中の名前のは数は、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。この数は、*ReceiveUserData* の *Count* と同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超えます。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は MQ\_MAX\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は MQ\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

**ReceiveUserData(MQCFSL)**

受信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH\_RCV\_EXIT\_USER\_DATA)。

リスト中の名前のは、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。この数は、*ReceiveExit* と同じです。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。

ストリングの最大長は MQ\_EXIT\_DATA\_LENGTH です。

#### **SecurityExit (MQCFST)**

セキュリティー出口名 (パラメーター ID: MQCACH\_SEC\_EXIT\_NAME)。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は MQ\_MAX\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は MQ\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

#### **SecurityUserData (MQCFST)**

セキュリティー出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH\_SEC\_EXIT\_USER\_DATA)。

ストリングの最大長は MQ\_EXIT\_DATA\_LENGTH です。

#### **SendExit (MQCFSL)**

送信出口名 (パラメーター ID: MQCACH\_SEND\_EXIT\_NAME)。

リスト中の名前のは、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。この数は、*SendUserData* の *Count* と同じです。これは、チャンネルに指定された出口名を超え場合があります。この場合、余分の名前はブランクになります。最小値は 1 です。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。

クライアント接続チャンネルの場合、出口名の最大長は MQ\_MAX\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。その他すべてのチャンネルの場合、出口名の最大長は MQ\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

#### **SendUserData (MQCFSL)**

送信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH\_SEND\_EXIT\_USER\_DATA)。

リスト中の名前のは、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。この数は、*SendExit* と同じです。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。

ストリングの最大長は MQ\_EXIT\_DATA\_LENGTH です。

#### **SeqNumberWrap (MQCFIN)**

シーケンス・ラップ番号 (パラメーター ID: MQIACH\_SEQUENCE\_NUMBER\_WRAP)。

#### **ShortRetryCount (MQCFIN)**

ショート再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH\_SHORT\_RETRY)。

#### **ShortRetryInterval (MQCFIN)**

ショート・タイマー (パラメーター ID: MQIACH\_SHORT\_TIMER)。

#### **SSLClientAuthentication (MQCFIN)**

SSL クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH\_SSL\_CLIENT\_AUTH)。

値は次のいずれかです。

##### **MQSCA\_REQUIRED**

認証は必須です。

##### **MQSCA\_OPTIONAL**

認証はオプションです。

#### **TpName (MQCFST)**

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH\_TP\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_TP\_NAME\_LENGTH です。

#### **TransportType (MQCFIN)**

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH\_XMIT\_PROTOCOL\_TYPE)。

値は以下のとおりです。

##### **MQXPT\_LU62**

LU 6.2。

**MQXPT\_TCP**

TCP

**MQXPT\_NETBIOS**

NetBIOS.

**MQXPT\_SPX**

SPX。

**UserIdentifier (MQCFST)**

タスク・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH\_USER\_ID)。

ストリングの最大長は MQ\_USER\_ID\_LENGTH です。

**XmitQName (MQCFST)**

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH\_XMIT\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

## チャンネル認証属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、チャンネル認証属性を組み込むことができます。該当するチャンネルのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

**ChannelProfile (MQCFST).**

チャンネル・プロファイル (パラメーター ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME)。

最大長は MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH です。

戻り: 常時。

**ChannelAuthType (MQCFIN).**

チャンネル認証タイプ (パラメーター ID: MQIACF\_CHLAUTH\_TYPE)。

戻り: 常時。

**Warning (MQCFIN).**

警告 (パラメーター ID: MQIACH\_WARNING)。

戻り: 常時。

**connectionNameList (MQCFSL).**

接続名リスト (パラメーター ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME\_LIST)。

エレメントの長さ: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH。

戻り: チャンネル認証タイプが MQAUT\_BLOCKADDR である場合のみ。

**MCAUserIdList (MQCFSL).**

MCA ユーザー ID リスト (パラメーター ID: MQCACH\_MCA\_USER\_ID\_LIST)。

エレメントの長さ: MQ\_MCA\_USER\_ID\_LENGTH

戻り: チャンネル認証タイプが MQAUT\_BLOCKUSER である場合のみ。

**MCAUser (MQCFST).**

MCA ユーザー (パラメーター ID: MQCACH\_MCA\_USER\_ID)。

最大長: MQ\_MCA\_USER\_ID\_LENGTH。

戻り: チャンネル認証タイプがマッピング・タイプ (MQCAUT\_SSLPEERMAP、MQCAUT\_ADDRESSMAP、MQCAUT\_USERMAP または MQCAUT\_QMGRMAP) である場合のみ。

**ConnectionName (MQCFST).**

接続名 (パラメーター ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME)。

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: チャンネル認証タイプがマッピング・タイプ (MQCAUT\_SSLPEERMAP、MQCAUT\_ADDRESSMAP、MQCAUT\_USERMAP または MQCAUT\_QMGRMAP) である場合のみ。

#### **UserSource(MQCFIN).**

ユーザー・ソース (パラメーター ID: MQIACH\_USER\_SOURCE)。

戻り: チャンネル認証タイプがマッピング・タイプ (MQCAUT\_SSLPEERMAP、MQCAUT\_ADDRESSMAP、MQCAUT\_USERMAP または MQCAUT\_QMGRMAP) である場合のみ。

#### **SSLPeerName(MQCFST).**

SSL ピア名 (パラメーター ID: MQCACH\_SSL\_PEER\_NAME)。

最大長: MQ\_SSL\_PEER\_NAME\_LENGTH。

戻り: チャンネル認証タイプが MQCAUT\_SSLPEERMAP である場合のみ。

#### **ClientUserId(MQCFST).**

クライアント・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH\_CLIENT\_USER\_ID)。

最大長: MQ\_MCA\_USER\_ID\_LENGTH。

戻り: チャンネル認証タイプが MQCAUT\_USERMAP である場合のみ。

#### **RemoteQueueManagerName(MQCFST).**

リモート・キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA\_REMOTE\_Q\_MGR\_NAME)。

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH。

戻り: チャンネル認証タイプが MQCAUT\_QMGRMAP である場合のみ。

## **リスナーの属性**

#### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

#### **AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

#### **Adapter(MQCIN)**

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH\_ADAPTER)。

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

#### **Backlog(MQCIN)**

バックログ (パラメーター ID: MQIACH\_BACKLOG)。

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

#### **Commands(MQCIN)**

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH\_COMMAND\_COUNT)。

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

#### **IPAddress (MQCFST)**

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH\_IP\_ADDRESS)。

IPv4 ドット 10 進、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名形式で指定したリスナーの IP アドレス。

#### **ListenerDesc (MQCFST)**

リスナー定義の説明 (パラメーター ID: MQCACH\_LISTENER\_DESC)。

#### **ListenerName (MQCFST)**

リスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACH\_LISTENER\_NAME)。

#### **LocalName (MQCFST)**

NetBIOS ローカル名 (パラメーター ID: MQCACH\_LOCAL\_NAME)。

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

**NetbiosNames (MQCFIN)**

NetBIOS 名 (パラメーター ID: MQIACH\_NAME\_COUNT)。

リスナーでサポートされる名前数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

**Port (MQCFIN)**

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH\_PORT)。

TCP/IP のポート番号。このパラメーターは、TransportType の値が MQXPT\_TCP の場合にのみ有効です。

**Sessions (MQCFIN)**

NetBIOS セッション (パラメーター ID: MQIACH\_SESSION\_COUNT)。

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

**Socket (MQCFIN)**

SPX ソケット番号 (パラメーター ID: MQIACH\_SOCKET)。

listen する SPX ソケットです。このパラメーターは、TransportType の値が MQXPT\_SPX の場合にのみ有効です。

**StartMode (MQCFIN)**

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH\_LISTENER\_CONTROL)。

リスナーの開始および停止の方法を指定します。値は次のいずれかです。

**MQSVC\_CONTROL\_MANUAL**

リスナーは、ユーザー・コマンドにより手動で開始および停止されます。

**MQSVC\_CONTROL\_Q\_MGR**

キュー・マネージャーが開始/停止されると、リスナーが開始/停止されます。

**MQSVC\_CONTROL\_Q\_MGR\_START**

リスナーはキュー・マネージャーが開始すると開始しますが、キュー・マネージャーの停止時には停止しません。

**TPName (MQCFST)**

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH\_TP\_NAME)。

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

**TransportType (MQCFIN)**

伝送プロトコル (パラメーター ID: MQIACH\_XMIT\_PROTOCOL\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQXPT\_TCP**

TCP

**MQXPT\_LU62**

LU 6.2

**MQXPT\_NETBIOS**

NetBIOS

**MQXPT\_SPX**

SPX

**名前リストの属性**

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、名前リスト属性を組み込むことができます。

**AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

**AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

**NameCount(MQCFIN)**

名前リストに入っている名前数 (パラメーター ID: MQIA\_NAME\_COUNT)。

名前リストに入っている名前数。

**NameListDesc (MQCFST)**

名前リスト定義の説明 (パラメーター ID: MQCA\_NAMELIST\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_NAMELIST\_DESC\_LENGTH です。

**NameListName (MQCFST)**

名前リスト定義の名前 (パラメーター ID: MQCA\_NAMELIST\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_NAMELIST\_NAME\_LENGTH です。

**NameListType(MQCFIN)**

名前リストのタイプ (パラメーター ID: MQIA\_NAMELIST\_TYPE)。

**Names(MQCFSL)**

名前リストに入っている名前 (パラメーター ID: MQCA\_NAMES)。

リスト中の名前数は、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。名前の最大長は MQ\_OBJECT\_NAME\_LENGTH です。

## プロセスの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、プロセス属性を組み込むことができます。

**AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

**AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

**ApplId (MQCFST)**

アプリケーション ID (パラメーター ID: MQCA\_APPL\_ID)。

ストリングの最大長は MQ\_PROCESS\_APPL\_ID\_LENGTH です。

**ApplType(MQCFIN)**

アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA\_APPL\_TYPE)。

**EnvData (MQCFST)**

環境データ (パラメーター ID: MQCA\_ENV\_DATA)。

ストリングの最大長は MQ\_PROCESS\_ENV\_DATA\_LENGTH です。

**ProcessDesc (MQCFST)**

プロセス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA\_PROCESS\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_PROCESS\_DESC\_LENGTH です。

**ProcessName (MQCFST)**

プロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA\_PROCESS\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_PROCESS\_NAME\_LENGTH です。

**UserData (MQCFST)**

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCA\_USER\_DATA)。

ストリングの最大長は MQ\_PROCESS\_USER\_DATA\_LENGTH です。

## キューの属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、キュー属性を組み込むことができます。該当するキューのタイプに適用する属性のみがイベント・データに入れます。

### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

### **AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

### **BackoutRequeueName (MQCFST)**

超過バックアウト再キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_BACKOUT\_REQ\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

### **BackoutThreshold (MQCFIN)**

バックアウトしきい値 (パラメーター ID: MQIA\_BACKOUT\_THRESHOLD)。

### **BaseQName (MQCFST)**

別名が解決されるキュー名 (パラメーター ID: MQCA\_BASE\_Q\_NAME)。

ローカル・キュー・マネージャーに対して定義されるキューの名前です。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

### **CFstructure (MQCFST)**

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA\_CF\_STRUC\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_CF\_STRUC\_NAME\_LENGTH です。

### **ClusterName (MQCFST)**

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_NAME)。

### **ClusterNameList (MQCFST)**

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_NAMELIST)。

### **CLWLQueuePriority (MQCFIN)**

キュー優先度 (パラメーター ID: MQIA\_CLWL\_Q\_PRIORITY)。

### **CLWLQueueRank (MQCFIN)**

キュー・ランク (パラメーター ID: MQIA\_CLWL\_Q\_RANK)。

### **CLWLUseQ (MQCFIN)**

ターゲット・キューに、ローカル・インスタンスと、少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスがある場合の、MQPUT の振る舞いを定義します (パラメーター ID: MQIA\_CLWL\_USEQ)。

値は次のいずれかです。

#### **MQCLWL\_USEQ\_ANY**

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

#### **MQCLWL\_USEQ\_LOCAL**

リモート・キューを使用しません。

#### **MQCLWL\_USEQ\_AS\_Q\_MGR**

キュー・マネージャー属性 *CLWLUseQ* から定義を継承します。

### **CreationDate (MQCFST)**

キュー作成日 (パラメーター ID: MQCA\_CREATION\_DATE)。

ストリングの最大長は MQ\_CREATION\_DATE\_LENGTH です。

### **CreationTime (MQCFST)**

作成時刻 (パラメーター ID: MQCA\_CREATION\_TIME)。

文字列の最大長は MQ\_CREATION\_TIME\_LENGTH です。

### **DefBind (MQCFIN)**

デフォルト・バインディング (パラメーター ID: MQIA\_DEF\_BIND)。

値は次のいずれかです。

#### **MQBND\_BIND\_ON\_OPEN**

MQOPEN 呼び出しで固定されたバインディング。

#### **MQBND\_BIND\_NOT\_FIXED**

固定されていないバインディング。

#### **MQBND\_BIND\_ON\_GROUP**

グループ内のメッセージすべてを同じ宛先のインスタンスに割り振る要求をアプリケーションが行えるようになります。

### **DefinitionType (MQCFIN)**

キュー定義タイプ (パラメーター ID: MQIA\_DEFINITION\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQQDT\_PREDEFINED**

事前定義された永続キュー。

#### **MQQDT\_PERMANENT\_DYNAMIC**

動的に定義された永続キュー。

#### **MQQDT\_SHARED\_DYNAMIC**

共有される、動的に定義された永続キュー。

### **DefInputOpenOption (MQCFIN)**

キューを共有できるかどうかを定義するためのデフォルトの入力オープン・オプション (パラメーター ID: MQIA\_DEF\_INPUT\_OPEN\_OPTION)。

値は次のいずれかです。

#### **MQOO\_INPUT\_EXCLUSIVE**

メッセージを読み取るためにキューを排他アクセス・モードでオープンする。

#### **MQOO\_INPUT\_SHARED**

共有アクセスによりメッセージを読み取るためにキューをオープンする。

### **DefPersistence (MQCFIN)**

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA\_DEF\_PERSISTENCE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQPER\_PERSISTENT**

メッセージは持続します。

#### **MQPER\_NOT\_PERSISTENT**

メッセージは持続しません。

### **DefPriority (MQCFIN)**

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA\_DEF\_PRIORITY)。

### **HardenGetBackout (MQCFIN)**

バックアウトを強化するかどうか (パラメーター ID: MQIA\_HARDEN\_GET\_BACKOUT)。

値は次のいずれかです。

#### **MQQA\_BACKOUT\_HARDENED**

バックアウト・カウントが保管される。

#### **MQQA\_BACKOUT\_NOT\_HARDENED**

バックアウト・カウントが保管されない。

### **IndexType (MQCFIN)**

索引タイプ (パラメーター ID: MQIA\_INDEX\_TYPE)。

**InhibitGet (MQCFIN)**

取得操作が許可されるかどうか (パラメーター ID: MQIA\_INHIBIT\_GET)。

値は次のいずれかです。

**MQQA\_GET\_ALLOWED**

取得操作は許可されています。

**MQQA\_GET\_INHIBITED**

取得操作は禁止されています。

**InhibitPut (MQCFIN)**

書き込み操作 (パラメーター ID: MQIA\_INHIBIT\_PUT)。

値は次のいずれかです。

**MQQA\_PUT\_ALLOWED**

書き込み操作が許可されています。

**MQQA\_PUT\_INHIBITED**

書き込み操作は使用禁止です。

**InitiationQName (MQCFST)**

開始キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_INITIATION\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

**MaxMsgLength (MQCFIN)**

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_MSG\_LENGTH)。

**MaxQDepth (MQCFIN)**

キューの最大長 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_Q\_DEPTH)。

**MsgDeliverySequence (MQCFIN)**

優先度が関係するかどうか (パラメーター ID: MQIA\_MSG\_DELIVERY\_SEQUENCE)。

値は次のいずれかです。

**MQMDS\_PRIORITY**

メッセージが優先順位順に戻されます。

**MQMDS\_FIFO**

メッセージは FIFO (先入れ先出し法) の順に戻されます。

**ProcessName (MQCFST)**

キューのプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA\_PROCESS\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_PROCESS\_NAME\_LENGTH です。

**QDepthHiEvent (MQCFIN)**

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA\_Q\_DEPTH\_HIGH\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_ENABLED**

キュー・サイズ上限イベントが有効になります。

**MQEVR\_DISABLED**

キュー・サイズ上限イベントが無効になります。

**QDepthHighLimit (MQCFIN)**

キュー・サイズ上限 (パラメーター ID: MQIA\_Q\_DEPTH\_HIGH\_LIMIT)。

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

**QDepthLoEvent (MQCFIN)**

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します。 (パラメーター ID: MQIA\_Q\_DEPTH\_LOW\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_ENABLED**

キュー・サイズ下限イベントが有効になります。

**MQEVR\_DISABLED**

キュー・サイズ下限イベントが無効になります。

**QDepthLowLimit (MQCFIN)**

キュー・サイズ下限 (パラメーター ID: MQIA\_Q\_DEPTH\_LOW\_LIMIT)。

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

**QDepthMaxEvent (MQCFIN)**

キュー満杯イベントを生成するかどうかを制御します。(パラメーター ID: MQIA\_Q\_DEPTH\_MAX\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_ENABLED**

キュー・サイズ・イベントが有効になります。

**MQEVR\_DISABLED**

キュー・サイズ・イベントが無効になります。

**QDesc (MQCFST)**

キュー記述 (パラメーター ID: MQCA\_Q\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_DESC\_LENGTH です。

**QName (MQCFST)**

キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

**QServiceInterval (MQCFIN)**

キュー・サービス間隔のターゲット (パラメーター ID: MQIA\_Q\_SERVICE\_INTERVAL)。

キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。

**QType (MQCFIN)**

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA\_Q\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQQT\_ALIAS**

別名キュー定義。

**MQQT\_LOCAL**

ローカル・キュー。

**MQQT\_REMOTE**

リモート・キューのローカル定義。

**MQQT\_MODEL**

モデル・キュー定義。

**QueueAccounting (MQCFIN)**

アカウントリング情報を収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA\_ACCOUNTING\_Q)。

値は次のいずれかです。

**MQMON\_ON**

キューについてアカウントリング情報を収集します。

**MQMON\_OFF**

キューについてアカウントリング情報を収集しません。

**MQMON\_Q\_MGR**

このキューのアカウントング情報収集は、キュー・マネージャー属性 *QueueAccounting* に基づきます。

**QueueMonitoring (MQCFIN)**

キューのモニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA\_MONITORING\_Q)。

値は次のいずれかです。

**MQMON\_OFF**

モニター・データ収集はオフになります。

**MQMON\_LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

**MQMON\_MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

**MQMON\_HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

**MQMON\_Q\_MGR**

収集されるモニター・データのレベルは、キュー・マネージャー属性 *QueueMonitoring* に基づきます。

**RemoteQMgrName (MQCFST)**

リモート・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA\_REMOTE\_Q\_MGR\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH です。

**RemoteQName (MQCFST)**

リモート・キュー・マネージャーでローカルに認識されているおりのリモート・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA\_REMOTE\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

**RetentionInterval (MQCFIN)**

保存間隔 (パラメーター ID: MQIA\_RETENTION\_INTERVAL)。

**ServiceIntervalEvent (MQCFIN)**

サービス間隔上限イベントまたはサービス間隔 OK イベントが生成されるかどうかを制御します。

値は次のいずれかです。

**MQQSIE\_NONE**

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

**MQQSIE\_OK**

「サービス・インターバル OK」 イベントが生成されます。

**MQQSIE\_HIGH**

「サービス・インターバル高」 イベントが生成されます。

**Shareability (MQCFIN)**

キューが共有可能かどうか (パラメーター ID: MQIA\_SHAREABILITY)。

値は次のいずれかです。

**MQQA\_SHAREABLE**

キューは共有可能。

**MQQA\_NOT\_SHAREABLE**

キューは共有不可。

**StorageClass (MQCFST)**

ストレージ・クラス名 (パラメーター ID: MQCA\_STORAGE\_CLASS)。

ストリングの最大長は MQ\_STORAGE\_CLASS\_LENGTH です。

### **TriggerControl (MQCFIN)**

トリガー制御 (パラメーター ID: MQIA\_TRIGGER\_CONTROL)。

値は次のいずれかです。

#### **MQTC\_OFF**

トリガー・メッセージは不要。

#### **MQTC\_ON**

トリガー・メッセージは必要。

### **TriggerData (MQCFST)**

トリガー・データ (パラメーター ID: MQCA\_TRIGGER\_DATA)。

ストリングの最大長は MQ\_TRIGGER\_DATA\_LENGTH です。

### **TriggerDepth (MQCFIN)**

トリガーの深さ (パラメーター ID: MQIA\_TRIGGER\_DEPTH)。

### **TriggerMsgPriority (MQCFIN)**

トリガーのしきい値メッセージ優先度 (パラメーター ID: MQIA\_TRIGGER\_MSG\_PRIORITY)。

### **TriggerType (MQCFIN)**

トリガー・タイプ (パラメーター ID: MQIA\_TRIGGER\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQTT\_NONE**

トリガー・メッセージは書き込まれません。

#### **MQTT\_FIRST**

トリガー・メッセージは、キューのサイズが 0 から 1 になったときに書き込まれます。

#### **MQTT EVERY**

トリガー・メッセージは、すべてのメッセージについて書き込まれます。

#### **MQTT\_DEPTH**

トリガー・メッセージは、サイズのしきい値を超えた場合に書き込まれます。

### **Usage (MQCFIN)**

使用法 (パラメーター ID: MQIA\_USAGE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQUS\_NORMAL**

通常使用。

#### **MQUS\_TRANSMISSION**

伝送キュー。

### **XmitQName (MQCFST)**

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_XMIT\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

## **キュー・マネージャーの属性**

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、キュー・マネージャー属性を組み込むことができます。

### **ActivityRecording (MQCFIN)**

アクティビティ・レコーディングが有効か無効かを指定します (パラメーター ID: MQIA\_ACTIVITY\_RECORDING)。

値は次のいずれかです。

#### **MQRECORDING\_MSG**

アクティビティ・レコーディングは有効です。アクティビティ・レポートは、メッセージのメッセージ記述子に指定した応答先キューに送信されます。

**MQRECORDING\_Q**

アクティビティ・レコーディングは有効です。アクティビティ・レポートは、固定された名前のキューに送信されます。

**MQRECORDING\_DISABLED**

アクティビティ・レコーディングは無効です。

**AdoptNewMCACheck (MQCFIN)**

同一名のインバウンド・チャンネルが検出されたときに、既存の受信側 MCA を選択するかどうかを判別するプロシージャー (パラメーター ID: MQIA\_ADOPTNEWMCA\_CHECK)。

値は次のいずれかです。

**MQADOPT\_CHECK\_Q\_MGR\_NAME**

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。キュー・マネージャー名が一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

**MQADOPT\_CHECK\_NET\_ADDR**

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。ネットワーク・アドレスが一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

**MQADOPT\_CHECK\_ALL**

受信側 MCA とインバウンド・チャンネルを比較します。キュー・マネージャー名とネットワーク・アドレスの両方が一致した場合、既存の受信側 MCA がアクティブであれば選択されます。一致しない場合は、既存の受信側 MCA が取り消され、新規 MCA が作成されます。

**MQADOPT\_CHECK\_NONE**

既存の受信側 MCA がアクティブである場合、受信側 MCA は検査なしで選択されます。

**AdoptNewMCAType (MQCFIN)**

*AdoptNewMCACheck* プロシージャーに一致するインバウンド・チャンネルが検出されたときに、受信側オーファン MCA が再始動されるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA\_ADOPTNEWMCA\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQADOPT\_TYPE\_NO**

再始動は行われず、受信側オーファン MCA は選択されません。

**MQADOPT\_TYPE\_ALL**

再始動が行われ、受信側オーファン MCA が選択されます。

**AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

**AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

**AuthorityEvent (MQCFIN)**

許可 (不許可) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_AUTHORITY\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_DISABLED**

イベント報告は無効です。

**BridgeEvent (MQCFIN)**

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIA\_BRIDGE\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_ENABLED**

すべての IMS ブリッジ・イベントが有効です。

**MQEVR\_DISABLED**

すべての IMS ブリッジ・イベントが無効です。

**ChannelAuthenticationRecords (MQCFIN)**

チャンネル認証レコードを使用するかどうか (パラメーター ID: MQIA\_CHLAUTH\_RECORDS) を制御します。

チャンネル認証レコードは、この属性の値に関係なく設定および表示することができます。値には以下のいずれかの値を指定できます。

**MQCHLA\_DISABLED**

チャンネル認証レコードは検査されません。

**MQCHLA\_ENABLED**

チャンネル認証レコードは検査されます。

**ChannelAutoDefExit (MQCFST)**

チャンネル自動定義出口名 (パラメーター ID: MQCA\_CHANNEL\_AUTO\_DEF\_EXIT)。

出口名の最大長は MQ\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

このパラメーターは、MQSeries® バージョン 5.1 以降の製品が使用可能な環境でのみサポートされません。

**ChannelEvent (MQCFIN)**

チャンネル・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIA\_CHANNEL\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_ENABLED**

すべてのチャンネル・イベントが有効です。

**MQEVR\_EXCEPTION**

以下のチャンネル・イベントのみが有効です。

- MQRC\_CHANNEL\_ACTIVATED
- MQRC\_CHANNEL\_CONV\_ERROR
- MQRC\_CHANNEL\_NOT\_ACTIVATED
- MQRC\_CHANNEL\_STOPPED

**MQEVR\_DISABLED**

すべてのチャンネル・イベントが無効です。

**ChannelMonitoring (MQCFIN)**

チャンネルのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA\_MONITORING\_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

**MQMON\_NONE**

モニター・データ収集は、*ChannelMonitoring* チャンネル属性の設定とは無関係に無効になります。

**MQMON\_OFF**

*ChannelMonitoring* チャンネル属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したチャンネルについて、モニター・データ収集はオフになります。

**MQMON\_LOW**

*ChannelMonitoring* チャンネル属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したチャンネルについて、モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

**MQMON\_MEDIUM**

*ChannelMonitoring* チャンネル属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したチャンネルについて、モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

**MQMON\_HIGH**

*ChannelMonitoring* チャンネル属性に MQMON\_Q\_MGR が指定されたチャンネルに対して、モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

**ChinitAdapters (MQCFIN)**

WebSphere MQ 呼び出しの処理に使用するチャンネル・イニシエーター・アダプター・サブタスクの数 (パラメーター ID: MQIA\_CHINIT\_ADAPTERS)。

この値は 0 から 9999 の範囲でなければなりません。

**ChinitDispatchers (MQCFIN)**

チャンネル・イニシエーターに使用するディスパッチャーの数 (パラメーター ID: MQIA\_CHINIT\_DISPATCHERS)。

**ChinitServiceParm (MQCFST)**

この属性は、IBM が使用するために予約されています (パラメーター ID: MQCA\_CHINIT\_SERVICE\_PARM)。

**ChinitTraceAutoStart (MQCFIN)**

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA\_CHINIT\_TRACE\_AUTO\_START)。

値は次のいずれかです。

**MQTRAXSTR\_YES**

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始します。

**MQTRAXSTR\_NO**

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始しません。

**ChinitTraceTableSize (MQCFIN)**

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのメガバイト単位のサイズ (パラメーター ID: MQIA\_CHINIT\_TRACE\_TABLE\_SIZE)。

**ClusterSenderMonitoring (MQCFIN)**

自動定義クラスター送信側チャンネルのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA\_MONITORING\_AUTO\_CLUSSDR)。

値は次のいずれかです。

**MQMON\_Q\_MGR**

モニター・データの収集は、キュー・マネージャー・オブジェクトの *ChannelMonitoring* 属性の設定から継承されます。

**MQMON\_OFF**

モニター・データ収集は無効です。

**MQMON\_LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

**MQMON\_MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

**MQMON\_HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

**ClusterWorkLoadData (MQCFST)**

クラスター・ワークロード出口に渡されるデータ (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_WORKLOAD\_DATA)。

**ClusterWorkLoadExit (MQCFST)**

クラスター・ワークロード出口の名前 (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_WORKLOAD\_EXIT)。

出口名の最大長は MQ\_EXIT\_NAME\_LENGTH です。

**ClusterWorkLoadLength (MQCFIN)**

クラスター・ワークロードの長さ (パラメーター ID: MQIA\_CLUSTER\_WORKLOAD\_LENGTH)。

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージの最大長。

#### **CLWLMRUChannels (MQCFIN)**

クラスター・ワークロード・バランシングに最後に使用されたチャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_CLWL\_MRU\_CHANNELS)。

#### **CLWLUseQ (MQCFIN)**

ターゲット・キューに、ローカル・インスタンスと、少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスがある場合の、MQPUT の振る舞いを定義します (パラメーター ID: MQIA\_CLWL\_USEQ)。

値は次のいずれかです。

##### **MQCLWL\_USEQ\_ANY**

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

##### **MQCLWL\_USEQ\_LOCAL**

リモート・キューを使用しません。

#### **CodedCharSetId (MQCFIN)**

コード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA\_CODED\_CHAR\_SET\_ID)。

#### **CommandEvent (MQCFIN)**

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_COMMAND\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

##### **MQEVR\_DISABLED**

コマンド・イベント生成は無効です。

##### **MQEVR\_ENABLED**

コマンド・イベント生成は有効です。

##### **MQEVR\_NO\_DISPLAY**

MQSC DISPLAY コマンドおよび PCF Inquire コマンド以外のすべてのコマンドについて、コマンド・イベントが生成されます。

#### **CommandInputQName (MQCFST)**

コマンド入力キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_COMMAND\_INPUT\_Q\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

#### **CommandLevel (MQCFIN)**

キュー・マネージャーがサポートするコマンド・レベル (パラメーター ID: MQIA\_COMMAND\_LEVEL)。

#### **ConfigurationEvent (MQCFIN)**

構成イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_CONFIGURATION\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

##### **MQEVR\_DISABLED**

構成イベント生成は無効です。

##### **MQEVR\_ENABLED**

構成イベント生成は有効です。

#### **CPILevel (MQCFIN)**

CPI レベル (パラメーター ID: MQIA\_CPI\_LEVEL)。

#### **DeadLetterQName (MQCFST)**

デッド・レター (未配布メッセージ) キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_DEAD\_LETTER\_Q\_NAME)。

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

#### **DefXmitQName (MQCFST)**

デフォルト伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA\_DEF\_XMIT\_Q\_NAME)。

これは、デフォルト伝送キュー以外の伝送キューを使用するよう指示しない場合、リモート・キュー・マネージャーにメッセージを送送するために使用されるデフォルトの伝送キューの名前です。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

#### **DNSGroup (MQCFST)**

Workload Manager for Dynamic Domain Name Services (DDNS) の使用時に、キュー共用グループのインバウンド伝送を処理する TCP リスナーが結合するグループの名前 (パラメーター ID: MQCA\_DNS\_GROUP)。

この名前の最大長は MQ\_DNS\_GROUP\_NAME\_LENGTH です。

#### **DNSWLM (MQCFIN)**

キュー共用グループのインバウンド伝送を処理する TCP リスナーを Workload Manager (WLM) for Dynamic Domain Name Services に登録するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_DNS\_WLM)。

値は次のいずれかです。

##### **MQDNSWLM\_YES**

Workload Manager for Dynamic Domain Name Services に登録します。

##### **MQDNSWLM\_NO**

Workload Manager for Dynamic Domain Name Services に登録しません。

#### **ExpiryInterval (MQCFIN)**

有効期限間隔 (パラメーター ID: MQIA\_EXPIRY\_INTERVAL)。

#### **GroupUR (MQCFIN)**

XA クライアント・アプリケーションが、GROUP 単位のリカバリー処理を使用したトランザクションを確立できるかどうかを制御します。

値は次のいずれかです。

##### **MQGUR\_DISABLED**

XA クライアント・アプリケーションは、キュー・マネージャー名を使用して接続する必要があります。

##### **MQGUR\_ENABLED**

XA クライアント・アプリケーションは、接続時に QSG 名を指定することにより、リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できます。

#### **IGQPutAuthority (MQCFIN)**

IGQ 書き込み権限 (パラメーター ID: MQIA\_IGQ\_PUT\_AUTHORITY)。

#### **IGQUserId (MQCFST)**

IGQ ユーザー ID (パラメーター ID: MQCA\_IGQ\_USER\_ID)。

ストリングの最大長は MQ\_USER\_ID\_LENGTH です。

#### **InhibitEvent (MQCFIN)**

禁止 (読み取り禁止と書き込み禁止) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_INHIBIT\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

##### **MQEVR\_DISABLED**

イベント報告は無効です。

##### **MQEVR\_ENABLED**

イベント報告は有効です。

#### **IntraGroupQueueing (MQCFIN)**

イントラ・グループ・キューイング (パラメーター ID: MQIA\_INTRA\_GROUP\_QUEUEING)。

#### **IPAddressVersion (MQCFIN)**

使用する IP バージョンを指定します (パラメーター ID: MQIA\_IP\_ADDRESS\_VERSION)。

値は次のいずれかです。

**MQIPADDR\_IPV4**

IPv4 スタックを使用します。

**MQIPADDR\_IPV6**

IPv6 スタックを使用します。

**ListenerTimer (MQCFIN)**

APPC または TCP/IP の障害後にリスナーの再始動を試行する秒単位の時間間隔 (パラメーター ID: MQCA\_LISTENER\_TIMER)。

**LocalEvent (MQCFIN)**

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_LOCAL\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_DISABLED**

イベント報告は無効です。

**MQEVR\_ENABLED**

イベント報告は有効です。

**LU62ARMSuffix (MQCFST)**

このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指定する SYS1.PARMLIB メンバー APPCPMxx の接尾部 (パラメーター ID: MQCA\_LU62\_ARM\_SUFFIX)。

この名前の最大長は MQ\_ARM\_SUFFIX\_LENGTH です。

**LU62Channels (MQCFIN)**

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、LU 6.2 伝送プロトコルを使用する現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_LU62\_CHANNELS)。

**LUGroupName (MQCFST)**

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーで使用される総称 LU 名。この名前は、LUName と同じでなければなりません (パラメーター ID: MQCA\_LU\_GROUP\_NAME)。

この名前の最大長は、MQ\_LU\_NAME\_LENGTH です。

**LUName (MQCFST)**

アウトバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーで使用される LU 名。この名前は、LUGroupName と同じでなければなりません (パラメーター ID: MQCA\_LU\_NAME)。

この名前の最大長は、MQ\_LU\_NAME\_LENGTH です。

**MaxActiveChannels (MQCFIN)**

同時にアクティブにできるチャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_ACTIVE\_CHANNELS)。

**MaxChannels (MQCFIN)**

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_CHANNELS)。

**MaxHandles (MQCFIN)**

ハンドルの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_HANDLES)。

任意の 1 つのジョブが同時にオープンできるハンドルの最大数です。

**MaxMsgLength (MQCFIN)**

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_MSG\_LENGTH)。

**MaxPriority (MQCFIN)**

最大優先度 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_PRIORITY)。

**MaxUncommittedMsgs (MQCFIN)**

作業単位内のコミットされていないメッセージの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_MAX\_UNCOMMITTED\_MSGS)。

具体的には、以下の数を示します。

- 検索可能なメッセージの数
- キューに書き出しできるメッセージの数
- この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

これらは、1つの同期点でのものです。この限界は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには当てはまりません。

#### **OutboundPortMax (MQCFIN)**

アウトバウンド・ポートの最大範囲 (パラメーター ID: MQIA\_OUTBOUND\_PORT\_MAX)。

発信チャネルの結合時に使用されるポート番号の範囲の上限です。

#### **OutboundPortMin (MQCFIN)**

アウトバウンド・ポートの最小範囲 (パラメーター ID: MQIA\_OUTBOUND\_PORT\_MIN)。

発信チャネルの結合時に使用されるポート番号の範囲の下限です。

#### **PerformanceEvent (MQCFIN)**

パフォーマンス関連イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_PERFORMANCE\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

##### **MQEVR\_DISABLED**

イベント報告は無効です。

##### **MQEVR\_ENABLED**

イベント報告は有効です。

#### **Platform (MQCFIN)**

キュー・マネージャーが存在するプラットフォーム (パラメーター ID: MQIA\_PLATFORM)。

#### **QMgrDesc (MQCFST)**

キュー・マネージャー記述 (パラメーター ID: MQCA\_Q\_MGR\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_MGR\_DESC\_LENGTH です。

#### **QMgrIdentifier (MQCFST)**

キュー・マネージャー ID (パラメーター ID: MQCA\_Q\_MGR\_IDENTIFIER)。

キュー・マネージャーの固有 ID。

#### **QMgrName (MQCFST)**

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH です。

#### **QSGName (MQCFST)**

キュー共有グループ名 (パラメーター ID: MQCA\_QSG\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_QSG\_NAME\_LENGTH です。

#### **QueueAccounting (MQCFIN)**

キューのアカウントリング情報を収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA\_ACCOUNTING\_Q)。

値は次のいずれかです。

##### **MQMON\_ON**

キュー・パラメーター *QueueAccounting* に MQMON\_Q\_MGR が指定されたすべてのキューについて、アカウントリング情報を収集します。

##### **MQMON\_OFF**

キュー・パラメーター *QueueAccounting* に MQMON\_Q\_MGR が指定されたすべてのキューについて、アカウントリング情報を収集しません。

##### **MQMON\_NONE**

キューについてアカウントリング情報を収集しません。

### **QueueMonitoring (MQCFIN)**

キューのリアルタイム・モニター・データ収集のレベル (パラメーター ID: MQIA\_MONITORING\_Q)。値は次のいずれかです。

#### **MQMON\_NONE**

モニター・データ収集は、*QueueMonitoring* キュー属性の設定とは無関係に無効になります。

#### **MQMON\_OFF**

*QueueMonitoring* キュー属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したキューについて、モニター・データ収集はオフになります。

#### **MQMON\_LOW**

*QueueMonitoring* キュー属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したキューについて、モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

#### **MQMON\_MEDIUM**

*QueueMonitoring* キュー属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したキューについて、モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

#### **MQMON\_HIGH**

*QueueMonitoring* キュー属性に MQMON\_Q\_MGR を指定したキューについて、モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

### **ReceiveTimeout (MQCFIN)**

*ReceiveTimeoutType* と併用して、TCP/IP チャネルがデータの受信を待機する長さを指定します。これには、非アクティブ状態に戻る前のそのパートナーからのハートビートが含まれます (パラメーター ID: MQIA\_RECEIVE\_TIMEOUT)。

### **ReceiveTimeoutMin (MQCFIN)**

TCP/IP チャネルがデータの受信を待機する最小時間 (秒) を指定します。これには、非アクティブ状態に戻る前のそのパートナーからのハートビートが含まれます (パラメーター ID: MQIA\_RECEIVE\_TIMEOUT\_MIN)。

### **ReceiveTimeoutType (MQCFIN)**

*ReceiveTimeout* と併用して、TCP/IP チャネルがデータの受信を待機する長さを指定します。これには、非アクティブ状態に戻る前のそのパートナーからのハートビートが含まれます (パラメーター ID: MQIA\_RECEIVE\_TIMEOUT\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQRCVTIME\_MULTIPLY**

*ReceiveTimeout* 値は、チャネルが待機する時間を決定するために *HeartbeatInterval* の折衝値に適用される乗数です。これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

#### **MQRCVTIME\_ADD**

*ReceiveTimeout* は、チャネルが待機する時間を決定するために *HeartbeatInterval* の折衝値に加算される値 (秒) です。

#### **MQRCVTIME\_EQUAL**

*ReceiveTimeout* は、チャネルが待機する時間を表す値 (秒) です。

### **RemoteEvent (MQCFIN)**

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_REMOTE\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

#### **MQEVR\_DISABLED**

イベント報告は無効です。

#### **MQEVR\_ENABLED**

イベント報告は有効です。

### **RepositoryName (MQCFST)**

リポジトリ名 (パラメーター ID: MQCA\_REPOSITORY\_NAME)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前。

**RepositoryNameList (MQCFST)**

リポジトリ名リスト (パラメーター ID: MQCA\_REPOSITORY\_NAMELIST)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前のリスト。

**SharedQueueQueueManagerName (MQCFIN)**

キュー共有グループから別のキュー・マネージャーをオブジェクト・キュー・マネージャーとして指定する共有キューにメッセージを入れる方法を指定します (パラメーター ID: MQIA\_SHARED\_Q\_Q\_MGR\_NAME)。

値は次のいずれかです。

**MQSQQM\_USE**

メッセージは、共有キューに入れられる前に、オブジェクト・キュー・マネージャーに送信されます。

**MQSQQM\_IGNORE**

メッセージは、共有キューに直接入れられます。

**SSLCRLNameList (MQCFST)**

SSL CRL 名前リスト (パラメーター ID: MQCA\_SSL\_CRL\_NAMELIST)。

ストリングの最大長は MQ\_NAMELIST\_NAME\_LENGTH です。

**SSLEvent (MQCFIN)**

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIA\_SSL\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_ENABLED**

すべての SSL イベントが有効です。

**MQEVR\_DISABLED**

すべての SSL イベントが無効です。

**SSLKeyRepository (MQCFST)**

SSL キー・リポジトリ (パラメーター ID: MQCA\_SSL\_KEY\_REPOSITORY)。

ストリングの最大長は MQ\_SSL\_KEY\_REPOSITORY\_LENGTH です。

**SSLKeyResetCount (MQCFIN)**

SSL 鍵リセット・カウント (パラメーター ID: MQIA\_SSL\_RESET\_COUNT)。

ストリングの最大長は MQ\_SSL\_KEY\_REPOSITORY\_LENGTH です。

**SSLTasks (MQCFIN)**

SSL タスク (パラメーター ID: MQIA\_SSL\_TASKS)。

**StartStopEvent (MQCFIN)**

開始および停止イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA\_START\_STOP\_EVENT)。

値は次のいずれかです。

**MQEVR\_DISABLED**

イベント報告は無効です。

**MQEVR\_ENABLED**

イベント報告は有効です。

**SyncPoint (MQCFIN)**

同期点の可用性 (パラメーター ID: MQIA\_SYNCPOINT)。

**TCPChannels (MQCFIN)**

サーバー接続チャンネルに接続されたクライアントを含む、TCP/IP 伝送プロトコルを使用する現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA\_TCP\_CHANNELS)。

### **TCPKeepAlive (MQCFIN)**

もう一方のチャンネルにある MCA が使用可能かどうかを、TCP KEEPALIVE 機能を使用して確認するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA\_TCP\_KEEP\_ALIVE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQTCPKEEP\_YES**

TCP プロファイル構成データ・セットでの指定に従って TCP KEEPALIVE 機能を使用します。

#### **MQTCPKEEP\_NO**

TCP KEEPALIVE 機能を使用しません。

### **TCPName (MQCFST)**

TCP 名 (パラメーター ID: MQIA\_TCP\_NAME)。

使用中の現行 TCP/IP システムの名前です。

この値の最大長は MQ\_TCP\_NAME\_LENGTH です。

### **TCPStackType (MQCFIN)**

TCP スタック・タイプ (パラメーター ID: MQIA\_TCP\_STACK\_TYPE)。

チャンネル・イニシエーターが TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースだけを使用するかどうか、または選択した TCP/IP アドレスにバインドするかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

#### **MQTCPSTACK\_SINGLE**

チャンネル・イニシエーターは、TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用します。

#### **MQTCPSTACK\_MULTIPLE**

イニシエーターは、使用可能などの TCP/IP アドレス・スペースも使用できます。他に使用できるアドレス・スペースがない場合は、TCPNAME に指定されたアドレス・スペースが使用されます。

### **TraceRouteRecording (MQCFIN)**

経路トレース・メッセージングが有効か無効かを指定します (パラメーター ID: MQIA\_TRACE\_ROUTE\_RECORDING)。

値は次のいずれかです。

#### **MQRECORDING\_MSG**

経路トレース・メッセージングは有効です。経路トレース応答メッセージは、メッセージのメッセージ記述子で指定された応答先キューに送信されます。

#### **MQRECORDING\_Q**

経路トレース・メッセージングは有効です。経路トレース応答メッセージは、固定された名前のキューに送信されます。

#### **MQRECORDING\_DISABLED**

経路トレース・メッセージングは無効です。

### **TriggerInterval (MQCFIN)**

トリガー間隔 (パラメーター ID: MQIA\_TRIGGER\_INTERVAL)。

TriggerType の値が MQTT\_FIRST であるキューのみに使用される、トリガー時間間隔をミリ秒で指定します。

## **ストレージ・クラスの属性**

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、ストレージ・クラス属性を組み込むことができます。

### **AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

**AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

**PageSetId (MQCFIN)**

ページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA\_PAGESET\_ID)。

**PassTicketApplication (MQCFST)**

IMS ブリッジ・パスチケットの認証に使用されるアプリケーションの名前 (パラメーター ID: MQCA\_PASS\_TICKET\_APPL)。

ストリングの最大長は MQ\_PASS\_TICKET\_APPL\_LENGTH です。

**StgClassDesc (MQCFST)**

ストレージ・クラス記述 (パラメーター ID: MQCA\_STORAGE\_CLASS\_DESC)。

ストリングの最大長は MQ\_STORAGE\_CLASS\_DESC\_LENGTH です。

**XCFGroupName (MQCFST)**

XCF グループ名 (パラメーター ID: MQCA\_XCF\_GROUP\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_XCF\_GROUP\_NAME\_LENGTH です。

**XCFMemberName (MQCFST)**

XCF メンバー名 (パラメーター ID: MQCA\_XCF\_MEMBER\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_XCF\_MEMBER\_NAME\_LENGTH です。

## トピック属性

オブジェクトに関連付けられたイベント・メッセージには、トピック属性を組み込むことができます。

**AlterationDate (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

**AlterationTime (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA\_ALTERATION\_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式) です。

**ClusterName (MQCFST)**

このトピックが属するクラスターの名前 (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_CLUSTER\_NAME\_LENGTH です。

可能な値は次のとおりです。

**ブランク**

このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。

値が指定されていない場合、これがこのパラメーターのデフォルト値です。

**ストリング**

このトピックは示されたクラスターに属します。

また、PublicationScope または SubscriptionScope が MQSCOPE\_ALL に設定されている場合、このクラスターは、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションをパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター接続キュー・マネージャーに伝搬するために使用されます。

**DefPersistence (MQCFIN)**

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA\_TOPIC\_DEF\_PERSISTENCE)。

値は次のいずれかです。

**MQPER\_PERSISTENCE\_AS\_PARENT**

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

**MQPER\_PERSISTENT**

メッセージは持続します。

**MQPER\_NOT\_PERSISTENT**

メッセージは持続しません。

**DefPriority(MQCFIN)**

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA\_DEF\_PRIORITY)。

**DefPutResponse(MQCFIN)**

デフォルト書き込み応答 (パラメーター ID: MQIA\_DEF\_PUT\_RESPONSE\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQPRT\_ASYNC\_RESPONSE**

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

**MQPRT\_RESPONSE\_AS\_PARENT**

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

**MQPRT\_SYNC\_RESPONSE**

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

**DurableModelQName (MQCFST)**

永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA\_MODEL\_DURABLE\_Q)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

**DurableSubscriptions(MQCFIN)**

アプリケーションが永続サブスクリプションの作成を許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA\_DURABLE\_SUB)。

値は次のいずれかです。

**MQSUB\_DURABLE\_AS\_PARENT**

永続サブスクリプションが許可されるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

**MQSUB\_DURABLE**

永続サブスクリプションが許可されています。

**MQSUB\_NON\_DURABLE**

永続サブスクリプションは許可されていません。

**InhibitPublications(MQCFIN)**

このトピックでパブリケーションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA\_INHIBIT\_PUB)。

値は次のいずれかです。

**MQTA\_PUB\_AS\_PARENT**

メッセージをこのトピックでパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

**MQTA\_PUB\_INHIBITED**

このトピックではパブリケーションは禁止されています。

**MQTA\_PUB\_ALLOWED**

このトピックではパブリケーションが許可されています。

**InhibitSubscriptions(MQCFIN)**

このトピックでサブスクリプションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA\_INHIBIT\_SUB)。

値は次のいずれかです。

**MQTA\_SUB\_AS\_PARENT**

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

**MQTA\_SUB\_INHIBITED**

このトピックではサブスクリプションは禁止されています。

**MQTA\_SUB\_ALLOWED**

このトピックではサブスクリプションが許可されています。

**NonDurableModelQName (MQCFST)**

非永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA\_MODEL\_NON\_DURABLE\_Q)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_NAME\_LENGTH です。

**NonPersistentMsgDelivery (MQCFIN)**

このトピックに対してパブリッシュされる非持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA\_NPM\_DELIVERY)。

値は次のいずれかです。

**MQDLV\_AS\_PARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

**MQDLV\_ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

**MQDLV\_ALL\_DUR**

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

**MQDLV\_ALL\_AVAIL**

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

**PersistentMsgDelivery (MQCFIN)**

このトピックに対してパブリッシュされる持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA\_PM\_DELIVERY)。

値は次のいずれかです。

**MQDLV\_AS\_PARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

**MQDLV\_ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

**MQDLV\_ALL\_DUR**

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

**MQDLV\_ALL\_AVAIL**

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

### **ProxySubscriptions(MQCFIN)**

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このトピックのプロキシ・サブスクリプションを直接接続されたキュー・マネージャーに送信するかどうか (パラメーター ID: MQIA\_PROXY\_SUB)。

値は次のいずれかです。

#### **MQTA\_PROXY\_SUB\_FORCE**

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、プロキシ・サブスクリプションは接続されているキュー・マネージャーに送信されます。

#### **MQTA\_PROXY\_SUB\_FIRSTUSE**

ローカル・サブスクリプションが存在するときのみ、このトピックのプロキシ・サブスクリプションが送信されます。

### **PublicationScope(MQCFIN)**

このキュー・マネージャーが、パブリケーションを、階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: MQIA\_PUB\_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQSCOPE\_ALL**

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

#### **MQSCOPE\_AS\_PARENT**

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

値が指定されていない場合、これがこのパラメーターのデフォルト値です。

#### **MQSCOPE\_QMGR**

このトピックのパブリケーションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、書き込みメッセージ・オプションで MQPMO\_SCOPE\_QMGR を使用して、パブリケーションごとに指定変更できます。

### **QMgrName (MQCFST)**

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA\_CLUSTER\_Q\_MGR\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH です。

### **SubscriptionScope(MQCFIN)**

このキュー・マネージャーが、サブスクリプションを、階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: MQIA\_SUB\_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

#### **MQSCOPE\_ALL**

このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

#### **MQSCOPE\_AS\_PARENT**

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

値が指定されていない場合、これがこのパラメーターのデフォルト値です。

#### **MQSCOPE\_QMGR**

このトピックのサブスクリプションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、サブスクリプション記述子で MQSO\_SCOPE\_QMGR を、または DEFINE SUB で SUBSCOPE(QMGR) を使用して、サブスクリプションごとに指定変更できます。

**TopicDesc (MQCFST)**

トピック記述 (パラメーター ID: MQCA\_TOPIC\_DESC)。

最大長は MQ\_TOPIC\_DESC\_LENGTH です。

**TopicName (MQCFST)**

トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCA\_TOPIC\_NAME)。

ストリングの最大長は MQ\_TOPIC\_NAME\_LENGTH です。

**TopicString (MQCFST)**

トピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA\_TOPIC\_STRING)。

このストリング内の「/」文字には、特別な意味があります。これは、トピック・ツリー内の要素を区切るために使用されます。トピック・ストリングの先頭は「/」文字にできますが、必須ではありません。「/」文字で始まるストリングは、「/」文字なしで始まるストリングとは異なります。トピック・ストリングの末尾に「/」文字を使用することはできません。

ストリングの最大長は MQ\_TOPIC\_STR\_LENGTH です。

**TopicType (MQCFIN)**

このオブジェクトがローカルまたはクラスター・トピックであるかどうか (パラメーター ID: MQIA\_TOPIC\_TYPE)。

値は次のいずれかです。

**MQTOPT\_LOCAL**

このオブジェクトはローカル・トピックです。

**MQTOPT\_CLUSTER**

このオブジェクトはクラスター・トピックです。

**WildcardOperation (MQCFIN)**

このトピックに対するワイルドカードを含むサブスクリプションの動作 (パラメーター ID: MQIA\_WILDCARD\_OPERATION)。

値は次のいずれかです。

**MQTA\_PASSTHRU**

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取ります。これは、WebSphere MQ で提供されているデフォルトです。

**MQTA\_BLOCK**

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取りません。

## イベント・メッセージ参照

このページでは、イベント・メッセージの形式に関する情報の概要を説明します。

観測イベントごとに、イベント・メッセージのメッセージ記述子部分とメッセージ・データ部分の両方の情報が返されます。

**関連概念**

[116 ページの『イベント・メッセージ記述』](#)

イベント・メッセージ・データには、生成されたイベントに特有の情報が含まれています。このデータは、キュー・マネージャーの名前やキューの名前 (該当する場合) などです。

**観測イベント****関連資料**

[109 ページの『イベント・メッセージの形式』](#)

イベント・メッセージは、メッセージ記述子とメッセージ・データを含む標準 WebSphere MQ メッセージです。

**110 ページの『イベント・メッセージ MQMD (メッセージ記述子)』**

イベント・メッセージのメッセージ記述子には、メッセージ・タイプやメッセージ形式、およびメッセージがイベント・キューに書き込まれた日時など、システム・モニター・アプリケーションが使用できる情報が含まれています。

**114 ページの『イベント・メッセージ MQCFH (PCF ヘッダー)』**

イベント・メッセージのメッセージ・データの形式は、PCF コマンドの照会と応答に使用される プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) です。メッセージ・データは、イベント・ヘッダーとイベント・データの 2 つの部分で構成されます。

**イベント・メッセージの形式**

イベント・メッセージは、メッセージ記述子とメッセージ・データを含む標準 WebSphere MQ メッセージです。

109 ページの表 2 では、イベント・メッセージの基本的構造を示し、イベント・データ列に、キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージにあるフィールドの名前を示します。

表 2. キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージの構造		
メッセージ記述子	メッセージ・データ	
MQMD 構造	PCF ヘッダー MQCFH 構造	イベント・データ <sup>1</sup>
構造体 ID 構造バージョン レポート・オプション メッセージ・タイプ 満了時刻 フィールドバック・コード Encoding コード化文字セット ID メッセージ形式 メッセージ優先順位 Persistence メッセージ ID 相関 ID バックアウト・カウント 応答先キュー 応答先キュー・マネージャー ユーザー ID アカウンティング・トークン アプリケーション識別データ アプリケーション・タイプ アプリケーション名 書き込み日付 書き込み時刻 発生元アプリケーション・データ グループ ID メッセージ順序番号 オフセット メッセージ・フラグ 元の長さ	構造タイプ 構造の長さ 構造バージョン コマンド ID メッセージ順序番号 制御オプション 完了コード 理由コード パラメーター数	キュー・マネージャー名 キュー名 前回のリセットからの時間の最大数 キュー上のメッセージ メッセージの数 キューに書き込む メッセージの数 キューから取り出された メッセージ数

表 2. キュー・サービス間隔イベントのイベント・メッセージの構造 (続き)

メッセージ記述子	メッセージ・データ	
MQMD 構造	PCF ヘッダー MQCFH 構造	イベント・データ <sup>1</sup>
注:		
1. 示されるパラメーターは、キュー・サービス間隔イベントで戻るパラメーターです。実際のイベント・データは、個々のイベントによって異なります。		

一般に、作成するシステム管理プログラムにとって必要なのは、この情報の一部のみです。例えば、アプリケーションにとって次のデータが必要な場合があります。

- イベントを引き起こしているアプリケーションの名前
- イベントが起きたキュー・マネージャーの名前
- イベントが生成されたキュー
- イベント統計

## イベント・メッセージ MQMD (メッセージ記述子)

イベント・メッセージのメッセージ記述子には、メッセージ・タイプやメッセージ形式、およびメッセージがイベント・キューに書き込まれた日時など、システム・モニター・アプリケーションが使用できる情報が含まれています。

メッセージ・タイプは MQMT\_DATAGRAM であり、メッセージの形式は MQFMT\_EVENT であることが、記述子内の情報によってシステム管理アプリケーションに通知されます。

イベント・メッセージのフィールドの多くには、固定データが設定されています。このデータは、そのメッセージを生成したキュー・マネージャーが提供します。MQMD 構造はまた、メッセージを書き込んだキュー・マネージャーの名前 (28 文字に切り捨てられます) を指定します。

1 つのイベント・メッセージについて、MQMD 構造には次の値があります。

### StrucId

説明:	構造体 ID
データ型:	MQCHAR4.
値:	MQMD_STRUC_ID

### Version

説明:	構造体のバージョン番号。
データ型:	MQLONG
値:	<p><b>MQMD_VERSION_1</b> Version-1 メッセージ記述子構造。すべての環境でサポートされます。</p> <p><b>MQMD_VERSION_2</b> Version-2 のメッセージ記述子構造体。AIX、HP-UX、z/OS、IBM i、Solaris、Linux、Windows、およびこれらのシステムに接続されているすべての WebSphere MQ MQI クライアントでサポートされます。</p>

### Report

説明:	レポート・メッセージのオプション。
データ型:	MQLONG

値: **MQRO\_NONE**  
レポートは必要ありません。

### **MsgType**

説明: メッセージのタイプを示します。

データ型: MQLONG

値: MQMT\_DATAGRAM

### **Expiry**

説明: メッセージ存続期間。

データ型: MQLONG

値: **MQEI\_UNLIMITED**  
メッセージには有効期間がありません。

### **Feedback**

説明: フィードバックまたは理由コード。

データ型: MQLONG

値: MQFB\_NONE

### **Encoding**

説明: メッセージ・データの数値エンコード。

データ型: MQLONG

値: MQENC\_NATIVE

### **CodedCharSetId**

説明: イベント・メッセージ・データの文字セット ID。

データ型: MQLONG

値: イベントを生成するキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID)。

### **Format**

説明: メッセージ・データの形式名。

データ型: MQCHAR8.

値: **MQFMT\_EVENT**  
イベント・メッセージ。

### **Priority**

説明: メッセージの優先度。

データ型: MQLONG

値: **MQPRI\_PRIORITY\_AS\_Q\_DEF**  
優先度はイベント・キューの優先度です。

### **Persistence**

説明: メッセージの持続性。

データ型: MQLONG  
値: **MQPER\_PERSISTENCE\_AS\_Q\_DEF**  
優先度はイベント・キューの優先度です。

### **MsgId**

説明: メッセージ ID。  
データ型: MQBYTE24.  
値: キュー・マネージャーによって生成される固有値。

### **CorrelId**

説明: 相関 ID。  
データ型: MQBYTE24.  
値: パフォーマンス、キュー・マネージャー、ロガー、チャンネル、ブリッジ、および SSL の各イベントの場合:

#### **MQCI\_NONE**

相関 ID は指定されません。これはプライベート・キュー専用です。

共有キュー上のイベントの場合、ゼロ以外の相関 ID が設定されます。このパラメーターは、さまざまなキュー・マネージャーからの複数のイベント・メッセージを追跡できるように設定されます。文字は次のように指定されます。

- 1 から 4 製品 ID ('CSQ')
- 5 から 8 キュー共有グループ名
- 9 キュー・マネージャー ID
- 10 から 17 タイム・スタンプ
- 18 から 24 NULL

構成イベントおよびコマンド・イベントの場合:

#### **固有なゼロ以外の相関 ID**

同じイベントに関連するメッセージはすべて、同じ CorrelId を持っています。

### **BackoutCount**

説明: バックアウトのカウンター。  
データ型: MQLONG  
値: 0.

### **ReplyToQ**

説明: 応答キューの名前。  
データ型: MQCHAR48.  
値: ブランク。

### **ReplyToQMgr**

説明: 応答キュー・マネージャーの名前。  
データ型: MQCHAR48.  
値: 発生元のシステムのキュー・マネージャー名。

### **UserIdentifier**

説明: メッセージ発生元のアプリケーションを識別します。  
データ型: MQCHAR12.  
値: ブランク。

### **AccountingToken**

説明: メッセージの結果として行われる作業についてアプリケーションによる課金を可能にするためのアカウントिंग・トークン。  
データ型: MQBYTE32.  
値: MQACT\_NONE

### **ApplIdentityData**

説明: IDに関連するアプリケーション・データ。  
データ型: MQCHAR32.  
値: ブランク。

### **PutApplType**

説明: メッセージを書き込むアプリケーションのタイプ。  
データ型: MQLONG  
値: **MQAT\_QMGR**  
キュー・マネージャーによって生成されたメッセージ。

### **PutApplName**

説明: メッセージを書き込むアプリケーションの名前。  
データ型: MQCHAR28.  
値: 発生元のシステムのキュー・マネージャー名。

### **PutDate**

説明: メッセージが書き込まれた日付。  
データ型: MQCHAR8.  
値: キュー・マネージャーによって生成された時点。

### **PutTime**

説明: メッセージが書き込まれた時間。  
データ型: MQCHAR8.  
値: キュー・マネージャーによって生成された時点。

### **ApplOriginData**

説明: 発生元に関するアプリケーション・データ。  
データ型: MQCHAR4.  
値: ブランク。

注: *Version* が MQMD\_VERSION\_2 である場合は、次の追加フィールドがあります。

### **GroupId**

説明:	物理メッセージが属するメッセージ・グループ、または論理メッセージを識別します。
データ型:	MQBYTE24.
値:	<b>MQGI_NONE</b> グループ ID は指定されません。

### **MsgSeqNumber**

説明:	グループ中の論理メッセージの順序番号。
データ型:	MQLONG
値:	1.

### **Offset**

説明:	論理メッセージの先頭を起点とする、物理メッセージ中のデータのオフセット。
データ型:	MQLONG
値:	0.

### **MsgFlags**

説明:	メッセージの属性を指定したり、その処理を制御したりするメッセージ・フラグ。
データ型:	MQLONG
値:	MQMF_NONE

### **OriginalLength**

説明:	元のメッセージの長さ。
データ型:	MQLONG
値:	MQOL_UNDEFINED

## **イベント・メッセージ MQCFH (PCF ヘッダー)**

イベント・メッセージのメッセージ・データの形式は、PCF コマンドの照会と応答に使用される プログラムブル・コマンド・フォーマット (PCF) です。メッセージ・データは、イベント・ヘッダーとイベント・データの 2 つの部分で構成されます。

MQCFH ヘッダーでは、以下の情報を指定します。

- イベントのカテゴリ: イベントはキュー・マネージャー・イベント、パフォーマンス・イベント、チャンネル・イベント、構成イベント、コマンド・イベント、またはロガー・イベントのいずれかです。
- イベントの原因を示す理由コード。MQI 呼び出しで引き起こされたイベントの場合、この理由コードは、MQI 呼び出しの理由コードと同様です。

理由コードには、文字 MQRC\_ で始まる名前があります。例えば、理由コード MQRC\_PUT\_INHIBITED が生成されるのは、アプリケーションが書き込み用に使用可能になっていないキューにメッセージを書き込もうとしたときです。

イベントの場合、MQCFH 構造には以下の値が含まれます。

### **Type**

説明:	メッセージの内容を識別する構造タイプ。
-----	---------------------

データ型: MQLONG  
値: **MQCFT\_EVENT**  
メッセージは、イベントのレポートです。

### **StrucLength**

説明: 構造の長さ。  
データ型: MQLONG  
値: **MQCFH\_STRUC\_LENGTH**  
MQCFH 構造のバイト単位の長さ。

### **Version**

説明: 構造体のバージョン番号。  
データ型: MQLONG  
値: **MQCFH\_VERSION\_1**  
Version-1 (構成イベントとコマンド・イベントを除くすべてのイベント)。  
**MQCFH\_VERSION\_2**  
Version-2 (構成イベントの場合)。  
**MQCFH\_VERSION\_3**  
Version-3 (コマンド・イベントの場合)。

### **Command**

説明: コマンド ID。これはイベントのカテゴリを識別します。  
データ型: MQLONG  
値: **MQCMD\_Q\_MGR\_EVENT**  
キュー・マネージャー・イベント。  
**MQCMD\_PERFM\_EVENT**  
パフォーマンス・イベント。  
**MQCMD\_CHANNEL\_EVENT**  
チャンネル・イベント。  
**MQCMD\_CONFIG\_EVENT**  
構成イベント  
**MQCMD\_COMMAND\_EVENT**  
コマンド・イベント。  
**MQCMD\_LOGGER\_EVENT**  
ロガー・イベント。

### **MsgSeqNumber**

説明: メッセージ順序番号 関連メッセージのグループ内のメッセージの順序番号です。  
データ型: MQLONG

- 値: **1**  
変更前の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合、および他のすべてのタイプのイベントの場合。
- 2**  
変更後の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合。

### **Control**

- 説明: 制御オプション。
- データ型: MQLONG
- 値: **MQCFC\_LAST**  
変更後の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合、および他のすべてのタイプのイベントの場合。
- MQCFC\_NOT\_LAST**  
変更以前の属性値を持つオブジェクトの変更の構成イベントの場合のみ。

### **CompCode**

- 説明: 完了コード
- データ型: MQLONG
- 値: **MQCC\_OK**  
イベントは OK 条件をレポートします。
- MQCC\_WARNING**  
イベントは警告条件をレポートします。特に指定しない限り、すべてのイベントはこの完了コードを持ちます。

### **Reason**

- 説明: 完了コードを修飾する理由コード。
- データ型: MQLONG
- 値: MQRC\_\* レポートされるイベントによって異なります。  
注: 理由コードが同じイベント同士の識別は、さらに、イベント・データの中の *ReasonQualifier* パラメーターを使用して行われます。

### **ParameterCount**

- 説明: パラメーター構造のカウンタ。これは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造の数です。グループ構造 (MQCFGR) とそれに含まれるパラメーター構造は、1 つの構造としてカウンタされます。
- データ型: MQLONG
- 値: 0 以上。

## **イベント・メッセージ記述**

イベント・メッセージ・データには、生成されたイベントに特有の情報が含まれています。このデータは、キュー・マネージャーの名前やキューの名前 (該当する場合) などです。

戻されるデータ構造は、どのイベントが生成されたかによって異なります。また、一部のイベントでは、構造のパラメーターのいくつかはオプションであり、そのイベントを生成する原因となった状況に関連する情報が含まれている場合にのみ返されます。データ構造に設定されている値は、イベントが生成される原因となった状況によって異なります。

注:

1. メッセージ・データの PCF 構造は、定義した順序では返されません。説明の中に示されているパラメーター ID から、イベント構造を識別する必要があります。
2. イベント記述の最初に具体的な制限が示されていない限り、イベントはすべてのプラットフォームで使用可能です。

## 別名基本キュー・タイプ・エラー

イベント名:	別名基本キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_ALIAS_BASE_Q_TYPE_ERROR (2001, X'7D1')。 別名基本キューのタイプは無効です。
イベント記述:	宛先として別名キューを指定して MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー定義内の <i>BaseObjectName</i> は、ローカル・キューでもリモート・キューのローカル定義でもないキューに解決されます。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### *QMgrName*

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### *QName*

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### *BaseObjectName*

説明:	別名が解決されるオブジェクト名。
ID:	MQCA_BASE_OBJECT_NAME。既存アプリケーションとの互換性のために、MQCA_BASE_Q_NAME を引き続き使用できます。
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。

戻り: 常時。

### **QType**

説明: 別名が解決されるキューのタイプ。

ID: MQIA\_Q\_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQQT\_ALIAS**  
別名キュー定義。  
**MQQT\_MODEL**  
モデル・キュー定義。

戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: イベントを引き起こした呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: イベントを引き起こした呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。

ID: MQCACF\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ブリッジ開始**

イベント名:	ブリッジ開始。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_BRIDGE_STARTED (2125, X'84D'). ブリッジが開始しました。
イベント記述:	IMS ブリッジが開始しました。
イベント・タイプ:	IMS ブリッジ。
プラットフォーム:	WebSphere MQ for z/OS のみ。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

### **イベント・データ**

#### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

#### **BridgeType**

説明:	ブリッジ・タイプ。
ID:	MQIACF_BRIDGE_TYPE
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQBT_OTMA</b> OTMA ブリッジ。
戻り:	常時。

#### **BridgeName**

説明:	ブリッジ名。タイプ MQBT_OTMA のブリッジの場合、名前の形式は XCFgroupXCFmember です。XCFgroup は、IMS と WebSphere MQ の両方が属する XCF グループ名です。XCFmember は、IMS システムの XCF メンバー名です。
ID:	MQCACF_BRIDGE_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ\_BRIDGE\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

## ブリッジ停止

イベント名:	ブリッジ停止。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_BRIDGE_STOPPED (2126、X'84E')。 ブリッジが停止しました。
イベント記述:	IMS ブリッジが停止しました。
イベント・タイプ:	IMS ブリッジ。
プラットフォーム:	WebSphere MQ for z/OS のみ。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### *QMgrName*

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### *ReasonQualifier*

説明: MQCFH 中の、理由コードを修飾する ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: **MQRQ\_BRIDGE\_STOPPED\_OK**  
ブリッジが、ゼロ戻りコードまたは警告戻りコードのいずれかを発行して終了しました。MQBT\_OTMA ブリッジで、いずれかの側が正常な IXCLEAVE 要求を発行しました。  
**MQRQ\_BRIDGE\_STOPPED\_ERROR**  
ブリッジは終了しましたが、エラーがレポートされています。  
戻り: 常時。

### *BridgeType*

説明: ブリッジ・タイプ。  
ID: MQIACF\_BRIDGE\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
値: **MQBT\_OTMA**  
OTMA ブリッジ。  
戻り: 常時。

## **BridgeName**

説明:	ブリッジ名。タイプ MQBT_OTMA のブリッジの場合、名前の形式は XCFgroupXCFmember です。XCFgroup は、IMS と WebSphere MQ の両方が属する XCF グループ名です。XCFmember は、IMS システムの XCF メンバー名です。
ID:	MQCACF_BRIDGE_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_BRIDGE_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

## **ErrorIdentifier**

説明:	あるエラーのためにブリッジが停止した場合、このコードはそのエラーを識別します。イベントでブリッジ停止障害が報告された場合は、IMS センス・コードが設定されます。
ID:	MQIACF_ERROR_IDENTIFIER
データ型:	MQCFIN
戻り:	<i>ReasonQualifier</i> が MQRQ_BRIDGE_STOPPED_ERROR の場合。

## **オブジェクトの変更**

イベント名:	オブジェクトの変更。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CONFIG_CHANGE_OBJECT (2368、X'940')。 既存のオブジェクトが変更されました。
イベント記述:	ALTER または DEFINE REPLACE コマンド、または MQSET 呼び出しが発行されて、既存のオブジェクトが正常に変更されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

**注:** オブジェクトの変更イベントについて 2 つのイベント・メッセージが生成されました。最初は、変更前のオブジェクト属性値が含まれており、2 番目のものには、変更後のオブジェクト属性値が含まれていません。

## **イベント・データ**

### **EventUserId**

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

## **EventOrigin**

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQEVO_CONSOLE</b> コンソール・コマンド。 <b>MQEVO_INIT</b> 初期設定入力データ・セット・コマンド。 <b>MQEVO_INTERNAL</b> キュー・マネージャーによって直接。 <b>MQEVO_MQSET</b> MQSET 呼び出し。 <b>MQEVO_MSG</b> SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 <b>MQEVO_OTHER</b> 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

## **EventQMGr**

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

## **EventAccountingToken**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントング・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

## **EventApplIdentity**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplType**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF\_EVENT\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplName**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF\_EVENT\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplOrigin**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF\_EVENT\_APPL\_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_ORIGIN\_DATA\_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **ObjectType**

説明: オブジェクト・タイプ:

ID: MQIACF\_OBJECT\_TYPE

データ型: MQCFIN

値:

**MQOT\_CHANNEL**  
チャンネル。

**MQOT\_CHLAUTH**  
チャンネル認証レコード

**MQOT\_NAMELIST**  
名前リスト。

**MQOT\_NONE**  
オブジェクトなし。

**MQOT\_PROCESS**  
プロセス。

**MQOT\_Q**  
キュー。

**MQOT\_Q\_MGR**  
キュー・マネージャー。

**MQOT\_STORAGE\_CLASS**  
ストレージ・クラス。

**MQOT\_AUTH\_INFO**  
認証情報

**MQOT\_CF\_STRUC**  
CF 構造。

**MQOT\_TOPIC**  
トピック。

**MQOT\_COMM\_INFO**  
通信情報。

**MQOT\_LISTENER**  
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

### **ObjectName**

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH\_CHANNEL\_NAME
- MQCA\_NAMELIST\_NAME
- MQCA\_PROCESS\_NAME
- MQCA\_Q\_NAME
- MQCA\_Q\_MGR\_NAME
- MQCA\_STORAGE\_CLASS
- MQCA\_AUTH\_INFO\_NAME
- MQCA\_CF\_STRUC\_NAME
- MQCA\_TOPIC\_NAME
- MQCA\_COMM\_INFO\_NAME
- MQCACH\_LISTENER\_NAME

注: MQCACH\_CHANNEL\_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_OBJECT\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時

### Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA\_QSG\_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD\_Q\_MGR**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

**MQQSGD\_SHARED**

オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。

**MQQSGD\_GROUP**

オブジェクトは共有リポジトリにあります。

**MQQSGD\_COPY**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時 (キュー・マネージャーおよび CF 構造化オブジェクトは除く)。

### オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

### チャンネル活動化

イベント名: チャンネル活動化。

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_CHANNEL\_ACTIVATED (2295、X'8F7')。  
チャンネル活動化。

イベント記述: チャンネルがアクティブになるために待ち続けており、そのチャンネルについてチャンネル非活動化イベントが既に生成されている場合、アクティブ・スロットを別のチャンネルが解放したため、そのチャンネルがアクティブになることができたときに、この条件が検出されます。  
このイベントは、アクティブ・スロットの解放を待たずにアクティブ状態になることができるチャンネルについては生成されません。

イベント・タイプ: チャンネル。

プラットフォーム: すべて。

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

### イベント・データ

#### QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **ChannelName**

説明: チャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **XmitQName**

説明: 伝送キュー名。  
ID: MQCACH\_XMIT\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

### **ConnectionName**

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: 総称名を含まないコマンドの場合のみ。

## **チャンネル自動定義エラー**

イベント名: チャンネル自動定義エラー。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_CHANNEL\_AUTO\_DEF\_ERROR (2234, X'8BA')。  
自動チャンネル定義に失敗しました。

---

イベント記述: この条件が検出されるのは、チャンネルの自動定義に失敗した場合です。原因には、定義プロセス中にエラーが発生したこと、あるいはチャンネル自動定義出口によって定義が禁止されていることなどが考えられます。イベント・メッセージには、エラーの理由を示す追加情報が戻ります。

---

イベント・タイプ: チャンネル。

---

プラットフォーム: すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。

---

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

---

## **イベント・データ**

### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ChannelName**

説明: 自動定義に失敗したチャンネルの名前。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ChannelType**

説明: チャンネル・タイプ。これは、自動定義に失敗したチャンネルのタイプを指定します。  
ID: MQIACH\_CHANNEL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
値: **MQCHT\_RECEIVER**  
受信側。  
**MQCHT\_SVRCONN**  
サーバー接続 (クライアントが使用)。  
**MQCHT\_CLUSSDR**  
クラスター送信側。  
戻り: 常時。

### **ErrorIdentifier**

説明: エラーの原因の ID。チャンネル定義を試みた結果の理由コード (MQRC\_\* または MQRCCF\_\*) か、または定義の作成が出口によって禁止されている場合には値 MQRCCF\_SUPPRESSED\_BY\_EXIT が戻ります。  
ID: MQIACF\_ERROR\_IDENTIFIER  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ConnectionName**

説明: 接続を確立しようとする相手先の名前。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **AuxErrorDataInt1**

説明: 補助エラー・データ。MQCXP の *Feedback* フィールドにある出口から値が戻され、自動定義により禁止されている理由が示されます。  
ID: MQIACF\_AUX\_ERROR\_DATA\_INT\_1.

データ型: MQCFIN  
戻り: *ErrorIdentifier* に MQRCCF\_SUPPRESSED\_BY\_EXIT が戻った場合のみ。

## チャンネル自動定義 OK

イベント名:	チャンネル自動定義 OK。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_AUTO_DEF_OK (2233、X'8B9')。 自動チャンネル定義に成功しました。
イベント記述:	チャンネルの自動定義が正常に行われたときに、この状況が検出されます。チャンネルは MCA によって定義されました。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ChannelName**

説明: 定義するチャンネルの名前。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ChannelType**

説明: 定義するチャンネルのタイプ。  
ID: MQIACH\_CHANNEL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
値: **MQCHT\_RECEIVER**  
受信側。  
**MQCHT\_SVRCONN**  
サーバー接続 (クライアントが使用)。  
**MQCHT\_CLUSSDR**  
クラスター送信側。  
戻り: 常時。

## **ConnectionName**

説明:	接続を確立しようとする相手先の名前。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

## **チャンネルのブロック**

イベント名:	チャンネルのブロック。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_BLOCKED チャンネルのブロック。 MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING チャンネルのブロック - 警告モード。
イベント記述:	このイベントは、インバウンド・チャンネル開始の試みがブロックされた場合に発行されます。  MQRC_CHANNEL_BLOCKED_WARNING の場合、チャンネル認証レコードが WARN を YES に設定して定義されているため、このチャンネルには一時的なアクセスが認可されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT

## **イベント・データ**

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **Reason qualifier**

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値: **MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_ADDRESS**  
チャンネルの IP アドレスが拒否リスト内に存在するため、チャンネルはブロックされました。

**MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_USERID**  
チャンネルの表明ユーザー ID またはマップされるユーザー ID が拒否リスト内に存在するため、チャンネルはブロックされました。

**MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_NOACCESS**  
チャンネルの IP アドレス、SSL ピア名、リモート・キュー・マネージャー名またはマップされるクライアント・ユーザー ID がアクセス権限を持っていないため、チャンネルはブロックされました。

戻り: 常時。

### **ChannelName**

説明: チャンネル名。

ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH

戻り: 理由修飾子が MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_ADDRESS ではない場合。この場合、チャンネル名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

### **UserIdentifier**

説明: ブロックされたユーザー ID。

ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH

戻り: 理由修飾子が MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_USERID の場合のみ

### **ConnectionName**

説明: 接続の確立を試みる相手側のアドレス

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時

### **RemoteQMgrName**

説明: 接続の確立を試みる相手側キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA\_REMOTE\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: インバウンド・キュー・マネージャー接続の場合のみ。

### **SSLPeerName**

説明: リモート・システムから送信される証明書内の識別名。

ID: MQCACH\_SSL\_PEER\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_DISTINGUISHED\_NAME\_LENGTH  
戻り: チャンネルが SSL を使用していて、クライアントが匿名接続していない場合は常時。

### **ClientUserIdentifier**

説明: 接続の確立を試みる相手側のクライアント・サイド・ユーザー ID。  
ID: MQCACH\_CLIENT\_USER\_ID  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH  
戻り: 理由修飾子が MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_ADDRESS ではない場合、インバウンド・クライアント接続のみ。この場合、クライアントのユーザー ID 名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

### **ApplType**

説明: API 呼び出しを実行したアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: インバウンド・クライアント接続の場合のみ。理由修飾子が MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_ADDRESS ではない場合。この場合、アプリケーション名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

### **ApplName**

説明: API 呼び出しを実行したアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: インバウンド・クライアント接続の場合のみ。理由修飾子が MQRQ\_CHANNEL\_BLOCKED\_ADDRESS ではない場合。この場合、アプリケーション名が明らかになる前にインバウンド接続がブロックされます。

## **チャンネル変換エラー**

イベント名:	チャンネル変換エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR (2284, X'8EC')。 チャンネル変換エラー。
イベント記述:	チャンネルがデータ変換を実行できず、伝送キューからメッセージを入手する MQGET 呼び出しの結果、データ変換エラーが生じたとき、この条件が検出されます。ConversionReasonCode によって、障害の理由が識別されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### ConversionReasonCode

説明:	変換エラーの原因の ID。
ID:	MQIACF_CONV_REASON_CODE
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQRC_CONVERTED_MSG_TOO_BIG (2120、X'848')</b> 変換されるメッセージは、アプリケーション・バッファーにとって大きすぎます。
	<b>MQRC_FORMAT_ERROR (2110、X'83E')</b> メッセージ形式が無効です。
	<b>MQRC_NOT_CONVERTED (2119、X'847')</b> アプリケーション・メッセージ・データが変換されません。
	<b>MQRC_SOURCE_CCSID_ERROR (2111、X'83F')</b> ソース・コード文字セット ID が無効です。
	<b>MQRC_SOURCE_DECIMAL_ENC_ERROR (2113、X'841')</b> メッセージのパック 10 進エンコードが認識されません。
	<b>MQRC_SOURCE_FLOAT_ENC_ERROR (2114、X'842')</b> メッセージの浮動小数点エンコードが認識されません。
	<b>MQRC_SOURCE_INTEGER_ENC_ERROR (2112、X'840')</b> メッセージの整数エンコードが認識されません。
	<b>MQRC_TARGET_CCSID_ERROR (2115、X'843')</b> ターゲット・コード文字セット ID が無効です。
	<b>MQRC_TARGET_DECIMAL_ENC_ERROR (2117、X'845')</b> 受信側が指定したパック 10 進エンコードが認識されません。
	<b>MQRC_TARGET_FLOAT_ENC_ERROR (2118、X'846')</b> 受信側が指定した浮動小数点エンコードが認識されません。
	<b>MQRC_TARGET_INTEGER_ENC_ERROR (2116、X'844')</b> 受信側が指定した整数エンコードが認識されません。
	<b>MQRC_TRUNCATED_MSG_ACCEPTED (2079、X'81F')</b> 切り捨てられたメッセージが戻りました (処理は完了)。
	<b>MQRC_TRUNCATED_MSG_FAILED (2080、X'820')</b> 切り捨てられたメッセージが戻りました (処理は未完了)。
戻り:	常時。

### ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME

データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **Format**

説明: フォーマット名。  
ID: MQCACH\_FORMAT\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_FORMAT\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **XmitQName**

説明: 伝送キュー名。  
ID: MQCACH\_XMIT\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

#### **ConnectionName**

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **チャンネル非活動化**

イベント名: チャンネル非活動化。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_CHANNEL\_NOT\_ACTIVATED (2296、X'8F8')。  
チャンネルを活動化できません。

---

イベント記述: チャンネルが始動しようとしているため、またはそのパートナーとの接続の確立を再試行しようとしているために、アクティブになるようチャンネルが要求されたとき、この条件が検出されます。しかし、アクティブ・チャンネルの制限数に達しているため、チャンネルをアクティブ状態にすることができません。以下を参照してください。

- AIX、HP-UX、および Solaris の場合は、qm.ini ファイル内の MaxActiveChannels パラメーター
- Windows の場合は、レジストリー内の MaxActiveChannels パラメーター
- z/OS の場合は、ALTER QMGR コマンドの ACTCHL パラメーター

別のチャンネルがアクティブになり解放されたアクティブ・スロットを取得できるまで待機します。アクティブ・スロットを取得できたときに、Channel Activated イベントが生成されます。

---

イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **ChannelName**

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **XmitQName**

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネル・タイプの場合のみ。

### **ConnectionName**

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	総称名を含まないコマンドの場合のみ。

## チャンネルが使用不可

イベント名:	チャンネルが使用不可。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_NOT_AVAILABLE (2537、X'9E9')。 チャンネルが使用不可。
イベント記述:	これは、インバウンド・チャンネル開始の試みが拒否された場合に発行されます。

イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	<p><b>MQRQ_MAX_ACTIVE_CHANNELS</b>            キュー・マネージャーの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (分散の MaxActiveChannels qm.ini スタンザまたは z/OS の ACTCHL MQSC キーワード) 限度に達したため、チャンネルは使用できませんでした。</p> <p><b>MQRQ_MAX_CHANNELS</b>            キュー・マネージャーの最大チャンネル・インスタンス (分散の MaxChannels qm.ini スタンザまたは z/OS の MAXCHL MQSC キーワード) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。</p> <p><b>MQRQ_SVRCONN_INST_LIMIT</b>            チャンネルの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (MAXINST) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。</p> <p><b>MQRQ_CLIENT_INST_LIMIT</b>            チャンネルのクライアントの最大アクティブ・チャンネル・インスタンス (MAXINSTC) 限度に達したため、チャンネルを使用できませんでした。</p> <p><b>MQRQ_CAF_NOT_INSTALLED (z/OS のみ)</b>            クライアント接続機能がインストールされていなかったため、チャンネルを使用できませんでした。</p>
戻り:	常時。

### ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### ConnectionName

説明:	接続の確立を試みる相手側のアドレス。
-----	--------------------

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **MaximumActiveChannels**

説明: 最大アクティブ・チャンネル数。  
ID: MQIA\_ACTIVE\_CHANNELS  
データ型: MQCFIN  
戻り: 理由修飾子 MQRQ\_MAX\_ACTIVE\_CHANNELS の場合のみ。

### **MaximumChannels**

説明: 最大チャンネル。  
ID: MQIA\_MAX\_CHANNELS  
データ型: MQCFIN  
戻り: 理由修飾子 MQRQ\_MAX\_CHANNELS の場合のみ。

### **MaximumInstances**

説明: 最大チャンネル・インスタンス。  
ID: MQIACH\_MAX\_INSTANCES  
データ型: MQCFIN  
戻り: 理由修飾子 MQRQ\_SVRCONN\_INST\_LIMIT の場合のみ。

### **MaximumClientInstances**

説明: クライアントあたりの最大チャンネル・インスタンス。  
ID: MQIACH\_MAX\_INSTS\_PER\_CLIENT  
データ型: MQCFIN  
戻り: 理由修飾子 MQRQ\_CLIENT\_INST\_LIMIT の場合のみ。

## **チャンネル SSL エラー**

イベント名:	チャンネル SSL エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRQ_CHANNEL_SSL_ERROR (2371、X'943')。 チャンネル SSL エラー。
イベント記述:	この状態は、Secure Sockets Layer (SSL) またはトランスポート層セキュリティ (TLS) を使用しているチャンネルが接続を確立できなかったときに検出されます。ReasonQualifier はエラーの性質を示します。
イベント・タイプ:	SSL。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **ReasonQualifier**

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR</b> SSL または TLS ハンドシェイク中に生じたキー交換/認証障害。 <b>MQRQ_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR</b> このエラーは、次のいずれかを意味する場合があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SSL または TLS クライアント CipherSpec が SSL または TLS サーバー・チャンネル定義上のものと一致しません。</li><li>• 無効な CipherSpec が指定されました。</li><li>• CipherSpec が、SSL または TLS チャンネルの一方の端でしか指定されていません。</li></ul> <b>MQRQ_SSL_PEER_NAME_ERROR</b> SSL または TLS チャンネルの一方の終端によって送信された証明書内の識別名が、SSL または TLS チャンネルの他方の終端にあるチャンネル定義の末尾にある対等名と一致しません。 <b>MQRQ_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR</b> SSL または TLS サーバー・チャンネル定義では、SSLCAUTH(REQUIRED) または SSLPEER にブランクでない値を指定しましたが、SSL または TLS クライアントは証明書を提供しませんでした。
戻り:	常時。

### **ChannelName**

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合は、 <i>ChannelName</i> を使用できないことがあります。この場合、チャンネル名は返されません。それ以外は常に返されます。

### **XmitQName**

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST

戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

### **ConnectionName**

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の `ConnectionName` フィールドの内容になります。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合、`ConnectionName` が使用可能にならないことがあります。この場合、接続名は戻されません。それ以外は常に戻されます。

### **SSLHandshakeStage**

説明: エラーの原因となっている SSL または TLS 関数呼び出しに関する情報。z/OS の場合、関数名の詳細は、「*System Secure Sockets Layer Programming Guide and Reference*」(SC24-5877)に記載されています。

ID: MQCACH\_SSL\_HANDSHAKE\_STAGE

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_SSL\_HANDSHAKE\_STAGE\_LENGTH

戻り: このフィールドは、`ReasonQualifier` が `MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR` に設定される場合にのみ表示されます。

### **SSLReturnCode**

説明: 失敗した SSL 呼び出しまたは TLS 呼び出しからの数値戻りコード。

特定プラットフォームの SSL 戻りコードまたは TLS 戻りコードの詳細を調べる方法は以下のとおりです。

- z/OS 以外のプラットフォームの場合は、[Secure Sockets Layer \(SSL\) の戻りコード](#)を参照してください。

ID: MQIACH\_SSL\_RETURN\_CODE

データ型: MQCFIN

戻り: このフィールドは、`ReasonQualifier` が `MQRQ_SSL_HANDSHAKE_ERROR` に設定される場合にのみ表示されます。

### **SSLPeerName**

説明: リモート・システムから送信される証明書内の識別名。

ID: MQCACH\_SSL\_PEER\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_DISTINGUISHED\_NAME\_LENGTH。

戻り: このフィールドは、`ReasonQualifier` が `MQRQ_SSL_PEER_NAME_ERROR` に設定される場合にのみ表示され、この理由修飾子について常に存在するわけではありません。

## チャンネル SSL 警告

イベント名:	チャンネル SSL 警告。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_SSL_WARNING (2552、X'9F8')。 チャンネル SSL 警告。
イベント記述:	この状態は、Secure Sockets Layer (SSL) またはトランスポート層セキュリティ (TLS) を使用するチャンネルで、SSL 接続または TLS 接続の確立を失敗させる原因とはならない問題が発生した場合に検出されます。ReasonQualifier によってイベントの性質が示されます。
イベント・タイプ:	SSL。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

### イベント・データ

#### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

#### ReasonQualifier

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQRQ_SSL_UNKNOWN_REVOCATION</b> OCSP 応答側が、不明という応答を返しました。WebSphere MQ は警告を出すように構成されていますが、接続は続行できます。
戻り:	常時。

#### ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合は、ChannelName を使用できないことがあります。この場合、チャンネル名は返されません。それ以外は常に返されます。

#### XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME

データ型: MQCFST  
戻り: 送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

### **ConnectionName**

説明: チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の *ConnectionName* フィールドの内容になります。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: チャンネルの開始プロセスがあまり進んでいない場合、*ConnectionName* が使用可能にならないことがあります。この場合、接続名は戻されません。それ以外は常に戻されます。

### **チャンネル開始**

---

イベント名: チャンネル開始。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_CHANNEL\_STARTED (2282、X'8EA')。  
チャンネルが開始されました。

---

イベント記述: オペレーターがチャンネル開始コマンドを実行した場合か、またはチャンネルのインスタンスが正常に確立されたかのいずれかの場合です。初期データ折衝が完了しているときに、メッセージ転送が続行できるよう必要に応じて再同期が実行された場合、この条件が検出されます。

---

イベント・タイプ: チャンネル。

---

プラットフォーム: すべて。クライアント接続では、このイベントは生成されません。

---

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

### **イベント・データ**

#### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **ChannelName**

説明: チャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **XmitQName**

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

### **ConnectionName**

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	総称名を含まないコマンドの場合のみ。

## **チャンネル停止**

イベント名:	チャンネル停止。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_STOPPED (2283, X'8EB')。 チャンネルが停止されました。
イベント記述:	これは、チャンネル・インスタンスが停止したときに発行されます。これが発行されるのは、チャンネル・インスタンスが以前にチャンネル開始イベントを発行した場合にのみです。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。クライアント接続では、このイベントは生成されません。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## **イベント・データ**

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **ReasonQualifier**

説明:	理由コードを修飾する ID。
ID:	MQIACF_REASON_QUALIFIER
データ型:	MQCFIN

値:	<p><b>MQRQ_CHANNEL_STOPPED_OK</b> チャンネルは、0の戻りコードか警告の戻りコードのいずれかを伴ってクローズされました。</p> <p><b>MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR</b> チャンネルはクローズされましたが、エラーがレポートされ、チャンネルは停止状態または再試行状態ではありません。</p> <p><b>MQRQ_CHANNEL_STOPPED_RETRY</b> チャンネルはクローズされ、再試行状態になっています。</p> <p><b>MQRQ_CHANNEL_STOPPED_DISABLED</b> チャンネルはクローズされ、停止状態になっています。</p>
戻り:	常時。

### ChannelName

説明:	チャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### ErrorIdentifier

説明:	<p>エラーの原因の ID。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このコードによってエラーが識別されます。チャンネル停止障害が原因でイベント・メッセージが発行された場合には、次の各フィールドが設定されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>ReasonQualifier</i>。値として MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR が格納されます。</li> <li>2. <i>ErrorIdentifier</i>。エラーの内容を説明するエラー・メッセージのコード番号が格納されます。</li> <li>3. <i>AuxErrorDataInt1</i>。エラー・メッセージ整数挿入 1 が格納されます。</li> <li>4. <i>AuxErrorDataInt2</i>。エラー・メッセージ整数挿入 2 が格納されます。</li> <li>5. <i>AuxErrorDataStr1</i>。エラー・メッセージ・ストリング挿入 1 が格納されます。</li> <li>6. <i>AuxErrorDataStr2</i>。エラー・メッセージ・ストリング挿入 2 が格納されます。</li> <li>7. <i>AuxErrorDataStr3</i>。エラー・メッセージ・ストリング挿入 3 が格納されます。</li> </ol> <p>エラー・メッセージ挿入の意味は、エラー・メッセージのコード番号によって異なります。特定のプラットフォームについてエラー・メッセージのコード番号および挿入の詳細を調べる方法は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• z/OS 以外のプラットフォームの場合は、16 進表記で表示された <i>ErrorIdentifier</i> の末尾 4 桁が、エラー・メッセージの 10 進コード番号を示します。</li> </ul> <p>例えば、<i>ErrorIdentifier</i> に X'xxxxyyyy' という値がある場合、そのエラーを説明するエラー・メッセージのメッセージ・コードは AMQyyyy です。これらのエラー・メッセージの説明については、<a href="#">231 ページの『診断メッセージ: AMQ4000-9999』</a>を参照してください。</p>
ID:	MQIACF_ERROR_IDENTIFIER

データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

#### **AuxErrorDataInt1**

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの最初の整数。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する最初の整数パラメーターです。この情報は、IBM サービス担当員が使用するためのものです。このイベント・メッセージに関して IBM に提出する問題報告書に記載してください。

ID: MQIACF\_AUX\_ERROR\_DATA\_INT\_1.  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

#### **AuxErrorDataInt2**

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 2 番目の整数。エラーのためにチャンネルが停止した場合、この整数は、エラーを規定する 2 番目の整数パラメーターです。この情報は、IBM サービス担当員が使用するためのものです。このイベント・メッセージに関して IBM に提出する問題報告書に記載してください。

ID: MQIACF\_AUX\_ERROR\_DATA\_INT\_2.  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

#### **AuxErrorDataStr1**

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの最初のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する最初のストリング・パラメーターです。この情報は、IBM サービス担当員が使用するためのものです。このイベント・メッセージに関して IBM に提出する問題報告書に記載してください。

ID: MQCACF\_AUX\_ERROR\_DATA\_STR\_1.  
データ型: MQCFST  
戻り: 常時。

#### **AuxErrorDataStr2**

説明: チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 2 番目のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する 2 番目のストリング・パラメーターです。この情報は、IBM サービス担当員が使用するためのものです。このイベント・メッセージに関して IBM に提出する問題報告書に記載してください。

ID: MQCACF\_AUX\_ERROR\_DATA\_STR\_2.  
データ型: MQCFST  
戻り: 常時。

### AuxErrorDataStr3

説明:	チャンネル・エラーに関する補助エラー・データの 3 番目のストリング。エラーのためにチャンネルが停止した場合、このストリングは、エラーを規定する 3 番目のストリング・パラメーターです。この情報は、IBM サービス担当員が使用するためのものです。このイベント・メッセージに関して IBM に提出する問題報告書に記載してください。
ID:	MQCACF_AUX_ERROR_DATA_STR_3.
データ型:	MQCFST
戻り:	常時。

### XmitQName

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCACH_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH.
戻り:	送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側のチャンネルの場合のみ。

### ConnectionName

説明:	チャンネルが TCP 接続を正常に確立した場合、これは IP アドレスになります。それ以外は、チャンネル定義の <i>ConnectionName</i> フィールドの内容になります。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	総称名を含まないコマンドの場合のみ。

## ユーザーによるチャンネル停止

イベント名:	ユーザーによるチャンネル停止。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CHANNEL_STOPPED_BY_USER (2279、X'8E7')。 ユーザーによりチャンネルが停止されました。
イベント記述:	これは、ユーザーが STOP CHL コマンドを発行したときに発行されます。 <i>ReasonQualifier</i> によって停止の理由が識別されます。
イベント・タイプ:	チャンネル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ReasonQualifier**

説明: 理由コードを修飾する ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: **MQRQ\_CHANNEL\_STOPPED\_DISABLED**  
チャンネルはクローズされ、停止状態になっています。  
戻り: 常時。

### **ChannelName**

説明: チャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

## **コマンド**

イベント名: コマンド。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_COMMAND\_MQSC (2412, X'96C')。  
MQSC コマンドが正常に発行されました。または、  
MQRC\_COMMAND\_PCF (2413, X'96D')。  
PCF コマンドが正常に発行されました。

---

イベント記述: コマンドが正常に発行されました。

---

イベント・タイプ: コマンド。

---

プラットフォーム: すべて。

---

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT.

## **イベント・データ**

イベント・データは、*CommandContext* と *CommandData* の 2 つの グループから成ります。

### **CommandContext**

説明: 発行されたコマンドのコンテキストに関連する要素を含む PCF グループ。  
ID: MQGACF\_COMMAND\_CONTEXT。  
データ型: MQCFGR

- グループ内の PCF 要素:
- *EventUserId*
  - *EventSecurityId*
  - *EventOrigin*
  - *EventQMgr*
  - *EventAccountingToken*
  - *EventIdentityData*
  - *EventApplType*
  - *EventApplName*
  - *EventApplOrigin*
  - *Command*

戻り: 常時。

### **EventUserId**

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)

ID: MQCACF\_EVENT\_USER\_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH

戻り: 常時。

### **Windows EventSecurityId**

説明: イベントを生成したコマンドまたは呼び出しを発行したセキュリティー ID (ユーザー ID の拡張番号)。

ID: MQBACF\_EVENT\_SECURITY\_ID.

データ型: MQCFBS

最大長: MQ\_SECURITY\_ID\_LENGTH

戻り: Windows のみ。

### **EventOrigin**

説明: イベントを引き起こしたアクションの発信元。

ID: MQIACF\_EVENT\_ORIGIN

データ型: MQCFIN

値: **MQEVO\_CONSOLE**  
コンソール・コマンド。

**MQEVO\_INIT**  
初期設定入力データ・セット・コマンド。

**MQEVO\_MSG**  
SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。

**MQEVO\_INTERNAL**  
キュー・マネージャーによって直接。

**MQEVO\_OTHER**  
上記のいずれでもない。

戻り: 常時。

### **EventQMgr**

説明: コマンドが入力されたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)

ID: MQCACF\_EVENT\_Q\_MGR

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **EventAccountingToken**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。

ID: MQBACF\_EVENT\_ACCOUNTING\_TOKEN

データ型: MQCFBS

最大長: MQ\_ACCOUNTING\_TOKEN\_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventIdentityData**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。

ID: MQCACF\_EVENT\_APPL\_IDENTITY

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_IDENTITY\_DATA\_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplType**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF\_EVENT\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplName**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplOrigin**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **Command**

説明:	コマンド・コード。
ID:	MQIACF_COMMAND
データ型:	MQCFIN
値:	<ul style="list-style-type: none"><li>• イベントが PCF コマンドに関連している場合、値はコマンド・メッセージの MQCFH 構造にある Command パラメーターの値です。</li><li>• イベントが MQSC コマンドに関連している場合、値は以下のいずれかです。</li></ul>

**MQCMD\_ARCHIVE\_LOG**  
ARCHIVE LOG

**MQCMD\_BACKUP\_CF\_STRUC**  
BACKUP CFSTRUCT

**MQCMD\_CHANGE\_AUTH\_INFO**  
ALTER AUTHINFO

**MQCMD\_CHANGE\_BUFFER\_POOL**  
ALTER BUFFPOOL

**MQCMD\_CHANGE\_CF\_STRUC**  
ALTER CFSTRUCT

**MQCMD\_CHANGE\_CHANNEL**  
ALTER CHANNEL

**MQCMD\_CHANGE\_COMM\_INFO**  
ALTER COMMINFO

**MQCMD\_CHANGE\_LISTENER**  
ALTER LISTENER

**MQCMD\_CHANGE\_NAMELIST**  
ALTER NAMELIST

**MQCMD\_CHANGE\_PAGE\_SET**  
ALTER PSID

**MQCMD\_CHANGE\_PROCESS**  
ALTER PROCESS

**MQCMD\_CHANGE\_Q**  
ALTER QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

**MQCMD\_CHANGE\_Q\_MGR**  
ALTER QMGR、 DEFINE MAXSMSGS

**MQCMD\_CHANGE\_SECURITY**  
ALTER SECURITY

**MQCMD\_CHANGE\_SERVICE**  
ALTER SERVICE

**MQCMD\_CHANGE\_STG\_CLASS**  
ALTER STGCLASS

**MQCMD\_CHANGE\_SUBSCRIPTION**  
ALTER SUBSCRIPTION

**MQCMD\_CHANGE\_TOPIC**  
ALTER TOPIC

**MQCMD\_CHANGE\_TRACE**  
ALTER TRACE

**MQCMD\_CLEAR\_Q**  
CLEAR QLOCAL

**MQCMD\_CLEAR\_TOPIC\_STRING**  
CLEAR TOPICSTR

**MQCMD\_CREATE\_AUTH\_INFO**  
DEFINE AUTHINFO

**MQCMD\_CREATE\_BUFFER\_POOL**  
DEFINE BUFFPOOL

**MQCMD\_CREATE\_CF\_STRUC**  
DEFINE CFSTRUCT

**MQCMD\_CREATE\_CHANNEL**  
DEFINE CHANNEL

**MQCMD\_CREATE\_COMM\_INFO**  
DEFINE COMMINFO

**MQCMD\_CREATE\_LISTENER**  
DEFINE LISTENER

**MQCMD\_CREATE\_NAMELIST**  
DEFINE NAMELIST

**MQCMD\_CREATE\_PAGE\_SET**  
DEFINE PSID

**MQCMD\_CREATE\_PROCESS**  
DEFINE PROCESS

**MQCMD\_CREATE\_Q**  
DEFINE QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

**MQCMD\_CREATE\_SERVICE**  
DEFINE SERVICE

**MQCMD\_CREATE\_STG\_CLASS**  
DEFINE STGCLASS

**MQCMD\_CREATE\_SUBSCRIPTION**  
DEFINE SUB

**MQCMD\_CREATE\_TOPIC**  
DEFINE TOPIC

**MQCMD\_DELETE\_AUTH\_INFO**  
DELETE AUTHINFO

**MQCMD\_DELETE\_CF\_STRUC**  
DELETE CFSTRUCT

**MQCMD\_DELETE\_CHANNEL**  
DELETE CHANNEL

**MQCMD\_DELETE\_COMM\_INFO**  
DELETE COMMINFO

**MQCMD\_DELETE\_LISTENER**  
DELETE LISTENER

**MQCMD\_DELETE\_NAMELIST**  
DELETE NAMELIST

**MQCMD\_DELETE\_PAGE\_SET**  
DELETE PSID

**MQCMD\_DELETE\_PROCESS**  
DELETE PROCESS

**MQCMD\_DELETE\_Q**  
DELETE QLOCAL/QREMOTE/QALIAS/QMODEL

**MQCMD\_DELETE\_SERVICE**  
DELETE SERVICE

**MQCMD\_DELETE\_STG\_CLASS**  
DELETE STGCLASS

**MQCMD\_DELETE\_SUBSCRIPTION**  
DELETE SUBSCRIPTION

**MQCMD\_DELETE\_TOPIC**  
DELETE TOPIC

**MQCMD\_INQUIRE\_ARCHIVE**  
DISPLAY ARCHIVE

**MQCMD\_INQUIRE\_AUTH\_INFO**  
DISPLAY AUTHINFO

**MQCMD\_INQUIRE\_CF\_STRUC**  
DISPLAY CFSTRUCT

**MQCMD\_INQUIRE\_CF\_STRUC\_STATUS**  
DISPLAY CFSTATUS

**MQCMD\_INQUIRE\_CHANNEL**  
DISPLAY CHANNEL

**MQCMD\_INQUIRE\_CHANNEL\_INIT**  
DISPLAY CHINIT

**MQCMD\_INQUIRE\_CHANNEL\_STATUS**  
DISPLAY CHSTATUS

**MQCMD\_INQUIRE\_CHLAUTH\_RECS**  
DISPLAY CHLAUTH

**MQCMD\_INQUIRE\_CLUSTER\_Q\_MGR**  
DISPLAY CLUSQMGR

**MQCMD\_INQUIRE\_CMD\_SERVER**  
DISPLAY CMDSERV

**MQCMD\_INQUIRE\_COMM\_INFO**  
DISPLAY COMMINFO

**MQCMD\_INQUIRE\_CONNECTION**  
DISPLAY CONN

**MQCMD\_INQUIRE\_LISTENER**  
DISPLAY LISTENER

**MQCMD\_INQUIRE\_LOG**  
DISPLAY LOG

**MQCMD\_INQUIRE\_NAMELIST**  
DISPLAY NAMELIST

**MQCMD\_INQUIRE\_PROCESS**  
DISPLAY PROCESS

**MQCMD\_INQUIRE\_PUBSUB\_STATUS**  
DISPLAY PUBSUB

**MQCMD\_INQUIRE\_Q**  
DISPLAY QUEUE

**MQCMD\_INQUIRE\_Q\_MGR**  
DISPLAY QMGR、 DISPLAY MAXSMSGS

**MQCMD\_INQUIRE\_QSG**  
DISPLAY GROUP

**MQCMD\_INQUIRE\_Q\_STATUS**  
DISPLAY QSTATUS

**MQCMD\_INQUIRE\_SECURITY**  
DISPLAY SECURITY

**MQCMD\_INQUIRE\_SERVICE**  
DISPLAY SERVICE

**MQCMD\_INQUIRE\_STG\_CLASS**  
DISPLAY STGCLASS

**MQCMD\_INQUIRE\_SUBSCRIPTION**  
DISPLAY SUB

**MQCMD\_INQUIRE\_SUB\_STATUS**  
DISPLAY SBSTATUS

**MQCMD\_INQUIRE\_SYSTEM**  
DISPLAY SYSTEM

**MQCMD\_INQUIRE\_THREAD**  
DISPLAY THREAD

**MQCMD\_INQUIRE\_TOPIC**  
DISPLAY TOPIC

**MQCMD\_INQUIRE\_TOPIC\_STATUS**  
DISPLAY TPSTATUS

**MQCMD\_INQUIRE\_TRACE**  
DISPLAY TRACE

**MQCMD\_INQUIRE\_USAGE**  
DISPLAY USAGE

**MQCMD\_MOVE\_Q**  
MOVE QLOCAL

**MQCMD\_PING\_CHANNEL**  
PING CHANNEL

**MQCMD\_RECOVER\_BSDS**  
RECOVER BSDS

**MQCMD\_RECOVER\_CF\_STRUC**  
RECOVER CFSTRUCT

**MQCMD\_REFRESH\_CLUSTER**  
REFRESH CLUSTER

**MQCMD\_REFRESH\_Q\_MGR**  
REFRESH QMGR

**MQCMD\_REFRESH\_SECURITY**  
REFRESH SECURITY

**MQCMD\_RESET\_CHANNEL**  
RESET CHANNEL

**MQCMD\_RESET\_CLUSTER**  
RESET CLUSTER

**MQCMD\_RESET\_Q\_MGR**  
RESET QMGR

**MQCMD\_RESET\_Q\_STATS**  
RESET QSTATS

**MQCMD\_RESET\_TPIPE**  
RESET TPIPE

**MQCMD\_RESOLVE\_CHANNEL**  
RESOLVE CHANNEL

**MQCMD\_RESOLVE\_INDOUBT**  
RESOLVE INDOUBT

**MQCMD\_RESUME\_Q\_MGR**  
RESUME QMGR (CLUSTER/CLUSNL 以外)

**MQCMD\_RESUME\_Q\_MGR\_CLUSTER**  
RESUME QMGR CLUSTER/CLUSNL

**MQCMD\_REVERIFY\_SECURITY**  
REVERIFY SECURITY

**MQCMD\_SET\_ARCHIVE**  
SET ARCHIVE

**MQCMD\_SET\_CHLAUTH\_REC**  
SET CHLAUTH

**MQCMD\_SET\_LOG**  
SET LOG

**MQCMD\_SET\_SYSTEM**  
SET SYSTEM

**MQCMD\_START\_CHANNEL**  
START CHANNEL

**MQCMD\_START\_CHANNEL\_INIT**  
START CHINIT

**MQCMD\_START\_CHANNEL\_LISTENER**  
START LISTENER

**MQCMD\_START\_CMD\_SERVER**  
START CMDSERV

**MQCMD\_START\_SERVICE**  
START SERVICE

**MQCMD\_START\_TRACE**  
START TRACE

**MQCMD\_STOP\_CHANNEL**  
STOP CHANNEL

**MQCMD\_STOP\_CHANNEL\_INIT**  
STOP CHINIT

**MQCMD\_STOP\_CHANNEL\_LISTENER**  
STOP LISTENER

**MQCMD\_STOP\_CMD\_SERVER**  
STOP CMDSERV

**MQCMD\_STOP\_CONNECTION**  
STOP CONN

**MQCMD\_STOP\_SERVICE**  
STOP SERVICE

**MQCMD\_STOP\_TRACE**  
STOP TRACE

**MQCMD\_SUSPEND\_Q\_MGR**  
SUSPEND QMGR (CLUSTER/CLUSNL 以外)

**MQCMD\_SUSPEND\_Q\_MGR\_CLUSTER**  
SUSPEND QMGR CLUSTER/CLUSNL

戻り: 常時。

### **CommandData**

説明: コマンド・データに関連する要素を含む PCF グループ。

ID: MQGACF\_COMMAND\_DATA

データ型: MQCFGR

グループ内の PCF 要素:

- MQSC コマンド用に生成された場合、このグループには PCF 要素 *CommandMQSC* のみが含まれます。
- PCF コマンド用に生成された場合、このグループには、コマンド・メッセージにあるとおりに、PCF コマンドを構成する PCF 要素が含まれます。

戻り: 常時。

### **CommandMQSC**

説明: MQSC コマンドのテキスト。

ID: MQCACF\_COMMAND\_MQSC

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_COMMAND\_MQSC\_LENGTH

戻り: メッセージ記述子にある Reason が MQRC\_COMMAND\_MQSC である場合のみ。

## **オブジェクトの作成**

イベント名:	オブジェクトの作成。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CONFIG_CREATE_OBJECT (2367、X'93F')。 新規オブジェクトが作成されました。
イベント記述:	DEFINE または DEFINE REPLACE コマンドが発行され、新規オブジェクトが正常に作成されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

## **イベント・データ**

### **EventUserId**

説明: コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)

ID: MQCACF\_EVENT\_USER\_ID

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH

戻り: 常時。

## **EventOrigin**

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQEVO_CONSOLE</b> コンソール・コマンド。 <b>MQEVO_INIT</b> 初期設定入力データ・セット・コマンド。 <b>MQEVO_INTERNAL</b> キュー・マネージャーによって直接。 <b>MQEVO_MQSET</b> MQSET 呼び出し。 <b>MQEVO_MSG</b> SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 <b>MQEVO_OTHER</b> 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

## **EventQMGr**

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

## **EventAccountingToken**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントング・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

## **EventApplIdentity**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplType**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID: MQIACF\_EVENT\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplName**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID: MQCACF\_EVENT\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplOrigin**

説明: メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID: MQCACF\_EVENT\_APPL\_ORIGIN

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_ORIGIN\_DATA\_LENGTH

戻り: EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **ObjectType**

説明: オブジェクト・タイプ:

ID: MQIACF\_OBJECT\_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQOT\_CHANNEL**  
 チャンネル。  
**MQOT\_CHLAUTH**  
 チャンネル認証レコード  
**MQOT\_NAMELIST**  
 名前リスト。  
**MQOT\_NONE**  
 オブジェクトなし。  
**MQOT\_PROCESS**  
 プロセス。  
**MQOT\_Q**  
 キュー。  
**MQOT\_STORAGE\_CLASS**  
 ストレージ・クラス。  
**MQOT\_AUTH\_INFO**  
 認証情報  
**MQOT\_CF\_STRUC**  
 CF 構造。  
**MQOT\_TOPIC**  
 トピック。  
**MQOT\_COMM\_INFO**  
 通信情報。  
**MQOT\_LISTENER**  
 チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

### **ObjectName**

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH\_CHANNEL\_NAME
- MQCA\_NAMELIST\_NAME
- MQCA\_PROCESS\_NAME
- MQCA\_Q\_NAME
- MQCA\_STORAGE\_CLASS
- MQCA\_AUTH\_INFO\_NAME
- MQCA\_CF\_STRUC\_NAME
- MQCA\_TOPIC\_NAME
- MQCA\_COMM\_INFO\_NAME
- MQCACH\_LISTENER\_NAME

注: MQCACH\_CHANNEL\_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_OBJECT\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時

## Disposition

説明:	オブジェクトの属性指定。
ID:	MQIA_QSG_DISP
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQQSGD_Q_MGR</b> オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 <b>MQQSGD_SHARED</b> オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。 <b>MQQSGD_GROUP</b> オブジェクトは共有リポジトリにあります。 <b>MQQSGD_COPY</b> オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。
戻り:	常時。ただし CF 構造オブジェクトの場合を除く。

## オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』を参照してください。

## デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー

イベント名:	デフォルト伝送キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_DEF_XMIT_Q_TYPE_ERROR (2198、X'896')。 デフォルト伝送キューはローカルではありません。
イベント記述:	リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、あるいはキュー・マネージャーの別名が解決されようとしていたかのいずれかの場合です。しかし、いずれの場合も、ローカル定義の <i>XmitQName</i> 属性は空白です。  宛先キュー・マネージャーと同じ名前でも伝送キューが定義されていないので、ローカル・キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューの使用を試みました。ただし、 <i>DefXmitQName</i> キュー・マネージャー属性で定義されたキューが存在しますが、ローカル・キューが存在しません。伝送キューについての詳細は、 <a href="#">伝送キューの定義</a> を参照してください。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **XmitQName**

説明: デフォルト伝送キュー名。  
ID: MQCA\_XMIT\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **QType**

説明: デフォルト伝送キューのタイプ。  
ID: MQIA\_Q\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
値: **MQQT\_ALIAS**  
別名キュー定義。  
**MQQT\_REMOTE**  
リモート・キューのローカル定義。  
戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

## ObjectQMgrName

説明:	オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の <i>ObjectName</i> が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

## ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## 関連資料

[DefXmitQName \(MQCHAR48\)](#)

## 関連情報

[伝送キューの定義](#)

[DefaultTransmissionQueueName](#) プロパティ

## デフォルト伝送キュー使用エラー

イベント名:	デフォルト伝送キュー使用エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_DEF_XMIT_Q_USAGE_ERROR (2199、X'897')。 デフォルト伝送キュー使用エラー。
イベント記述:	<p>リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定されたか、あるいはキュー・マネージャーの別名が解決されようとしていたかのいずれかの場合です。しかし、いずれの場合も、ローカル定義の <i>XmitQName</i> 属性はブランクです。</p> <p>宛先キュー・マネージャーと同じ名前でも伝送キューが定義されていないので、ローカル・キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューの使用を試みました。ただし、<i>DefXmitQName</i> キュー・マネージャー属性で定義されたキューには、MQUS_TRANSMISSION の <i>Usage</i> 属性はありません。デフォルトの伝送キューについての詳細は、<a href="#">伝送キューの定義</a>を参照してください。</p>

イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **QName**

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **XmitQName**

説明:	デフォルト伝送キュー名。
ID:	MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **ApplType**

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **ApplName**

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

## ObjectQMgrName

説明:	オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) 内の <i>ObjectName</i> が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

## ConnName

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## 関連概念

[DefaultTransmissionQueueName](#) プロパティ

## 関連タスク

[伝送キューの定義](#)

## 関連資料

[DefXmitQName \(MQCHAR48\)](#)

## オブジェクトの削除

イベント名:	オブジェクトの削除。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CONFIG_DELETE_OBJECT (2369、X'941')。 オブジェクトが削除されました。
イベント記述:	DELETE コマンドまたは MQCLOSE 呼び出しが発行され、オブジェクトが正常に削除されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

## イベント・データ

### **EventUserId**

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

### **EventOrigin**

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQEVO_CONSOLE</b> コンソール・コマンド。 <b>MQEVO_INIT</b> 初期設定入力データ・セット・コマンド。 <b>MQEVO_INTERNAL</b> キュー・マネージャーによって直接。 <b>MQEVO_MSG</b> SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 <b>MQEVO_OTHER</b> 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

### **EventQMgr**

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **EventAccountingToken**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplIdentity**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_IDENTITY
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplType**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。
ID:	MQIACF_EVENT_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplName**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplOrigin**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。
ID:	MQCACF_EVENT_APPL_ORIGIN
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_ORIGIN_DATA_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **ObjectType**

説明:	オブジェクト・タイプ:
ID:	MQIACF_OBJECT_TYPE
データ型:	MQCFIN

値: **MQOT\_CHANNEL**  
 チャンネル。  
**MQOT\_CHLAUTH**  
 チャンネル認証レコード  
**MQOT\_NAMELIST**  
 名前リスト。  
**MQOT\_NONE**  
 オブジェクトなし。  
**MQOT\_PROCESS**  
 プロセス。  
**MQOT\_Q**  
 キュー。  
**MQOT\_STORAGE\_CLASS**  
 ストレージ・クラス。  
**MQOT\_AUTH\_INFO**  
 認証情報  
**MQOT\_CF\_STRUC**  
 CF 構造。  
**MQOT\_TOPIC**  
 トピック。  
**MQOT\_COMM\_INFO**  
 通信情報。  
**MQOT\_LISTENER**  
 チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

**ObjectName**

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH\_CHANNEL\_NAME
- MQCA\_NAMELIST\_NAME
- MQCA\_PROCESS\_NAME
- MQCA\_Q\_NAME
- MQCA\_STORAGE\_CLASS
- MQCA\_AUTH\_INFO\_NAME
- MQCA\_CF\_STRUC\_NAME
- MQCA\_TOPIC\_NAME
- MQCA\_COMM\_INFO\_NAME
- MQCACH\_LISTENER\_NAME

注: MQCACH\_CHANNEL\_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_OBJECT\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時

## Disposition

説明:	オブジェクトの属性指定。
ID:	MQIA_QSG_DISP
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQQSGD_Q_MGR</b> オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。
	<b>MQQSGD_SHARED</b> オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。
	<b>MQQSGD_GROUP</b> オブジェクトは共有リポジトリにあります。
	<b>MQQSGD_COPY</b> オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。
戻り:	常時。ただし CF 構造オブジェクトの場合を除く。

## オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメーター構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、74 ページの『[イベント・データのオブジェクト属性](#)』を参照してください。

## 読み取り禁止

イベント名:	読み取り禁止。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_GET_INHIBITED (2016、X'7E0')。 このキューに関して読み取りが禁止されています。
イベント記述:	このキューに関して ( <i>InhibitGet</i> キュー属性については、 <i>InhibitGet</i> ( <i>MQLONG</i> ) を参照)、またはこのキューが解決されるキューに関して、MQGET 呼び出しが現在禁止されています。
イベント・タイプ:	禁止。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME

データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: 読み取りを発行したアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: 読み取りを発行したアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **関連概念**

[InhibitGet プロパティ](#)

### **関連タスク**

[キュー属性の設定](#)

### **ロガー**

イベント名: ロガー。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_LOGGER\_STATUS (2411, X'96B')  
新しいログ・エクステントが開始されました。

---

イベント記述:	キュー・マネージャーが新しいログ・エクステントに対して書き込みを開始したときに発行されます。
イベント・タイプ:	ロガー。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.LOGGER.EVENT.

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **CurrentLogExtent**

説明:	イベント・メッセージが生成されたときのログ・エクステント名。
ID:	MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **RestartRecoveryLogExtent**

説明:	最も古いログ・エクステントの名前。
ID:	MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **MediaRecoveryLogExtent**

説明:	最も古いログ・エクステントの名前。
ID:	MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **LogPath**

説明:	キュー・マネージャーによってログ・ファイルが作成されるディレクトリー。
ID:	MQCACF_LOG_PATH
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_LOG_PATH_LENGTH

戻り: 常時。

## 非許可 (タイプ 1)

イベント名:	非許可 (タイプ 1)。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_NOT_AUTHORIZED (2035, X'7F3')。 アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQCONN 呼び出しまたはシステム接続呼び出しで、ユーザーはキュー・マネージャーへの接続を許可されていません。ReasonQualifier はエラーの性質を示します。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### ReasonQualifier

説明: タイプ 1 権限イベントの ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: **MQRQ\_CONN\_NOT\_AUTHORIZED**  
接続が許可されません。  
**MQRQ\_SYS\_CONN\_NOT\_AUTHORIZED**  
システム権限がありません。  
戻り: 常時。

### UserIdentifier

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。  
ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH  
戻り: 常時。

### ApplType

説明: このイベントを引き起こしたアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: このイベントを引き起こしたアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## **非許可 (タイプ 2)**

イベント名:	非許可 (タイプ 2)。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_NOT_AUTHORIZED (2035, X'7F3')。 アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、ユーザーは、指定したオプションのオブジェクトをオープンすることを許可されません。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## **イベント・データ**

### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### ***ReasonQualifier***

説明: タイプ 2 権限イベントの ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: MQRQ\_OPEN\_NOT\_AUTHORIZED オープンを許可されません。  
戻り: 常時。

### ***Options***

説明: MQOPEN 呼び出しで指定したオプション。  
ID: MQIACF\_OPEN\_OPTIONS  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### ***UserIdentifier***

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。  
ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH  
戻り: 常時。

### ***ApplType***

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### ***ApplName***

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### ***ObjectQMgrName***

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくオブジェクト・キュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectQMgrName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。

### **ProcessName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくプロセス・オブジェクト名。  
ID: MQCA\_PROCESS\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_PROCESS\_NAME\_LENGTH  
戻り: オープンしているオブジェクトが、プロセス・オブジェクトである場合。

### **TopicString**

説明: サブスクライブされた、またはオープンされたトピック・ストリング。  
ID: MQCA\_TOPIC\_STRING  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_TOPIC\_STR\_LENGTH  
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。

### **AdminTopicNames**

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。  
ID: MQCA\_ADMIN\_TOPIC\_NAME  
データ型: MQCFSL  
最大長: MQ\_TOPIC\_NAME\_LENGTH  
戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。

### **ObjectType**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくオブジェクト・タイプ。  
ID: MQIACF\_OBJECT\_TYPE  
データ型: MQCFIN

値: MQOT\_NA 名前リスト。  
MELIST  
MQOT\_PR プロセス。  
OCESS  
MQOT\_Q キュー。  
MQOT\_Q\_ キュー・マネージャー。  
MGR  
MQOT\_TO トピック。  
PIC  
戻り: 常時。

### ***NameListName***

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_NAMELIST\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_NAMELIST\_NAME\_LENGTH  
戻り: オープンされているオブジェクトが名前リスト・オブジェクトである場合。

### ***ConnName***

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### ***ChannelName***

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## **非許可 (タイプ 3)**

イベント名: 非許可 (タイプ 3)。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_NOT\_AUTHORIZED (2035, X'7F3')。  
アクセスが許可されません。

---

イベント記述: MQCLOSE 呼び出しを使用してキューをクローズするとき、ユーザーは、オブジェクトの削除を許可されません。そのオブジェクトは永続動的キューであり、MQCLOSE 呼び出しで指定された *Hobj* パラメーターは、そのキューを作成した MQOPEN 呼び出しによって返されたハンドルではありません。

MQCLOSE 呼び出しを使用してサブスクリプションをクローズするとき、ユーザーは MQCO\_REMOVE\_SUB オプションを使用してサブスクリプションを削除するように要求しましたが、ユーザーはサブスクリプションの作成者でないか、またはユーザーに、サブスクリプションに関連付けられたトピックに対する *sub* 権限がありません。

---

イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

---

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ReasonQualifier**

説明: タイプ 3 権限イベントの ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: **MQRQ\_CLOSE\_NOT\_AUTHORIZED**  
クローズを許可されません。  
戻り: 常時。

### **UserIdentifier**

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID  
ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: クローズされるハンドルがキューに対してのものである場合

### **SubName**

説明: 除去されるサブスクリプションの名前。  
ID: MQCACF\_SUB\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_SUB\_NAME\_LENGTH  
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

### **TopicString**

説明: サブスクリプションのトピック・ストリング。  
ID: MQCA\_TOPIC\_STRING  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_TOPIC\_STR\_LENGTH  
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

### **AdminTopicNames**

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。  
ID: MQCA\_ADMIN\_TOPIC\_NAME  
データ型: MQCFSL  
最大長: MQ\_TOPIC\_NAME\_LENGTH  
戻り: クローズされるハンドルがサブスクリプションに対してのものである場合。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **非許可 (タイプ 4)**

イベント名:	非許可 (タイプ 4)。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_NOT_AUTHORIZED (2035, X'7F3')。 アクセスが許可されません。
イベント記述:	コマンドに指定したオブジェクトにアクセスすることを許可されないユーザー ID でコマンドが実行されたことを示しています。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### **イベント・データ**

#### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **ReasonQualifier**

説明: タイプ 4 権限イベントの ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: **MQRQ\_CMD\_NOT\_AUTHORIZED**  
コマンドが許可されません。  
戻り: 常時。

#### **Command**

説明: コマンド ID。 [114 ページの『イベント・メッセージ MQCFH \(PCF ヘッダー\)』](#)で説明している MQCFH ヘッダー構造を参照してください。  
ID: MQIACF\_COMMAND

データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **UserIdentifier**

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。  
ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **不許可 (タイプ 5)**

イベント名:	不許可 (タイプ 5)。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_NOT_AUTHORIZED (2035, X'7F3')。 アクセスが許可されません。
イベント記述:	MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、指定したトピックをサブスクライブすることを許可されていません。
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### **イベント・データ**

#### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **ReasonQualifier**

説明: タイプ 5 権限イベントの ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN  
値: **MQRQ\_SUB\_NOT\_AUTHORIZED**  
サブスクライブが許可されていません。  
戻り: 常時。

#### **Options**

説明: MQSUB 呼び出しで指定されたオプション。  
ID: MQIACF\_SUB\_OPTIONS  
データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### ***UserIdentifier***

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。

ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH

戻り: 常時。

### ***ApplType***

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### ***ApplName***

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。

ID: MQCACF\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### ***TopicString***

説明: オープンされたストリング、またはサブスクライブされたストリング。

ID: MQCA\_TOPIC\_STRING

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_TOPIC\_STR\_LENGTH

戻り: 常時。

### ***AdminTopicNames***

説明: 権限が確認されたトピック管理オブジェクトのリスト。

ID: MQCA\_ADMIN\_TOPIC\_NAME

データ型: MQCFSL

最大長: MQ\_TOPIC\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### ***ConnName***

説明: クライアント接続の接続名。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **不許可 (タイプ 6)**

イベント名:	不許可 (タイプ 6)。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_NOT_AUTHORIZED (2035, X'7F3')。 アクセスが許可されません。
イベント記述:	<p>MQSUB 呼び出しで、ユーザーは、必要なアクセス・レベルで宛先キューを使用することを許可されていません。このイベントが返されるのは、管理対象ではない宛先キューを使用したサブスクリプションの場合のみです。</p> <p>サブスクリプションを作成、変更、または再開しているとき、宛先キューに対するハンドルが要求で提供されている場合、ユーザーは指定された宛先キューに対する PUT 権限を持っていません。</p> <p>サブスクリプションを再開または変更しているとき、宛先キューに対するハンドルが MQSUB 呼び出しで戻される場合、ユーザーは宛先キューに対する PUT、GET および BROWSE 権限を持っていません。</p>
イベント・タイプ:	権限。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### **イベント・データ**

#### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **ReasonQualifier**

説明: タイプ 6 権限イベントの ID。  
ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
データ型: MQCFIN

値: **MQRQ\_SUB\_DEST\_NOT\_AUTHORIZED**  
サブスクリプション宛先キューの使用は許可されていません。

戻り: 常時。

### **Options**

説明: MQSUB 呼び出しで指定されたオプション。

ID: MQIACF\_SUB\_OPTIONS

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **UserIdentifier**

説明: 許可検査を引き起こしたユーザー ID。

ID: MQCACF\_USER\_IDENTIFIER

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_USER\_ID\_LENGTH

戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: 許可検査を引き起こしたアプリケーションの名前。

ID: MQCACF\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **TopicString**

説明: サブスクライブされたトピック・ストリング。

ID: MQCA\_TOPIC\_STRING

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_TOPIC\_STR\_LENGTH

戻り: 常時。

### **DestQMgrName**

説明: サブスクリプションの宛先キューのホスティング・キュー・マネージャー名。

ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 宛先キューをホスティングするキュー・マネージャーが、アプリケーションが現在接続している キュー・マネージャーでない場合。

### **DestQName**

説明: サブスクリプションの宛先キューの名前。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **DestOpenOptions**

説明: 宛先キューについて要求されたオープン・オプション。  
ID: MQIACF\_OPEN\_OPTIONS  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## **書き込み禁止**

イベント名: 書き込み禁止。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_PUT\_INHIBITED (2051、X'803')。  
このキューまたはトピックに関して書き込みの呼び出しが禁止されています。

---

イベント記述: このキューまたはトピックに関して ([InhibitPut \(MQLONG\)](#) の *InhibitPut* キュー属性、または [104 ページの『トピック属性』](#) の *InhibitPublications* トピック属性を参照)、またはこのキューが解決されるキューに関して、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しが現在禁止されています。

---

イベント・タイプ: 禁止。

---

プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

---

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **QName**

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。

### **ApplType**

説明:	書き込みを発行したアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **ApplName**

説明:	書き込みを発行したアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **ObjectQMgrName**

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: このパラメーターの値が *QMGrName* の値と異なる場合のみ。これは、アプリケーションで MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しを発行するときに指定したオブジェクト記述子の *ObjectQMGrName* フィールドが、空白ではなく、またそのアプリケーションの ローカル・キュー・マネージャーの名前でもない場合です。ただし、オブジェクト記述子の *ObjectQMGrName* が空白であっても、ネーム・サービスから渡されたキュー・マネージャー名が、アプリケーションのローカル・キュー・マネージャーの名前でなければ、これと同じことが発生します。

### TopicString

説明: オープンしているトピック・ストリング  
ID: MQCA\_TOPIC\_STRING  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_TOPIC\_STR\_LENGTH  
戻り: オープンしているオブジェクトがトピックである場合。

### ConnName

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### 関連概念

[InhibitPut プロパティ](#)

### 関連資料

[Inquire Queue \(応答\)](#)

[Inquire Topic \(応答\)](#)

[Inquire Topic Status \(応答\)](#)

[Change Topic、Copy Topic、および Create Topic](#)

### キュー・サイズ上限

イベント名: キュー・サイズ上限。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_Q\_DEPTH\_HIGH (2224, X'8B0')。  
キュー・サイズ上限に到達したか、それを超えました。

---

イベント記述:	MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが原因で、キュー・サイズは、 <i>QDepthHighLimit</i> 属性で指定した限度まで増加したか、その限度を超えました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

**注:**

1. WebSphere MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティーが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[110 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **QName**

説明:	限度に達したキューの名前。
ID:	MQCA_BASE_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **TimeSinceReset**

説明:	統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。このタイマーで記録された値は、キュー・サービス間隔イベントの間隔の時間としても使用されます。
ID:	MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **HighQDepth**

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID:	MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

## MsgEnqCount

説明:	キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID:	MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

## MsgDeqCount

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID:	MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

## キュー・サイズ下限

イベント名:	キュー・サイズ下限。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_Q_DEPTH_LOW (2225, X'8B1')。 キュー・サイズ下限に到達したか、それを超えました。
イベント記述:	取得操作が原因で、キュー・サイズが、 <i>QDepthLowLimit</i> 属性で指定された限度まで減少したか、その限度を下回りました。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

### 注:

1. WebSphere MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、110 ページの『イベント・メッセージ MQMD (メッセージ記述子)』を参照してください。

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### QName

説明:	限度に達したキューの名前。
ID:	MQCA_BASE_Q_NAME

データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **TimeSinceReset**

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。このタイマーで記録された値は、キュー・サービス間隔イベントの間隔の時間としても使用されます。  
ID: MQIA\_TIME\_SINCE\_RESET  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **HighQDepth**

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。  
ID: MQIA\_HIGH\_Q\_DEPTH  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **MsgEnqCount**

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。  
ID: MQIA\_MSG\_ENQ\_COUNT  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **MsgDeqCount**

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。  
ID: MQIA\_MSG\_DEQ\_COUNT  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

## **キュー満杯**

イベント名:	キュー満杯。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_Q_FULL (2053, X'805'). キューには、既に最大数のメッセージが入っています。
イベント記述:	キューが満杯であるため、MQPUT 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが失敗しました。つまり、キューに入れることのできる最大数のメッセージが、既にキューに入っています ( <i>MaxQDepth</i> ローカル・キュー属性を参照してください)。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注:

1. WebSphere MQ for z/OS は、共有キュー上のキュー・サイズ・イベントをサポートしています。共有キュー上でキュー・マネージャーによるアクティビティが実行されなかった場合に、その共有キューに関する NULL イベント・メッセージを受け取ることがあります。
2. 共有キューの場合、メッセージ記述子 (MQMD) 中で関連 ID の *CorrelId* が設定されます。詳細については、[110 ページの『イベント・メッセージ MQMD \(メッセージ記述子\)』](#)を参照してください。

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **QName**

説明:	書き込みが拒否されたキューの名前。
ID:	MQCA_BASE_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **TimeSinceReset**

説明:	統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。
ID:	MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **HighQDepth**

説明:	キュー上のメッセージの最大数。
ID:	MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **MsgEnqCount**

説明:	キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID:	MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

## MsgDeqCount

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID:	MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

## キュー・マネージャーがアクティブ

イベント名:	キュー・マネージャーがアクティブ
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_Q_MGR_ACTIVE (2222、X'8AE')。 キュー・マネージャーがアクティブです。
イベント記述:	キュー・マネージャーがアクティブになると、この状況が検出されます。
イベント・タイプ:	開始および停止。
プラットフォーム:	すべて。ただし、WebSphere MQ for z/OS キュー・マネージャーを初めて開始した場合を除く。2 回目以降の再始動時にのみ作成される。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

## キュー・マネージャーが非アクティブ

イベント名:	キュー・マネージャーが非アクティブ。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_Q_MGR_NOT_ACTIVE (2223、X'8AF')。 キュー・マネージャーは利用できません。
イベント記述:	キュー・マネージャーの停止または静止を要求すると、この状況が検出されません。
イベント・タイプ:	開始および停止。
プラットフォーム:	すべて。ただし WebSphere MQ for z/OS を除く。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
-----	-------------------------

ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
 データ型: MQCFST  
 最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
 戻り: 常時。

### ReasonQualifier

説明: この理由コードの原因の ID。これは、要求された停止のタイプを指定します。  
 ID: MQIACF\_REASON\_QUALIFIER  
 データ型: MQCFIN  
 値: **MQRQ\_Q\_MGR\_STOPPING**  
       キュー・マネージャーが停止中です。  
       **MQRQ\_Q\_MGR QUIESCING**  
       キュー・マネージャーが静止しています。  
 戻り: 常時。

### キュー・サービス間隔上限

イベント名:	キュー・サービス間隔上限。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_Q_SERVICE_INTERVAL_HIGH (2226、X'8B2')。 キュー・サービス間隔上限。
イベント記述:	<i>QServiceInterval</i> 属性に指定された限度を超える間隔内で、正常に終了した取得操作または MQPUT 呼び出しが検出されていません。
イベント・タイプ:	パフォーマンス。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注: WebSphere MQ for z/OS は、共用キュー上のサービス間隔イベントをサポートしていません。

### イベント・データ

#### QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
 ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
 データ型: MQCFST  
 最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
 戻り: 常時。

#### QName

説明: このキュー・サービス間隔上限イベントが生成される原因となったコマンドで指定しているキューの名前。  
 ID: MQCA\_BASE\_Q\_NAME  
 データ型: MQCFST  
 最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: 常時。

### **TimeSinceReset**

説明: 統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。サービス間隔上限イベントの場合、この値は、サービス間隔より大きい値になります。

ID: MQIA\_TIME\_SINCE\_RESET

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **HighQDepth**

説明: キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。

ID: MQIA\_HIGH\_Q\_DEPTH

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **MsgEnqCount**

説明: キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。

ID: MQIA\_MSG\_ENQ\_COUNT

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **MsgDeqCount**

説明: キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。

ID: MQIA\_MSG\_DEQ\_COUNT

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

## **キュー・サービス間隔 OK**

イベント名: キュー・サービス間隔 OK。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_Q\_SERVICE\_INTERVAL\_OK (2227、X'8B3')。  
キュー・サービス間隔 OK。

---

イベント記述: *QServiceInterval* 属性に指定された限度以下の間隔内で、正常に終了した取得操作が検出されました。

---

イベント・タイプ: パフォーマンス。

---

プラットフォーム: すべて。

---

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.PERFM.EVENT.

注: WebSphere MQ for z/OS は、共用キュー上のサービス間隔イベントをサポートしていません。

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **QName**

説明:	このキュー・サービス間隔イベントが生成される原因となったコマンドで指定されているキューの名前。
ID:	MQCA_BASE_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **TimeSinceReset**

説明:	統計が最後にリセットされてからの秒単位の時間。
ID:	MQIA_TIME_SINCE_RESET
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **HighQDepth**

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからのキュー上のメッセージの最大数。
ID:	MQIA_HIGH_Q_DEPTH
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **MsgEnqCount**

説明:	キューに入れられたメッセージの数。これは、キュー統計が最後にリセットされてからキューに書き込まれたメッセージの数です。
ID:	MQIA_MSG_ENQ_COUNT
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **MsgDeqCount**

説明:	キュー統計が最後にリセットされてからキューから取り出されたメッセージの数。
ID:	MQIA_MSG_DEQ_COUNT
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

## キュー・タイプ・エラー

イベント名:	キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_Q_TYPE_ERROR (2057、X'809')。 キュー・タイプは無効です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しで、オブジェクト記述子の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドにリモート・キューのローカル定義の名前を指定しています (キュー・マネージャーの別名を指定するため)。そのローカル定義では、 <i>RemoteQMgrName</i> 属性は、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。しかし、 <i>ObjectName</i> フィールドには、ローカル・キュー・マネージャーのモデル・キューの名前を指定しています。これは認められません。詳しくは、 <a href="#">キュー・マネージャー・イベント</a> を参照してください。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### *QMgrName*

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### *QName*

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### *ApplType*

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### *ApplName*

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## **オブジェクトのリフレッシュ**

イベント名:	オブジェクトのリフレッシュ。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_CONFIG_REFRESH_OBJECT (2370、X'942')。 キュー・マネージャー構成のリフレッシュ。
イベント記述:	TYPE (CONFIGEV) を指定する REFRESH QMGR コマンドが発行されました。
イベント・タイプ:	構成。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT.

**注:** REFRESH QMGR コマンドは、多数の構成イベントを作成することができます。コマンドによって選択されるそれぞれのオブジェクトごとに1つのイベントが生成されます。

## イベント・データ

### **EventUserId**

説明:	コマンドを発行したユーザー ID、またはイベントを生成した呼び出し。(これは、コマンドまたは呼び出しを発行する権限の検査に使用するものと同じユーザー ID です。キューから受け取ったコマンドの場合、これはコマンド・メッセージの MQMD からのユーザー ID (UserIdentifier) でもあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_USER_ID
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_USER_ID_LENGTH
戻り:	常時。

### **EventOrigin**

説明:	イベントを引き起こしたアクションの発信元。
ID:	MQIACF_EVENT_ORIGIN
データ型:	MQCFIN
値:	<b>MQEVO_CONSOLE</b> コンソール・コマンド。 <b>MQEVO_INIT</b> 初期設定入力データ・セット・コマンド。 <b>MQEVO_INTERNAL</b> キュー・マネージャーによって直接。 <b>MQEVO_MSG</b> SYSTEM.COMMAND.INPUT 上のコマンド・メッセージ。 <b>MQEVO_OTHER</b> 上記のいずれでもない。
戻り:	常時。

### **EventQMGr**

説明:	コマンドまたは呼び出しが入れられたキュー・マネージャー。(コマンドが実行されたキュー・マネージャー、およびイベントを生成したキュー・マネージャーは、イベント・メッセージの MQMD にあります。)
ID:	MQCACF_EVENT_Q_MGR
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **EventAccountingToken**

説明:	メッセージ (MQEVO_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアカウントिंग・トークン (AccountingToken)。
ID:	MQBACF_EVENT_ACCOUNTING_TOKEN
データ型:	MQCFBS
最大長:	MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH
戻り:	EventOrigin が MQEVO_MSG の場合のみ。

### **EventApplIdentity**

説明:                   メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーション識別データ (ApplIdentityData)。

ID:                     MQCACF\_EVENT\_APPL\_IDENTITY

データ型:             MQCFST

最大長:               MQ\_APPL\_IDENTITY\_DATA\_LENGTH

戻り:                  EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplType**

説明:                   メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションのタイプ (PutApplType)。

ID:                     MQIACF\_EVENT\_APPL\_TYPE

データ型:             MQCFIN

戻り:                  EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplName**

説明:                   メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの名前 (PutApplName)。

ID:                     MQCACF\_EVENT\_APPL\_NAME

データ型:             MQCFST

最大長:               MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り:                  EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **EventApplOrigin**

説明:                   メッセージ (MQEVO\_MSG) として受け取ったコマンドの場合、コマンド・メッセージの MQMD からのアプリケーションの発信元データ (ApplOriginData)。

ID:                     MQCACF\_EVENT\_APPL\_ORIGIN

データ型:             MQCFST

最大長:               MQ\_APPL\_ORIGIN\_DATA\_LENGTH

戻り:                  EventOrigin が MQEVO\_MSG の場合のみ。

### **ObjectType**

説明:                   オブジェクト・タイプ:

ID:                     MQIACF\_OBJECT\_TYPE

データ型:             MQCFIN

値:

**MQOT\_CHANNEL**  
チャンネル。

**MQOT\_CHLAUTH**  
チャンネル認証レコード

**MQOT\_NAMELIST**  
名前リスト。

**MQOT\_NONE**  
オブジェクトなし。

**MQOT\_PROCESS**  
プロセス。

**MQOT\_Q**  
キュー。

**MQOT\_Q\_MGR**  
キュー・マネージャー。

**MQOT\_STORAGE\_CLASS**  
ストレージ・クラス。

**MQOT\_AUTH\_INFO**  
認証情報

**MQOT\_CF\_STRUC**  
CF 構造。

**MQOT\_TOPIC**  
トピック。

**MQOT\_COMM\_INFO**  
通信情報。

**MQOT\_LISTENER**  
チャンネル・リスナー。

戻り: 常時。

### **ObjectName**

説明: オブジェクト名:

ID: ID はオブジェクト・タイプに従ったものになります。

- MQCACH\_CHANNEL\_NAME
- MQCA\_NAMELIST\_NAME
- MQCA\_PROCESS\_NAME
- MQCA\_Q\_NAME
- MQCA\_Q\_MGR\_NAME
- MQCA\_STORAGE\_CLASS
- MQCA\_AUTH\_INFO\_NAME
- MQCA\_CF\_STRUC\_NAME
- MQCA\_TOPIC\_NAME
- MQCA\_COMM\_INFO\_NAME
- MQCACH\_LISTENER\_NAME

注: MQCACH\_CHANNEL\_NAME は、チャンネル認証にも使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_OBJECT\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時

### Disposition

説明: オブジェクトの属性指定。

ID: MQIA\_QSG\_DISP

データ型: MQCFIN

値: **MQQSGD\_Q\_MGR**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあります。

**MQQSGD\_SHARED**

オブジェクトは共有リポジトリ内にあり、メッセージがカップリング・ファシリティで共有されます。

**MQQSGD\_GROUP**

オブジェクトは共有リポジトリにあります。

**MQQSGD\_COPY**

オブジェクトはキュー・マネージャーのページ・セットにあり、GROUP オブジェクトのローカル・コピーです。

戻り: 常時 (キュー・マネージャーおよび CF 構造化オブジェクトは除く)。

### オブジェクトの属性

オブジェクトの属性ごとにパラメータ構造が戻されます。戻される属性はオブジェクト・タイプによって異なります。詳しくは、[74 ページの『イベント・データのオブジェクト属性』](#)を参照してください。

### リモート・キュー名エラー

イベント名:	リモート・キュー名エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_REMOTE_Q_NAME_ERROR (2184, X'888')。 リモート・キュー名が無効です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しましたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの状況が発生しています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・リモート・キューのローカル定義(またはその別名)が指定されましたが、リモート・キュー定義の <i>RemoteQName</i> 属性はブランクです。定義内の <i>XmitQName</i> がブランクでなくても、このエラーは発生します。</li><li>・オブジェクト記述子の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドはブランクではなく、ローカル・キュー・マネージャーの名前ではありませんが、<i>ObjectName</i> フィールドはブランクです。</li></ul>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### イベント・データ

#### QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。

ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。

ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## 伝送キュー・タイプ・エラー

イベント名:	伝送キュー・タイプ・エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_XMIT_Q_TYPE_ERROR (2091、X'82B')。 伝送キューはローカルではありません。
イベント記述:	<p>MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子内の <i>ObjectName</i> フィールドまたは <i>ObjectQMgrName</i> フィールドに、リモート・キューのローカル定義の名前が指定されていますが、その定義の <i>XmitQName</i> 属性が次のいずれかに該当します。次のいずれかの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>XmitQName</i> がブランクではないが、ローカル・キューではないキューをこのフィールドに指定している。または、</li> <li>• <i>XmitQName</i> はブランクだが、<i>RemoteQMgrName</i> はローカル・キューでないキューを指定している。</li> </ul> <p>この状況は、キュー名がセル・ディレクトリーによって解決されるときに、セル・ディレクトリーから取得したリモート・キュー・マネージャー名としてキューの名前ですが、ローカル・キューではない場合にも発生します。</p>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### QName

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### ***XmitQName***

説明: 伝送キュー名。  
ID: MQCA\_XMIT\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### ***QType***

説明: 伝送キューのタイプ。  
ID: MQIA\_Q\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
値: **MQQT\_ALIAS**  
別名キュー定義。  
**MQQT\_REMOTE**  
リモート・キューのローカル定義。  
戻り: 常時。

### ***ApplType***

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### ***ApplName***

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### ***ObjectQMgrName***

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### ***ConnName***

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### ChannelName

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### 伝送キュー使用エラー

イベント名:	伝送キュー使用エラー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_XMIT_Q_USAGE_ERROR (2092、X'82C')。 伝送キューの使用方法が正しくありません。
イベント記述:	<p>MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しでは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーへ送信されようとしていますが、次のいずれかの状況が発生しています。次のいずれかの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>ObjectQMgrName</i> はローカル・キューの名前を指定していますが、<i>Usage</i> 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。</li> <li>• オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> フィールドまたは <i>ObjectQMgrName</i> フィールドにリモート・キューのローカル定義の名前が指定されていますが、以下のいずれかが定義の <i>XmitQName</i> 属性に適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- <i>XmitQName</i> は空白ではないが、<i>Usage</i> 属性が MQUS_TRANSMISSION ではないキューが指定されている。</li> <li>- <i>XmitQName</i> は空白だが、<i>RemoteQMgrName</i> に、<i>Usage</i> 属性が MQUS_TRANSMISSION でないキューが指定されている。</li> </ul> </li> <li>• キュー名がセル・ディレクトリーを介して解決され、セル・ディレクトリーから得られたリモート・キュー・マネージャー名はローカル・キューの名前になっていますが、<i>Usage</i> 属性が MQUS_TRANSMISSION ではありません。</li> </ul>
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### イベント・データ

#### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。

ID: MQCA\_Q\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: 常時。

### **XmitQName**

説明: 伝送キュー名。

ID: MQCA\_XMIT\_Q\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。

ID: MQCACF\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **不明別名基本キュー**

---

イベント名: 不明別名基本キュー。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_UNKNOWN\_ALIAS\_BASE\_Q (2082、X'822')。  
不明別名基本キューまたはトピック。

---

イベント記述: 宛先として別名キューを指定して MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、別名キュー属性内の *BaseObjectName* がキュー名またはトピック名として認識されません。

---

イベント・タイプ: ローカル。

---

プラットフォーム: すべて。

---

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### **イベント・データ**

#### **QMgrName**

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

#### **BaseObjectName**

説明: 別名が解決されるオブジェクト名。

ID: MQCA\_BASE\_OBJECT\_NAME。既存アプリケーションとの互換性のために、MQCA\_BASE\_Q\_NAME を引き続き使用できます。

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。

ID: MQCACF\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **BaseType**

説明: 別名が解決されるオブジェクトのタイプ。

ID: MQIA\_BASE\_TYPE

データ型: MQCFIN

値: **MQOT\_Q**  
基本オブジェクト・タイプはキューです。  
**MQOT\_TOPIC**  
基本オブジェクト・タイプはトピックです。

戻り: 常時。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### ChannelName

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### 不明デフォルト伝送キュー

イベント名: 不明デフォルト伝送キュー。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_UNKNOWN\_DEF\_XMIT\_Q (2197、X'895')。  
不明デフォルト伝送キュー。

---

イベント記述: リモート・キューを宛先に指定して、MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しが発行されました。リモート・キューのローカル定義が指定された場合か、キュー・マネージャーの別名が解決される場合は、ローカル定義内の *XmitQName* 属性はブランクです。  
  
いずれのキューも宛先キュー・マネージャーと同じ名前では定義されていません。したがって、キュー・マネージャーは、デフォルト伝送キューを使用しようとして、*DefXmitQName* キュー・マネージャー属性で指定された名前は、ローカル定義されたキューの名前ではありません。

---

イベント・タイプ: リモート。

---

プラットフォーム: すべて。

---

イベント・キュー: SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

### イベント・データ

#### QMgrName

説明: イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCA\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

#### QName

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: 常時。

### **XmitQName**

説明: デフォルト伝送キュー名。

ID: MQCA\_XMIT\_Q\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションのタイプ。

ID: MQIA\_APPL\_TYPE

データ型: MQCFIN

戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションの名前。

ID: MQCACF\_APPL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH

戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。

ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME

データ型: MQCFST

最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## 不明オブジェクト名

イベント名:	不明オブジェクト名。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME (2085、X'825')。 オブジェクト名が不明です。
イベント記述:	MQOPEN 呼び出しまたは MQPUT1 呼び出しで、オブジェクト記述子 MQOD の <i>ObjectQMgrName</i> フィールドは、次のいずれかのオプションに設定されます。次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク</li> <li>• ローカル・キュー・マネージャーの名前</li> <li>• <i>RemoteQMgrName</i> 属性がローカル・キュー・マネージャーの名前になっているリモート・キューのローカル定義の名前 (キュー・マネージャー別名)</li> </ul> ただし、オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> は、指定したオブジェクト・タイプに関して認識されません。
イベント・タイプ:	ローカル。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### QMgrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### ApplType

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### ApplName

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH

戻り: 常時。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。

ID: MQCA\_Q\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。

戻り: オープンされているオブジェクトがキュー・オブジェクトである場合。 *QName* または *TopicName* が返されます。

### **ProcessName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくプロセス・オブジェクト名。

ID: MQCA\_PROCESS\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_PROCESS\_NAME\_LENGTH

戻り: オープンしているオブジェクトが、プロセス・オブジェクトである場合。 *ProcessName*、*QName*、または *TopicName* のいずれかが返されます。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。

ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH

戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **TopicName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくトピック・オブジェクト名。

ID: MQCA\_TOPIC\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_TOPIC\_NAME\_LENGTH

戻り: オープンされているオブジェクトがトピック・オブジェクトである場合。 *ProcessName*、*QName*、または *TopicName* のいずれかが返されます。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。

ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME

データ型: MQCFST

最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH

戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CHANNEL\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **不明リモート・キュー・マネージャー**

イベント名: 不明リモート・キュー・マネージャー。

---

MQCFH 中の理由コード: MQRC\_UNKNOWN\_REMOTE\_Q\_MGR (2087、X'827')。  
不明リモート・キュー・マネージャー。

---

イベント記述: MQOPEN 呼び出しましたは MQPUT1 呼び出しで、次のいずれかの理由でキュー名の解決時にエラーが発生しました。

- *ObjectQMGrName* は、ブランクまたはローカル・キュー・マネージャーの名前であり、*ObjectName* は、ブランクの *XmitQName* を持つリモート・キューのローカル定義の名前です。しかし、*RemoteQMGrName* の名前前で定義された (伝送) キューはなく、*DefXmitQName* キュー・マネージャー属性はブランクです。
- *ObjectQMGrName* が、キュー・マネージャー別名定義 (リモート・キューのローカル定義として保持される) の名前であり、その定義では、*XmitQName* がブランクになっています。しかし、*RemoteQMGrName* の名前前で定義された (伝送) キューはなく、*DefXmitQName* キュー・マネージャー属性はブランクです。
- 指定した *ObjectQMGrName* が次のいずれでもありません。
  - ブランク
  - ローカル・キュー・マネージャーの名前
  - ローカル・キューの名前
  - キュー・マネージャー別名定義 (*RemoteQName* がブランクのリモート・キューのローカル定義) の名前また、*DefXmitQName* キュー・マネージャー属性はブランクです。
- *ObjectQMGrName* がブランクまたはローカル・キュー・マネージャーの名前であり、*ObjectName* がリモート・キューのローカル定義の名前 (またはその別名)。その定義に関しても *RemoteQMGrName* はブランクであるか、ローカル・キュー・マネージャーの名前です。 *XmitQName* がブランクでない場合でも、このエラーが発生します。
- *ObjectQMGrName* がリモート・キューのローカル定義の名前。この場合、キュー・マネージャー別名定義でなければなりません。しかし、その定義の *RemoteQName* がブランクではありません。
- *ObjectQMGrName* がモデル・キューの名前です。
- セル・ディレクトリーによって解決されるキューの名前。しかし、セル・ディレクトリーから取得したリモート・キュー・マネージャーと同じ名前前で定義されているキューは存在しません。また、*DefXmitQName* キュー・マネージャー属性はブランクです。
- z/OS 上でのみ、メッセージがキュー共用グループのキュー・マネージャーに書き込まれて、*SQQMNAME* が *USE* に設定されます。これは、メッセージがキューに書き込まれるようにするために、指定されたキュー・マネージャーにメッセージを送付します。 *SQQMNAME* が *IGNORE* に設定されている場合、メッセージはキューに直接書き込まれます。

---

イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

---

## イベント・データ

### QMGrName

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST

最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **QName**

説明: オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。  
ID: MQCA\_Q\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_NAME\_LENGTH。  
戻り: 常時。

### **ApplType**

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションのタイプ。  
ID: MQIA\_APPL\_TYPE  
データ型: MQCFIN  
戻り: 常時。

### **ApplName**

説明: リモート・キューをオープンしようとしているアプリケーションの名前。  
ID: MQCACF\_APPL\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_APPL\_NAME\_LENGTH  
戻り: 常時。

### **ObjectQMgrName**

説明: オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。  
ID: MQCACF\_OBJECT\_Q\_MGR\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_Q\_MGR\_NAME\_LENGTH  
戻り: オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の *ObjectName* が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **ConnName**

説明: クライアント接続の接続名。  
ID: MQCACH\_CONNECTION\_NAME  
データ型: MQCFST  
最大長: MQ\_CONN\_NAME\_LENGTH  
戻り: イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明: クライアント接続のチャンネル名。  
ID: MQCACH\_CHANNEL\_NAME

データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## 不明伝送キュー

イベント名:	不明伝送キュー。
MQCFH 中の理由コード:	MQRC_UNKNOWN_XMIT_Q (2196、X'894')。 不明伝送キュー。
イベント記述:	MQOPEN または MQPUT1 呼び出しでは、メッセージはリモート・キュー・マネージャーに送られます。オブジェクト記述子の <i>ObjectName</i> または <i>ObjectQMgrName</i> にリモート・キューのローカル定義の名前を指定しています (後者の場合、キュー・マネージャー別名化機能が使用されています)。しかし、その定義の <i>XmitQName</i> 属性は空白ではなく、また、ローカルに定義されたキューの名前でもありません。
イベント・タイプ:	リモート。
プラットフォーム:	すべて。
イベント・キュー:	SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT.

## イベント・データ

### **QMgrName**

説明:	イベントを生成するキュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCA_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **QName**

説明:	オブジェクト記述子 (MQOD) に基づくキュー名。
ID:	MQCA_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **XmitQName**

説明:	伝送キュー名。
ID:	MQCA_XMIT_Q_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_NAME_LENGTH。
戻り:	常時。

### **ApplType**

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションのタイプ。
ID:	MQIA_APPL_TYPE
データ型:	MQCFIN
戻り:	常時。

### **ApplName**

説明:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションの名前。
ID:	MQCACF_APPL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_APPL_NAME_LENGTH
戻り:	常時。

### **ObjectQMgrName**

説明:	オブジェクト・キュー・マネージャーの名前。
ID:	MQCACF_OBJECT_Q_MGR_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH
戻り:	オブジェクトがオープンされたときに、オブジェクト記述子 (MQOD) の <i>ObjectName</i> が現在接続されているキュー・マネージャーではない場合。

### **ConnName**

説明:	クライアント接続の接続名。
ID:	MQCACH_CONNECTION_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CONN_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

### **ChannelName**

説明:	クライアント接続のチャンネル名。
ID:	MQCACH_CHANNEL_NAME
データ型:	MQCFST
最大長:	MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH
戻り:	イベントを引き起こした MQI 呼び出しを実行しているアプリケーションが、クライアントに接続されたアプリケーションかどうか。

## **トラブルシューティングとサポートのリファレンス**

---

このセクションの参照情報は、IBM WebSphere MQ でのエラーを診断する上で役立ちます。

以下のリストから該当するトピックを選択して、IBM WebSphere MQ の問題とエラーを診断してください。

- [214 ページの『IBM WebSphere MQ Telemetry for Windows のトレース・データの例』](#)
- [215 ページの『UNIX and Linux システムの IBM WebSphere MQ Telemetry のトレース・データの例』](#)
- [219 ページの『トレース出力の例』](#)
- [221 ページの『CEDF の出力例』](#)

#### **関連概念**

[トラブルシューティングの概要](#)

#### **関連タスク**

[トラブルシューティングとサポート](#)

[トレースの使用法](#)

## **IBM WebSphere MQ Telemetry for Windows のトレース・データの例**

IBM WebSphere MQ Telemetry for Windows トレース・ファイルの抜粋。

Counter	TimeStamp	PID.TID	Ident	Data
00000EF7	16:18:56.381367	2512.1	:	!! - Thread stack
00000EF8	16:18:56.381406	2512.1	:	!! - -> InitProcessInitialisation
00000EF9	16:18:56.381429	2512.1	:	--{ InitProcessInitialisation
00000EFA	16:18:56.381514	2512.1	:	---{ xcsReleaseThreadMutexSem
00000EFB	16:18:56.381529	2512.1	:	---{ xcsReleaseThreadMutexSem (rc=OK)
00000EFC	16:18:56.381540	2512.1	:	---{ xcsGetEnvironmentString
00000EFD	16:18:56.381574	2512.1	:	xcsGetEnvironmentString[AMQ_REUSE_SHARED_THREAD] = NULL
00000EFE	16:18:56.381587	2512.1	:	---}! xcsGetEnvironmentString (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000EFF	16:18:56.381612	2512.1	:	---{ xcsGetEnvironmentInteger
00000F00	16:18:56.381622	2512.1	:	----{ xcsGetEnvironmentString
00000F01	16:18:56.381647	2512.1	:	xcsGetEnvironmentString[AMQ_AFFINITY_MASK] = NULL
00000F02	16:18:56.381660	2512.1	:	----}! xcsGetEnvironmentString (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F03	16:18:56.381673	2512.1	:	---}! xcsGetEnvironmentInteger (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F04	16:18:56.381684	2512.1	:	---{ xcsGetEnvironmentString
00000F05	16:18:56.381708	2512.1	:	xcsGetEnvironmentString[AMQ_FFSTINFO] = NULL
00000F06	16:18:56.381747	2512.1	:	---}! xcsGetEnvironmentString (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F07	16:18:56.381760	2512.1	:	---{ xcsIsEnvironment
00000F08	16:18:56.381783	2512.1	:	xcsIsEnvironment[AMQ_DEBUG_MTIME] = FALSE
00000F09	16:18:56.381793	2512.1	:	---{ xcsIsEnvironment (rc=OK)
00000F0A	16:18:56.381804	2512.1	:	---{ xcsGetEnvironmentInteger
00000F0B	16:18:56.381811	2512.1	:	----{ xcsGetEnvironmentString
00000F0C	16:18:56.381835	2512.1	:	xcsGetEnvironmentString[AMQ_CBM_REUSE_FACTOR] = NULL
00000F0D	16:18:56.381848	2512.1	:	----}! xcsGetEnvironmentString (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F0E	16:18:56.381861	2512.1	:	---}! xcsGetEnvironmentInteger (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F0F	16:18:56.381874	2512.1	:	---{ xcsGetEnvironmentInteger
00000F10	16:18:56.381885	2512.1	:	----{ xcsGetEnvironmentString
00000F11	16:18:56.381908	2512.1	:	xcsGetEnvironmentString[AMQ_CBM_MAX_CACHEABLE_SIZE] = NULL
00000F12	16:18:56.381919	2512.1	:	----}! xcsGetEnvironmentString (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F13	16:18:56.381929	2512.1	:	---}! xcsGetEnvironmentInteger (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F14	16:18:56.381941	2512.1	:	---{ xcsGetEnvironmentInteger
00000F15	16:18:56.381952	2512.1	:	----{ xcsGetEnvironmentString
00000F16	16:18:56.381976	2512.1	:	xcsGetEnvironmentString[AMQ_CBM_LEN] = NULL
00000F17	16:18:56.381992	2512.1	:	----}! xcsGetEnvironmentString (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F18	16:18:56.382003	2512.1	:	---}! xcsGetEnvironmentInteger (rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND)
00000F19	16:18:56.382016	2512.1	:	--} InitProcessInitialisation (rc=OK)
00000F1A	16:18:56.383045	2512.1	:	--{ DLLMain
00000F1B	16:18:56.383059	2512.1	:	---{ MCSInitCriticalSection
00000F1C	16:18:56.383068	2512.1	:	---{ MCSInitCriticalSection (rc=OK)

図 1. WebSphere MQ for Windows トレースのサンプル

## UNIX and Linux システムの IBM WebSphere MQ Telemetry のトレース・データの例

IBM WebSphere MQ Telemetry for HP-UX のトレース・ファイルの抜粋

```

Timestamp      Process.Thread Trace Ident Trace Data
=====
10:36:38.973286 11352.1      :      Header.v02:7.0:HP-UX B.11.31:64:0:1:GMT
10:36:38.973328 11352.1      :      Version : 7.0.1.3   Level :
p701-103-100814
10:36:38.973347 11352.1      :      UTC   Date : 02/28/12 Time :
10:36:38.973271
10:36:38.973356 11352.1      :      Local Date : 02/28/12 Time :
10:36:38.973271 GMT
10:36:38.973378 11352.1      :      PID : 11352 Process : dltmqm_nd (64-bit)
10:36:38.973384 11352.1      :      Host : myhost
10:36:38.973389 11352.1      :      Operating System : HP-UX B.11.31
10:36:38.973394 11352.1      :      Product Long Name : WebSphere MQ for HP-UX
(Itanium platform)
10:36:38.973399 11352.1      :      -----
10:36:38.973405 11352.1      :      xtrNullFd: 4, xihTraceFileNum: 5
10:36:38.973434 11352.1      :      Thread stack
10:36:38.974303 11352.1      :      -> InitProcessInitialisation
10:36:38.974309 11352.1      :      { InitProcessInitialisation
10:36:38.974314 11352.1      :      -{ xcsIsEnvironment
10:36:38.974338 11352.1      :      xcsIsEnvironment[AMQ_NO_CS_RELOAD] = FALSE
10:36:38.974343 11352.1      :      -} xcsIsEnvironment rc=OK
10:36:38.974356 11352.1      :      -{ xcsLoadFunction
10:36:38.974362 11352.1      :      LibName(libmqmcs_r.so) LoadType(2097200)
10:36:38.974368 11352.1      :      General, comms, CS, OAM, or WAS
10:36:38.974388 11352.1      :      --{ xcsQueryValueForSubpool
10:36:38.974401 11352.1      :      --{ xcsQueryValueForSubpool rc=OK
10:36:38.974451 11352.1      :      FullPathLibName(/opt/mqm/lib64/
libmqmcs_r.so) loaded with dlopen
10:36:38.974456 11352.1      :      --{ xcsGetMemFn
10:36:38.974463 11352.1      :      component:24 function:176 length:2088
options:0 cbmindex:-1 *pointer:600000000003b198
10:36:38.974468 11352.1      :      --{ xcsGetMemFn rc=OK
10:36:38.974475 11352.1      :      Handle(0000000000000000)
Function(0000000000000000) FullPathLibName(/opt/mqm/lib64/libmqmcs_r.so)
10:36:38.974480 11352.1      :      -} xcsLoadFunction rc=OK
10:36:38.974486 11352.1      :      SystemPageSize is 4096.
10:36:38.974493 11352.1      :      getrlimit for RLIMIT_NOFILE returned
rlim_cur=2048 rlim_max=4096

```

図 2. WebSphere MQ for HP-UX のトレースのサンプル

217 ページの図 3 は、WebSphere MQ for Solaris のトレースの抜粋を示しています。

```

Timestamp      Process.Thread Trace Ident Trace Data
=====
11:48:57.905466 7078.1      :      Header.v02:7.0:SunOS 5.9:64:-1:1:GMT
11:48:57.905625 7078.1      :      Version : 7.0.0.0   Level : p000-L090514
11:48:57.905770 7078.1      :      UTC   Date : 05/15/09   Time :
10:48:57.905364
11:48:57.905816 7078.1      :      Local Date : 05/15/09   Time :
11:48:57.905364 GMT
11:48:57.906104 7078.1      :      PID : 7078 Process : dltmqm_nd (64-bit)
11:48:57.906129 7078.1      :      Host : computer.v6.hursley.ibm.com
11:48:57.906148 7078.1      :      Operating System : SunOS 5.9
11:48:57.906167 7078.1      :      Product Long Name : WebSphere MQ for
Solaris (SPARC platform)
11:48:57.906184 7078.1      :      -----
11:48:57.906203 7078.1      :      xtrNullFd: 4, xihTraceFileNum: 5
11:48:57.906276 7078.1      :      Thread stack
11:48:57.906353 7078.1      :      { xcsInitialize
11:48:57.906385 7078.1      :      --{ InitPrivateServices
11:48:57.906439 7078.1      :      --{ xcsGetEnvironmentString
11:48:57.906566 7078.1      :
xcsGetEnvironmentString[MQS_ACTION_ON_EXCEPTION] = NULL
11:48:57.906608 7078.1      :      --{! xcsGetEnvironmentString
rc=xecE_E_ENV_VAR_NOT_FOUND
11:48:57.906709 7078.1      :      --{ xcsIsEnvironment
11:48:57.906738 7078.1      :      xcsIsEnvironment[AMQ_SIGCHLD_SIGACTION] =
FALSE
11:48:57.906755 7078.1      :      --{ xcsIsEnvironment rc=OK
11:48:57.906771 7078.1      :      AMQ_SIGCHLD_SIGACTION is not set
11:48:57.906835 7078.1      :      --{ xcsIsEnvironment
11:48:57.906862 7078.1      :
xcsIsEnvironment[MQS_NO_SYNC_SIGNAL_HANDLING] = FALSE
11:48:57.906878 7078.1      :      --{ xcsIsEnvironment rc=OK
11:48:57.907000 7078.1      :      FPE Handler installed, New=7e0b0f38, Old=0
11:48:57.907035 7078.1      :      SEGV Handler installed, New=7e0b0f38, Old=0
11:48:57.907063 7078.1      :      BUS Handler installed, New=7e0b0f38, Old=0
11:48:57.907091 7078.1      :      ILL Handler installed, New=7e0b0f38, Old=0
11:48:57.907109 7078.1      :      Synchronous Signal Handling Activated

```

図 3. WebSphere MQ for Solaris のトレースのサンプル

218 ページの図 4 は、WebSphere MQ for Linux トレースの抜粋です。

```

Timestamp      Process.Thread Trace Ident Trace Data
=====
11:02:23.643879 1239.1      :      Header.v02:7.0:Linux 2.6.5-7.276-
smp:32:-1:1:GMT
11:02:23.643970 1239.1      :      Version : 7.0.0.0    Level : p000-L090514
11:02:23.644025 1239.1      :      UTC   Date : 05/15/09 Time :
10:02:23.643841
11:02:23.644054 1239.1      :      Local Date : 05/15/09 Time :
11:02:23.643841 GMT
11:02:23.644308 1239.1      :      PID : 1239 Process : dltmqm (32-bit)
11:02:23.644324 1239.1      :      Host : hal1
11:02:23.644334 1239.1      :      Operating System : Linux 2.6.5-7.276-smp
11:02:23.644344 1239.1      :      Product Long Name : WebSphere MQ for Linux
(x86 platform)
11:02:23.644353 1239.1      :      -----
11:02:23.644363 1239.1      :      xtrNullFd: 3, xihTraceFileNum: 4
11:02:23.644394 1239.1      :      Thread stack
11:02:23.644412 1239.1      :      -> InitProcessInitialisation
11:02:23.644427 1239.1      :      { InitProcessInitialisation
11:02:23.644439 1239.1      :      -{ xcsIsEnvironment
11:02:23.644469 1239.1      :      : xcsIsEnvironment[AMQ_NO_CS_RELOAD] = FALSE
11:02:23.644485 1239.1      :      -} xcsIsEnvironment rc=OK
11:02:23.644504 1239.1      :      -{ xcsLoadFunction
11:02:23.644519 1239.1      :      : LibName(libmqmcs_r.so) LoadType(2097200)
11:02:23.644537 1239.1      :      : General, comms, CS, OAM, or WAS
11:02:23.644558 1239.1      :      --{ xcsQueryValueForSubpool
11:02:23.644579 1239.1      :      --{ xcsQueryValueForSubpool rc=OK
11:02:23.644641 1239.1      :      : FullPathLibName(/opt/mqm/lib/
libmqmcs_r.so) loaded with dlopen
11:02:23.644652 1239.1      :      --{ xcsGetMem
11:02:23.644675 1239.1      :      : component:24 function:176 length:8212
options:0 cbmindex:-1 *pointer:0x8065908
11:02:23.644685 1239.1      :      --{ xcsGetMem rc=OK
11:02:23.644722 1239.1      :      : Handle((nil)) Function((nil))
FullPathLibName(/opt/mqm/lib/libmqmcs_r.so)
11:02:23.644732 1239.1      :      -} xcsLoadFunction rc=OK
11:02:23.644753 1239.1      :      : SystemPageSize is 4096.

```

図 4. WebSphere MQ for Linux トレースのサンプル

219 ページの図 5 は、WebSphere MQ for AIX トレースの抜粋です。

Timestamp	Process.Thread	Trace Ident	Trace Data
12:06:32.904335	622742.1	:	Header.v02:7.0:AIX 5.3:64:-1:1:GMT
12:06:32.904427	622742.1	:	Version : 7.0.0.0 Level : p000-L090514
12:06:32.904540	622742.1	:	UTC Date : 05/15/09 Time :
11:06:32.904302			
12:06:32.904594	622742.1	:	Local Date : 05/15/09 Time :
12:06:32.904302	GMT		
12:06:32.904697	622742.1	:	PID : 622742 Process : dltmqm_nd (64-bit)
12:06:32.904728	622742.1	:	Host : dynamo
12:06:32.904755	622742.1	:	Operating System : AIX 5.3
12:06:32.904781	622742.1	:	Product Long Name : WebSphere MQ for AIX
12:06:32.904806	622742.1	:	-----
12:06:32.904832	622742.1	:	xtrNullFd: 3, xihTraceFileNum: 5
12:06:32.904916	622742.1	:	Data: 0x00000000
12:06:32.904952	622742.1	:	Thread stack
12:06:32.904982	622742.1	:	-> InitProcessInitialisation
12:06:32.905007	622742.1	:	{ InitProcessInitialisation
12:06:32.905033	622742.1	:	-{ xcsIsEnvironment
12:06:32.905062	622742.1	:	xcsIsEnvironment[AMQ_NO_CS_RELOAD] = FALSE
12:06:32.905088	622742.1	:	-} xcsIsEnvironment rc=OK
12:06:32.905117	622742.1	:	-{ xcsLoadFunction
12:06:32.905145	622742.1	:	LibName(libmqmcs_r.a(shr.o))
LoadType(2097200)			
12:06:32.905178	622742.1	:	General, comms, CS, OAM, or WAS
12:06:32.905204	622742.1	:	--{ xcsQueryValueForSubpool
12:06:32.905282	622742.1	:	--} xcsQueryValueForSubpool rc=OK
12:06:32.905504	622742.1	:	FullPathLibName(/usr/mqm/lib64/
libmqmcs_r.a(shr.o)) loaded with load			
12:06:32.905540	622742.1	:	--{ xcsGetMem
12:06:32.905575	622742.1	:	component:24 function:176 length:2088
options:0 cbminindex:-1 *pointer:110011408			
12:06:32.905601	622742.1	:	--} xcsGetMem rc=OK
12:06:32.905638	622742.1	:	Handle(0) Function(0)
FullPathLibName(/usr/mqm/lib64/libmqmcs_r.a(shr.o))			
12:06:32.905665	622742.1	:	-} xcsLoadFunction rc=OK

図 5. WebSphere MQ for AIX のトレースのサンプル

## トレース出力の例

このトピックを、トレース出力を解釈する方法の例として使用してください。

220 ページの図 6 に、MQPUT1 呼び出しへの入り口でとられるトレースの例を示してあります。次の項目が示されています。

- キュー要求パラメーター・リスト
- オブジェクト記述子 (MQOD)
- メッセージ記述子 (MQMD)
- メッセージ書き出しオプション (MQPMO)
- メッセージ・データの最初の 256 バイト

221 ページの図 7 には、WebSphere MQ からの出口で生成された同じ制御ブロックが示されています。それと比較してみてください。

```

USRD9 5E9 ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW072I ENTRY: MQ user parameter trace
PUTONE
  Thread... 004C2B10  Userid... CICSUSER  pObjDesc. 106B2010
  pMsgDesc. 106B20B8  pPMO.... 106B2200
  BufferL... 00000064  pBuffer.. 106A0578  RSV1..... 00000000
  RSV2..... 00000000  RSV3..... 116BC830
  C9E8C1E8  C5C3C9C3  AA8E8583  76270484  | IYAYECIC..ec...d |
  D4D8E3E3  0000048C  00000000  00000000  | MQTT.....       |
  00000000  1910C7C2  C9C2D4C9  E8C14BC9  | .....GBIBMIYA.I |
  C7C3E2F2  F0F48E85  83762979  00010000  | GCS204.ec..`.... |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412320  LOC-01/30/05 14:42:08.412320

USRD9 5E9 ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW072I ENTRY: MQ user parameter trace
+0000 D6C44040 00000001 00000000 C2404040 | OD .....B      |
+0010 40404040 40404040 40404040 40404040 |                  |
...
+00A0 00000000 00000000                | .....          |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412345  LOC-01/30/05 14:42:08.412345

USRD9 5E9 ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW072I ENTRY: MQ user parameter trace
+0000 D4C44040 00000001 00000000 00000008 | MD .....       |
...
+0130 40404040 40404040 40404040 40404040 |                  |
+0140 40404040                |                  |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412370  LOC-01/30/05 14:42:08.412370

USRD9 5E9 ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW072I ENTRY: MQ user parameter trace
+0000 D7D4D640 00000001 00000000 FFFFFFFF | PMO .....       |
...
+0070 40404040 40404040 40404040 40404040 |                  |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412393  LOC-01/30/05 14:42:08.412393

USRD9 5E9 ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW072I ENTRY: MQ user parameter trace
+0000 C1C1C1C1 C1C1C1C1 C1404040 40404040 | AAAAAAAAAA      |
...
+0060 40404040                |                  |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412625  LOC-01/30/05 14:42:08.412625

```

図 6. MQPUT1 要求の入り口のトレースで得られたトレース・データの例

```

USRD9 5EA ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW073I EXIT: MQ user parameter trace
PUTONE
  Thread... 004C2B10  Userid... CICSUSER  pObjDesc. 106B2010
  pMsgDesc. 106B20B8  pPMO..... 106B2200
  BufferL... 00000064  pBuffer.. 106A0578  RSV1..... 00000000
  RSV2..... 00000000  RSV3..... 116BC830
  CompCode. 00000002  Reason... 000007FB
  C9E8C1E8  C5C3C9C3  AA8E8583  76270484  | IYAYECIC..ec...d |
  D4D8E3E3  0000048C  00000000  00000000  | MQTT.....      |
  00000000  1910C7C2  C9C2D4C9  E8C14BC9  | .....GBIBMIYA.I |
  C7C3E2F2  F0F48E85  83762979  00010000  | GCS204.ec..`.... |
MQRC_OBJECT_TYPE_ERROR

          GMT-01/30/05 14:42:08.412678  LOC-01/30/05 14:42:08.412678

USRD9 5EA ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW073I EXIT: MQ user parameter trace
+0000 D6C44040 00000001 00000000 C2404040 | OD .....B |
...
+00A0 00000000 00000000 | ..... |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412789  LOC-01/30/05 14:42:08.412789

USRD9 5EA ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW073I EXIT: MQ user parameter trace
+0000 D4C44040 00000001 00000000 00000008 | MD ..... |
...
+0140 40404040 | |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412814  LOC-01/30/05 14:42:08.412814

USRD9 5EA ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW073I EXIT: MQ user parameter trace
+0000 D7D4D640 00000001 00000000 FFFFFFFF | PMO ..... |
...
+0070 40404040 40404040 40404040 40404040 | |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412836  LOC-01/30/05 14:42:08.412836

USRD9 5EA ASCB 00F87E80          JOBN ECIC330
CSQW073I EXIT: MQ user parameter trace
+0000 C1C1C1C1 C1C1C1C1 C1404040 40404040 | AAAAAAAAAA |
...
+0060 40404040 | |

          GMT-01/30/05 14:42:08.412858  LOC-01/30/05 14:42:08.412858

```

図 7. MQPUT1 要求の出口のトレースで得られたトレース・データの例

## CEDF の出力例

このトピックは、MQI 呼び出しからの CEDF 出力例の参照として使用します。

このトピックでは、WebSphere MQ を使用する場合に CICS 実行診断機能 (CEDF) によって生成される出力の例を示します。例には、以下の MQI 呼び出しの入りと出口で生成されるデータが 16 進形式と文字形式の両方で示されています。その他の MQI 呼び出しも類似のデータを作成します。

### MQOPEN 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト記述子
ARG 002	オプション

パラメーター	説明
ARG 003	オブジェクト・ハンドル
ARG 004	完了コード
ARG 005	理由コード

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'000000000000000010000000200004044') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 001 (X'D6C4404000000000100000001C3C5C4C6') AT X'00144910'
001: ARG 002 (X'00000072000000000000000000000000') AT X'001445E8'
001: ARG 003 (X'0000000000000000720000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 004 (X'00000000000000000000000000000000') AT X'001445EC'
001: ARG 005 (X'00000000000000000000000000000000') AT X'001445F0'

```

図 8. MQOPEN 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'000000000000000010000000200004044') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 001 (X'D6C4404000000000100000001C3C5C4C6') AT X'00144910'
001: ARG 002 (X'00000072000000000000000000000000') AT X'001445E8'
001: ARG 003 (X'0000000010000000720000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 004 (X'00000000000000000000000000000000') AT X'001445EC'
001: ARG 005 (X'00000000000000000000000000000000') AT X'001445F0'

```

図 9. MQOPEN 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('OD .....CEDF')
001: ARG 002 ('.....')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('.....')

```

図 10. MQOPEN 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('OD .....CEDF')
001: ARG 002 ('.....')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('.....')

```

図 11. MQOPEN 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## MQCLOSE 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト・ハンドル
ARG 002	オプション
ARG 003	完了コード
ARG 004	理由コード

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'000000010000007200000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'00000000000000010000000020000404') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 003 (X'00000000000000000000000080000008') AT X'001445EC'
001: ARG 004 (X'00000000000000080000000800000060') AT X'001445F0'

```

図 12. MQCLOSE 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000000000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'00000000000000720000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'00000000000000010000000020000404') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 003 (X'00000000000000000000000080000008') AT X'001445EC'
001: ARG 004 (X'00000000000000080000000800000060') AT X'001445F0'

```

図 13. MQCLOSE 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('.....')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....')

```

図 14. MQCLOSE 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('.....')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....')

```

図 15. MQCLOSE 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## MQPUT 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト・ハンドル
ARG 002	メッセージ記述子
ARG 003	メッセージ書き込みオプション
ARG 004	バッファ長
ARG 005	メッセージ・データ
ARG 006	完了コード
ARG 007	理由コード

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'00000001000000720000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'D4C44040000000010000000000000008') AT X'001449B8'
001: ARG 003 (X'D7D4D640000000010000002400000000') AT X'00144B48'
001: ARG 004 (X'00000008000000000000000000000040000') AT X'001445F4'
001: ARG 005 (X'5C5CC8C5D3D640E6D6D9D3C45C5C5C') AT X'00144BF8'
001: ARG 006 (X'000000000000000000000000800000000') AT X'001445EC'
001: ARG 007 (X'00000000000000008000000000000000') AT X'001445F0'

```

図 16. MQPUT 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'00000001000000720000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'D4C44040000000010000000000000008') AT X'001449B8'
001: ARG 003 (X'D7D4D640000000010000002400000000') AT X'00144B48'
001: ARG 004 (X'00000008000000000000000000000040000') AT X'001445F4'
001: ARG 005 (X'5C5CC8C5D3D640E6D6D9D3C45C5C5C') AT X'00144BF8'
001: ARG 006 (X'000000000000000000000000800000000') AT X'001445EC'
001: ARG 007 (X'00000000000000008000000000000000') AT X'001445F0'

```

図 17. MQPUT 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('MD .....')
001: ARG 003 ('PMO .....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('**HELLO WORLD**')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')

```

図 18. MQPUT 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```

STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('MD .....')
001: ARG 003 ('PMO .....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('**HELLO WORLD**')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')

```

図 19. MQPUT 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## MQPUT1 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト記述子
ARG 002	メッセージ記述子
ARG 003	メッセージ書き込みオプション
ARG 004	バッファー長
ARG 005	メッセージ・データ
ARG 006	完了コード
ARG 007	理由コード

```

STATUS:  ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000000000000007200000000')           AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'D6C4404000000000100000001C3C5C4C6')           AT X'00144910'
001: ARG 002 (X'D4C440400000000010000000000000008')           AT X'001449B8'
001: ARG 003 (X'D7D4D64000000000100000002400000000')           AT X'00144B48'
001: ARG 004 (X'000000080000000080000006000040000')           AT X'001445F4'
001: ARG 005 (X'5C5CC8C5D3D3D640E6D6D9D3C45C5C')              AT X'00144BF8'
001: ARG 006 (X'0000000000000000000000800000008')           AT X'001445EC'
001: ARG 007 (X'00000000000000008000000080000060')           AT X'001445F0'

```

図 20. MQPUT1 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'000000000000000000000000000000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'D6C44040000000001000000001C3C5C4C6') AT X'00144910'
001: ARG 002 (X'D4C44040000000001000000000000008') AT X'001449B8'
001: ARG 003 (X'D7D4D640000000010000000240000000') AT X'00144B48'
001: ARG 004 (X'0000000800000000000000000000000060000040000') AT X'001445F4'
001: ARG 005 (X'5C5CC8C5D3D3D640E6D6D9D3C45C5C5C') AT X'00144BF8'
001: ARG 006 (X'00000000000000000000000000000000800000008') AT X'001445EC'
001: ARG 007 (X'0000000000000000000000000000000060') AT X'001445F0'

```

図 21. MQPUT1 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS:  ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('OD .....CEDF')
001: ARG 002 ('MD .....')
001: ARG 003 ('PMO .....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('**HELLO WORLD**')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')

```

図 22. MQPUT1 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```

STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('OD .....CEDF')
001: ARG 002 ('MD .....')
001: ARG 003 ('PMO .....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('**HELLO WORLD**')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')

```

図 23. MQPUT1 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## MQGET 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト・ハンドル
ARG 002	メッセージ記述子
ARG 003	メッセージ読み取りオプション
ARG 004	バッファー長
ARG 005	メッセージ・バッファー
ARG 006	メッセージ長
ARG 007	完了コード

パラメーター	説明
ARG 008	理由コード

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'000000010000007200000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'D4C440400000000100000000000000') AT X'001449B8'
001: ARG 003 (X'C7D4D6400000000100004044FFFFFF') AT X'00144B00'
001: ARG 004 (X'00000008000000000000000000004000') AT X'001445F4'
001: ARG 005 (X'000000000000000000000000000000') AT X'00144C00'
001: ARG 006 (X'00000000000000000000400000000000') AT X'001445F8'
001: ARG 007 (X'00000000000000000000000080000000') AT X'001445EC'
001: ARG 008 (X'000000000000000080000000000000') AT X'001445F0'

```

図 24. MQGET 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'000000010000007200000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'D4C440400000000100000000000008') AT X'001449B8'
001: ARG 003 (X'C7D4D6400000000100004044FFFFFF') AT X'00144B00'
001: ARG 004 (X'00000008000000008000000000004000') AT X'001445F4'
001: ARG 005 (X'5C5CC8C5D3D3D640E6D6D9D3C45C5C5C') AT X'00144C00'
001: ARG 006 (X'00000008000000000000400000000000') AT X'001445F8'
001: ARG 007 (X'00000000000000000000000080000008') AT X'001445EC'
001: ARG 008 (X'00000000000000008000000080000000') AT X'001445F0'

```

図 25. MQGET 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('MD .....')
001: ARG 003 ('GMO .....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('.....')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')
001: ARG 008 ('.....')

```

図 26. MQGET 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```

STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('MD .....')
001: ARG 003 ('GMO .....')
001: ARG 004 ('.....')
001: ARG 005 ('**HELLO WORLD**')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')
001: ARG 008 ('.....')

```

図 27. MQGET 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## MQINQ 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト・ハンドル
ARG 002	セレクターのカウント
ARG 003	属性セレクターの配列
ARG 004	整数属性のカウント
ARG 005	整数属性
ARG 006	文字属性バッファの長さ
ARG 007	文字属性
ARG 008	完了コード
ARG 009	理由コード

```

STATUS:  ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'000000000000000010000000200004044') AT X'05ECAFC'
001: ARG 001 (X'00000001000000720000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'000000020000404485ECA00885ECA220') AT X'05ECAFD4'
001: ARG 003 (X'0000000D0000000C0000000000000000') AT X'00144C08'
001: ARG 004 (X'000000020000404485ECA00885ECA220') AT X'05ECAFD4'
001: ARG 005 (X'00000000000000000000000000000000') AT X'00144C10'
001: ARG 006 (X'00000000000000010000000200004044') AT X'05ECAFC'
001: ARG 007 (X'00000000000000000000000000000000') AT X'00144C18'
001: ARG 008 (X'0000000000000000000000800000008') AT X'001445EC'
001: ARG 009 (X'0000000000000080000000800040000') AT X'001445F0'

```

図 28. MQINQ 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'00000000000000010000000200004044')      AT X'05ECAFCF'
001: ARG 001 (X'00000001000000720000000000000000')      AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'000000020000404485ECA00885ECA220')        AT X'05ECAFD4'
001: ARG 003 (X'0000000D0000000C0040000000000000')      AT X'00144C08'
001: ARG 004 (X'000000020000404485ECA00885ECA220')        AT X'05ECAFD4'
001: ARG 005 (X'00400000000000000000000000000000')      AT X'00144C10'
001: ARG 006 (X'00000000000000010000000200004044')      AT X'05ECAFCF'
001: ARG 007 (X'00000000000000000000000000000000')      AT X'00144C18'
001: ARG 008 (X'000000000000000000000000800000008')      AT X'001445EC'
001: ARG 009 (X'000000000000000080000000800040000')      AT X'001445F0'

```

図 29. MQINQ 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS:  ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('.....e..s.')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....e..s.')
001: ARG 005 ('.....')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')
001: ARG 008 ('.....')
001: ARG 009 ('.....')

```

図 30. MQINQ 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```

STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('.....e..s.')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....e..s.')
001: ARG 005 ('.....')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')
001: ARG 008 ('.....')
001: ARG 009 ('.....')

```

図 31. MQINQ 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## MQSET 呼び出しに対する CEDF の出力例

この呼び出しのパラメーターには次のものがあります。

パラメーター	説明
ARG 000	接続ハンドル
ARG 001	オブジェクト・ハンドル
ARG 002	セレクターのカウンタ
ARG 003	属性セレクターの配列
ARG 004	整数属性のカウンタ

パラメーター	説明
ARG 005	整数属性
ARG 006	文字属性バッファの長さ
ARG 007	文字属性
ARG 008	完了コード
ARG 009	理由コード

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'000000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'0000000100000072000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'00000001000000020000404485ECA008') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 003 (X'00000018000007DF0000000000000000') AT X'00144C08'
001: ARG 004 (X'00000001000000020000404485ECA008') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 005 (X'0000000000000000000000000000000') AT X'00144C10'
001: ARG 006 (X'00000000000000001000000200004044') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 007 (X'0000000000000000000000000000000') AT X'00144C18'
001: ARG 008 (X'00000000000000000000000080000008') AT X'001445EC'
001: ARG 009 (X'00000000000000008000000080000060') AT X'001445F0'

```

図 32. MQSET 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 (X'000000000000000010000007200000000') AT X'001445E0'
001: ARG 001 (X'0000000100000072000000000000000') AT X'001445E4'
001: ARG 002 (X'00000001000000020000404485ECA008') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 003 (X'00000018000007DF0000000000000000') AT X'00144C08'
001: ARG 004 (X'00000001000000020000404485ECA008') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 005 (X'0000000000000000000000000000000') AT X'00144C10'
001: ARG 006 (X'00000000000000001000000200004044') AT X'05ECAFD8'
001: ARG 007 (X'0000000000000000000000000000000') AT X'00144C18'
001: ARG 008 (X'00000000000000000000000080000008') AT X'001445EC'
001: ARG 009 (X'00000000000000008000000080000060') AT X'001445F0'

```

図 33. MQSET 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (16 進形式)

```

STATUS: ABOUT TO EXECUTE COMMAND
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('.....e...')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....e...')
001: ARG 005 ('.....')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')
001: ARG 008 ('.....')
001: ARG 009 ('.....')

```

図 34. MQSET 呼び出しへの入り口での CEDF の出力例 (文字形式)

```
STATUS:  COMMAND EXECUTION COMPLETE
CALL TO RESOURCE MANAGER MQM
001: ARG 000 ('.....')
001: ARG 001 ('.....')
001: ARG 002 ('.....e..')
001: ARG 003 ('.....')
001: ARG 004 ('.....e..')
001: ARG 005 ('.....')
001: ARG 006 ('.....')
001: ARG 007 ('.....')
001: ARG 008 ('.....')
001: ARG 009 ('.....')
```

図 35. MQSET 呼び出しからの出口での CEDF の出力例 (文字形式)

## メッセージ

以下のメッセージを使用して、WebSphere MQ のコンポーネントまたはアプリケーションに関する問題の解決に役立てることができます。

### 診断メッセージ: AMQ4000-9999

このセクションでは、診断メッセージがその発信元になる WebSphere MQ の部分ごとにまとめられ、それぞれ番号順にリストされています。

- [AMQ4000-4999: ユーザー・インターフェース・メッセージ \(WebSphere MQ for Windows および Linux システム\)](#)
- [AMQ5000-5999: インストール可能サービス](#)
- [AMQ6000-6999: 共通サービス](#)
- [AMQ7000-7999: WebSphere MQ](#)
- [AMQ8000-8999: 管理](#)
- [AMQ9000-9999: リモート](#)

### メッセージの読み取り

各メッセージごとに、次の情報が示されています。

- 次の 2 つの部分から成るメッセージ識別子
  1. 「AMQ」という文字 (メッセージの発信元が WebSphere MQ であるという意味)
  2. 4 桁の 10 進コード

メッセージが単一プラットフォームに固有の場合は、メッセージ ID の後に、プラットフォーム名が示されます。何回かリストされているメッセージもありますが、それぞれ異なるプラットフォームに関連しています。その場合は、まず多くのプラットフォームに共通するバージョンがリストされ、その後に個別プラットフォームに対応したバージョンが続きます。該当するバージョンをお読みください。

- メッセージのテキスト
- メッセージの重大度
  - 0: 情報
  - 10: 警告
  - 20: エラー
  - 30: 重大エラー
  - 40: 停止エラー
  - 50: システム・エラー
- メッセージに関する詳細情報を示すための説明

- ユーザーによる必要な対応。場合によっては、特に情報メッセージの場合は、この部分には「ありません。」と書かれていることがあります。

## メッセージ変数

一部のメッセージには、メッセージの原因となった状況に応じて変化するテキストまたは数値が含まれています。これをメッセージ変数といいます。メッセージ変数は <insert\_1>、<insert\_2> など表されています。

メッセージによっては、説明または対応の項に変数が含まれていることもあります。メッセージ変数の値を見つけるには、エラー・ログを調べてください。エラー・ログには、完全な形のメッセージと、説明および対応が含まれています。

### 関連概念

[API 完了コードと理由コード](#)

[PCF 理由コード](#)

[Secure Sockets Layer \(SSL\) の戻りコード](#)

[WCF カスタム・チャネル例外](#)

## AMQ4000-4999: ユーザー・インターフェース・メッセージ (WebSphere MQ for Windows および Linux システム)

### AMQ4000

オブジェクト・タイプのデフォルト・オブジェクトが見つからなかったため、新しいオブジェクトを作成できません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

オブジェクトの作成には、オブジェクト・タイプごとにデフォルト・テンプレートが必要です。このオブジェクト・タイプに必要なデフォルト・テンプレートが見つかりませんでした。

#### 応答

デフォルト・オブジェクトが使用できない理由を判別するか、または新しいオブジェクトを作成してください。その後、要求を再試行してください。

### AMQ4001

指定されたキュー・マネージャーは、既に WebSphere MQ エクスプローラーに追加されています。

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

通知メッセージです。ナビゲーター・ビューにキュー・マネージャーが表示されない場合は、キュー・マネージャーが非表示になっていないことを確認してください。

### AMQ4002

<insert\_0>という名前のオブジェクトを削除しますか？

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

指定されたオブジェクトを削除する前に確認が必要です。オブジェクトのタイプと名前は、メッセージに示されています。

#### 応答

オブジェクトを永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

### AMQ4003

WebSphere MQ システム・オブジェクトは内部的に WebSphere MQ によって使用されています。これらは削除しないようにしてください。WebSphere MQ システム・オブジェクトを保持しますか？

#### 重大度

0: 情報

**説明**

内部 WebSphere MQ システム・オブジェクト (例えば SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE) を削除する前に確認が必要です。

**応答**

システム・オブジェクトを永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4004**

すべてのメッセージをキューから消去しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

キューからのメッセージの除去は、元に戻すことのできないアクションです。コマンドの続行が許可された場合、このアクションを元に戻すことはできません。

**応答**

メッセージを永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4005**

オブジェクトが置換または削除されました。プロパティは適用できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

オブジェクトのプロパティを更新するプロセス中に、オブジェクトが削除されたか、または別のインスタンスに置き換えられたことがわかりました。このプロパティは適用されませんでした。

**AMQ4006**

WebSphere MQ は正常にデータをリモート・キュー・マネージャーに送信し、戻されたデータを受信しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オープン・チャネルは、ユーザー要求の結果として WebSphere MQ により正常に検査されました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4007**

チャネルのメッセージ・シーケンス番号がリセットされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ユーザー要求の結果として、チャネルのシーケンス番号が WebSphere MQ により正常にリセットされました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4008**

チャネルの開始要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャネルは、ユーザー要求の結果として WebSphere MQ により正常に開始されました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4009**

チャネルの停止要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネルは、ユーザー要求の結果として WebSphere MQ により正常に停止されました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4010**

「未確定」状態を解決しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネルは、その「未確定」状態を、ユーザー要求の結果として WebSphere MQ により正常に解決しました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4011**

キューのメッセージが消去されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

CLEAR コマンドは正常に完了し、宛先キューからのすべてのメッセージを除去しました。CLEAR が MQGET API コマンドを使用して実行された場合、未コミット・メッセージがキュー上にまだある可能性があります。

**AMQ4012**

オブジェクトは正常に作成されましたが、可視オブジェクト用の現在の設定では見えません。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4014**

文字<insert\_0>が無効です。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4015**

ブランクでない名前を使用してください。

**重大度**

0: 情報

**応答**

有効な名前を入力してください。

**AMQ4016**

テスト・メッセージが正常に書き込まれました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

宛先キューにメッセージを入れるための要求は正常に完了しました。これで、キューにメッセージが含まれています。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4019**

<insert\_0> というオブジェクトが存在します。既存オブジェクトの定義を置換しますか?

**重大度**

0: 情報

**応答**

定義を置き換えることを確認してください。

**AMQ4020**

ページ<insert\_0>の属性に対して行う変更は、キュー・マネージャーまたはそのオブジェクトを現在使用している別のプログラムの操作に影響を与えます。このオブジェクトの属性を強制的に変更しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

オブジェクトが使用中であるか、あるいはこの変更が他のプログラムまたはキュー・マネージャーに影響するために変更できないオブジェクトを変更しようとしています。変更の中には強制的に行われるものがあります。

**応答**

変更を強制的に行う場合は「はい」を、変更を中止する場合は「いいえ」を選択してください。

**AMQ4021**

1つ以上の WebSphere MQ オブジェクトへのアクセスに失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

オブジェクトのアイコンは、エラーのオブジェクトを指摘するようにマークされています。

**AMQ4022**

始動キューに指定された名前が、キュー自体の名前と同じです。

**重大度**

0: 情報

**応答**

作成または変更されるオブジェクトに、別の名前を指定してください。

**AMQ4023**

このコンピューターにはキュー・マネージャー<insert\_0>が存在しません。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4024**

オブジェクトを置換できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オブジェクトを置き換える要求が失敗しました。

**応答**

このオブジェクトを定義するには、既存のオブジェクトを削除してから、操作をやり直してください。

**AMQ4025**

キューのクラスター属性に対する変更は、ネットワークに伝搬すると有効になります。

**重大度**

0: 情報

**応答**

変更を表示するには、影響を受けるクラスター内のクラスター・キューを含む表示をリフレッシュしてください。

**AMQ4026**

1つ以上のクラスターで共有されるキューを作成しました。キューの定義がネットワークに伝搬すると、キューをクラスター・キューとして使用できます。

**重大度**

0: 情報

**応答**

クラスター・キューを表示するには、影響を受けるクラスター内のクラスター・キューを含む表示をリフレッシュしてください。

**AMQ4027**

キュー・マネージャー<insert\_0>に接続中にエラーが発生しました。このキュー・マネージャーをフォルダーに表示しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたりモート・キュー・マネージャーに接続できませんでした。

**応答**

指定したキュー・マネージャーが指定のホストおよびポートで稼働していること、および指定された名前に対応するチャンネルがキュー・マネージャーにあることを確認してください。リモート・キュー・マネージャーへの接続権限があること、およびネットワークが稼働中であることを確認してください。問題を後で解決する場合は「はい」を選択します。ここで問題を訂正する場合は「いいえ」を選択して再試行します。

**AMQ4028**

このプラットフォームはサポートされません。このキュー・マネージャーは非サポート・プラットフォームで実行されているため、WebSphere MQ エクスプローラーで管理できません。キュー・マネージャーの Platform 属性の値 <insert\_0> は、WebSphere MQ エクスプローラーではサポートされていません。

**重大度**

20: エラー

**AMQ4029**

コマンド・レベルが低すぎます。キュー・マネージャーは WebSphere MQ エクスプローラーで管理できません。

**重大度**

20: エラー

**応答**

このキュー・マネージャーを管理する場合、キュー・マネージャーをより新しいバージョンの WebSphere MQ にアップグレードする必要があります。

**AMQ4030**

コード・ページ変換テーブルが見つからないため、キュー・マネージャーを管理できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コード・ページ変換テーブルが見つからなかったため、このキュー・マネージャーは WebSphere MQ エクスプローラーで管理できません。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラーが実行されているコンピューターに、CCSID <insert\_0> から CCSID <insert\_1> へのコード・ページ変換表をインストールします。

**AMQ4031**

CCSID が見つからないため、キュー・マネージャーを管理できません。

**重大度**

20: エラー

## 説明

CCSID <insert\_0> が CCSID テーブルに見つからないため、このキュー・マネージャーは WebSphere MQ エクスプローラーで管理できません。 WebSphere MQ エクスプローラーは、認識されない CCSID への文字データの変換、またはその逆を実行できません。

### AMQ4032

コマンド・サーバーがタイムアウト期間内に応答しません。

## 重大度

10: 警告

## 応答

コマンド・サーバーが稼働中であること、および「SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE」という名前のキューが、プログラムがこのキューからメッセージを読み取るように構成されていることを確認してください。

### AMQ4033

キューからメッセージを読み取ることができません。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キューが MQGET 要求を使用できないことを示す入力に対して、オブジェクトがオープンであるときに戻される理由コードです。

## 応答

このキューからメッセージを読み取るには、キューを GET 要求を使用できるようにしてください。

### AMQ4034

メッセージが長すぎます。キューにメッセージを書き込もうとしましたが、キューまたはキュー・マネージャーで許可されている最大長を超えていました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キューへのメッセージ書き込み要求は、メッセージのデータ長がキューの定義で許可されている最大長を超えていることを示す理由コードを戻しました。

## 応答

キューの MAXMSGL 属性を変更してメッセージの長さ以上になるようにするか、キューに書き込むメッセージの長さを短くしてください。

### AMQ4035

メッセージが使用できません。応答メッセージが適切な時間内に到着しませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キューからのメッセージ取得要求は、GET 要求に指定された選択基準を満たすメッセージがキュー上に現在ないことを示す理由コードを戻しました。

### AMQ4036

アクセスが許可されていません。この操作の実行は許可されていません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャーのセキュリティー・メカニズムは、この要求に関連したユーザー ID にはオブジェクトへのアクセスが許可されていないことを示しています。

### AMQ4037

オープン以後にオブジェクト定義が変更されました。

## 重大度

0: 情報

#### 説明

このオブジェクトに影響するオブジェクト定義は、この呼び出しで使用された Hobj ハンドルが MQOPEN 呼び出しで戻されてから変更されています。

#### 応答

MQCLOSE 呼び出しを発行して、ハンドルをシステムに戻してください。通常は、これでオブジェクトの再オープンには十分です。操作を再試行してください。

#### AMQ4038

オブジェクトが壊れています。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

オブジェクトが壊れており、オブジェクトにアクセスできません。

#### 応答

オブジェクトを削除する必要があります。あるいは、メディア・イメージまたはバックアップからオブジェクトをリカバリーすることができる場合もあります。

#### AMQ4039

オブジェクトが使用中です。オブジェクトが別のアプリケーションですでにオープンされています。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

MQOPEN 呼び出しが発行されましたが、該当するオブジェクトは既にこのアプリケーションまたは別のアプリケーションでオープンされています。使用されたオプションは、「オプション」パラメーターで指定されたオプションと競合しています。この状態は、要求が共有入力を対象とするものであるのに、オブジェクトが既に排他入力でオープンしている場合に発生します。また、要求が排他的入力を対象とするものである場合に、オブジェクトが(任意の種類の入力ですでにオープンしているときにも発生します。

#### 応答

オブジェクトの属性を変更するには、強制オプションを「はい」と指定して変更を適用してください。FORCE オプションを「Yes」と指定する場合は、オブジェクトを使用するすべてのアプリケーションで、そのオブジェクトをクローズし、再オープンしてから作業を続行する必要があります。

#### AMQ4040

このキューにメッセージを書き込むことができません。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

キューまたはこのキューが解決するキューについて、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しの使用が現在禁止されています。

#### AMQ4042

キューがいっぱいです。キューには最大数のメッセージが入っています。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

キューがいっぱいであるため、MQPUT または MQPUT1 呼び出しに失敗しました。つまり、メッセージの最大数として可能な数がキューにすでに含まれています。

#### AMQ4043

キュー・マネージャーを接続に使用できません。

#### 重大度

20: エラー

## 応答

キュー・マネージャーが実行中であることを確認してください。キュー・マネージャーが別のコンピューター上で実行されている場合は、リモート接続を受け入れる設定になっていることを確認してください。

### AMQ4044

キュー・マネージャー<insert\_0>は停止中です。

## 重大度

0: 情報

## 説明

MQI 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーがシャットダウン中のため、この呼び出しは失敗しました。その呼び出しが MQGMO\_WAIT オプション付きの MQGET 呼び出しであった場合、待機は取り消されます。

## 応答

これ以上の MQI 呼び出しを発行することはできません。

### AMQ4045

キューが空ではありません。キューには1つ以上のメッセージ、あるいはコミットされていない PUT または GET 要求があります。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キューが空である必要のある操作が失敗しました。これは、キューにメッセージが含まれているか、あるいはコミットされていない未解決の PUT または GET 要求がキューにあることが原因です。

### AMQ4046

使用可能なシステム・リソースが不足しています。

## 重大度

20: エラー

### AMQ4047

ストレージが不足しています。

## 重大度

20: エラー

### AMQ4048

要求が基本 API またはコマンド要求から予期しない理由コードを受け取りました。理由コードは <insert\_0>でした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

要求された操作の実行中に、予期しない戻りコードを受け取り、その結果、操作が予期したとおりに完了しませんでした。

## 応答

この理由コードを使用して、失敗の根本的な理由を判断してください。

### AMQ4049

オブジェクト名が不明です。

## 重大度

10: 警告

## 説明

コマンドまたは API 要求が発行されましたが、オブジェクトが見つかりません。

### AMQ4050

割り振りに失敗しました。会話をリモート・システムに割り振ろうとして失敗しました。

## 重大度

10: 警告

#### 説明

エラーの原因は、チャンネル定義に正しくない項目があること、またはリモート・システムの listen プログラムが稼働していなかったことである可能性があります。

#### AMQ4051

バインドが失敗しました。セッション折衝中にリモート・システムに対するバインドが失敗しました。

#### 重大度

10: 警告

#### AMQ4052

コード化文字セット ID エラー。 コマンド・メッセージをターゲット・キュー・マネージャーの CCSID に変換できません。

#### 重大度

10: 警告

#### AMQ4053

チャンネルが未確定です。 操作は完了していません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

チャンネルが未確定だったため、操作を完了できませんでした。

#### AMQ4054

チャンネルが使用中です。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

チャンネルに対する操作を実行しようとしたのですが、そのチャンネルは現在アクティブです。

#### AMQ4055

チャンネル状況が見つかりません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

このチャンネルで使用可能なチャンネル状況はありません。これは、チャンネルが使用されていないことを示している可能性があります。

#### AMQ4056

コマンドは失敗しました。

#### 重大度

10: 警告

#### AMQ4057

チャンネル定義または通信サブシステムに構成エラーがあります。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

会話の割り振りを行うことはできません。

#### AMQ4058

接続がクローズされました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

リモート・システムへの接続が、データの受信中に予期せず中断されました。

#### AMQ4059

キュー・マネージャーへの接続が確立できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーに接続しようとしたのですが、失敗しました。この失敗は、キュー・マネージャーがこのシステムからの接続を許可するように誤って構成されているか、または接続が切断されたことが原因である可能性があります。

**応答**

操作を再試行してください。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、情報が記録されているかどうかを確認してください。

**AMQ4060**

動的キュー有効範囲のエラー。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キューの有効範囲属性が MQSCO\_CELL に設定されましたが、この値は動的キューには許可されていません。

**AMQ4061**

リモート・システムは使用不可です。会話をリモート・システムに割り振ることができません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

このエラーは一時的なものであることがあります。後で再試行してください。

**AMQ4062**

キュー・マネージャーが WebSphere MQ オブジェクトについて問い合わせたとき、MQINQ 呼び出しが失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**応答**

キュー・マネージャーのエラー・ログでエラーの詳細情報を確認してください。

**AMQ4063**

キュー・マネージャーが WebSphere MQ オブジェクトをオープンしようとしたとき、MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**応答**

チャンネルを開始しているときにエラーが発生した場合は、チャンネルが使用した伝送キューの存在を確認して、操作を再試行してください。エラーが続く場合は、キュー・マネージャーのエラー・ログでエラーの詳細情報を確認してください。

**AMQ4064**

キュー・マネージャーが WebSphere MQ オブジェクトの属性値を設定しようとしたとき、MQSET 呼び出しが失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**応答**

キュー・マネージャーのエラー・ログでエラーの詳細情報を確認してください。

**AMQ4065**

メッセージ・シーケンス番号エラー。

**重大度**

10: 警告

**説明**

メッセージ・シーケンス番号のパラメーターが無効でした。

**AMQ4066**

メッセージがコマンド・サーバーの最大有効メッセージ・サイズより大きいために切り捨てられました。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4067**

コミュニケーション・マネージャーを使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

通信サブシステムを使用できません。

**AMQ4068**

チャンネル定義で指定したキューが、伝送キューでないか、使用中です。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4069**

オブジェクトがすでに存在します。

**重大度**

10: 警告

**説明**

そのオブジェクトはすでに存在するので、作成できません。

**AMQ4070**

オブジェクトはオープンしています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

使用中のオブジェクトの削除、変更または消去を行おうとしました。

**応答**

オブジェクトが使用されなくなるまで待ってから、再試行してください。

**AMQ4071**

オブジェクトのタイプが正しくありません。異なるタイプのキュー・オブジェクトを置換できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4072**

キューがすでにセルに存在します。

**重大度**

10: 警告

**説明**

その名前のキューはすでにセルに存在するため、セル有効範囲を持つキューを定義したり、または既存キューの有効範囲をキュー・マネージャー有効範囲からセル有効範囲に変更したりすることができません。

**AMQ4073**

ping エラーです。ping の対象となるのは送信側またはサーバー・チャンネルだけです。ローカル・チャンネルが受信チャンネルの場合、Ping はリモート・キュー・マネージャーから出す必要があります。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4074**

受信が失敗しました。通信障害が原因である可能性があります。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4075**

リモート・システムからのデータを受信中にエラーが発生しました。通信障害が原因である可能性があります。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4076**

リモート・キュー・マネージャーが終了中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リモート・キュー・マネージャーが終了中のため、チャンネルは停止しました。

**AMQ4077**

リモート・キュー・マネージャーを使用できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リモート・キュー・マネージャーを使用できなかったため、チャンネルを開始できませんでした。

**応答**

リモート・キュー・マネージャーが開始されていて、着信通信要求を受け入れるように構成されていることを確認してください。

**AMQ4078**

送信が失敗しました。リモート・システムにデータを送信中にエラーが発生しました。通信障害が原因である可能性があります。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4079**

チャンネルはセキュリティー出口によりクローズされました。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4080**

リモート・チャンネルが不明です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リモート・システムには、このチャンネルの定義がありません。

**AMQ4081**

ユーザー出口を使用できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたユーザー出口が存在しないため、チャンネルはクローズされました。

**AMQ4082**

予期しない WebSphere MQ エラー (<insert\_0>)。

**重大度**

20: エラー

**AMQ4083**

キュー・マネージャー名が不明です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーがリモートの場合は、これは、別のキュー・マネージャーが同じ接続名を誤って使用していることを示している場合があります。同じコンピューター上で TCP/IP を使用するキュー・マネージャーは、異なったポート番号で listen する必要があります。これはまた、これらが異なった接続名を持つことを意味します。

**AMQ4084**

セル・ディレクトリーを使用できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キューの有効範囲属性が MQSCO\_CELL に設定されましたが、セル・ディレクトリーをサポートするネーム・サービスは構成されていません。

**応答**

セル・ディレクトリーをサポートするネーム・サービスを構成してください。

**AMQ4085**

伝送キューに名前が指定されていません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

このチャンネル・タイプに非ブランクの伝送キュー名を指定してください。

**AMQ4086**

接続名が指定されていません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

このチャンネル・タイプには、非ブランクの接続名を指定してください。

**AMQ4087**

クラスター・リソースを使用しようとしてエラーが発生しました。

**重大度**

10: 警告

**応答**

名前が 'SYSTEM.CLUSTER。満杯ではないため、メッセージを書き込むことができます。

**AMQ4088**

クラスター内の伝送キューを共用できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このキューは伝送キューなので、クラスター内で共用することはできません。

**AMQ4089**

<insert\_0>という名前のシステム・コマンド・キューに対して PUT コマンドが禁止がされました。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4090**

「SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE」という名前のキューで PUT および GET コマンドを使用禁止としますか? 禁止とする場合、WebSphere MQ エクスプローラーを使用してキュー・マネージャーを管理できなくなります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーは、キュー・マネージャーを管理するために「SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE」という名前のキューを使用します。

**応答**

このキューでの PUT または GET コマンドの使用を禁止し、キュー・マネージャーを管理するための WebSphere MQ エクスプローラーの使用を停止する場合に限り、継続してください。

**AMQ4091**

リモート・キュー・マネージャーに接続できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リモート・キュー・マネージャーが、接続でサポートされないプロトコルを使用しています。WebSphere MQ エクスプローラーは、TCP/IP プロトコルを使用するリモート・キュー・マネージャーへの接続のみをサポートしています。

**AMQ4092**

クラスターのメンバーシップが名前リスト<insert\_0>を使用して定義されているため、キュー・マネージャーをクラスターから除去できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**応答**

クラスターからキュー・マネージャーを除去するには、名前リストから除去してください。その名前リストを使用している他のオブジェクトの定義に不用意に影響を与えないように注意してください。

**AMQ4093**

指定されたクラスターはすでにコンソールに表示されています。

**重大度**

0: 情報

**AMQ4094**

このクラスターをコンソールに追加中にエラーが発生しました。このクラスターをコンソールに表示しますか?

**重大度**

10: 警告

**応答**

問題を後で解決する場合は「はい」を選択します。ここで問題を訂正する場合は「いいえ」を選択して再試行します。

**AMQ4095**

キュー・マネージャー<insert\_0>はクラスター<insert\_1>のリポジトリ・キュー・マネージャーではありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

クラスターを管理するには、WebSphere MQ エクスプローラーではリポジトリ・キュー・マネージャーへの接続が必要です。

**AMQ4096**

パスワードを消去しますか?

**重大度**

0: 情報

**応答**

パスワードを消去する前に、ユーザーに確認してください。パスワードを消去したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4097**

引用符が一致していません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

属性リスト内で不一致の引用符が見つかりました。リスト内の各値は、単一または二重引用符のペアで囲むことができます。(スペース、コンマ、または引用符が含まれている値にのみ必要です。)

**応答**

左側の引用符と右側の引用符のすべてがペアとなっていることを確認してください。(属性内に引用符を入れるには、間にスペースを入れずに2つを並べて使用してください。)

**AMQ4098**

リストの形式が正しくありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

属性は、値をスペースまたはコンマで区切る必要のある、値のリストを含むことが可能です。リスト内の各値は、単一または二重引用符のペアで囲むことができます。(スペース、コンマ、または引用符が含まれている値にのみ必要です。)

**応答**

値がスペースまたはコンマで区切られていること、および左側の引用符と右側の引用符のすべてがペアとなっていることを確認してください。(属性内に引用符を入れるには、間にスペースを入れずに2つを並べて使用してください。)

**AMQ4099**

1つ以上のリポジトリ・キュー・マネージャーと通信できません。クラスター<insert\_0>は、TCP/IP以外のプロトコルを使用して通信する1つ以上のリポジトリ・キュー・マネージャーを使用するように構成されます。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーは、TCP/IP 使用するリモート・キュー・マネージャーへの接続のみを確立することができます。

**応答**

クラスターからのキュー・マネージャーの除去を完了するためには、リポジトリ・キュー・マネージャーから RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE) コマンドを発行します。

**AMQ4103**

キュー・マネージャーへの接続でエラーが発生しました。このキュー・マネージャーをフォルダーに表示しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたリモート・キュー・マネージャーに接続できませんでした。

**応答**

指定したキュー・マネージャーが、選択したチャンネル定義テーブルに指定されたマシンで稼働していることを確認してください。リモート・キュー・マネージャーに接続する権限があることと、ネットワークが使用可能であることを確認してください。問題を後で解決する場合は「はい」を選択します。ここで問題を訂正する場合は「いいえ」を選択して再試行します。

**AMQ4104**

指定されたファイル<insert\_0>には、正しい形式のクライアント定義テーブルが含まれていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネル定義テーブルの形式が正しくありません。

**応答**

正しい形式のファイルを指定してください。

**AMQ4105**

リモート・キュー・マネージャーはまだ他のプラグインで必要なため、除去されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このキュー・マネージャーの除去に対して、他のプラグインからまだ使用中であることを示す応答がありました。

**応答**

他のプラグインによるキュー・マネージャーの使用が完了したことを確認してから、除去を再試行してください。

**AMQ4117**

この処理を元に戻すことはできません。 WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_0> をご使用のシステムから削除しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーを削除する前に確認が必要です。

**応答**

キュー・マネージャーを永久に削除する場合に限り、継続します。

**AMQ4121**

MQGET 要求が、予期しない<insert\_0>の理由コードを受け取りました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQGET API 要求から予期しない理由コードが戻されました。この理由コードを使用して、要求が失敗した根本的な理由を判断してください。

**応答**

MQGET 要求が正常に終了しませんでした。一部のメッセージが取得されなかった可能性があります。

**AMQ4122**

MQPUT 要求が、予期しない<insert\_0>の理由コードを受け取りました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQPUT API 要求から予期しない理由コードが戻されました。この理由コードを使用して、要求が失敗した根本的な理由を判断してください。

**応答**

MQPUT 処理が正常に終了しませんでした。メッセージはキューに入れられませんでした。

**AMQ4123**

オブジェクト<insert\_0>が正常に削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定した名前のオブジェクトが正常に削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ4124**

MQOPEN 要求が、予期しない<insert\_0>の理由コードを受け取りました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQOPEN API 要求から予期しない理由コードが戻されました。キューがオープンされていません。

**応答**

この理由コードを使用して、失敗の根本的な理由を判断してください。

**AMQ4125**

キューへのテスト・メッセージをプットすると、予期しない理由コード<insert\_0>が出されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

基本 API 要求の 1 つが正常に終了しませんでした。テスト・メッセージはキューに入れられませんでした。

**AMQ4126**

指定されたいずれかのプロパティの値が無効です。要求は処理されませんでした。

**重大度**

20: エラー

**応答**

別の値を指定してください。

**AMQ4127**

ファイル・フォーマットが無効であるため、WebSphere MQ は、ディスクからキュー・マネージャー情報を読み取ることができませんでした。要求は処理されませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ\_Handles ファイルのフォーマットが正しくありません。このファイルはバックアップされてから除去されました。これは、どのリモート・キュー・マネージャー定義も失われたことを意味します。すべてのローカル・キュー・マネージャーが WebSphere MQ エクスプローラーで自動的に検出され、表示されます。

**応答**

Eclipse ワークスペースが壊れていないことを確認してください。

**AMQ4128**

iKeyMan プログラムを開始できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

iKeyMan プログラムを実行しようとしてエラーが発生しました。

**応答**

再試行します。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4129**

Java からユーザー ID を照会できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

Java API System.getProperty("user.id") が SecurityException をスローしました。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラーで「user.id」を照会できるように、「policytool」を使用してご使用の Java セキュリティー環境を構成してください。

**AMQ4130**

ブラウザ・コントロールを開くことができませんでした。Mozilla がインストールされていることを確認してください。

**重大度**

10: 警告

**説明**

SWT ブラウザー・コントロールは、インストールされている Mozilla に依存します。

**応答**

Mozilla ブラウザーが正しくインストールされていることを確認してください。

**AMQ4131**

ブラウザ・コントロールを開くことができませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

SWT ブラウザー・コントロールは、インストールされているシステム・ブラウザに依存します。

**応答**

システム・ブラウザが正しくインストールされていることを確認してください。

**AMQ4132**

<insert\_0>という名前のオブジェクトを停止してもよろしいですか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

示されたオブジェクトを停止する前に確認が必要です。オブジェクトのタイプと名前は、メッセージに示されています。

**応答**

オブジェクトを停止する場合に限り、継続します。

**AMQ4133**

キュー・マネージャーを除去する際に WebSphere MQ エクスプローラーはそのキュー・マネージャーの接続情報を破棄します。

後でキュー・マネージャーを表示するには、キュー・マネージャーの追加ウィザードを使用してください。

キュー・マネージャー <insert\_0> を除去します。

**重大度**

10: 警告

**応答**

キュー・マネージャーを除去する場合に限り、継続します。

**AMQ4134**

リモート・キュー・マネージャーがこのキュー・マネージャーの管理に使用するデフォルト・チャンネルが存在しません。

他のキュー・マネージャーでこのキュー・マネージャーを管理できるようにするために、デフォルト・リモート管理チャンネル SYSTEM.ADMIN.SVRCONN を作成しますか？

**重大度**

0: 情報

**応答**

チャンネルを作成するには「はい」を選択します。

**AMQ4135**

リモート・キュー・マネージャーがこのキュー・マネージャーの管理に使用するデフォルト・チャンネルは SYSTEM.ADMIN.SVRCONN です。

キュー・マネージャーが他のキュー・マネージャーによって管理されないようにするため、このチャンネルを削除しますか?

**重大度**

0: 情報

**応答**

チャンネルを削除するには「はい」を選択します。

**AMQ4136**

この操作は、エラー・ディレクトリーとトレース・ディレクトリーに含まれるすべてのファイル (例えば読み取り専用ファイルも含まれる) を削除します。この操作を元に戻すことはできません。本当に続行しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

このマシンからすべての FFST およびトレースを削除すると、ヒストリカル・エラー・ログおよびトレースが失われます。

**応答**

エラー・ディレクトリーとトレース・ディレクトリーの内容を消去するには、「はい」を選択します。

**AMQ4137**

デフォルト・リモート管理チャンネル SYSTEM.ADMIN.SVRCONN は正常に削除されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4138**

現在の設定を上書きする新規設定をインポートしていいですか? この操作を元に戻すことはできません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーに設定をインポートすると、現在の設定が上書きされます。

**応答**

現在の設定を上書きする場合に限り、継続します。

**AMQ4139**

デフォルト・リモート管理チャンネル SYSTEM.ADMIN.SVRCONN が正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4140**

カスタム CipherSpec が無効です。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4141**

識別名の指定が無効です。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4142**

デフォルト・リモート管理チャンネル SYSTEM.ADMIN.SVRCONN を作成できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

コマンド・サーバーに対して、チャンネルを作成するためのコマンド発行中に問題が発生しました。

**応答**

再試行します。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4143**

デフォルト・リモート管理チャンネル SYSTEM.ADMIN.SVRCONN を作成できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネル作成のテンプレートとして使用するデフォルト管理チャンネルをコピー中に、問題が発生しました。

**応答**

再試行します。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4144**

デフォルト・リモート管理チャンネル SYSTEM.ADMIN.SVRCONN を削除できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

コマンド・サーバーに対して、チャンネルを削除するためのコマンド発行中に問題が発生しました。

**応答**

チャンネルが使用中でないことを確認して、再試行してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4145**

中間キュー・マネージャーを使用してリモート・キュー・マネージャーに接続しようとしたときにエラーが発生しました。このキュー・マネージャーをフォルダーに表示しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたリモート・キュー・マネージャーに接続できませんでした。

**応答**

中間キュー・マネージャーが使用可能なこと、指定されたリモート・キュー・マネージャーが稼働中であること、および中間キュー・マネージャーからアクセス可能であることを確認してください。リモート・キュー・マネージャーに接続する権限があることと、ネットワークが使用可能であることを確認してください。問題を後で解決する場合は「はい」を選択します。ここで問題を訂正する場合は「いいえ」を選択して再試行します。

**AMQ4146**

Eclipse は WebSphere MQ エクスプローラー用ワークスペースの作成および読み取りを行うことができません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーをロードするには、有効なワークスペースが必要です。

**応答**

Eclipse ワークスペースへの書き込みが可能であることを確認してください。

**AMQ4147**

Eclipse は、<insert\_0>の WebSphere MQ Explorer のワークスペースに書き込むことができません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーをロードするには、ワークスペースへの書き込みアクセスが必要です。

**応答**

Eclipse ワークスペースへの書き込みが可能であることを確認してください。

**AMQ4148**

オブジェクトは正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4149**

リスナーを開始する要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リスナーを開始するユーザー要求が WebSphere MQ によって受け入れられました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4150**

リスナーを停止する要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リスナーを停止するユーザー要求が WebSphere MQ によって受け入れられました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4151**

サービスを開始する要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

サービスを開始するユーザー要求が WebSphere MQ によって受け入れられました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4152**

サービスを停止する要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

サービスを停止するユーザー要求が WebSphere MQ によって受け入れられました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4153**

リスナーが稼働していないため、WebSphere MQ はこれを停止できません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4154**

開始コマンドが指定されていないため、WebSphere MQ はサービスを開始できません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

サービスに開始コマンドが指定されていることを確認してください。

**AMQ4155**

停止コマンドが指定されていないため、WebSphere MQ はサービスを停止できません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

サービスに停止コマンドを指定されていることを確認してください。

**AMQ4156**

サービスが実行されていないため、WebSphere MQ はこれを停止できません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4157**

サービスがすでに実行されているため、WebSphere MQ はこれを開始することができません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4158**

リスナーがすでに実行されているため、WebSphere MQ はこれを開始できません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4159**

1つ以上のプロパティが誤って指定されているため、WebSphere MQ はクライアント接続チャンネルを開始できません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

チャンネルを開始しようとする前に、クライアント接続に正しいキュー・マネージャー名と接続名があることを確認してください。

**AMQ4160**

指定された実行可能ファイルを開始できないため、WebSphere MQ は要求を処理できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アクションを完了するために実行することを定義されたプログラムを開始できなかったため、要求が失敗しました。

プログラムを開始できなかった理由は次の通りです。

プログラムが指定された位置に存在しない。

WebSphere MQ ユーザーに、このプログラムを実行できる十分なアクセス権限がない。

StdOut または StdErr がプログラムに定義されている場合に、WebSphere MQ ユーザーに指定された位置への十分なアクセス権がない。

**応答**

失敗原因の詳細について、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照し、問題を修正して再試行してください。

**AMQ4161**

指定されたパラメーターが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクトを作成または変更するときに指定されたパラメーターが無効です。

**応答**

有効なパラメーターが指定されていることを確認してから、再試行してください。

**AMQ4162**

パスワードを消去できません。

**重大度**

0: 情報

**応答**

後でもう一度パスワードの消去を試みてください。

**AMQ4163**

パスワードを変更できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

パスワードの変更の試みは、エラーのために失敗しました。

**応答**

別のパスワードを試してください。

**AMQ4164**

パスワードが正常に変更されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4165**

「新規パスワード」フィールドにパスワードが入力されていません。変更は適用されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

「新規パスワード」フィールドと「確認パスワード」フィールドの両方に新規パスワードを入力する必要があります。

**応答**

「新規パスワード」フィールドに新しいパスワードを入力してください。

**AMQ4166**

「新規パスワードの確認」フィールドにパスワードが入力されていません。変更は適用されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

「新規パスワード」フィールドと「確認パスワード」フィールドの両方に新規パスワードを入力する必要があります。

**応答**

「新規パスワードの確認」フィールドに新規パスワードを再入力してください。

**AMQ4167**

パスワードが一致しません。変更は適用されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

「新規パスワード」フィールドと「確認パスワード」フィールドの両方に同じ新規パスワードを入力する必要があります。

**応答**

新規および確認フィールドのパスワードが一致していることを確認してください。

**AMQ4168**

WebSphere MQ がオブジェクトの listen の開始に失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

現在選択されているビューにはオブジェクトが表示されません。

**応答**

問題判別情報を確認して、該当する WebSphere MQ およびキュー・マネージャーが両方とも正しく稼働していることを確認してください。

**AMQ4169**

WebSphere MQ がオブジェクト・フィルターの設定に失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーはオブジェクトを listen できないため、現在選択されているビューにオブジェクトは表示されません。

**応答**

問題判別情報を確認して、該当する WebSphere MQ およびキュー・マネージャーが両方とも正しく稼働していることを確認してください。

**AMQ4170**

指定されたオブジェクト名が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクトを作成または変更するときに指定されたオブジェクト名が無効です。

**応答**

有効なオブジェクト名が指定されていることを確認してから、再試行してください。

**AMQ4171**

キュー・マネージャーとの通信時にエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーからの情報を求める要求が失敗しました。

**応答**

操作を再試行してください。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

**AMQ4172**

情報の設定または検索でエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーからの情報を設定または検索しようとしたときにエラーが発生しました。これの原因は、オブジェクトの作成または更新で、不正な属性かまたは矛盾する属性を指定したことである可能性があります。

## 応答

このエラーがオブジェクトの作成または変更中に発生した場合、指定された属性がこのタイプのオブジェクトについて正しいことを確認してください。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

### AMQ4173

WebSphere MQ は 1 つ以上のトレースおよび FFST ファイルを消去できません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

WebSphere MQ は、次のいずれかの理由で一部のファイルを消去できません。

ファイルが現在使用中である。

WebSphere MQ エクスプローラーに適切なアクセス権がありません。

トレース・ディレクトリーまたはエラー・ディレクトリーに、WebSphere MQ エクスプローラーが削除できないユーザー作成サブディレクトリーが含まれている。

## 応答

トレースが使用不可となっていること、および WebSphere MQ エクスプローラーにトレースおよび FFST ファイルを削除するための適切なアクセス権があることを確認してください。または、ユーザー作成サブディレクトリーを除去してください。

### AMQ4174

FFST およびトレースが正常に消去されました。

## 重大度

0: 情報

## 応答

通知メッセージです。

### AMQ4175

指定された値が無効であるため、WebSphere MQ は要求を処理できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

変更または作成しようとしているオブジェクトに対しては、特定の組み合わせおよび値のみが有効です。

## 応答

有効な値を指定し、再試行してください。

### AMQ4176

指定されたオブジェクト名が無効であるため、WebSphere MQ は要求を処理できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

変更または作成しようとしているオブジェクトに対しては、特定の組み合わせおよび値のみが有効です。無効な QSG 処理、またはサブスクリプションに対して無効なトピック・オブジェクトを指定した場合にも、このメッセージが表示されることがあります。

## 応答

すべての値がこのタイプのオブジェクトに有効であることを確認し、再試行してください。このオブジェクトの処理を変更した場合、その値が正しいことを確認してください。新規サブスクリプションを作成している場合は、トピック・オブジェクトが存在することを確認してください。

### AMQ4177

WebSphere MQ への接続が静止しているため、WebSphere MQ エクスプローラーは要求を処理できません。

## 重大度

20: エラー

#### 説明

WebSphere MQ への接続が静止しているため、新規情報を照会できません。

#### 応答

接続が終了するまで待ってから、再接続してください。

#### AMQ4178

後処理の競合が検出されたため、WebSphere MQ は要求を処理できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

後処理の競合が検出されました。すべての後処理関連フィールドがこのタイプのオブジェクトについて正しいことを確認してください。

#### 応答

すべての後処理関連フィールドがこのタイプのオブジェクトについて正しいことを確認し、再試行してください。

共有キューの作成中にエラーが発生した場合は、記憶域ページにあるカップリング・ファシリティの構造名が正しく入力されていることを確認してください。

キュー共有グループ処理 (QSGDISP) の値が SHARED の伝送キューを使用するチャンネルの開始時にエラーが発生した場合は、デフォルト・チャンネル処理 (DEFCDISP) が SHARED または FIXSHARED (PRIVATE ではない) に設定されていることを確認してください。

#### AMQ4179

指定されたストリングの長さが正しくなかったため、WebSphere MQ は要求を処理できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

オブジェクトの作成または変更で、長すぎる (または短すぎる) ストリング値が変更または指定されました。

#### 応答

指定されている値を確認し、再試行してください。

注: IBM i で出口名を追加する場合は、正確に 20 文字を入力してください。最初の 10 文字がプログラム名、次の 10 文字がライブラリー名で、必要に応じて右端までブランクで埋めます。

#### AMQ4180

パラメーターの競合があったため、WebSphere MQ は要求を処理できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

オブジェクトの作成または変更で、指定されたパラメーターの組み合わせが無効です。

#### 応答

指定された組み合わせがオブジェクトに有効であることを確認し、再試行してください。

#### AMQ4181

WebSphere MQ が応答していません。待機を継続しますか?

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WebSphere MQ が応答していないようです。これは、リモート・システムの負荷が重くなっていること、またはネットワーク接続が遅いことが理由と考えられます。ただし、システム障害が起きていた可能性もあります。継続しないことを選択すると、WebSphere MQ エクスプローラーが不明状態になる可能性があるため、これを再始動する必要があります。

#### 応答

待機を継続しないことを選択した場合は、WebSphere MQ エクスプローラーを再始動します。問題が解決しない場合、問題判別情報を確認してください。

**AMQ4182**

オブジェクトが見つかりませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

照会でオブジェクトが検出されませんでした。

**応答**

オブジェクトが検出されることを想定していた場合、問題判別情報を確認し、該当する WebSphere MQ およびキュー・マネージャーが両方とも正しく稼働していることを確認してください。

**AMQ4183**

キュー・マネージャーがキュー共有グループに入っていないため、照会が失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ は、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである必要のある照会を発行しました。

**応答**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、詳細について問題判別情報を確認してください。

**AMQ4184**

チャンネルは現在アクティブではありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネルは現在アクティブではなかったため、停止されませんでした。

**応答**

チャンネルの特定のインスタンスを停止しようとする場合は、接続名またはリモート・キュー・マネージャー名を変更して、操作を再試行してください。

**AMQ4185**

WebSphere MQ は設定のインポートに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

1つ以上の選択された設定で、ユーザーの設定のインポートに失敗しました。

**応答**

再試行します。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

**AMQ4186**

WebSphere MQ は設定のエクスポートに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**応答**

再試行します。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

**AMQ4187**

WebSphere MQ は設定を正常にインポートしました。(インポートされた設定を適用するには WebSphere MQ エクスプローラーを再始動する必要があります。)

**重大度**

0: 情報

**応答**

インポートされた設定を適用するために WebSphere MQ エクスプローラーを再始動してください。

**AMQ4188**

キュー・マネージャー<insert\_0>をクラスター<insert\_1>から除去しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーをクラスターから除去する前に確認が必要です。

**応答**

クラスターから永久的にキュー・マネージャーを除去する場合のみ、継続してください。

**AMQ4189**

クラスターからキュー・マネージャーを中断できませんでした。操作はエラー<insert\_0>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーはクラスターから除去されていません。

**応答**

操作を再試行してください。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、情報が記録されているかどうかを確認してください。

**AMQ4190**

キュー・マネージャーの REPOS フィールドを消去中にエラーが発生しました。操作はエラー<insert\_0>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーはクラスターから部分的にしか除去されていません。キュー・マネージャーはクラスターから中断されました。キュー・マネージャーの REPOS フィールドと、関連するクラスター・チャンネルの CLUSTER フィールドが消去されていません。

**応答**

操作を再試行してください。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、情報が記録されているかどうかを確認してください。

**AMQ4191**

チャンネル<insert\_0>の CLUSTER フィールドをクリアしているときに、エラーが発生しました。操作はエラー<insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーはクラスターから部分的にしか除去されていません。キュー・マネージャーはクラスターから中断され、キュー・マネージャーの REPOS フィールドが消去されました。その他の関連するクラスター・チャンネルの CLUSTER フィールドのいくつかも消去されました。

**応答**

キュー・マネージャーを完全に除去するには、関連するクラスター・チャンネルのすべての CLUSTER フィールドが消去されていることを確認してください。

**AMQ4192**

チャンネル<insert\_0>がクラスター名前リスト<insert\_1>を使用しているため、キュー・マネージャーをクラスターから除去できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**応答**

クラスター名前リストからクラスター・チャンネルを除去してください。その名前リストを使用している他のオブジェクトの定義に不用意に影響を与えないように注意してください。それから、キュー・マネージャーの除去を再試行してください。

**AMQ4193**

提供された情報を必要なコード・ページへ正しく変換できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力された情報のすべてまたは一部は、別のコード・ページに変換する必要があります。1つ以上の文字を新しいコード・ページ内の対応する文字に変換できませんでした。

**応答**

使用された文字を変更して、操作を再試行してください。

**AMQ4194**

キュー・マネージャーが無効なデフォルト伝送キューを使用したため、要求が失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが宛先としてリモート・キューを指定しました。宛先キュー・マネージャーとして同じ名前を持つキューが定義されていないため、キュー・マネージャーはデフォルト伝送キューを使用しましたが、このデフォルト伝送キューが有効なローカル・キューではないため、試行は失敗しました。

**応答**

キュー・マネージャーのデフォルト伝送キュー・プロパティ (DefXmitQName) に有効なローカル・キューが指定されているかチェックしてください。

**AMQ4195**

WebSphere MQ エクスプローラーの状態が不明なため、再始動する必要があります。WebSphere MQ エクスプローラーを再始動しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ が要求に応答するのを待たないことを選択しました。このため、WebSphere MQ エクスプローラーの状態が不明となり、再始動する必要があります。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラーを再始動して、操作を再試行してください。問題が続いて起こる場合には、問題判別情報をチェックしてください。

**AMQ4196**

指定されたオブジェクトまたはキューのタイプに対して、コマンドまたは操作が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定された操作では無効なタイプのオブジェクトまたはキューに対して、コマンドまたは操作が試行されました。例えば、リモート・キューの参照、タイプが QLOCAL ではないキューに対するクリア・コマンドの発行、入力用にはオープンできないタイプのキューの API 呼び出しによるクリアなどです。

**応答**

要求された操作で有効なタイプのオブジェクトまたはキューに対して、コマンドまたは操作を再試行してください。

**AMQ4197**

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが別名キューをターゲットとして指定して発行されましたが、別名キュー属性の BaseObjectName はキュー名として認識されません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが別名キューをターゲットとして指定して発行されましたが、別名キュー属性の BaseObjectName はキュー名として認識されません。この理由コードは、BaseObjectName が正常に解決できないクラスター・キューの名前である場合にも発生します。

**応答**

キュー定義を訂正してください。

**AMQ4198**

キュー・マネージャー<insert\_0>は、1つ以上のクラスターから除去されていません。

クラスターからキュー・マネージャーを削除しないと、予期しないエラーが発生する可能性があります。

キュー・マネージャーをこれらのクラスターから削除せずに削除しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

ユーザーが、現在1つ以上のクラスターのメンバーであるキュー・マネージャーの削除を選択しました。キュー・マネージャーは、削除される前に、まずこれらのクラスターから完全に除去される必要があります。クラスター内の他のキュー・マネージャーは、このキュー・マネージャーが使用可能であると予期している可能性があります。

**応答**

クラスターのメンバーであるキュー・マネージャーをクラスターから除去してください。

**AMQ4199**

SSL 構成エラーのため、キュー・マネージャー<insert\_0>はクライアント接続に使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザーはセキュア接続を使用してリモート・キュー・マネージャーに接続しようとしています。

**応答**

宛先キュー・マネージャーの SSL 構成とローカル側 SSL のトラスト・ストアを確認してください。

**AMQ4200**

デフォルト構成に問題があります。「デフォルト構成」ウィンドウを表示できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ に問題があります。

**応答**

「詳細>>」ボタンを使用して問題の詳細を表示し、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4201**

コンピューター存在しているかどうかを確認できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ は、入力されたコンピューター名がユーザーのコンピューターのドメインに存在するかどうかを確認できませんでした。

**応答**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

**AMQ4202**

コンピューター<insert\_0>に接続できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ は、ユーザーのコンピューターの TCP/IP ドメインで、この名前コンピューターを見つけてできませんでした。

**応答**

別のコンピューター名を入力します。

**AMQ4203**

デフォルト構成をセットアップできません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ は、デフォルト構成を設定できませんでした。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、「詳細>>」および「印刷」ボタンを使用して問題の詳細を記録し、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4204**

デフォルト・クラスターを結合できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ は、ユーザーのコンピューターをデフォルトのクラスターに結合できませんでした。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、「詳細>>」および「印刷」ボタンを使用して問題の詳細を記録し、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4205**

キュー・マネージャーのリモート管理を許可できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ は、ユーザーのキュー・マネージャーをリモート管理が可能な設定に変更することができませんでした。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、「詳細>>」および「印刷」ボタンを使用して問題の詳細を記録し、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4206**

キュー・マネージャーのリモート管理を阻止できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ は、ユーザーのキュー・マネージャーを、リモート管理を禁止する設定に変更することができませんでした。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、「詳細>>」および「印刷」ボタンを使用して問題の詳細を記録し、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4207**

指定されたパスが無効です。

**重大度**

20: エラー

**応答**

指定されたパスを確認し、再試行してください。

**AMQ4208**

キュー・マネージャーを次回開始するときにこのパネルを再度表示しますか？

**重大度**

0: 情報

**説明**

このキュー・マネージャーを次回開始するときに同じパネルを表示するかどうかを選択できます。デフォルト構成は未完了です。

**応答**

次の始動時にパネルを表示するかどうかを選択します。

**AMQ4209**

リモート・コンピューターの TCP/IP 名を、現在ご使用のコンピューター名にすることはできません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リポジトリ・キュー・マネージャーが別のコンピューター上にあるように選択されていますが、入力された名前は現在ご使用のコンピューターです。

**応答**

リポジトリ・キュー・マネージャーの正しい名前を入力します。

**AMQ4210**

この操作を完了するには、コマンド・サーバーがアクティブでなければなりません。WebSphere MQ サービスを使用してこのサーバーを開始してから、操作を再試行してください。

**重大度**

10: 警告

**説明**

要求した操作では、コマンド・サーバーが実行されている必要があります。

**応答**

WebSphere MQ サービスを使ってコマンド・サーバーを始動して、操作をやり直してください。

**AMQ4211**

入力するコンピューター名は、ローカル・ドメイン (<insert\_0>) 上になければなりません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

ローカル・ドメイン上のコンピューター名を入力してください。

**AMQ4212**

WebSphere MQ を管理するための権限がないため、このタスクを完了できません。

WebSphere MQ を管理するには、mqm グループに入っていることが必要です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

使用したユーザー ID は、要求した操作の実行を許可されていません。

**応答**

必要な権限のあるユーザー ID で操作を再試行するか、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4213**

キュー・マネージャー<insert\_0>は別のプログラムによって使用されているため、削除できません。

このキュー・マネージャーを使用するプログラムをすべてクローズしてから、「再試行」をクリックしてください。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ は、別のプログラムがキュー・マネージャーを使用しているため、旧デフォルト構成キュー・マネージャーを削除することができません。

**応答**

キュー・マネージャーを使用しているプログラムをクローズして、「再試行」をクリックします。

**AMQ4214**

コンピューター<insert\_0>は、ネットワーク上では認識されません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ は、ユーザーのネットワーク上でこの名前のコンピューターを見つけることができませんでした。

**応答**

別のコンピューター名を入力します。

**AMQ4215**

デフォルト構成のアップグレードが取り消されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

デフォルト構成ウィザードを実行してデフォルト構成をアップグレード中に、「キャンセル」が押されました。

**応答**

なし

**AMQ4216**

WebSphere MQ サービス・コンポーネントに必要な権限がありません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4217**

MQSeriesServices コンポーネントに、デフォルト構成を作成するための権限がありません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4250**

ニックネームが指定されていません - ニックネームを指定してください。

**重大度**

10: 警告

**説明**

テキスト・ボックスにユーザー・ニックネームを入力する必要があります

**応答**

テキスト・ボックスにニックネームを入力してください

**AMQ4251**

WinSock を初期化できません。 - TCP/IP がインストールされていない可能性があります。TCP/IP をインストールしてからやり直してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard は TCP/IP とのインターフェースを初期化できませんでした。

**応答**

TCP/IP が正常にインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

**AMQ4252**

WinSock を検出できません - TCP/IP がインストールされていない可能性があります。TCP/IP をインストールしてからやり直してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard は、TCP/IP とのインターフェースを検出できませんでした。

**応答**

TCP/IP が正常にインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

**AMQ4253**

完全修飾 TCP/IP ドメイン・ネームを取得できません - TCP/IP プロトコルが構成されていることを確認してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard は、コンピューターの TCP/IP ドメイン・ネームを判別できませんでした。

**応答**

TCP/IP が正常にインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

**AMQ4254**

システム・メモリーの割り振りに失敗しました - システム管理者に連絡してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard は、正常な動作のための十分なストレージを割り振ることができませんでした。

**応答**

プログラムを終了してシステム・メモリーを解放します。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

**AMQ4255**

通信先のユーザー名を指定してください。

**重大度**

10: 警告

**説明**

「宛先」テキスト・ボックスにユーザー・ニックネームを入力する必要があります。

**応答**

「宛先」テキスト・ボックスにユーザー・ニックネームを入力してください

**AMQ4256**

<insert\_0>のコンピューター名を指定します (これは TCP/IP 名でなければなりません)。

**重大度**

10: 警告

**説明**

「ロケーション」フィールドにメールボックス・コンピューター名を入力する必要があります

**応答**

「ロケーション」テキスト・ボックスにメールボックス・コンピューター名またはキュー・マネージャー名を入力してください

**AMQ4257**

書き込み操作の準備中に、呼び出し MQCONN が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard が postcard を送信するためにキュー・マネージャーに接続しようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

もう一度、ポストカードの送信を試みます。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4258**

書き込み操作の準備中に、呼び出し MQOPEN が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard が postcard を送信するためにキューをオープンしようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

もう一度、ポストカードの送信を試みます。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4259**

書き込み操作の準備中に、呼び出し MQCLOSE が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard が postcard 送信後にキューをクローズしようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4260**

PUT 操作の準備中に、呼び出し MQDISC が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard が postcard 送信後にキュー・マネージャーから切断しようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4261**

呼び出し MQPUT が完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)] で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

## 説明

Postcard が postcard のデータをキューに書き込むことにより postcard を送信しようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

## 応答

もう一度、ポストカードの送信を試みます。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

### AMQ4262

GET 操作の準備中に、呼び出し MQCONN が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

## 重大度

20: エラー

## 説明

Postcard が postcard を受信するためにキュー・マネージャーに接続しようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

## 応答

Postcard を再始動します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

### AMQ4263

GET 操作の準備中に、呼び出し MQOPEN が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

## 重大度

20: エラー

## 説明

Postcard が postcard を送信するためにキューをオープンしようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

## 応答

Postcard を再始動します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

### AMQ4264

Get 操作の準備中に、呼び出し MQCLOSE が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

## 重大度

20: エラー

## 説明

Postcard が postcard 受信後にキューをクローズしようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

## 応答

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

### AMQ4265

Get 操作の準備中に、呼び出し MQDISC が失敗しました。

完了コード [*<insert\_0>* (*<insert\_1>*)], 理由コード [*<insert\_2>* (*<insert\_3>*)].

## 重大度

20: エラー

## 説明

Postcard が postcard 受信後にキュー・マネージャーから切断しようとしてエラーが発生しました。WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

## 応答

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4266**

<insert\_0>に送信するメッセージを入力します。

**重大度**

10: 警告

**応答**

「メッセージ」テキスト・フィールドにメッセージを入力してください。

**AMQ4267**

呼び出し MQGET が完了コード [<insert\_0> (<insert\_1>)]、理由コード [<insert\_2> (<insert\_3>)] で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard がデータをキューから取り出してポストカードを受信しようとしたときに、エラーが発生しました。 WebSphere MQ が別の操作で使用されている場合に、このエラーが発生することがあります。

**応答**

Postcard を再始動します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4268**

Postcard がリモート・コンピューターのキュー・マネージャーに接続できません。

デフォルト構成がリモート・コンピューター上で実行されていることを確認してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

「ロケーション」テキスト・ボックスのメールボックス・キュー・マネージャーに到達できません。

**応答**

デフォルト構成がリモート・コンピューター上で実行されていることを確認してください。

**AMQ4269**

WebSphere MQ の使用権限がないので Postcard を実行できません。

WebSphere MQ を使用するには、mqm グループに入っている必要があります。

**重大度**

20: エラー

**説明**

「ロケーション」テキスト・ボックスのメールボックス・キュー・マネージャーに到達できません。

**応答**

必要な権限のあるユーザー ID で Postcard を使用するか、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4270**

Postcard はリモート・コンピューターにメッセージを送ることができません。 Postcard はこのコンピューターと同じ TCP/IP ドメイン上のコンピューターとのみメッセージの交換が可能です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

リモート・コンピューターにメッセージを送信できません。

**応答**

デフォルト構成のアプリケーションを使用して、同じクラスターにリモート・コンピューターを追加してください。

**AMQ4271**

メールボックス・キュー・マネージャー <insert\_1>上の <insert\_0> というローカル・キューをオープンできません。

WebSphere MQ エクスプローラーを使用してキューを作成し、Postcard を再始動してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard は、キュー・マネージャーで使用するキューを自動的に作成することができませんでした。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラーを使用してキューを作成し、Postcard を再始動してください。

**AMQ4272**

このコンピューターにはメールボックス・キュー・マネージャー<insert\_0>が存在しません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Postcard の '-m' パラメーターに続いて指定されたメールボックス・キュー・マネージャー名は、このコンピューターに存在しません。

**応答**

このコンピューターに確実に存在するキュー・マネージャーの名前を指定して Postcard を再始動してください。

**AMQ4273**

ターゲット・メールボックス <insert\_0>に接続できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

Postcard は、ターゲット・メールボックスに接続できなかったために、メッセージを送信できませんでした。

**応答**

「再試行」をクリックしてメッセージの再送信を試みるか、「キャンセル」をクリックしてください。

**AMQ4274**

Postcard は、<insert\_0> がコンピューターとキュー・マネージャーの名前であることを検出しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

Postcard は、宛先メールボックス名がコンピューターおよびキュー・マネージャーの名前であることを検出しました。

**応答**

この名前のコンピューターまたはキュー・マネージャーにメッセージを送信するかどうかを選択して、「OK」をクリックします。

**AMQ4300**

MQPUT(1) 操作を続行するためにテキストを入力してください。

**説明**

テキストが入力されていないため、MQPUT または MQPUT1 の操作を続行できません。

**応答**

編集可能領域にテキストを入力して、MQPUT または MQPUT1 の操作が続行できるようにしてください。

**AMQ4301**

MQPUT 操作を続行するためにテキストを入力してください。

**説明**

テキストが入力されていないため、MQPUT 操作を続行できません。

**応答**

編集可能領域にテキストを入力して、MQPUT が続行できるようにします。

**AMQ4302**

MQPUT1 操作を続行するためにテキストを入力してください。

**説明**

テキストが入力されていないため、MQPUT1 操作を続行できません。

**応答**

編集可能領域にテキストを入力して、MQPUT1 が続行できるようにします。

**AMQ4303**

キュー・マネージャー [%s] のコマンド・サーバーが開始されていません。コマンド・サーバーを開始して、再試行してください。

**説明**

API エクササイザーが機能するには、コマンド・サーバーが実行されている必要があります。

**応答**

MQServices アプリケーションからコマンド・サーバーを始動するか、コマンド行から `strmqcsv < Queue Manager>` を実行します。

**AMQ4304**

API エクササイザーは、キュー・マネージャー [%s] のオブジェクトを列挙できません。

**説明**

API エクササイザーがキューを列挙しようとしたときに問題が発生しました。

**応答**

(サービス・アプリケーションから) コマンド・サーバーが実行されていることを確認し、そのキュー・マネージャーにキューが構成されていることを確認します。

**AMQ4305**

システムにキュー・マネージャーがありません。キュー・マネージャーを作成してから再試行してください。

**説明**

API エクササイザーは、システム上でキュー・マネージャーを検出できませんでした。

**応答**

サービス・アプリケーションを使用して作成するか、`crtmqm < Queue Manager>` を実行します。

**AMQ4306**

メモリーの割り振りに失敗しました。他のいくつかのアプリケーションを停止して、やり直してください。

**説明**

システムには、API エクササイザーを実行するのに十分なシステム・リソースがありません。

**応答**

他のアプリケーションをいくつか終了して、もう一度 API エクササイザーの実行を試みてください。

**AMQ4307**

COM 障害のため、API エクササイザーを続行できません。WebSphere MQ が正しくインストールされ、構成されていること、およびユーザー ID が正しいことを確認してください。は、mqm グループのメンバーです。

**説明**

API エクササイザーは開始時に、WebSphere MQ サービスへの COM 接続を確立できませんでした。

**応答**

WebSphere MQ が正しくインストールおよび構成されており、使用しているユーザー ID が mqm グループのメンバーであることを確認します。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

**AMQ4308**

API エクササイザーを続行できません。使用しているユーザー ID が mqm グループのメンバーであることを確認してください。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4309**

API エクササイザーを続行できません。使用しているユーザー ID が管理者グループのメンバーであることを確認してください。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4350**

セットアップを続行できません。この製品のより新しいバージョンがインストールされています。

**説明**

インストール時に、この製品の 5.3 より新しいバージョンが既にコンピューターにインストールされていることが検出されました。

**応答**

5.3 より新しいバージョンが既にインストールされている場合は、バージョン 5.3 をインストールしないようにしてください。

**AMQ4351**

アンインストールを続行できません。アンインストールは既に実行されています。

**説明**

アンインストールの 2 つのコピーを同時に実行しようとしてしました。

**応答**

アンインストールのコピーの実行は、一度に 1 つだけにしてください。

**AMQ4352**

セットアップを続行できません。サポートされているバージョンの Windows が必要です。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4353**

セットアップを続行できません。'%s' は管理者ではありません。

**説明**

インストールを実行しているユーザーには管理者権限がありません。

**応答**

ログオフしてから、管理者権限のあるユーザー ID を使用してログオンし直してください。

**AMQ4354**

リポジトリ・コンピューター名が入力されていません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4355**

リポジトリ・コンピューター名が無効です。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4356**

リモート・コンピューター名を入力してください。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4357**

ファイル '%s' の登録に失敗しました (コード 0x%8.8lx)。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4358**

ファイル '%s' の登録解除に失敗しました (コード 0x%8.8lx)。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4359**

ファイル '%s' を登録できません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4360**

ファイル '%s' を登録解除できません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4361**

アンインストールを続行できません。管理者のログオンが必要です。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4362**

デフォルト構成の作成に失敗しました。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4363**

セットアップで Windows NT サービス・パックのレベルを検出できませんでした (サービス・パック 3 以降が必要です)。 サービス・パック 3 以降がインストールされていますか?

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4364**

セットアップで Windows NT サービス・パックのレベルを検出できませんでした (サービス・パック 6a 以降が必要です)。 サービス・パック 6a 以降がインストールされていますか?

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4365**

サービス・パック 3 がインストールされていないので、セットアップを続行できません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4366**

Service Pack 6a 以降がインストールされていないので、セットアップを続行できません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4367**

Internet Explorer バージョン 4.01 SP1 がインストールされていないので、セットアップを続行できません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4368**

続行するにはコンポーネントを少なくとも 1 つは選択してください。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4369**

'Web 管理サーバー' コンポーネントには、'サーバー' コンポーネントが必要です。

**説明****応答****AMQ4370**

'サーバー' コンポーネントのアンインストールには、'Web 管理サーバー' コンポーネントのアンインストールが必要です。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4371**

'他の言語の文書' コンポーネントには、'文書 (日本語)' コンポーネントが必要です。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4372**

'日本語の文書' コンポーネントのアンインストールには、'他の言語の文書' コンポーネントのアンインストールが必要です。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4373**

ドライブ %s (プログラム・ファイル) には、これらのコンポーネントをインストールするために十分なスペースがありません。ディスク・スペースを可能な限り解放するか、または選択を変更してください。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4374**

ドライブ %s (データ・ファイル) には、これらのコンポーネントをインストールするために十分なスペースがありません。ディスク・スペースを可能な限り解放するか、または選択を変更してください。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4375**

プログラム・ファイルの最上位フォルダーが無効です。

**説明**

プログラム・ファイルの最上位フォルダーのパスが無効です。

**応答**

有効なパスを入力してください。

**AMQ4376**

データ・ファイルの最上位フォルダーが無効です。

**説明**

データ・ファイルの最上位フォルダーのパスが無効です。

**応答**

有効なパスを入力してください。

**AMQ4377**

ログ・ファイル・フォルダーが無効です。

**説明**

ログ・ファイルのフォルダー名のパスが無効です。

**応答**

有効なパスを入力してください。

**AMQ4378**

ルート・フォルダーはプログラム・ファイルの最上位フォルダーには使用できません。

**説明**

WebSphere MQ はルート・フォルダー ('C:&#xa5;' など) にインストールできません。

**応答**

ルート以外のフォルダーを入力します。

**AMQ4379**

ルート・フォルダーはデータ・ファイルの最上位フォルダーには使用できません。

**説明**

WebSphere MQ はルート・フォルダー ('C:&#xa5;' など) にインストールできません。

応答

ルート以外のフォルダーを入力します。

**AMQ4380**

ルート・フォルダーはログ・ファイル・フォルダーには使用できません。

説明

WebSphere MQ はルート・フォルダー (「C:&#xa5;」など) にインストールできません。

応答

ルート以外のフォルダーを入力します。

**AMQ4381**

ドライブ %s (ログ・ファイル) には、これらのコンポーネントをインストールするために十分なスペースがありません。ディスク・スペースを可能な限り解放するか、または選択を変更してください。

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ4382**

フォルダー '%s' を作成または置換できません。

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ4385**

不明な言語が指定されました ('%s')

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ4386**

指定された言語のコード・ページ (%d) が使用不可です。

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ4387**

セットアップでヘルプを表示する前に、このコンピューターのヘルプ・システムの HTML Help 1.3 へのアップグレードが必要です。すぐにアップグレードしますか? (コンピューターの再始動が必要な場合があります)

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ4388**

WebSphere MQ セットアップまたはアンインストールが既に実行されています。

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ4389**

セットアップでローカル 'mqm' グループを作成できませんでした (コード %d)。

**説明**

ローカル・ユーザー・グループ「mqm」の作成でエラーが発生しました。

**応答**

インストール・ログ・ファイルを調べて、問題の詳細を確認します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4390**

セットアップでグローバル 'Domain mqm' グループを作成できませんでした (コード %d)。

**説明**

ローカル・ユーザー・グループ「mqm」の作成でエラーが発生しました。

**応答**

インストール・ログ・ファイルを調べて、問題の詳細を確認します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4391**

セットアップでグローバル 'Domain mqm' グループが検出できませんでした。

**説明**

グローバル・グループ「mqm」が作成されましたが、検出できませんでした。

**応答**

インストール・ログ・ファイルを調べて、問題の詳細を確認します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4392**

セットアップでグローバル 'Domain mqm' グループをローカル 'mqm' グループに追加できませんでした (コード %d)。

**説明**

グローバル 'mqm' グループをローカル 'mqm' グループに追加するときにエラーが発生しました。

**応答**

インストール・ログ・ファイルを調べて、問題の詳細を確認します。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4393**

ポートが指定されていませんでした。リスナーは作成されません。

**説明**

なし。

**応答**

なし

**AMQ4394**

リモート管理用のキュー・マネージャーが選択されていません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4395**

1つ以上の 'サーバー' コンポーネントの前提条件が選択されていませんでした。そのコンポーネントはインストールできません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4396**

1つ以上のアップグレードの前提条件が選択されていませんでした。WebSphere MQ は正しく動作しません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4397**

ネットワーク・ドライブ (ドライブ %s) にインストールできません。

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ4400**

キュー <insert\_0> が定義されていないため、エクスプローラーはキュー・マネージャーを管理できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

エクスプローラーは、キュー <insert\_0> を使用してキュー・マネージャーを管理します。

**応答**

キュー <insert\_0> を定義して、再試行してください。

**AMQ4401**

キュー <insert\_0> を開く権限がユーザーにないため、エクスプローラーはキュー・マネージャーを管理できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

エクスプローラーは、キュー <insert\_0> を使用して、このキュー・マネージャーを管理します。

**応答**

エクスプローラーがキュー <insert\_0> を開くことを許可し、再試行してください。

**AMQ4402**

<insert\_1>のために、キュー<insert\_0>をオープンできませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

エクスプローラーは、キュー <insert\_0> を使用して、このキュー・マネージャーを管理します。

**応答**

エクスプローラーがキュー <insert\_0> を開くことを許可し、再試行してください。

**AMQ4403**

接続しようとしているキュー・マネージャーは、使用している中間キュー・マネージャーより上位のコマンド・レベルです。これにより、一部の操作が機能しません。宛先キュー・マネージャーをフォルダーに表示しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

使用しようとしている中間キュー・マネージャーより上位のコマンド・レベルのリモート・キュー・マネージャーに接続しようとしています。アプリケーション接続またはキュー状況などの新しい項目を選択するとエラーが発生します。

**応答**

コマンド・レベルの矛盾があっても、この中間キュー・マネージャーでリモート・キュー・マネージャーを引き続き使用する場合は、「はい」を選択してください。別の中間キュー・マネージャーを選択するには、「いいえ」を選択してください。

**AMQ4404**

キュー・マネージャー<insert\_0>は、クラスター<insert\_1>の唯一のフル・リポジトリであり、一部のリポジトリ・キュー・マネージャーが定義されています。このキュー・マネージャーをクラスターから除去すると、以降のリポジトリ・アクションは実行されません。このキュー・マネージャーを除去してもよろしいですか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

クラスター情報を表示可能にするには、WebSphere MQ エクスプローラーのクラスタリング・コンポーネントは、ソースとして少なくとも1つのフル・リポジトリを選択することを必要とします。最後のフルリポジトリを削除すると、クラスター・メンバーの表示ができなくなるため、フルリポジトリ上で実行中のクラスター・アクションも実行できなくなります。

**応答**

既存の部分リポジトリ情報にアクセスできなくなる可能性があっても、フルリポジトリを除去したい場合は、「はい」を選択してください。

**AMQ4405**

JNDI サービス・プロバイダーへの接続で予期しないエラーが発生しました。

以下のメッセージには、変換されない可能性がある JNDI サービス・プロバイダーからのテキストが含まれています。

オブジェクト名 <insert\_2> に対して JNDI 操作 <insert\_1> を実行中にエラー <insert\_0> が発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

予期しない JNDI エラーにより、操作を完了できませんでした。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4406**

このサービス・プロバイダーの指定されたセキュリティー信用証明情報 (識別名およびパスワード) が無効であるため、JNDI サービス・プロバイダーへの接続を確立できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このサービス・プロバイダーの識別名またはパスワードが無効です。

**応答**

セキュリティー資格認定を訂正して、再試行してください。

**AMQ4407**

プロバイダー URL が指定されませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

初期コンテキストをオープンするときは、プロバイダー URL を指定する必要があります。

**応答**

プロバイダー URL を指定してください。

**AMQ4408**

JMS 管理データ・ファイルに NAME がありませんでした。

**重大度**

20: エラー

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4409**

<insert\_0>というニックネームのコンテキストは既に存在しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ツリー内の各コンテキストのニックネームは、固有でなければなりません。

**応答**

このコンテキストには別のニックネームを選択してください。

**AMQ4410**

属性<insert\_1>の詳細を取得するときに、オブジェクト・タイプ<insert\_0>は認識されません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト ID が無効です。

**応答**

サポートされるオブジェクト・タイプのみが使用されていることを確認してください。

**AMQ4411**

オブジェクト・タイプ<insert\_0>は、コンテキスト<insert\_1>からオブジェクトをロードするときに認識されません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト・クラスが無効です。

**応答**

サポートされるオブジェクト・タイプのみが使用されていることを確認してください。

**AMQ4412**

予期しない例外: <insert\_0>メッセージ<insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

予期しないエラーが発生しました。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4413**

コンテキスト<insert\_0>は空ではないため、除去できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コンテキストは、空の場合のみ除去できます。

**応答**

コンテキストの内容を除去して、再試行してください。

**AMQ4414**

JNDI サービス・プロバイダーへの接続時に予期しないエラーが発生しました。

以下のメッセージには、変換されない可能性がある JNDI サービス・プロバイダーからのテキストが含まれています。

<insert\_3> がオブジェクト名 <insert\_2> で JNDI 操作 <insert\_1> を実行しているため、エラー <insert\_0> が発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

予期しない JNDI エラーにより、操作を完了できませんでした。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4415**

<insert\_0>という名前のオブジェクトが既に存在するため、オブジェクトを作成できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

同じ名前のオブジェクトが JNDI にすでに存在します。既存のオブジェクトは、作成しようとしているオブジェクトとタイプが異なる可能性があることに注意してください。これは、ある特定の JNDI コンテキスト内では、接続ファクトリー、宛先、および他の JNDI オブジェクトがすべて同じ名前空間を共用するためです。既存のオブジェクトを見つけるには、JMS コンテキスト・ツリー・ノードを選択することにより、その JNDI ロケーション内のすべてのオブジェクトを表示します。

**応答**

新しいオブジェクトに別の名前を選択するか、既存のオブジェクトを削除してください。

**AMQ4416**

オブジェクトを作成する権限がないか、あるいはコンテキストへの接続がないために、オブジェクト <insert\_0>を作成することができませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI サービス・プロバイダーが LDAP である場合は、オブジェクトを作成するために十分なレベルのセキュリティーが接続にない可能性があります。

JNDI サービス・プロバイダーがファイル・システムの場合、バインディング・ファイルは読み取り専用である可能性があります。

またはコンテキストへの接続がありません。

**応答**

正しいレベルのセキュリティーで JNDI サービス・プロバイダーに接続するか、バインディング・ファイルの許可が正しいことを確認して、再試行してください。

**AMQ4417**

ローカル・アドレスを値<insert\_0>に設定できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ローカル・アドレスは、ip\_address(port-number) の形式の有効なアドレスでなければなりません。ポート番号は特定のポートまたはある範囲のポート (low-port,high-port) にするか、あるいは省略することができます。IP アドレスの代わりにホスト名を指定できます。

**応答**

ローカル・アドレスを訂正して、再試行してください。

**AMQ4418**

SSL ピア名を値<insert\_0>に設定できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

SSL ピア名は、有効な識別名でなければなりません。

**応答**

有効な SSL ピア名を入力してください。

**AMQ4419**

JNDI コンテキストが不適切にオープンされました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

すでにオープンしているコンテキストを再びオープンすることはできません。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4420**

JNDI コンテキストが不適切にクローズされました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

すでにクローズしているコンテキストを再びクローズすることはできません。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4421**

JNDI サービス・プロバイダーへの接続を確立できませんでした。これは、物理接続が切断されたか、プロバイダー URL の識別名またはセキュリティー信用証明情報に指定された識別名が無効であることが原因であると考えられます。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定する名前は、正しい形式の識別名でなければならず、指定した JNDI サービス・プロバイダーで有効でなければなりません。

**応答**

識別名を訂正して、再試行してください。

**AMQ4422**

プロバイダー URL <insert\_0>を使用して JNDI サービス・プロバイダーへの接続中に通信エラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI サービス・プロバイダーへの接続がタイムアウトになりました。

**応答**

接続情報を調べて、サービス・プロバイダーがリモート・エンドで実行されていることを確認して、再試行してください。

**AMQ4423**

オブジェクトを削除する権限を持っていないため、オブジェクト <insert\_0> を削除できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI サービス・プロバイダーが LDAP である場合は、オブジェクトを削除するために十分なレベルのセキュリティーが接続にない可能性があります。

JNDI サービス・プロバイダーがファイル・システムである場合は、バインディング・ファイルが読み取り専用になっている可能性があります。

**応答**

正しいレベルのセキュリティーで JNDI サービス・プロバイダーに接続するか、バインディング・ファイルの許可が正しいことを確認して、再試行してください。

**AMQ4424**

要求されたセキュリティー・レベルは、JNDI サービス・プロバイダーでサポートされていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

要求されたセキュリティー・レベル(なし、単純、または CRAM\_MD5)は、使用中の JNDI サービス・プロバイダーでサポートされていません。

**応答**

要求されたセキュリティー・レベルまたは JNDI サービス・プロバイダーのいずれかを変更して、再試行してください。

**AMQ4425**

<insert\_1> ページの <insert\_0> フィールドの値がどのキュー・マネージャーを参照しているかは明確ではありません。

\* キュー・マネージャーが WebSphere MQ エクスプローラーにあることを確認してください。

\* キュー・マネージャーが実行されていることを確認します。

\* WebSphere MQ エクスプローラーがキュー・マネージャーに接続されていることを確認します。

\* キュー・マネージャーのキューをリストする権限があることを確認してください。

\* WebSphere MQ エクスプローラーに同じ名前のキュー・マネージャーが 2 つある場合は、<insert\_0> 選択ボタンを使用して、キュー・マネージャーを再度指定してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーは、オブジェクト選択ダイアログにデータを取り込むために、照会するキュー・マネージャーを正確に認識する必要があります。

**応答**

キュー・マネージャー名があいまいな場合は、オブジェクトを選択する前に、選択ボタンを使用して稼働中のキュー・マネージャーを選択してください。

**AMQ4426**

ロケーション<insert\_0>を解決できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定されたロケーションは、バインドされていないために見つかりませんでした。

**応答**

JNDI コンテキストの詳細が正しいこと、およびコンテキストそのものにアクセスできることを確認してください。再試行します。

**AMQ4427**

JNDI サービス・プロバイダーが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効な JNDI サービス・プロバイダーが入力されたか、CLASSPATH に見つかりません。

**応答**

JNDI サービス・プロバイダーを正しく指定して、再試行してください。

**AMQ4428**

プロバイダー URL <insert\_0>の JNDI サービス・プロバイダーへの接続中にエラーが発生しました。

ホスト名または IP アドレスが正しくありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ホスト名または IP アドレスが正しくないため、JNDI サービス・プロバイダーへの接続がタイムアウトになりました。

**応答**

ホスト名または IP アドレスを訂正して、再試行してください。

**AMQ4429**

プロバイダー URL <insert\_0>の JNDI サービス・プロバイダーへの接続中にエラーが発生しました。

ホスト名またはポート番号が正しくないか、リモート・サーバーが稼働中ではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ホスト名またはポート番号が正しくないか、リモート・サーバーが稼働中ではないため、JNDI サービス・プロバイダーへの接続がタイムアウトになりました。

**応答**

ホスト名およびポート番号を調べて、リモート・サービス・プロバイダーが稼働中であることを確認してください。

**AMQ4430**

プロバイダー URL <insert\_0>の JNDI サービス・プロバイダーへの接続中にエラーが発生しました。

ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) が使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

LAN を使用できないため、JNDI サービス・プロバイダーへの接続がタイムアウトになりました。

**応答**

LAN が使用可能であることを確認して、再試行してください。

**AMQ4431**

オブジェクトを更新する権限がないため、オブジェクト<insert\_0>を更新できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI サービス・プロバイダーが LDAP である場合は、オブジェクトを更新するために十分なレベルのセキュリティーが接続にない可能性があります。

JNDI サービス・プロバイダーがファイル・システムである場合は、バインディング・ファイルが読み取り専用になっている可能性があります。

**応答**

正しいレベルのセキュリティーで JNDI サービス・プロバイダーに接続するか、バインディング・ファイルの許可が正しいことを確認して、再試行してください。

**AMQ4432**

JNDI サービス・プロバイダーで通信エラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI サービス・プロバイダーへの接続がタイムアウトになりました。

**応答**

LAN が使用可能であり、リモート・サービス・プロバイダーが稼働中であることを確認してから、再試行してください。

**AMQ4433**

オブジェクトの名前を変更する権限がないため、オブジェクト<insert\_0>を名前変更することができませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI サービス・プロバイダーが LDAP である場合は、オブジェクトを名前変更するための十分なレベルのセキュリティが接続にない可能性があります。

JNDI サービス・プロバイダーがファイル・システムである場合は、バインディング・ファイルが読み取り専用になっている可能性があります。

**応答**

正しいレベルのセキュリティで JNDI サービス・プロバイダーに接続するか、バインディング・ファイルの許可が正しいことを確認して、再試行してください。

**AMQ4434**

名前は既に存在するため、オブジェクト<insert\_0>を<insert\_1>に名前変更することができませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI 名前空間内の名前は固有でなければなりません。

**応答**

別の名前を選択して、再試行してください。

**AMQ4435**

フィールド<insert\_0>は接頭部<insert\_1>で開始する必要があります。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力する名前は、特定の接頭部で始まっている必要があります。

**応答**

名前を訂正して、再試行してください。

**AMQ4436**

<insert\_4>の<insert\_3>が<insert\_5>の場合、<insert\_1>ページの<insert\_0>は<insert\_2>にはなれません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

属性が矛盾しています。

**応答**

いずれかまたは両方の属性を変更して、整合性を取ってください。

**AMQ4437**

不明なイベント。<insert\_0>と入力してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JMS 管理プラグインが予期しないイベントを検出しました。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4438**

クラス<insert\_2>のパラメーター<insert\_0> <insert\_1>の値<insert\_3>は、URL に変換できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JMS 管理プラグインが予期しない URL ストリングを検出しました。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4439**

<insert\_0>の最後の非空白文字は、アスタリスクでなければなりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力する名前は、アスタリスクで終わっている必要があります。

**応答**

名前を訂正して、再試行してください。

**AMQ4440**

フィールド <insert\_0>の設定中に、次のエラーが検出されました。

<insert\_1>

**重大度**

20: エラー

**説明**

SSL CRL の設定中に JMS 例外が生成されました。

**応答**

SSL CRL フィールドのすべての URL が "ldap://host" の形式になっていることを確認してください。

**AMQ4441**

JMS パラメーター<insert\_0> <insert\_1>の基礎となるオブジェクトのタイプが予期されていません:  
<insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JMS 管理プラグインが予期しないオブジェクト・タイプを検出しました。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4442**

予期しない JMS 例外が発生しました。pcfid: <insert\_0><insert\_1>、オブジェクト・タイプ:  
<insert\_2>、JMS エラー<insert\_3> <insert\_4>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JMS 管理プラグインが予期しない JMS エラーを検出しました。

**応答**

FFST を調べて、エラーの理由を判別してください。

**AMQ4443**

1つ以上の JNDI エラーにより、名前空間からオブジェクトを検索できませんでした。これらのエラーの最後のエラーは、オブジェクト<insert\_1>に対する<insert\_0>でした。

**重大度**

30: 重大エラー

#### 説明

予期しない JNDI エラーにより、操作を完了できませんでした。オブジェクトが損傷している可能性があります。名前空間から検索できません。損傷したオブジェクトは、WebSphere MQ エクスプローラーに表示されます。

#### 応答

オブジェクトを (エクスプローラーを使用して) 削除するか、なんらかのツールを使用して修復してください。

#### AMQ4444

1 つ以上の JNDI エラーにより、名前空間からオブジェクトを検索できませんでした。これらのエラーの最後のエラーは、オブジェクト <insert\_1> に対する <insert\_0> でした。

JNDI サービス・プロバイダーが以下のメッセージ・テキストを返しました。

<insert\_2>.

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しない JNDI エラーにより、操作を完了できませんでした。オブジェクトが損傷している可能性があります。名前空間から検索できません。損傷したオブジェクトは、WebSphere MQ エクスプローラーに表示されます。

#### 応答

オブジェクトを (エクスプローラーを使用して) 削除するか、なんらかのツールを使用して修復してください。

#### AMQ4445

JNDI によって報告された次のエラーが原因で、オブジェクトのトランスポートを変更できませんでした: <insert\_1>。

<insert\_0>.

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

オブジェクトに、トランスポートの変更を妨げるプロパティが含まれている可能性があります。

#### 応答

トランスポートを変更する前に、矛盾するプロパティを変更してください。

#### AMQ4446

初期コンテキスト <insert\_0> (<insert\_1>) を WebSphere MQ エクスプローラーから除去しようとしています。本当に続行しますか?

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

この初期コンテキストを除去すると、WebSphere MQ エクスプローラーに表示されなくなります。コンテキスト自体とその内容は削除されません。

#### 応答

WebSphere MQ エクスプローラーからコンテキストを除去したい場合のみ、続行してください。

#### AMQ4447

JMS オブジェクト <insert\_0> (<insert\_1>) を削除しますか?

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

JMS オブジェクトは、JMS コンテキストから永続的に除去されます。

#### 応答

オブジェクトを永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4448**

<insert\_3>ページの<insert\_2>が指定されていない場合、<insert\_1>ページの<insert\_0>は指定できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

属性が矛盾しています。

**応答**

いずれかまたは両方の属性を変更して、整合性を取ってください。

**AMQ4449**

ファクトリー・クラス・ロケーション<insert\_0>が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファクトリー・クラス・ロケーションは URL 形式でなければなりません。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラーから初期コンテキストを除去して、再度追加してください。

**AMQ4450**

この操作はサポートされていません。次のメッセージには、変換されない可能性がある JNDI サービス・プロバイダーのテキストが含まれています。

<insert\_0>

このメッセージを問題の診断に使用してください。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JNDI プロバイダーは、実行された操作をサポートしていません。よくある問題として、パスワードなしで接続しようとしたことが考えられます。

**応答**

JNDI エラー・メッセージから問題を判別して解決し、再試行してください。

**AMQ4451**

JMS オブジェクト <insert\_1> の <insert\_0> プロパティが <insert\_2> に設定されていますが、WebSphere MQ エクスプローラーはその名前のキュー・マネージャーに接続されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

該当するオブジェクトをキュー・マネージャーに作成するには、WebSphere MQ エクスプローラーがキュー・マネージャーに接続されていなければなりません。

**応答**

必要なキュー・マネージャーを WebSphere MQ エクスプローラーに追加し、接続してからこの操作を再試行してください。

**AMQ4452**

このキューのキュー定義で指定されたカップリング・ファシリティ構造名は、CFRM データ・セットで定義されていないか、リスト構造の名前ではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

共用キューにアクセスするために MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、キュー定義で指定されたカップリング・ファシリティ構造体名が CFRM データ・セットで定義されていないか、リスト構造の名前ではないため、この呼び出しは失敗しました。

**応答**

キュー定義を変更して、CFRM データ・セットに定義されているカップリング・ファシリティ・リスト構造体の名前を指定します。

**AMQ4453**

このキュー用に定義された記憶域クラスが存在しません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、このキュー用に定義された記憶域クラス・オブジェクトが存在しません。

**応答**

このキューが必要とする記憶域クラス・オブジェクトを作成するか、キュー定義を変更して既存の記憶域クラスを使用してください。キューが使用する記憶域クラス・オブジェクトの名前は、StorageClass キュー属性で指定します。

**AMQ4454**

このチャンネルに関連したエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

エラーの原因として、解決できないホスト名をチャンネルが参照していることが考えられます。

**応答**

チャンネルのすべてのプロパティが正しく定義されていることを確認してください。解決できるホスト名をチャンネルが参照していることを確認してください。

**AMQ4455**

指定された識別名は無効です。

**重大度**

20: エラー

**応答**

有効な識別名が指定されていることを確認してください。

**AMQ4456**

Db2 サブシステムを現在使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

共用キューにアクセスするために MQOPEN、MQPUT1、または MQSET 呼び出しが発行されましたが、キュー・マネージャーが Db2 サブシステムに接続されていないため、呼び出しは失敗しました。結果として、キュー・マネージャーは共用キューに関連するオブジェクト定義にアクセスできません。このエラーの原因として、Db2 サブシステムが再始動中であることが考えられます。

**応答**

Db2 サブシステムを構成して、キュー・マネージャーから接続できるようにします。Db2 サブシステムが使用可能であり、稼働中であることを確認してください。

**AMQ4457**

JMS オブジェクト <insert\_2> 上の属性 <insert\_1> からの値 <insert\_0> は、MQ オブジェクトに対して有効な名前ではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定された属性の値は、MQ オブジェクト名の無効文字が含まれているか、無効な長さです。

**応答**

無効文字を除去するか長さを短くして属性値を変更してください。

**AMQ4458**

JMS オブジェクト<insert\_1>上のプロパティ<insert\_0>を取得または更新できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

JMS オブジェクトのプロパティの値を要求または更新中にエラーが発生しました。

**応答**

FFST 情報を調べて、エラーの理由を判別してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4459**

JMS オブジェクト<insert\_1>上の<insert\_0>プロパティは<insert\_2>に設定されていますが、その名前の既知のキュー・マネージャーが管理トピック・オブジェクトの作成をサポートしていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

該当するオブジェクトをキュー・マネージャーに作成するには、管理トピック・オブジェクトの作成をキュー・マネージャーがサポートしていなければなりません。

**応答**

管理トピックの作成をサポートする該当する名前のキュー・マネージャーを WebSphere MQ エクスプローラーに追加するか、JMS オブジェクトのプロパティを変更してください。操作を再試行してください。

**AMQ4460**

デフォルト・リモート管理リスナー LISTENER.TCP が正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4461**

デフォルト・リモート管理リスナー LISTENER.TCP を作成できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リスナーを作成するコマンドをコマンド・サーバーに対して発行中に問題が発生しました。

**応答**

キュー・マネージャーのコマンド・サーバーが稼働していることを確認し、再試行してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4462**

キュー・マネージャー<insert\_0>を正常に追加しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

要求されたキュー・マネージャーは、WebSphere MQ エクスプローラーの既知のキュー・マネージャーのリストに正常に追加されました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4463**

JMS オブジェクト <insert\_1> の <insert\_0> 属性が <insert\_2> に設定されていますが、これは MQ キュー・マネージャーの有効な名前ではありません。

**重大度**

20: エラー

#### 説明

この属性は MQ キュー・マネージャー名の有効な文字のみを含み、適切な長さでなければなりません。

#### 応答

この属性を実際の MQ キュー・マネージャーの名前に変更してください。

#### AMQ4464

キュー・マネージャーに接続しようとしているときに、エラーが発生しました。WebSphere MQ エクスプローラーがキュー・マネージャーの名前を判別できなかったため、キュー・マネージャー名を追加できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

WebSphere MQ エクスプローラーに追加されるキュー・マネージャー名は、追加の前に判別されなければなりません。接続にアスタリスク (\*) を使用する場合は、キュー・マネージャー名を判別できるようにキュー・マネージャーが使用可能でなければなりません。

#### 応答

必要なキュー・マネージャーを使用可能にしておいてからこの操作を再試行するか、アスタリスク (\*) を使用するのではなくキュー・マネージャー名を明示してください。

#### AMQ4465

WebSphere MQ エクスプローラーのオブジェクトに新しい属性が追加されました。既存のユーザー定義方式は更新されていません。この新しい属性をユーザー定義方式に含める場合は、新しい属性を手動で追加する必要があります。

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

通知メッセージです。

#### AMQ4466

キュー・マネージャー<insert\_0>に正常に接続しました。必要なキュー・マネージャー名<insert\_1>がアスタリスク (\*) で始まっていると、複数のキュー・マネージャーが同じ接続から得られる可能性があります。このキュー・マネージャーを追加しますか？

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

接続に使用されるキュー・マネージャー名は、アスタリスク (\*) で始まります。これは、複数のキュー・マネージャーに接続するために同じ接続詳細を使用できることを意味します。

#### 応答

このキュー・マネージャーが必要だった場合は、指定して追加してください。

#### AMQ4467

フィルターはまだ他のプラグインが必要なため、除去されませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

このフィルターの除去に対して、他のプラグインからまだ使用中であることを示す応答がありました。

#### 応答

他のプラグインによるフィルターの使用が完了したことを確認してから、除去を再試行してください。

#### AMQ4468

<insert\_0> という名前のフィルターは、以下の自動セットによって使用されています。<insert\_1> このフィルターを削除しますか？

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

指定されたフィルターを削除する前に確認が必要です。名前はメッセージに示されています。

**応答**

フィルターを永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4469**

自動設定<insert\_0>は、メンバーシップを決定するためのフィルターを備えていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このセットが使用していた唯一のフィルターは、削除されています。自動セットには、セットのメンバーであるオブジェクトを判別するためのフィルターが少なくとも1つ必要です。

**応答**

このセットを編集するには「OK」を押し、「セットの編集」ダイアログで、このセットで使用するフィルターを1つ以上選択します。

**AMQ4470**

プロバイダー・バージョンの形式が正しくありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プロバイダー・バージョンは、ピリオド(.)で分離された最大4グループの数字から成り(末尾にはピリオドが付かない)、例えば63、1.2、または1.2.34.56のようになります。「unspecified」という語を入力することもできます。

**応答**

プロバイダー・バージョンを訂正して、再試行してください。

**AMQ4471**

<insert\_0>という名前のセットを削除しますか?

セットを削除してもセットのメンバーは削除されません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたセットを削除する前に確認が必要です。

**応答**

セットを永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4472**

方式の保存に使用される WMQ\_Schemes.xml ファイルが不完全です。

このファイルのバックアップ・コピーが作成されました。

<insert\_0>.

可能な場合は、このファイルからユーザー定義方式が抽出され、保持されます。

しかし、何人かが失われた可能性があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WMQ\_Schemes.xml ファイルから方式を読み取るときに、欠落している必須情報がありました。

**応答**

必要に応じてユーザー定義方式を再作成してください。方式ファイルから作成されたバックアップ・コピーを参照して、変更された内容を確認してください。

**AMQ4473**

方式の保存に使用される WMQ\_Schemes.xml ファイルの形式が無効であることが検出されました。

このファイルのバックアップ・コピーが作成されました。

<insert\_0>.

すべてのユーザー定義方式を再作成する必要があります。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WMQ\_Schemes.xml ファイルは無効な形式だったので、WebSphere MQ エクスプローラーが処理できませんでした。切り捨てられた可能性があります。

#### 応答

すべてのユーザー定義方式を再作成してください。できれば方式ファイルのバックアップ・コピーを参照して、情報を取得してください。

#### AMQ4474

フィルターの保存に使用される WMQ\_Filters.xml ファイルが不完全です。このファイルのバックアップ・コピーが作成されました: <insert\_0>。可能な場合は、このファイルからのユーザー定義フィルターが抽出されて保存されていますが、一部のフィルターが失われている可能性があります。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WMQ\_Filters.xml ファイルからフィルターを読み取る際に、欠落している必須情報がありました。

#### 応答

必要に応じてユーザー定義フィルターを再作成してください。フィルター・ファイルから作成されたバックアップ・コピーを参照して、変更された内容を確認してください。

#### AMQ4475

フィルターの保存に使用される WMQ\_Filters.xml ファイルの形式が無効であることが検出されました。このファイルのバックアップ・コピーが作成されました: <insert\_0>。すべてのユーザー定義フィルターを再作成する必要があります。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WMQ\_Filters.xml ファイルは無効な形式だったので、WebSphere MQ エクスプローラーが処理できませんでした。切り捨てられた可能性があります。

#### 応答

すべてのユーザー定義フィルターを再作成してください。できればフィルター・ファイルのバックアップ・コピーを参照して、情報を取得してください。

#### AMQ4476

セットの保存に使用される WMQ\_Sets.xml ファイルの形式が無効であることが検出されました。このファイルのバックアップ・コピーが作成されました: <insert\_0>。すべてのセットを再作成する必要があります。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WMQ\_Sets.xml ファイルは無効な形式だったので、WebSphere MQ エクスプローラーが処理できませんでした。切り捨てられた可能性があります。

#### 応答

必要に応じてすべてのセットを再作成してください。できれば、セット・ファイルから作成されたバックアップ・コピーを参照して、情報を取得してください。

#### AMQ4477

提供されたトピック・ストリングが無効です。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

トピック・ストリングが見つからないか、無効文字を含んでいます。

**応答**

トピック・ストリングは、かならず定義しておくようにしてください。また、無効文字を含めないでください。

**AMQ4478**

パブリケーションを保存できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQPMO\_RETAIN オプションを使用してトピックでメッセージをパブリッシュしようとしたのですが、パブリケーションを保存できませんでした。一致するどのサブスクライバーにもパブリケーションはパブリッシュされませんでした。保存パブリケーションは SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE に保管されます。失敗の理由としては、キューがいっぱいである、キューが「書き込み」禁止になっている、キューが存在しない、などが考えられます。

**応答**

アプリケーションが SYSTEM.RETAINED.PUB.QUEUE キューを使用できることを確認してください。

**AMQ4479**

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが別名キューをターゲットとして指定して発行されましたが、別名キュー属性の BaseObjectName は、キュー名としてもトピック名としても認識されませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このエラーは、BaseObjectName が正常に解決できないクラスター・キューの名前である場合にも発生します。

**応答**

キュー定義を訂正してください。

**AMQ4480**

MQOPEN または MQPUT1 呼び出しが別名キューをターゲットとして指定して発行されましたが、別名キュー定義の BaseObjectName が、ローカル・キューではないキュー、つまりローカル定義のリモート・キューとして解決されます。

**重大度**

20: エラー

**応答**

キュー定義を訂正してください。

**AMQ4481**

トピックからアンサブスクライブ中にエラーが発生しました。操作は理由コード <insert\_0> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**応答**

この理由コードを使用して、失敗の根本的な理由を判断してください。

**AMQ4482**

パブリケーションを取得中にエラーが発生しました。操作は理由コード <insert\_0> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

サブスクライブしたトピックの GET 命令を実行中にエラーが発生しました。トピックは自動的にアンサブスクライブされました。

**応答**

この理由コードを使用して、失敗の根本的な理由を判断してください。

**AMQ4483**

トピックでメッセージをパブリッシュ中にエラーが発生しました。操作は理由コード<insert\_0>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**応答**

この理由コードを使用して、失敗の根本的な理由を判断してください。

**AMQ4484**

パブリケーションのトピック・ストリングを取得中にエラーが発生しました。操作は理由コード<insert\_0>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

トピックは自動的にアンサブスクライブされました。

**応答**

この理由コードを使用して、失敗の根本的な理由を判断してください。

**AMQ4485**

このアクションにより、選択されたキュー・マネージャー上のトピック・ストリング<insert\_0>から保存パブリケーションのみが削除されます。

保存パブリケーションを消去しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

保存パブリケーションを消去する前に確認が必要です。

**応答**

このトピック・ストリングの保存パブリケーションを永続的に消去したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4486**

トピック・ストリング<insert\_0>上の保存パブリケーションが正常にクリアされました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4487**

<insert\_0>を初期化中のエラー。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このアプリケーションを開始しているときにエラーが発生しました。

**応答**

WebSphere MQ ランタイム・ライブラリーが使用可能であること、および PATH システム環境変数にこれらのランタイム・ライブラリーのディレクトリーが含まれていることを確認してください。

**AMQ4488**

ヘルプを表示するための Web ブラウザー、製品資料、または IBM Eclipse ヘルプ・システムが見つかりません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ヘルプ・システムを起動するには、Web ブラウザー、製品資料、IBM Eclipse ヘルプ・システムのいずれかが PATH システム環境変数に組み込まれている必要があります。

**応答**

製品資料または IBM Eclipse ヘルプ・システムをインストールするか、使用可能な Web ブラウザーをシステム・パスに設定してください。アプリケーションを再起動し、再試行してください。

**AMQ4489**

IBM Eclipse ヘルプ・システムの起動でエラーが発生しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アプリケーションは IBM Eclipse ヘルプ・システムのインスタンスを作成できませんでした。

**応答**

IBM Eclipse ヘルプ・システムがインストールされていることを確認してください。

**AMQ4490**

IBM Eclipse ヘルプ・システムの開始でエラーが発生しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アプリケーションは IBM Eclipse ヘルプ・システムを開始できませんでした。

**応答**

IBM Eclipse ヘルプ・システムがインストールされていることを確認してください。

**AMQ4491**

Web ブラウザーによるヘルプ・システムの起動でエラーが発生しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アプリケーションは Web ブラウザーでヘルプ・システムを起動できませんでした。

**応答**

システム・パスに指定した Web ブラウザーが機能していることを確認してください。

**AMQ4492**

IBM Eclipse ヘルプ・システムによるヘルプ・システムの起動でエラーが発生しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アプリケーションは IBM Eclipse ヘルプ・システムでヘルプ・システムを起動できませんでした。

**応答**

IBM Eclipse ヘルプ・システムがインストールされていることを確認してください。

**AMQ4493**

ヘルプ文書をシステムで使用できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アプリケーションはヘルプ文書をシステムで見つけることができませんでした。

**応答**

WebSphere MQ の使用可能なヘルプ文書がインストールされていることを確認してください。

**AMQ4494**

Web ブラウザーをシステム・パスで見つけることができません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

アプリケーションは Web ブラウザーをシステム・パスで見つけることができませんでした。

## 応答

適切な Web ブラウザーがシステム・パスに指定されていることを確認してください。

### AMQ4495

このアクションは、すべてのプロキシ・サブスクリプションを、このキュー・マネージャーが参加しているすべてのクラスターおよび階層内の直接接続される他のすべてのキュー・マネージャーと再同期させます。

このアクションを続行してもよろしいですか？

## 重大度

10: 警告

## 説明

このアクションは、受け取るべきでないプロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャーが受け取っている場合、または受け取るべきプロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャーが受け取っていない場合のみ、使用すべきです。

最もマッチングするトピック定義を指定したときに、パブリケーション有効範囲またはサブスクリプション有効範囲を「キュー・マネージャー」に設定した場合、またはその定義におけるクラスター名が空または間違っている場合、プロキシ・サブスクリプションの欠落が見られることがあります。

最もマッチングするトピック定義を指定したときに、プロキシ・サブスクリプション動作を「強制」に設定した場合、無関係なプロキシ・サブスクリプションが見られることがあります。

## 応答

トピック定義を確認してから、プロキシ・サブスクリプションを再同期するようにしてください。

### AMQ4496

プロキシ・サブスクリプションをリフレッシュする要求が WebSphere MQ によって受け入れられました。

## 重大度

0: 情報

## 応答

通知メッセージです。

### AMQ4497

このトピック・ストリングは既に別のトピックで指定されています。別のトピック・ストリングを入力してください。

## 重大度

10: 警告

## 応答

別のトピック・ストリングを入力してください。

### AMQ4498

このアクションにより、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに接続されているすべてのキュー・マネージャー上のトピック・ストリング<insert\_0>から保存パブリケーションが削除されます。

保存パブリケーションを消去しますか？

## 重大度

10: 警告

## 説明

保存パブリケーションを消去する前に確認が必要です。

## 応答

このトピック・ストリングの保存パブリケーションを永続的に消去したい場合にのみ、続けてください。

### AMQ4499

JMS キュー<insert\_0>のキュー属性が空です。JMS キューを MQ キューにマップする前に、キュー名を入力する必要があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

JMS キューのキュー名が入力されていないため、MQ キューを作成できません。

**応答**

JMS キューのキュー属性の値を入力してから、MQ キューの作成を再試行してください。

**AMQ4500**

キュー・マネージャー<insert\_0>をクラスター<insert\_1>から強制的に除去しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーは、すでに削除されていて通常の方法でクラスターから除去できない場合にのみ強制的に除去してください。キュー・マネージャーを強制的に除去する前に確認が必要です。

**応答**

キュー・マネージャーを強制的に除去したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4501**

キュー・マネージャーはクラスターから正常に除去されました。これが WebSphere MQ エクスプローラーに反映されるには時間がかかる場合があります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

構成変更がネットワークに送信され、キュー・マネージャーへのクラスター・チャンネルがアクティブでなくなるまで、キュー・マネージャーはクラスターのメンバーとして表示されます。これにはしばらく時間がかかる場合があります。

**AMQ4502**

クラスター<insert\_0>内のキューを共有しました。キュー・マネージャーは、このクラスターのメンバーではありません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

このクラスターのメンバーがキューを使用できるようにするには、キュー・マネージャーをクラスターに結合する必要があります。

**AMQ4503**

値リストが長すぎます。

**重大度**

10: 警告

**説明**

入力された値のリストが長すぎます。この値に許可される最大文字数は<insert\_0>です。

**AMQ4504**

値が長すぎます。

**重大度**

10: 警告

**説明**

入力した値には文字が多すぎました。この属性のそれぞれの値に許可される最大文字数は<insert\_0>です。

**AMQ4505**

リストに項目が多すぎます。

**重大度**

10: 警告

#### 説明

リストに入力した値が大きすぎました。値の最大数は<insert\_0>です。

#### AMQ4506

キュー・マネージャー<insert\_0>に接続できません。通常の方法でクラスターから除去することはできません。

#### 重大度

10: 警告

#### 応答

キュー・マネージャーが使用可能のときに、操作を再試行してください。キュー・マネージャーが現在は存在しない場合、クラスターからキュー・マネージャーを強制的に除去することを選択できます。

#### AMQ4507

リモート・キュー・マネージャーは TCP/IP を使用していません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

リモート・キュー・マネージャーで使用可能な接続情報は、TCP/IP 以外の通信プロトコルを使用します。WebSphere MQ エクスプローラーは、通常の方法では、キュー・マネージャーに接続してこれをクラスターから除去することはできません。

#### 応答

キュー・マネージャーが現在は存在しない場合、クラスターからキュー・マネージャーを強制的に除去することを選択できます。

#### AMQ4508

キュー・マネージャーは正常にクラスターを離れました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

構成変更がネットワークに送信され、キュー・マネージャーへのクラスター・チャンネルがアクティブでなくなるまで、キュー・マネージャーはクラスターのメンバーとして表示されます。これにはしばらく時間がかかる場合があります。

#### AMQ4509

クラスターのメンバーシップを中断する要求が受け入れられました。

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

通知メッセージです。

#### AMQ4510

クラスターのメンバーシップを再開する要求が受け入れられました。

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

通知メッセージです。

#### AMQ4511

キュー・マネージャーがクラスターのメンバーではありません。

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

通知メッセージです。

#### AMQ4512

クラスター操作を実行しているときにエラーが発生しました。操作はエラー<insert\_0>で失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4513**

クラスターに関する情報をリフレッシュする要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4514**

キュー・マネージャーがクラスター&lt;insert\_0&gt;のメンバーではありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このキュー・マネージャーをクラスターのメンバーにするまで、クラスターのお他メンバーは、クラスターで共有しているオブジェクトを使用できません。

**AMQ4515**

クラスター&lt;insert\_0&gt;のリポジトリ・キュー・マネージャーは接続に使用できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このクラスターのクラスター・キューを表示しているビューが不完全である可能性があります。

**AMQ4516**

クラスター・ワークロード出口エラー。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーのクラスター・ワークロード出口が予期せず失敗したか、時間内に応答しませんでした。

**AMQ4517**

クラスター解決エラー。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リポジトリ・キュー・マネージャーからの応答を使用できなかったため、クラスター・キューの定義を正しく解決できませんでした。

**AMQ4518**

呼び出しはクラスター出口によって停止されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーのクラスター・ワークロード出口は、クラスター・キューをオープンするための呼び出しまたはクラスター・キューにメッセージを書き込むための呼び出しを拒否しました。

**AMQ4519**

使用できる宛先がありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

メッセージが書き込まれた時点で、クラスターには既にキューのインスタンスがありませんでした。

**AMQ4520**

WebSphere MQ エクスプローラーがTCP/IP を初期化できませんでした。 リモート・キュー・マネージャーおよびクラスターの管理を行うことができません。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4521**

入力したテキストには、リスト区切り文字として使用されるコンマ (,) が含まれています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

この値はリストを受け入れません。

**応答**

値の一部としてコンマを使用する場合は、値を二重引用符で囲んでください。

**AMQ4522**

ウィザードはキュー・マネージャーをクラスターに追加することができませんでした。

すべての変更がロールバックされます。

**重大度**

10: 警告

**説明**

オブジェクトの定義またはキュー・マネージャーのプロパティーの変更中に問題が発生しました。

**応答**

デフォルトのオブジェクトがキュー・マネージャー用に存在していることを確認してください。

**AMQ4523**

ウィザードはキュー・マネージャーのうちの1つをクラスターに追加することができませんでした。

すべての変更がロールバックされます。

**重大度**

10: 警告

**説明**

オブジェクトの定義またはキュー・マネージャーのプロパティーうちの1つを変更中に問題が発生しました。

**応答**

デフォルトのオブジェクトがキュー・マネージャー用に存在していることを確認してください。

**AMQ4524**

キュー・マネージャー<insert\_0>は、クラスター<insert\_1>内のソース・リポジトリです。クラスターからこのキュー・マネージャーを除去すると、以降のリポジトリ・アクションは実行されません。リポジトリ・アクションを再び有効にするには、別のキュー・マネージャーを情報のソースとして選択し直してください。このキュー・マネージャーを除去してもよろしいですか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

クラスター情報を表示可能にするには、WebSphere MQ エクスプローラーのクラスタリング・コンポーネントは、ソースとして少なくとも1つのフル・リポジトリを選択することを必要とします。最後のフルリポジトリを削除すると、クラスター・メンバーの表示ができなくなるため、フルリポジトリ上で実行中のクラスター・アクションも実行できなくなります。

**応答**

残っているクラスター情報にアクセスできなくなっても、ソース・リポジトリを除去したい場合は、「はい」を選択してください。

**AMQ4525**

クラスター・ワークロード出口のロード・エラーです。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーのクラスター・ワークロード出口がロードに失敗しました。

**応答**

クラスター・ワークロード出口が存在し、その名前が正しく指定されていることを確認してください。

**AMQ4526**

インポート中に追加のプラグインが使用可能になりました。その設定をインポートしますか?

**重大度**

0: 情報

**説明**

インポート・ファイルには、インポート中に使用可能化されたプラグインの設定が含まれています。

**応答**

設定をインポートするには、「はい」を選択します。

**AMQ4527**

デフォルト構成は既に実行中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

既にシステムで実行中のデフォルト構成のインスタンスがあります。

**応答**

先に起動したデフォルト構成のアプリケーションを使用してください。前のデフォルト構成ダイアログを得られない場合は、JVM がアプリケーションを実行するのを停止して、アプリケーションを再起動してください。

**AMQ4528**

選択されたファイルにはインポート設定が含まれていません。

**重大度**

20: エラー

**応答**

別のファイルを選択して、再試行してください。

**AMQ4529**

メッセージの書き込みは失敗しました。このキュー用に定義された記憶域クラスで指定されたページ・セット ID が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQPUT または MQPUT1 呼び出しが発行されましたが、このキュー用に定義された記憶域クラス・オブジェクトで指定されたページ・セット ID が無効です。

**応答**

このキューで使用されている記憶域クラスの定義内のページ・セット ID 値を訂正して、再試行してください。エラーが解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4530**

新規の z/OS リスナーを作成および開始する要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リスナーを作成するユーザー要求が WebSphere MQ によって受け入れられました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4531**

サブスクリプションが使用中です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

使用中のサブスクリプションの削除、または変更を行おうとしました。

**応答**

サブスクリプションが使用中でないことを確認して、再試行してください。

**AMQ4547****重大度**

20: エラー

**説明**

java.library.path とネイティブ・ライブラリー・パスが異なるインストール済み環境を参照しているため、システム・ライブラリーをロードできませんでした。

**応答**

ネイティブ・ライブラリー・パス (LD\_LIBRARY\_PATH、LIBPATH、または SHLIB\_PATH) が正しく設定されていることを確認してください。

**AMQ4548****重大度**

20: エラー

**説明**

MQ エクスプローラーで Web ページを表示しようとしたときに、システム・ブラウザで問題が発生しました。

**応答**

ブラウザが Web ページを表示するために使用できることを確認してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4549**

ワークスペース<insert\_0>から設定をコピー中に、予期しないエラーが発生しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

前のワークスペースから、いくつかのファイルまたは設定をコピーできませんでした。

**応答**

Eclipse ワークスペースが指定された場所に存在し、読み取り可能であることを確認してください。

**AMQ4570**

要求されたアプリケーションはインストールされていないか、起動することができません。

**重大度**

20: エラー

**応答**

該当する製品の機能が正常にインストールされていることを確認してください。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4571**

キュー・マネージャー<insert\_0>の鍵リポジトリの場所を変更してもよろしいですか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

「キー・リポジトリ」フィールドを無効な位置に変更すると、キュー・マネージャーを開始できなくなる可能性があります。

**応答**

続行する前に、指定した位置が正しいことを確認してください。

**AMQ4572**

すべてのクラスターに関する情報をリフレッシュする要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4573**

<insert\_1>ページの<insert\_0>フィールドに、キュー・マネージャーが入力されていません。  
<insert\_2>フィールドを設定するには、選択ボタンを使用する前に、このフィールドに値を入力する必要があります。この値は手動で入力することもできます。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーは、オブジェクト選択ダイアログにデータを取り込むために、照会するキュー・マネージャーを正確に認識する必要があります。

**応答**

該当するフィールドに有効な値を入力してください。

**AMQ4574**

IBM WebSphere Explorer はすでに実行中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ4575**

データ・モデルの初期化中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ4576**

作業ディレクトリー<insert\_0>が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ4577**

プロセスの初期化中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ4578**

メッセージ・ファイル<insert\_0>のロード中にエラーが起きました。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ4579**

システム・ライブラリーのロード中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ4580**

内部メソッドが予期しないシステム戻りコードを検出しました。メソッド<insert\_0>は<insert\_1>を戻しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

エラーの原因を判別するため、このコンピューターで問題判別情報を調べてください。

**AMQ4581**

内部関数<insert\_0>でパラメーター検査が失敗しました。エラーは<insert\_1>でした。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

エラーの原因を判別するため、このコンピューターで問題判別情報を調べてください。

**AMQ4582**

キュー・マネージャー<insert\_0>は、クライアント接続には使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

キュー・マネージャーが稼働していること、およびリモート接続を受け入れる構成になっていることを確認してください。

**AMQ4583**

キュー・マネージャー<insert\_0>は接続に使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

キュー・マネージャーが稼働していることを確認してください。

**AMQ4584**

キュー・マネージャー<insert\_0>は、クラスター接続には使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

キュー・マネージャーが実行中であることを確認してください。キュー・マネージャーは削除されても、クラスターのメンバーとして 30 日間まで表示され続ける可能性があります。

**AMQ4585**

内部メソッド<insert\_0>が予期しないエラーを検出しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

エラーの原因を判別するため、このコンピューターで問題判別情報を調べてください。

**AMQ4586**

ファイル<insert\_0>の URL を作成しようとしたのですが、失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

指定されたファイル名が認識されませんでした。

**応答**

ファイルが指定された場所に存在し、読み取り可能であることを確認してください。

**AMQ4587**

URL <insert\_0>からの読み取りに失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

システムがクライアント・チャネル定義テーブルを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。

**応答**

ファイルが指定された場所に存在し、読み取り可能であることを確認してください。

**AMQ4588**

URL <insert\_0>からの読み取りに失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

システムがファイルを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。

**応答**

ファイルが指定された場所に存在し、読み取り可能であることを確認してください。

**AMQ4589**

アプリケーション<insert\_0>への接続が見つかりませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

接続が見つかりませんでした。 コマンドの発行前に接続がクローズされた可能性があります。

**応答**

バックグラウンドでアプリケーション接続がクローズされていないかどうかを確認してください。

**AMQ4590**

アプリケーション<insert\_0>へのキュー・マネージャー接続をクローズできませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

PCF エラーにより、接続をクローズできませんでした。

**応答**

FFST を調べてください。

**AMQ4591**

<insert\_0>のコマンド・サーバーが稼働していません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

コマンド・サーバーが何らかの理由で停止したため、要求を処理することができません。

**応答**

コマンド・サーバーを開始してください。 エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

**AMQ4592**

接続は正常にクローズされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アプリケーションへの接続をクローズする要求は成功しました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4593**

アプリケーション<insert\_0>への接続を停止しますか。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーは接続を停止しようとしています。 接続を停止すると、このアプリケーションと MQ の間の通信が不可能になります。

**応答**

接続を停止するには「はい」を選択します。

**AMQ4594**

アプリケーション<insert\_0>へのキュー・マネージャー接続がクローズされていません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

停止させることができない WebSphere MQ キュー・マネージャー・プロセスがあります。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4595**

アプリケーション<insert\_0>への接続をクローズするための応答が要求に受信されませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

コマンド・サーバーがもう稼働していない可能性があります。

**応答**

エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

**AMQ4596**

鍵ストア・ファイル<insert\_0>が見つかりません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

SSL 鍵ストアまたはトラスト・ストアが存在しません。

**応答**

新しいストア・ファイルを作成するか、接続プロパティを変更してください。その後、要求を再試行してください。

**AMQ4597**

鍵ストア・ファイル<insert\_0>から証明書がロードされていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

SSL 鍵ストアまたはトラスト・ストアに証明書が含まれていません。

**応答**

適切な証明書を鍵ストア・ファイルに追加してください。その後、要求を再試行してください。

**AMQ4598**

指定されたパスワードで鍵ストア・ファイル<insert\_0>を開くことができませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

SSL 鍵ストアまたはトラスト・ストアを開くことができませんでした。

**応答**

パスワードを変更してください。その後、要求を再試行してください。

**AMQ4599**

FIPS 必須設定を変更すると、SSL を使用するすべてのクライアント接続に影響し、WebSphere MQ エクスプローラーを再始動する必要があります。WebSphere MQ エクスプローラーをすぐに再始動しますか？

**重大度**

10: 警告

#### 説明

FIPS 必須値はアプリケーション全体の設定であるため、「設定」ページからのみ変更できます。SSL を使用するすべてのクライアント接続が、この設定の影響を受けます。

#### 応答

この変更を適用するには、WebSphere MQ エクスプローラーを再始動してください。

#### AMQ4600

指定されたキーを使用して、パスワード・ストア<insert\_0>をオープンできませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

指定されたパスワード・ストア・ファイルを開くことができません。

#### 応答

パスワード・ストア・ファイルが存在することを確認してください。別の鍵を入力し、再試行してください。

#### AMQ4601

新しいパスワード・ストアに前のパスワード・ストアの項目をコピーしますか?

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

パスワード・ストア・ファイルの名前がユーザーによって変更されました。

#### 応答

新しいファイルに項目をコピーするには、「はい」をクリックしてください。

#### AMQ4602

パスワード・ストア<insert\_0>に対する指定されたキーを検証できません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

指定された鍵でパスワード・ストアをオープンすることができません。

#### 応答

別の鍵を入力し、操作を再試行してください。

#### AMQ4603

パスワード・ストア<insert\_0>が無効です。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ファイル名はディレクトリーの名前です。

#### 応答

有効なファイル名を入力してください。

#### AMQ4604

パスワード・ストア<insert\_0>は読み取り専用です。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ファイル名に対して WebSphere MQ エクスプローラーは読み取りアクセスのみ可能です。

#### 応答

読み取りと書き込みの両方のアクセスが可能なファイルの名前を指定してください。

#### AMQ4605

パスワード・ストア<insert\_0>の形式が不明です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

パスワード・ストア・ファイルの内容が不明です。これは、パスワード・ストアとして作成されていない既存のXMLファイルであるか、またはXMLファイルでない可能性があります。

**応答**

既存のパスワード・ストア・ファイル名を指定するか、新しいXMLファイルを指定してください。

**AMQ4606**

パスワード・ストア<insert\_0>は開いていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ユーザーはこのパスワード・ストアをオープンしないことを選択しました。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラーを再始動してパスワード・ストアをオープンするか、「パスワード」設定ページを使用してください。

**AMQ4607**

キュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ操作について無効になっています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

パブリッシュまたはサブスクライブの操作を行おうとしてエラーが発生しました。

**応答**

キュー・マネージャーの PSMODE 属性を変更して、パブリッシュ/サブスクライブ操作を有効にしてください。

**AMQ4608**

指定された宛先が存在しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

新しいサブスクリプションを作成しようとしてエラーが発生しました。

**応答**

宛先名を変更して再試行してください。

**AMQ4609**

リスナーが開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リスナーを開始する要求が成功しました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4610**

無効な接続名。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネル定義の接続名をネットワーク・アドレスに解決できません。ネーム・サーバーに項目が含まれていないか、ネーム・サーバーが利用不能です。

**応答**

接続名が正しく指定されているか、またネーム・サーバーが使用可能であることを確認します。

**AMQ4611**

これらの変更を行うと、キュー・マネージャーは切断され、新しい詳細に再接続されます。 Do you want to continue?

**重大度**

0: 情報

**説明**

接続の詳細が、接続されているキュー・マネージャーに変更されました。再接続をしなければ現行の接続詳細を見ることはできません。

**応答**

続行する場合は「はい」を、変更を取り消す場合は「いいえ」を選択します。

**AMQ4616**

<insert\_0>への接続時に新しいコマンド・レベルが検出されました。古いレベルは<insert\_1>であり、新しいレベルは<insert\_2>です。キュー・マネージャーへの接続が置換されます。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このキュー・マネージャーに対する以前の接続は正常に行われています。キュー・マネージャーは同じですが、現在はコマンド・レベルが上がっています。WebSphere MQ のバージョンが変更されました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4620**

チャンネル認証レコードは既に存在します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

チャンネル認証レコードを追加しようとしたが、既に存在しています。

**応答**

プロパティ・パネルを使用して、既存のレコードを変更してください。

**AMQ4621**

チャンネル認証レコードが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定されたチャンネル認証レコードが存在しません。

**応答**

存在するチャンネル認証レコードを指定してください。

**AMQ4622**

チャンネル認証レコードに、既存の範囲と競合する範囲の IP アドレスが含まれていました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

範囲は、同じチャンネル・プロファイル名に対する既存の範囲の完全なスーパーセットまたはサブセットでなければなりません。

**応答**

既存の範囲のスーパーセットまたはサブセットである範囲を指定してください。

**AMQ4623**

チャンネル認証レコードの数が最大数を超えました。

**重大度**

20: エラー

#### 説明

1 件のチャンネル認証レコードが設定されたことにより、単一チャンネル・プロファイル上でのそのタイプの総エントリー数が、許可される最大数を超過しました。

#### 応答

いくつかのチャンネル認証レコードを除去して、空きを作ってください。

#### AMQ4624

チャンネル認証レコードに無効な IP アドレスが含まれていました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

チャンネル認証レコードに無効な IP アドレス、または IP アドレスと突き合わせる無効なワイルドカード・パターンが含まれていました。

#### 応答

有効な IP アドレスを指定してください。

#### AMQ4625

チャンネル認証レコードに無効な IP アドレスの範囲が含まれていました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

チャンネル認証レコードに、無効な範囲を持つ IP アドレスが含まれていました。例えば、範囲の下限の数値が上限の数値と同じか、それを超過している場合です。

#### 応答

有効な範囲の IP アドレスを指定してください。

#### AMQ4626

チャンネル認証レコードのクライアント・ユーザーの値が無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

クライアント・ユーザーの値に、許可されていないワイルドカード文字が含まれています。

#### 応答

クライアント・ユーザー・フィールドに有効な値を指定してください。

#### AMQ4627

チャンネル認証プロファイルの名前が無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

コマンドで使用されたチャンネル・プロファイル名が無効である。これは、名前として受け入れられない文字が含まれていたか、指定されたプロファイル・タイプでは無効な文字が含まれていたことが原因である可能性があります。

#### 応答

チャンネル認証プロファイル名に有効な値を指定してください。

#### AMQ4700

PCF コマンド ID (<insert\_0>) は、キュー・マネージャー<insert\_1>には無効です。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

指定された PCF コマンドは、このキュー・マネージャーでサポートされていません。

#### AMQ4701

キュー・マネージャーのコマンド・レベルが要求されたコマンドのバージョンをサポートしていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

要求されたコマンドとキュー・マネージャーがサポートするコマンド・レベルが一致していません。リモート・キュー・マネージャーよりも下位のコマンド・レベルの中間キュー・マネージャーが使用されている可能性があります。

**応答**

中間キュー・マネージャーが、接続に使用されているキュー・マネージャーと同等または上位のコマンド・レベルであるかを確認してください。必要であれば、別の中間キュー・マネージャーを使用してキュー・マネージャーに再接続してください。

**AMQ4702**

現在のフィルターは、キュー・マネージャー <insert\_0>ではサポートされていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このビューに適用されたフィルターは、このキュー・マネージャーでサポートされていません。

**応答**

フィルター設定がキュー・マネージャーでサポートされていることを確認してください。

**AMQ4766**

セットアップでは、このコンピューターをインストールするか、Microsoft Windows インストーラーのバージョン 2.0 にアップグレードする必要があります。(MSI)。

**説明**

アップグレードの後にリポートが必要な場合があります。

**応答**

続行するには「はい」または「いいえ」を選択します。

**AMQ4800**

<insert\_0>の初期化中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このアプリケーションを開始しているときにエラーが発生しました。

**応答**

WebSphere MQ ランタイム・ライブラリーが使用可能かどうか確認してください。

(PATH システム環境変数に、これらのランタイム・ライブラリーのディレクトリーが含まれていることを確認してください。)

**AMQ4807**

指定されたメッセージ・サイズ (<insert\_0>) が許可された範囲外です。

**重大度**

10: 警告

**応答**

1000 から 100 000 000 までの範囲の値を指定してください。

**AMQ4808**

不明な<insert\_0> <insert\_1>。

**重大度**

10: 警告

**説明**

特定のタイプに指定されたエンティティーが、システム上で定義されていません。

**応答**

エンティティーが定義されていて、エンティティーのタイプが一致することを確認してください。

**AMQ4809**

<insert\_0>から<insert\_1>への権限を削除しようとしています。続行しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定された権限を削除してよいか確認してください。エンティティ名およびオブジェクト名は、メッセージに示されています。

**応答**

権限を永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4810**

<insert\_0>から<insert\_1>への権限が正常に削除されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4811**

権限が正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4812**

<insert\_0>のすべての作成権限を削除しようとしています。続行しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定された権限を削除してよいか確認してください。エンティティ名はメッセージに示されています。

**応答**

権限を永続的に削除したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4813**

<insert\_0>の SSL セキュリティーをリフレッシュしようとしています。これは、アクティブ・チャネルの実行状況に影響する可能性があります。本当に続行しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

リフレッシュ・コマンドを発行する前に確認が必要です。このコマンドの結果として、特定のアクティブ・チャネル・タイプが停止される可能性があります。キュー・マネージャー名はメッセージに示されています。

**応答**

SSL セキュリティーをリフレッシュしたい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4814**

コマンド・サーバーはセキュリティ要求を許可していません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

コマンド・サーバーが、セキュリティ関連 PCF をブロックする "-a" オプションを使用して始動されました。

**応答**

"-a" オプションを使用せずにコマンド・サーバーを再始動してください。

**AMQ4815**

非総称プロファイル名<insert\_0>に対する権限を追加しようとしています。続行しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

総称プロファイル名の権限を追加するよう選択しましたが、特定のプロファイルの名前を入力しました。

**応答**

特定のプロファイル名の権限を追加したい場合は続けてください。

**AMQ4816**

許可サービス・コンポーネントにより内部的に保持されている許可のリストがリフレッシュされます。本当に続行しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

リフレッシュ・コマンドを発行する前に確認が必要です。

**応答**

許可サービス・コンポーネントのセキュリティーをリフレッシュしたい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4817**

要求されたリソースのストレージ内プロファイルがリフレッシュされます。本当に続行しますか？

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ ストレージ内 ESM (外部セキュリティー・マネージャー) に対してリフレッシュ・コマンドを発行する前に確認が必要です。

**応答**

ESM をリフレッシュしたい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4818**

権限レコードが見つかりませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定された要求と一致する権限レコードがありません。

**応答**

エンティティーまたはプロファイル名を変更して、再試行してください。

**AMQ4819**

ファイル<insert\_0>に書き込むことができません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ファイル名に対する書き込みアクセス権限がありません。

**応答**

ユーザー ID がファイル名に対する書き込みアクセス権限を持っていることを確認してください。

**AMQ4820**

<insert\_0>という名前のファイルが既に存在しています。このファイルを置換しますか？

**重大度**

0: 情報

**応答**

ファイルを置き換えることを確認してください。

**AMQ4821**

このアクションは、既存の権限レコードを置き換えます。本当に続行しますか？

**重大度**

0: 情報

**説明**

このエンティティの明示的な権限レコードがすでに存在します。新しい権限レコードを作成すると、既存の権限レコードが置き換えられます。

**応答**

既存の権限レコードを置き換えたい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4822**

エンティティ名を使用するときは、特定のプロファイル名を入力する必要があります。

**重大度**

0: 情報

**応答**

特定のプロファイル名を入力してください。

**AMQ4823**

プロファイル<insert\_0>が存在しません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ユーザーが入力したプロファイル名は、このオブジェクトのタイプには存在しません。

**応答**

プロファイルの名前を変更するか、または選択ボタンを使用して、再試行してください。

**AMQ4824**

プロファイル名<insert\_0>が無効です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ユーザーが入力した総称プロファイル名は許可されていません。

**応答**

サポートされているワイルドカード文字に適合するようプロファイルの名前を変更し、再試行してください。

**AMQ4825**

セキュリティー出口クラス<insert\_0>が無効であるか、または検出できません。

**重大度**

10: 警告

**応答**

セキュリティー出口クラスが使用可能であること、およびセキュリティー出口クラスに com.ibm.mq.MQSecurityExit インターフェースが実装されていることを確認してください。

**AMQ4826**

セキュリティー・プロファイル・ケースが矛盾しています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーのセキュリティー・プロファイル・ケース属性が、リフレッシュ・コマンドで発行されたものと異なります。

**応答**

キュー・マネージャーのセキュリティー・プロファイル・ケース属性、またはリフレッシュ・コマンドで指定したクラスのセキュリティー・プロファイル・ケース属性を変更してください。

**AMQ4830**

総称プロファイル名 "<insert\_0>" の権限を追加しようとしています。処理を続行しますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

特定のプロファイル名の権限を追加するよう選択しましたが、総称プロファイル名を入力しました。

**応答**

総称プロファイル名の権限を追加したい場合は続けてください。

**AMQ4850**

WebSphere MQ エクスプローラー・テスト・プラグインが現在使用中であるため、以降のテストを実行できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

これらのテストを取り消すか、完了するのを待ってから以降のテストを開始してください。

**応答**

進行ビューを使用して現在のテストを停止するか、現在のテストが完了するまでお待ちください。

**AMQ4851**

実行できるテストはありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

これらのテストを起動するために使用される構成に、選択されたテストがありません。これは、テストが選択されていないか、使用できる適切なテストがないことが原因であると考えられます。

**応答**

テストが使用可能になっている別のテストを試行するか、別の点からテストを試行して使用可能な適切なテストがあることを確認してください。

**AMQ4852**

WebSphere MQ エクスプローラー・テスト・プラグインの初期化エラーです。

**重大度**

20: エラー

**説明**

テスト・プラグインの初期化中にエラーが発生しました。これにより、実行中のテストで問題が発生する可能性があります。

**応答**

問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうかを確認してください。

**AMQ4853**

このテストが現在使用可能になっている構成がないため、テストを使用不可にできません。

**重大度**

0: 情報

**応答**

これ以上のアクションは不要です。テストはすでに使用不可になっています。

**AMQ4854**

<insert\_0>テストの実行が終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

要求されたテスト実行が完了し、指定された数のテストが実行されました。このメッセージはテスト・プラグイン設定から使用不可にすることができます。

**応答**

これ以上のアクションは不要です。テスト実行は完了しています。

**AMQ4855**

テスト実行が取り消されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ユーザー要求の結果として、要求されたテスト実行は取り消されました。このメッセージはテスト・プラグイン設定から使用不可にすることができます。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4856**

<insert\_0>という名前のサブスクリプションをクリアしますか？

管理対象宛先の場合は、すでに宛先のキューに入れられたメッセージが削除されます。

**重大度**

10: 警告

**説明**

サブスクリプションを消去する前に確認が必要です。

**応答**

サブスクリプションを消去したい場合にのみ、続けてください。

**AMQ4857**

サブスクリプションが消去されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

サブスクリプションは消去されて定義に従った状態になりました。管理対象宛先の場合は、すでに宛先のキューに入れられていたメッセージが削除されました。

**応答**

通知メッセージです。

**AMQ4858**

パラメーター変更が検出されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーを使用せずにパラメーターが変更されています。

**応答**

WebSphere MQ エクスプローラー・ビューをリフレッシュし、操作を再実行してください。

**AMQ4859**

要求された機能は使用できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ エクスプローラーは、要求された機能を実行できませんでした。

**応答**

再実行します。症状が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ4860**

キュー・マネージャーは待機モードで実行しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーは待機モードで開始されました。

**AMQ4861**

WebSphere MQ はリスナーを停止できません。このリスナーは既に停止済みです。

**重大度**

10: 警告

**AMQ4862**

デフォルト・リモート管理リスナー LISTENER.TCP を削除できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リスナーを削除しようとして問題が発生しました。

**応答**

リスナーが停止済みかどうか、または削除されていないかどうかを確認してください。

**AMQ4863**

プロパティ<insert\_0>に正しく接頭部が付けられていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

サービス定義の宛先名の接頭部は、キューの場合は 'msg/queue/'、トピックの場合は 'msg/topic/' でなければなりません。

**応答**

該当する接頭部を宛先名に付けてください。

**AMQ4864**

プロパティ<insert\_0>が正しい長さではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー名は 48 文字を超えることはできません。

**応答**

キューの名前が正しいことを確認してください。

**AMQ4865**

プロパティ<insert\_0>には宛先名が含まれていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力された値には、宛先の名前が含まれていません。

**応答**

有効な宛先の名前を入力します。サービス定義の宛先名の接頭部は、キューの場合は 'msg/queue/'、トピックの場合は 'msg/topic/' でなければなりません。

**AMQ4866**

プロパティ<insert\_0>は、有効な URI 形式ではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このプロパティには、有効な URI だけを指定できます。

**応答**

有効な URI 構文の値を入力したことを確認してください。

**AMQ4867**

ページ<insert\_1>上のプロパティ<insert\_0>は、有効な URI フォーマットではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このプロパティには、有効な URI だけを指定できます。

**応答**

有効な URI 構文の値を入力したことを確認してください。

**AMQ4868**

予期しないエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

予期しないエラーが発生しました。

**応答**

システム管理者にお問い合わせください。

**AMQ4869**

エクスポート・ロケーション<insert\_0>は既に存在します。既存のファイルを上書きしますか?

**重大度**

10: 警告

**説明**

エクスポート場所は既に存在します。処理を続行すると、既存のファイルが上書きされる可能性があります。

**応答**

このエクスポート場所にあるファイルを上書きしてもよいことを確認してください。

**AMQ4870**

キュー・マネージャーへの接続が確立できませんでした。チャンネルが使用不可。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーに接続しようとしたましたが、失敗しました。詳しくは、理由コード [MQRC\\_CHANNEL\\_NOT\\_AVAILABLE](#) を参照してください。

**応答**

キュー・マネージャーとクライアントのエラー・ログで、問題の原因を説明するメッセージを調べてください。

**AMQ4871**

キュー・マネージャーへの接続が確立できませんでした。チャンネル名が認識されません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーに接続しようとしたましたが、失敗しました。キュー・マネージャーがチャンネル名を認識しませんでした。

**応答**

別のチャンネル名を使用して、再試行してください。

**AMQ4999**

予期しないエラー (<insert\_0>) が発生しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

PCF データの検索で、リストにないエラーがシステムで発生しました。

## 応答

操作を再試行してください。エラーが解決しない場合は、問題判別情報を調べて、詳細が記録されているかどうか確認してください。

## AMQ5000-5999: インストール可能サービス

### AMQ5005

予期しないエラーです。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

製品の内部関数で予期しないエラーが発生しました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ5006

予期しないエラー: rc = <insert\_1>

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

製品の内部関数で予期しないエラーが発生しました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ5008

必須の IBM WebSphere MQ プロセス <insert\_1> (<insert\_3>) が見つかりません。終了すると想定されます。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

1) ユーザーがプロセスを不用意に終了した。2) システム・リソースが不足している。一部のオペレーティング・システムは、リソースを解放するためにプロセスを終了させます。システムのリソースが不足している場合、新しいプロセスを作成できるようにオペレーティング・システムがこのプロセスを終了させた可能性があります。

## 応答

IBM WebSphere MQ はすべての MQ プロセスを停止します。システム管理者に連絡してください。問題が修正されると、IBM WebSphere MQ を再始動できます。

### AMQ5009

IBM WebSphere MQ エージェント・プロセス <insert\_1> が予期せずに終了しました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ はエージェント・プロセスが予期せず終了したことを検出しました。このプロセスが管理するキュー・マネージャー接続は切断されます。

## 応答

その他のアクションを実行する前に、以下の原因を取り除くようにしてください:

1) ユーザーがプロセスを不用意に終了した。

2) システム・リソースが不足している。一部のオペレーティング・システムは、リソースを解放するためにプロセスを終了させます。システムのリソースが不足している場合、新しいプロセスを作成できるようにオペレーティング・システムがこのプロセスを終了させた可能性があります。問題が上記の理由の結果ではないと考えられる場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### **AMQ5010**

システムはワークロード管理サーバー・プロセスを再始動しています。

#### **重大度**

10: 警告

#### **説明**

システムは、WorkLoad 管理サーバー・プロセス (amqzlw0、pid:<insert\_1>) が停止し、再始動中であることを検出しました。

#### **応答**

生成された出力ファイルを保存してください。そこには、ワークロード管理プロセスが停止した理由が示されている可能性があります。WorkLoad 管理サーバー・プロセスが停止した理由が WorkLoad 管理ユーザー出口の問題である場合は、問題を修正します。それ以外の場合は、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### **AMQ5011**

キュー・マネージャーが理由 <insert\_1> <insert\_3> で終了しました。

#### **重大度**

10: 警告

#### **説明**

前のエラー <insert\_1> または <insert\_3> のために、キュー・マネージャーが終了しました。

#### **応答**

このメッセージの前には、エラーを検出した内部ルーチンからのメッセージまたは FFST 情報が出されるはずですが、前述のエラー情報に関連する処置を行ってください。

#### **AMQ5019**

プログラム <insert\_3> にアクセスできません。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

プログラム <insert\_3> を実行する要求が出されましたが、指定された場所にプログラムが見つからなかったため、操作は失敗しました。

#### **応答**

実行するプログラムへの正しい絶対パスがサービスの定義で指定されていることを確認してください。パスが正しい場合は、指定された場所にプログラムが存在すること、およびプログラムにアクセスするための許可が WebSphere MQ ユーザー ID にあることを確認してください。

#### **AMQ5020**

プログラム <insert\_3> を実行しようとしたのですが、アクセス権が拒否されました。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

プログラム <insert\_3> を実行する要求が出されましたが、プログラム・ファイルにアクセスするための十分な許可が IBM WebSphere MQ 稼働環境にないため、操作は失敗しました。

## 応答

実行するプログラムのアクセス許可を確認し、必要に応じて、IBM WebSphere MQ `userId` の実行許可を含めるようにアクセス許可を変更してください。また、IBM WebSphere MQ `userId` に、プログラム・ファイルへのパスを構成するすべてのディレクトリーに対する検索アクセス権限があることも確認してください。

### AMQ5021

プログラム `<insert_3>` を開始できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

プログラム `<insert_3>` を実行する要求が行われましたが、操作は失敗しました。失敗の理由として、以下のものがあります。

使用可能なシステム・リソースが不足している。

開始するプログラムに問題がある。

## 応答

問題が続くようであれば、IBM WebSphere MQ エラー・ログでこのエラーに関連する詳細情報を調べてください。さらに、オペレーティング・システムのエラー記録機能で、システム・リソースの不足に関する情報を調べてください。

### AMQ5022

チャンネル・イニシエーターを開始しました。 `ProcessId(<insert_1>)`.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

チャンネル・イニシエーターのプロセスを開始しました。

## 応答

なし。

### AMQ5023

チャンネル・イニシエーターが終了しました。 `ProcessId(<insert_1>)`.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

チャンネル・イニシエーターのプロセスが終了しました。

## 応答

なし。

### AMQ5024

コマンド・サーバーを開始しました。 `ProcessId(<insert_1>)`.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

コマンド・サーバーのプロセスを開始しました。

## 応答

なし。

### AMQ5025

コマンド・サーバーが終了しました。 `ProcessId(<insert_1>)`.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

コマンド・サーバーのプロセスが終了しました。

応答

なし。

**AMQ5026**

リスナー <insert\_3> が開始しました。 ProcessId(<insert\_1>).

重大度

0: 情報

説明

リスナーのプロセスを開始しました。

応答

なし。

**AMQ5027**

リスナー <insert\_3> が終了しました。 ProcessId(<insert\_1>).

重大度

0: 情報

説明

リスナーのプロセスが終了しました。

応答

なし。

**AMQ5028**

サーバー <insert\_3> が始動しました。 ProcessId(<insert\_1>).

重大度

0: 情報

説明

The Server process has started.

応答

なし。

**AMQ5029**

サーバー <insert\_3> が終了しました。 ProcessId(<insert\_1>).

重大度

0: 情報

説明

The Server process has ended.

応答

なし。

**AMQ5030**

コマンド <insert\_3> が開始しました。 ProcessId(<insert\_1>).

重大度

0: 情報

説明

The Command has started.

応答

なし。

**AMQ5032**

ファイル <insert\_3> へのアクセス中にエラー (<insert\_4>) が発生しました。

重大度

40: 停止エラー

説明

ファイル <insert\_3> にアクセスしようとしているときに、エラー <insert\_4> が発生しました。

**応答**

エラーに含まれている情報から失敗の原因を見つけて、それを訂正してください。

**AMQ5036**

サービス環境ファイルの行 <insert\_1>、位置 <insert\_2> の処理中にエラーが検出されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

環境ファイル <insert\_3> の処理中に、行 <insert\_1> の位置 <insert\_2> でエラーが検出されました。考えられる原因は次の通りです

変数名が長すぎる

変数値が長すぎる

行の形式が誤っている。行の形式は <name> = <value> でなければなりません。名前フィールドにブランク文字があってはなりません。 '=' の後の文字はすべて値フィールドの一部です。

**応答**

このエラーによってコマンドの実行が停止されることはありませんが、無効な行にあるデータは処理されません。

**AMQ5037**

キュー・マネージャー・タスク <insert\_3> が開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_4> ユーティリティー・タスク・マネージャー、processId(<insert\_1>) が <insert\_3> タスクを開始しました。このタスクは現在 <insert\_2> 回開始しました。

**応答**

なし。

**AMQ5038**

キュー・マネージャー・タスク <insert\_3> が、エラー・コード <insert\_1> で開始できませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ユーティリティー・タスク・マネージャーがタスク <insert\_3> を開始しようとしたますが、開始要求はエラー・コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

識別されたタスクの開始に失敗したことは、キュー・マネージャーの操作には重大ではありませんが、キュー・マネージャーの一部の機能が使用できなくなる可能性があります。失敗の詳細については、IBM WebSphere MQ エラー・ログを参照してください。

**AMQ5041**

キュー・マネージャー・タスク <insert\_3> が終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー・タスク <insert\_3> が終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ5042**

<insert\_3> を開始する要求が失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

プロセス <insert\_3> を開始する要求が失敗しました。

**応答**

失敗の原因の詳細については、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照してください。

**AMQ5043**

統計の記録は、エラー・コード <insert\_1>のために使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

統計収集タスクは、エラー・コード <insert\_1>のために開始できませんでした。問題が修正され、キュー・マネージャーが再始動されるまで、統計収集は使用できません。

**応答**

失敗の原因の詳細については、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照してください。

**AMQ5044**

<insert\_3> タスク操作が理由コード <insert\_1>のために制限されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

<insert\_3> タスクは、タスクの操作に影響を与える可能性のある致命的でないエラーを検出しました。

**応答**

理由コード <insert\_1> およびエラー・ログに記録されている前のメッセージを使用して、エラーを訂正してください。障害によって課せられた制限を除去するために、キュー・マネージャーを再始動しなければならない可能性があります。

**AMQ5045**

システム再構成イベントの受信

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーはシステム再構成イベントを受信しました。これはマシンの構成における管理上の変更 (例えば、メモリーやプロセッサなどのリソースの動的な追加または除去) によって起こる可能性があります。

**応答**

この通知は予期しないものであるため、アクションは不要です。

**AMQ5046**

メッセージの自動マーク解除は、エラー・コード <insert\_1>のために使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

共同ブラウズのマークが付けられたものの、タイムアウト期間内に破壊的に取得されることのなかったメッセージのマークを解除するタスクによりエラーが検出されました。エラー・コードは <insert\_1> でした。問題が修正されてキュー・マネージャーが再始動されるまで、メッセージの自動マーク解除は使用できません。

**応答**

失敗の原因の詳細については、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照してください。

**AMQ5049**

エラー・コード <insert\_1>が原因で、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンを開始/停止できません。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

キューに入れられた pubsub デーモンを開始および停止するタスクで、エラーが発生しました。エラー・コードは <insert\_1> でした。問題が修正されてキュー・マネージャーが再始動されるまで、デーモンを開始または停止することはできません。

#### 応答

失敗の原因の詳細については、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照してください。

#### AMQ5050

必須の WebSphere MQ プロセス <insert\_1> (<insert\_3>) が見つかりません。終了すると想定されます。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

1) ユーザーがプロセスを不用意に終了した。2) システム・リソースが不足している。一部のオペレーティング・システムは、リソースを解放するためにプロセスを終了させます。システムのリソースが不足している場合、新しいプロセスを作成できるようにオペレーティング・システムがこのプロセスを終了させた可能性があります。3) MQ が予期しないエラーを検出しました。MQ のエラー・ログにエラーが報告されていないか、また、FFST が生成されていないか確認してください。

#### 応答

WebSphere MQ は終了したプロセスの再始動を試行します。

#### AMQ5051

キュー・マネージャー・タスク <insert\_3> が開始しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

クリティカル・ユーティリティー・タスク・マネージャーが、<insert\_3> タスクを開始しました。このタスクは現在 <insert\_2> 回開始しました。

#### 応答

なし。

#### AMQ5052

キュー・マネージャー・タスク <insert\_3> が開始しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

パブリッシュ/サブスクライブ・ユーティリティー・タスク・マネージャーが <insert\_3> タスクを開始しました。このタスクは現在 <insert\_2> 回開始しました。

#### 応答

なし。

#### AMQ5053

WebSphere MQ プロセス <insert\_1> (<insert\_3>) が見つかりません。終了すると想定されます。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

キュー・マネージャーの1つのプロセスが終了しました。キュー・マネージャーは実行を続けますが、問題が解決されるまでキュー・マネージャーの機能が制限される可能性があります。終了した理由としては、以下の可能性があります。1) ユーザーが不用意にプロセスを終了させた。2) システム・リソースが不足している。一部のオペレーティング・システムは、リソースを解放するためにプロセスを終了させます。3) プロセスがエラーを検出した。

#### 応答

キュー・マネージャーの過去のメッセージおよびシステム・エラー・ログに、問題を示しているものがないか確認してください。問題が修正されたら、失われた機能を復元するために、キュー・マネージャーを再始動する必要があります。

### AMQ5203

XA インターフェースを呼び出しているときにエラーが発生しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

エラー番号は <insert\_2> で、値は次のとおりです。

1 は、指定されたフラグ値 <insert\_1> が無効であったことを示します。

2 は、同じプロセスでスレッド・ライブラリーと非スレッド・ライブラリーを使用しようとしたことを示します。

3 は、指定されたキュー・マネージャー名 <insert\_3> にエラーがあったことを示します。

4 は、<insert\_1> のリソース・マネージャー ID が無効であったことを示します。

5 は、別のキュー・マネージャーが既に接続されているときに、<insert\_3> という 2 番目のキュー・マネージャーを使用しようとしたことを示します。

6 は、アプリケーションがキュー・マネージャーに接続されていないときにトランザクション・マネージャーが呼び出されたことを示します。

7 は、別の呼び出しが進行中であるときに XA 呼び出しが行われたことを示します。

8 は、xa\_open 呼び出しの xa\_info スtring <insert\_3> に、パラメーター名 <insert\_4> の無効なパラメーター値が含まれていたことを示します。

9 は、xa\_open 呼び出しの xa\_info スtring <insert\_3> に必須パラメーター、パラメーター名 <insert\_4> が欠落していることを示します。

10 は、MQ が動的登録モードで呼び出されましたが、ax\_reg および ax\_unreg 関数が見つからなかったことを示します。MQ を非動的登録モードで呼び出すか、xa-open スtring の AXLIB パラメーターを使用して正しいライブラリー名を指定してください。

#### 応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

### AMQ5204

スレッド化されていないアプリケーションがトラステッド・アプリケーションとして動作しようとした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

スレッド化された MQ ライブラリーにリンクされたアプリケーションのみがトラステッド・アプリケーションとして動作できます。

#### 応答

アプリケーションがスレッド化された MQ ライブラリーに再リンクされていることを確認するか、環境変数 MQ\_CONNECT\_TYPE を STANDARD に設定します。

### AMQ5205

ファイルまたはディレクトリー <insert\_3> は、ユーザー <insert\_4> によって所有されていません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、ファイルまたはディレクトリー <insert\_3> がユーザー <insert\_4> によって所有されていないことを検出しました。これは必ずしもエラーではありませんが、予期しない場合はさらに調査する必要があります。

#### 応答

これが予期しないものである場合は、ファイルまたはディレクトリーの所有権を変更して、ユーザー <insert\_4> に戻す必要があります。

これが予期されたものである場合、IBM WebSphere MQ は続行しますが、WebSphere MQ はこのファイルまたはディレクトリーのセキュリティを確認することができません。アクセス許可が厳しすぎる場合に、IBM WebSphere MQ がファイルまたはディレクトリーの内容にアクセスできないと問題が発生する可能性があります。アクセス許可が緩すぎる場合は、IBM WebSphere MQ システムのセキュリティに対するリスクが大きくなる可能性があります。

#### **AMQ5206**

重複するパラメーターが検出されました。

##### **重大度**

10: 警告

##### **説明**

IBM WebSphere MQ は、表示されようとしているアクティビティが、同じパラメーター ID の複数のパラメーターを同一グループに含むことを検出しました。このアクティビティは、正しく表示されない可能性があります。

##### **応答**

このアクティビティにエラーが含まれている可能性があることを、このアクティビティの作成者に連絡してください。

#### **AMQ5211**

プロパティ名の最大長を超えました。

##### **重大度**

10: 警告

##### **説明**

IBM WebSphere MQ は MQRFH2 フォルダーのパス中で、このフォルダーにはメッセージ・プロパティが含まれています。しかし、フォルダー <insert\_3> 内の要素の 1 つに、MQ\_MAX\_PROPERTY\_NAME\_LENGTH より長い名前があります。要素名は <insert\_4> で始まります。解析済みメッセージ・プロパティの名前は、そのプロパティの照会またはメッセージの選択が失敗する原因となる可能性がある最大文字数に制限されます。

##### **応答**

MQRFH2 エlement 名のサイズを小さくするか、または要素を、プロパティを含まないフォルダーに移動させます。

#### **AMQ5358**

IBM WebSphere MQ が AX サポート・モジュール <insert\_3> をロードできませんでした。

##### **重大度**

20: エラー

##### **説明**

AX サポート・モジュール <insert\_3> のロード中にエラーが発生しました。動的に登録するリソース・マネージャー (Db2 など) がグローバル作業単位に参加できるように、このモジュールをロードする必要があります。

##### **応答**

前に出されているメッセージの中から、ロード障害の理由を示しているものを見つけてください。システム・エラーが原因でロードが失敗した場合は、メッセージ AMQ6175 が出されているはずです。その場合は、メッセージ AMQ6175 に示される指示に従い問題を解決してください。この問題に関するメッセージまたは FFST 情報が事前に出されていない場合は、AX サポート・モジュールおよび mqmax ライブラリーがシステムに正しくインストールされていることを確認してください。

#### **AMQ5370**

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server (<insert\_1>) が間違った TMF/ ゲートウェイで enlist されています。

##### **重大度**

10: 警告

##### **説明**

<insert\_3> に接続された HP Integrity NonStop Server 用 IBM WebSphere MQ クライアント、プロセス (<insert\_1>) が、<insert\_4> に接続された TMF/ ゲートウェイで誤って enlist しようとしていました。

#### 応答

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server の構成が正しくありません。mqclient.ini の TMF スタンザと TMFGateway スタンザが、使用中のキュー・マネージャーの正しい TMF/ゲートウェイ・インスタンスと一致するように正しく構成されていることを確認します。

#### AMQ5371

TMF オペレーターが RM ファイル <insert\_3> を閉じているため、TMF/ゲートウェイがシャットダウンしています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

TMF オペレーターが RM ファイル <insert\_3> を閉じているため、TMF/ゲートウェイはシャットダウンしています。

#### 応答

TMF 管理者に連絡を取り、RM ファイルが閉じた理由を確認してください。

#### AMQ5372

TMF がシャットダウンしました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

TMF がシャットダウンしました。キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ゲートウェイはリセットされ、TMF が使用可能になるのを待ってから操作を再開します。

#### 応答

TMF 管理者に連絡して、TMF がシャットダウンした理由を確認してください。

#### AMQ5373

TMF が未構成です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

TMF サブシステムが構成されていないため、キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ゲートウェイを開始できません。

#### 応答

TMF 管理者に連絡して、TMF サブシステムが構成されていることを確認してください。

#### AMQ5374

TMF/ゲートウェイには RM ファイルにアクセスする権限がありません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ゲートウェイは、TMF RM ファイルへのアクセスを許可されていません。

#### 応答

Pathway 内のキュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ゲートウェイ・サーバー・クラスに指定された所有者とは異なる所有者に関連付けられた、TMF 内の既存の RM ファイル <insert\_4> があります。

Pathway 内の TMF/ゲートウェイ・サーバー・クラスが、既存 TMF RM ファイルと同じ所有者で構成されるようにしてください。

#### AMQ5375

キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ゲートウェイで TMF リソース・エラー <insert\_1> が発生しました。

#### 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ ゲートウェイが TMF リソース・エラー <insert\_1>を検出しました。

## 応答

通常、これらのエラーは、TMF サブシステム内の構成済みリソース限界に達した結果として出されま  
す。エラー <insert\_1>に基づく適切な修正処置については、「HP NonStop Guardian プロシージャ  
エラーおよびメッセージ・マニュアル」を参照してください。

### AMQ5376

IBM WebSphere MQ

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> は TMF/ ゲートウェイとの通信に使用できません。

## 応答

キュー・マネージャーが始動したことを確認してください。TMF/ゲートウェイはクライアント・チャ  
ネル接続を使用するため、チャンネル定義とチャンネル状況の追加検査が必要になる可能性があります。

TMF/ゲートウェイは、キュー・マネージャーとの通信の再確立を周期的に 試行します。

キュー・マネージャーの使用不可状態が継続する場合、このメッセージが一定の間隔で再発行されま  
す。

### AMQ5377

TMF/ ゲートウェイは、キュー・マネージャー <insert\_3>への接続を許可されていません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

TMF/ ゲートウェイは、キュー・マネージャー <insert\_3>への接続を許可されていません。

## 応答

正しいキュー・マネージャーを使用するように TMF/ゲートウェイが構成されていて、そのキュー・マ  
ネージャーが TMF/ゲートウェイの所有者に適切な権限を付与していることを確認してください。

### AMQ5378

TMF トランザクションへの参加は、キュー・マネージャー <insert\_3>によってサポートされていま  
せん。

## 重大度

20: エラー

## 説明

TMF/ ゲートウェイは、 WebSphere MQ for z/OS キュー・マネージャー <insert\_3> が TMF トランザク  
ションへの参加をサポートしていないことを検出しました。

## 応答

接続先の z/OS キュー・マネージャーのバージョンは、TMF ゲートウェイをサポートしません。サポー  
ト対象リリースにアップグレードしてください。

### AMQ5379

TMF/ゲートウェイが開始しましたが、欠落パラメーターまたは無効パラメーターがあります。

## 重大度

0: 情報

## 説明

使用法: runmqtmf -m QMgrName [-c ChannelName] [-h HostName] [-p Port] [-n MaxThreads]。それぞ  
れの意味は次のとおりです。

-m は、このゲートウェイ・プロセスのキュー・マネージャーの名前です。キュー共有グループ(また  
は他のポート配分テクノロジー)を使用する場合、このパラメーターは特定のキュー・マネージャーを  
ターゲットとしなければなりません。このパラメーターは必須です。

-c は、このゲートウェイ・プロセスによって使用されるキュー・マネージャーのサーバー・チャンネルの名前です。このパラメーターはオプションです。

-p は、キュー・マネージャーの TCP/IP ポートです。このパラメーターはオプションです。

-h は、キュー・マネージャーのホスト名です。このパラメーターはオプションです。

-n は、ゲートウェイ・プロセスによって作成されるワーカー・スレッドの最大数です。このパラメーターは 10 以上の値にすることができます。このパラメーターはオプションです。値が指定されない場合、Gateway プロセスは最大 50 までスレッドを作成します。

1 つ以上指定したが、属性 -c、-p、および -h をすべて指定したわけではない場合、指定していないそれらの属性は、デフォルトで次の値になります。

ChannelName はデフォルトで SYSTEM.DEF.SVRCONN になります

HostName はデフォルトで localhost になります

Port はデフォルトで 1414 になります

#### 応答

有効なパラメーターのみで TMF/ゲートウェイを開始するようにしてください。

#### AMQ5380

TMF によって調整された作業単位に参加するキュー・マネージャーごとに、単一の TMF/ゲートウェイ・プロセスが TMF で構成されていなければなりません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

なし。

#### 応答

TMFCOM **STATUS RESOURCEMANAGER** コマンドを使用して、既に RM ファイル <insert\_4> を使用しているプロセスを識別します。

複数のインストール済み環境を使用している場合は、キュー・マネージャー <insert\_3> を調整するために、これらのインストール済み環境の 1 つから単一のゲートウェイ・プロセスを指定する必要があります。ゲートウェイ・プロセスへのインターフェースは、同じバージョン以前のすべてのクライアントをサポートします。キュー・マネージャー <insert\_3> のパス内の TMF/ゲートウェイ・サーバー・クラス定義が、MAXSERVER を 1 に設定して構成されていることを確認してください。

#### AMQ5390

キュー・マネージャー <insert\_4> の TMF/ゲートウェイの MQTMF\_GATEWAY\_NAME 環境変数に無効なプロセス名 <insert\_3> が指定されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_4> の TMF/ゲートウェイの MQTMF\_GATEWAY\_NAME 環境変数に無効なプロセス名 <insert\_3> が指定されました。

#### 応答

TMF/ゲートウェイが実行されていて、MQTMF\_GATEWAY\_NAME 環境変数が TMF/ゲートウェイの Guardian プロセス名に正しく設定されていることを確認してください。

#### AMQ5391

キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ゲートウェイの mqclient.ini に PATHMON プロセス名が指定されていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

なし。

## 応答

HP Integrity NonStop Server 用の IBM WebSphere MQ クライアントが mqclient.ini ファイルを使用できること、およびキュー・マネージャー <insert\_3>に使用するサーバー・クラス名を指定した TMFGateway スタンザがこのファイルに含まれていることを確認してください。

IBM WebSphere MQ Client for HP Integrity NonStop Server システムで mqclient.ini ファイルを使用する方法について詳しくは、IBM WebSphere MQ 製品資料を参照してください。

### AMQ5392

キュー・マネージャー <insert\_3>の TMF/ ゲートウェイの mqclient.ini にサーバー・クラス名が指定されていません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

なし。

## 応答

キュー・マネージャー <insert\_3>の TMF/ ゲートウェイ・サーバー・クラスをホストしている PATHCOM の Guardian プロセス名を指定する TMF スタンザを含む mqclient.ini ファイルが使用可能であることを確認してください。

mqclient.ini ファイルには、キュー・マネージャー <insert\_3>に使用されるサーバー・クラス名を指定する TMFGateway スタンザも必要です。

mqclient.ini ファイルの使用について詳しくは、IBM WebSphere MQ 製品資料を参照してください。

### AMQ5393

キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ ゲートウェイが要求を処理できません。戻りコード (<insert\_1>:<insert\_3>)。

## 重大度

20: エラー

## 説明

なし。

## 応答

詳しくは、TMF/ゲートウェイ・エラー・ログを調べてください。

### AMQ5394

キュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ ゲートウェイが要求を正常に処理しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

なし。

## 応答

なし。

### AMQ5395

PATHMON プロセス <insert\_3>によってホストされるサーバー・クラス <insert\_4> が見つかりません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

なし。

## 応答

構成エラーは次のいずれかになります。

1. mqclient.ini TMFGateway スタンザに、キュー・マネージャー <insert\_5>に対して無効なサーバー・クラス名が含まれています。
2. PATHMON プロセス <insert\_3> は、サーバー・クラス <insert\_4>で構成されていません。

3. サーバー・クラス <insert\_4> が開始されていないか、現在凍結されています。

#### AMQ5396

PATHMON プロセス <insert\_3>が見つかりません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

なし。

#### 応答

構成エラーは次のいずれかになります。

1. mqclient.ini の TMF スタンザに無効なプロセス名が含まれている。
2. PATHMON プロセス <insert\_3> は現在実行されていません。

#### AMQ5397

PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされるサーバー・クラス <insert\_4> の使用を許可されていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

なし。

#### 応答

システム管理者に連絡して、適切なアクセス権があることを確認してください。適切なアクセス権があることを確認したら、操作を再試行してください。

#### AMQ5398

PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされる TMF/Gateway サーバー・クラス <insert\_4> との接続を確立中にエラーが発生しました。Pathsend エラー (<insert\_1>)、ファイル・システム・エラー (<insert\_2>)。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

なし。

#### 応答

これらのエラーは通常、PATHMON プロセス <insert\_3> またはサーバー・クラス <insert\_4> の構成の問題の結果です。パス送信エラー (<insert\_1>) およびファイル・システム・エラー (<insert\_2>) に基づく適切な修正処置については、「HP NonStop TS/MP Pathsend and Server Programming Manual」を参照してください。

#### AMQ5399

PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされる TMF/Gateway サーバー・クラス <insert\_4> が適切に構成されていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

なし。

#### 応答

構成エラーは次のいずれかになります。

1. サーバー・クラスの構成で TMF が使用可能になっていない。
2. TMF/ゲートウェイとともに同時に参加する必要がある IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server アプリケーションの数に対して、サーバー・クラスに構成された MAXLINKS の設定が小さすぎる。

#### AMQ5501

要求を満たすために十分な記憶域がありません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

製品の内部機能が記憶域を取得しようとしたが、使用できる記憶域がありませんでした。

## 応答

製品を停止してから再始動してください。それでも問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5502

CDS ディレクトリー名 <insert\_3> の形式が正しくありません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスの内部関数は、誤った形式の CDS ディレクトリー名を検出しました。この名前は、完全修飾名(グローバル・ルートから)の場合は「/...」で始まり、完全修飾名(グローバル・ルートから)、または「/。」部分修飾名の場合(ローカル・セル・ルートから)。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5503

ローカル DCE セルの名前を判別できません。状況 = <insert\_1>

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスは、「dce\_cf\_get\_cell\_name()」を呼び出してローカル DCE セルの名前を判別しようとしたが、ゼロ以外の戻りコードが返されました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5504

DCE エラー。XDS 属性の値が見つかりませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスは、ds\_read() によって戻されたオブジェクトから項目を取得するために om\_get() を呼び出しました。状況は正しかったが、オブジェクトは戻されませんでした。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5505

DCE エラー。XDS 属性番号 <insert\_1> の値が見つかりません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスは、`ds_read()` によって戻されたオブジェクトから項目を取得するために `om_get()` を呼び出しました。状況は正しかったが、オブジェクトは戻されませんでした。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5506

DCE エラー。 <insert\_3> が属性番号 <insert\_2> に対して <insert\_1> を戻しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスが <insert\_3> を呼び出してオブジェクトを照会しましたが、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5507

DCE エラー。 <insert\_3> が不明な理由で失敗しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスの内部関数で予期しないエラーが発生しました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5508

DCE エラー。 要求された属性がありません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DCE ネーミング・サービスは属性から値を抽出しようとしたましたが、属性は XDS オブジェクトには見つかりません。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5509

DCE エラー。 XDS ワークスペースが初期設定できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DCE ネーミング・サービスは XDS ワークスペースを初期化するために「ds\_initialize()」を呼び出しましたが、「ds\_initialize()」はゼロ以外の戻りコードを返しました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5510**

DCE エラー。 <insert\_3> が問題 <insert\_1> とともに戻されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DCE ネーミング・サービスは、予期しない XDS エラーを見つけました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5511**

インストール可能サービス・コンポーネント <insert\_3> が <insert\_4> を戻しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コンポーネントをサービスに追加する内部関数が、コンポーネント初期化プロセスを呼び出しました。このプロセスがエラーを返しました。

**応答**

コンポーネントが正しくインストールされているかどうかチェックしてください。存在していて、コンポーネントが IBM によって提供された場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。コンポーネントが IBM 提供のものでない場合は、生成された出力ファイルを保管して、そのコンポーネントのサポート手順に従ってください。

**AMQ5511 (IBM i)**

インストール可能サービス・コンポーネントがエラーを返しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

インストール可能サービス・コンポーネント <insert\_3> が <insert\_4> を戻しました。コンポーネントをサービスに追加する内部関数が、コンポーネント初期化プロセスを呼び出しました。このプロセスがエラーを返しました。

**応答**

コンポーネントが正しくインストールされているかどうかチェックしてください。存在していて、コンポーネントが IBM によって提供された場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認しま

す。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。コンポーネントが IBM 提供のものでない場合は、生成された出力ファイルを保管して、そのコンポーネントのサポート手順に従ってください。

#### AMQ5512

インストール可能サービス・コンポーネント <insert\_3> が、キュー・マネージャー名 = <insert\_5> に対して <insert\_4> を戻しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

インストール可能サービス・コンポーネントが予期しない戻りコードを返しました。

#### 応答

コンポーネントが正しくインストールされているかどうかチェックしてください。存在していて、コンポーネントが IBM によって提供された場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。コンポーネントが IBM 提供のものでない場合は、生成された出力ファイルを保管して、そのコンポーネントのサポート手順に従ってください。

#### AMQ5512 (IBM i)

インストール可能サービス・コンポーネントが予期しない戻りコードを返しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

インストール可能サービス・コンポーネント <insert\_3> が、キュー・マネージャー名 = <insert\_5> に対して <insert\_4> を戻しました。

#### 応答

コンポーネントが正しくインストールされているかどうかチェックしてください。存在していて、コンポーネントが IBM によって提供された場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。コンポーネントが IBM 提供のものでない場合は、生成された出力ファイルを保管して、そのコンポーネントのサポート手順に従ってください。

#### AMQ5513

<insert\_3> が <insert\_1> を戻しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

予期しないエラーが発生しました。

#### 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ5519

DCE 識別が不正です。状況 = <insert\_1>, auth = <insert\_2>, keytab ファイル = <insert\_3>, principal = <insert\_4>。

#### 重大度

20: エラー

## 説明

キータブ・ファイルが正しくインストールされていないか、WebSphere MQ ユーザー ID がキータブ・ファイルの作成に使用されたものとは異なるパスワードを持っています。

## 応答

製品がインストールされたときに定義された MQ ユーザー ID が、キータブ・ファイルによって定義されたものと同じパスワードを持ち、キータブ・ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。

### AMQ5519 (IBM i)

DCE 識別が不正です。

## 重大度

20: エラー

## 説明

状況 = <insert\_1>, auth = <insert\_2>, keytab ファイル = <insert\_3>, principal = <insert\_4>。キータブ・ファイルが正しくインストールされていないか、IBM WebSphere MQ ユーザー ID がキータブ・ファイルの作成に使用されたパスワードと異なるパスワードを持っています。

## 応答

製品がインストールされたときに定義された MQ ユーザー ID が、キータブ・ファイルによって定義されたものと同じパスワードを持ち、キータブ・ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。

### AMQ5520

システムは、インストール可能サービス <insert\_3> component <insert\_4> のモジュール <insert\_5> をロードできませんでした。システム戻りコードは <insert\_1> でした。キュー・マネージャーは、このコンポーネントなしで続行されます。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャー構成データに、モジュール <insert\_5> を持つインストール可能サービス <insert\_3> コンポーネント <insert\_4> のスタンザが含まれていました。システムは、このモジュールをロードしようとしたときに、<insert\_1> を戻しました。キュー・マネージャーはこのコンポーネントなしで処理を続けます。

## 応答

このモジュールがロード可能であることを確認してください。システムがロードできるディレクトリにこのモジュールを入れ、このモジュールの絶対パスおよび名前を構成データ内に指定します。そしてキュー・マネージャーを停止し再始動します。

### AMQ5520 (IBM i)

システムがモジュールをロードできませんでした。キュー・マネージャーはこのコンポーネントなしで処理を続けます。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャー構成データに、モジュール <insert\_5> を持つインストール可能サービス <insert\_3> コンポーネント <insert\_4> のスタンザが含まれていました。システムは、このモジュールをロードしようとしたときに、<insert\_1> を戻しました。キュー・マネージャーはこのコンポーネントなしで処理を続けます。

## 応答

このモジュールがロード可能であることを確認してください。システムがロードできるディレクトリにこのモジュールを入れ、このモジュールの絶対パスおよび名前を構成データ内に指定します。そしてキュー・マネージャーを停止し再始動します。

### AMQ5521

システムは "<insert\_3>" をオープンできませんでした。

## 重大度

10: 警告

#### 説明

システムは、理由 <insert\_4>により、接続時にデフォルト・オブジェクト "<insert\_3>" をオープンできませんでした。これは、"<insert\_3>" が削除または変更されたことが原因である可能性があります。

#### 応答

「strmqm -c <qmgr>」 (<qmgr> はキュー・マネージャーの名前) を実行してデフォルト・オブジェクトを再作成し、アプリケーションを再実行してください。

#### AMQ5522

IBM WebSphere MQ インストール可能サービス・コンポーネントを初期化できませんでした。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

インストール可能サービス・コンポーネントが予期しない戻りコードを返しました。

#### 応答

初期化できなかったインストール可能サービスとその理由を説明するメッセージがないか、キュー・マネージャーのエラー・ログを調べてください。コンポーネントが正しくインストールされているかどうかチェックしてください。使用されていて、コンポーネントが IBM によって提供された場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。コンポーネントが IBM 提供のものでない場合は、生成された出力ファイルを保管して、そのコンポーネントのサポート手順に従ってください。

#### AMQ5524

IBM WebSphere MQ オブジェクト権限マネージャーが権限データを移行できませんでした。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

オブジェクト権限マネージャーは、以前のバージョンのオブジェクト権限マネージャーから既存のキュー・マネージャー権限データを移行しようとして失敗しました。

#### 応答

これ以前の任意の関連メッセージのログをチェックし、その勧告にしたがってキュー・マネージャーを再始動してください。

#### AMQ5525

IBM WebSphere MQ オブジェクト権限マネージャーが失敗しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

オブジェクト権限マネージャーが MQ 要求を完了できませんでした。

#### 応答

キュー・マネージャーのエラー・ログの障害を説明するメッセージをチェックし、それに応じて問題を修正してください。

#### AMQ5526

IBM WebSphere MQ オブジェクト権限マネージャーが理由 <insert\_1> で失敗しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

オブジェクト権限マネージャーが、オブジェクト権限マネージャーのデータ待ち行列 <insert\_3> に対する操作を理由 <insert\_1> で失敗しました。

#### 応答

エラーが発生した原因を調べて問題を修正してください。

**AMQ5527**

IBM WebSphere MQ オブジェクト権限マネージャーが必須権限ファイルを検出できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト権限マネージャーは、権限ファイル <insert\_3>を見つけることができませんでした。ファイルが復元されるまで、権限データの移行を続行することはできません。キュー・マネージャーはシャットダウンします。

**応答**

上記の権限ファイルを復元し、キュー・マネージャーを再始動してください。

**AMQ5528**

IBM WebSphere MQ オブジェクト権限マネージャーがオブジェクトの権限ファイルを検出できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト権限マネージャーは、タイプ (<insert\_1>) のオブジェクト <insert\_3> の権限ファイルを見つけることができませんでした。このオブジェクトへのアクセス権限は、最初は mqm グループのメンバーに限定されます。タイプは次のいずれかです。

- 1) キュー
- 2) Namelist
- 3) プロセス
- 5) キュー・マネージャー

**応答**

このオブジェクトへのアクセスを拡張するには、setmqaut コマンドを使用します。詳しくは「IBM WebSphere MQ システム管理の手引き」資料を参照してください。

**AMQ5529**

リモート OAM サービスは利用不能です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

リモート OAM サービスは利用不能です。 <insert\_1> 呼び出しが <insert\_1>、errno <insert\_2> : <insert\_3>を戻しました。コンテキスト・ストリングは <insert\_4> です。

**応答**

このオブジェクトへのアクセスを拡張するには、setmqaut コマンドを使用します。詳しくは「IBM WebSphere MQ システム管理の手引き」資料を参照してください。

**AMQ5600**

使用法: crtmqm [-z] [-q] [-c Text] [-d DefXmitQ] [-h MaxHandles]  
[-md DataPath] [-g ApplicationGroup]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5600 (Tandem)**

使用法: crtmqm [-z] [-q] [-c Text] [-d DefXmitQ] [-h MaxHandles]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5600 (Windows)**

使用法: crtmqm [-z] [-q] [-c Text] [-d DefXmitQ] [-h MaxHandles]

[-g ApplicationGroup]

[-ss | -sa | -si]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5601**

[-t TrigInt] [-u DeadQ] [-x MaxUMsgs] [-lp LogPri] [-ls LogSec]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5601 (Tandem)**

[-t TrigInt] [-u DeadQ] [-x MaxUMsgs] [-m MIni] [-l CCSID]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5602**

[-lc | -ll] [-lf LogFileSize] [-ld LogPath] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5602 (Tandem)**

[-e NumECs] [-p QMVol] -n PMonProc -o HomeTerm

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5602 (IBM i)**

[-ll] [-lf LogFileSize] [-ld LogPath] [-lz ASPNum|ASPDev] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5603**

使用法: dltmqm [-z] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5604**

使用法: dspmqaut [-m QMgrName] [-n ObjName] -t ObjType (-p Principal | -g Group) [-s ServiceComponent]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5605**

使用法: endmqm [-z] [-c | -w | -i | -p] [-s] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5605 (Tandem)**

使用法: endmqm [-z] [-c | -i | -p] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5606**

使用法: setmqaut [-m QMgrName] [-n ObjName] -t ObjType (-p Principal | -g Group) [-s ServiceComponent] Authorizations

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5607**

使用法: strmqm [-a|-c|-p|-r] [-d none|minimal|all] [-z] [-ns] [QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5607 (Windows)**

使用法: strmqm [-a | -c | -r | -p] [-d none|minimal|all] [-z] [-ns] [-ss | -si] [QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5608**

使用法: dspmqtrn [-m QMgrName] [-e] [-i] [-h]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5609**

使用法: rsvmqtrn -m QMgrName (-a | ((-b | -c | -f | -r RMIId) トランザクション、番号))

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5610 (Tandem)**

使用法: strmqtrc [-m QMgrName] [-t TraceType]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5610 (Windows, UNIX and Linux)**

使用法: strmqtrc [-m QMgrName] [-t TraceType] [-x TraceType] [-s] [-l MaxFileSize] [-e]

[-p ProgramName] [-i Pid.Tid] [-d UserDataSize] [-b StartTrigger] [-c StopTrigger]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは、Windows、UNIX and Linux システムに適用されます。MaxFileSize は、トレース・ファイルの最大サイズ (メガバイト) です。UserDataSize は、トレースされるユーザー・データのサイズ (バイト) です。

**応答**

なし。

**AMQ5610 (IBM i)**

使用法: strmqtrc [-m QMgrName] [-t TraceType] [-x TraceType] [-s] [-l MaxFileSize] [-e]

[-p ProgramName] [-i Pid.Tid] [-d UserDataSize] [-b StartTrigger] [-c StopTrigger]

[-o mqm|pex|all]

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ5611 (Tandem)**

使用法: endmqtrc [-m QMgrName] [-a]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5611 (Windows)**

使用法: endmqtrc [-p ProgramName] [-i Pid.Tid] [-m QMgrName] [-a] [-e]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは、Windows、UNIX and Linux システムに適用されます。

**応答**

なし。

**AMQ5611 (IBM i)**

使用法: endmqtrc [-p ProgramName] [-i Pid.Tid] [-m QMgrName] [-a] [-e] [-o mqm|pex|all]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは、AS/400 システムにのみ適用されます。MaxFileSize は、トレース・ファイルの最大サイズ (メガバイト) です。UserDataSize は、トレースされるユーザー・データのサイズ (バイト) です。

**応答**

なし。

**AMQ5612**

使用法: dspmqtrc [-t TemplateFile] [-hs] [-o OutputFileName] [-C InputFileCCSID] InputFileName(s)

**重大度**

0: 情報

**説明**

オプション: -t トレース・データのフォーマット用テンプレート・ファイル、-h トレース・ファイル・ヘッダーをスキップ、-s 要約 (トレース・ヘッダーのみをフォーマット)、-o トレース出力をファイルに保管、-C 入力ファイルの CCSID 値を指定

**応答**

なし。

**AMQ5613**

使用法: dspmq [-m QMgrName] [-o status | -s] [-o default]

**重大度**

0: 情報

**AMQ5614**

使用法: setmqtry

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5615**

デフォルト・オブジェクトを作成できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

## 説明

crtmqm コマンドを使用してキュー・マネージャーを作成中、デフォルト・オブジェクトを作成できませんでした。理由としては、別の場所で行われたコマンドがキュー・マネージャーを静止または停止させたか、使用できるストレージが十分でないことが考えられます。

## 応答

メッセージに示されている完了コードおよび理由コードを使用して、障害の原因を判別し、コマンドを再実行してください。

### AMQ5616

使用法: setmqprd [ライセンス・ファイル]

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは正しい使用法を示したものです。

## 応答

なし。

### AMQ5617

デフォルト・オブジェクトを作成できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

crtmqm コマンドを使用してキュー・マネージャーを作成中、デフォルト・オブジェクトを作成できませんでした。このエラーの理由として最も可能性が高いのは、crtmqm コマンドが完了する前にキュー・マネージャーが始動されたことです。

## 応答

作成するキュー・マネージャーを、作成要求の完了前に開始しないようにしてください。キュー・マネージャーをすでに実行している場合は、停止してください。デフォルト・オブジェクトの作成を要求する「-c」オプションを指定して strmqm コマンドを実行し、キュー・マネージャーを再始動してください。

### AMQ5618

integer

## 重大度

0: 情報

### AMQ5619

ストリング

## 重大度

0: 情報

### AMQ5620

channel\_name

## 重大度

0: 情報

### AMQ5621

process\_name

## 重大度

0: 情報

### AMQ5622

q\_name

## 重大度

0: 情報

### AMQ5623

connection\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5624**

generic\_channel\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5625**

generic\_process\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5626**

generic\_q\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5627**

qalias\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5628**

qmodel\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5629**

qlocal\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5630**

qremote\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5631**

namelist\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5632**

generic\_namelist\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5633**

generic\_Q\_Mgr\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5634**

generic\_cluster\_name

重大度

0: 情報

**AMQ5635**

<insert\_3> フラグで指定された引数が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

-l パラメーターで指定された引数は、1 から 4293 の範囲になければなりません。-d パラメーターで指定された引数は、-1 か 0 であるか、または 15 より大きくなければなりません。

**応答**

有効な引数を指定して、コマンドを再実行してください。

**AMQ5636**

cluster\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5638 (Tandem)**

使用法: cleanrdf -b BkpSysName [-m QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5639 (Tandem)**

-s Status Server Proc -v Queue Server Proc QMgrName

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5640 (Tandem)**

使用法: altmqusr -m QMgrName -p Principal (-u UserName | -r)

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5641 (Tandem)**

Principal Userid Username Alias GroupName GroupType

**重大度**

0: 情報

**AMQ5642 (Tandem)**

プリンシパル名の指定が正しくありませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定されたプリンシパル名が MQSeries の必要とする規則に準拠していません。

**応答**

名前を修正してコマンドを再び実行依頼してください。

**AMQ5643 (Tandem)**

プリンシパル・データベース内の項目を変更中にエラーが発生しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSeries は、プリンシパル・データベース内の指定されたエントリーを更新または削除できませんでした。

**応答**

このプリンシパルの項目が存在することを確認し、コマンドを再び実行依頼してください。

**AMQ5644 (Tandem)**

使用法: dspmqusr -m QMgrName [-p Principal]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5645 (Tandem)**

The Tandem User name was specified incorrectly.

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定された Tandem ユーザー名が MQSeries の必要とする規則に準拠していません。

**応答**

名前を修正してコマンドを再び実行依頼してください。

**AMQ5646**

使用法: setmqcap Processors

**重大度**

0: 情報

**AMQ5647**

使用法: dspmqcap

**重大度**

0: 情報

**AMQ5648**

使用法: dmpmqaut [-m QMgrName] [-n Profile | -l] [-t ObjType] [-p Principal | -g Group] [-s ServiceComponent] [-e | -x]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ5649**

generic\_authinfo\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5650**

authinfo\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5651**

QMNAME

**重大度**

0: 情報

**AMQ5652**

据え置きメッセージ・プロセスは、理由 <insert\_1>により、WebSphere MQ キュー・マネージャーへの接続に失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が、据え置きメッセージ処理 (amqzdmaa) が接続できなかった理由を説明する以前のメッセージまたは FFST 情報を生成した可能性があります。

## 応答

すべての構成エラーを訂正します。この問題を起こす構成エラーには、CLWL Exit モジュールが正しく構成されていないことなどがあります。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ5653

mqm ユーザーが定義されていません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

システム呼び出し getpwnam ("mqm") errno <insert\_1> で失敗しました。プログラムは <insert\_3> として実行されていました。

## 応答

mqm グループのメンバーとして mqm ユーザーを作成し、操作をやり直してください。

### AMQ5654

使用法: dspmqrte [-c] [-n] [-l Persistence] [-m QMgrName] [-o] [-p Priority]

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは、DSPMQRTE コマンドの正しい使用法を示したものです。

## 応答

なし。

### AMQ5655

[-rq ReplyQName [-rqm ReplyQMGrName]] [-ro ReportOptions]

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは、DSPMQRTE コマンドの正しい使用法を示したものです。

## 応答

なし。

### AMQ5656

[-xs Expiry] [-xp Pass] [-qm TargetQMGrName] [-ac [-ar]]

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは、DSPMQRTE コマンドの正しい使用法を示したものです。

## 応答

なし。

### AMQ5657

[-d Delivery] [-f Forwarding] [-s Activities] [-t Detail]

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは、DSPMQRTE コマンドの正しい使用法を示したものです。

応答

なし。

#### AMQ5658

`[-i CorrelId] [-b] [-v Verbosity] [-w WaitTime]`

重大度

0: 情報

説明

これは、DSPMQRTE コマンドの正しい使用法を示したものです。

応答

なし。

#### AMQ5659 (UNIX and Linux)

トレース共有メモリーにアクセスできません: <insert\_1>

重大度

0: 情報

説明

これは、UNIX and Linux システムに適用されます。

応答

IBM サービス担当員にお問い合わせください。

#### AMQ5659 (IBM i)

トレース制御共用メモリー (<insert\_1>) にアクセスできません。

重大度

0: 情報

説明

トレースの開始または停止の試行中に、トレース制御メモリーへのアクセスで予期しないエラーが発生しました。トレース制御にアクセスしようとしたが、戻りコード <insert\_1> で失敗しました。

応答

IBM 技術員に連絡してください。

#### AMQ5660

`-q TargetQName | -ts TargetTopicString`

重大度

0: 情報

説明

これは、DSPMQRTE コマンドの正しい使用法を示したものです。

応答

なし。

#### AMQ5675

複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました。

重大度

20: エラー

説明

インストール済み環境 <insert\_4> からプログラム <insert\_3> を実行中に、IBM WebSphere MQ は、環境リソースの構成が原因でインストール済み環境 <insert\_5> からロードされたことを検出しました。プログラムが不整合なインストール済み環境を使用して実行されている間は、プログラムを正常に完了できません。

応答

該当する場合は、プログラム <insert\_3> をインストール済み環境 <insert\_5> から実行するか、プログラム <insert\_3> に必要なすべてのリソースがインストール済み環境 <insert\_4> からロードされるように環境を構成します。

#### AMQ5688

キュー・マネージャー <insert\_3> をインストール済み環境 <insert\_4> に関連付けることができません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> をインストール済み環境 <insert\_4> に関連付ける要求が失敗しました。これは、キュー・マネージャーが以前に実行されていた MQ バージョンが、インストール済み環境 <insert\_4> のバージョンより大きいことが原因である可能性があります。

**応答**

指定したインストール済み環境が意図したものであることを確認し、コマンドを再発行してください。

**AMQ5691**

キュー・マネージャー <insert\_4> が別のインストールに関連付けられています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド <insert\_3> がキュー・マネージャー <insert\_4> に対して発行されましたが、キュー・マネージャーは現在使用中のインストール済み環境 <insert\_5> とは異なるインストール済み環境に関連付けられています。コマンドを正常に実行するには、コマンドの実行元のインストール済み環境が、キュー・マネージャーが関連付けられているインストール済み環境と一致している必要があります。

**応答**

setmqenv コマンドを使用して、コマンド発行元のインストール済み環境を変更するか、setmqm コマンドを使用して、キュー・マネージャーと現在のインストール済み環境を関連付けます。

**AMQ5700**

listener\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5701**

service\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5749**

display\_cmd

**重大度**

0: 情報

**AMQ5750**

filter\_keyword

**重大度**

0: 情報

**AMQ5751**

operator

**重大度**

0: 情報

**AMQ5752**

filter\_value

**重大度**

0: 情報

**AMQ5753**

topic\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5754**

obj\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5755**

generic\_topic\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5756**

subscription\_name

**重大度**

0: 情報

**AMQ5757**

subscription\_id

**重大度**

0: 情報

**AMQ5758**

generic\_topic\_string

**重大度**

0: 情報

**AMQ5765**

channel\_profile

**重大度**

0: 情報

**AMQ5805**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは現在キュー・マネージャーに対して実行されています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> で現在 IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが実行されているため、コマンドは失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ5806**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが開始しました。

**応答**

なし。

**AMQ5807**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> 上の IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ5808**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーは既に静止しています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> で実行されている IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの正常シャットダウンが既に進行中であるため、endmqbrk コマンドが失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ5808 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe メッセージ・ブローカーはすでに静止しています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> で実行されているブローカーの正常シャットダウンが既に進行中であるため、endmqbrk コマンドが失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ5809**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが開始しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの状態を照会するために dspmqbrk コマンドが発行されました。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは現在初期化中です。

**応答**

なし。

**AMQ5810**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが実行中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの状態を照会するために dspmqbrk コマンドが発行されました。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは現在実行中です。

**応答**

なし。

**AMQ5811**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが静止しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの状態を照会するために dspmqbrk コマンドが発行されました。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは現在、制御されたシャットダウンを実行しています。

**応答**

なし。

**AMQ5812**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーを停止しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

dspmqbrk コマンドと endmqbrk コマンドのどちらか一方が発行されました。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは現在即時シャットダウンを実行中です。ブローカーの終了を要求するために endmqbrk コマンドが発行された場合、ブローカーがすでに即時シャットダウンを実行中であったために、このコマンドが失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ5813**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーがアクティブではありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの状態を照会または変更するために、このブローカーの管理コマンドが発行されました。WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは現在実行されていません。

**応答**

なし。

**AMQ5814**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが異常終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの状態を照会するために dspmqbrk コマンドが発行されました。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが異常終了しました。

**応答**

ブローカーが異常終了した理由を判断するには、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照してください。

**AMQ5815**

キュー・マネージャー (<insert\_3>) の IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー初期設定ファイル・スタンザが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ブローカーが strmqbrk コマンドを使用して始動されました。キュー・マネージャーの初期設定ファイル内のブローカー・スタンザが無効です。このブローカーは即時に終了します。無効な属性は <insert\_5> です。

**応答**

キュー・マネージャー初期設定ファイル内のブローカー・スタンザを訂正してください。

**AMQ5815 (Windows)**

キュー・マネージャー (<insert\_3>) の IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー構成が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ブローカーが strmqbrk コマンドを使用して始動されました。ブローカー構成情報が無効です。このブローカーは即時に終了します。無効な属性は <insert\_5> です。

**応答**

cfgmqbrk 構成ツールを使用して、ブローカー属性を訂正してください。

**AMQ5815 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー初期設定ファイル・スタンザが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ブローカーが strmqbrk コマンドを使用して始動されました。キュー・マネージャー (<insert\_3>) 初期化ファイルのブローカー・スタンザが無効です。このブローカーは即時に終了します。無効な属性は <insert\_5> です。

**応答**

キュー・マネージャー初期設定ファイル内のブローカー・スタンザを訂正してください。

**AMQ5816**

理由 <insert\_1>、<insert\_2> のために、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー制御キューをオープンできません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ブローカーは、ブローカー制御キュー (<insert\_3>) のオープンに失敗しました。キューをオープンしようとしたが、完了コード <insert\_1> および理由 <insert\_2> で失敗しました。このエラーの理由として最も可能性が高いのは、アプリケーション・プログラムが排他的アクセスのためにブローカー制御キューをオープンしたこと、またはブローカー制御キューが正しく定義されていないことです。このブローカーは即時に終了します。

**応答**

問題を解決してブローカーを再始動してください。

**AMQ5817**

ブローカーによって無効なストリーム・キューが検出されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

IBM WebSphere MQ がキュー (<insert\_3>) をストリーム・キューとして使用しようとしたが、キューの属性がストリーム・キューとしての使用に適していません。このエラーで最も可能性のある原因はキューが以下の場合です。(1) ローカル・キュー以外、(2) 共用可能キュー、(3) 一時動的キュー。キューが暗黙のストリーム作成を使用して作成されている場合には、モデル・ストリームが正しく定義されていません。このストリームを作成する原因となったメッセージは、メッセージ・レポート・オプションとブローカー構成によって、拒否されるか、あるいは送達不能キューに入れられます。

**応答**

問題を修正して、もう一度要求を実行依頼してください。

**AMQ5818**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー・ストリーム・キューを開くことができませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ブローカーがストリーム・キュー (<insert\_3>) のオープンに失敗しました。キューをオープンしようとしたが、完了コード <insert\_1> および理由 <insert\_2> で失敗しました。このエラーの理由として最も可能性が高いのは、(1) 新しいストリーム名が SYSTEM.QPUBSUB.QUEUE.NAMELIST であるが、

ストリーム・キューが存在しない (2) アプリケーションが排他的アクセスのためにキューをオープンしている。

#### 応答

問題を解決してください。

#### AMQ5819

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー・ストリームが異常終了しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカー・ストリーム (<insert\_3>) が、理由 <insert\_1> のために異常終了しました。ブローカーはストリームの再始動を試行します。このストリームが繰り返し失敗すると、ブローカーはストリームの再始動インターバルを徐々に延ばしていきます。

#### 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ5820

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー・ストリーム (<insert\_3>) が再始動しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

異常終了したストリームをブローカーが再始動しました。このメッセージは、ストリームが終了した理由を示すメッセージ AMQ5867 または AMQ5819 の後にしばしば表示されます。

#### 応答

問題を解決してください。

#### AMQ5821

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが親ブローカーにアクセスできませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカーが親ブローカーを指定して始動されました。ブローカーは、理由 <insert\_1> により、親ブローカー (<insert\_3>) にメッセージを送信できませんでした。

#### 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。この問題は、親ブローカー名がローカル・ブローカーの伝送キューの名前に解決されていないことによって起こる可能性があります。

#### AMQ5822

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが親ブローカーに登録できませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

親ブローカー (<insert\_3>) を指定してブローカーが開始されました。ブローカーは親ブローカーの子として登録しようとしたますが、これが不可能であることを示す例外応答 (<insert\_1>) を受け取りました。ブローカーは周期的にその親の子として再登録しようとします。この登録プロセスが正常に完了するまで、子はグローバル・パブリケーションまたはサブスクリプションを正しく処理できない可能性があります。

## 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。この問題は、親ブローカーがまだ存在していないか、SYSTEM.BROKER.INTER.BROKER.COMMUNICATIONS キュー。

### AMQ5823

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー・スタンプ内の出口パス属性が無効です。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカー出口のパス属性 <insert\_3> が無効です。この属性は、< path> < module name> (< function name>) のように指定する必要があります。ブローカーは即時に終了します。

## 応答

属性に関する問題を解決して、ブローカーを再始動してください。

### AMQ5825

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー出口機能のアドレスが見つかりませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカー出口機能 <insert\_4> のアドレスが、モジュール <insert\_3> に見つかりませんでした。理由 <insert\_1>:<insert\_5>。ブローカーは即時に終了します。

## 応答

モジュール <insert\_3> のブローカー出口機能 <insert\_4> の問題を訂正し、ブローカーを再始動してください。

### AMQ5826

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe はサブスクリプションを他のキュー・マネージャーに伝搬できませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャーは、ブローカー (<insert\_3>) のストリーム (<insert\_4>) にサブスクリプションを伝搬できませんでした。理由コード <insert\_1> および <insert\_2>。アプリケーションが、ストリームへのサブスクリプションを登録または登録解除しました (<insert\_4>)。キュー・マネージャーは、サブスクリプションの変更をブローカー (<insert\_3>) に伝搬しようとしたましたが、要求は成功しませんでした。キュー・マネージャー (<insert\_3>) を介してストリーム (<insert\_4>) にパブリッシュされたメッセージは、このキュー・マネージャーに到達しない可能性があります。

## 応答

理由コードを使用して問題が起こった理由を調査し、問題訂正のための適切なアクションを行ってください。コマンド REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB) を使用して、プロキシ・サブスクリプションをリフレッシュします。???????

### AMQ5827

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー内部サブスクリプションが失敗しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカーがブローカー (<insert\_3>) でストリーム (<insert\_4>) にサブスクライブできませんでした。理由コード <insert\_1> および <insert\_2>。関連ブローカーは、相互によってパブリッシュされる情報をサブスクライブすることによって、相互に構成について学習します。ブローカーが、これらの内部サブスクリプションの1つが失敗したことを検出しました。ブローカーは即時にサブスクリプションをもう一度出します。ブローカーは、隣接するブローカーに関する情報を知らないため、正しく機能できません。このブローカーがブローカー (<insert\_3>) に関して持っている情報は完全ではないため、サブスクリプションおよびパブリケーションがネットワーク全体に正しく伝搬されない可能性があります。

## 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。この障害の原因として最も可能性が高いのは、SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE at broker (<insert\_3>)、またはこのブローカーとブローカーの間の経路の定義に関する問題 (<insert\_3>)。

### AMQ5828

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー出口が無効な ExitResponse を返しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカー出口が、無効な ExitResponse <insert\_1> を返しました。メッセージの続行が許可され、出口パラメーター構造全体を含む FFST が生成されました。

#### 応答

ブローカー出口に関する問題を解決してください。

### AMQ5829

使用法: amqfqpub [-m QMgrName]。このコマンドを手動で実行しないでください。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これは正しい使用法を示したものです。

#### 応答

なし。

### AMQ5830

endmqbrk コマンドは使用できなくなりました。 &MQQPUBSUB\_short は、キュー・マネージャーの PSMODE 属性を変更することにより使用可能/使用不可にできます。PSMODE を「COMPAT」に設定すると、キューに入れられた pubsub インターフェースが使用不可に設定されます。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

endmqbrk コマンド (以前のバージョンの MQ で提供) は、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe の使用可能/使用不可設定では使用されなくなりました。endmqbrk コマンドを発行する代わりに、キュー・マネージャーの PSMODE 属性を COMPAT に設定する必要があります。

#### 応答

なし。

### AMQ5832

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが SYSTEM.BROKER.ADMIN.STREAM。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

関連ブローカーは、相互によってパブリッシュされる情報をサブスクライブすることによって、相互に構成について学習します。この内部パブリケーションのいずれかが失敗したことをブローカーが検出しました。ブローカーは情報を即時にリパブリッシュします。ブローカーは、隣接したブローカーに関する情報がないと正しく機能できません。隣接するブローカーがこのブローカーについて認識している情報が不完全な場合があります。そのため、サブスクリプションやパブリケーションの一部がネットワーク内で伝搬されないこともあります。

#### 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取ってください。

### AMQ5833

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー階層でループが検出されました。

#### 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャー (<insert\_3>) 上のブローカーが、ブローカー階層にループを導入しました。このブローカーは即時に終了します。

## 応答

ブローカーを削除するか、clrmqbrk コマンドを使用してブローカーの親の知識を除去することによって、ブローカー (<insert\_3>) を階層から除去します。

### AMQ5834

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー階層内のキュー・マネージャー名が競合しています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカー階層内のキュー・マネージャーの名前 (<insert\_3>) と (<insert\_4>) は、両方とも同じ 12 文字で始まります。ブローカー階層内で競合が発生しないことと固有のメッセージ ID が割り振られることを保証するため、ブローカーのキュー・マネージャー名の最初の 12 文字は固有でなければなりません。

## 応答

キュー・マネージャー名の最初の 12 文字が固有になることを保証するキュー・マネージャー命名規則を使用してください。

### AMQ5835

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが理由 <insert\_1>により親に関係を通知できませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ブローカー階層内の関係 (<insert\_4>) について、キュー・マネージャー (<insert\_3>) 上の親に通知できませんでした。通知メッセージは、親の送達不能キューに書き込まれます。新しい関係をブローカーに通知できなかったため、新しい関係に対するループ検出は実行できません。

## 応答

親キュー・マネージャーの問題について診断し、修正する。この理由として、親ブローカーが存在していないことが考えられます。

### AMQ5836

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe 階層に重複したキュー・マネージャー名があります。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャー名 (<insert\_3>) の複数インスタンスが見つかりました。これは、ブローカー階層内でのループ (すでに解決済み) の結果であるか、または同じ名前を持つキュー・マネージャーがブローカー階層内に複数存在することによるものであると考えられます。

## 応答

このブローカーが階層でループを検出した場合 (一般にメッセージ AMQ5833 で識別)、このメッセージは無視できます。ブローカー階層内のキュー・マネージャーごとに固有の名前を付けることを強くお勧めします。複数のキュー・マネージャーが同じ名前を使用することは推奨されません。

### AMQ5837

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが理由 <insert\_1>のためにキュー (<insert\_3>) を静止できませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカーが削除されると、ブローカーの入力キューは、キューの読み取りを禁止にし (メッセージのレポート・オプションに基づいて)、キューの内容を送達不能キューに書き込んで静止します。ブローカーは、示されている理由により、示されているキューを静止できませんでした。ブローカーを削除する試みは失敗です。

## 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取り、dltmqbrk コマンドをもう一度出してください。同様な理由には、キューが別のプロセスによって入力用にオープンされている、このキュー・マネージャーに送達不能キューが定義されていない、dltmqbrk コマンドの実行時にオペレーターがキューを読み取り禁止に設定しているなどが含まれます。定義された送達不能キューがない場合には、理由は MQRC\_UNKNOWN\_OBJECT\_NAME として報告されます。このブローカーに送達不能キューが定義されていないためにこの問題が起こっている場合には、オペレーターは送達不能キューを定義するか、または手動で問題の原因となっているキューを空にすることができます。

### AMQ5837 (IBM i)

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがキューの静止に失敗しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカーが削除されると、ブローカーの入力キューは、キューの読み取りを禁止にし (メッセージのレポート・オプションに基づいて)、キューの内容を送達不能キューに書き込んで静止します。ブローカーは、理由 <insert\_1> により、キュー (<insert\_3>) を静止できませんでした。ブローカーを削除しようとすると失敗します。

## 応答

問題が起こった理由を調べて、問題を修正する適切な処置を取り、dltmqbrk コマンドをもう一度出してください。同様な理由には、キューが別のプロセスによって入力用にオープンされている、このキュー・マネージャーに送達不能キューが定義されていない、dltmqbrk コマンドの実行時にオペレーターがキューを読み取り禁止に設定しているなどが含まれます。定義された送達不能キューがない場合には、理由は MQRC\_UNKNOWN\_OBJECT\_NAME として報告されます。このブローカーに送達不能キューが定義されていないためにこの問題が起こっている場合には、オペレーターは送達不能キューを定義するか、または手動で問題の原因となっているキューを空にすることができます。

### AMQ5838

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを削除できません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

子 (<insert\_3>) がまだ登録されているため、ブローカーを削除できません。ブローカーの子として登録されているすべてのブローカーが、子としての登録を解除されるまで、そのブローカーを削除することはできません。

## 応答

clrmqbrk および dltmqbrk コマンドを使用してブローカー・トポロジーを変更し、ブローカー (<insert\_3>) が削除対象のブローカーの子として登録されないようにします。

### AMQ5839

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが予期せぬブローカー間通信を受信しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカーが予期せぬブローカー間通信を受信しました。メッセージはブローカー (<insert\_3>) によって送信されました。メッセージは、そのメッセージのレポート・オプションに従って処理されます。このメッセージの原因としては、ブローカー間通信メッセージの転送中 (例えば、伝送キュー上にあるとき) にブローカーのトポロジーが変更されて、ブローカーの前のトポロジーに関連したメッセージが新しいトポロジーのブローカーによって受け取られたことが考えられます。このメッセージには、予期しない通信の詳細が入った通知 FFST が付いている場合があります。

## 応答

ブローカー・トポロジーが変更されて、メッセージで指定されたブローカーがすでにこのメッセージを出したブローカーと関連しない場合には、このメッセージを無視できます。ブローカー (<insert\_3>) の知識をこのブローカーから一方的に除去するために clrmqbrk コマンドが発行された場合は、ブローカー (<insert\_3>) からこのブローカーの知識を除去するためにも clrmqbrk コマンドを使用する必要があります。ブローカー (<insert\_3>) からこのブローカーの知識を一方的に除去するために clrmqbrk

コマンドが発行された場合は、このブローカーでブローカー (<insert\_3>) の知識を除去するためにも clrmqbrk コマンドを使用する必要があります。

#### **AMQ5840**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがキューを削除できませんでした。

#### **重大度**

10: 警告

#### **説明**

ブローカーは、理由 <insert\_2>により、キュー (<insert\_3>) の削除に失敗しました。ブローカーは通常、dlmqbrk 処理中にキューを削除しようとします。この場合、dlmqbrk コマンドは失敗します。

#### **応答**

このエラーの原因としては、他のプロセスがキューをオープンしていることが考えられます。キューを削除できない理由を調べて、その抑制原因を除去して失敗した操作をやり直してください。複数ブローカー環境では、メッセージ・チャネル・エージェントがキューをオープンしていることがあり、ブローカーが dltmqbrk コマンドを完了するためにはこれを削除しなければなりません。

#### **AMQ5841**

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー (<insert\_3>) が削除されました。

#### **重大度**

0: 情報

#### **説明**

ブローカー (<insert\_3>) が dltmqbrk コマンドを使用して削除されました。

#### **応答**

なし。

#### **AMQ5842**

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー (<insert\_3>) は、理由 <insert\_1>:<insert\_5>により削除できません。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

ブローカー (<insert\_3>) を削除しようとしたのですが、理由 <insert\_1>:<insert\_5>のために要求が失敗しました。

#### **応答**

dltmqbrk コマンドが正常に完了できない理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログに、このブローカーを削除できない理由の詳細が入っている場合があります。このコマンドの完了を阻んでいる問題を解決して dltmqbrk コマンドを出し直してください。

#### **AMQ5842 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを削除できません。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー (<insert\_3>) を削除しようとしたのですが、理由 <insert\_1>:<insert\_5>のために要求が失敗しました。

#### **応答**

dltmqbrk コマンドが正常に完了できない理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログに、このブローカーを削除できない理由の詳細が入っている場合があります。このコマンドの完了を阻んでいる問題を解決して dltmqbrk コマンドを出し直してください。

#### **AMQ5843**

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー (<insert\_3>) は部分的に削除されているため、開始できません。

#### **重大度**

10: 警告

## 説明

部分的に削除された状態のブローカーを始動しようとしてしました。そのブローカーを削除する試みは失敗しました。ブローカーを再始動する前に、そのブローカーの削除が完了していなければなりません。ブローカーの削除が正常に行われると、ブローカーが削除されたことを示すメッセージ AMQ5841 が出されます。dltmqbrk コマンドの完了時にこのメッセージが表示されなければ、ブローカーの削除はまだ完了していないのでコマンドを出し直す必要があります。

## 応答

そのブローカーを削除する試みが失敗した理由を調べてください。問題を解決して dltmqbrk コマンドをもう一度出してください。

### AMQ5843 (IBM i)

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは部分的に削除されているので始動できません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

部分的に削除された状態にあるブローカー <insert\_3> を開始しようとしてしました。そのブローカーを削除する試みは失敗しました。ブローカーを再始動する前に、そのブローカーの削除が完了していなければなりません。ブローカーの削除が正常に行われると、ブローカーが削除されたことを示すメッセージ AMQ5841 が出されます。dltmqbrk コマンドの完了時にこのメッセージが表示されなければ、ブローカーの削除はまだ完了していないのでコマンドを出し直す必要があります。

## 応答

そのブローカーを削除する試みが失敗した理由を調べてください。問題を解決して dltmqbrk コマンドをもう一度出してください。

### AMQ5844

2つの IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの間の関係が不明です。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカーの関係についてのブローカーの認識を除去しようとして clrmqbrk コマンドが出されました。相対 (<insert\_4>) は、ブローカー (<insert\_3>) では不明です。"-p" フラグが指定された場合、ブローカーには現在親がありません。"-c" フラグが指定されている場合、ブローカーは名前付き子を認識しません。

## 応答

ブローカーが不明である理由を調べてください。

### AMQ5845

使用法: dltmqbrk -m QMgrName

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは正しい使用法を示したものです。

## 応答

なし。

### AMQ5847

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー (<insert\_3>) は関係に関する知識を除去しました (<insert\_4>)。

## 重大度

0: 情報

## 説明

clrmqbrk コマンドは、ブローカー (<insert\_4>) の知識をブローカー (<insert\_3>) から除去するために使用されました。

## 応答

なし。

**AMQ5847 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー関係が除去されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

clrmqbrk コマンドは、ブローカー (<insert\_4>) の知識をブローカー (<insert\_3>) から除去するために使用されました。

**応答**

なし。

**AMQ5848**

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー (<insert\_3>) は、理由 <insert\_1>:<insert\_5>により、関係 (<insert\_4>) への参照の除去に失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

clrmqbrk コマンドを使用してブローカー (<insert\_3>) からブローカー (<insert\_4>) への参照を除去しようとしたが、要求は失敗しました。

**応答**

clrmqbrk コマンドが正常に完了できない理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログに、このブローカーを削除できない理由の詳細が入っている場合があります。このコマンドの完了を阻んでいる問題を解決して clrmqbrk コマンドを出し直してください。

**AMQ5848 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは、関係するブローカーへの参照を除去できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

clrmqbrk コマンドを使用してブローカー (<insert\_3>) からブローカー (<insert\_4>) への参照を除去しようとしたが、理由 <insert\_1>:<insert\_5>により要求が失敗しました。

**応答**

clrmqbrk コマンドが正常に完了できない理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログに、このブローカーを削除できない理由の詳細が入っている場合があります。このコマンドの完了を阻んでいる問題を解決して clrmqbrk コマンドを出し直してください。

**AMQ5849**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは親を変更できません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

親としてブローカー (<insert\_4>) を指定して、ブローカー (<insert\_3>) を開始しようとした。ブローカー (<insert\_3>) は以前に開始されており、親としてブローカー (<insert\_5>) を指定しています。strmqbrk コマンドは、既存の関係を変更するために使用することができません。

**応答**

strmqbrk コマンドを使用してブローカー・トポロジーを変更しようとししないでください。ブローカー・トポロジーを変更する方法としてサポートされているのは、dlmqbrk コマンドおよび clrmqbrk コマンドだけです。ブローカー・トポロジーを変更する手引きについては、これらのコマンドの文書を参照してください。

**AMQ5850**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがキューの作成中に中断されました。

**重大度**

10: 警告

## 説明

ユーザー ID (<insert\_4>) のキュー (<insert\_3>) の作成中に、ブローカーが中断されました。ブローカーは、キューを作成するときに、まずデフォルトのセキュリティ属性を使用してキューを作成し、次にそのキューに適切なセキュリティ属性を設定します。この操作中にブローカーが中断 (例えば、キュー・マネージャーがシャットダウン) すると、ブローカーはセキュリティ属性が正しく設定されていないことを正確に検出できません。ブローカーはキューを作成中でしたが、キューの作成を完了して初期権限を設定する前に中断されました。キューの初期権限を設定する前にこの中断が起こっている場合には、オペレーターが `setmqaut` コマンドを使用して適切な権限を設定する必要があります。

## 応答

指定されたキューに適切なセキュリティ属性があることを確認し、必要であればそれを変更してください。

### AMQ5851

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが内部キューの作成中に中断されました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ユーザー ID (<insert\_4>) の内部キュー (<insert\_3>) の作成中に、ブローカーが中断されました。ブローカーは、内部キューを作成するときに、最初にデフォルトのセキュリティ属性を使用してキューを作成し、次にそのキューに適切なセキュリティ属性を設定します。この操作中にブローカーが中断 (例えば、キュー・マネージャーがシャットダウン) すると、ブローカーはそのキューを削除してキューを再定義しようとします。ユーザー (例えば、デフォルトのストリームまたは管理ストリーム) が内部キューを使用できる場合には、この無効状態時にユーザーがキューにメッセージを入れ、またはユーザー・アプリケーションがキューをオープンすることができます。この状態ではブローカーは自動的にキューを再定義せず、キューを空にするかクローズするまで再始動できません。

## 応答

指定されたキューのメッセージを調べ、それをキューから除去する適切な処置を取ってください。アプリケーションがキューをオープンしていないことを確認してください。

### AMQ5852

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがパブリケーションの削除コマンドを普及できませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ブローカーは、理由 <insert\_1>により、ストリーム (<insert\_3>) の削除パブリケーション・コマンドを関連ブローカー (<insert\_4>) に伝搬できませんでした。アプリケーションがパブリケーション削除コマンドを発行してグローバル・パブリケーションを削除する場合、そのコマンドは、ストリームをサポートするサブ階層内のすべてのブローカーに伝搬される必要があります。エラーを報告しているブローカーは、ストリーム (<insert\_3>) をサポートする関連ブローカー (<insert\_4>) にパブリケーション削除コマンドを転送できませんでした。パブリケーション削除コマンドは `MQRO_DISCARD_MSG` なしで伝搬され、コマンド・メッセージは送達不能キューに書き込まれた可能性があります。パブリケーションの削除が失敗したトピックは (<insert\_5>) です。

## 応答

関連ブローカーで、ストリームが削除されているためにパブリケーションの削除が失敗した場合には、このメッセージを無視してください。パブリケーション削除が失敗した原因を調べて、失敗したコマンドを回復するために適切な処置をとる。

### AMQ5853

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe がパブリケーション削除コマンドを伝搬できませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ブローカーは、以前に関連したブローカーにストリーム (<insert\_3>) のパブリケーション削除コマンドを伝搬できませんでした。アプリケーションが資料削除コマンドを出してグローバル資料を削除する

と、このコマンドはそのストリームをサポートしているサブ階層内のすべてのブローカーに伝搬されます。ブローカーのトポロジは、資料の削除後に、トポロジの変更によって除去されるブローカーが伝搬された資料削除メッセージを処理する前に変更されました。パブリケーションの削除が失敗したトピックは(<insert\_5>)です。

#### 応答

ブローカーのトポロジを変更する前に、clrmqbrk コマンドを使用してブローカーの活動を静止するのはユーザーの責任です。このパブリケーション削除活動が静止されなかった理由を調べる。資料削除コマンドは、トポロジから除去されたブローカーの送達不能キューに書き込まれます。この場合には、clrmqbrk コマンドが出される前に静止されなかった資料削除コマンドを伝搬するためにさらにアクションが必要になります。このメッセージが dlrmqbrk コマンドの結果として表示された場合には、資料は dlrmqbrk コマンドの結果として削除され、ブローカーが削除されたキュー・マネージャーの送達不能キューに資料削除メッセージが書き込まれます。この場合には、送達不能キューの資料削除メッセージは破棄することができます。

#### AMQ5854

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがパブリケーション削除コマンドを伝搬できませんでした。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

アプリケーションがパブリケーションの削除コマンドを発行してグローバル・パブリケーションを削除するとき、このコマンドが、ストリームをサポートするサブ階層にあるすべてのブローカーに対して普及している必要があります。パブリケーションの削除が伝搬された時点で、ブローカー(<insert\_4>)は、ストリーム(<insert\_3>)をサポートするこのメッセージ・ブローカーの既知の関係でした。パブリケーション削除コマンドが関連ブローカーに到着する前に、ブローカー・トポロジが変更され、ブローカー(<insert\_4>)がストリーム(<insert\_3>)をサポートしなくなりました。パブリケーションの削除が失敗したトピックは(<insert\_5>)です。

#### 応答

ブローカーのストリーム・トポロジを変更する前にブローカーの活動を静止するのはユーザーの責任です。このパブリケーション削除活動が静止されなかった理由を調べる。パブリケーションの削除コマンドは、ブローカー(<insert\_4>)の送達不能キューに書き込まれます。

#### AMQ5855

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが終了しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカー(<insert\_3>)を実行しようとしたのですが、理由<insert\_1>:<insert\_5>のためにブローカーが終了しました。

#### 応答

ブローカーが終了した理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログに、このブローカーを始動できない理由の詳細が入っている場合があります。このコマンドの完了を阻んでいる問題を解決して strmqbrk コマンドを出し直してください。

#### AMQ5856

ブローカー・パブリッシュ・コマンド・メッセージを処理できません。理由コード<insert\_1>。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがストリーム(<insert\_3>)のパブリッシュ・メッセージの処理に失敗しました。ブローカーはパブリケーションを送達不能キューに書き込むことができず、パブリケーションの破棄も許可されませんでした。ブローカーはストリームを一時的に停止し、ストリームを再始動して、しばらくしてからパブリケーションを再試行します。

## 応答

エラーが発生した理由と、送達不能キューにパブリケーションを書き込めない理由を調べる。パブリケーションをストリーム・キューから手動で除去するか、ブローカーが送達不能キューにパブリケーションを書き込めないようにしている問題を解決してください。

### AMQ5857

ブローカー制御コマンド・メッセージを処理できません。理由コード <insert\_1>。

## 重大度

10: 警告

## 説明

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE。ブローカーはコマンド・メッセージを送達不能キューに書き込むこともコマンド・メッセージを破棄することもできませんでした。ブローカーはストリームを一時的に停止し、ストリームを再始動して、しばらくしてからコマンド・メッセージを再試行します。このコマンド・メッセージが正常に処理されるか制御キューから除去されるまでは、他のブローカー制御コマンドを処理することはできません。

## 応答

エラーが発生した理由と、送達不能キューにコマンド・メッセージを書き込めない理由を調べる。コマンド・メッセージをストリーム・キューから手動で除去するか、ブローカーが送達不能キューにコマンド・メッセージを書き込めないようにしている問題を解決してください。

### AMQ5858

ブローカーは、サブスクライバー・キューにパブリケーションを送信できませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

理由 <insert\_1>により、キュー・マネージャー (<insert\_3>) のサブスクライバー・キュー (<insert\_4>) にパブリケーションを送信中に障害が発生しました。ブローカー構成オプションは、パブリケーションを破棄するか、または送達不能キューに送信することによって、この障害からリカバリーできないようにします。代わりに、ブローカーは資料送信中の作業単位をバックアウトして、障害のあるコマンドを固定回数だけ再試行します。問題が続いて起こる場合には、ブローカーはコマンド・メッセージを否定応答メッセージで失敗させて回復を試みます。コマンドの発行者が否定応答を要求しない場合は、ブローカーは障害のあるコマンド・メッセージを破棄するか、または送達不能キューに送ります。ブローカー構成オプションがこれを妨げている場合には、ブローカーは影響のあるストリームを再始動して再度障害のあるコマンド・メッセージを再処理します。この動作は、失敗が解決されるまで繰り返される。この間、ストリームはパブリケーションやサブスクリプションをそれ以上処理できない。

## 応答

通常、この障害の原因は一時的なリソースの問題である (例えばサブスクライバー・キューまたは中間伝送キューが満杯)。理由コード <insert\_1> を使用して、必要な修復処置を判別してください。問題が長時間続く場合には、ストリームがブローカーによって継続的に再始動されることに注意してください。これが起こると、ストリームの再始動を示す多数の AMQ5820 メッセージがエラー・ログに書き込まれます。そのような場合には、ブローカーが障害のある資料を処理できるように手操作で介入する必要があります。これを行うには、endmqbrk コマンドを使用してブローカーを終了し、適切な処理オプションで再始動する必要があります。これにより、残りのサブスクライバーに資料を送ることができ、ブローカーは送信できなかった資料を破棄するかまたは送達不能キューに送ることができません。

### AMQ5859

内部リソース問題が原因で IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー・ストリームが終了します。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ブローカー・ストリーム (<insert\_3>) が内部リソースを使い尽くしました。理由コード <insert\_1> で終了します。進行中のコマンドが同期点制御下で処理されていた場合、ストリームがブローカーによって再始動されると、そのコマンドはバックアウトされ、再試行されます。コマンドが同期点制御の外で処理されていた場合には、ストリームの再始動時に再試行することはできません。

## 応答

このメッセージは、非常に稀な状況でのみ出されます。同一のストリームに対してこのメッセージが繰り返し発行され、そのストリームのサブスクリプション、トピック、および保存パブリケーションの数が特別に多いわけではない場合は、生成された診断情報をすべて保存して、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ](#) または [IBM Support Assistant \(IBM SupportAssistant の Web ページ\)](#) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5862

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー <insert\_3> が移行中です。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ブローカーの状態を照会するために、dspmqbrk コマンドが発行されました。ブローカーは現在移行中です。

## 応答

なし。

## AMQ5863

WebSphere Brokers ブローカーは移行の準備ができていません。詳細については、メッセージ・ログを参照してください。

## 重大度

10: 警告

## 説明

WebSphere Brokers ブローカーはメッセージの受け入れ準備ができていなかったため、migmqbrk コマンドが正常に実行されませんでした。WebSphere MQ Publish/Subscribe メッセージ・ブローカーの状態は、キュー SYSTEM.BROKER.INTERBROKER.QUEUE に送信される一連のメッセージとして WebSphere Brokers ブローカーにエクスポートされます。移行が開始される前に、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーは、WebSphere Brokers ブローカーがこのキュー上のメッセージを受け入れる準備ができていないかどうかを検査します。この検査は理由 <insert\_1> により失敗したため、マイグレーションは中止されました。

## 応答

理由コード <insert\_1> を使用して、問題の性質を判別する必要があります。値 1 は、キュー SYSTEM.BROKER.INTERBROKER.QUEUE が存在していないことを意味します。これは、WebSphere Brokers ブローカーがこのキュー・マネージャーにまだ定義されていないことが原因と考えられます。値 2 は、WebSphere Brokers ブローカーが開始されていないか、あるいは最初のメッセージ・フローがまだ展開されていないために、そのブローカーがキューを開いていないことを意味します。これらのステップの両方が終了している場合には、WebSphere Brokers ブローカーが正しく作成されていない可能性があります。特に、これは移行モードで作成されていなければなりません。移行フラグを設定した状態でブローカーが作成されていない場合は、移行を開始するためには、そのブローカーを削除して再作成する必要があります。理由コードのその他の値については、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントのいずれかを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が解決されるまでは、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを strmqbrk コマンドで再始動できることに注意してください。

## AMQ5864

ブローカー応答メッセージは送信できませんでした。このコマンドは再試行されます。

## 重大度

10: 警告

## 説明

パブリッシュ/サブスクライブ・コマンドの処理中に、IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが、理由 <insert\_1> により、キュー・マネージャー (<insert\_3>) のキュー (<insert\_4>) に応答メッセージを送信できませんでした。ブローカーは、送達不能キューにメッセージを書き込むこともできませんでした。このコマンドは同期点制御のもとで処理されているので、ブローカーは問

題が一時的な性質のものだけであることを期待してコマンドの再試行を試みます。設定された再試行回数を経過した後になっても応答メッセージを送信できない場合は、報告書オプションで許可されていれば、コマンド・メッセージが破棄される。コマンド・メッセージを破棄できない場合には、ストリームが再始動されてコマンド・メッセージの処理が開始されます。

#### 応答

理由コード <insert\_1> を使用して、必要な修復処置を判別してください。障害の原因がリソースの問題(キューがいっぱいであるなど)である場合、問題が既に解決している場合があります。解決していない場合、このメッセージはコマンドが再試行されるたびに繰り返し発行される。この場合には、問題の調査中にブローカーが他のコマンドを処理できるように、応答メッセージを受け取るための送達不能キューを定義することを強くお勧めします。コマンドの発行元であるアプリケーションを調べて、必ず応答先キューを正しく指定する。

#### AMQ5865

ブローカー応答メッセージは送信できませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

パブリッシュ/サブスクライブ・コマンドの処理中に、IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが、理由 <insert\_1> により、キュー・マネージャー (<insert\_3>) のキュー (<insert\_4>) に応答メッセージを送信できませんでした。ブローカーは、送達不能キューにメッセージを書き込むこともできませんでした。このコマンドは同期点制御のもとで処理されていないので、ブローカーはコマンドを再試行することができません。

#### 応答

理由コード <insert\_1> を使用して、必要な修復処置を判別してください。障害の原因がリソースの問題(キューがいっぱいであるなど)である場合、問題が既に解決している場合があります。解消されていない場合には、コマンドの発行元からアプリケーションを調べて、その応答先キューが正しく指定されていることを確認してください。以後の障害時に応答メッセージを取り込む送達不能キューを定義することで、このタスクをより簡単に行うことができます。

#### AMQ5866

ブローカー・コマンド・メッセージが破棄されました。理由コード <insert\_1>。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが publish/subscribe コマンド・メッセージを処理できませんでした。このメッセージは現在破棄されています。ブローカーは新しいコマンド・メッセージを再度処理し始めます。

#### 応答

前のエラー・メッセージを調べて、コマンド・メッセージの問題を突き止める。問題を訂正して、障害の再発を防ぐ。

#### AMQ5867

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー・ストリームが異常終了しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカー・ストリーム (<insert\_3>) が、理由 <insert\_1> のために異常終了しました。ブローカーはストリームの再始動を試行します。ストリームが繰り返し失敗する場合には、ブローカーはストリームの再始動を試みるインターバルを徐々に延ばしていきます。

#### 応答

理由コード <insert\_1> を使用して、問題が発生した理由を調べてください。理由コード 1 は、コマンド・メッセージが正常に処理されなかったためにストリームが終了したことを示します。コマンド・メッセージが失敗した原因を判別するために、前のメッセージのエラー・ログを確認してください。理由コード 2 は、ブローカー出口をロードできないためにストリームが終了したことを示します。ブローカー出口の問題が解決されるまで、このストリームは引き続き失敗します。

**AMQ5868**

ユーザーは現在、ストリームのサブスクリプションを許可されていません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ブローカーがサブスクライバーにパブリケーションをパブリッシュしようとしたが、サブスクライバーはもはやストリーム・キュー (<insert\_4>) に対するブラウズ権限を持っていません。パブリケーションはサブスクライバーに送信されず、そのサブスクリプションは登録解除されます。除去されたサブスクリプションの詳細を含むイベント資料は、SYSTEM.BROKER.ADMIN.STREAM で公開されています。ユーザー ID (<insert\_3>) は無許可のままですが、ブローカーは引き続きそのユーザー ID に関連付けられたサブスクリプションを登録解除します。

**応答**

ユーザー ID (<insert\_3>) の権限が意図的に除去された場合は、サブスクライバーの代わりに MQREGO\_DEREGISTER\_ALL オプションを指定して MQCMD\_DEREGISTER\_SUBSCRIBER コマンドを発行することにより、そのすべてのユーザー ID サブスクリプションを即時に除去することを検討してください。この権限が間違っ取り消された場合には、それを復権しますが、このサブスクライバーのサブスクリプションが一部 (全部ではない) ブローカーによって登録解除されることに注意してください。

**AMQ5869**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが登録をチェックポイント中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ストリーム (<insert\_3>) のパブリッシャーおよびサブスクライバー登録に対して、多数の変更が行われました。ストリームの再始動時間と使用中の内部キュー・スペースの量の両方を最小化するために、これらの変更のチェックポイントが取られています。

**応答**

なし。

**AMQ5870**

(予期しないエラー)

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし

**応答**

なし

**AMQ5871**

(リソース問題)

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし

**応答**

なし

**AMQ5872**

(IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーには、認識された子があります)

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし

**応答**

なし

**AMQ5873**

(IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーはアクティブです)

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし

**応答**

なし

**AMQ5874**

(1 つまたは複数のキューを静止できませんでした)

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし

**応答**

なし

**AMQ5875**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが送達不能キューにメッセージを書き込むことができません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ブローカーが送達不能キュー (<insert\_3>) にメッセージを書き込もうとしましたが、理由 <insert\_1>:<insert\_4>により、メッセージを送達不能キューに書き込めませんでした。メッセージは、<insert\_2>:<insert\_5>の理由で送達不能キューに書き込まれていました。

**応答**

送達不能キューにメッセージを書き込めない理由を調べてください。また、メッセージが (例えば、メッセージ・ブローカー出口によって) 故意に送達不能キューに書き込まれなかった場合には、メッセージが送達不能キューに書き出された理由を調べて、メッセージがそのあて先に送られるのを妨げている問題を解決してください。

**AMQ5876**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー階層で親の競合が検出されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ブローカー (<insert\_3>) が開始され、このブローカーを親として指定しました。このブローカーは、親としてネーミング・ブローカー (<insert\_3>) を開始しました。ブローカーは、競合が検出されたことを示す例外メッセージをブローカー (<insert\_3>) に送信します。このメッセージの原因としては、ブローカー間通信メッセージの転送中 (例えば、伝送キュー上にあるとき) にブローカーのトポロジが変更されて、ブローカーの前のトポロジに関連したメッセージが新しいトポロジのブローカーによって受け取られたことが考えられます。このメッセージには、予期しない通信の詳細が入った通知 FFST が付いている場合があります。

**応答**

ブローカー・トポロジが変更され、メッセージに示されているブローカーがこのブローカーを親として識別しなくなった場合、このメッセージは無視できます。例えば、コマンド「clrmqbrk -m <insert\_3> -p」が発行された場合などです。ブローカー (<insert\_3>) がこのブローカーの親として定義されており、このブローカーがブローカー (<insert\_3>) の親として定義されている場合は、clrmqbrk または dltnmqbrk コマンドを使用して競合を解決する必要があります。

## AMQ5877

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー・ストリームが異常終了しました。

### 重大度

10: 警告

### 説明

ブローカー・ストリーム (<insert\_3>) が、理由 <insert\_1> のために異常終了しました。ブローカー・リカバリー・ルーチンがストリーム状態のリセットに失敗し、ストリームを自動的に再始動できません。

### 応答

このストリームが失敗した理由および障害の後でブローカーの回復ルーチンが回復できなかった理由を調べてください。問題を解決するために適切なアクションを行ってください。ブローカーの構成と問題の性質によって、ブローカーを再始動するか、またはキュー・マネージャーとブローカーの両方を再始動してストリームを使用できるようにする必要があります。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、<https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/> IBM MQ または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5878

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー回復障害が検出されました。

### 重大度

10: 警告

### 説明

ブローカーに関する初期の問題が発生して、ストリームまたはブローカーが再始動されました。再始動されたストリームまたはブローカーは、そのストリームまたはブローカーの直前のインスタンスが正常にクリーンアップしなかったために再始動が失敗することを検出しました。

### 応答

ストリームまたはブローカーの再始動が必要となる障害の原因と、その障害の後にブローカーまたはストリームがそのリソースをクリーンアップできなかった理由を調べてください。承認されていないルーティング出口 (RoutingExitConnectType=STANDARD) でブローカーが処理を行うとき、ブローカーは突然の障害に対して耐性が高いモードで実行されるため、しばらくしてから再始動が成功すると考えられています。ストリームの再始動の場合、通常ブローカーは失敗した再始動を周期的に再試行します。ブローカーの再始動の場合、しばらくしてからブローカーの再始動を手動で再試行する必要があります。ルーティング出口を使用せずに処理を行う場合、または承認されたルーティング出口 (RoutingExitConnectType=FASTPATH) を使用して処理を行う場合は、ブローカーは突然の障害に対して耐性がより低いモードで実行されるため、この問題を解決するためにキュー・マネージャーの再始動が必要となります。ブローカーがこのモードで実行されている場合、不要な非同期の割り込み (例: kill) の影響をブローカーのプロセスが受けにくいことが重要です。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、<https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/> IBM MQ または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ5879

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが移行されました。

### 重大度

10: 警告

### 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> の MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが移行されたため、コマンドは失敗しました。移行後に、移行済みブローカーに対して発行できるコマンドは dltmqbrk コマンドだけです。

### 応答

dltmqbrk コマンドを出して移行済みブローカーを削除してください。

## AMQ5880

ユーザーは現在、ストリームのサブスクリプションを許可されていません。

### 重大度

0: 情報

### 説明

ブローカーがサブスクライバーにパブリケーションをパブリッシュしようとしたが、サブスクライバーにはストリーム・キュー (<insert\_4>) に対する `altusr` 権限がありません。パブリケーションはサブスクライバーに送信されず、ユーザー ID サブスクリプションは登録解除されます。除去されたサブスクリプションの詳細を含むイベント資料は、`SYSTEM.BROKER.ADMIN.STREAM` で公開されています。ユーザー ID (<insert\_3>) は無許可のままですが、ブローカーは引き続きそのユーザー ID に関連付けられたサブスクリプションを登録解除します。

### 応答

ユーザー ID (<insert\_3>) の権限が意図的に除去された場合は、サブスクライバーの代わりに適切なトピックに対して `MQCMD_DEREGISTER_SUBSCRIBER` コマンドを発行して、サブスクリプションを即時に除去することを検討してください。この権限が間違っ取り消された場合には、それを復権しますが、このサブスクライバーのサブスクリプションが一部 (全部ではない) ブローカーによって登録解除されることに注意してください。

## AMQ5881

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー構成パラメーターの組み合わせ <insert\_1> が無効です。

### 重大度

20: エラー

### 説明

キュー・マネージャー初期設定ファイル内のブローカー・スタンザの組み合わせが無効です。この問題が修正されるまでブローカーは動作しません。

(1) の組み合わせは、`SyncPointIfPersistent` が `TRUE` に設定され、`DiscardNonPersistentInputMsg` が `FALSE` に設定されたことを示します。`SyncPointIfPersistent` を `TRUE` に設定する場合は、`DiscardNonPersistentInputMsg` を `TRUE` に設定する必要があります。

(2) の組み合わせは、`SyncPointIfPersistent` が `TRUE` に設定され、`DiscardNonPersistentResponse` が `FALSE` に設定されたことを示します。`SyncPointIfPersistent` を `TRUE` に設定する場合は、`DiscardNonPersistentResponse` を `TRUE` に設定する必要があります。

(3) の組み合わせは、`SyncPointIfPersistent` が `TRUE` に設定され、`DiscardNonPersistentPublication` が `FALSE` に設定されたことを示します。`SyncPointIfPersistent` を `TRUE` に設定する場合は、`DiscardNonPersistentPublication` を `TRUE` に設定する必要があります。

### 応答

上記の規則に合わせてメッセージ・ブローカー・スタンザを変更し、コマンドを再試行してください。

## AMQ5881 (Windows)

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー構成パラメーターの組み合わせ <insert\_1> が無効です。

### 重大度

20: エラー

### 説明

ブローカー構成情報内のブローカー・パラメーターの組み合わせが無効です。この問題が修正されるまでブローカーは動作しません。

(1) の組み合わせは、`SyncPointIfPersistent` が `TRUE` に設定され、`DiscardNonPersistentInputMsg` が `FALSE` に設定されたことを示します。`SyncPointIfPersistent` を `TRUE` に設定する場合は、`DiscardNonPersistentInputMsg` を `TRUE` に設定する必要があります。

(2) の組み合わせは、`SyncPointIfPersistent` が `TRUE` に設定され、`DiscardNonPersistentResponse` が `FALSE` に設定されたことを示します。`SyncPointIfPersistent` を `TRUE` に設定する場合は、`DiscardNonPersistentResponse` を `TRUE` に設定する必要があります。

(3) の組み合わせは、SyncPointIfPersistent が TRUE に設定され、DiscardNonPersistentPublication が FALSE に設定されたことを示します。SyncPointIfPersistent を TRUE に設定する場合は、DiscardNonPersistentPublication を TRUE に設定する必要があります。

#### 応答

上記の規則に従うように cfgmqbrk ツールを使用してメッセージ・ブローカー 構成情報を変更して、コマンドを再試行してください。

#### AMQ5882

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがメッセージを送達不能キューに書き込みました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

ブローカーは、理由 <insert\_1>:<insert\_5>により、送達不能キュー (<insert\_3>) にメッセージを書き込みました。注: ログ・スペースを節約するために、ストリーム (<insert\_4>) についてこのメッセージが最初に出された後は、定期的には書き込まれません。

#### 応答

メッセージが (例えば、メッセージ・ブローカー出口によって) 故意に送達不能キューに書き込まれなかった場合には、メッセージが送達不能キューに書き込まれた理由を判断して、メッセージがその宛先に送られるのを妨げている問題を解決してください。

#### AMQ5883

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの状態が記録されませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

同期点外のパブリケーションの処理中に、ストリーム (<insert\_3>) のブローカー状態が記録されませんでした。非永続パブリケーションが、保存メッセージまたはパブリッシャー登録の変更を要求した。この資料は、ブローカーが SyncPointIfPersistent オプションを設定して構成されているので、同期点の外側で処理されます。パブリッシャーの登録または保存された資料をブローカーの内部キューにハード化しているときに障害が起きました。このパブリケーションの結果として試行される状態の変更は、すべてバックアウトされる。資料の処理は続行され、ブローカーはそれをすべてのサブスクライバーに送達しようとします。

#### 応答

障害の発生理由を調べる。ブローカーに資源問題が起こっている可能性があります。原因としては、ブローカーのキューで 'キューが満杯' になっていることが考えられます。資料にも状態変更が行われる場合には、それらを持続資料として送信するかまたは SyncPointIfPersistent オプションをオフにすることをお勧めします。この方法では、資料は同期点のもとで実行され、このような障害が起こった場合にはブローカーはそれらをやり直すことができます。

#### AMQ5884

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー制御キューがローカル・キューではありません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe がキュー 'SYSTEM.BROKER.CONTROL.QUEUE' は存在し、ローカル・キューではありません。このため、このキューはブローカーの制御キューとして使用するには不適切です。このブローカーは即時に終了します。このブローカーは即時に終了します。

#### 応答

既存のキューの定義を削除し、必要に応じてタイプが MQQT\_LOCAL になるようにキューを再作成する。キューを再作成しない場合、ブローカーは始動時に正しいタイプのキューを自動的に作成します。

#### AMQ5885

使用法: runmqbrk (or strmqbrk) -m QMgrName [-f] [-l logfile]

#### 重大度

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5886**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> の MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーが移行中であるため、現時点ではコマンドを発行できません。

**応答**

移行が開始された後に MQ Pub/Sub ブローカーに対して発行できる コマンドは、移行を取り消すための endmqbrk コマンドだけです。ブローカーが終了した後で、移行が完了しない場合には、MIGMQBRK コマンドを使用して再試行することができます。あるいは、STRMQBRK コマンドを使用してブローカーを再始動することにより、それを取り消すことができます。

**AMQ5887**

ストリーム <insert\_3> の移行が開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ストリーム <insert\_3> の移行が開始されました。

**応答**

なし。

**AMQ5888**

ストリーム <insert\_3> の移行が完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ストリーム <insert\_3> のすべての状態が WebSphere Brokers ブローカーにエクスポートされました。

**応答**

なし。

**AMQ5889**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが正常に移行されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ブローカーの移行が正常に完了しました。

**応答**

ブローカーが移行されました。これが使用していたリソースは、dltmqbrk コマンドを使用することによって解放できます。

**AMQ5890**

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの移行が失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行中です。この移行中に、すべての永続状態 (サブスクリプションなど) が、キュー <insert\_3> に送信される一連のメッセージとして WebSphere Brokers ブローカーにエクスポートされます。理由 <insert\_1> のために、マイグレーション・メッセージをこのキューに書き込むことができませんでした。

## 応答

MQPUT 障害コード <insert\_1> を使用して、メッセージをキューに書き込めない理由を判別してください。キュー・マネージャーが終了中であることが理由コード中に示されることがありますが、この場合には、キュー・マネージャーの再始動後に MIGMQBRK コマンドを再発行する必要があります。あるいは、キューに問題がある場合がありますが、この場合は移行をやり直す前に問題を修正する必要があります。

### AMQ5891

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーが状態を WebSphere Brokers にエクスポートしている間に応答を受信できませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行中です。この移行中に、すべての持続する状態 (例えば、サブスクリプション) は一連のメッセージとして WebSphere Brokers ブローカーにエクスポートされます。理由 <insert\_1> により、マイグレーション・メッセージの 1 つに対する応答メッセージをキュー <insert\_3> から取り出すことができませんでした。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの移行が失敗しました。

## 応答

MQGET 障害コード <insert\_3> を使用して、応答メッセージを応答キューから受信できなかった理由を判別します。キュー・マネージャーが終了中であることが理由コード中に示されることがありますが、この場合には、キュー・マネージャーの再始動後に MIGMQBRK コマンドを再発行する必要があります。理由コード 2033 は、30 秒の待機インターバルの間に応答メッセージを受信しなかったことを示します。この場合は、問題が WebSphere Brokers ブローカーで発生したと考えられます。WebSphere Brokers ブローカーで発行されたエラー・メッセージを調べてください。

### AMQ5892

ストリーム <insert\_3> の移行が、理由 <insert\_1>:<insert\_4> のために失敗しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ストリーム <insert\_3> の移行が失敗しました。

## 応答

理由コード <insert\_1> を使用して、障害の理由を調べてください。問題が解決されたら、再び MIGMQBRK コマンドを出して移行をやり直してください。

### AMQ5892 (IBM i)

ストリーム <insert\_3> の移行が失敗しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ストリーム <insert\_3> の移行が、理由 <insert\_1>:<insert\_4> のために失敗しました。

## 応答

理由コード <insert\_1> を使用して、障害の理由を調べてください。問題が解決されたら、再び MIGMQBRK コマンドを出して移行をやり直してください。

### AMQ5893

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー (<insert\_3>) は、理由 <insert\_1>:<insert\_5> のために移行できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー (<insert\_3>) を移行しようとしたましたが、理由 <insert\_1>:<insert\_5> のために要求が失敗しました。

## 応答

MIGMQBRK コマンドが正常に完了できない理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログの中に、ブローカーが移行できない理由の要点を解説した詳細情報が入っている場合があります。コマンドの完了を妨げている問題を解決してから、MIGMQBRK コマンドを出し直してください。

## AMQ5893 (IBM i)

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

ブローカー (<insert\_3>) を移行しようとしたのですが、理由 <insert\_1>:<insert\_5>により要求が失敗しました。

## 応答

MIGMQBRK コマンドが正常に完了できない理由を判別してください。キュー・マネージャーのメッセージ・ログの中に、ブローカーが移行できない理由の要点を解説した詳細情報が入っている場合があります。コマンドの完了を妨げている問題を解決してから、MIGMQBRK コマンドを出し直してください。

## AMQ5894

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行できません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

ストリーム <insert\_3> の状態が関連ブローカー <insert\_4> と整合していないため、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーはまだ移行できません。IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの移行中に、各ストリームの状態がブローカーのすべての関係と整合していることを確認するための検査が行われます。ブローカー <insert\_4> に関して、ストリーム <insert\_3> の状態で矛盾が検出されたため、この検査は失敗しました。この問題の原因として最も可能性が高いのは、WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーがブローカー・ネットワークのトポロジに対する最近の変更の処理をまだ完了していないことです。例えば、問題のストリームが関連ブローカー <insert\_4> で最近作成または削除され、このブローカーはこの変更の処理をまだ完了していない可能性があります。別の原因として、このブローカーまたはブローカー <insert\_4> がブローカー・ネットワークに追加され、サブスクリプションがまだ2つのブローカーに交換されていないことが考えられます。If this is この場合には、ブローカーはすべてのストリームとの関連において矛盾することになります。最新のトポロジー変更が行われていない場合は、ブローカー <insert\_4> へのサブスクリプションの伝搬で現在の障害が発生している可能性があります。

## 応答

いずれにせよ、矛盾が解決されるまで IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの移行を延期する必要があります。ブローカーが問題を解決できるように、ユーザーは STRMQBRK コマンドを使用してブローカーを再始動する必要があります。しばらくした後で、ブローカーを終了して、移行をやり直すことができます。すべてのブローカーの移行を何度繰り返してもこのメッセージで失敗する場合には、基本的な問題の解決を試みてください。前に出されたメッセージ AMQ5826 を探し出し、その指示にしたがってください。すべての場合において、2つのブローカー間のチャンネルが稼働していることを確認してください。

## AMQ5895

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行できません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

WebSphere Brokers ブローカーにエクスポートできないトピックが検出されました。トピック <insert\_3> は、WebSphere Brokers ブローカーにより認識されるワイルドカード文字が含まれているため、移行できません。WebSphere Brokers によって使用されるワイルドカード文字は '+' と '#' 文字です。トピックに関連付けられた状態は移行されず、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーの移行は失敗します。

**応答**

トピック <insert\_3> が使用されている間は、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを移行できません。 '+' あるいは '#' のどちらかを含むトピックを使用しているすべてのアプリケーションは、別のトピック・ストリングを使用してデザインをやり直す必要があります。問題が解決されるまで、strmqbrk コマンドを使用して IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカーを通常どおりに再始動できます。

**AMQ5896**

IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe ブローカー構成パラメーター GroupId の属性が不明です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ブローカーは、グループ <insert\_3> に属するストリーム <insert\_4> を作成しようとしたのですが、このグループは不明です。

**応答**

ブローカー構成パラメーター GroupId の属性を既存のグループに変更するか、グループ <insert\_3> を作成します。

**AMQ5897**

サブスクリプション (サブネーム <insert\_5>、従来の ID <insert\_4>、topicstring <insert\_3>) は移行されません。理由コード <insert\_2>

**重大度**

10: 警告

**説明**

サブスクリプションのマイグレーションは失敗し、スキップされます (マイグレーションは理由コード <insert\_2> で失敗しました)。サブスクリプションのトピック・ストリングは <insert\_3>、従来の ID は <insert\_4>、およびサブスクリプション名は <insert\_5> です。

**応答**

このサブスクリプションを手動で移行するか、または問題の調査と修正を行い、再度移行を行います。

**AMQ5898**

親キュー・マネージャーの変更は移行中は実行できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

現在の親マネージャーに、「-p」パラメーターで別のキュー・マネージャーが提供されました。

**応答**

-p オプションを指定せずに移行コマンドを再発行してください。移行を実行したら、MQSC を使用してキュー・マネージャーの親キュー・マネージャーを変更してください。

**AMQ5900**

使用法: migmbbrk [-r] [-o] [-s] [-z] -b BrokerName

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ5901**

Migrating Publish/Subscribe ACLs Header.

**重大度**

0: 情報

**説明**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。

WebSphere Message Broker から: <insert\_3>

WebSphere MQ キュー・マネージャーへ: <insert\_4>

タイム・スタンプ: <insert\_5>

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5902**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 No Broker ACLs

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ に移行する最も簡単な方法は、パブリッシュ/サブスクライブ・サービスを使用するすべてのユーザー ID であるメンバーを持つユーザー・グループを選択または作成することです。ここに示す `setmqaut` コマンドを編集して、<AllPSUsers> を選択したグループに置き換えます。その結果のコマンドをその後実行し、ルート MQ トピックのセキュリティ属性が WebSphere Brokers と同等になるように変更します。

```
setmqaut -m <insert_4> -n SYSTEM.BASE.TOPIC -t topic -g <AllPSUsers> + pub + sub
```

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5903**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 No Negative ACLs

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> のトピック・ツリーのルートが、MQ で使用されている設定と同じ設定に変更されました。さらに、トピック・ツリーには肯定的な ACL のみが含まれます。したがって、次のようにして、ACL を <insert\_3> から <insert\_4> に直接移行することができます。

1. 以下の MQSC コマンドを使用して、<insert\_4> のトピック・ツリー内にトピック・オブジェクトを作成します。

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5904**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 MQSC Create Topic

**重大度**

0: 情報

**説明**

トピック・オブジェクト名: <insert\_3>

トピック・ストリング: <insert\_4>

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5905**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 `setmqaut`

**重大度**

0: 情報

**説明**

```
setmqaut -m <insert_3> -n <insert_4> -t topic <insert_5>
```

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5906**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 setmqaut intro

**重大度**

0: 情報

**説明**

2. 以下の setmqaut コマンドを使用して、 <insert\_4>で許可を作成します。

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5907**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 Redundant ACLs

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere Brokers <insert\_3> には、すべてのユーザーがすべてのアクションを実行できるようにするための保護がルート・トピック・セットに設定されています (デフォルト)。しかし、さらに指定されたユーザーにアクセス権限を付与するように定義された追加 ACL が、トピック・ツリーの他の場所にあります。これらの ACL は、ルートの設定があるために冗長になっています。ブローカーで定義された ACL が、意図したセキュリティーを実施していない可能性があるため、それらの ACL を検討する必要があります。

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5908**

パブリッシュ/サブスクライブ ACL を移行しています。 Manual intervention required.

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere Brokers <insert\_3> には、直接 IBM WebSphere MQ に移行できない ACL 構造があります。これは通常、ブローカーが負の ACL (ブローカー・ツールでは「Deny」と表示されます) を使用する場合に発生しますが、トピック・ツリーのルートに複数の ACL がある場合に発生することがあります。ブローカーの ACL 構造を確認し、手動で <insert\_4>に移行する必要があります。

**応答**

ACL の移行手順に従ってください。

**AMQ5909**

一時キュー <insert\_3>を作成できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

一時キュー <insert\_3>を作成できません。

**応答**

サービス・トレースを使用可能にして再度アプリケーションを実行し、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5910**

移行ログ・ファイルを開くことができません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

移行ログ・ファイルを開くことができません。

**応答**

ログ・ファイルは、amqmigmbbrk.log という名前で現行作業ディレクトリーに作成されます。このファイルを作成できない理由を判別してから、このアプリケーションを再実行してください。

**AMQ5911**

一時キュー <insert\_3>を削除できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

一時キュー <insert\_3>を削除できません。

**応答**

マイグレーション・ログ・ファイルにアプリケーションが正常に完了したことが示されている場合は、キュー <insert\_3> を手動で削除してください。そのことが示されていない場合には、サービス・トレースを使用可能にして再度アプリケーションを実行し、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5912**

キュー <insert\_3>をオープンできません。理由コード: <insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー <insert\_3>をオープンできません。理由コード: <insert\_1>。

**応答**

アプリケーションでキューを開くことができない理由を判別してください。トレースを収集しながらアプリケーションを再実行すると、この助けになる場合があります。必要な場合は、IBM サービス・センターに連絡してください。

**AMQ5913**

WebSphere Brokers <insert\_3> は応答していません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere Brokers <insert\_3> は応答していません。

**応答**

WebSphere Brokers <insert\_3> が開始され、正常に動作していることを確認してください。必要な場合は、IBM サービス・センターに連絡してください。

**AMQ5914**

キュー <insert\_3>からメッセージを読み取れません。理由コード: <insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー <insert\_3>からメッセージを読み取れません。理由コード: <insert\_1>。

**応答**

アプリケーションでキューから読み取ることができない理由を判別してください。サービス・トレースを収集しながらアプリケーションを再実行すると、この助けになる場合があります。必要な場合は、IBM サービス・センターに連絡してください。

**AMQ5915**

キュー <insert\_3>にメッセージを書き込めません。理由コード: <insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー <insert\_3>にメッセージを書き込めません。理由コード: <insert\_1>。

**応答**

アプリケーションでキューを書き込むことができない理由を判別してください。サービス・トレースを収集しながらアプリケーションを再実行すると、この助けになる場合があります。必要な場合は、IBM サービス・センターに連絡してください。

**AMQ5916**

キュー <insert\_3>をクローズできません。理由コード: <insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー <insert\_3>をクローズできません。理由コード: <insert\_1>。

**応答**

アプリケーションでキューを閉じることができない理由を判別してください。トレースを収集しながらアプリケーションを再実行すると、この助けになる場合があります。必要な場合は、IBM サービス・センターに連絡してください。

**AMQ5917**

XML パーサーを初期化することができません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

XML パーサーを初期化することができません。

**応答**

これは内部エラーです。サービス・トレースを収集しながらアプリケーションを再実行し、IBM サービス・センターに連絡してください。

**AMQ5918**

WebSphere Brokers <insert\_3>からのXMLメッセージを構文解析できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere Brokers <insert\_3>からのXMLメッセージを構文解析できませんでした。

**応答**

WebSphere Brokers <insert\_3>により提供されたXMLメッセージは、&MQが構文解析しようとしたときにエラーになりました。問題の原因となったXMLメッセージが<insert\_4>に書き込まれました。問題は、列<insert\_2>の行<insert\_1>で発生しました。IBM サービス・センターに連絡して、この問題を報告してください。

**AMQ5919**

XML パーサーでエラーが発生し、停止する必要がありました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

XML パーサーでエラーが発生し、停止する必要がありました。

**応答**

WebSphere Brokers <insert\_3>により提供されたXMLメッセージは、&MQが構文解析しようとしたときにエラーになりました。XMLメッセージが<insert\_4>に書き込まれました。IBM サービス・センターに連絡して、この問題を報告してください。

**AMQ5920**

一時キュー <insert\_3>を消去できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

一時キュー <insert\_3>を消去できません。

**応答**

キューを確認し、それを手動で消去してみてください。問題が解決しない場合は、サービス・トレースを使用可能にして再度アプリケーションを実行し、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5921**

UTF-8 トランスコーダーを作成できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

UTF-8 トランスコーダーを作成できません。これは XML メッセージ・パーサーからの内部エラーです。

**応答**

サービス・トレースを使用可能にして再度アプリケーションを実行し、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5922**

WebSphere Brokers からのトピック・ストリングは長すぎるか、または認識されない文字を含んでいるため、移行できません。ストリングの先頭は <insert\_3> です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere Brokers からのトピック・ストリングは長すぎるか、または認識されない文字を含んでいるため、処理できません。ストリングの先頭は <insert\_3> です。

**応答**

トピック・ストリングを手動で移行してください。(移行ログを確認すると、問題の原因についての追加情報を得られる場合があります。)

**AMQ5923**

キュー・マネージャー <insert\_3> の CCSID を検索できません。理由コード: <insert\_1>

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> の CCSID を検索できません。理由コード: <insert\_1>

**応答**

トレースを使用可能にしてアプリケーションを再実行し、問題の原因を判別してください。必要であれば、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ5924**

重複するトピック・オブジェクト <insert\_3> がすでに存在しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

トピック・ストリング <insert\_4> のトピック・オブジェクト <insert\_3> を作成しようとしたのですが、マイグレーション・ユーティリティーは、その名前のトピック・オブジェクトが既に存在し、それを置き換えることができないことを検出しました。

**応答**

トピック・オブジェクトを調べて、正しいトピック・ストリングが示されているかどうかを判別してください。正しい場合にはこのユーティリティーの以前の実行時に作成されたものであるため、現状のまま使用しても上書きしても問題ありません。正しくない場合は、競合しないよう手動で解決する必要があります。この問題の詳細は、移行ログ・ファイルに記録されています。

**AMQ5925**

WebSphere Brokers の実行環境は初期化されていません。

**重大度**

20: エラー

## 説明

このユーティリティーは、WebSphere Brokers コマンドを実行できるコマンド・ウィンドウから実行する必要があります。

## 応答

このユーティリティーを WebSphere Brokers コマンド・コンソールから実行するか、あるいは移行ツールを実行する前に手動で mqsiprofile コマンド・スクリプトを実行してください。

### AMQ5926

移行完了メッセージを確認するためにトピックにサブスクライブすることができませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このユーティリティーは、トピック <insert\_3> にサブスクライブして、このブローカーのパブリッシュ/サブスクライブ状態が既に移行されているかどうかを判別します。しかし、サブスクリプションは理由コード %d で失敗しました。

## 応答

これは予期しないエラーです。IBM サポートに連絡してください。

### AMQ5927

このブローカーでの移行は、以前に正常に完了しています。-z スイッチが指定されなかったため、この試行は中止されます。

## 重大度

0: 情報

## 説明

このブローカーでの移行は、以前に正常に完了しています。-z スイッチが指定されなかったため、この試行は中止されます。

## 応答

以前に正常に実行された結果に問題がない場合は、これ以上行うことはありません。移行を意図的に再実行する場合には、-z スイッチを指定してください。また、キュー・マネージャーの既存の成果物を、移行中に検出されたもので上書きする場合は、-o スイッチを使用します。

### AMQ5928

サブスクリプション (subname <insert\_5>、従来の ID <insert\_4>、topicstring <insert\_3>) のマイグレーションが、理由 <insert\_2> で既存のサブスクリプションを置き換えるときに失敗しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

移行コマンドが強制フラグ (-f) の指定で実行されたため、既存のサブスクリプションの置換を試行しました。既存のサブスクリプションの置換が、理由 <insert\_2> で失敗しました。サブスクリプションのトピック・ストリングは <insert\_3>、従来の ID は <insert\_4>、およびサブスクリプション名は <insert\_5> です。

## 応答

移行ログを使用して問題の調査と修正を行い、再度移行を行ってください。

### AMQ5929

同じサブスクリプション名を持つ既存のサブスクリプションが存在するため、サブスクリプションの移行はスキップされました。(マイグレーションされなかったサブスクリプションには、サブネーム <insert\_5>、従来の ID <insert\_4>、およびトピック・ストリング <insert\_3> がありました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

移行コマンドは、強制フラグ (-f) を指定せずに実行されました。そのため、既存のサブスクリプションは上書きされません。2つのサブスクリプションを同じサブスクリプション名にすることはできないため、サブスクリプションの移行はスキップされました。

## 応答

スキップされたサブスクリプションをまだ必要とする場合には、同じ名前を持つ既存のサブスクリプションを除去してから移行コマンドを再実行するか、または強制オプション (-f) を指定して移行コマンドを再実行することができます。後者の場合、同じサブスクリプション名を持つ既存のサブスクリプションはすべて移行されます。

### AMQ5930

ストリーム <insert\_3> の移行で致命的でないエラーが発生しました。理由 <insert\_1>:<insert\_4>。

## 重大度

0: 情報

## 説明

ストリーム <insert\_3> のマイグレーション中にエラーが発生しましたが、ストリームのマイグレーションは続行されました。

## 応答

これ以前に出されたエラー・メッセージ、移行ログ、またはその両方で、失敗の原因を調べてください。問題が解決されたら、migmqbrk コマンドを再発行して、移行をやり直してください。

### AMQ5931

ストリーム <insert\_3> のトピック・オブジェクトの作成に失敗しました。理由 <insert\_1>

## 重大度

20: エラー

## 説明

移行中に、各ストリームのトピック・オブジェクトが作成されます。ストリーム <insert\_3> に対応するトピック・オブジェクトの作成が、理由 <insert\_1> により失敗しました。

## 応答

移行ログを使用して問題の調査と修正を行い、再度移行を行ってください。

### AMQ5932

ストリーム <insert\_3> のセキュリティのマイグレーションが理由 <insert\_1> で失敗しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

移行中、ストリームのセキュリティ・アクセスは、対応するトピック・オブジェクトに移行されます。ストリーム <insert\_3> のセキュリティの移行が、理由 <insert\_1> のために失敗しました。

## 応答

移行ログを使用して問題の調査と修正を行い、再度移行を行ってください。

### AMQ5933

移行ログを開くことができませんでした: <insert\_3>

## 重大度

20: エラー

## 説明

パブリッシュ/サブスクライブの移行中に実行されたアクションのログは保存されています。(その場合は、「-l」コマンド行パラメーターを使用して設定できます。現在は、<insert\_3> に設定されていません。) ログを書き込み用に開くことができませんでした。

## 応答

ファイル <insert\_3> が書き込み可能であることを確認してから、マイグレーションを再実行してください。または、「-l」パラメーターで別のログ・ファイル・ロケーションを指定して、移行を再実行します。

### AMQ5934

マイグレーション・ログに書き込めませんでした: <insert\_3>

## 重大度

20: エラー

## 説明

パブリッシュ/サブスクライブの移行中に実行されたアクションのログは保存されています。(その場所は、「-l」コマンド行パラメーターを使用して設定できます。現在は <insert\_3> に設定されています。) ログに書き込むことができませんでした。

## 応答

ファイル <insert\_3> が書き込み可能であることを確認してから、マイグレーションを再実行してください。または、「-l」パラメーターで別のログ・ファイル・ロケーションを指定して、移行を再実行します。

## AMQ5935

移行中、以下のどのサブスクリプション・プロパティーもありませんでした

JoinExcl

JoinShared

NoAlter

VariableUserId

SubIdentity

SubName

サブスクリプションでこれらのプロパティーを使用しない場合には、これ以上のアクションは必要ありません。しかし、これらのプロパティーに依存するサブスクリプションがある場合には、WebSphere Brokers をアップグレードして移行を再実行する必要があります。

## 重大度

10: 警告

## 説明

これらのプロパティーは、WebSphere Brokers が最新のフィックスパック・レベルにアップグレードされている場合のみ、移行ツールで表示されます。

## 応答

サブスクリプションでこれらのプロパティーを使用しない場合には、アクションは必要ありません。

ただし、サブスクリプションでこれらのプロパティーのいずれかを使用する場合には、WebSphere Brokers をアップグレードしてから移行プロセスを再実行する必要があります。

## AMQ5936

キュー <insert\_3>からの読み取りをコミットできません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

同期点でキュー <insert\_3> からメッセージが読み取られましたが、その後のコミットの試みは失敗しました。

## 応答

-s スイッチを使用してアプリケーションを再実行すると、すべての中間キューは、使用される前に強制的に消去されます。問題が解決しない場合には、IBM サービス・センターに連絡してください。

## AMQ5937

重複サブスクリプションがすでに存在します。

## 重大度

20: エラー

## 説明

トピック・ストリング <insert\_4> に対して <insert\_3> という名前のサブスクリプションを作成しようとしたのですが、移行ユーティリティーは、その名前のサブスクリプションが既に存在し、それを置き換えることができないことを検出しました。

#### 応答

サブスクリプションを調べて正しいものかどうかを判断します。正しい場合にはこのユーティリティの以前の実行時に作成されたものであるため、現状のまま使用しても上書きしても問題ありません。正しくない場合は、競合しないよう手動で解決する必要があります。この問題の詳細は、移行ログ・ファイルに記録されています。

#### AMQ5938

サブスクリプションを作成できませんでした。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

サブスクリプション名 <insert\_3> を使用してトピック・ストリング <insert\_4> へのサブスクリプションを作成しようとして、障害が発生しました。関連する理由コードは <insert\_1> です。

#### 応答

メッセージに表示された理由コードを使用して障害の原因を判別し、適切な処置を行って問題を修正してください。

#### AMQ5939

キュー <insert\_3> から予期しないメッセージが読み取られました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

キュー <insert\_3> から読み取られたメッセージは、移行のこの段階では予期されていませんでした。

#### 応答

想定外のメッセージはキューに置かれてはなりません。-s スイッチを使用してアプリケーションを再実行すると、すべての中間キューは、使用される前に強制的に消去されます。問題が解決しない場合には、IBM サービス・センターに連絡してください。

#### AMQ5940

関係の移行に失敗しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

階層関係の移行中にエラーが発生しました。詳細については、移行ログを参照してください。

#### 応答

移行ログでエラーの詳細について参照し、問題を解決してから移行コマンドを再実行してください。

#### AMQ5941

サブスクリプション・ポイントの固有の名前を割り振ることができません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

キュー・マネージャーは、最大 256 個まで各サブスクリプション・ポイントの固有のトピック・オブジェクト名を割り振りますが、その限界に達しました。このキュー・マネージャーには、これ以上サブスクリプション・ポイントを移行できません。また、このサブスクリプション・ポイントに依存するすべての成果物 (例えば、保存パブリケーションなど) も、移行されません。

#### 応答

可能なら、移行元となっている WebSphere Brokers により使用されているサブスクリプション・ポイントの数を減らします。

#### AMQ5942

WebSphere Brokers により提供されたユーザー ID <insert\_3> は無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

ユーザー ID <insert\_3> は、キュー・マネージャーでは使用できません。

## 応答

このキュー・マネージャーでこのユーザー ID が無効である理由を判別するため、移行ログまたは製品トレースを調べてください。可能なら、ブローカーに保管されているユーザー ID を変更し、移行ステップを再実行します。

### AMQ5943

IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブが現在アクティブであるため、移行を実行できません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

runmqbrk (および strmqbrk) コマンドにより、パブリッシュ/サブスクライブ・データ (例えば、サブスクリプションや保存メッセージなど) が以前のバージョンの &MQ から移行されます。移行を実行できるのは、IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブが非アクティブの場合のみです。

## 応答

移行が必要である場合、IBM WebSphere MQ Publish/Subscribe をまず使用不可にする必要があります。これは、以下の MQSC を使用して行うことができます: alter qmgr psmode(compat)

### AMQ5944

移行は完了しましたが、エラーが発生しました。IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブを手動で開始する必要があります。

## 重大度

10: 警告

## 説明

移行コマンドは完了しましたが、すべてのデータは移行できませんでした。エラーの詳細は、以前のエラー・メッセージと移行ログで見つけることができます。

## 応答

以前のエラー・メッセージを調べ、移行ログを確認してから、まだ必要な残りのデータの移行を手動で行います (あるいは、問題が一時的なものであった場合には、移行コマンドを再実行することにより実行します)。移行が完了したら、次の MQSC コマンドを発行して、IBM WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブを開始できます。alter qmgr psmode (enabled)

### AMQ5945

ストリーム <insert\_4> 上のトピック・ストリング <insert\_3> の保存メッセージは、理由コード <insert\_2> のために移行できませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

保存メッセージのマイグレーションが失敗し、スキップされます (マイグレーションは理由コード <insert\_2> で失敗しました)。保存メッセージには、ストリーム <insert\_4> 上のトピック・ストリング <insert\_3> があります。

## 応答

このトピックのメッセージを手動でリパブリッシュするか、または問題の調査と修正を行い、再度移行を行います。

### AMQ5946

理由 <insert\_1> のため、&MQQPUBSUB\_short を開始できませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

移行後に、&MQQPUBSUB\_short の開始が行えませんでした。

## 応答

なぜ &MQQPUBSUB\_short が開始できなかったかを (理由から) 判断して、問題を解決してから、以下の MQSC コマンドを手動で発行してください。ALTER QMGR PSMODE(ENABLED)

**AMQ5947**

キュー・マネージャー <insert\_1> の PSMODE の設定が COMPAT ではありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_1> のキュー・マネージャー・プロパティ PSMODE を COMPAT に設定して、パブリッシュ/サブスクライブ・マイグレーションを行えるようにする必要があります。

**応答**

なし。

**AMQ5948**

RFH1 形式で保存されているメッセージの一部のプロパティをブローカーから取得できません。ブローカーに RFH1 形式で保存されているメッセージがある場合は、キュー・マネージャーに移行された保存済みのパブリケーションが実際に正しいことを確認してください。

**重大度**

10: 警告

**説明**

RFH1 形式で保存されているメッセージの一部のプロパティをブローカーから取得できません。ブローカーに RFH1 形式で保存されているメッセージがある場合は、キュー・マネージャーに移行された保存済みのパブリケーションが実際に正しいことを確認してください。詳しくは、MQ の資料を参照してください。

**応答**

RFH1 形式でパブリッシュされた保存済みのパブリケーションが実際に WMB ブローカーにあるかどうかを確認してください。ある場合は、それらを手動でキュー・マネージャーに移行してください。

**AMQ5949**

mqsisstop コマンドの環境を設定できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

移行ツールは、移行が完了した後でブローカーを停止しようとするため、そのための環境変数を設定する必要があります。これらの変数の 1 つ以上を設定することができませんでした。

**応答**

移行ログ・ファイルを確認するか、またはトレースをオンにして移行を再度実行し、失敗した詳細な理由を取得してください。

**AMQ5950**

中断された移行の実行を再開できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

移行ツールが、前回の実行が中断されたことを検出しました。通常、移行ツールは、中断が発生したポイントから移行の実行を再開しようとはしますが、この場合は、1 つのサブスクリプションで複数のサブスクリプション ID を処理しているときに中断が発生したため、再開できませんでした。

**応答**

前回の実行の再開を防ぐ -s スイッチだけでなく、キュー・マネージャーにある既存の定義をブローカーから取得した定義で強制的に上書きする -o スイッチもオンにして、移行を再度実行してください。

**AMQ5960**

分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサがエラーのために停止します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

前のメッセージで報告された通り、分散パブリッシュ/サブスクライブ・コマンドの処理中に重大エラーが発生しました。パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド・プロセッサは処理を継続できず、終了します。

**応答**

前のメッセージで報告された問題を解決してください。

**AMQ5961**

分散パブリッシュ/サブスクライブ・パブリケーション・プロセッサがエラーのために停止します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

前のメッセージで報告された通り、分散パブリッシュ/サブスクライブ・パブリケーションの処理中に重大エラーが発生しました。パブリッシュ/サブスクライブ・パブリケーション・プロセッサは処理を継続できず、終了します。

**応答**

前のメッセージで報告された問題を解決してください。

**AMQ5962**

分散パブリッシュ/サブスクライブのプロキシ・サブスクリプション・ファンアウト処理がエラーのために停止します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

前のメッセージで報告された通り、分散パブリッシュ/サブスクライブのプロキシ・サブスクリプションのファンアウト中に重大エラーが発生しました。パブリッシュ/サブスクライブのプロキシ・サブスクリプションのファンアウト処理は継続できず、終了します。

**応答**

前のメッセージで報告された問題を解決してください。

**AMQ5963**

キューに入れられた Pub/Sub デーモンが使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロセスが、キュー型 Pub/Sub デーモンにコンタクトできませんでした。デーモンに問題がある場合、前出のメッセージでそれが強調表示されます。階層型の接続では、問題が修正されるまで以降の処理は行われません。

**応答**

前のメッセージで報告された問題を解決してください。デーモンが使用可能になった際に、REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) を実行してサブスクリプションを再同期しなければならない場合があります。

**AMQ5964**

パブリッシュ/サブスクライブ階層が接続されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

子または親キュー・マネージャー <insert\_3> とのパブリッシュ/サブスクライブ階層接続が確立されました。

**応答**

なし。

**AMQ5965**

パブリッシュ/サブスクライブ階層が切断されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

子キュー・マネージャーまたは親キュー・マネージャー <insert\_3>とのパブリッシュ/サブスクライブ階層接続が終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ5966**

以前のパブリケーションが誤って再度処理されています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このキュー・マネージャーで前に処理されたパブリケーションが受信された。このメッセージは再度パブリッシュされず、メッセージのレポート・オプションに従って処理されます。このパブリケーションが送達不能キューに送信された場合、追加メッセージが書き込まれることがあります。これは、階層とパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの無効な構成が原因で起こる。

**応答**

構成を訂正してループを除去してください。送達不能キューのメッセージ・プロパティーを確認して、送られた経路を判別してください。

**AMQ5967**

プロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャー <insert\_3>に送達できません。理由コード: <insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プロキシ・サブスクリプションをキュー・マネージャー <insert\_3>に送達できません。理由コード: <insert\_1>。これにより、サブスクリプションが <insert\_3>からパブリケーションを受信しなくなる可能性があります。

**応答**

プロキシ・サブスクリプションを <insert\_3>に配信できるように構成を修正してください。問題が解決されたら、REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB) を実行してサブスクリプションを再同期する必要があります。

**AMQ5972**

分散パブリッシュ/サブスクライブのファンアウト要求書き込みに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

サブスクリプション・ファンアウト要求を分散パブリッシュ/サブスクライブ・ファンアウト要求キュー <insert\_3>に入れることができません。関連する理由コードは <insert\_1>です。

**応答**

前のメッセージで報告された問題を解決してください。問題が解決した際に、REFRESH QMGR TYPE (PROXYSUB) を実行してサブスクリプションを再同期しなければならない場合があります。

**AMQ5979**

<insert\_3>からのプロキシ・サブスクリプションは、PSCLUS (DISABLED) のために拒否されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー属性 PSCLUS が DISABLED に設定されており、このクラスターではキュー・マネージャー間のパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーが実行されないようになっています。しかし、クラスター・サブスクリプションが <insert\_3>からチャンネルを介してこのキュー・マネージャーに送信されました。プロキシ・サブスクリプション要求は無視され、ローカルに登録されたサブスクリプションはありません。

## 応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターリングを有効にする必要がある場合には、そのクラスターに含まれるすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を ENABLED に変更します。PSCLUS のドキュメンテーションで詳しく説明されているとおり、場合によっては REFRESH CLUSTER コマンドと REFRESH QMGR コマンドを発行する必要もあります。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターを使用しない場合は、クラスター・トピック・オブジェクトを削除し、すべてのキュー・マネージャーで PSCLUS を DISABLED にする必要があります。

## AMQ5980

開始時に、分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロキシー・サブスクリプションの再同期が発生しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

分散パブリッシュ/サブスクライブ・プロセスが、シャットダウンと再始動でプロキシー・サブスクリプションの状態が整合しているか判別できなかったため、リモート・キュー・マネージャーとの再同期が実行されました。これは通常、キュー・マネージャーが以前のシャットダウンで完全に停止されなかった場合、またはシステムが非常にビジーであった場合に発生します。

## 応答

なし。

## AMQ5981

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに参加していますが、パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのメンバーですが、パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています。クラスター内の他のキュー・マネージャーは、パブリケーションとプロキシー・サブスクリプションを引き続きこのキュー・マネージャーに送信します。それらのパブリケーションとサブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのシステム・キューに累積し、パブリッシュ/サブスクライブが有効になるまで処理されません。それらのキューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、クラスター内の他のキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、クラスター内の他のキュー・マネージャーからこのキュー・マネージャーに送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

## 応答

ALTER QMGR コマンドで PSMODE を ENABLED または COMPAT に設定して、パブリッシュ/サブスクライブを有効にします。その後、REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) コマンドを発行してサブスクリプションを再同期します。

## AMQ5982

パブリッシュ/サブスクライブ階層に参加していますが、キュー・パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

このキュー・マネージャーは、パブリッシュ/サブスクライブ階層のメンバーですが、キュー・パブリッシュ/サブスクライブが無効になっています。パブリッシュ/サブスクライブ階層内の親子関係に基づいて、パブリケーションとプロキシー・サブスクリプションは、引き続きこのキュー・マネージャーに送信されます。それらのパブリケーションとサブスクリプションは、キュー・パブリッシュ/サブスクライブのシステム・キューに累積し、キュー・パブリッシュ/サブスクライブが有効になるまで処理されません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブのシステム・キューが満杯になると、チャンネル障害が発生する可能性があります。その場合は、親子関係に基づいてこのキュー・マネージャーにメッセージを送信するパブリッシュ/サブスクライブの操作に影響が及びます。さらに、同じチャンネルを使用して送信される、パブリッシュ/サブスクライブとは無関係の他のメッセージの送達にも影響が及びます。

## 応答

ALTER QMGR コマンドで PSMODE を ENABLED に設定して、キュー・パブリッシュ/サブスクライブを有効にしてください。キュー・パブリッシュ/サブスクライブが再始動したら、DISPLAY PUBSUB ALL コマンドを使用して、その処理が完了したことを確認します。その後、サブスクリプションを再同期するために REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) コマンドを実行します。

## AMQ6000-6999: 共通サービス

### AMQ6004

IBM WebSphere MQ の初期化または終了中にエラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ の初期化中または終了中にエラーが検出されました。IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

#### 応答

システムと共に提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6005 (IBM i)

IBM WebSphere MQ の始動中にエラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ストレージ・モニター・プロセス (サブシステム QSYSWRK のジョブ QMQM) を開始しようとしたことが失敗しました。

#### 応答

このジョブおよび QMQM ジョブのジョブ・ログで失敗の考えられる理由を調べて、エラーを訂正し、コマンドを再実行します。問題が解決されない場合、問題はログに記録されている可能性があります。WRKPRB を使用して問題 ID を記録し、QPSRVDMP、QPJOBLOG、および QPDSPJOB ファイルを保管してください。生成された出力ファイルを保存し、IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6015

オペレーティング・システムがビジーか、またはリソース不足のために、システム要求を完了できません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

システム要求 <insert\_3> が、オペレーティング・システムによって戻りコード <insert\_1> でリジェクトされました。IBM WebSphere MQ は要求を再実行しましたが、失敗し続けました。この失敗は、オペレーティング・システムがビジーであるか、またはリソース不足のために、要求を完了できないことを示している可能性があります。

#### 応答

このシステム上のワークロードまたはサーバー上のワークロードのどちらによってシステムが制約されているのかを調べて、ワークロードを減らしてください。

**AMQ6024**

システム要求を完了するために使用できるリソースが不足しています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

要求を完了するために使用できるリソースが不足しているため、オペレーティング・システムによってシステム要求が拒否されました。以前の FFST、エラー・ログ・メッセージ、または Windows ではシステム・イベント・ログ・メッセージを使用して、どのリソースが不十分であるかを判別してください。

**応答**

システムがドキュメンテーションに従って構成されているかどうかを調べて、システム要求が正常に完了できるように必要なリソースを増やしてください。

**AMQ6025**

プログラムが見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラム <insert\_3> が見つからなかったため、IBM WebSphere MQ はこのプログラムを開始できません。

**応答**

プログラム名が正しく指定されていることを確認して、プログラムを再実行します。

**AMQ6026**

リソース不足のため、IBM WebSphere MQ プロセスを作成できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ プロセスを作成する試行は、プロセス制限のため (各ユーザーのプロセス数またはシステム全体で実行されるプロセス合計数のいずれか)、あるいはシステムに別のプロセスを作成するのに必要なリソースがないために、オペレーティング・システムによって拒否されました。

**応答**

プロセス制限がプロセスの作成を妨げているのかどうかを調べ、そうである場合はシステムがこのように制約されている理由を調査します。この制限を高くするか、システム上のワークロードを減らすことを検討してください。

**AMQ6035**

IBM WebSphere MQ が失敗しました。使用できる記憶域がありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

製品の内部機能が記憶域を取得しようとしたが、使用できる記憶域がありませんでした。

**応答**

製品を停止してから再始動してください。それでも問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ \(https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ\)](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [IBM サポート・アシスタント \(https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant\)](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ6037**

IBM WebSphere MQ が十分な記憶域を取得できませんでした。

**重大度**

20: エラー

## 説明

製品が十分な記憶域を取得できません。この製品のエラー記録ルーチンが呼び出された可能性があります。

## 応答

製品を停止してから再始動してください。これで問題が解決しない場合には、問題が記録されているかどうかを調べます。問題が記録されている場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保存してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQのIBM\\_WebSphere\\_MQサポート\\_Webページ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQのIBM_WebSphere_MQサポート_Webページ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6047

変換がサポートされていません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> でタグ付けされたストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。

## 応答

「IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の付録および該当する各国語サポート資料を調べて、CCSID がご使用のシステムでサポートされているかどうかを確認してください。

## AMQ6048

DBCS エラー

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

DBCS エラーのために、IBM WebSphere MQ はストリング・データを変換できません。変換は、CCSID <insert\_1> から CCSID <insert\_2> への変換です。

## 応答

「IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の付録および該当する各国語サポート資料を調べて、CCSID がご使用のシステムでサポートされているかどうかを確認してください。

## AMQ6049

DBCS 専用ストリングは無効です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> のストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。メッセージ記述子データは 1 バイト形式でなければなりません。CCSID <insert\_2> は DBCS 専用の CCSID です。

## 応答

ジョブまたはシステムの CCSID を確認して、SBCS または混合文字セットをサポートするものに変更します。サポートされる文字セットおよび CCSID については、「IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の付録および該当する各国語サポート資料を参照してください。

## AMQ6050

CCSID エラー。

## 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> のストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。

#### 応答

「IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の付録および該当する各国語サポート資料を調べて、CCSID がご使用のシステムでサポートされているかどうかを確認してください。

#### AMQ6051

変換の長さエラー。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、入力長さエラーのため、CCSID <insert\_1> のストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。

#### AMQ6052

変換の長さエラー。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> のストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。

#### AMQ6053

CCSID エラー

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> のストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。

#### 応答

CCSID の 1 つがシステムでサポートされていません。「IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の付録および該当する各国語サポート資料を調べて、CCSID がご使用のシステムでサポートされているかどうかを確認してください。

#### AMQ6064

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM Support Assistant (ISA) ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### AMQ6088 (IBM i)

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

API 呼び出し <insert\_3> が行われたときに、内部エラーが発生しました。

## 応答

WRKPRB を使用して問題 ID を記録し、QPSRVDMP、QPJOBLOG、および QPDSPJOB ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6089 (IBM i)

IBM WebSphere MQ はエラー・メッセージを表示できませんでした。

### 重大度

30: 重大エラー

### 説明

エラー・メッセージを表示しようとして失敗しました。原因として、AMQMSG メッセージ・ファイルが見つからなかったことが考えられます。メッセージ ID は <insert\_3> です。

## 応答

ライブラリー・リストが AMQMSG メッセージ・ファイルにアクセスするために正しくセットアップされていることを確認してください。変更が必要な場合、失敗したアプリケーションを再実行して、エラー・メッセージを記録します。問題を解決できない場合は、生成された出力ファイルを保存し、IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ6090

IBM WebSphere MQ は、エラー・メッセージ <insert\_6> を表示できませんでした。

### 重大度

0: 情報

### 説明

IBM WebSphere MQ が、戻りコード 16 進数 <insert\_6> に関連したメッセージを表示しようとした。戻りコードは、メッセージに関連したメッセージ・テキストがないことを示しています。要求に関連付けられるのは、挿入 <insert\_1> : <insert\_2> : <insert\_3> : <insert\_4> : <insert\_5> です。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ (IBM WebSphere MQ サポート Web ページ [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6091

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

### 重大度

0: 情報

### 説明

専用メモリーがエラーを検出し、<insert\_3> が原因で異常終了しています。エラー・データは <insert\_1> です。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目

が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ6092 (Windows)**

CCSID に必要な手動変換: <insert\_1>

##### **重大度**

0: 情報

##### **説明**

CCSID <insert\_1> は新しい形式で存在しますが、旧形式に対して調整できませんでした。

##### **応答**

古い変換を保持したい場合は、conv\table\ccsid.tbl の CCSID 項目 <insert\_1> を手動で編集します。支援が必要な場合は、サービス担当員に連絡してください。

#### **AMQ6100**

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

##### **重大度**

0: 情報

##### **説明**

IBM WebSphere MQ がエラーを検出し、<insert\_3>が原因で異常終了しています。エラー・データは <insert\_1>です。

##### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ6103 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ ジョブ実行依頼エラーです。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

IBM WebSphere MQ は、ジョブ <insert\_3>をサブミットできません。

#### **AMQ6107**

CCSID はサポートされません。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

CCSID の 1 つが認識されないため、IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> のストリング・データを CCSID <insert\_2>のデータに変換できません。

##### **応答**

「IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の付録および該当する各国語サポート資料を調べて、CCSID がご使用のシステムでサポートされているかどうかを確認してください。

#### **AMQ6109**

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6110

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6112 (IBM i)

IBM WebSphere MQ CCSID <insert\_1> はデフォルト値を使用しています。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

IBM WebSphere MQ の初期化時に有効なジョブの CCSID が検出されなかったため、使用されている CCSID はデフォルトの 37 です。この警告メッセージは、有効な CCSID が正しく設定されるまで発行されます。

## 応答

ジョブの CCSID を設定してください。

### AMQ6114 (IBM i)

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

WRKPRB を使用して問題 ID を記録し、QPSRVDMP、QPJOBLOG、および QPDSPJOB ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6115

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6118

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました (<insert\_1>)。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6119

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました (<insert\_3>)。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ がオペレーティング・システムの呼び出し中に予期しないエラーを検出しました。IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6120

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ6121

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

IBM WebSphere MQ が、無効な <insert\_1> のパラメーター・カウントを検出しました。システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6122

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

IBM WebSphere MQ が、値 <insert\_2><insert\_3> を持つ無効なパラメーター <insert\_1> を検出しました。システムに用意されている標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管します。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6125

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ID <insert\_1> で内部エラーが発生しました。このメッセージは、他のメッセージと関連して出されません。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6134 (IBM i)

トレースはバッファで続行します。

## 重大度

0: 情報

### AMQ6135 (IBM i)

初期トレースの停止中

## 重大度

0: 情報

**AMQ6136 (IBM i)**

早期トレースの停止 <insert\_3> システム時刻

重大度

0: 情報

**AMQ6137 (IBM i)**

MQI トレースの再開中

重大度

0: 情報

**AMQ6138 (IBM i)**

MQI トレースの再開 <insert\_3> システム時刻

重大度

0: 情報

**AMQ6139 (IBM i)**

MQI トレースの停止中

重大度

0: 情報

**AMQ6140 (IBM i)**

MQI トレースの停止 <insert\_3> システム時刻

重大度

0: 情報

**AMQ6141 (IBM i)**

MQI トレースの開始中

重大度

0: 情報

**AMQ6142 (IBM i)**

MQI トレースの開始 <insert\_3> システム時刻

重大度

0: 情報

**AMQ6143 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ 関数スタック

重大度

0: 情報

**AMQ6144 (IBM i)**

使用できるスタックがありません

重大度

0: 情報

**AMQ6145 (IBM i)**

MQI トレースの終了中

重大度

0: 情報

**AMQ6146 (IBM i)**

ジョブ終了処理の入力中

重大度

0: 情報

**AMQ6147 (IBM i)**

MQI トレース <insert\_3> システム時刻を終了しています。

重大度

0: 情報

**AMQ6148**

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ がエラーを検出し、<insert\_3>が原因で異常終了しています。エラー・データは<insert\_1>です。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ6150 (Windows)**

IBM WebSphere MQ セマフォアが使用中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

IBM WebSphere MQ は、<insert\_1> 分の通常のタイムアウト期間内にセマフォアを獲得できませんでした。

**応答**

IBM WebSphere MQ は引き続きアクセスを待機します。状況が自然に解消せず、システムがロックされている疑いがある場合は、セマフォアを所有するプロセスを調査してください。このプロセスの PID は、付随する FFST の中に記載されています。

**AMQ6150 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ resource <insert\_3> が使用中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ は、<insert\_1> 分の通常のタイムアウト期間内に IBM WebSphere MQ オブジェクトにアクセスできませんでした。

**応答**

IBM WebSphere MQ は引き続きアクセスを待機します。IBM WebSphere MQ を使用するすべてのジョブが解放されていることを確認してください。この状態が続く場合は、キュー・マネージャーを静止してください。

**AMQ6151 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ resource <insert\_3> が解放されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

別のプロセスが待機していた IBM WebSphere MQ リソースが、<insert\_1> 分を超える期間にわたって解放されました。

**応答**

リカバリーは必要ありません。

**AMQ6152 (IBM i)**

キュー・マネージャーを静止しようとしている間に、IBM WebSphere MQ がコミットメント制御を終了できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、キュー・マネージャー <insert\_3>の静止中に、コミットメント制御の終了に失敗しました。

#### 応答

1つ以上のアクティブなリソースがコミットメント制御下にあります。ジョブ処理 (WRKJOB) コマンドを使用して OPTION(\*CMTCTL) パラメーターを指定し、コミットメント制御下のアクティブなリソースを表示します。ジョブ・ログを調べて以前に発行されたメッセージを確認します。

#### AMQ6153 (IBM i)

キュー・マネージャー <insert\_3> を静止しようとしたましたが、失敗しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> を静止しようとしたましたが、失敗しました。

#### 応答

ジョブ・ログを調べて以前に発行されたメッセージを確認します。 \*CNTRLD オプションを指定して静止を発行した場合は、\*IMMED オプションを指定してコマンドを再発行してください。TIMEOUT 再試行遅延を低く設定して使用した場合は、値を高く設定して要求を再発行してください。

#### AMQ6154 (IBM i)

キュー・マネージャー <insert\_3> が静止しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

キュー・マネージャーが正常に静止されました。

#### 応答

なし。

#### AMQ6158 (IBM i)

SBCS CCSID が見つかりません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、混合 DBCS-SBCS CCSID <insert\_1>に対応する SBCS CCSID を見つけることができません。

#### 応答

ジョブまたはシステムの CCSID を確認して、対応する SBCS があるか調べます。サポートされる文字セットおよび CCSID については、各国語サポートの計画ガイドを参照してください。使用されている CCSID が SBCS に相当するものである場合は、このメッセージが含まれているジョブ・ログを保管し、IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能かどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ6159 (IBM i)

IBM WebSphere MQ ジョブ実行依頼エラーです。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ for IBM i は、ジョブ <insert\_3>を解放できません。

#### 応答

システム管理者に連絡して、ジョブ <insert\_3>を除去してもらってください。\*JOBCTL 権限があることを確認して、やり直してください。

**AMQ6160**

EXPLANATION:

重大度

0: 情報

**AMQ6161**

ACTION:

重大度

0: 情報

**AMQ6162**

INI ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

重大度

20: エラー

説明

MQS.INI ファイルまたはキュー・マネージャー QM.INI ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。

応答

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ6162 (Tandem)**

INI ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

重大度

20: エラー

説明

MQSINI ファイルまたはキュー・マネージャー QMINI ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

応答

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ6162 (Windows)**

構成データの読み取り時にエラーが起きました。

重大度

20: エラー

説明

構成データを読み取っているときにエラーが発生しました。

応答

構成データを変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。構成データを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目

が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ6163**

INI ファイルをロックしているときにエラーが発生しました。

##### **重大度**

10: 警告

##### **説明**

MQS.INI ファイルまたはキュー・マネージャー QM.INI ファイルのロック中にエラーが発生しました。

##### **応答**

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ6163 (Tandem)**

INI ファイルをロックしているときにエラーが発生しました。

##### **重大度**

10: 警告

##### **説明**

MQSINI ファイルまたはキュー・マネージャー QMINI ファイルのロック中にエラーが発生しました。

##### **応答**

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ6163 (Windows)**

構成データのロック中にエラーが起きました。

##### **重大度**

10: 警告

##### **説明**

構成データのロック中にエラーが起きました。

##### **応答**

レジストリーの許可を変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。レジストリーを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ6164**

INI ファイル内にあるはずのスタンザがないか、スタンザにエラーが含まれています。

##### **重大度**

10: 警告

**説明**

MQS.INI ファイルまたは、キュー・マネージャー QM.INI ファイルから予期されたスタンザが欠落しているか、またはスタンザにエラーが含まれています。

**応答**

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ6164 (Tandem)**

INI ファイル内にあるはずのスタンザがないか、スタンザにエラーが含まれています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQSINI ファイルまたは、キュー・マネージャー QMINI ファイルから予期されたスタンザが欠落しているか、またはスタンザにエラーが含まれています。

**応答**

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ6164 (Windows)**

構成データ中に必要なスタンザが欠落しているかまたはエラーが入っています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成データから必要なスタンザが抜けているか、またはスタンザにエラーが含まれています。

**応答**

構成データを変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ6165**

INI ファイルにアクセスできません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQS.INI ファイルまたはキュー・マネージャー QM.INI ファイルへのアクセスは拒否されました。

**応答**

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ6165 (Tandem)**

INI ファイルにアクセスできません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQSINI ファイル、またはキュー・マネージャーの QMINI ファイルへのアクセスが拒否されました。

**応答**

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ6165 (Windows)**

構成データにアクセスできません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成データへのアクセスが拒否されました。

**応答**

構成データの許可を変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ6166**

INI ファイルが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQS.INI ファイル、またはキュー・マネージャーの QM.INI ファイルが欠落しています。

**応答**

INI ファイルに変更を加えていた場合は、以前のファイルをリカバリーして、操作を再試行してください。

**AMQ6166 (Tandem)**

INI ファイルが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQSINI ファイル、またはキュー・マネージャーの QMINI ファイルが欠落しています。

**応答**

INI ファイルに変更を加えていた場合は、以前のファイルをリカバリーして、操作を再試行してください。

**AMQ6166 (Windows)**

構成データの項目が欠落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

構成データの必須項目が欠落しています。

**応答**

構成データのアクセス権を変更している場合は、前の構成データをリカバリーし、操作をやり直してください。

**AMQ6172**

使用されている locale にたいして、コード・セットが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

現行ロケール用のコード・セットを判別できませんでした。使用中のロケールがサポートされていることを確認してください。

**応答**

なし。

**AMQ6173**

コード・セット <insert\_3>の CCSID が見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コード・セット <insert\_3>には、サポートされる CCSID がありません。使用中のロケールがサポートされていることを確認してください。CCSID は、ファイル /var/mqm/conv/table/ccsid.tbl を更新することによって追加できます。

**応答**

なし。

**AMQ6174**

ライブラリー <insert\_3>が見つかりませんでした。

**重大度**

0: 情報

## 説明

動的にロード可能なライブラリー <insert\_3> が見つかりませんでした。このエラーの原因として、以下が考えられます。

- (a) 指定されたパスにライブラリーが存在しない。
- (b) ライブラリーは存在するが、ライブラリーのアーキテクチャーがプロセスのアーキテクチャー (<insert\_5> ビット) と一致しない。
- (c) ライブラリーが存在するが、そのライブラリーには、同じディレクトリーに存在しない他のライブラリーへの依存関係がある。

## 応答

ファイルが存在しているかを確認してください。また、そのファイルが完全修飾となっているか、または適切なディレクトリーにあるかを確認してください。ライブラリーとプロセスのアーキテクチャーが一致していることを確認してください。また、ライブラリーが他のライブラリーに依存しているかどうか確認してください。

### AMQ6174 (UNIX and Linux)

動的にロード可能な共有ライブラリー <insert\_3> が見つかりませんでした。システムは、エラー番号 <insert\_2> とエラー・メッセージ <insert\_4> を戻しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

このメッセージは、UNIX システムに適用されます。共有ライブラリー <insert\_3> が見つかりませんでした。

## 応答

ファイルが存在しているかを確認してください。また、そのファイルが完全修飾となっているか、または適切なディレクトリーにあるかを確認し、ファイル・アクセス権についても確認してください。

### AMQ6175 (AIX)

システムは、共有ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。システムは、エラー番号 <insert\_2> とエラー・メッセージ <insert\_4> を戻しました。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

## 重大度

20: エラー

## 説明

This message applies to AIX systems. ライブラリーに問題があるため、共有ライブラリー <insert\_3> を正しくロードできませんでした。

## 応答

Check the file access permissions and that the file has not been corrupted.

### AMQ6175 (UNIX and Linux)

システムは、共有ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。システムからエラー・メッセージ <insert\_4> が返されました。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。ライブラリーに問題があるため、共有ライブラリー <insert\_3> を正しくロードできませんでした。

## 応答

Check the file access permissions and that the file has not been corrupted.

### AMQ6175 (Windows)

システムは、ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。システムからエラー・メッセージ <insert\_4> が返されました。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、Windows NT および Windows 2000 システムにのみ適用されます。内部エラーのため、動的にロード可能なファイル <insert\_3> を正しくロードできませんでした。IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

ファイルが壊れていないか確認し、その後システムで提供される標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6177 (Windows)

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

エラーの詳細は、<insert\_3>に保管されています。概要については、以下のデータ・セクションを参照してください。システムと共に提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6179

システムは、動的にロードされたライブラリー <insert\_3>内でシンボル <insert\_5> を検出できませんでした。システムは、エラー番号 <insert\_2> とエラー・メッセージ <insert\_4>を戻しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

ライブラリー <insert\_3> にシンボル <insert\_5> が含まれていないか、エクスポートされていません。

## 応答

シンボル名 <insert\_5> が正しいこと、およびライブラリーからエクスポートされていることを確認してください。

### AMQ6179 (UNIX and Linux)

システムは、動的にロードされた共用ライブラリー <insert\_3>内でシンボル <insert\_5> を検出できませんでした。システムからエラー・メッセージ <insert\_4>が返されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。共有ライブラリー <insert\_3> にシンボル <insert\_5> が含まれていないか、エクスポートされていません。

## 応答

シンボル名 <insert\_5> が正しいこと、およびライブラリーからエクスポートされていることを確認してください。

### AMQ6180 (Windows)

デフォルト変換がサポートされません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ は、CCSID <insert\_1> でタグ付けされたストリング・データを CCSID <insert\_2> のデータに変換できません。

## 応答

ccsid.tbl ファイルで指定されたデフォルトの CCSID を調べて、これらの CCSID の間の変換がサポートされていることを確認してください。

### AMQ6182

ccsid.tbl の行 <insert\_1> でエラーが検出されました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

行 <insert\_1> にエラーがあります。行の内容は <insert\_3> です。処理は続行されますが、エラーのある行は無視されます。

## 応答

該当する行を訂正し、このメッセージを出したプログラムまたはコマンドを再実行します。

### AMQ6183

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。失敗したプロセスはプロセス <insert\_1> です。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6184

キュー・マネージャー <insert\_3> で内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

エラーが検出され、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。失敗したプロセスはプロセス <insert\_1> です。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6184 (IBM i)

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> で内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生し、IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。失敗したプロセスはプロセス <insert\_1> です。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ6187

ユーザーは、RestrictedMode キュー・マネージャーに許可されていません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

すべてのユーザーが RestrictedMode application\_group に入っている必要があります。

### AMQ6188 (AIX)

ライブラリーへのエントリー・ポイントであるシンボル 'MQStart' がライブラリー内で見つからなかったため、システムは共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。キュー・マネージャーはこのライブラリーなしで続行します。

## 重大度

20: エラー

## 説明

This message applies to AIX systems. ライブラリーに問題があるため、共有ライブラリー <insert\_3> を正しくロードできませんでした。

## 応答

ライブラリーへのエントリー・ポイントのシンボル「MQStart」が存在し、ライブラリーからエクスポートされていることを確認してください。

### AMQ6188 (UNIX and Linux)

ライブラリーへのエントリー・ポイントであるシンボル 'MQStart' がライブラリー内で見つからなかったため、システムは共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。システムからエラー・メッセージ <insert\_4> が返されました。キュー・マネージャーは、このライブラリーなしで続行されます。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。ライブラリーに問題があるため、共有ライブラリー <insert\_3> を正しくロードできませんでした。

## 応答

ライブラリーへのエントリー・ポイントのシンボル「MQStart」が存在し、ライブラリーからエクスポートされていることを確認してください。

### AMQ6188 (Windows)

dll に問題があるため、システムはライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。errno は <insert\_1> でした。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、Windows NT および Windows 2000 システムにのみ適用されます。動的にロード可能なファイル <insert\_3> が、dll の問題のために正しくロードできませんでした。

## 応答

dll が正しい位置にあること、正しいファイル許可などが指定されていること、および壊れていないことを確認してください。

### AMQ6190 (Windows)

プログラム <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラム <insert\_3> が見つかりません。

**応答**

指定されたプログラムがご使用のシステムで使用可能であるようにしてください。プログラム名が完全修飾でない場合、PATH 環境変数にプログラムが置かれているディレクトリーが含まれていることを確認します。

**AMQ6191 (Windows)**

プログラム <insert\_3> が開始に失敗しました。戻りコード <insert\_1>。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラム <insert\_3> が呼び出されましたが、開始できませんでした。障害理由コードは <insert\_1> です。

**応答**

指定されたプログラムがご使用のシステムで使用可能であること、および十分なシステム・リソースが使用可能であるようにしてください。該当する場合、ユーザーにプログラムを実行する権限があることを確認してください。

**AMQ6192 (Windows)**

IBM WebSphere MQ ユーティリティー

**重大度**

0: 情報

**AMQ6193 (Windows)**

レジストリー項目 <insert\_3> が見つかりませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ for Windows NT および Windows 2000 は、製品のインストール時にレジストリー項目 <insert\_3> を設定しますが、この項目は現在欠落しています。

**応答**

レジストリーが編集された場合は、前のバージョンを復元します。製品が新しくインストールされた場合は、インストールが正常に行われたことを確認してから、必要に応じて製品を再インストールします。

**AMQ6196**

一時 INI ファイル <insert\_3> の処理中にエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

INI ファイルのバックアップの作成中にエラーが発生しました。バックアップ・ファイル <insert\_4> は既に存在しています。

**応答**

<insert\_4> という名前の INI ファイルのバックアップを作成したか、以前の操作が失敗した可能性があります。ファイル <insert\_4> を移動または削除して、操作を再試行してください。INI ファイルを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保管してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ6207 (AIX)**

セグメント・テーブルがいっぱいで、共用メモリー・セグメントを付加できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ はメモリー・セグメントを接続しようとしたのですが、使用可能なセグメント領域はすべて使用中であったため、接続できませんでした。AIX 上の 32 ビット・プログラムは、最大 10 の共用メモリー・セグメントまで接続できます。例えばプログラム・ヒープのアドレス・スペースをさらに予約するなどして、アプリケーションでデータ域のレイアウトを変更した場合、この最大数がさらに削減される可能性があります。

**応答**

接続されるセグメントの数を削減できるかどうかを確認するため、アプリケーションの必要を調べてください。または、アプリケーションを 64 ビット・プログラムとして作成すると、10 個の共用メモリー・セグメントの制限はなくなります。

**AMQ6209**

予期しない非同期シグナル (<insert\_1>: <insert\_3>) が受信され、無視されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

プロセス <insert\_2> が予期しない非同期シグナルを受信し、それを無視しました。これはエラーの原因ではありませんが、シグナルが IBM WebSphere MQ の外部で生成された可能性があるため、シグナルのソースを判別する必要があります。

**応答**

シグナルのソースを判別して、再発を防止します。

**AMQ6212**

C++ 環境が初期化されていないため、ライブラリー <insert\_3> のロードに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定された C++ 共用ライブラリーのロードが試行されました。ただし、現行プロセス用に C++ 環境が初期化されていなかったために試みは失敗しました。

**応答**

アプリケーションが適切な C++ 実行時環境にリンクされているかを確認してください。

**AMQ6218 (AIX)**

認識されない値 <insert\_3> を持つ EXTSHM 変数が検出され、<insert\_4> にリセットされました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

内部キュー・マネージャー制御ブロックにアクセスするプロセスは、AIX Extended Shared Memory モデルを使用する必要があります。そのようなプロセスの開始中に、IBM WebSphere MQ は、設定された EXTSHM 変数に適切な値が含まれていないことを検出しました。この値はリセットされ、プロセスは新しい設定値で続行します。

**応答**

これ以上のアクションは不要です。このメッセージが今後発行されないようにするには、環境の EXTSHM 変数の値を訂正してください。

**AMQ6224 (Tandem)**

The environment variable have not been set up correctly.

**重大度**

10: 警告

**応答**

環境変数が構成ファイルに対応していることを確認してください。

**AMQ6230**

メッセージ <insert\_3> suppressed <insert\_1> times in the last <insert\_4> seconds.

**重大度**

10: 警告

**説明**

メッセージ <insert\_3> が、最後の <insert\_4> 秒の間に <insert\_2> 回発行されましたが、メッセージの最初のインスタンスのみがログに書き込まれました。表示されなかったメッセージには、別のメッセージ引数が含まれていた可能性があります。

**応答**

このメッセージのすべての表示を参照する場合は、キュー・マネージャーの構成で SuppressMessage 属性の定義を変更してください。

**AMQ6232 (UNIX and Linux)**

オペレーティング・システム・ユーザー ID <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたユーザー ID の詳細を検索するための要求が、オペレーティング・システムに対して行われましたが失敗しました。

**応答**

オペレーティング・システムで提供されているツールを使用して、識別されたユーザー ID が存在することを確認してください。ID がない場合は、再作成してください。

**AMQ6233 (UNIX and Linux)**

オペレーティング・システム許可グループ <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたグループの詳細を検索するための要求が、オペレーティング・システムに対して行われましたが失敗しました。

**応答**

オペレーティング・システムで提供されているツールを使用して、識別されたグループが存在することを確認してください。グループがない場合は、再作成してください。

**AMQ6234 (UNIX and Linux)**

不明なキュー・マネージャー名が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドのパラメーターに無効なキュー・マネージャー名 <insert\_3> が指定されました。

**応答**

有効なキュー・マネージャー名を指定して、コマンドを再発行してください。

**AMQ6235 (UNIX and Linux)**

ディレクトリー <insert\_3> がありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたディレクトリーがありません。

**応答**

存在しないディレクトリーを作成するためのオプションを選択して、コマンドを再発行してください。

**AMQ6236 (UNIX and Linux)**

欠落ディレクトリー <insert\_3> が作成されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたディレクトリーがありませんでしたが、作成されました。

**応答**

なし

**AMQ6237 (UNIX and Linux)**

ファイル <insert\_3> が欠落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたファイルがありません。

**応答**

欠落ファイルを作成するためのオプションを選択して、コマンドを再発行してください。

**AMQ6238 (UNIX and Linux)**

欠落ファイル <insert\_3> が作成されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたファイルがありませんでしたが、作成されました。

**応答**

なし

**AMQ6239 (Windows, UNIX and Linux)**

ファイル・システムの場所 <insert\_3> にアクセスしようとしたますが、許可が拒否されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

識別されたファイル・システム・オブジェクトを照会しようとしたますが、発行されたコマンドにそのオブジェクトへのアクセス権限がなかったため、照会が失敗しました。

**応答**

オブジェクトに対する権限と、コマンドを実行しているユーザーの権限を確認して、コマンドを再発行してください。

**AMQ6240 (UNIX and Linux)**

このコマンドを実行するには、オペレーティング・システムのスーパーユーザーでなければなりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権を持つユーザーとしてログオンしている必要があります。

**応答**

適切なユーザーでログインして、コマンドを再発行してください。

**AMQ6241 (UNIX and Linux)**

ファイル・システム・オブジェクト <insert\_3> はシンボリック・リンクです。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファイル・システムを検査中に、シンボリック・リンクであるオブジェクトが見つかりました。

**応答**

これはエラーではありませんが、シンボリック・リンクが予期されていたこと、およびシンボリック・リンクの宛先が正しいことを確認する必要があります。

**AMQ6242 (UNIX and Linux)**

<insert\_3>の所有権が正しくありません。 現行 (<insert\_1>) 予想 (<insert\_2>)

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファイル・システム・オブジェクト <insert\_3> は、uid <insert\_1> を持つユーザーによって所有されていますが、uid <insert\_2> を持つユーザーによって所有されていることが予期されていました。

**応答**

オペレーティング・システムのコマンドを使用して所有権を訂正するか、または 誤った所有権を修正するためのオプションを選択してコマンドを再発行してください。

**AMQ6243 (UNIX and Linux)**

<insert\_3>のグループ所有権が正しくありません。 現行 (<insert\_1>) 予想 (<insert\_2>)

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファイル・システム・オブジェクト <insert\_3> は、gid <insert\_2> を持つグループによって所有されていることが予期されていましたが、gid <insert\_1> を持つグループによって所有されています。

**応答**

オペレーティング・システムのコマンドを使用して所有権を訂正するか、または 誤った所有権を修正するためのオプションを選択してコマンドを再発行してください。

**AMQ6244 (UNIX and Linux)**

オブジェクト <insert\_3>に対する許可が正しくありません。 現行 (<insert\_4>) 予想 (<insert\_5>)

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファイル・システム・オブジェクト <insert\_3> のファイル許可が間違っています。

**応答**

オペレーティング・システムのコマンドを使用して所有権を訂正するか、または 誤った所有権を修正するためのオプションを選択してコマンドを再発行してください。

**AMQ6245 (UNIX and Linux)**

ファイル <insert\_4> error <insert\_2>に対するシステム・コール <insert\_3> の実行中にエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファイル <insert\_4> に対するシステム呼び出し <insert\_3> の実行が失敗し、エラー・コード <insert\_2> が戻されました。

**応答**

オペレーティング・システム・エラー・コード <insert\_1> を使用して障害の原因を調べ、コマンドを再発行してください。

**AMQ6251 (UNIX and Linux)**

システムは、共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。 キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。 共用ライブラリー <insert\_3> は、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであるため、ロードに失敗しました。 <insert\_2> ビット・ライ

ブラリーが必要です。IBM WebSphere MQ は、<insert\_4> または <insert\_5> という名前の <insert\_2> ビット・ライブラリーを見つけようとしたが、失敗しました。次のメッセージに、元の失敗の詳細があります。

#### 応答

<insert\_2> ビット・ライブラリーの名前を指定してください。

#### AMQ6252 (UNIX and Linux)

システムは、共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。共用ライブラリー <insert\_3> は、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであるため、ロードに失敗しました。<insert\_2> ビット・ライブラリーが必要です。IBM WebSphere MQ が <insert\_4> という名前の <insert\_2> ビット・ライブラリーを検出してロードしましたが、これも失敗し、システムはエラー・メッセージ <insert\_5> を戻しました。以下のメッセージは、元の障害の詳細を示しています。

#### 応答

<insert\_2> ビット・ライブラリーの名前を指定してください。

#### AMQ6253 (UNIX and Linux)

システムは、共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。共用ライブラリー <insert\_3> は、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであるため、ロードに失敗しました。<insert\_2> ビット・ライブラリーが必要です。IBM WebSphere MQ が、<insert\_4> という名前の <insert\_2> ビット・ライブラリーを見つけてロードしようとしたことに注意してください。最初のライブラリーは、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであり、2 番目のライブラリーは <insert\_2> ビット・ライブラリーですが、システムがエラー・メッセージ <insert\_5> を戻し、ロードに失敗しました。以下のメッセージは、元の障害の詳細を示しています。

#### 応答

<insert\_2> ビット・ライブラリーの名前を指定してください。

#### AMQ6254 (UNIX and Linux)

システムは、代わりに共用ライブラリー <insert\_3>、ライブラリー <insert\_4> を動的にロードできませんでした。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。共用ライブラリー <insert\_3> は、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであるため、ロードに失敗しました。<insert\_2> ビット・ライブラリーが必要です。IBM WebSphere MQ は、<insert\_4> という名前の <insert\_2> ビット・ライブラリーを正常に見つけてロードしました。

#### 応答

<insert\_2> ビット・ライブラリーの名前を指定するか、適切な場所にライブラリーを配置します (代わりにシンボリック・リンクを使用することもできます)。/var/mqm/exits; /var/mqm/exits64 の 64 ビット・ライブラリー。

#### AMQ6255 (UNIX and Linux)

システムは、共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

#### 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。共用ライブラリー <insert\_3> は、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであるため、ロードに失敗しました。 <insert\_2> ビット・ライブラリーが必要です。次のメッセージに、元の失敗の詳細があります。

## 応答

<insert\_2> ビット・ライブラリーの名前を指定してください。

### AMQ6256 (Windows)

システムは、共用ライブラリー <insert\_3> を動的にロードできませんでした。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージは、Windows システムに適用されます。共用ライブラリー <insert\_3> は、おそらく <insert\_1> ビット・ライブラリーであるため、ロードに失敗しました。 <insert\_2> ビット・ライブラリーが必要です。IBM WebSphere MQ が <insert\_4> という名前の <insert\_2> ビット・ライブラリーを見つけようとしたのですが、失敗しました。次のメッセージに、元の失敗の詳細があります。

## 応答

<insert\_2> ビット・ライブラリーの名前を指定してください。

### AMQ6257

メッセージ番号 (<insert\_3>) に対してメッセージ抑止が使用可能になりました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

メッセージには、<insert\_1> 抑止間隔内で繰り返される項目が抑止されるメッセージ ID のリストが含まれています。

## 応答

これらのメッセージをすべて表示する場合は、キュー・マネージャーの構成で SuppressMessage 属性の定義を変更してください。

### AMQ6258

メッセージ番号 (<insert\_3>) に対してメッセージの除外が有効になっています。

## 重大度

0: 情報

## 説明

メッセージに、除外されたメッセージ ID のリストが含まれています。これらのメッセージをエラー・ログに書き込む要求は廃棄されます。

## 応答

これらのメッセージを表示する場合は、キュー・マネージャーの構成で ExcludeMessage 属性の定義を変更してください。

### AMQ6259

メッセージ <insert\_3> を <insert\_4> にすることはできません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

メッセージ <insert\_3> は除外または抑止できませんが、キュー・マネージャーの ExcludeMessage または SuppressMessage 構成で指定されました。キュー・マネージャーは続行しますが、このメッセージを抑止または除外する要求は無視されます。

## 応答

キュー・マネージャー構成を更新して、示されたメッセージ ID を除去してください。

### AMQ6260

ヘルプ・トピックが見つかりません

**重大度**

10: 警告

**説明**

要求されたヘルプ・トピックが見つかりませんでした。

詳細については、IBM WebSphere MQ の資料を参照してください。

**応答**

IBM WebSphere MQ InfoCenter がインストールされていることを確認してください。

**AMQ6261 (UNIX and Linux)**

共用ライブラリー <insert\_3>を動的にロードしようとして例外が発生しました。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このメッセージは、UNIX and Linux システムに適用されます。共用ライブラリー <insert\_3>を動的にロードしようとして、例外番号 <insert\_1> name <insert\_4>が発生しました。

**応答**

共用ライブラリーが破損していないか確認してください。共用ライブラリーに初期化指定子関数が含まれる場合、それらが問題の原因ではないことを確認し、予想される関数プロトタイプに準拠していることを確認してください。

**AMQ6261 (Windows)**

DLL <insert\_3>をロードしようとして例外が発生しました。キュー・マネージャーは、このモジュールなしで続行されます。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このメッセージは Windows システムにのみ適用されます。DLL <insert\_3>をロードしようとして、例外番号 <insert\_1> error <insert\_4>が発生しました。

**応答**

DLL が破損していないか確認してください。DLL に初期化指定子関数が含まれる場合、それらが問題の原因ではないことを確認し、予想される関数プロトタイプに準拠していることを確認してください。

**AMQ6263**

使用法: dspmqras [-t CollectionType ]

**重大度**

20: エラー

**応答**

なし。

**AMQ6266 (Windows)**

共用トレース・データにアクセス中にエラー <insert\_1> が発生しました。 <insert\_3>

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ 共通サービス・モジュールは、マシンまたはセッションにおけるすべてのプロセス間でトレースなどのさまざまな機能を調整できるようにするために、名前付き共用メモリーの領域にアクセスする必要があります。

サーバー・インストールの場合、この領域は IBM WebSphere MQ サービス・プロセス (amqsvc.exe) によって作成されている必要があるため、グローバルに共有されます。クライアントのみのインストールの場合、または IBM WebSphere MQ サービスが実行されていない場合は、このセッション専用で作成する必要があります。

この失敗は、指定された共有メモリー (通常は mqm.SHRSEG.0) が、IBM WebSphere MQ プロセスからのアクセスが拒否されるような方法で、システム上の別のプロセスによって作成されたことを意味します。

#### 応答

マシン上のどのプロセスが名前付き共有メモリーを作成したかを調査し、それが IBM WebSphere MQ プロセスまたは IBM WebSphere MQ アプリケーションである場合には、他のユーザーが接続できないように許可が設定されている理由を調査します。

このエリアを作成したプロセスが IBM WebSphere MQ に関連していない場合は、この具体的な名前付きエリアを作成した理由を調べてください。

#### AMQ6271

64 ビット JVM を検出しましたが、リソース・リカバリー・サービス・アダプターは使用していません

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

64 ビット・モードでサポートされる唯一の zOS アダプターは、リソース・リカバリー・サービス・アダプターです。

#### 応答

com.ibm.mq.adapter システム・プロパティを指定しないでください

#### AMQ6272

com.ibm.mq.adapter が <insert\_0> に設定されましたが、これは無効です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

このアダプターは、この環境では無効です。

#### 応答

com.ibm.mq.adapter を有効な値に設定してください。

#### AMQ6276

グループ名 <insert\_3> size <insert\_1> は、<insert\_4> に使用するには長すぎます。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_4> は、グループ名 <insert\_3> による使用を許可されていません。これは、グループ mqm のメンバーであるユーザーには影響しません。

#### 応答

生成された出力ファイルを保存し、IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ6277

オブジェクト '\$4' の作成中にグループ <insert\_3> の SID を作成したときに、関数名 <insert\_5> が <insert\_1> を戻しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_4> は、グループ名 <insert\_3> による使用を許可されていません。これは、グループ mqm のメンバーであるユーザーには影響しません。

#### 応答

生成された出力ファイルを保存し、IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant))

を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ6280

使用法: **amqxdbg** ([-x] (-i pid[tid] | -p program\_name) | -s)

#### 重大度

00: 情報

#### 説明

ユーザーが **amqxdbg** コマンドに誤った引数のセットを指定しました。

```
-i - Request a program FDC from the process identified by
    'pid' and 'tid'.
-p - Request a program FDC from the process identified by the
    supplied program name. To match more than one program name
    the wildcard character '*' may be used at the end of the
    'program_name' specification.
-x - Delete the entry identified by the -i or -p parameters
-s - Show the status of debug entries
```

#### 応答

適切な引数を使用してコマンドを再発行してください。

#### AMQ6281

デバッグ・エントリーが定義されました。

#### 重大度

00: 情報

#### 説明

**amqxdbg** コマンドは正常に完了し、デバッグ・エントリーが追加されました。

#### 応答

なし。

#### AMQ6282

デバッグ・エントリーが削除されました。

#### 重大度

00: 情報

#### 説明

**amqxdbg** コマンドは正常に完了し、デバッグ・エントリーが削除されました。

#### 応答

なし。

#### AMQ6283

デバッグ・エントリーが見つかりません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

識別されたデバッグ・エントリーは見つからず、削除できませんでした。

#### 応答

なし。

#### AMQ6284

デバッグ・エントリーを定義できませんでした。エントリー数の上限に達しています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

**amqxdbg** コマンドがデバッグ・エントリーを追加しようとしたましたが、定義可能なエントリー数の上限に達したため、追加できませんでした。

**応答**

「-x」 オプションを使用して、不要となったデバッグ・エントリーを削除し、コマンドを再発行してください。

**AMQ6285**

プロセス <insert\_1> が存在しません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

**amqxdbg** コマンドはデバッグ・エントリーを追加しようとしたのですが、プロセス ID <insert\_1> のプロセスが実行されていないため、追加できませんでした。

**応答**

指定するプロセス ID を確認し、コマンドを再発行してください。

**AMQ6286**

ロケーション <insert\_3> にあるファイル・システムは読み取り専用です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ファイル・システムへ書き込もうとしたのですが、読み取り専用であるため、失敗しました。ロケーションの指定に誤りがあったか、またはファイル・システムが正しく構成されていないことが原因であると考えられます。

**応答**

指定したロケーションを識別し、正しいことを確認してください。ファイル・システムが正しく構成されていることを確認してください。

**AMQ6287**

IBM WebSphere MQ V< insert\_5>。

**重大度**

00: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ システム情報:

```
Host Info      :- <insert_3>
Installation   :- <insert_4>
Version       :- <insert_5>
```

**応答**

なし。

**AMQ6290**

不明なインストール <insert\_3> が検出されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プログラム <insert\_4> の実行中に、IBM WebSphere MQ は、環境の構成のために、リソースが <insert\_3> からロードされたことを検出しました。MQ は、これらのリソースのインストール名を判別できませんでした。不明なインストール済み環境からのリソースを使用してプログラムが実行されている場合、プログラムは正常に完了できません。

**応答**

プログラム <insert\_4> が必要とするすべてのリソースが、正しくインストールされたインストール済み環境からロードされるように環境を構成します。

**AMQ6290 (UNIX)**

不明なインストール・パス <insert\_3> が検出されました。

**重大度**

20: エラー

## 説明

プログラム <insert\_4>の実行時に、MQ は、そのリソースが <insert\_3>からロードされたことを検出しました。MQ は、<insert\_5> からこれらのリソースのインストール名と ID を判別できませんでした。不明なインストール済み環境からのリソースを使用してプログラムが実行されている場合、プログラムは正常に完了できません。

## 応答

<insert\_5> が存在し、'Path=<insert\_3>' のインストール・エントリーがあることを確認してください。'<insert\_5> が破壊されている場合は、**crtmqinst -r** を実行してファイルを再構成してください。

## AMQ6291

IBM WebSphere MQ プロセスの初期化中にエラー <insert\_1> が発生しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

プロセスの初期化中に予期しないエラーが検出されました。プロセスは即時に終了します。エラーは <insert\_1> でした。MQ エラー記録ルーチンが呼び出された可能性があります。

## 応答

システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が解決するまで、どのファイルも破棄しないでください。

## AMQ6292

キュー・マネージャーは別のインストール済み環境に関連付けられています。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーに接続するためのコマンドが発行されましたが、コマンド発行元のインストール済み環境が、そのキュー・マネージャーに関連付けられているインストール済み環境と一致しません。接続試行は失敗しました。

## 応答

キュー・マネージャーに関連付けられているインストール済み環境からコマンドを再発行してください。

## AMQ6293

<insert\_3> という名前のファイルが既に存在しているため、シンボリック・リンクを作成できません。エラー番号: <insert\_1>。

## 重大度

20: エラー

## 説明

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクを作成しようとしたのですが、同じ名前のファイルが既に存在するため、シンボリック・リンクを作成できませんでした。

## 応答

<insert\_3> という名前のファイルが誤って作成されたかどうかを確認してください。エラーが発生していた場合は、ファイルを削除してからコマンドを再発行してください。エラー番号から、失敗の原因についての詳細がわかる可能性があります。

## AMQ6294

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクの作成に失敗しました。エラー番号: <insert\_1>。

## 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクを作成しようとしたのですが、シンボリック・リンクを作成できませんでした。

#### 応答

失敗のエラー番号から、シンボリック・リンクを作成できなかった理由についての詳細がわかる可能性があります。問題を訂正してから、コマンドを再発行してください。

#### AMQ6295

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクを除去できません。エラー番号: <insert\_1>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクを除去しようとしたのですが、シンボリック・リンクを除去できませんでした。

#### 応答

失敗のエラー番号から、シンボリック・リンクを削除できなかった理由についての詳細がわかる可能性があります。問題を訂正してから、コマンドを再発行してください。

#### AMQ6296

ファイル <insert\_3> はシンボリック・リンクではないため、除去できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクを除去しようとしたのですが、ファイルがシンボリック・リンクではなかったために除去されませんでした。

#### 応答

シンボリック・リンクの定義を確認し、正しくない場合は、ファイルを削除してから、コマンドを再発行してください。

#### AMQ6297

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクは除去できません。ターゲット <insert\_4> が、予期されるターゲット <insert\_5> と一致しません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_3> という名前のシンボリック・リンクを除去しようとしたのですが、シンボリック・リンク <insert\_4> のターゲットが予期されたターゲット <insert\_5> と一致しないため、除去されませんでした。

#### 応答

シンボリック・リンクの定義を確認し、正しくない場合は、シンボリック・リンクを手動で削除してから、コマンドを再発行してください。

#### AMQ6299

キュー・マネージャーのディレクトリー構造を作成または検査中にエラーが発生しました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーの作成、開始、または削除中、ファイルまたはディレクトリーを作成あるいは検査しているときに、エラーが発生しました。キュー・マネージャーがパス <insert\_3> にアクセスできませんでした。

#### 応答

なし。

#### AMQ6666 (IBM i)

必要な IBM WebSphere MQ システム・プロファイルにアクセスできません。

#### 重大度

40: 停止エラー

## 説明

必要な IBM WebSphere MQ システム・プロファイル QMQM または QMQMADM、またはその両方が見つかからないか、使用不可になっています。IBM WebSphere MQ プロファイルが存在し、システム上で使用可能になっていないと、コマンドの処理を続行できません。メジャー・エラー・コードは <insert\_3>、マイナー・エラー・コードは <insert\_4> です。メジャー・エラー・コードとその意味は次の通りです。\*DISABLED-ユーザー・プロファイルが使用不可になっています。\*PWDEXP-ユーザー・プロファイルのパスワードの有効期限が切れています。\*EXIST-ユーザー・プロファイルが存在していません。これらのエラー・コードのどれも示されていない場合、メジャー・エラー・コードには例外 ID が含まれています。マイナー・エラー・コードは、アクセスできないユーザー・プロファイルを示します。

## 応答

DSPUSRPRF コマンドを使用して、QMQM と QMQMADM の両方のプロファイルが存在し、両方とも使用可能であることを確認するか、IBM WebSphere MQ システム管理者に連絡してください。

### AMQ6708

ロケーション <insert\_3> で新規ログ・ファイルをフォーマットしているときに、ディスク満杯状態が検出されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーが、ディレクトリー <insert\_3> 内の新しいログ・ファイルをフォーマットしようとしてしました。このディレクトリーを含むドライブまたはファイル・システムに、新規ログ・ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがありませんでした。

## 応答

ログ・ファイル用に使用できるスペースの量を増やし、要求を再実行してください。

### AMQ6708 (IBM i)

新規ログ・ファイルのフォーマット時にディスク・フル条件が検出されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーが、ディレクトリー <insert\_3> 内の新しいログ・ファイルをフォーマットしようとしてしました。このディレクトリーを含むドライブまたはファイル・システムに、新規ログ・ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがありませんでした。

## 応答

ログ・ファイル用に使用できるスペースの量を増やし、要求を再実行してください。

### AMQ6709

キュー・マネージャーのログが満杯です。

## 重大度

20: エラー

## 説明

このメッセージが出されるのは、ログが満杯のためログ・レコードの書き込みが拒否された場合です。キュー・マネージャーは、この問題を解決しようとします。

## 応答

メッセージ通信量が異常に多いときに、この状態が起こる場合があります。ただし、ログが定期的に満杯になる場合は、ログのサイズを大きくすることも検討してください。キュー・マネージャー構成ファイル内の値を変更することによって、ログ・ファイルの数を増やすことができます。そのあとで、キュー・マネージャーを停止し再始動してください。また、ログ・ファイル自体を大きくする必要がある場合は、キュー・マネージャーを削除し再作成することが必要になります。

### AMQ6710

キュー・マネージャーがディレクトリー <insert\_3> にアクセスできません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーは、ログのディレクトリー <insert\_3> にアクセスできませんでした。原因としては、そのディレクトリーが存在していないか、キュー・マネージャーに十分な許可がないことが考えられます。

## 応答

該当ディレクトリーが存在すること、およびキュー・マネージャーにそのディレクトリーを読み書きする許可があることを確認してください。キュー・マネージャー内の LogPath 属性が、目的のログ・パスに一致していることを確認してください。

### AMQ6767

ログ・ファイル <insert\_3> をオープンできませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

ログ・ファイル <insert\_3> をオープンできませんでした。理由としては、該当ファイルが存在しないか、キュー・マネージャーがそのファイルをオープンする許可を拒否されたか、そのファイルの内容に誤りがあることが考えられます。

## 応答

キュー・マネージャーを始動するためにそのログ・ファイルが必要な場合は、そのログ・ファイルが存在すること、およびキュー・マネージャーがそのファイルの読み書きをできることを確認してください。メディア・イメージからオブジェクトを再作成するためにそのログ・ファイルが必要であり、しかもその必要なログ・ファイルのコピーがない場合は、そのオブジェクトを再作成する代わりに削除してください。

### AMQ6774

ログ・ファイル <insert\_3> に、要求されたログ・レコードが含まれていませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

ログ・ファイル <insert\_3> には、LSN が <insert\_4> であるログ・レコードが含まれていません。これは、ログ・ファイル番号が折り返され、ログ・ファイル名 <insert\_3> が新しいファイルによって再利用されたためです。一度、ログ・ファイル名が再使用されると、この名前を使用するために以前のバージョンのファイルのデータにアクセスすることは不可能です。このログ記録を要求する操作を完了することはできません。

### AMQ6782

ログ・ファイル番号は折り返されました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

フォーマットされた各ログ・ファイルには、ファイル名の一部になる番号を割り振られます。番号は順番に割り振られ、7桁を持ち、最大 1000 万の異なるログ・ファイル名があります。すべての使用可能な番号が割り振られると、キュー・マネージャーは再度ゼロから番号を割り振り始めます。ファイル番号が再割り振りされると、同じ番号に割り振られた以前のログ・ファイルのデータにアクセスすることはできません。ログ・シーケンス番号 <insert\_3> で折り返されたファイル番号。

## 応答

すべての IBM WebSphere MQ オブジェクトのメディア・イメージを定期的に作成する必要があります。再作成するために必要なすべてのオブジェクトのメディア・イメージが、ログ・ファイル 1000 万個を超えないようにしてください。

### AMQ6901 (IBM i)

IBM WebSphere MQ (IBM i の場合)

### AMQ6902 (IBM i)

IBM WebSphere MQ for IBM i - サンプル

**AMQ6903 (IBM i)**

インストールまたはアンインストールが失敗しました。IBM WebSphere MQ リソースはまだアクティブです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ の前のインストール済み環境からの IBM WebSphere MQ リソースがまだアクティブであるため、IBM WebSphere MQ のインストールまたはアンインストールが失敗しました。この失敗は、IBM WebSphere MQ の前のインストールからのキュー・マネージャーがまだ実行中であるか、またはアクティブ・ジョブを持っていることを示している可能性があります。

**応答**

WRKSBS コマンドおよび ENDSBS コマンドを使用して、IBM WebSphere MQ の以前のインストール済み環境からのすべてのキュー・マネージャーが静止していること、および QMQM サブシステムがアクティブでないことを確認してください。詳しくは、「IBM WebSphere MQ for IBM i スタートアップ・ガイド」のインストールに関するセクションを参照してください。

**AMQ6904 (IBM i)**

以前のリリースがインストールされているため、IBM WebSphere MQ for IBM i のインストールが失敗しました。

**説明**

IBM WebSphere MQ for IBM i の一部のリリースでは、新しいリリースをインストールする前にマイグレーションする必要があります。

**応答**

現在の IBM WebSphere MQ 情報を保持したい場合は、マイグレーション・プロセスをステップスルーする必要があります。「スタートアップ・ガイド」を参照してください。

現在の IBM WebSphere MQ 情報を保存したくない場合は、インストールを再試行する前に IBM WebSphere MQ の現行バージョンを除去してください。

**AMQ6905 (IBM i)**

終了する <insert\_3> 新規 IBM WebSphere MQ ジョブ、および現在終了中の <insert\_4> IBM WebSphere MQ ジョブを検出しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ が削除または更新される可能性があるため、ライブラリー QMQM に対するロックを持つジョブは終了します。

**応答**

なし。

**AMQ6906 (IBM i)**

<insert\_3> 個のジョブがまだ終了中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ジョブ・レポートがタイムアウトの後で「すでに削除中です」の状態を報告しています。

**応答**

システムの負荷が高い場合は、コマンド CALL QMQM/AMQIQES4 を再発行して、IBM WebSphere MQ リソースを使用しているジョブの削除を試行します。このメッセージが再度出される場合は、コマンド WRKOBJLCK をライブラリー QMQM に発行して、削除されていないジョブを判別し、それらを手作業で削除してください。

**AMQ6907 (IBM i)**

OS/400 での IBM WebSphere MQ 前提条件 PTF がすべてインストールされています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ6908 (IBM i)**

プログラム <insert\_3> の IBM WebSphere MQ 前提条件 PTF <insert\_4> がインストールされていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

PTF <insert\_3>-<insert\_4> は、「永続的に適用済み」「一時的に適用済み」または「置き換え済み」の状態です。システムにインストールされていません。IBM WebSphere MQ のインストールは続行されますが、IBM WebSphere MQ を開始する前に PTF をインストールする必要があります。

**応答**

GO CMDPTF コマンドを使用して、必要な PTF <insert\_3>-<insert\_4> を注文して適用するコマンドを表示します。

**AMQ6909 (IBM i)**

ユーザー・スペースのリカバリーに失敗しました。IBM WebSphere MQ が実行中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ が実行中であったため、ユーザー・スペースをリカバリーしようとした結果、失敗しました。

**応答**

IBM i の IBM WebSphere MQ を静止して、再試行してください。「IBM WebSphere MQ for IBM i スタートアップ・ガイド」の「IBM WebSphere MQ の静止」のセクションを参照してください。

**AMQ6910 (IBM i)**

キュー・マネージャーの静止の試みに失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

現行ジョブがライブラリー QMQM をロックしているために、キュー・マネージャーを静止する試みは正常に実行されませんでした。

**応答**

現行ジョブをサインオフし、再度サインオンしてから、キュー・マネージャーの静止を再度試みてください。「IBM WebSphere MQ for IBM i スタートアップ・ガイド」の「IBM WebSphere MQ の静止」のセクションを参照してください。

**AMQ6911 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ 静止が RCDMQMIMG を実行しています。完了までに時間がかかる場合があります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ 静止は、すべてのオブジェクトに対してオブジェクト・イメージ記録 (RCDMQMIMG) を実行しています。完了までに時間がかかる場合があります。

**応答**

なし。

**AMQ6912 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Java Messaging および Web Services

**AMQ6913 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ Java Messaging および Web Services

**AMQ6914 (IBM i)**

PTF の適用に失敗しました。IBM WebSphere MQ リソースがアクティブのままです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ インストールに PTF を適用しようとしたのですが、IBM WebSphere MQ リソースがまだアクティブであるために失敗しました。この障害は、1 つ以上のキュー・マネージャーが完全に静止していないか、一部の IBM WebSphere MQ リソースが解放されていないか、一部の IBM WebSphere MQ ジョブがまだ実行中であるか、または IBM WebSphere MQ サブシステムがまだアクティブであることを示している可能性があります。

**応答**

ENDMQM コマンドに ENDCCTJOB(\*YES) を指定して使用することにより、すべてのキュー・マネージャーが完全に静止していることを確認します。WRKSBS コマンドおよび ENDSBS コマンドを使用して、すべての IBM WebSphere MQ サブシステム (QMOM サブシステムを含む) がアクティブでないことを確認してください。PTF 適用アクションを繰り返します。ライセンス・プログラム削除 (DLTLICPGM) はこの状態の回避手段にはならないことに注意してください。なぜなら、考えられる原因として挙げた上記項目の検査が、IBM WebSphere MQ インストールを削除する前にも行われるからです。

**AMQ6915 (IBM i)**

PTF の除去に失敗しました。IBM WebSphere MQ リソースがアクティブのままです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ インストールから PTF を除去しようとしたのですが、IBM WebSphere MQ リソースがまだアクティブであるために失敗しました。この障害は、1 つ以上のキュー・マネージャーが完全に静止していないか、一部の IBM WebSphere MQ リソースが解放されていないか、一部の IBM WebSphere MQ ジョブがまだ実行中であるか、または IBM WebSphere MQ サブシステムがまだアクティブであることを示している可能性があります。

**応答**

ENDMQM コマンドに ENDCCTJOB(\*YES) を指定して使用することにより、すべてのキュー・マネージャーが完全に静止していることを確認します。WRKSBS コマンドおよび ENDSBS コマンドを使用して、すべての IBM WebSphere MQ サブシステム (QMOM サブシステムを含む) がアクティブでないことを確認してください。PTF 除去アクションを繰り返します。ライセンス・プログラム削除 (DLTLICPGM) はこの状態の回避手段にはならないことに注意してください。なぜなら、考えられる原因として挙げた上記項目の検査が、IBM WebSphere MQ インストールを削除する前にも行われるからです。

**AMQ6988**

yes

**重大度**

0: 情報

**AMQ6988 (IBM i)**

はい

**AMQ6989**

no

**重大度**

0: 情報

**AMQ6989 (IBM i)**

いいえ

**AMQ6992 (IBM i)**

プログラム <insert\_3> パラメーター・エラーです。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ for IBM i プログラム <insert\_3> のパラメーター数が正しくないか、パラメーター値にエラーがあります。

#### 応答

この問題の詳細については、DSPJOBLOG コマンドを使用して、ジョブ・ログを表示してください。

#### AMQ6993 (IBM i)

プログラム <insert\_3> が異常終了しました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ for IBM i プログラム <insert\_3>が異常終了しています。

#### 応答

ジョブまたはサブシステムの異常終了の原因については、DSPJOBLOG コマンドを使用してジョブ・ログを表示してください。エラーを修正して要求を再試行してください。

#### AMQ6994 (Windows)

5724-H72 (C) Copyright IBM Corp. 1994, 2024. ALL RIGHTS RESERVED.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

なし。

#### 応答

なし。

#### AMQ6995 (IBM i)

XCSFFST が呼び出されました。ジョブ・ログを調べてください。

#### 重大度

0: 情報

#### AMQ6998 (IBM i)

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ for IBM i は、予期しないエラーを診断しています。

#### 応答

ジョブ・ログを保存し、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) ( [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ( [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ6999 (IBM i)

内部 IBM WebSphere MQ エラーが発生しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM WebSphere MQ が内部障害を検出しましたが、リカバリーできませんでした。

#### 応答

WRKPRB を使用して、問題が作成されたかどうかを調べてください。問題が作成された場合は、その問題 ID を記録し、QPSRVDMP、QPJOBLOG、および QPDSPJOB ファイルを保管してください。問題が作成されていない場合は、ジョブ・ログを保管してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の [IBM WebSphere MQ サポート Web ページ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)

の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ7000-7999: WebSphere MQ 製品

### AMQ7001

キュー・マネージャーの作成のために指定された場所が無効です。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーを作成するディレクトリーが無効です。ディレクトリーが存在しないか、または権限の問題がある場合があります。

#### 応答

この場所はマシンの INI ファイルで指定されています。ファイルを修正して、要求をもう一度実行依頼してください。

### AMQ7001 (Windows)

キュー・マネージャーの作成で指定した位置が正しくありません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーを作成するディレクトリーが正しくありません。ディレクトリーが存在しないか、または権限の問題がある場合があります。

#### 応答

位置は、構成データに指定されています。構成データを訂正して再度要求をやり直してください。

### AMQ7002

ファイルの操作中にエラーが起きました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー・ファイルを作成または削除しようとしていた時に、内部エラーが起きました。このエラーの原因としては、ディスク上のスペースが不足しているか、基礎となっているファイル・システムに対する許可に問題があることが考えられます。

#### 応答

問題判別の手順にしたがって、エラーの原因となったファイルを識別してください。例えば、FFST ファイルがあるかどうかを検査します。このファイルは、エラーの原因となるキュー・マネージャー・ファイルを識別する場合があります。また、ユーザーがそのファイルを作成、名前変更、または削除した場合に、このエラーが起る可能性もあります。ファイル・システムのエラーを修正して、もう一度実行要求してください。

### AMQ7002 (Windows)

ファイルの操作中にエラーが起きました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー・ファイルを作成または削除しようとしていた時に、内部エラーが起きました。

ファイルの削除が失敗した場合、このエラーの一般的な原因は、Windows エクスプローラーまたはウィルス・チェッカーなどの非 MQ プロセスによるファイルへのアクセスです。削除できないオブジェクトがディレクトリーである場合は、非 MQ プロセスがそのディレクトリーまたはいずれかのサブディレクトリーにあるファイルにアクセスしている可能性があります。

このエラーの原因としては、ディスク上のスペースが不足しているか、基礎となっているファイル・システムに対する許可に問題があることも考えられます。

## 応答

問題判別の手順にしたがって、エラーの原因となったファイルを識別してください。例えば、FFST ファイルがあるかどうかを検査します。このファイルは、エラーの原因となるキュー・マネージャー・ファイルを識別する場合があります。また、ユーザーがそのファイルを作成、名前変更、または削除した場合に、このエラーが起こる可能性もあります。ファイル・システムのエラーを修正して、もう一度実行要求してください。

### AMQ7005

キュー・マネージャーは実行中です。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーが停止していることを必要とするアクションを実行しようとしたのですが、キュー・マネージャーは現在実行中です。現在実行中のキュー・マネージャーを、削除または始動しようとした可能性があります。

## 応答

キュー・マネージャーが停止していることが必要な場合は、キュー・マネージャーを停止し、失敗したコマンドを再度実行依頼してください。

### AMQ7006

ini ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> から始まるスタンザに属性 <insert\_5> がありません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

構成ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> で始まる <insert\_4> スタンザに、必要な <insert\_5> 属性がありません。

## 応答

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

### AMQ7006 (Windows)

構成データから属性 <insert\_5> が欠落しています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

構成データの <insert\_4> スタンザに、必要な <insert\_5> 属性がありません。

## 応答

構成データの内容を調べ、操作をやり直してください。

### AMQ7008

キュー・マネージャーがすでに存在します。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

すでに存在しているキュー・マネージャーを作成しようとした。

## 応答

誤ったキュー・マネージャー名を指定した場合は、その名前を訂正し、要求を再度実行依頼してください。

### AMQ7010

キュー・マネージャーがありません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

存在しないキュー・マネージャーに対してアクションを実行しようとした。誤ったキュー・マネージャー名を指定した可能性があります。

**応答**

誤った名前を指定した場合は、その名前を訂正し、コマンドを再度実行してください。指定したキュー・マネージャーを作成する必要がある場合は作成してから、コマンドを再度実行してください。

**AMQ7011**

キュー・マネージャー・ファイルは完全に削除されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーを削除しているときに、あるファイルまたはディレクトリーを削除しようとしたときにエラーが発生しました。キュー・マネージャーは、完全に削除されていない可能性があります。

**応答**

問題判別手順に従ってファイルまたはディレクトリーを識別し、キュー・マネージャーの削除を完了してください。

**AMQ7012**

指定したトリガー間隔が無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

トリガー間隔として無効な値を指定しました。この値は、ゼロより小さくはならず、999 999 999 より大きくはなりません。

**応答**

値を訂正し、要求を再度実行依頼してください。

**AMQ7013**

指定された送達不能キューの名前にエラーがあります。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

無効な送達不能キューの名前を指定しました。

**応答**

名前を訂正し、要求を再度実行依頼してください。

**AMQ7014**

デフォルト伝送キューを指定した名前にエラーがあります。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

無効なデフォルト伝送キューの名前を指定しました。

**応答**

名前を修正してコマンドを再び実行依頼してください。

**AMQ7015**

指定されたオープン・オブジェクト・ハンドルの最大数にエラーがあります。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

許容されるオープン・オブジェクト・ハンドルの最大数に、無効な値を指定しました。この値は、ゼロより小さくはならず、999 999 999 より大きくはなりません。

**応答**

値を訂正し、コマンドを再度実行依頼してください。

**AMQ7016**

指定されたコミットされていないメッセージの最大数にエラーがあります。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

許容される未コミット・メッセージの最大数に、無効な値を指定しました。この値は、1より小さくはならず、999 999 999より大きくはなりません。

## 応答

値を訂正し、コマンドを再度実行依頼してください。

### AMQ7017

ログが使用できません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

キュー・マネージャーは、ログを使用できませんでした。原因としては、ログ・ファイルが欠落または破損しているか、キュー・マネージャーへのログ・パスがアクセス不能であることが考えられます。

## 応答

キュー・マネージャー構成ファイル内の LogPath 属性が正しいことを確認してください。ログ・ファイルが欠落しているか、その他の理由で使用できない場合は、そのファイルのバックアップ・コピーか、キュー・マネージャー全体を復元してください。

### AMQ7018

キュー・マネージャーのオペレーションが完了できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーに対する操作を行おうとしました。この操作を行うために必要なリソースが使用可能な状態がありません。

### AMQ7019

キュー・マネージャーのディレクトリー構造を作成または検査中にエラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

キュー・マネージャーの作成または開始の際、ファイルまたはディレクトリーを作成または確認している時にエラーが発生しました。失敗の原因を詳細に記した詳細情報が、キュー・マネージャーのエラー・ログに書き込まれています。

## 応答

キュー・マネージャーのファイルを作成できない理由または確認に失敗した理由を識別してください。指定されたディスクのスペースが不十分であるか、ファイルまたはディレクトリーに対するアクセス許可の問題がある可能性があります。問題を修正してコマンドを再び実行依頼してください。

### AMQ7020

操作が実行されましたが1つ以上のトランザクションが未確定のままです。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャーは、未確定の内部調整トランザクションすべてについて解決しようとしてしました。キュー・マネージャーが、未確定トランザクションの結果を関係するリソース・マネージャーに送達しようとした後でも、依然としてトランザクションは未確定のままとなります。キュー・マネージャーが、関係するリソース・マネージャーごとにトランザクションの結果を送達できない場合、トランザクションは未確定のままとなります。例えば、リソース・マネージャーが現在使用できないことが考えられます。別の可能性として、これより前にトランザクションを解決しようとして予期しない失敗に終わったものがあることが考えられます。この場合、トランザクションを解決しようとする試みは、キュー・マネージャーが再始動するまで行われません。

## 応答

DSPMQTRN コマンドを使用して、残存する未確定トランザクションを表示してください。

**AMQ7020 (IBM i)**

操作が実行されましたが1つ以上のトランザクションが未確定のままです。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーは、未確定の内部調整トランザクションすべてについて解決しようとしていました。キュー・マネージャーが、未確定トランザクションの結果を関係するリソース・マネージャーに送達しようとした後でも、依然としてトランザクションは未確定のままとなります。キュー・マネージャーが、関係するリソース・マネージャーごとにトランザクションの結果を送達できない場合、トランザクションは未確定のままとなります。例えば、リソース・マネージャーが現在使用できないことが考えられます。

**応答**

トランザクション (WRKMQMTRN) を指定した Work コマンドを使用して、残存する未確定トランザクションを表示してください。

**AMQ7021**

キュー・マネージャーのディレクトリー構造を削除中にエラーが発生しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーを削除しているときに、あるファイルまたはディレクトリーを削除しようとしたときにエラーが発生しました。キュー・マネージャーは、完全に削除されていない可能性があります。

**応答**

問題判別手順に従ってファイルまたはディレクトリーを識別し、キュー・マネージャーの削除を完了してください。

**AMQ7022**

リソース・マネージャーの識別番号が認識されません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定したリソース・マネージャーの識別番号は認識されませんでした。

**応答**

有効なリソース・マネージャー識別番号を入力したことを確認してください。リソース・マネージャーおよびそれぞれの識別番号のリストを表示するには、DSPMQTRN コマンドを使用します。

**AMQ7023**

リソース・マネージャーは無効な状態でした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定した識別番号を持つリソース・マネージャーは、無効な状態にあります。

**応答**

正しいリソース・マネージャー識別番号を入力したことを確認してください。リソース・マネージャーおよびそれぞれの識別番号のリストを表示するには、DSPMQTRN コマンドを使用します。リソース・マネージャーが無効な状態にあります。そのプログラムが、まだトランザクションの解決に使用できる状態にある場合は、-a オプション・フラグを使用して、これおよび他のすべての内部調整された未確定トランザクションを解決してください。

**AMQ7024**

コマンドに指定した引数が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドに、解釈できない引数を提供しました。コマンドが受け入れることのできないフラグを指定したか、余分なフラグを与えた可能性があります。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。エラーの原因となった引数に関する補足情報が、そのキューのエラー・ログまたはこのコマンドで参照したキュー・マネージャーにある場合があります。

**AMQ7025**

crtmqm コマンドの記述テキスト引数 (-c パラメーター) にエラーがあります。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

crtmqm コマンドに与えた記述テキストにエラーがありました。

**応答**

記述テキスト引数を訂正し、コマンドを再度実行依頼してください。

**AMQ7026**

基本 ID またはグループ名が無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

存在しないプリンシパルまたはグループの名前を指定しました。

**応答**

名前を訂正し、要求を再度実行依頼してください。

**AMQ7027**

コマンド <insert\_4> に指定された引数 <insert\_3> が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

引数 <insert\_3> がコマンド <insert\_4> に渡されましたが、解釈できませんでした。この引数は、コマンドによって受け入れられないか、余分なフラグが含まれています。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7028**

キュー・マネージャーが使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーが実行中であることを必要とするアクションを要求しましたが、キュー・マネージャーは現在実行されていません。

**応答**

必要なキュー・マネージャーを始動し、コマンドを再度実行依頼してください。

**AMQ7030**

静止要求が受け入れられました。キュー・マネージャーは、すべての未解決の作業が完了したときに、停止されます。

**重大度**

0: 情報

**説明**

残っている作業がないときに、キュー・マネージャーの終了を要求しました。すでに実行中のアプリケーションは作業を完了できますが、まもなくキュー・マネージャーは新しいアプリケーションを拒否するようになります。

**応答**

なし。

**AMQ7031**

キュー・マネージャーが停止中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーが実行されていることを必要とするコマンドを送出しましたが、キュー・マネージャーは現在停止しようとしています。このコマンドは実行できません。

**応答**

なし

**AMQ7041**

オブジェクトがすでに存在します。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクトの定義操作が実行されましたが、オブジェクトに対して選択された名前は、WebSphere MQ に認識されていないオブジェクトによって既に使用されています。MQ によって選択されたオブジェクト名は <insert\_3>、ディレクトリ <insert\_4>、オブジェクト・タイプ <insert\_5> でした。

**応答**

競合するオブジェクトを MQ システムから除去して、操作を再試行してください。

**AMQ7042**

メディア・イメージは、タイプ <insert\_4> のオブジェクト <insert\_3> には使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> のメディア・イメージは、メディア・リカバリーに使用できません。メディア・イメージの一部を含むログ・ファイルにアクセスできません。

**応答**

前のメッセージに、アクセスできなかったログ・ファイルが示されています。そのログ・ファイルおよび後続のすべてのログ・ファイルのコピーを、バックアップから復元してください。それができないときは、代わりにオブジェクトを削除する必要があります。

**AMQ7042 (IBM i)**

オブジェクト <insert\_3> のメディア・イメージが使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> のメディア・イメージは、メディア・リカバリーに使用できません。メディア・イメージの一部を含むログ・ファイルにアクセスできません。

**応答**

前のメッセージに、アクセスできなかったログ・ファイルが示されています。そのログ・ファイルおよび後続のすべてのログ・ファイルのコピーを、バックアップから復元してください。それができないときは、代わりにオブジェクトを削除する必要があります。

**AMQ7044**

メディア回復が許可されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー上で、循環ログを使用してメディア・リカバリーを行うことはできません。このようなキュー・マネージャー上の損傷オブジェクトは、削除する必要があります。

**応答**

なし。

**AMQ7047**

コマンドで予期しないエラーが検出されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドの処理中に内部エラーが発生しました。

**応答**

問題判別手順に従って、エラーの原因を判別してください。

**AMQ7048**

キュー・マネージャー名が無効であるか、不明です

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

指定されたキュー・マネージャー名が WebSphere MQ の必要とする規則に準拠していないか、キュー・マネージャーが存在しません。MQ オブジェクトの命名規則の詳細は、WebSphere MQ コマンド・リファレンスに示されています。

**応答**

名前を修正してコマンドを再び実行依頼してください。

**AMQ7048 (Windows)**

キュー・マネージャー名が無効であるか、不明です

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

指定されたキュー・マネージャー名が WebSphere MQ の必要とする規則に準拠していないか、キュー・マネージャーが存在しません。MQ オブジェクトの命名規則の詳細は、WebSphere MQ コマンド・リファレンスに示されています。

このメッセージは、パスが含まれるコマンドにオプションを指定する場合に発生する場合があります。キュー・マネージャー名が Microsoft Windows の コマンド・インタープリターにより正しく MQ に渡されるようにするため、パスのすべてのディレクトリー分離文字をエスケープする ("&#xa5;&#xa5;") か、またはパスを引用符で囲まないでください。

**応答**

名前を修正してコマンドを再び実行依頼してください。

**AMQ7053**

トランザクションがコミットされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

準備されたトランザクションがコミットされました。

**応答**

なし。

**AMQ7054**

トランザクションがバックアウトされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

準備されたトランザクションがバックアウトされました。

**応答**

なし。

**AMQ7055**

トランザクション番号が認識できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定したトランザクションの番号は、未確定トランザクションまたはヒューリスティック完了トランザクションに属するものとして認識されませんでした。

**応答**

有効なトランザクション番号を入力したことを確認してください。入力したトランザクション番号が、解決のためのコマンドを送出する前にコミットまたはバックアウトされたトランザクションに対応している可能性があります。入力したトランザクション番号が、指定したオプションに適切な状態ではないトランザクションに対応している可能性があります。例えば、すでにヒューリスティックに完了したトランザクションをコミットまたはバックアウトすることはできません。

**AMQ7056**

トランザクション番号 <insert\_1>、<insert\_2> は未確定です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、未確定トランザクションの番号を報告するために使用されます。

**応答**

なし。

**AMQ7059**

INI ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQS.INI ファイルまたはキュー・マネージャー QM.INI ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。

**応答**

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ7059 (Tandem)**

INI ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQSINI ファイルまたはキュー・マネージャー QMINI ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

**応答**

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能に

なっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ7059 (Windows)**

構成データの読み取り時にエラーが起きました。

##### **重大度**

20: エラー

##### **説明**

構成データを読み取っているときにエラーが発生しました。

##### **応答**

構成データを変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。構成データを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ7060**

INI ファイルをロックしているときにエラーが発生しました。

##### **重大度**

20: エラー

##### **説明**

MQS.INI ファイルまたはキュー・マネージャー QM.INI ファイルのロック中にエラーが発生しました。

##### **応答**

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ7060 (Tandem)**

INI ファイルをロックしているときにエラーが発生しました。

##### **重大度**

20: エラー

##### **説明**

MQSINI ファイルまたはキュー・マネージャー QMINI ファイルのロック中にエラーが発生しました。

##### **応答**

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。INI ファイルを変更していない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ7060 (Windows)**

構成データのロック中にエラーが起きました。

##### **重大度**

20: エラー

##### **説明**

構成データのロック中にエラーが起きました。

## 応答

構成データの許可を変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。構成データを変更していない場合は、システムに付属する標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ( [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ7061

INI ファイル内にあるはずのスタンザがないか、スタンザにエラーが含まれています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

MQS.INI ファイルまたは、キュー・マネージャー QM.INI ファイルから予期されたスタンザが欠落しているか、またはスタンザにエラーが含まれています。

## 応答

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

### AMQ7061 (Tandem)

INI ファイル内にあるはずのスタンザがないか、スタンザにエラーが含まれています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

MQSINI ファイルまたは、キュー・マネージャー QMINI ファイルから予期されたスタンザが欠落しているか、またはスタンザにエラーが含まれています。

## 応答

INI ファイルの内容を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

### AMQ7061 (Windows)

構成データ中に必要なスタンザが欠落しているかまたはエラーが入っています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

構成データから必要なスタンザが抜けているか、またはスタンザにエラーが含まれています。

## 応答

構成データを変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。

### AMQ7062

INI ファイルにアクセスできません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

MQS.INI ファイルまたはキュー・マネージャー QM.INI ファイルへのアクセスは拒否されました。

## 応答

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

### AMQ7062 (Tandem)

INI ファイルにアクセスできません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

MQSINI ファイル、またはキュー・マネージャーの QMINI ファイルへのアクセスが拒否されました。

## 応答

INI ファイルの許可を変更してある場合には、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ7062 (Windows)**

構成データにアクセスできません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

構成データへのアクセスが拒否されました。

**応答**

構成データの許可を変更した場合は、その変更を確認して訂正してください。

**AMQ7063**

INI ファイルが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQS.INI ファイル、またはキュー・マネージャーの QM.INI ファイルが欠落しています。

**応答**

INI ファイルに変更を加えていた場合は、以前のファイルをリカバリーして、操作を再試行してください。

**AMQ7063 (Tandem)**

INI ファイルが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQSINI ファイル、またはキュー・マネージャーの QMINI ファイルが欠落しています。

**応答**

INI ファイルに変更を加えていた場合は、以前のファイルをリカバリーして、操作を再試行してください。

**AMQ7063 (Windows)**

構成データが欠落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ の構成データが欠落しています。

**応答**

構成データのアクセス権を変更している場合は、前の構成データをリカバリーし、操作をやり直してください。

**AMQ7064**

ログ・パスが無効か、またはアクセスできません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーは、指定されたログ・パスを使用できませんでした。理由としては、パスが存在しないか、キュー・マネージャーがパスに書き込むことができないか、パスがリモート・デバイスに存在していることが考えられます。

**応答**

ログ・パスが存在すること、およびキュー・マネージャーがそのパスの読み書き許可を持っていることを確認してください。キュー・マネージャーがすでに存在している場合は、キュー・マネージャー構成ファイル内の LogPath 属性が、意図しているログ・パスに一致していることを確認してください。

**AMQ7064 (IBM i)**

補助記憶域プール ID が見つかりません。

#### 説明

提供された補助記憶域プール ID がシステムに存在せず、キュー・マネージャーがジャーナル受信側を作成するために使用できませんでした。

#### 応答

\*SYSTEM を指定するか、あるいは既存の補助記憶域プールの ID を指定して、要求をやり直してください。WRKDSKSTS を使用して、補助記憶域プールへのディスク装置の割り当てを確認することができます。

#### AMQ7065

ディスクに十分なスペースがありません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

ディスク・スペースの不足が原因で操作を完了できません。

#### 応答

使用可能なディスク・スペースを増やすか、または送出したコマンドが必要とするディスク容量を減らしてください。

#### AMQ7066

一致する準備済みトランザクションまたはヒューリスティック完了トランザクションがありません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

解決を要する準備済みトランザクションまたはヒューリスティック完了トランザクションで、指定されたパラメーターに一致するものはありません。

#### 応答

なし。

#### AMQ7068

許可ファイルに無効な許可スタanzasが含まれています。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーの許可情報を含むファイルのいずれかに、構文エラーがありました。

#### 応答

誤った許可ファイルの内容を編集して訂正してください。

#### AMQ7069

キュー・マネージャーは正常に作成されましたが、デフォルトにすることができません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーは、作成時にマシンのデフォルトのキュー・マネージャーとして定義されています。しかし、キュー・マネージャーが作成されているのに、それをデフォルトにしようとしたときにエラーが発生しました。現時点では、マシンについてデフォルトのキュー・マネージャーが定義されていない可能性があります。

#### 応答

おそらくマシンの INI ファイルに問題があります。ファイルの存在および、アクセス権限、内容を確認してください。バックアップ・ファイルが存在する場合は、2つのファイルの内容を検討して、バックアップを削除してください。最後に、手でマシンの INI ファイルを更新して、デフォルト・キュー・マネージャーを指定するか、キュー・マネージャーを削除して再作成してください。

#### AMQ7069 (Windows)

キュー・マネージャーは正常に作成されましたが、デフォルトにすることができません。

#### 重大度

40: 停止エラー

## 説明

キュー・マネージャーは、作成時にマシンのデフォルトのキュー・マネージャーとして定義されています。しかし、キュー・マネージャーが作成されているのに、それをデフォルトにしようとしたときにエラーが発生しました。現時点では、マシンについてデフォルトのキュー・マネージャーが定義されていない可能性があります。

## 応答

構成データに問題があると考えられます。構成データを更新して必要なデフォルトのキュー・マネージャーを指定するか、またはキュー・マネージャーを削除して作成し直してください。

### AMQ7072

QM.INI ファイルのスタンザが無効です。詳細については、エラー・ログを参照してください。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

無効な QM.INI ファイル・スタンザが見つかりました。詳細については、エラー・ログを参照してください。

## 応答

エラーを訂正し、操作をやり直してください。

### AMQ7072 (Tandem)

Invalid QMINI file stanza. 詳細については、エラー・ログを参照してください。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

無効な QMINI ファイル・スタンザが見つかりました。詳細については、エラー・ログを参照してください。

## 応答

エラーを訂正し、操作をやり直してください。

### AMQ7072 (Windows)

スタンザが無効です。詳細については、エラー・ログを参照してください。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

無効なスタンザが見つかりました。詳細については、エラー・ログを参照してください。

## 応答

エラーを訂正して操作をやり直してください。

### AMQ7073

ログ・サイズが無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ログ・ファイルの数またはログ・ファイルのサイズが、容認される値の範囲を逸脱しています。

## 応答

入力したログ・パラメーターの値が有効範囲内にあることを確認してください。

### AMQ7074

ini ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> に不明なスタンザ・キー <insert\_4> があります。

## 重大度

10: 警告

## 説明

構成ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> に、<insert\_3> というスタンザが含まれていました。このスタンザは認識されません。

**応答**

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7074 (Windows)**

構成データの <insert\_3> に、不明なスタンザ・キー <insert\_4> があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

鍵 <insert\_3> に、<insert\_4> というスタンザが含まれていました。このスタンザは認識されません。

**応答**

構成データの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7074 (IBM i)**

スタンザ・キーが不明です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> にスタンザ・キー <insert\_4> が含まれていました。このスタンザは認識されません。

**応答**

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7075**

ini ファイルに不明な属性があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> に、無効な <insert\_4> という属性が含まれています。この属性は、このコンテキストでは認識されません。

**応答**

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7075 (Windows)**

構成データの <insert\_3> に、不明な属性 <insert\_4> があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成データ内のキー <insert\_3> に、無効な <insert\_4> という属性が含まれています。この属性は、このコンテキストでは認識されません。

**応答**

構成データの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7076**

ini ファイル内の属性に無効な値があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> に含まれている値 <insert\_5> は、属性 <insert\_4> には無効です。

**応答**

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7076 (Windows)**

値 <insert\_5> は、構成データの <insert\_3> の属性 <insert\_4> には無効です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成データのキー <insert\_3> に、属性 <insert\_4> には無効な値 <insert\_5> が含まれていました。

**応答**

構成データの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7077**

要求された操作を実行する許可がありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ユーザーは、キュー・マネージャーのコマンドを送出しようとした。このコマンドを実行する許可がありません。

**応答**

システム管理者に連絡して、代わりにこのコマンドを実行するよう要請してください。あるいは、システム管理者から、このコマンドを実行する許可を得てください。

**AMQ7078**

総称プロファイル名が無効であるオブジェクト・タイプが入力されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

\*ALL または \*MQM のオブジェクト・タイプを入力し、総称文字の含まれているオブジェクト名を指定しました。これは無効な組み合わせです。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7080**

処理されたオブジェクトはありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

与えられた基準を満たすオブジェクトがないか、見つかったオブジェクトが処理を必要としないものであるため、オブジェクトは処理されませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ7081**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> が再作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> がメディア・イメージから再作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ7082**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> は損傷していません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> は損傷していないため、再作成できません。

**応答**

なし

**AMQ7083**

コマンドで資源問題が検出されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

リソースの問題が原因でコマンドが失敗しました。原因としては、ログが満杯か、コマンドがメモリーを使い果たしてしまっただけが考えられます。

**応答**

前のメッセージを見て、問題を診断してください。問題を解決し、操作をやり直してください。

**AMQ7084**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> が損傷しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> に損傷がありました。このオブジェクトは、削除するか、または、キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートしている場合は、メディア・イメージから再作成する必要があります。

**応答**

オブジェクトを削除するか、またはメディア・イメージから再作成してください。

**AMQ7085**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> が見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> が見つかりません。

**応答**

なし。

**AMQ7086**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> のメディア・イメージが記録されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> で定義されているオブジェクト <insert\_3> (タイプ <insert\_4>) のメディア・イメージが記録されました。

**応答**

なし。

**AMQ7087**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> は一時オブジェクトです。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> は一時オブジェクトです。一時オブジェクトに対しては、メディア・リカバリー操作はできません。

**応答**

なし。

**AMQ7088**

オブジェクト <insert\_3>、使用中のタイプ <insert\_4>。

**重大度**

20: エラー

#### 説明

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> は使用中です。アプリケーションのどれかがそのオブジェクトをオープンしたか、または、そのオブジェクトがローカル・キューである場合は、そのオブジェクトに関してコミットされていないメッセージがあります。

#### 応答

オブジェクトがアプリケーションによってオープンされていないこと、そして、そのオブジェクトがローカル・キューである場合は、そのオブジェクトに関してコミットされていないメッセージがないことを確認してください。そして操作をやり直してください。

#### AMQ7089

メディア回復はすでに進行中です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

他のメディア・リカバリー操作がすでに進行中です。メディア・リカバリー操作は一度に1つしか実行できません。

#### 応答

進行中のメディア・リカバリー操作が完了するまで待機してから、操作をやり直してください。

#### AMQ7090 (Windows)

キュー・マネージャーの CCSID が無効です。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

QMGR によって使用される CCSID が無効です。理由は以下の通りです。

- 1) これは DBCS CCSID である。
- 2) CCSID のコード化が ASCII または関連 ASCII ではない。このマシンでは EBCDIC または UCS2 エンコードは無効です。
- 3) CCSID コード化が不明である。

#### 応答

使用しているマシンでその CCSID が有効であるかを調べてください。

#### AMQ7090 (IBM i)

キュー・マネージャーの CCSID が無効です。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

QMGR が使用する CCSID が、IBM i プラットフォームで無効です。CCSID のエンコードは、有効な EBCDIC 値でなければなりません。

#### 応答

入力した CCSID が正しい EBCDIC 値であるかどうか確認してください。

#### AMQ7091

キュー・マネージャーの許可を行っていますが、オブジェクト名が指定されています。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーに関する許可の変更は、そのキュー・マネージャーからしか行えません。オブジェクト名を指定してはなりません。

#### 応答

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

#### AMQ7092

オブジェクト名が必要ですが、指定されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

このコマンドはオブジェクトの名前を必要とするものですが、名前が指定されていません。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7093**

オブジェクト・タイプが必要ですが、指定されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

このコマンドにはオブジェクトのタイプが必要ですが、タイプが指定されていません。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7094**

無効なオブジェクト・タイプを指定したか、または複数のオブジェクト・タイプを指定しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

指定したオブジェクトのタイプが無効であるか、タイプを1つしかサポートしないコマンドで複数のオブジェクト・タイプを指定しました。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7095**

エンティティ名が必要ですが、指定されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

このコマンドに1つまたは複数のエンティティ名が必要ですが、エンティティが指定されていません。エンティティとしてはプリンシパルまたはグループを指定できます。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7096**

許可仕様が要求されましたが、提供されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドが WebSphere MQ オブジェクトに許可を設定します。しかし、どの許可を設定するのかを指定しませんでした。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7097**

無効な許可仕様が指定しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドに与えた許可指定に、1つまたは複数の解釈不能のエントリが含まれています。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7098**

このコマンドはエンティティ名を1つだけ受け入れます。これを複数指定しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

このコマンドは、プリンシパルまたはグループ名を1つしか受け入れません。これを複数指定しました。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。

**AMQ7099**

エンティティ <insert\_3> には、オブジェクト <insert\_4> に関する以下の権限があります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

通知メッセージ。そのあとに許可のリストが続きます。

**応答**

なし。

**AMQ7100**

コマンド・レベル <insert\_1> までの新機能が使用可能になりました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーのコマンド・レベルが上がり、新しく導入されたすべての関数が使用可能になりました。

**応答**

なし。

**AMQ7104**

リソース・マネージャー <insert\_1> が準備されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、未確定トランザクションの観点からリソース・マネージャーの状態を示します。

**応答**

なし。

**AMQ7105**

リソース・マネージャー <insert\_1> がコミットしました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、未確定トランザクションの観点からリソース・マネージャーの状態を示します。

**応答**

なし。

**AMQ7106**

リソース・マネージャー <insert\_1> がロールバックしました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、未確定トランザクションの観点からリソース・マネージャーの状態を示します。

**応答**

なし。

**AMQ7107**

リソース・マネージャー <insert\_1> は <insert\_3> です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、リソース・マネージャーの識別番号および名前を示します。

**応答**

なし。

**AMQ7108**

未確定トランザクションが確定されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

内部調整されたトランザクションのうちで未確定のものがあった場合、そのすべてがすでに解決されています。このメッセージは、-a オプションが指定されている RSVMQTRN コマンドが正常に完了したことを示します。

**応答**

なし。

**AMQ7108 (IBM i)**

未確定トランザクションが確定されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

内部調整されたトランザクションのうちで未確定のものがあった場合、そのすべてがすでに解決されています。

**応答**

なし。

**AMQ7109**

使用不能なリソース・マネージャーに代わる決定が送達されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

内部調整されたトランザクションのうちの未確定なものの判別が、使用不能なリソース・マネージャーに代わって送達されました。このメッセージは、-r オプションを指定した RSVMQTRN コマンドが正常に完了したことを示します。

**応答**

なし。

**AMQ7110**

syncfile のメディア・イメージが記録されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

syncfile のメディア・イメージが記録されました。

**応答**

なし。

**AMQ7111**

リソース・マネージャー <insert\_1> が参加しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、未確定トランザクションの観点からリソース・マネージャーの状態を示します。

**応答**

なし。

**AMQ7112**

トランザクション番号 <insert\_1>、<insert\_2> がエラーを検出しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

1つまたは複数のリソース・マネージャーについてエラーが発生した未確定トランザクションの番号を示します。

**応答**

どのリソース・マネージャーにエラーがあったのかについては、キュー・マネージャー・エラー・ログを参照してください。エラーがあったリソース・マネージャーが正しく稼働していることを確認してから、リソース・マネージャーを再始動してください。問題が再発する場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。IBM サポートにお問い合わせください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ7113**

データベース名の引数 -rn がコマンド `crtmqm` から脱落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド `crtmqm` の必須フラグ -rn が指定されていませんでした。

**応答**

フラグおよびそれに対応するデータベース名を追加してから、再度実行依頼してください。

**AMQ7114**

データベース・パスワードの引数 -rp がコマンド `crtmqm` から脱落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド `crtmqm` の必須フラグ -rp が指定されていませんでした。

**応答**

フラグおよびそれに対応するデータベース・パスワードを追加してから、再度実行依頼してください。

**AMQ7115**

データベース・タイプの引数 -rt がコマンド `crtmqm` から脱落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド `crtmqm` の必須フラグ -rt が指定されていませんでした。

**応答**

フラグおよびそれに対応するデータベース・タイプを追加してから、再度実行依頼してください。

**AMQ7116**

データベース・タイプの引数 -rt が 8 文字より長くなっています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

フラグ -rt に指定された引数が 8 文字を超えています。

**応答**

データベース・タイプ引数をもっと短いものにしてから、再度実行依頼してください。

**AMQ7117**

MSD 共用ライブラリーのロードに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MSD 共用ライブラリーが見つからないか、または正しくロードされませんでした。

**応答**

データベース・タイプはロードする共用ライブラリーの名前の一部として使用されるため、キュー・マネージャー作成時にデータベース・タイプが正しく指定されたことを確認してください。障害に関する詳細情報については、FFST ログを調べてください。MSD 共用ライブラリーが正しくインストールされていることも確認してください。

**AMQ7118**

トランザクション番号 <insert\_1>、<insert\_2> はヒューリスティックにコミットされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、ヒューリスティックにコミットされたトランザクションの番号を通知するために使用されます。

**応答**

なし。

**AMQ7119**

トランザクション番号 <insert\_1>、<insert\_2> はヒューリスティックにロールバックされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、ヒューリスティックにロールバックされたトランザクションの番号を通知するために使用されます。

**応答**

なし。

**AMQ7120**

この WebSphere MQ のコピーの試行期間ライセンスの有効期限が切れました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、試用モードで使用されるようにライセンス交付されました。この期間の有効期限が切れました。

**応答**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスをインストールしてください。

**AMQ7121**

この WebSphere MQ のコピーの試行期間が満了しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されました。この期間の有効期限が切れました。

**応答**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスをインストールしてください。

**AMQ7122**

試用期間ご使用条件が受け入れられませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーを使用するには、試用期間ご使用条件が表示されたときにユーザーが受け入れる必要があります。

**応答**

コマンドを再実行依頼して、ご使用条件を受け入れてください。

**AMQ7123**

この WebSphere MQ のコピーの残りの試用期間は 1 日です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されます。

**応答**

なし。

**AMQ7124**

この WebSphere MQ のコピーの試用期間は今日が最終日です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されます。

**応答**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスをインストールしてください。

**AMQ7125**

WebSphere MQ のこのコピーの試用期間は <insert\_1> 日残っています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されます。

**応答**

なし。

**AMQ7126**

この WebSphere MQ のコピーは現在製品モードで実行中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスがインストールされています。

**応答**

なし。

**AMQ7127**

メッセージを読み終わったら Enter を押してください。

**重大度**

0: 情報

**説明**

1つ以上のメッセージが表示されています。ユーザーが Enter キーを押すと、これらのメッセージは表示されなくなります。

**応答**

メッセージが不要になったら、Enter (実行) キーを押してください。

**AMQ7128**

この WebSphere MQ のコピーのライセンスがインストールされていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

製品、ベータ、または試用期間ライセンスがインストールされていないため、WebSphere MQ のインストールは無効です。

**応答**

「スタートアップ・ガイド」資料に記載されているインストール手順に従っていることを確認してください。問題が解決しない場合は、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ7129**

この WebSphere MQ のコピーのお試し期間は開始済みです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間に限りライセンス交付され、試用期間はすでに開始されています。

**応答**

なし。

**AMQ7130**

この WebSphere MQ のコピーは製品モードで実行中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスがインストールされているため、ベータ期間または試用期間を開始することはできません。

**応答**

なし。

**AMQ7131**

International License Agreement for Evaluation of Programs

Part 1 - General Terms

PLEASE READ THIS AGREEMENT CAREFULLY BEFORE USING THE PROGRAM. IBM WILL LICENSE THE PROGRAM TO YOU ONLY IF YOU FIRST ACCEPT THE TERMS OF THIS AGREEMENT. BY USING THE PROGRAM YOU AGREE TO THESE TERMS. IF YOU DO NOT AGREE TO THE TERMS OF THIS AGREEMENT, PROMPTLY RETURN THE UNUSED PROGRAM TO IBM.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7132**

「プログラム」は、International Business Machines Corporation またはその子会社 (IBM) または IBM サプライヤーが所有し、著作権により保護され、使用許諾されるものであって、売買の対象となるものではありません。

The term "Program" means the original program and all whole or partial copies of it. A Program consists of machine-readable instructions, its components, data, audio-visual content (such as images, text, recordings, or pictures), and related licensed materials.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7133**

This Agreement includes Part 1 - General Terms and Part 2 - Country Unique Terms and is the complete agreement regarding the use of this Program, and replaces any prior oral or written communications between you and IBM. The terms of Part 2 might replace or modify those of Part 1.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7134****1. ライセンス****Use of the Program**

IBM grants you a nonexclusive, nontransferable license to use the Program.

You may 1) use the Program only for internal evaluation, testing or demonstration purposes, on a trial or "try-and-buy" basis and 2) make and install a reasonable number of copies of the Program in support of such use, unless IBM identifies a specific number of copies in the documentation accompanying the Program. The terms of this license apply to each copy you make. You will reproduce the copyright notice and any other legends of ownership on each copy, or partial copy, of the Program.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7135**

「プログラム」には、本ライセンスの満了時に使用できないようにする無効化装置が含まれている場合があります。お客様は、この無効化装置または「プログラム」を改ざんすることはありません。YOU SHOULD TAKE PRECAUTIONS TO AVOID ANY LOSS OF DATA THAT MIGHT RESULT WHEN THE PROGRAM CAN NO LONGER BE USED.

**重大度**

0: 情報

#### 説明

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

#### AMQ7136

You will 1) maintain a record of all copies of the Program and 2) ensure that anyone who uses the Program does so only for your authorized use and in compliance with the terms of this Agreement.

You may not 1) use, copy, modify or distribute the Program except as provided in this Agreement; 2) reverse assemble, reverse compile, or otherwise translate the Program except as specifically permitted by law without the possibility of contractual waiver; or 3) sublicense, rent or lease the Program.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

#### AMQ7137

This license begins with your first use of the Program and ends 1) as of the duration or date specified in the documentation accompanying the Program or 2) when the Program automatically disables itself. Unless IBM specifies in the documentation accompanying the Program that you may retain the Program (in which case, an additional charge might apply), you will destroy the Program and all copies made of it within ten days of when this license ends.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

#### AMQ7138

2. 保証なし

SUBJECT TO ANY STATUTORY WARRANTIES WHICH CANNOT BE EXCLUDED, IBM MAKES NO WARRANTIES OR CONDITIONS EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, THE WARRANTY OF NON-INFRINGEMENT AND THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, REGARDING THE PROGRAM OR TECHNICAL SUPPORT, IF ANY. IBM MAKES NO WARRANTY REGARDING THE CAPABILITY OF THE PROGRAM TO CORRECTLY PROCESS, PROVIDE AND/OR RECEIVE DATE DATA WITHIN AND BETWEEN THE 20TH AND 21ST CENTURIES.

This exclusion also applies to any of IBM's subcontractors, suppliers or program developers (collectively called "Suppliers").

Manufacturers, suppliers, or publishers of non-IBM Programs might provide their own warranties.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7139**

3. 責任の制限

NEITHER IBM NOR ITS SUPPLIERS ARE LIABLE FOR ANY DIRECT OR INDIRECT DAMAGES, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS, LOST SAVINGS, OR ANY INCIDENTAL, SPECIAL, OR OTHER ECONOMIC CONSEQUENTIAL DAMAGES, EVEN IF IBM IS INFORMED OF THEIR POSSIBILITY. SOME JURISDICTIONS DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OR LIMITATION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE EXCLUSION OR LIMITATION MAY NOT APPLY TO YOU.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7140**

4. 一般

Nothing in this Agreement affects any statutory rights of consumers that cannot be waived or limited by contract.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7141**

IBM may terminate your license if you fail to comply with the terms of this Agreement. If IBM does so, you must immediately destroy the Program and all copies you made of it.

You may not export the Program.

Neither you nor IBM will bring a legal action under this Agreement more than two years after the cause of action arose unless otherwise provided by local law without the possibility of contractual waiver or limitation.

Neither you nor IBM is responsible for failure to fulfill any obligations due to causes beyond its control.

There is no additional charge for use of the Program for the duration of this license.

IBM does not provide program services or technical support, unless IBM specifies otherwise.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7142**

ご使用条件を受け入れる場合は、「yes」と応答してください。ご使用条件の条項に同意しない場合は、「no」と応答してください。ご使用条件をもう一度読みたい場合は、「no」と応答してコマンドを再実行依頼してください。

**重大度**

0: 情報

**説明**

試用期間のご使用条件がユーザーに表示されており、ユーザーはご使用条件を受諾または拒否する必要があります。

**応答**

「yes」または「no」と応答して、Enter キーを押してください。

**AMQ7143**

続行するには、Enter キーを押してください。

**重大度**

0: 情報

**説明**

試用期間のご使用条件の一部がユーザーに表示されました。ユーザーは、ご使用条件の次の部分を表示する準備ができたことを指定するために Enter キーを押す必要があります。

**応答**

ご使用条件の次の部分を表示する準備ができたなら、Enter キーを押してください。

**AMQ7144**

The laws of the country in which you acquire the Program govern this Agreement, except 1) in Australia, the laws of the State or Territory in which the transaction is performed govern this Agreement; 2) in Albania, Armenia, Belarus, Bosnia/Herzegovina, Bulgaria, Croatia, Czech Republic, Georgia, Hungary, Kazakhstan, Kirghizia, Former Yugoslav Republic of Macedonia (FYROM), Moldova, Poland, Romania, Russia, Slovak Republic, Slovenia, Ukraine, and Federal Republic of Yugoslavia, the laws of Austria govern this Agreement; 3) in the United Kingdom, all disputes relating to this Agreement will be governed by English law and will be submitted to the exclusive jurisdiction of the English courts; 4) in Canada, the laws of the Province of Ontario govern this Agreement; and 5) in the United States and Puerto Rico, and People's Republic of China, the laws of the State of New York govern this Agreement.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要のある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7145**

Part 2 - Country Unique Terms

AUSTRALIA:

No Warranty (Section 2):

The following paragraph is added to this Section:

Although IBM specifies that there are no warranties, you might have certain rights under the Trade Practices Act 1974 or other legislation and are only limited to the extent permitted by the applicable legislation.

Limitation of Liability (Section 3):

The following paragraph is added to this Section:

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7146**

Where IBM is in breach of a condition or warranty implied by the Trade Practices Act 1974, IBM's liability is limited to the repair or replacement of the goods, or the supply of equivalent goods. Where that condition or warranty relates to right to sell, quiet possession or clear title, or the goods are of a kind ordinarily acquired for personal, domestic or household use or consumption, then none of the limitations in this paragraph apply.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7147**

NEW ZEALAND:

No Warranty (Section 2):

The following paragraph is added to this Section:

Although IBM specifies that there are no warranties, you might have certain rights under the Consumer Guarantees Act 1993 or other legislation which cannot be excluded or limited. The Consumer Guarantees Act 1993 will not apply in respect of any goods or services which IBM provides, if you require the goods and services for the purposes of a business as defined in the Act.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7148**

Limitation of Liability (Section 3):

The following paragraph is added to this Section:

Where products or services are not acquired for the purposes of a business as defined in the Consumer Guarantees Act 1993, the limitations in this Section are subject to the limitations in that Act.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

## AMQ7149

GERMANY: No Warranty (Section 2):

The following paragraphs are added to this Section:

The minimum warranty period for Programs is six months.

In case a Program is delivered without specifications, we will only warrant that the Program information correctly describes the Program and that the Program can be used according to the Program information. You have to check the usability according to the Program information within the "money-back guaranty" period.

Limitation of Liability (Section 3):

The following paragraph is added to this Section:

The limitations and exclusions specified in the Agreement will not apply to damages caused by IBM with fraud or gross negligence, and for express warranty.

### 重大度

0 : 情報

### 説明

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

### 応答

なし。

## AMQ7150

INDIA:

General (Section 4):

The following replaces the fourth paragraph of this Section:

If no suit or other legal action is brought, within two years after the cause of action arose, in respect of any claim that either party might have against the other, the rights of the concerned party in respect of such claim will be forfeited and the other party will stand released from its obligations in respect of such claim.

### 重大度

0 : 情報

### 説明

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

### 応答

なし。

## AMQ7151

IRELAND:

No Warranty (Section 2):

The following paragraph is added to this Section:

Except as expressly provided in these terms and conditions, all statutory conditions, including all warranties implied, but without prejudice to the generality of the foregoing all warranties implied by the Sale of Goods Act 1893 or the Sale of Goods and Supply of Services Act 1980 are hereby excluded.

ITALY:

Limitation of Liability (Section 3):

This section is replaced by the following:

Unless otherwise provided by mandatory law, IBM is not liable for any damages which might arise.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7152**

UNITED KINGDOM:

Limitation of Liability (Section 3):

The following paragraph is added to this Section at the end of the first paragraph:

The limitation of liability will not apply to any breach of IBM's obligations implied by Section 12 of the Sales of Goods Act 1979 or Section 2 of the Supply of Goods and Services Act 1982.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは試用期間を開始する前に受諾する必要がある、試用期間のご使用条件の一部です。試用期間では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7153**

この WebSphere MQ のコピーのライセンスをインストールできませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

「qmgrs/@SYSTEM」ディレクトリー内の 'nodelock' ファイルを作成または更新できなかったため、製品、ベータ、または試用期間のライセンスを WebSphere MQ のこのコピーに対してインストールできませんでした。

**応答**

「qmgrs/@SYSTEM」ディレクトリーの所有権およびアクセス権を確認してください。

**AMQ7154**

この WebSphere MQ のコピーの製品ライセンスの有効期限が切れました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスには有効期限日付があります。この日付が過ぎました。

**応答**

IBM サポートにお問い合わせください。

**AMQ7155**

ライセンス・ファイルが見つからないか、または無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プログラムには、ライセンス・ファイルが存在していて使用可能であり、有効である必要があります。また、Advanced Message Security (例えば、setmqspl) を使用しようとしたときに、AMS コンポーネントがインストールされていない場合にも、このエラーが発生することがあります。

## 応答

資料に記載されているインストール手順に従っていることを確認してください。問題が解決しない場合は、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ7156

この WebSphere MQ のコピーはすでに製品モードで実行中です。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスはすでにインストールされています。

#### 応答

なし。

### AMQ7157

この WebSphere MQ のコピーの製品ライセンスが無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

ライセンス <insert\_3> はインストールされましたが、これは WebSphere MQ のこのコピーの有効な実動ライセンスではありません。

#### 応答

有効な製品ライセンスの名前を指定して SETMQPRD コマンドを再実行依頼してください。

### AMQ7158

この WebSphere MQ のコピーの試用期間ライセンスが無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

ライセンス <insert\_3> がインストールされましたが、これは WebSphere MQ のこのコピーの有効な試用期間ライセンスではありません。

#### 応答

ファイルの正しいバージョンが使用可能であることを確認します。

### AMQ7159

FASTPATH アプリケーションが突然終了しました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

FASTPATH アプリケーションが終了したことが原因で、キュー・マネージャーはそのアプリケーションによって所有されているリソースをクリーンアップできませんでした。アプリケーションによって保持されているすべてのリソースを解放できる唯一の方法は、キュー・マネージャーを停止してから再始動することです。

#### 応答

アプリケーションが予期せず終了した理由を調べてください。WebSphere MQ がアプリケーションによって保持されているリソースを解放できない原因となる FASTPATH アプリケーションの終了を回避してください。

### AMQ7160

キュー・マネージャー・オブジェクト

#### 重大度

0: 情報

### AMQ7161

オブジェクト・カタログ

**重大度**

0: 情報

**AMQ7162**

setmqaut コマンドは正常に完了しました。

**重大度**

0: 情報

**AMQ7163 (IBM i)**

WebSphere MQ ジョブ &lt;insert\_2&gt; が &lt;insert\_3&gt; に対して開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ジョブの PID は &lt;insert\_2&gt; CCSID は &lt;insert\_1&gt; です。ジョブ名は &lt;insert\_4&gt; です。

**応答**

なし

**AMQ7164 (IBM i)**

WebSphere MQ はジョブの開始を待機中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ は、キュー・マネージャーのジョブ &lt;insert\_3&gt; の開始を &lt;insert\_1&gt; 秒待機していません: &lt;insert\_5&gt;

**応答**

ジョブ記述 &lt;insert\_4&gt; に関連付けられているジョブ待ち行列が保留されていないこと、およびジョブ待ち行列項目内の適切な最大アクティブ・ジョブ数の値が、ジョブを開始できる十分な値であることを確認してください。ジョブ・キューに関連付けられているサブシステムがアクティブであり、同時にアクティブにすることができる最大ジョブ数に指定された値が十分であることを確認してください。

**AMQ7165**

この WebSphere MQ のコピーのベータ・ライセンスの有効期限が切れました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ベータ・テストで使用されるようにライセンス交付されました。この期間の有効期限が切れました。

**応答**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスをインストールしてください。

**AMQ7166**

この WebSphere MQ のコピーのベータ期間が満了しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されました。この期間の有効期限が切れました。

**応答**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスをインストールしてください。

**AMQ7167**

「プログラムの早期提供に関するご使用条件」は同意されていません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーを使用するには、IBM プログラムの早期提供に関するご使用条件が表示されたときにユーザーが受け入れる必要があります。

**応答**

コマンドを再実行依頼して、ご使用条件を受け入れてください。

**AMQ7168**

この WebSphere MQ のコピーの残りのベータ・テスト期間は 1 日です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されます。

**応答**

なし。

**AMQ7169**

この WebSphere MQ のコピーのベータ・テスト期間は今日が最終日です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されます。

**応答**

WebSphere MQ のこのコピーの製品ライセンスをインストールしてください。

**AMQ7170 (IBM i)**

オプションは、このトランザクションに無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

解決オプションは、外部トランザクションには無効です。コミット・オプションおよびバックアウト・オプションは、内部トランザクションまたはヒューリスティック完了トランザクションには無効です。無視オプションは、ヒューリスティック完了トランザクションにのみ有効です。

**応答**

このトランザクションに対して別のオプションを選択してください。

**AMQ7171**

IBM International License Agreement for Early Release of Programs

Part 1 - General Terms

PLEASE READ THIS AGREEMENT CAREFULLY BEFORE USING THE PROGRAM. IBM WILL LICENSE THE PROGRAM TO YOU ONLY IF YOU FIRST ACCEPT THE TERMS OF THIS AGREEMENT. BY USING THE PROGRAM YOU AGREE TO THESE TERMS. IF YOU DO NOT AGREE TO THE TERMS OF THIS AGREEMENT, PROMPTLY RETURN THE UNUSED PROGRAM TO IBM.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要のある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

## AMQ7172

「プログラム」は、International Business Machines Corporation またはその子会社 (IBM) または IBM サプライヤーが所有し、著作権により保護され、使用許諾されるものであって、売買の対象となるものではありません。

The term "Program" means the original program and all whole or partial copies of it. A Program consists of machine-readable instructions, its components, data, audio-visual content (such as images, text, recordings, or pictures), and related licensed materials.

### 重大度

0: 情報

### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

### 応答

なし。

## AMQ7173

The term "Early Release" means that the Program is not formally released or generally available. The term does not imply that the Program will be formally released or made generally available. IBM does not guarantee that a Program formally released or made generally available will be similar to, or compatible with, Early Release versions.

THIS AGREEMENT INCLUDES PART 1 - GENERAL TERMS AND PART 2 - COUNTRY-UNIQUE TERMS AND IS THE COMPLETE AGREEMENT REGARDING THE USE OF THIS PROGRAM, AND REPLACES ANY PRIOR ORAL OR WRITTEN COMMUNICATIONS BETWEEN YOU AND IBM. THE TERMS OF PART 2 MAY REPLACE OR MODIFY THOSE OF PART 1.

### 重大度

0: 情報

### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

### 応答

なし。

## AMQ7174

### 1. License

#### Use of the Program

IBM grants you a nonexclusive, nontransferable license to use the Program.

You may

- 1) use the Program only for internal evaluation or testing purposes and
- 2) make and install a reasonable number of copies of the Program in support of such use, unless IBM identifies a specific number of copies in the documentation accompanying the Program. The terms of this license apply to each copy you make. You will reproduce the copyright notice and any other legends of ownership on each copy, or partial copy, of the Program.

### 重大度

0: 情報

### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQ のコピーを使用することができます。

## 応答

なし。

### AMQ7175

「プログラム」には、本ライセンスの満了時に使用できないようにする無効化装置が含まれている場合があります。お客様は、この無効化装置または「プログラム」を改ざんすることはありません。YOU SHOULD TAKE PRECAUTIONS TO AVOID ANY LOSS OF DATA THAT MIGHT RESULT WHEN THE PROGRAM CAN NO LONGER BE USED.

You will

- 1) maintain a record of all copies of the Program and
- 2) ensure that anyone who uses the Program does so only for your authorized use and in compliance with the terms of this Agreement.

## 重大度

0: 情報

## 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

## 応答

なし。

### AMQ7176

You may not

- 1) use, copy, modify, or distribute the Program except as provided in this Agreement;
- 2) reverse assemble, reverse compile, or otherwise translate the Program except as specifically permitted by law without the possibility of contractual waiver; or
- 3) sublicense, rent, or lease the Program.

## 重大度

0: 情報

## 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

## 応答

なし。

### AMQ7177

This license begins with your first use of the Program and ends

- 1) as of the duration or date specified in the documentation accompanying the Program,
- 2) when the Program automatically disables itself, or
- 3) when IBM makes the Program generally available. Unless IBM specifies in the documentation accompanying the Program that you may retain the Program (in which case, an additional charge might apply), you will destroy the Program and all copies made of it within ten days of when this license ends.

## 重大度

0: 情報

## 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

## 応答

なし。

### AMQ7178

#### 2.No Warranty

SUBJECT TO ANY STATUTORY WARRANTIES WHICH CANNOT BE EXCLUDED, IBM MAKES NO WARRANTIES OR CONDITIONS EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, THE WARRANTY OF NON-INFRINGEMENT AND THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, REGARDING THE PROGRAM OR TECHNICAL SUPPORT, IF ANY.. IBM MAKES NO WARRANTY REGARDING THE CAPABILITY OF THE PROGRAM TO CORRECTLY PROCESS, PROVIDE AND/OR RECEIVE DATE DATA WITHIN AND BETWEEN THE 20TH AND 21ST CENTURIES.

This exclusion also applies to any of IBM's subcontractors, suppliers or program developers (collectively called "Suppliers").

Manufacturers, suppliers, or publishers of non-IBM Programs might provide their own warranties.

## 重大度

0: 情報

## 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

## 応答

なし。

### AMQ7179

#### 3.Limitation of Liability

NEITHER IBM NOR ITS SUPPLIERS ARE LIABLE FOR ANY DIRECT OR INDIRECT DAMAGES, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS, LOST SAVINGS, OR ANY INCIDENTAL, SPECIAL, OR OTHER ECONOMIC CONSEQUENTIAL DAMAGES, EVEN IF IBM IS INFORMED OF THEIR POSSIBILITY. SOME JURISDICTIONS DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OR LIMITATION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE EXCLUSION OR LIMITATION MAY NOT APPLY TO YOU.

#### 4.Rights In Data

You hereby assign to IBM all right, title, and interest (including ownership of copyright) in any data, suggestions, and written materials related to your use of the Program you provide to IBM. If IBM requires it, you will sign an appropriate document to assign such rights.

## 重大度

0: 情報

## 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

## 応答

なし。

### AMQ7180

#### 5.General

Nothing in this Agreement affects any statutory rights of consumers that cannot be waived or limited by contract.

IBM may terminate your license if you fail to comply with the terms of this Agreement. If IBM does so, you must immediately destroy the Program and all copies you made of it.

You not export the Program.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7181**

Neither you nor IBM will bring a legal action under this Agreement more than two years after the cause of action arose unless otherwise provided by local law without the possibility of contractual waiver or limitation.

Neither you nor IBM is responsible for failure to fulfill any obligations due to causes beyond its control.

There is no additional charge for use of the Program for the duration of this license.

Neither of us will charge the other for rights in data or any work performed as a result of this Agreement.

IBM does not provide program services or technical support, unless IBM specifies otherwise.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7182**

The laws of the country in which you acquire the Program govern this Agreement, except

1) in Australia, the laws of the State or Territory in which the transaction is performed govern this Agreement;

2) in Albania, Armenia, Belarus, Bosnia/Herzegovina, Bulgaria, Croatia, Czech Republic, Georgia, Hungary, Kazakhstan, Kirghizia, Former Yugoslav Republic of Macedonia (FYROM), Moldova, Poland, Romania, Russia, Slovak Republic, Slovenia, Ukraine, and Federal Republic of Yugoslavia, the laws of Austria govern this Agreement;

3) in the United Kingdom, all disputes relating to this Agreement will be governed by English Law and will be submitted to the exclusive jurisdiction of the English courts;

4) in Canada, the laws of the Province of Ontario govern this Agreement; and

5) in the United States and Puerto Rico, and People's Republic of China, the laws of the State of New York govern this Agreement.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

## AMQ7183

### Part 2 - Country-unique Terms

AUSTRALIA: No Warranty (Section 2): The following paragraph is added to this Section: Although IBM specifies that there are no warranties, you might have certain rights under the Trade Practices Act 1974 or other legislation and are only limited to the extent permitted by the applicable legislation.

Limitation of Liability (Section 3): The following paragraph is added to this Section: Where IBM is in breach of a condition or warranty implied by the Trade Practices Act 1974, IBM's liability is limited to the repair or replacement of the goods, or the supply of equivalent goods. Where that condition or warranty relates to right to sell, quiet possession or clear title, or the goods are of a kind ordinarily acquired for personal, domestic or household use or consumption, then none of the limitations in this paragraph apply.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

## AMQ7184

GERMANY: No Warranty (Section 2): The following paragraphs are added to this Section: The minimum warranty period for Programs is six months. In case a Program is delivered without Specifications, IBM will only warrant that the Program information correctly describes the Program and that the Program can be used according to the Program information. You have to check the usability according to the Program information within the "money-back guaranty" period.

Limitation of Liability (Section 3): The following paragraph is added to this Section: The limitations and exclusions specified in the Agreement will not apply to damages caused by IBM with fraud or gross negligence, and for express warranty.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

## AMQ7185

INDIA: General (Section 5): The following replaces the fourth paragraph of this Section: If no suit or other legal action is brought, within two years after the cause of action arose, in respect of any claim that either party might have against the other, the rights of the concerned party in respect of such claim will be forfeited and the other party will stand released from its obligations in respect of such claim.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

**AMQ7186**

IRELAND: No Warranty (Section 2): The following paragraph is added to this Section: Except as expressly provided in these terms and conditions, all statutory conditions, including all warranties implied, but without prejudice to the generality of the foregoing, all warranties implied by the Sale of Goods Act 1893 or the Sale of Goods and Supply of Services Act 1980 are hereby excluded.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7187**

ITALY: Limitation of Liability (Section 3): This Section is replaced by the following: Unless otherwise provided by mandatory law, IBM is not liable for any damages which might arise.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7188**

JAPAN: Rights In Data (Section 4): The following paragraph is added to this Section: You also agree to assign to IBM the rights regarding derivative works, as defined in Articles 27 and 28 of the Japanese Copyright Law. You also agree not to exercise your moral rights.

**重大度**

0: 情報

**説明**

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

**応答**

なし。

**AMQ7189**

NEW ZEALAND: No Warranty (Section 2): The following paragraph is added to this Section: Although IBM specifies that there are no warranties, you might have certain rights under the Consumer Guarantees Act 1993 or other legislation which cannot be excluded or limited. The Consumer Guarantees Act 1993 will not apply in respect of any goods or services which IBM provides, if you require the goods and services for the purposes of a business as defined in that Act.

Limitation of Liability (Section 3): The following paragraph is added to this Section: Where Programs are not acquired for the purposes of a business as defined in the Consumer Guarantees Act 1993, the limitations in this Section are subject to the limitations in that Act.

**重大度**

0: 情報

#### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

#### AMQ7190

UNITED KINGDOM: Limitation of Liability (Section 3): The following paragraph is added to this Section at the end of the first paragraph: The limitation of liability will not apply to any breach of IBM's obligations implied by Section 12 of the Sale of Goods Act 1979 or Section 2 of the Supply of Goods and Services Act 1982.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これはベータ・テスト期間を開始する前に受諾する必要がある、プログラムの早期提供に関するご使用条件 (VZ125-5544-01 10/97 (MK002)) の一部です。ベータ・テスト版では、制限された期間のみ、WebSphere MQのコピーを使用することができます。

#### 応答

なし。

#### AMQ7191

この WebSphere MQ のコピーのベータ・テスト期間は残り <insert\_1> 日です。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間のみ、ライセンス交付されます。

#### 応答

なし。

#### AMQ7192

この WebSphere MQ のコピーのベータ・テスト期間は開始済みです。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ のこのコピーは、制限された期間に限ってライセンス交付され、ベータ・テスト期間はすでに開始されています。

#### 応答

なし。

#### AMQ7193

ご使用条件を受け入れる場合は、「yes」と応答してください。ご使用条件の条項に同意しない場合は、「no」と応答してください。ご使用条件をもう一度読みたい場合は、「no」と応答してコマンドを再実行依頼してください。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM プログラムの早期提供に関するご使用条件がユーザーに表示されており、ユーザーはご使用条件を受諾または拒否する必要があります。

#### 応答

「yes」または「no」と応答して、Enter キーを押してください。

#### AMQ7194

続行するには、Enter キーを押してください。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM プログラムの早期提供に関するご使用条件の一部がユーザーに表示されています。ユーザーは、ご使用条件の次の部分を表示する準備ができたことを指定するために Enter キーを押す必要があります。

**応答**

ご使用条件の次の部分を表示する準備ができたなら、Enter キーを押してください。

**AMQ7195**

この WebSphere MQ のコピーのベータ・テスト・ライセンスが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ライセンス <insert\_3> がインストールされましたが、これは WebSphere MQ のこのコピーの有効な試用期間ライセンスではありません。

**応答**

ファイルの正しいバージョンが使用可能であることを確認します。

**AMQ7196**

この製品をインストールすることにより、お客様は「International Program License Agreement」および製品に付随するライセンス情報のご使用条件を受諾したことになります。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ7197**

この WebSphere MQ のコピーの製品または試用ライセンスをインストールできませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ のこのコピーはベータ版であるため、製品ライセンスまたは試用ライセンスと一緒に使用できません。

**応答**

WebSphere MQ のベータ版をアンインストールして、製品版または試用版をインストールしてください。

**AMQ7198**

ライセンス・ユニットが不十分です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

購入したプロセッサ割り当て (<insert\_1>) が、このマシンのプロセッサ数 (<insert\_2>) より小さくなっています。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、MQ setmqcap コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを設定します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7198 (IBM i)**

ライセンス・ユニットが不十分です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このインストール用に購入したプロセッサの割り当てはゼロです。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、MQ CHGMQMCAP コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを設定します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7199**

購入したプロセッサ割り当ては、<insert\_1>に設定されます。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQ setmqcap コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサ割り当てが<insert\_1>に設定されました。

**応答**

なし。

**AMQ7199 (IBM i)**

購入したプロセッサ割り当ては、<insert\_1>に設定されます。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQ CHGMQMCAP コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサ割り当てが<insert\_1>に設定されました。

**応答**

なし。

**AMQ7200**

購入したプロセッサの割り当ては<insert\_1>です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

購入したプロセッサの割り当ては、現在<insert\_1>に設定されています。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、必要な場合はMQ setmqcap コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを変更します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7200 (IBM i)**

購入したプロセッサの割り当ては<insert\_1>です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

購入したプロセッサの割り当ては、現在<insert\_1>に設定されています。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、必要な場合はMQ CHGMQMCAP コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを変更します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7201**

このマシンのプロセッサ数は<insert\_1>です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オペレーティング・システムは、このマシンのプロセッサ数が <insert\_1> であることを報告しています。

**応答**

なし。

**AMQ7202**

ライセンス割り当ての数は、このマシンに対し今後起こりうるすべてのアップグレードに十分な数です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このインストール用に購入したプロセッサの割り当てが -1 に設定されているため、許可されたすべてのプロセッサ構成が可能です。

**応答**

なし。

**AMQ7203**

購入したプロセッサ割り当てが設定されていません (setmqcap を使用してください)。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このインストール用に購入したプロセッサの割り当てが設定されていません。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、MQ setmqcap コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを設定します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7203 (IBM i)**

購入したプロセッサ割り当てが設定されていません (CHGMQMCAP を使用してください)。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このインストール用に購入したプロセッサの割り当てが設定されていません。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、MQ CHGMQMCAP コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを設定します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7203 (IBM i)**

購入したプロセッサ割り当てが設定されていません (CHGMQMCAP を使用してください)。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このインストール用に購入したプロセッサの割り当てが設定されていません。

**応答**

十分なライセンス・ユニットを必ず購入し、MQ CHGMQMCAP コマンドを使用して、このインストール用に購入したプロセッサの割り当てを設定します。詳細については、「スタートアップ・ガイド」の資料を参照してください。

**AMQ7204**

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は、このインストールでは開始できません。これは、より新しいリリースの WebSphere MQ によって以前に開始されたことがあります。

**重大度**

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーは、コマンド・レベル <insert\_1> の WebSphere MQ の新しいリリースによって以前に開始されました。このインストールは、新しいリリースのデータと互換性がありません。これらのリリース間では、マイグレーションを行うことができません。

## 応答

ネットワーク・ストレージを使用してキュー・マネージャーのデータを共有している場合は、キュー・マネージャーの開始に使用されるインストール済み環境がすべて同じリリースのものであることを確認してください。キュー・マネージャーを開始するには、コマンド・レベル <insert\_1> 以上をサポートする WebSphere MQ のリリースをインストールします。

## AMQ7205

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は開始できません。許可サービスが ClusterQueueAccessControl の設定と互換性がないためです。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーにはバージョン <insert\_1> の許可サービスがあり、キュー・マネージャーは ClusterQueueAccessControl= RQMName を使用するよう構成されています。許可サービスのこのバージョンは、ClusterQueueAccessControl のこの設定と互換性がないため、キュー・マネージャーを開始できません。

## 応答

ClusterQueueAccessControl の設定を RQMName の代わりに XmitQ に更新するか、または許可サービスをバージョン MQZAS\_VERSION\_6 以上にアップグレードしてください。

## AMQ7206

グループ名が切り捨てられました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

WebSphere MQ は、最大 12 文字の長さのグループ名のみをサポートします。オペレーティング・システムが、これより長いグループ名を返そうとしています。

## 応答

グループ名を 12 文字以下に短くしてください。

## AMQ7207 (Windows)

ユーザー ID が 12 文字を超えています。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

WebSphere MQ は、最大 12 文字の長さのユーザー名のみをサポートします。この操作は、これより長いユーザー名から試行されています。

## 応答

ユーザー名を 12 文字以下に短くしてください。

## AMQ7208

キュー・マネージャーは、別のキュー・マネージャーに PCF メッセージを渡すのに失敗しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャーは、クラスター・キュー・マネージャー <insert\_5> へのチャンネル <insert\_4> を開始するために、PCF メッセージを <insert\_3> に書き込もうとしました。書き込みが理由 <insert\_1> で失敗しました。キュー・マネージャーがクラスター・キューをリモート・クラスター・キュー・マネージャーに解決すると、メッセージは SYSTEM.CLUS.TRANSMIT.QUEUE。リモート・クラスター・キュー・マネージャーへのチャンネルが実行されていない場合、キュー・マネージャーは PCF メッセージを <insert\_3> に送信することによってチャンネルを開始しようとします。

**応答**

<insert\_3> の問題を解決し、必要に応じてチャンネルを手動で開始してください。

**AMQ7209**

キュー・マネージャーが SYSTEM.CHANNEL.INITQ が理由 <insert\_3> で失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーがクラスター・キューをリモート・クラスター・キュー・マネージャーに解決すると、メッセージは SYSTEM.CLUS.TRANSMIT.QUEUE に書き込まれます。リモート・クラスター・キュー・マネージャーへのチャンネルが実行中でない場合、キュー・マネージャーは、PCF メッセージを SYSTEM.CHANNEL.INITQ に送信することによってチャンネルを開始しようとします。

**応答**

SYSTEM.CHANNEL.INITQ の問題を解決して、必要な場合はチャンネルを手動で開始します。

**AMQ7210**

クラスター・ワークロード出口モジュールをロードできません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

クラスター・ワークロード出口モジュール <insert\_3> をロードできませんでした。理由は <insert\_4> です。

**応答**

クラスター・ワークロード出口モジュール <insert\_3> の問題を訂正してください。

**AMQ7211**

キュー・マネージャーは、まだクラスター・ワークロード出口サーバー・プロセスからの応答を待機しています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーは、クラスター・ワークロード出口をセーフ・モードで実行するように構成されています。つまり、クラスター・ワークロード出口はサーバー・プロセス (amqzlw0) によって実行されます。キュー・マネージャーは、このサーバー・プロセスがクラスター・ワークロード出口を実行する要求に応答するのを <insert\_1> 秒待機しています。出口がハングしているか、ループしている可能性があります。

**応答**

キュー・マネージャーを終了して、クラスター・ワークロード出口の問題を解決してから、キュー・マネージャーを再始動します。

**AMQ7212**

クラスター出口機能のアドレスが見つかりません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

クラスター出口機能 <insert\_4> のアドレスが、モジュール <insert\_3> に見つかりませんでした。理由 <insert\_1> <insert\_5>。

**応答**

モジュール <insert\_3> のクラスター出口機能 <insert\_4> の問題を訂正してください。

**AMQ7214**

API 出口 <insert\_3> のモジュールをロードできませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

API 出口 <insert\_3> のモジュール <insert\_4> は、理由 <insert\_5> のためにロードできませんでした。

**応答**

API 出口モジュール <insert\_3>の問題を訂正してください。

**AMQ7215**

API 出口 <insert\_3> 関数 <insert\_4> がモジュール <insert\_5>で見つかりませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

API 出口 <insert\_3> 関数 <insert\_4> がモジュール <insert\_5>で見つかりませんでした。内部戻りコードは <insert\_1>でした。

**応答**

API 出口 <insert\_3>の問題を訂正してください。

**AMQ7215 (IBM i)**

API 出口 <insert\_3>で関数が見つかりませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

API 出口 <insert\_3> 関数 <insert\_4> がモジュール <insert\_5>で見つかりませんでした。内部戻りコードは <insert\_1>でした。

**応答**

API 出口 <insert\_3>の問題を訂正してください。

**AMQ7216**

API 出口初期化関数がエラーを返しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

モジュール <insert\_5> 内の API 出口 <insert\_3> 関数 <insert\_4> が、CompCode <insert\_1> および ReasonCode <insert\_2>を返しました。

**応答**

API 出口 <insert\_3> の問題を訂正してください。

**AMQ7217**

出口によって設定された応答が無効です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

API 出口 <insert\_3> モジュール <insert\_4> 関数 <insert\_5> が、API 出口パラメーター (MQAXP) の ExitResponse フィールドに無効な応答コード <insert\_1> を返しました。

**応答**

API 出口 <insert\_3> が無効な応答コードを設定した理由を調べてください。

**AMQ7219**

プロファイル: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**AMQ7220**

オブジェクト・タイプ: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**AMQ7221**

エンティティ: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**AMQ7222**

エンティティ・タイプ: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**AMQ7223**

権限: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**AMQ7224**

プロファイル: <insert\_3>、オブジェクト・タイプ: <insert\_4>

**重大度**

0: 情報

**AMQ7225**

一致する権限レコードがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定されたパラメーターに一致する権限レコードはありませんでした。

**AMQ7226**

プロファイル名が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プロファイル名に無効文字または無効なワイルドカード指定が含まれていたか、プロファイル名の長が無効です。

**応答**

プロファイル名を訂正して再び実行依頼してください。

**AMQ7227**

WebSphere MQ で次のネットワーク・エラーが発生しました: <insert\_3>

**重大度**

10: 警告

**説明**

MQ は、示されているエラーのためにネットワーク操作を正常に完了できませんでした。Windows 2000 ドメインの一部になっているシステムでエラーが発生した場合、DNS または WINS 構成が誤っていることを示している可能性があります。

**応答**

ネットワークが正しく機能していることを確認してください。Windows プラットフォームで、DNS または WINS、あるいは両方の設定を調べて、認証または許可機能で使用されるドメイン・コントローラーがアクセス可能であることを確認してください。

**AMQ7228 (IBM i)**

<insert\_3> の MQ 権限レコードを表示します。

**重大度**

0: 情報

**AMQ7229**

<insert\_1> ログ・レコードが、ログ再生フェーズ中にキュー・マネージャー <insert\_3> でアクセスされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_1> ログ・レコードは、キュー・マネージャーを以前に認識されていた状態に戻すために、ログ再生フェーズ中にキュー・マネージャー <insert\_3> でアクセスされました。

**応答**

なし。

**AMQ7230**

キュー・マネージャー <insert\_3> のログ再生が完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> のキュー・マネージャー再始動プロセスのログ再生フェーズが完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ7231**

リカバリー・フェーズ中にキュー・マネージャー <insert\_3> でアクセスされた <insert\_1> ログ・レコード。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_1> 個のログ・レコードが、トランザクション・マネージャー状態のリカバリー・フェーズ中にキュー・マネージャー <insert\_3> でアクセスされました。

**応答**

なし。

**AMQ7232**

キュー・マネージャー <insert\_3> のトランザクション・マネージャー状態が回復しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> について、キュー・マネージャーの終了時のトランザクションの状態が回復しました。

**応答**

なし。

**AMQ7233**

<insert\_1> / <insert\_2> / 未完了トランザクションがキュー・マネージャー <insert\_3> で解決されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_1> 個のトランザクション (キュー・マネージャー <insert\_3> が終了した時点で <insert\_2> 個の未完了) が解決されました。

**応答**

なし。

**AMQ7234**

<insert\_1> キューからのメッセージ <insert\_4> がキュー・マネージャー <insert\_3> にロードされました。

**重大度**

0: 情報

#### 説明

<insert\_1> キューからのメッセージ <insert\_4> がキュー・マネージャー <insert\_3> にロードされました。

このメッセージは、WebSphere MQ チェックポイント作成中に発行された可能性があります。詳しくは、[チェックポイント機能を使用してリカバリーの完了を確認する](#)を参照してください。

#### 応答

なし。

#### AMQ7235 (IBM i)

キュー・マネージャー・ライブラリー <insert\_3> はすでに存在しています。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

ライブラリー <insert\_3> はすでに存在しています。

#### 応答

まだ存在していないライブラリーを指定してください。

#### AMQ7236

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されました。

#### 応答

なし。

#### AMQ7237

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> はバックアップ・キュー・マネージャーではありません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> はバックアップ・キュー・マネージャーではないため、活動化できません。理由として、キュー・マネージャーが循環ログ用に構成されている可能性があります。

#### 応答

'-a' オプションを使用せずにコマンドを再試行してください。

#### AMQ7238

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> の再生が完了しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> の再生が完了しました。

#### 応答

なし。

#### AMQ7249

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> を再生のために開始できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> を再生のために開始できません。理由として、キュー・マネージャーが循環ログ用に構成されている可能性があります。

**応答**

「-r」 オプションを使用せずにコマンドを再試行してください。

**AMQ7250**

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は、以前に再生のために開始されましたが、活動化されていないため、開始できません。

**応答**

キュー・マネージャーを活動化して、キュー・マネージャーの開始を再試行してください。

**AMQ7253**

コマンド <insert\_3> には、引数 <insert\_4> のいずれかが必要です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド <insert\_3> には、少なくとも次の引数の 1 つが必要ですが、いずれも指定されていません: <insert\_4>。

**応答**

コマンドの使用法の詳細について WebSphere MQ システム管理の資料を確認して、コマンドを訂正してから再試行してください。

**AMQ7254**

互換性のない WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が開始を許可されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_1> ビット・キュー・マネージャーを開始しようとしたのですが、以前は <insert\_2> ビット・キュー・マネージャーであったため、これは許可されませんでした。以前の <insert\_2> ビット・バージョンから現行 <insert\_1> ビット・バージョンへの移行は不可能であり、キュー・マネージャーがリカバリー不能になります。

**応答**

このキュー・マネージャーを削除するか、現行の <insert\_1> ビット・バージョンをアンインストールして、前の <insert\_2> ビット・バージョンを再インストールしてください。

**AMQ7255**

互換性のない引数がコマンドに指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドに、解釈できない引数を提供しました。同時に使用できないフラグを 1 つ以上指定した可能性があります。

**応答**

コマンドを修正して再び実行依頼してください。エラーの原因となっている引数の追加情報が、そのキューのエラー・ログまたはこのコマンドで参照したキュー・マネージャーにある場合があります。

**AMQ7256**

トレース・ディレクトリー <insert\_3> には制限された許可 <insert\_4> があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

システム上のディレクトリー <insert\_3> には、許可 <insert\_4> があります。プログラムによっては、トレース・ファイルをこのディレクトリーに書き込もうとすることがありますが、これらの許可が制限されているために失敗することがあります。

## 応答

システム上のすべての WebSphere MQ プログラムがトレースを書き込めるようにしようとしても、これらの許可が実行を制限する可能性があります。許可を検討し、必要に応じて製品のデフォルト設定にリセットしてください。

### AMQ7257 (Windows)

インストール済み環境 <insert\_2> (<insert\_3>) の MQ サービスが実行中でなければなりません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

コマンド <insert\_1> を実行するには、MQ サービス amqsvc.exe と、起動するプロセス amqpsrvn.exe が実行されている必要があります。

## 応答

コマンドを実行する前に、MQ サービスが実行されていることを確認します。以下のいずれかの方法でサービスを開始します。

- 管理コマンド・プロンプトから、コマンド <insert\_3>\bin\strmqsvc.exe を発行します。
- 「コンピューター管理」コンソールで、表示されたサービスのリストから「IBM WebSphere MQ」(<insert\_2>) という名前のサービスを選択して開始します。

### AMQ7258

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> はスタンバイとして実行されています。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> はスタンバイ・インスタンスとして実行されており、既存の 1 次インスタンスに障害が発生した場合に 1 次インスタンスになる準備ができています。

## 応答

なし。

### AMQ7259

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> がデータ・ロックを取得できませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

ファイル・システム内のデータに対するロックを取得できなかったため、キュー・マネージャー <insert\_3> を開始できませんでした。最も可能性が高い原因は、キュー・マネージャーが別のコンピューター上で実行されていることです。

## 応答

なし。

### AMQ7260

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> はスタンバイになることを許可されていません。

## 重大度

0: 情報

## 説明

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は、ファイル・システム内のデータに対するロックを取得できませんでした。ロックの取得を待機するスタンバイ・インスタンスになることが許可されませんでした。

## 応答

なし。

### AMQ7261

ヒューリスティック完了トランザクションが無視されました。

## 重大度

0: 情報

**説明**

ヒューリスティック完了トランザクションが、キュー・マネージャーによって無視されました。

**応答**

なし。

**AMQ7262**

<insert\_1> キュー・マネージャー <insert\_3>のヒューリスティックに完了したトランザクション。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3>には、ヒューリスティックに完了した <insert\_1> 個のトランザクションがあります。これらのトランザクションは、キュー・マネージャーがトランザクション・マネージャーまたはシステム管理者によって破棄するよう指示されるまで、ヒューリスティックに完了したままになります。

**応答**

なし。

**AMQ7263**

ディレクトリーがローカル・ファイル・システム (<insert\_5>) 上にありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ディレクトリー <insert\_4> は、<insert\_5> ファイル・システム上にあります。WebSphere MQはこのディレクトリーを非ローカル・ファイル・システム上に作成することを許可しますが、推奨されてはいません。共用ネットワーク・ファイル・システムを使用する WebSphere MQ の共用回線網について詳しくは、「システム管理ガイド」を参照してください。

**応答**

なし。

**AMQ7264**

IPC ディレクトリー・パスが長すぎます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IPC ディレクトリー <insert\_3> はこの環境には長すぎます。IPC ディレクトリー・パスの長さは <insert\_1> 文字ですが、許容される最大長は <insert\_2> 文字のみです。

**応答**

IPC ディレクトリー・パスの長さを短くするには、キュー・マネージャーの作成時に短い IPC ディレクトリー接頭部を指定するか、キュー・マネージャー名を短くします。

**AMQ7265**

拡張メッセージ選択が使用可能です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

メッセージの内容を含め、IBM WebSphere MQ の代わりにメッセージの拡張選択を実行できるアプリケーションによって、接続が行われました。サブスクリプションにおいて拡張メッセージ選択が可能になりました。

**応答**

なし。

**AMQ7266**

拡張メッセージ選択を使用できません。

**重大度**

0: 情報

#### 説明

メッセージの拡張選択を実行するために以前に接続したアプリケーションは、切断されました。サブスクリプションにおいて、拡張メッセージ選択は使用できなくなりました。

#### 応答

なし。

#### AMQ7267

IBM WebSphere MQ 構成情報が追加されました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM WebSphere MQ 構成情報が正常に追加されました。

#### 応答

なし。

#### AMQ7268

IBM WebSphere MQ 構成情報が除去されました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM WebSphere MQ 構成情報が正常に除去されました。

#### 応答

なし。

#### AMQ7269

キュー・マネージャー <insert\_5> のスタンバイ・インスタンスが開始されました。別の場所でアクティブ・インスタンスが実行中です。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

キュー・マネージャーを開始しようとしたのですが、それは既に別の場所で実行中です。キュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスが開始済みであり、既存のアクティブ・インスタンスに障害が発生した場合にアクティブ・インスタンスとして機能する準備ができています。

#### 応答

なし。

#### AMQ7270

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は既に他の場所で実行されています。スタンバイ・インスタンスが許可されています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は、始動時にファイル・システム内のデータに対するロックを取得できませんでした。キュー・マネージャーのアクティブ・インスタンスによってロックが保持されています。キュー・マネージャーのアクティブ・インスタンスは、開始時にスタンバイ・インスタンスを許可する設定になっていました。

#### 応答

高可用性を実現するためにキュー・マネージャーの複数インスタンスを開始しようとする場合は、**strmqm -x** を使用してすべてのインスタンスを開始する必要があります。

#### AMQ7271

IBM WebSphere MQ 構成情報が存在しません。

#### 重大度

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ 構成情報が存在しません。

**応答**

なし。

**AMQ7272**

IBM WebSphere MQ 構成情報は既に存在します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ 構成情報は既に存在します。

**応答**

なし。

**AMQ7273**

構成属性 <insert\_3> を指定しなければなりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このスタンザには、IBM WebSphere MQ 構成属性 <insert\_3> が必要です。

**応答**

この属性の値を指定してコマンドをもう一度発行してください。

**AMQ7274**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> には既に最大数のスタンバイ・インスタンスがあります。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーを開始しようとしたのですが、それは既に別の場所で実行中です。キュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスの数が既に最大数に達しているため、さらに別のスタンバイ・インスタンスを開始することは不可能です。

**応答**

なし

**AMQ7276**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーを切り替えることができません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーを切り替えることができません。キュー・マネージャーにスタンバイ・インスタンスがないか、またはキュー・マネージャーが終了処理中であることが考えられます。

**応答**

なし

**AMQ7279**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> がデータ・ロックの所有権を失いました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> のインスタンスが、一時的な障害のためにファイル・システム内のデータに対するロックの所有権を失いました。このインスタンスは、ロックを再取得できなかったため、データ破壊のリスクを回避するために自動的に停止します。

## 応答

キュー・マネージャーの別のインスタンスがアクティブになっていることを確認してください。キュー・マネージャーのこのインスタンスをスタンバイ・インスタンスとして再始動してください。この問題が繰り返される場合、ファイル・システムの信頼性が、複数インスタンスのキュー・マネージャーによるファイル・ロックをサポートするには不十分なことを示している可能性があります。

### AMQ7280

WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が応答していないようです。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーは、自己の反応性をモニターしています。その反応速度は不十分です。反応がない状態が続く場合には、自動的に停止します。

## 応答

なし。

### AMQ7282

ライブラリー名「insert\_3」が、予期された値「insert\_4」ではありません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

指定されたキュー・マネージャー・ライブラリー名 <insert\_3> が、キュー・マネージャー <insert\_5> が以前に作成または開始されたときに使用された <insert\_4> の予期される値と一致しません。

バックアップまたは複数インスタンスのキュー・マネージャーが構成され、各システムで意図的に異なるキュー・マネージャー・ライブラリーを使用している場合、結果としてキュー・マネージャー・ジャーナルを構成することが必要になります。

## 応答

このキュー・マネージャー・インスタンスのライブラリー名 <insert\_3> が正しいことを確認してください。ライブラリー名が正しくない場合、RMVMQMINF コマンドを使用して正しくない情報を除去し、ADDMQMINF を使用して正しい構成情報を再入力してください。

### AMQ7285

ファイル <insert\_3> に入っているデータは、コマンド <insert\_4> では処理できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

ファイル <insert\_3> がプログラム insert\_4 によって読み取られましたが、ファイルの内容が正しくありません。このエラーは、ファイル <insert\_4> がコマンド <insert\_4> の引数として正しく指定されていないか、ファイルが壊れていることが原因で発生した可能性があります。

## 応答

ファイル <insert\_3> が必要な形式であることを確認し、コマンドを再実行依頼してください。

### AMQ7286

クラスター・キャッシュの復元中にエラーが発生しました。詳しくはエラー・ログを参照してください。

## 重大度

10: 警告

## 説明

クラスター・キャッシュの復元中に1つ以上のエラーが検出されました。これはキュー・マネージャーの開始を妨げませんが、このキュー・マネージャーが保持するクラスター・キャッシュが不完全になるため、このキュー・マネージャーから認識可能で、このキュー・マネージャーが所有するクラスター・リソースに不整合が生じる可能性があります。発生したエラーの詳細について、エラー・ログ内のメッセージを参照してください。

## 応答

この問題を解決するには、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ7287**

コマンド・レベルが許容値の範囲外です。値は少なくとも <insert\_3> でなければならず、<insert\_4> を超えてはなりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定されたコマンド・レベルは、このコマンドのインストール済み環境で許容される値の範囲外です。

**応答**

許容値の範囲内のコマンド・レベルを指定して、コマンドを再発行してください。

**AMQ7288**

キュー・マネージャーのコマンド・レベルは既に <insert\_2> になっています。有効になっている新機能はありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーのコマンド・レベルは、既に、指定された値以上のものです。

**応答**

なし。

**AMQ7289**

インストール済み環境 <insert\_3> の MQ サービスが、エラー <insert\_1> で開始に失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

インストール済み環境 'insert\_3' の MQ サービス (amqsvc.exe) を開始しようとしたのですが、失敗しました。オペレーティング・システムからのエラーは <insert\_1> でした。

エラー <insert\_1> の定様式メッセージ・テキストは <insert\_4> です (ブランクの場合、これは使用可能なメッセージ・テキストがないことを示します)。

**応答**

MQ サービスを開始するには、WebSphere MQ 準備ウィザードを使用して MQ サービスが実行されるように構成していなければなりません。これがまだ行われていない場合、このサービスは、無効なユーザー ID で構成されているか、または「無効」の状態にある可能性があります。

「IBM WebSphere MQ (insert\_3)」というサービスが正しく構成されて有効であることを確認してから、コマンドを再発行してください。

**AMQ7290**

インストール用の MQ サービス <insert\_3> が正常に開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

インストール済み環境 <insert\_3> の MQ サービスが正常に開始されたか、既に実行されています。

**応答**

なし。

**AMQ7291****重大度**

40: 停止エラー

**説明**

インストール済み環境 <insert\_3> の MQ サービス (amqsvc.exe) を終了しようとしたのですが、失敗しました。オペレーティング・システムからのエラーは <insert\_1> でした。エラー <insert\_1> の定様式メッセージ・テキストは <insert\_4> です (ブランクの場合、これは使用可能なメッセージ・テキストがないことを示します)。

**応答**

「IBM WebSphere MQ <insert\_3>」という名前のサービスが正しく構成され、使用可能になっていることを確認してから、コマンドを再発行してください。

**AMQ7292**

インストール済み環境 <insert\_3> の MQ サービスが正常に終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

インストール済み環境 <insert\_3> の MQ サービスが正常に終了したか、既に停止しています。

**応答**

なし。

**AMQ7293**

使用法: strmqsvc

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ7294**

使用法: endmqsvc

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ7295**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は、マイグレーションがサポートされていないため開始できません。

**重大度****説明**

MQ キュー・マネージャー <insert\_3> を開始しようとしてしました。このキュー・マネージャーは以前に古いバージョンの MQ によって開始されたため、許可されませんでした。これらのリリース間でのマイグレーションは、サポートされていません。

**応答**

キュー・マネージャーのデータが共有されている場合、このキュー・マネージャーが正しいオペレーティング・システムで開始されていることを確認してください。互換性のあるリリースの IBM WebSphere MQ をインストールすることによって、キュー・マネージャーを開始できます。<https://www.ibm.com/software/integration/wmq/requirements> を参照してください。

**AMQ7305**

トリガー・メッセージは開始キューに出力されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> のキュー <insert\_4> にトリガー・メッセージを書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。メッセージは、送達不能キューに書き込まれます。

**応答**

開始キューが使用可能であり、操作可能であるようにしてください。

**AMQ7306**

送信不能キューはローカル・キューでなければなりません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キューがローカル・キューでないため、未配布メッセージがキュー・マネージャー <insert\_5>の送達不能キュー <insert\_4> に書き込まれませんでした。メッセージは破棄されます。

**応答**

システム管理者に連絡してください。

**AMQ7307**

メッセージは送信不能キューに出力されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> の送達不能キュー <insert\_4> にメッセージを書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1>で失敗しました。メッセージは破棄されます。

**応答**

送達不能キューが使用可能であり、操作可能であるようにしてください。

**AMQ7308**

トリガー条件 <insert\_1> が満たされませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トリガー・メッセージの生成に必要とされる少なくとも1つの条件が満たされなかったため、トリガー・メッセージは生成されませんでした。トリガー・メッセージを想定していた場合、必要な条件のリストについて「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。(条件 <insert\_1> が満たされるように調整するだけでは十分でない場合があることに注意してください。これは、条件が任意の順序で検査され、最初に満たされていない条件が検出されると検査が停止するためです。)

**応答**

トリガー・メッセージが必要な場合、生成に必要なすべての条件が満たされていることを確認します。

**AMQ7310**

レポート・メッセージは応答キューに入れられませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> のキュー <insert\_4> にレポート・メッセージを書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1>で失敗しました。メッセージは、送達不能キューに書き込まれます。

**応答**

応答先キューが使用可能であり、操作可能であるようにしてください。

**AMQ7315**

アカウントティング・キューにメッセージを書き込めませんでした。理由 (<insert\_1>)

**重大度**

20: エラー

**説明**

アカウントティング・データを含むメッセージをキュー <insert\_3> に書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1>で失敗しました。メッセージ・データは廃棄されました。

このエラー・メッセージは、同一操作の一部としてキューへのメッセージの書き込みを複数回試行したとしても、同じ理由で失敗した場合に一度のみ書き込まれます。

**応答**

キュー <insert\_3> が使用可能であり、操作可能であることを確認してください。

**AMQ7316**

統計キューにメッセージを書き込めませんでした。理由 (<insert\_1>)

**重大度**

20: エラー

**説明**

統計データを含むメッセージをキュー <insert\_3> に書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。メッセージ・データは廃棄されました。

このエラー・メッセージは、同一操作の一部としてキューへのメッセージの書き込みを複数回試行したとしても、同じ理由で失敗した場合に一度のみ書き込まれます。

**応答**

キュー <insert\_3> が使用可能であり、操作可能であることを確認してください。

**AMQ7320**

保存パブリケーション・キューへのアクセスに失敗しました。理由 (<insert\_1>)

**重大度**

20: エラー

**説明**

システム保存パブリケーション・キュー (<insert\_3>) 上のメッセージにアクセスしようとしたのですが、理由コード <insert\_4> (<insert\_1>) で失敗しました。

**応答**

キュー <insert\_3> が使用可能であり、操作可能であることを確認してください。

**AMQ7327**

トピック・オブジェクト <insert\_3> (<insert\_4> によって参照されています) のオープンに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_4> の各項目には、その項目が名前リストに追加される前に作成された既存のトピック・オブジェクトがなければなりません。

トピック・オブジェクト <insert\_3> は存在しないため、そのストリームまたはサブポイントを使用する前に作成する必要があります。

**応答**

トピック・オブジェクト <insert\_3> が使用可能であることを確認してください。項目を除去し、<insert\_4> 名前リストに再度追加して、トピック・オブジェクトを再度検査するようにキュー・マネージャーに通知します。

**AMQ7341 (krcI\_CLUSSDR\_XMITQ\_SWITCHED)**

チャンネル <insert\_1> の伝送キューは <insert\_3> です。

**重大度**

00: 情報

**説明**

キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性を変更したため、チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替えが必要になりました。

このメッセージは、キュー・マネージャーがチャンネル <insert one> の伝送キューからキュー <insert three>' への切り替えを完了したために書き込まれます。

切り替え中に、キュー・マネージャーが <n> メッセージを <insert two> から <insert three> に移動しました。

**応答**

これ以上のアクションは不要です。

### AMQ7342 (krce\_CLUSSDR\_XMITQ\_SWITCH\_FAILED)

WebSphere MQ はエラー・メッセージ 20007342 を表示できませんでした。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ は、戻りコード X'20007342' に関連付けられたメッセージを表示しようとしてしました。この戻りコードは、メッセージに関連したメッセージ・テキストが存在しないことを示しています。要求には、挿入 <n>: <m>: <insert one>: <insert two>: <insert three> が関連付けられます。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ](#)または [IBM SupportAssistant の Web ページ](#)を参照してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ7343 (krce\_DYNAMIC\_Q\_NOT\_CREATED)

<insert one> という名前の動的キューを作成する要求が、理由コード <n> で失敗しました。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

モデル・キュー <insert two> に基づいて、<insert one> という名前の動的キューを作成する要求が出されましたが、操作は理由コード <n> で失敗しました。失敗の理由としては、以下のことが考えられます。

- 同じ名前でタイプの異なるキューが既に存在します。
- モデル・キューにアクセスできませんでした。
- 要求を正常に完了するために利用可能なリソースが不足していました。

#### 応答

提供された理由コードを使用して失敗の原因を調べて修正し、要求を再発行してください。

### AMQ7345 (krce\_OPEN\_OLD\_CLUSTER\_XMITQ\_FAILED)

チャンネル <insert one> の伝送キュー <insert two> を開くことができません。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

伝送キューの切り替えを処理するには、保留メッセージを新しい伝送キューに移動するために、元の伝送キュー <insert two> をオープンする必要があります。オープン要求が理由コード <n> で失敗しました。チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替えを続行できません。

#### 応答

この切り替えを実行するには、提供された理由コードを使用して失敗の原因を特定し、その問題を解決してください。問題を解決できない場合、または元の伝送キューを既に削除した場合には、**runswchl** コマンドに **-n** パラメーターを指定して実行することにより、元の伝送キューから新しい伝送キューにメッセージを移動せずにチャンネルの伝送キューを切り替えてください。

**要確認:** このオプションを使用する場合は、IBM WebSphere MQ 管理者の責任で、元の伝送キューに残っている保留メッセージを適切に処理する必要があります。

### AMQ7346 (krce\_OPEN\_NEW\_CLUSTER\_XMITQ\_FAILED)

チャンネル <insert one> の新しい伝送キュー <insert two> を開くことができません。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

伝送キューの切り替えを処理するには、古い伝送キューから保留メッセージを受信するために、新しい伝送キュー <insert three> をオープンする必要があります。オープン要求が理由コード <n> で失敗しました。チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替えを続行できません。

#### 応答

この切り替えを実行するには、提供された理由コードを使用して失敗の原因を特定し、その問題を解決してください。

#### **AMQ7347 (krcE\_INTERNAL\_MQGET\_FAILED)**

キュー <insert one> からの MQGET が理由コード <n> で失敗しました。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

キュー・マネージャー操作の一部として呼び出された内部 MQGET 要求が、理由コード <n> で失敗しました。

#### 応答

このエラー・メッセージは、この障害の影響を説明するそれ以降のエラー・メッセージと関連して表示されます。このメッセージに示されているキュー名 <insert one> および理由コード <n> を、後続のメッセージと一緒に使用して、問題を解決してください。

#### **AMQ7348 (krcE\_INTERNAL\_MQPUT\_FAILED)**

MQPUT をキューに入れる <insert one> が理由コード <n> で失敗しました。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

キュー・マネージャー操作の一部として呼び出された内部 MQPUT 要求が、理由コード <n> で失敗しました。

#### 応答

このエラー・メッセージは、この障害の影響を説明するそれ以降のエラー・メッセージと関連して表示されます。このメッセージに示されているキュー名 <insert one> および理由コード <n> を、後続のメッセージと一緒に使用して、問題を解決してください。

#### **AMQ7349 (krcE\_INTERNAL\_MQCMIT\_FAILED)**

MQCMIT が理由コード <n> で失敗しました。

#### 重大度

40: エラー

#### 説明

キュー・マネージャー操作の一部として呼び出された内部 MQCMIT 要求が、理由コード <n> で失敗しました。

#### 応答

このエラー・メッセージは、この障害の影響を説明するそれ以降のエラー・メッセージと関連して表示されます。このメッセージに示されている理由コード <n> を、後続のメッセージと一緒に使用して、問題を解決してください。

#### **AMQ7350 (krcI\_CLUSSDR\_XMITQ\_SWITCH\_STARTED)**

チャンネル <insert one> のキュー <insert two> からキュー <insert three> への伝送キューの切り替えが開始されました。

#### 重大度

00: 情報

#### 説明

キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性の変更のために、チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替えが必要です。このメッセージは、伝送キューを切り替える処理が開始された時点で書き込まれます。

#### 応答

なし。

#### **AMQ7351 (krcI\_CLUSSDR\_XMITQ\_SWITCH\_MM\_STARTED)**

伝送キュー <insert two> から伝送キュー <insert three> へのチャンネル <insert one> のメッセージの移動が開始されました。

## 重大度

00: 情報

## 説明

キュー・マネージャーのデフォルト・クラスター伝送キュー構成の変更、またはクラスター伝送キューのクラスター・チャンネル名属性の変更のために、チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替えが必要です。このメッセージは、古い伝送キュー <insert two> から新しい伝送キューにメッセージを移動するプロセスが開始されたときに書き込まれます。

切り替え操作がクラスター送信側チャンネルの始動処理の一部として実行されている場合は、メッセージの移動が完了するまでの間、チャンネルの実行とメッセージ転送が続行されます。切り替え操作が **runswchl** コマンドの処理の一部として実行されている場合は、すべてメッセージの移動が完了した時点で **runswchl** コマンドの処理が完了します。

## 応答

なし。

### AMQ7352 (krcI\_CLUSSDR\_XMITQ\_MM\_STATUS)

<n> 個のメッセージがキュー <insert two> からキュー <insert three> に移動しました。

## 重大度

00: 情報

## 説明

チャンネル <insert one> の伝送キューを切り替えるには、メッセージを古い伝送キューから新しい伝送キューに移動する必要があります。<m> 個のメッセージがキュー <insert two> からキュー <insert three> <n> 回移動されました。キューは空になりましたが、メッセージは、切り替えを完了できる前に到着しました。

## 応答

なし。

### AMQ7353 (krcE\_SYNCFILE\_UPDATE\_FAILED)

チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替え中に、チャンネル同期ファイルを更新できません。

## 重大度

40: エラー

## 説明

チャンネル <insert one> の伝送キューの <insert two> から <insert three> への変更を完了中に、キュー・マネージャーがチャンネル同期ファイルを更新できませんでした。障害の理由コードは <n> でした。

## 応答

提供されている理由コードとその他に利用できる障害メッセージを使用してこの失敗の原因を修正した後、**rcrmqobj** コマンドを実行してチャンネル同期ファイルの内容をリカバリーしてください。コマンドを実行します。

```
rcrmqobj -m QMgrName -t syncfile
```

このコマンドにより、キュー・マネージャーの同期ファイルが再作成されます。[rcrmqobj](#) を参照してください。

### AMQ7432 (IBM i)

WebSphere MQ ジャーナル項目がやり直しに使用できません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ジャーナルのやり直し操作が試行されましたが、この操作には、現在、システムに存在しないジャーナル・レシーバーからのジャーナル項目が必要でした。

## 応答

必要なジャーナル・レシーバーをバックアップから復元してください。その後、操作を再試行してください。

### AMQ7433 (IBM i)

ジャーナルの再生を実行中にエラーが発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

WebSphere MQ で、ジャーナルのやり直し操作の実行中に 1 つ以上のジャーナル項目を読み取ろうとして問題が発生しました。

## 応答

キュー・マネージャーのジャーナル・レシーバーを以前に作成した場合、またはキュー・マネージャーのコールド・リスタートを実行している場合、/QIBM/UserData/mqm/qmgrs/ のキュー・マネージャー・サブディレクトリーから QMQMCHKPT ファイルを削除して、キュー・マネージャーの再始動を試行してください。問題が再発する場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ7434 (IBM i)

MQ コミットメント制御出口プログラムが正しく呼び出されませんでした。 <insert\_1>をコーディングしてください。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

WebSphere MQ コミットメント制御出口プログラムが、誤ったパラメーターを指定して呼び出されました。

## 応答

プログラムがコミットまたはロールバックの一部として OS/400 によって呼び出された場合は、ジョブ・ログを保存し、 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ7435 (IBM i)

MQ コミットメント制御出口プログラムが失敗しました。 <insert\_1>をコーディングしてください。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

WebSphere MQ コミットメント制御出口プログラムは、予期しないエラーのために失敗しました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ7459 (IBM i)

WebSphere MQ ジャーナル・レシーバー <insert\_3> はチェーン内で最も古いものです。

## 重大度

0: 情報

## 説明

レシーバー・チェーン内の最も古いジャーナル・レシーバーは、ライブラリー <insert\_4>の <insert\_3>です。

## 応答

なし

**AMQ7460 (IBM i)**

WebSphere MQ 始動ジャーナル情報。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、始動リカバリーに必要でなくなったためにシステムから除去できるジャーナル・レシーバーを特定できるように、WebSphere MQ によって定期的に発行されます。

**応答**

なし

**AMQ7461 (IBM i)**

WebSphere MQ オブジェクト再作成 - 権限の再適用。

**重大度**

0: 情報

**説明**

以前に損傷したオブジェクトが、自動的に、またはオブジェクトの再作成 (RCRMQMOBJ) コマンドの使用によって明示的に再作成されました。このオブジェクトに適用されていた権限は、再作成されていません。

**応答**

必要に応じて権限の認可 (GRTMQMAUT) コマンドを使用して、この MQ オブジェクトに必要な権限を再作成してください。

**AMQ7462 (IBM i)**

WebSphere MQ メディア・リカバリー・ジャーナル情報。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは、メディア・リカバリーに必要でなくなったためにシステムから除去できるジャーナル・レシーバーを特定できるように、WebSphere MQ によって定期的に発行されます。

**応答**

なし

**AMQ7463**

キュー・マネージャー <insert\_3> のログがいっぱいです。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このメッセージが出されるのは、ログが満杯のためログ・レコードの書き込みが拒否された場合です。キュー・マネージャーは、この問題を解決しようとします。

**応答**

メッセージ通信量が異常に多いときに、この状態が起こる場合があります。ただし、ログが定期的に満杯になる場合は、ログのサイズを大きくすることも検討してください。キュー・マネージャー構成ファイル内の値を変更することによって、ログ・ファイルの数を増やすことができます。そのあとで、キュー・マネージャーを停止し再始動してください。また、ログ・ファイル自体を大きくする必要がある場合は、キュー・マネージャーを削除し再作成することが必要になります。

**AMQ7464**

キュー・マネージャー <insert\_3> のログがいっぱいになりました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージが出されるのは、ログが以前はいっぱいだったが、現在はログ・レコードの書き込みが受け入れられるようになった場合です。ログが満杯の状態は解決されました。

**応答**

なし

**AMQ7465**

キュー・マネージャー <insert\_3> のログがいっぱいです。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ログが満杯の状態を解決しようとして失敗しました。これは、長時間実行トランザクションが存在することが原因です。

**応答**

トランザクションの所要時間が過度に長くないようにしてください。古いトランザクションがあればコミットまたはロールバックを行って、以降のログ・レコードのためにログ・スペースを解放します。

**AMQ7466**

ログ・ファイルのサイズに問題があります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> のログは、現在のデータ速度をサポートするには小さすぎます。このメッセージが出されるのは、ログを保守するモニター・タスクが現在書き込まれているデータの速度に対応できない場合です。

**応答**

ログが満杯の状態になる可能性を回避するために、構成済みの1次ログ・ファイルの数を増やしてください。

**AMQ7467**

キュー・マネージャー <insert\_3> の開始に必要な最も古いログ・ファイルは <insert\_4> です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ログ・ファイル <insert\_4> には、キュー・マネージャーの再始動に必要な最も古いログ・レコードが入っています。メディア・リカバリーでは、これより古いログ・レコードが必要となる場合があります。

**応答**

<insert\_4> より古いログ・ファイルをアーカイブ・メディアに移動して、ログ・ディレクトリーのスペースを解放することができます。オブジェクトを再作成するために必要なログ・ファイルをメディア・イメージから移動した場合、オブジェクトを再作成するためにはそれらのログ・ファイルを復元する必要があります。古いログ・ファイルほどログ番号が数値的に小さくなります(ただし、9999999でログ番号の折り返しが行われます)。

**AMQ7468**

キュー・マネージャー <insert\_3> のメディア・リカバリーを実行するために必要な最も古いログ・ファイルは <insert\_4> です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ログ・ファイル <insert\_4> には、メディア・イメージからオブジェクトを再作成するために必要な最も古いログ・レコードが含まれています。これより前のログ・ファイルには、メディア・リカバリー操作でアクセスされません。

**応答**

この情報を、最新の AMQ7467 メッセージにある情報と一緒に使用してください。アーカイブ可能ログ・ファイルは、BOTH <insert\_4> より古いすべてのログ・ファイルと、AMQ7467 メッセージに示されているログ・ファイルです。

**AMQ7469**

ログ・スペースを解放するために、トランザクションがロールバックされました。

**重大度**

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャーのログ・スペースが満杯になります。キュー・マネージャーが要求の処理を続けられるように、長時間実行される 1 つ以上の準備済みトランザクションがロールバックされ、ログ・スペースが解放されました。

## 応答

トランザクションの所要時間が過度に長くないようにしてください。ログが満杯になり始める前に、トランザクションが長く持続できるようにログのサイズを増やすことを検討してください。

### AMQ7472

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> が損傷しています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> に損傷のマークが付きました。これは、キュー・マネージャーがファイル・システム内のオブジェクトにアクセスできないか、オブジェクト内のデータとの何らかの不整合が検出されたかのいずれかを示しています。

## 応答

損傷したオブジェクトが検出された場合、実行するアクションは、キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートするかどうかと、損傷が検出された時期によって異なります。キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートしない場合、リカバリーは不可能なので、オブジェクトを削除する必要があります。キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートし、キュー・マネージャーの開始時に実行される処理中に損傷が検出された場合には、キュー・マネージャーは、自動的にオブジェクトのメディア・リカバリーを開始します。キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートし、キュー・マネージャーがいったん開始されてから損傷が検出された場合には、rcrmqobj コマンドを使用してメディア・イメージからリカバリーすることもできますし、削除することもできます。

### AMQ7472 (IBM i)

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> が損傷しています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

オブジェクト <insert\_3>、タイプ <insert\_4> に損傷のマークが付きました。これは、キュー・マネージャーがファイル・システム内のオブジェクトにアクセスできないか、オブジェクト内のデータとの何らかの不整合が検出されたかのいずれかを示しています。

## 応答

損傷したオブジェクトが検出された場合、実行するアクションは、キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートするかどうかと、損傷が検出された時期によって異なります。キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートしない場合、リカバリーは不可能なので、オブジェクトを削除する必要があります。キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートし、キュー・マネージャーの開始時に実行される処理中に損傷が検出された場合には、キュー・マネージャーは、自動的にオブジェクトのメディア・リカバリーを開始します。キュー・マネージャーがメディア・リカバリーをサポートし、キュー・マネージャーがいったん開始されてから損傷が検出された場合には、RCRMQMOBJ コマンドを使用してメディア・イメージからリカバリーすることもできますし、削除することもできます。

### AMQ7477 (IBM i)

WebSphere MQ セッションはすでにアクティブではありません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

コミットまたはロールバック操作中にコミットメント制御出口プログラムが呼び出されました。プログラムが登録されている間にキュー・マネージャーが停止しました。原因として、コミットされていないメッセージ操作のロールバックが考えられます。

## 応答

システム管理者に、キュー・マネージャーが停止したときにコミットされていないメッセージ操作がロールバックされた可能性があることを連絡してください。

### AMQ7484

メッセージをログ・イベント・キューに書き込むことができませんでした。理由 (<insert\_2>)

## 重大度

0: 情報

## 説明

ログ・イベント・メッセージをキュー <insert\_3> に書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_2> で失敗しました。メッセージ・データは廃棄されました。

## 応答

キュー <insert\_3> が使用可能であり、操作可能であることを確認してください。現在のログ・状況情報は、DISPLAY QMSTATUS runmqsc コマンドで表示することができます。

### AMQ7485

トランザクションは、ログ・スペースを解放するためにロールフォワードしました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャーのログ・スペースが満杯になります。キュー・マネージャーが要求の処理を続けられるように、長時間実行される 1 つ以上の準備済みトランザクションがロールフォワードされ、ログ・スペースが解放されました。長時間実行される準備済みトランザクションのために同等のログ・レコードがアクティブ・ログに作成されました。

## 応答

ユーザーがこのメッセージを読むまでに、長時間実行される準備済みトランザクションは既に、自動で解決されている可能性があります。解決されていない場合は、このメッセージはキュー・マネージャー用のログ・スペースが満杯になりかけるたびに、繰り返し再表示されます。

以下の手順は、準備済みトランザクションが自動で解決されていない場合を想定しています。それがどのタイプのトランザクションであるかを調べ、トランザクションのタイプに適した手順を実行する必要があります。

DSPMQTRN コマンドを使用して、外部で管理される未確定トランザクションがないかを検査し、さらに DISPLAY CHS runmqsc コマンドを使用して、未確定チャンネルがないかを検査します。

いくつかの対応方法が考えられます。

1. 長時間実行されているトランザクションが外部のトランザクション・マネージャー・ソフトウェアに所有されている場合は、キュー・マネージャーが解決(コミットまたはロールバック)することを自動的に決めることはできません。キュー・マネージャーは、その外部トランザクション・マネージャー・ソフトウェアが結果(つまりトランザクションをコミットするかロールバックするか)をキュー・マネージャーに伝えるまで、このトランザクション用の作業を記憶しています。そのため、この問題には外部トランザクション・マネージャー・ソフトウェアを介して対応する必要があります。これを行うには、外部トランザクション・マネージャー・ソフトウェアに対してコマンドを実行するか、あるいは(そのようなコマンドが存在しない場合は)外部トランザクション・マネージャー・ソフトウェアを再始動します。
2. 長時間実行されているトランザクションが未確定チャンネルに所有されている場合は、その状況を調査します。自動的に解決されない場合は、RESOLVE CHANNEL コマンドを使用することを検討してください。
3. 長時間実行されているトランザクションが、MQBEGIN を使用するアプリケーションに代わってローカル・キュー・マネージャーに所有されている場合は、キュー・マネージャーが、トランザクションに参加していた外部リソース・マネージャー・ソフトウェアとの接続を失った可能性があります。キュー・マネージャーから外部リソース・マネージャー・ソフトウェアへの接続を調査し、修正してください。

4. 他の選択肢がいずれも成功しない場合は、`rsvmqtrn` コマンドを使用して、未確定トランザクション内で行われた作業をコミットまたはロールバックするようにキュー・マネージャーに命令することを検討してください。製品資料で `rsvmqtrn` コマンドの説明を参照してください。

#### AMQ7486

トランザクション `1111.2222` が原因でログ・スペースを解放できない状態でした。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

長期実行トランザクションが検出されました。ログ・スペースを解放するためにトランザクションがログ内でロールバックされた場合、またはロールフォワードされた場合には、そのことを示すメッセージ `AMQ7469` または `AMQ7485` が発行されています。内部トランザクション ID は `1111.2222` で、これは '`dspmqtrn -a`' の出力と関連付けることができます。トランザクションは `<insert_1>` で開始され、最初に `<insert_2>` のキュー・マネージャー・リカバリー・ログに書き込まれました。トランザクション・コンテキスト `<insert_3>` は、この動作の原因となったアプリケーションを識別するのに役立つ可能性があります。このメッセージは、キュー・マネージャーのエラー・ログにある直前の `AMQ7469` または `AMQ7485` メッセージと関連させることができます。

#### 応答

長時間実行される作業単位の原因となっているアプリケーションを識別し、このアプリケーションがタイミング良くトランザクションを作成および完了していることを確認してください。アプリケーションが想定どおりに機能しているなら、キュー・マネージャー・リカバリー・ログのサイズを増やすことが適切な場合があります。

#### AMQ7487

アプリケーション `<insert_1>` が、ログ・スペースの解放を妨げていました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

長期実行トランザクションが検出されました。このメッセージの意図は、この長期実行トランザクションに関連するアプリケーションを識別する手助けをすることです。ログ・スペースを解放するためにトランザクションがログ内でロールバックされた場合、またはロールフォワードされた場合には、そのことを示すメッセージ `AMQ7469` または `AMQ7485` が発行されています。ロールバックまたはロールフォワードされたトランザクションのトランザクション・コンテキストを示すメッセージ `AMQ7486` が発行されています。このトランザクションに関連付けられたアプリケーションは、`Pid 1111`、`Tid 2222`、アプリケーション名 `<insert_1>`、およびアプリケーション記述 `<insert_2>` で実行されていました。アプリケーション・コンテキスト `<insert_3>` も、この動作の原因となったアプリケーションを識別するのに役立ちます。このメッセージは、キュー・マネージャーのエラー・ログにある直前の `AMQ7486` メッセージと関連させることができます。

#### 応答

長時間実行される作業単位の原因となっているアプリケーションを識別し、このアプリケーションがタイミング良くトランザクションを作成および完了していることを確認してください。アプリケーションが想定どおりに機能しているなら、キュー・マネージャー・リカバリー・ログのサイズを増やすことが適切な場合があります。

#### AMQ7540

WebSphere MQ プログラム `<insert_3>` がファイルまたはディレクトリー (`<insert_4>`) にアクセスしようとしたが、存在しません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

`<insert_3>` はルート UserID として実行されていないため、存在しないファイルまたはディレクトリー (`<insert_4>`) を作成できません。

#### 応答

このマシンに MQ インストール済み環境が存在すると考えられる場合、または新規の MQ インストール済み環境のエントリーを作成する場合は、ユーザー ID `root` としてコマンドを再実行してください。

**AMQ7541**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> がファイルまたはディレクトリー (<insert\_4>) にアクセスしようとしたが、アクセスは拒否されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> は、ルート UserID として実行されておらず、ファイルまたはディレクトリー (<insert\_4>) にアクセスできません。

**応答**

アクセスを許可するように許可を訂正するか (<insert\_4>)、十分な権限を指定してコマンドを再実行してください。

**AMQ7542**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> は、ファイルまたはディレクトリー (<insert\_4>) の許可が予期されたものではないことを検出しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> はルート UserID として実行されないため、ファイルまたはディレクトリー (<insert\_4>) の許可を訂正できません。

**応答**

許可を (<insert\_4>) に訂正するか、許可を訂正するための十分な権限を指定してコマンドを再実行してください。

**AMQ7543**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> は、ファイル (<insert\_4>) が壊れていることを検出しましたが、修復されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> は、ファイル (<insert\_4>) が壊れていることを検出したため、修復されました。

**応答**

<insert\_3> が修復されました (<insert\_4>)。WebSphere MQ プログラム dspmqinst からの出力が、このマシン上の WebSphere MQ インストール済み環境の状態を反映していることを確認できます。

**AMQ7544**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> は、(<insert\_4>) に保持されている構成データが壊れていることを検出しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> は、(<insert\_4>) に保持されている MQ 構成データにアクセスする必要がありますが、データが破壊されています。

**応答**

IBM サポートにお問い合わせください。

**AMQ7545**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> に無効なインストール・パスが指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> がインストール・パス (<insert\_4>) で提供されましたが、これは別のインストール名の項目と一致しています。

**応答**

インストール・パスを修正してコマンドを再実行してください。

**AMQ7546**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> に無効なインストール名が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> にインストール名 (<insert\_4>) が指定されましたが、これは別のインストール・パスの項目と一致しています。

**応答**

インストール済み環境の名前を修正してコマンドを再実行してください。

**AMQ7547**

項目が正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> がエントリーを正常に作成しました。

**応答**

なし。

**AMQ7548**

項目が正常に削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> が項目を正常に削除しました。

**応答**

なし。

**AMQ7549**

項目がありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> は、指定されたパラメーターに一致するエントリーを検出できませんでした。

**応答**

WebSphere MQ のプログラム dspmqinst を使用して、このマシン上のすべての WebSphere MQ インストール済み環境を表示してから、有効なパラメーターを使用してコマンドを再実行してください。

**AMQ7550**

項目がまだアクティブで、削除されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> は、削除される項目がまだアクティブなインストール済み環境であるため、削除されていないことを検出しました。

**応答**

インストール済み環境をアンインストールしてからコマンドを再実行してください。

**AMQ7551**

項目が正常にアンインストールされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> が項目を正常にアンインストールしました。

応答

なし。

#### AMQ7552

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> が正常に完了しませんでした。

重大度

20: エラー

説明

<insert\_3> がファイル (<insert\_4>) の問題を検出したため、コマンドを正常に完了できませんでした。

応答

WebSphere MQ のエラー・ログで、詳細を示す FFST ファイルがないか確認してください。

#### AMQ7553

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> が正常に完了しませんでした。

重大度

20: エラー

説明

<insert\_3> に予期しないエラーがあったため、コマンドを正常に完了できませんでした。

応答

WebSphere MQ のエラー・ログで、詳細を示す FFST ファイルがないか確認してください。

#### AMQ7554

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> に無効なインストール記述テキストが提供されました。

重大度

20: エラー

説明

<insert\_3> がインストール記述テキスト (<insert\_4>) とともに提供されましたが、これは許可されている最大長 (<insert\_1>) を超えています。

応答

インストール記述テキストを修正してコマンドを再実行してください。

#### AMQ7555

```
Usage: crtmqinst ((-n InstName | -p InstPath) [-d Text] )&P -d Descriptive text.
&N -n Installation name.
&N -p Installation path.
```

重大度

0

説明

これは正しい使用法を示したものです。

応答

なし。

#### AMQ7556

```
Usage: dltmqinst (-n InstName | -p InstPath)
&P -n Installation name.
&N -p Installation path.
```

重大度

0

説明

これは正しい使用法を示したものです。

応答

なし。

## AMQ7557

```
Usage: dspmqinst [-n InstName | -p InstPath]
&P -n Installation name.
&N -p Installation path.
```

### 重大度

0

### 説明

これは正しい使用法を示したものです。

### 応答

なし。

## AMQ7558

WebSphere MQ プログラム *<insert\_3>* が、パス (*<insert\_4>*) で無効なインストールを検出しました。別のバージョンの MQ との共存のためにサポートされている MQ の最小レベルは、バージョン *<insert\_5>* です。このメッセージは、MQ の旧バージョンが既にインストールされているマシンに MQ をインストールした結果であるか、FixPack がパス (*<insert\_4>*) のインストール済み環境から削除された可能性があります。

このマシンの構成はサポートされていません。パス内のインストール済み環境 (*<insert\_4>*) をアンインストールするか、サポートされている最小レベルにアップグレードするか、または MQ の 2 次インストール済み環境をすべてアンインストールする必要があります。

### 重大度

40: 停止エラー

### 説明

*<insert\_3>* が、パス (*<insert\_4>*) に無効なインストールを検出しました。別のバージョンの MQ との共存のためにサポートされている MQ の最小レベルは、バージョン *<insert\_5>* です。このメッセージは、MQ の旧バージョンが既にインストールされているマシンに MQ をインストールした結果であるか、FixPack がパス (*<insert\_4>*) のインストール済み環境から削除された可能性があります。

### 応答

このマシンの構成はサポートされていません。パス内のインストール済み環境 (*<insert\_4>*) をアンインストールするか、サポートされている最小レベルにアップグレードするか、2 次 MQ インストール済み環境をアンインストールする必要があります。

## AMQ7559

WebSphere MQ プログラム *<insert\_3>* が無効なインストールを検出しました。

### 重大度

40: 停止エラー

### 説明

*<insert\_3>* が、パス (*<insert\_4>*) に無効なインストールを検出しました。別のバージョンの MQ との共存のためにサポートされている MQ の最小レベルは、バージョン *<insert\_5>* です。このメッセージは、MQ の旧バージョンが既にインストールされているマシンに MQ をインストールした結果であるか、FixPack がパス (*<insert\_4>*) のインストール済み環境から削除された可能性があります。

### 応答

このマシンの構成はサポートされていません。パス内のインストール済み環境 (*<insert\_4>*) をアンインストールするか、サポートされている最小レベルにアップグレードするか、または MQ の 2 次インストール済み環境をすべてアンインストールする必要があります。

## AMQ7560

WebSphere MQ プログラム *<insert\_3>* がファイル (*<insert\_4>*) のロックを取得できませんでした。

### 重大度

20: エラー

### 説明

*<insert\_3>* がファイル (*<insert\_4>*) をロックして、ファイルの読み取りまたは書き込みによってファイルが破壊されないようにしようとしました。

**応答**

ファイル許可が誤っているか、別のプロセスが <insert\_3> によるロックの取得を妨げている可能性があります。後者の場合、ここでプロセス ID (<insert\_1>) に指定された値はゼロ以外の値になります。この場合は、そのプロセスの終了時にコマンドを再実行してください。

**AMQ7561**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> は、システム・リソース不足のために正常に完了しませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> は、ストレージ、ハンドル、ディスク・スペースなどのシステム・リソースを取得できなかったため、コマンドを正常に完了できませんでした。

**応答**

WebSphere MQ のエラー・ログで、詳細を示す FFST ファイルがないか確認してください。使用可能なシステム・リソースが十分にあるときに、コマンドを再実行してください。

**AMQ7562**

WebSphere MQ プログラム <insert\_3> が、(<insert\_4>) に保持されている MQ 構成データにアクセスしようとしたが、アクセスが拒否されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> は、(<insert\_4>) に保持されている MQ 構成データにアクセスする必要がありますが、それにアクセスする許可がありません。

**応答**

アクセスを許可するように許可を訂正するか (<insert\_4>)、十分な権限を指定してコマンドを再実行してください。

**AMQ7563**

項目が正常に変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> が項目を正常に変更しました。

**応答**

なし

**AMQ7601**

重複する XA リソース・マネージャーは無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

構成ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> に、重複する XA リソース・マネージャー <insert\_5> が含まれています。これは、属性 <insert\_4> には無効です。各 XA リソース・マネージャーには、固有の名前を付ける必要があります。

**応答**

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

**AMQ7601 (Windows)**

重複する XA リソース・マネージャー <insert\_5> は、構成データの <insert\_3> の属性 <insert\_4> には無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

構成データ内のキー <insert\_3> に、重複する XA リソース・マネージャー <insert\_5>が含まれています。これは、属性 <insert\_4>には無効です。各 XA リソース・マネージャーには、固有の名前を付ける必要があります。

#### 応答

構成データの内容を調べ、操作をやり直してください。

#### AMQ7602 (IBM i)

MQ コミットメント制御出口プログラムが正しく呼び出されませんでした。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

WebSphere MQ コミットメント制御出口プログラムが、誤ったパラメーターを指定して呼び出されました。

#### 応答

プログラムがコミットまたはロールバックの一部として OS/400 によって呼び出された場合は、ジョブ・ログを保存し、 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ7603

WebSphere MQ は、無効なリソース・マネージャー <insert\_3>で構成されています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

リソース・マネージャー <insert\_3> の XA スイッチ・ファイル <insert\_4> は、別のキュー・マネージャーを外部リソース・マネージャーとして構成しようとしたことを示しています。これは許可されないため、キュー・マネージャーは終了します。

#### 応答

問題の XAResourceManager スタンザを qm.ini 構成ファイルから除去して、キュー・マネージャーを再始動します。

#### AMQ7603 (Windows)

WebSphere MQ は、無効なリソース・マネージャー <insert\_3> を使用して構成されています。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

リソース・マネージャー <insert\_3> の XA スイッチ・ファイル <insert\_4> は、別のキュー・マネージャーを外部リソース・マネージャーとして構成しようとしたことを示しています。これは許可されないため、キュー・マネージャーは終了します。

#### 応答

問題の XAResourceManager スタンザを構成データから除去して、キュー・マネージャーを再始動します。

#### AMQ7604

XA リソース・マネージャー <insert\_3> が、 <insert\_4>に対して呼び出されましたが、使用できませんでした。キュー・マネージャーは、このリソース・マネージャーなしで続行されます。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

XA リソース・マネージャー <insert\_3> は、xa\_open 要求で XAER\_RMERR を返すか、または別のものに対して呼び出されたときに XAER\_RMFAIL を返すことによって、それが使用不可であることを示しました。通常は、これはリソース・マネージャーがシャットダウンしたことを示します。この場合、リソース・マネージャーは新規トランザクションに参加することはできません。関係のある未完了トラ

ンザクションはすべてバックアウトされ、すべての未確定のトランザクションはリソース・マネージャーとの接続が復旧した時にのみ解決されます。可能であれば、キュー・マネージャーから詳細なメッセージが発行されます。この問題が xa\_open 要求で発生し、リソース・マネージャーが使用可能であるはずの場合、構成の問題が考えられます。

#### 応答

リソース・マネージャーが使用できない原因を確認してください。「qm.ini」構成ファイルのリソース・マネージャーに、無効な XAOpenString が定義されている可能性があります。その場合、キュー・マネージャーを停止し再始動して、すべての変更が適用されるようにします。または、キュー・マネージャーはこのリソース・マネージャーにおけるリソースの制限に達した可能性があります。例えば、リソース・マネージャーは、すべてのキュー・マネージャー・プロセスによる同時接続には対応できない場合があります、その場合、チューニング・パラメーターのいずれかを変更する必要があります。

#### AMQ7604 (IBM i)

XA リソース・マネージャーは呼び出された時、使用可能ではありませんでした。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

XA リソース・マネージャー <insert\_3> は、xa\_open 要求で XAER\_RMERR を返すか、<insert\_4> に対して呼び出されたときに XAER\_RMFAIL を返すことによって、それが使用不可であることを示しました。キュー・マネージャーは、このリソース・マネージャーなしで続行されます。通常は、これはリソース・マネージャーがシャットダウンしたことを示します。この場合、リソース・マネージャーは新規トランザクションに参加することはできません。関係のある未完了トランザクションはすべてバックアウトされ、すべての未確定のトランザクションはリソース・マネージャーとの接続が復旧した時にのみ解決されます。可能であれば、キュー・マネージャーから詳細なメッセージが発行されます。この問題が xa\_open 要求で発生し、リソース・マネージャーが使用可能であるはずの場合、構成の問題が考えられます。

#### 応答

リソース・マネージャーが使用できない原因を確認してください。「qm.ini」構成ファイルのリソース・マネージャーに、無効な XAOpenString が定義されている可能性があります。その場合、キュー・マネージャーを停止し再始動して、すべての変更が適用されるようにします。または、キュー・マネージャーはこのリソース・マネージャーにおけるリソースの制限に達した可能性があります。例えば、リソース・マネージャーは、すべてのキュー・マネージャー・プロセスによる同時接続には対応できない場合があります、その場合、チューニング・パラメーターのいずれかを変更する必要があります。

#### AMQ7605

XA リソース・マネージャー <insert\_3> が、<insert\_4> に対して呼び出されたときに、予期しない戻りコード <insert\_1> を戻しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

WebSphere MQ は、<insert\_4> エントリー・ポイントで XA リソース・マネージャー <insert\_3> を呼び出したときに、予期しない戻りコードを受け取りました。これは、MQ またはリソース・マネージャー内の内部エラーを示しています。

#### 応答

エラーの原因を調べてください。障害のトレースを使用して、MQ とリソース・マネージャーの間の XA フローを調べることができます。MQ は、RMId <insert\_2> をこのリソース・マネージャーに割り振りました。これは関係するリソース・マネージャーに関連したフローを分離するときに役立ちます。エラーが xa\_commit または xa\_rollback 要求で起こっている場合には、キュー・マネージャーが再始動されるまで、キュー・マネージャーはこのトランザクションのコミットまたはロールバック指示を再送しません。トランザクション未確定は、X<insert\_5> の以下の XID によって識別されます。エラーがキュー・マネージャー内にあると考えられる場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が解決されるまで、問題を記述している情報は破棄しないでください。

## AMQ7605 (IBM i)

XA リソース・マネージャーが予期しない戻りコードを返しました。

### 重大度

20: エラー

### 説明

WebSphere MQ は、<insert\_4> エントリー・ポイントで XA リソース・マネージャー <insert\_3> を呼び出したときに、予期しない戻りコード <insert\_1> を受け取りました。これは、MQ またはリソース・マネージャー内の内部エラーを示しています。

### 応答

エラーの原因を調べてください。障害のトレースを使用して、MQ とリソース・マネージャーの間の XA フローを調べることができます。MQ は、RMId <insert\_2> をこのリソース・マネージャーに割り振りました。これは関係するリソース・マネージャーに関連したフローを分離するときに役立ちます。エラーが xa\_commit または xa\_rollback 要求で起こっている場合には、キュー・マネージャーが再始動されるまで、キュー・マネージャーはこのトランザクションのコミットまたはロールバック指示を再送達しません。トランザクション未確定は、X<insert\_5>の以下のXIDによって識別されます。エラーがキュー・マネージャー内にあると考えられる場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が解決されるまで、問題を記述している情報は破棄しないでください。

## AMQ7606

トランザクションがコミットされましたが、1つ以上のリソース・マネージャーがバックアウトしました。

### 重大度

20: エラー

### 説明

WebSphere MQ が、外部リソース・マネージャーが関与するトランザクションのコミット操作を処理していました。これらのリソース・マネージャーのうち、1つ以上がコミット要求に従うことができず、代わりに更新をロールバックしました。トランザクションの出力が混合状態になり、これらのリソース・マネージャーによって所有されているリソースが同期されなくなった可能性があります。MQ は、さらにメッセージを出して、更新のコミットに失敗したリソース・マネージャーを示します。

### 応答

混合結果のトランザクションは、X<insert\_3>の以下のXIDによって識別されます。障害のあるリソース・マネージャーを識別するメッセージにも、これと同じXIDが含まれます。トランザクションが完了している場合は、dspmqtrn コマンドによって表示されず、その他すべてのトランザクション参加プログラムは更新をコミットします。dspmqtrn コマンドによってトランザクションが表示される場合は、いくつかの参加プログラムがまだ準備済み状態です。データ保全性を保持するために、障害が起こったリソース・マネージャーのローカル側でリカバリー・ステップを実行する必要があります。

## AMQ7607

トランザクションがロールバックされましたが、1つ以上のリソース・マネージャーがコミットしました。

### 重大度

20: エラー

### 説明

WebSphere MQ が、外部リソース・マネージャーが関与するトランザクションをロールバックしていました。これらのリソース・マネージャーのうち、1つ以上がロールバック要求に従うことができず、代わりに更新をコミットしました。トランザクションの出力が混合状態になり、これらのリソース・マネージャーによって所有されているリソースが同期されなくなった可能性があります。MQ は、さらにメッセージを出して、更新のロールバックに失敗したリソース・マネージャーを示します。

### 応答

混合結果のトランザクションは、X<insert\_3>の以下のXIDによって識別されます。障害のあるリソース・マネージャーを識別するメッセージにも、これと同じXIDが含まれます。トランザクションが完了している場合は、dspmqtrn コマンドによって表示されず、その他すべてのトランザクション参加プ

プログラムは更新をロールバックします。 `dspmqtrn` コマンドによってトランザクションが表示される場合は、いくつかの参加プログラムがまだ準備済み状態です。データ保全性を保持するために、障害が起こったリソース・マネージャーのローカル側でリカバリー・ステップを実行する必要があります。

#### **AMQ7608**

XA リソース・マネージャーは、ヒューリスティックな戻りコードを返しました。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

このメッセージは、これより前に出された、トランザクションの混合出力を報告する AMQ7606 メッセージに関連しています。これは、更新のコミットに失敗したリソース・マネージャーの 1 つ (`<insert_4>`) を識別します。この障害に関連したトランザクションは、X`<insert_3>`の以下の XID によって識別されます。

#### **応答**

リソース・マネージャーから返された戻りコード `<insert_1>` を使用して、障害の影響を判別してください。この戻りコードは、リソース・マネージャーがトランザクションの出力に関してヒューリスティック判定を行い、キュー・マネージャーのコミット決定と異なっていることを示します。データ保全性を保持するために、このリソース・マネージャーのローカル側でリカバリー・ステップを実行する必要があります。

#### **AMQ7609**

XA リソース・マネージャーは、ヒューリスティックな戻りコードを返しました。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

このメッセージは、これより前に出された、トランザクションの混合出力を報告する AMQ7607 メッセージに関連しています。これは、更新のロールバックに失敗したリソース・マネージャーの 1 つ (`<insert_4>`) を識別します。この障害に関連したトランザクションは、X`<insert_3>`の以下の XID によって識別されます。

#### **応答**

リソース・マネージャーから返された戻りコード `<insert_1>` を使用して、障害の影響を判別してください。この戻りコードは、リソース・マネージャーがトランザクションの出力に関してヒューリスティック判定を行い、キュー・マネージャーのロールバック決定と異なっていることを示します。データ保全性を保持するために、このリソース・マネージャーのローカル側でリカバリー・ステップを実行する必要があります。

#### **AMQ7612**

切替え呼び出し例外

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

リソース・マネージャー・スイッチ `<insert_3>`の呼び出し時に、例外番号 `<insert_1>` が発生しました。

#### **応答**

リソース・マネージャー・スイッチが壊れていないか確認してください。

#### **AMQ7622**

WebSphere MQ は、リソース・マネージャー `<insert_3>`の XA スイッチ・ロード・ファイルをロードできませんでした。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

XA スイッチ・ファイル `<insert_4>`のロード中にエラーが発生しました。始動時にエラーが発生した場合、キュー・マネージャーは終了する。その他の時点の場合は、いずれもキュー・マネージャーはこのリソース・マネージャーなしで処理を続行します。つまり、グローバル・トランザクションに参加できなくなります。また、キュー・マネージャーはスイッチ・ファイルのロードを定期的な間隔で再試行するため、ロードの問題が解決すると、リソース・マネージャーは再び参加できるようになります。

## 応答

前に出されているメッセージの中から、ロード障害の理由を示しているものを見つけてください。システム・エラーが原因でロードが失敗した場合は、メッセージ AMQ6175 が出力されます。その場合は、メッセージ AMQ6175 に示される指示に従い問題を解決してください。この問題に関するメッセージまたは FFST 情報が事前に出されていない場合は、スイッチ・ロード・ファイルの名前が正しいこと、およびキュー・マネージャーが動的にロードできるディレクトリーにあることを確認してください。最も簡単な方法は、スイッチ・ロード・ファイルを完全修飾名として定義することです。キュー・マネージャーがまだ実行中の場合、構成データに対する変更を適用できるように再始動する必要があることに注意してください。

## AMQ7623

WebSphere MQ は XA リソース・マネージャーとともに構成されていません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャーは、XA リソース・マネージャー <insert\_3> がキュー・マネージャーの qm.ini ファイルから除去されたことを認識しました。しかし、まだ未確定の <insert\_1> トランザクションに関係しているとしてログに記録されました。キュー・マネージャーはこれらのトランザクションを解決できません。キュー・マネージャーは、このリソース・マネージャーなしで続行されます。

## 応答

最初に、問題のキュー・マネージャーの qm.ini 構成ファイルが誤って変更されたために「XAResourceManager」スタanzasが除去されていないこと、またはいずれかのリソース・マネージャーの「Name」が変更されていないことを確認してください。qm.ini ファイルが誤って変更された場合は、変更が反映されるようにするために、キュー・マネージャーを停止して再始動する前に、qm.ini ファイル内のリソース・マネージャー <insert\_3> を復元する必要があります。意図的にリソース・マネージャーを qm.ini ファイルから除去した場合、問題のリソース・マネージャーが未確定の状態になっている可能性があるため、そのアクションによる健全性への影響を検討してください。これが該当しないことを確信している場合は、キュー・マネージャーが問題のトランザクションを無視できるように、「rsvmqtrn」コマンドを使用してリソース・マネージャーの代わりに結果を送達することができます。このようなアクションによって健全性の問題が引き起こされないかどうか確認できない場合は、次のキュー・マネージャーの再始動時にキュー・マネージャーがリソース・マネージャーに接続して問題のトランザクションを自動的に解決できるように、qm.ini ファイルのリソース・マネージャーの復元を検討してください。

## AMQ7623 (Windows)

WebSphere MQ は、未確定トランザクションに関係する可能性がある XA リソース・マネージャー <insert\_3> を使用して構成されていません。キュー・マネージャーは、このリソース・マネージャーなしで続行されます。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャーは、XA リソース・マネージャー <insert\_3> がキュー・マネージャーのレジストリー項目から除去されたことを認識しました。しかし、まだ未確定の <insert\_1> トランザクションに関係しているとしてログに記録されました。キュー・マネージャーはこれらのトランザクションを解決できません。

## 応答

問題のキュー・マネージャーの構成データ項目が誤って変更されたために「XAResourceManager」スタanzasが除去されていないこと、またはいずれかのリソース・マネージャーの「Name」が変更されていないことを確認してください。

構成データ項目が誤って変更された場合は、停止する前に構成データ内のリソース・マネージャー <insert\_3> を復元してから、変更にアクセスするためにキュー・マネージャーを再始動する必要があります。

意図的にリソース・マネージャーを構成データから除去した場合、問題のリソース・マネージャーが未確定の状態になっている可能性があるため、そのアクションによる健全性への影響を検討してください。

これが該当しないことを確信している場合は、リソース・マネージャーがキュー・マネージャーに問題のトランザクションを無視できることを通知するように、「rsvmqtrn」コマンドを使用することができます。

「rsvmqtrn」コマンドを使用すると保全性の問題が引き起こされる可能性がある場合、次回のキュー・マネージャーの再始動時にキュー・マネージャーがリソース・マネージャーに接続して問題のトランザクションを自動的に解決できるように、構成データのリソース・マネージャーの復元を検討してください。

#### **AMQ7624**

XA リソース・マネージャー <insert\_3>に対する <insert\_4> 呼び出し中に例外が発生しました。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

XA リソース・マネージャーに対する呼び出しで例外が検出されました。キュー・マネージャーは、呼び出しからの戻りコード XAER\_RMERR を想定して、作業を続けます。

#### **応答**

例外を記述する FFST が作成されています。この FFST および追加の FFST を使用して、障害の原因を判別してください。問題のトレースは、関係するキュー・マネージャーとリソース・マネージャー間の XA フローを識別するために便利です。MQ は、このリソース・マネージャーに <insert\_1> の RMIId を割り振りました。これを使用して、関係するフローを特定してください。まず、問題解決のためにリソース・マネージャーの提供業者に連絡してください。ただし、問題がキュー・マネージャー内にあると考えられる場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が解決されるまで、問題を記述している情報は廃棄しないでください。

#### **AMQ7625**

XA リソース・マネージャー <insert\_3> が再び使用可能になりました。

#### **重大度**

0: 情報

#### **説明**

WebSphere MQ が、使用不可になっていたリソース・マネージャーとの接続の回復を処理しました。このリソース・マネージャーに関係するすべての未確定トランザクションは解決されます。これで、リソース・マネージャーは新しいトランザクションに参加できるようになりました。

#### **応答**

なし。

#### **AMQ7626**

XA リソース・マネージャーの初期設定が失敗しました。詳細については、エラー・ログを参照してください。

#### **重大度**

20: エラー

#### **説明**

キュー・マネージャーは、qm.ini 構成ファイルで定義されている 1 つ以上の XA リソース・マネージャーの初期設定に失敗しました。

#### **応答**

エラーを訂正し、キュー・マネージャーを再始動してください。

#### **AMQ7626 (Windows)**

XA リソース・マネージャーの初期設定が失敗しました。詳細については、エラー・ログを参照してください。

#### **重大度**

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャーは、構成データで定義されている 1 つ以上の XA リソース・マネージャーの初期設定に失敗しました。

## 応答

エラーを訂正し、キュー・マネージャーを再始動してください。

### AMQ7627

XA リソース・マネージャー <insert\_3> は、xa\_open のために呼び出されたときに使用できませんでした。キュー・マネージャーは、このリソース・マネージャーなしで続行されます。

## 重大度

10: 警告

## 説明

XA リソース・マネージャー <insert\_3> が、xa\_open 要求で XAER\_RMERR を戻すことによって、それが使用不可であることを示しました。通常は、これはリソース・マネージャーがシャットダウンしたことを示します。この場合、リソース・マネージャーは新規トランザクションに参加することはできません。関係のある未完了トランザクションはすべてバックアウトされ、すべての未確定のトランザクションはリソース・マネージャーとの接続が復旧した時にのみ解決されます。可能であれば、キュー・マネージャーから詳細なメッセージが発行されます。リソース・マネージャーが使用可能な場合は、構成に問題があるか、32 ビット・インスタンスの Db2 が使用されている可能性があります。WebSphere MQ プロセスは 64 ビットであり、Db2 が 32 ビット・インスタンスの場合は 64 ビット・プロセスをサポートしないため、このプラットフォームでは使用できません。

## 応答

リソース・マネージャーが使用できない原因を確認してください。「qm.ini」構成ファイルのリソース・マネージャーに、無効な XAOpenString が定義されている可能性があります。その場合、キュー・マネージャーを停止し再始動して、すべての変更が適用されるようにします。または、キュー・マネージャーはこのリソース・マネージャーにおけるリソースの制限に達した可能性があります。例えば、リソース・マネージャーは、すべてのキュー・マネージャー・プロセスによる同時接続には対応できない場合があります。その場合、チューニング・パラメーターのいずれかを変更する必要があります。

### AMQ7701

DMPMQLOG コマンドが開始されました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DMPMQLOG コマンドが開始され、要求を処理しています。

## 応答

なし。

### AMQ7702

DMPMQLOG コマンドが正常に終了しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DMPMQLOG コマンドが要求の処理を終了して、エラーは検出されませんでした。

## 応答

なし。

### AMQ7703

DMPMQLOG コマンドが、無効な値 <insert\_4> を指定したオプション <insert\_3> を使用しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

無効なオプション値を指定して DMPMQLOG コマンドを開始しました。オプション <insert\_3> の <insert\_4> 値が欠落しているか、フォーマットが正しくありません。

## 応答

コマンド構文を参照してから、コマンドを再試行してください。

**AMQ7704**

DMPMQLOG コマンドが無効なオプション <insert\_3>を使用しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3>の無効なオプションを指定して、DMPMQLOG コマンドを開始しました。

**応答**

コマンド構文を参照して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7705**

使用法: dmpmqlog [-b | -s StartLSN | -n ExtentNumber] [-e EndLSN] [-f LogFilePath] [-m QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ7706**

DMPMQLOG コマンドが、誤ったキュー・マネージャー名 <insert\_3> またはパス <insert\_4>を使用しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドは、キュー・マネージャー名として <insert\_3> を使用し、表示されている場合は、<insert\_3>のディレクトリー・パスとして <insert\_4> を使用しました。<insert\_3> または <insert\_4> (あるいはその両方) が正しくありません。<insert\_4> が表示されていない場合は、正しくない <insert\_3> です。

エラーの理由として、次のことが考えられます。

<insert\_3> が既存のキュー・マネージャー名ではない。

MQ システム初期化 (INI) ファイル内の <insert\_3> のエントリーが正しくありません。

<insert\_4> が <insert\_3>の正しいパスではありません。

オプション -m (キュー・マネージャー名オプション) に値を指定してコマンドを開始した場合、この値がキュー・マネージャー名として使用されます。それ以外の場合は、デフォルトのキュー・マネージャー名が使用されます。

**応答**

<insert\_3> が既存のキュー・マネージャー名であることを確認してください。MQ システムの初期化 (INI) ファイルを調べて、<insert\_3> とそれに関連する項目が正しいことを確認してください。

<insert\_4> が表示されている場合は、それが <insert\_3>の正しい MQ システム・ディレクトリー・パスであることを確認してください。

**AMQ7706 (Windows)**

DMPMQLOG コマンドが、誤ったキュー・マネージャー名 <insert\_3> またはパス <insert\_4>を使用しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドは、キュー・マネージャー名として <insert\_3> を使用し、表示されている場合は、<insert\_3>のディレクトリー・パスとして <insert\_4> を使用しました。<insert\_3> または <insert\_4> (あるいはその両方) が正しくありません。<insert\_4> が表示されていない場合は、正しくない <insert\_3> です。

エラーの理由として、次のことが考えられます。

<insert\_3> が既存のキュー・マネージャー名ではない。

MQ 構成データ内の <insert\_3> の項目が正しくありません。

<insert\_4> が <insert\_3> の正しいパスではありません。

オプション -m (キュー・マネージャー名オプション) に値を指定してコマンドを開始した場合、この値がキュー・マネージャー名として使用されます。それ以外の場合は、デフォルトのキュー・マネージャー名が使用されます。

#### 応答

<insert\_3> が既存のキュー・マネージャー名であることを確認してください。MQ 構成データを調べて、<insert\_3> とそれに関連する項目が正しいことを確認してください。<insert\_4> が表示されている場合は、それが <insert\_3> の正しい MQ システム・ディレクトリー・パスであることを確認してください。

#### AMQ7706 (IBM i)

DMPMQLOG コマンドは、誤ったキュー・マネージャー名またはパスを使用しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

DMPMQLOG コマンドは、キュー・マネージャー名として <insert\_3> を使用し、表示されている場合は、<insert\_3> のディレクトリー・パスとして <insert\_4> を使用しました。<insert\_3> または <insert\_4> (あるいはその両方) が正しくありません。<insert\_4> が表示されていない場合は、正しくない <insert\_3> です。

エラーの理由として、次のことが考えられます。

<insert\_3> が既存のキュー・マネージャー名ではない。

MQ システム初期化 (INI) ファイル内の <insert\_3> のエントリーが正しくありません。

<insert\_4> が <insert\_3> の正しいパスではありません。

オプション -m (キュー・マネージャー名オプション) に値を指定してコマンドを開始した場合、この値がキュー・マネージャー名として使用されます。それ以外の場合は、デフォルトのキュー・マネージャー名が使用されます。

#### 応答

<insert\_3> が既存のキュー・マネージャー名であることを確認してください。MQ システムの初期化 (INI) ファイルを調べて、<insert\_3> とそれに関連する項目が正しいことを確認してください。

<insert\_4> が表示されている場合は、それが <insert\_3> の正しい MQ システム・ディレクトリー・パスであることを確認してください。

#### AMQ7707

DMPMQLOG コマンドが失敗しました: CompCode = 0x<insert\_1>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

DMPMQLOG コマンドがエラーを検出し、MQ 記録ルーチンが呼び出されました。この原因として、ログ・ファイルの損傷、キュー・マネージャーの初期化での問題、または内部 MQ 障害が考えられます。

#### 応答

DMPMQLOG によって使用されるキュー・マネージャー (-m コマンド・オプションを使用して指定されているかデフォルト設定されている) が存在し、現在実行されていないことを確認してください。キュー・マネージャーが存在しない場合は、既存キュー・マネージャーを指定してコマンドを再試行してください。キュー・マネージャーが実行されている場合は停止してから、コマンドを再試行してください。その他の場合は、システムに提供されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。完了コード (CompCode) をメモし、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ7708

DMPMQLOG コマンドが、無効なデフォルト・キュー・マネージャー名を使用しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オプション -m (キュー・マネージャー名オプション) を指定せずに DMPMQLOG コマンドを開始したため、MQ のデフォルト・キュー・マネージャー名が使用されました。しかし、そのデフォルト名が見つからなかったか、または無効でした。

**応答**

デフォルト・キュー・マネージャー名が存在し、有効であることを確認し、コマンドを再試行してください。

**AMQ7709**

DMPMQLOG コマンドで、無効な組み合わせのオプションが使用されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オプション -b (基本 LSN オプション)、-s (開始 LSN オプション)、および -n (エクステント番号オプション) の無効な組み合わせを指定して DMPMQLOG コマンドを開始しました。これらのオプションは、いずれか 1 つのみを指定でき、それ以外の場合はいずれも指定できません。

**応答**

コマンド構文を参照して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7710**

DMPMQLOG コマンドが、循環ログには無効なオプション -n を使用しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

オプション -n (エクステント番号オプション) を指定して DMPMQLOG コマンドを開始しましたが、これは MQ ログが循環として定義されている場合は無効です。

**応答**

別のオプションを使用して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7711**

DMPMQLOG コマンドでオプション -m が使用されましたが、その値が長すぎました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_1> 文字を超える値を指定したオプション -m (キュー・マネージャー名オプション) を指定して、DMPMQLOG コマンドを開始しました。

**応答**

短いキュー・マネージャー名を指定して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7712**

DMPMQLOG コマンドでオプション -f を使用しましたが、その値が長すぎました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_1> 文字を超える値を指定したオプション -f (ログ・ファイル・パス・オプション) を指定して、DMPMQLOG コマンドを開始しました。

**応答**

短いログ・ファイル・パス名を指定して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7713**

DMPMQLOG コマンドが、十分な記憶域を割り振ることができませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドがいくつかの記憶域を割り振ることができませんでした。

**応答**

いくつかのストレージを解放し、コマンドを再実行します。

**AMQ7714**

DMPMQLOG コマンドがログの終りに到達しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DMPMQLOG コマンドが、すべてのログ・データを処理して、ログの終わりに到達しました。

**応答**

なし。

**AMQ7715**

DMPMQLOG コマンドがファイル <insert\_3> をオープンできません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドが、ファイル <insert\_3> を読み取り用にオープンできませんでした。

**応答**

ファイルが存在し、読み取りのためにオープンできること、およびファイルにアクセスする権限があることを確認してから、コマンドを再試行してください。

**AMQ7716**

DMPMQLOG コマンドが異常終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DMPMQLOG コマンドが要求の処理を終了しましたが、エラーが検出されました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

**応答**

コマンドによって出された前のメッセージを参照してください。

**AMQ7717**

DMPMQLOG コマンドが初期化に失敗しました: CompCode = 0x< insert\_1>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドが初期化に失敗し、MQ 記録ルーチンが呼び出されました。この理由として、キュー・マネージャーがすでに実行中であることが考えられます。完了コードを使用して、エラーを識別してください。

**応答**

DMPMQLOG によって使用されるキュー・マネージャー (-m コマンド・オプションを使用して指定されているかデフォルト設定されている) が存在し、現在実行されていないことを確認してください。キュー・マネージャーが実行されている場合は停止してから、コマンドを再試行してください。その他の場合は、システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ7718**

DMPMQLOG コマンドは、キュー・マネージャー名にデフォルトの <insert\_3> を使用しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オプション `-m` (キュー・マネージャー名オプション) を指定せずに `DMPMQLOG` コマンドを開始したため、デフォルト値 `<insert_3>` が使用されています。この値は、デフォルトのキュー・マネージャー名から取得されます。

**応答**

なし。

**AMQ7718 (IBM i)**

`DMPMQLOG` コマンドがデフォルト・キュー・マネージャー名を使用しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オプション `-m` (キュー・マネージャー名オプション) を指定せずに `DMPMQLOG` コマンドを開始したため、デフォルト値 `<insert_3>` が使用されています。この値は、MQ のデフォルト・キュー・マネージャー名から取得されます。

**応答**

なし。

**AMQ7719**

`DMPMQLOG` コマンドが、ダンプの開始位置にデフォルトの `<insert_3>` を使用しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オプション `-b` (基本 LSN オプション)、オプション `-s` (開始 LSN オプション)、またはオプション `-n` (エクステンツ番号オプション) を指定せずに `DMPMQLOG` コマンドを開始したため、デフォルト値 `<insert_3>` が使用されています。この値は、ログのアクティブな部分の先頭レコードのログ順序番号 (LSN) であり、ダンプを開始する位置として使用されます。

**応答**

なし。

**AMQ7719 (IBM i)**

`DMPMQLOG` コマンドがデフォルトのダンプ開始位置を使用しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オプション `-b` (基本 LSN オプション)、オプション `-s` (開始 LSN オプション)、またはオプション `-n` (エクステンツ番号オプション) を指定せずに `DMPMQLOG` コマンドを開始したため、デフォルト値 `<insert_3>` が使用されています。この値は、ログのアクティブな部分の先頭レコードのログ順序番号 (LSN) であり、ダンプを開始する位置として使用されます。

**応答**

なし。

**AMQ7720**

`DMPMQLOG` コマンドがエクステンツ `<insert_1>` を使用していますが、現在のエクステンツは `<insert_2>` です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

`<insert_1>` の値でオプション `-n` (エクステンツ番号オプション) を指定して `DMPMQLOG` コマンドを開始しましたが、この値は現在使用されているエクステンツを表す `<insert_2>` より大きくなっています。

**応答**

オプション `-n` を使用する場合、現在使用中のエクステンツ番号以下の値を指定してください。

**AMQ7721**

DMPMQLOG コマンドが、エクステント番号 <insert\_1>にログ・レコードを検出ませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DMPMQLOG コマンドは、通常の処理中にこのエクステントでログ・レコードを検出ませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ7722**

DMPMQLOG コマンドが、キュー・マネージャー <insert\_3>のオブジェクト・カタログを検出できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドが <insert\_3> という名前のキュー・マネージャーを使用していますが、マネージャーのオブジェクト・カタログ・ファイルが見つかりません。このファイルは、キュー・マネージャーの作成時に作成されているはずですが。

**応答**

オブジェクト・カタログ・ファイルのロケーションおよび名前の説明について、「システム管理ガイド」を参照してください。ファイルが存在し、このコマンドで使用可能であるようにしてください。存在しない場合は、キュー・マネージャーを再作成する必要があります。

**AMQ7722 (IBM i)**

DMPMQLOG コマンドはオブジェクト・カタログを見つけることができません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DMPMQLOG コマンドが <insert\_3> という名前のキュー・マネージャーを使用していますが、マネージャーのオブジェクト・カタログ・ファイルが見つかりません。このファイルは、キュー・マネージャーの作成時に作成されているはずですが。

**応答**

オブジェクト・カタログ・ファイルのロケーションおよび名前の説明について、「システム管理ガイド」を参照してください。ファイルが存在し、このコマンドで使用可能であるようにしてください。存在しない場合は、キュー・マネージャーを再作成する必要があります。

**AMQ7723**

DMPMQLOG コマンドが、要求されたログ順序番号 (LSN) を見つけることができませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

LSN を指定して DMPMQLOG コマンドが開始されましたが、この番号はログで見つかりませんでした。

**応答**

既存の LSN を調べて、コマンドを再試行してください。

**AMQ7724**

DMPMQLOG コマンドが、要求されたエクステント番号を使用できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

エクステント番号を指定して DMPMQLOG コマンドが開始されましたが、この番号はログの終わりを超えています。

**応答**

既存のエクステント番号を調べて、コマンドを再試行してください。

**AMQ7725**

DMPMQLOG コマンドが、古いログ順序番号 (LSN) を見つけることができません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

ログの基本 LSN より古い LSN を指定して DMPMQLOG コマンドが開始されました。しかし、指定された LSN は見つかりませんでした。

**応答**

既存の LSN を調べて、コマンドを再試行してください。

**AMQ7726**

循環ログに正しくない値を指定したオプション `-s` が DMPMQLOG コマンドで使用されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

循環として定義されているログの基本 LSN より小さい値をオプション `-s` (開始 LSN オプション) に指定して、DMPMQLOG コマンドを開始しました。基本 LSN より小さい LSN 値を指定できるのは、リニア・ログを使用する場合のみです。

**応答**

循環ログでオプション `-s` を使用する場合は、ログの基本 LSN 以上のオプション値を指定して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7751 (IBM i)**

MIGRATEMQM プログラムが開始中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MIGRATEMQM プログラムを開始しました。

**応答**

なし。

**AMQ7752 (IBM i)**

MIGRATEMQM が正常に完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MIGRATEMQM プログラムがキュー・マネージャーの移行を完了して、エラーは検出されませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ7753 (IBM i)**

MIGRATEMQM がエラーにより失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

以前リストされた、ジョブ・ログ中のメッセージを参照してください。エラーを訂正してから、MIGRATEMQM プログラムを再始動してください。

**応答**

なし。

**AMQ7754 (IBM i)**

MIGRATEMQM がエラーを検出し、続行できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このジョブ・ログまたは関連するジョブ・ログで以前にリストされたメッセージを参照してください。エラーを訂正してから、MIGRATEMQM プログラムを再始動してください。

**応答**

なし。

**AMQ7755 (IBM i)**

必要なジャーナル・レシーバーを見つけられません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MIGRATEMQM プログラムは移行に使用するジャーナル・レシーバーを見つけようとしていましたが、この操作には、現在、システム上に存在しないジャーナルまたはジャーナル・レシーバーへのアクセスが必要でした。

**応答**

必要なジャーナルまたはジャーナル・レシーバーをバックアップから復元してください。その後、MIGRATEMQM プログラムを再始動してください。

**AMQ7756 (IBM i)**

必要なジャーナル項目を見つけられません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MIGRATEMQM プログラムは、移行に必要なジャーナル項目を取得できませんでした。必要なジャーナル・レシーバーが現在、システム上に存在しないために操作が失敗した可能性があります。

**応答**

必要なジャーナル・レシーバーをバックアップから復元してください。その後、MIGRATEMQM プログラムを再始動してください。

**AMQ7757 (IBM i)**

キュー・マネージャー <insert\_3> は既に存在しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

以前のリリースで使用されていたのと同じ名前のキュー・マネージャーがすでに作成されているため、MIGRATEMQM プログラムは、この名前で作成できません。

**応答**

キュー・マネージャーを削除してください。その後、MIGRATEMQM プログラムを再始動してください。

**AMQ7758 (IBM i)**

キュー・マネージャーは始動中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー "<insert\_3>" を開始しています。

**応答**

なし。

**AMQ7759 (IBM i)**

WebSphere MQ オブジェクトの再作成中。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ オブジェクトが、ログに含まれるメディア・イメージから再作成されています。

**応答**

なし。

**AMQ7760 (IBM i)**

WebSphere MQ チャンネルの再作成中。

**重大度**

0: 情報

**説明**

WebSphere MQ チャンネルが、以前のチャンネル定義ファイルから再作成されています。

**応答**

なし。

**AMQ7761 (IBM i)**

コマンド <insert\_3>から予期しない戻りコードが戻されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド <insert\_3>によって、予期しない戻りコード <insert\_1>が戻されました。

**応答**

このジョブ・ログまたは関連するジョブ・ログで以前にリストされたメッセージを参照してください。

**AMQ7762 (IBM i)**

チャンネル移行からの予期しないエラー。

**重大度**

20: エラー

**説明**

チャンネル定義またはチャンネル同期データの移行で、予期しないエラーが発生しました。

**応答**

このジョブ・ログまたは関連するジョブ・ログで以前にリストされたメッセージを参照してください。

**AMQ7770**

送信ファイル <insert\_3>

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイルは正常に送信されました。

**応答**

なし。

**AMQ7771**

ファイルが受信されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイルは正常に受信されました。

**応答**

なし。

**AMQ7772**

完全なファイルのリスト

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

完全なファイルのリストを表示します。

**応答**

なし。

**AMQ7773**

不完全なファイルのリスト

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

不完全なファイルのリストを表示します。

**応答**

なし。

**AMQ7774**

その他のメッセージのリスト

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

その他のメッセージのリストを表示します。

**応答**

なし。

**AMQ7775**

リストするものではありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

リストするものではありません。

**応答**

なし。

**AMQ7776**

削除されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイルは削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ7777**

削除するものではありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

削除するものではありません。

**応答**

なし。

**AMQ7778**

構文エラーです。正しい構文は次のとおりです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

与えられた引数が無効です。

**応答**

1つ以上のオプションが、送信または受信コマンドの発行時に間違っ指定されました。使用したオプションを確認してから、コマンドを再発行してください。

**AMQ7779**

デフォルトのキュー・マネージャーに接続できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーが利用不能です。

**応答**

キュー・マネージャーが存在すること、およびリスナーが実行されていることを確認してください。

**AMQ7780**

キュー・マネージャー <insert\_3> に接続できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーが利用不能です。

**応答**

キュー・マネージャーが存在すること、およびリスナーが実行されていることを確認してください。

**AMQ7781**

アプリケーション・メモリーが使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

要求されたアクションを実行するための十分なメモリーがありません。

**応答**

- 1) メッセージ・サイズが大きすぎないことを確認してください。
- 2) 他のアプリケーションをクローズして、コマンドを再試行してください。

**AMQ7783**

キュー名が必要です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

送信または受信コマンドの発行時にキュー名が指定されませんでした。

**応答**

QueueName オプションを使用してコマンドを再発行してください。

**AMQ7784**

キュー <insert\_3> をオープンできません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー <insert\_3> をオープンできません。

**応答**

キューが存在することを確認してください。

**AMQ7785**

ファイル <insert\_3> をオープンできません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイル <insert\_3> をオープンできません。

**応答**

ファイルが存在すること、およびファイルが正しい位置にあり、適切なファイル許可があることを確認してください。

**AMQ7786**

キュー <insert\_3> に書き込めません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー <insert\_3> に書き込めません。

**応答**

- 1) 大きなメッセージを送信するための十分なログ・スペースがキュー・マネージャーにあることを確認してください。
- 2) 書き込みがキューで禁止されていないことを確認してください。
- 3) キューがいっぱいではないことを確認してください。
- 4) キューのメッセージ・サイズがメッセージ・サイズよりも大きいことを確認してください。
- 5) メッセージをキューに書き込むための十分な権限がユーザーにあることを確認してください。

**AMQ7787**

ファイル名が指定されませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイル名が指定されませんでした。

**応答**

送信コマンドの発行時にファイル名が指定されませんでした。 FileName オプションを使用してコマンドを再発行してください。

**AMQ7788**

メッセージ長が短すぎてデータを送信できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

メッセージ長が短すぎてデータを送信できません。

**応答**

送信コマンドに -l MessageSize オプションでより大きなメッセージ・サイズを指定してメッセージ・サイズを増やし、再送してください。

**AMQ7789**

送信中のファイルが変更されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

送信中のファイルが、完全なファイルが送信されるまでに変更されました。

**応答**

ファイルの整合性を確認して、送信コマンドを再発行してください。

**AMQ7790**

キュー <insert\_3> から読み取ることができません。

**重大度**

40: 停止エラー

## 説明

リスト、読み取り、削除、または抽出の要求が失敗しました。

## 応答

- 1) 読み取りがキューで禁止されているか確認してください。
- 2) キューからメッセージを読み取るための十分な WebSphere MQ 権限がユーザーにあることを確認してください。

### AMQ7791

ファイルに書き込むことができません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

読み取りまたは抽出の要求が失敗しました。

## 応答

- 1) ファイルが書き込み保護されていないことを確認してください。Windows エクスプローラでファイル名を右マウス・ボタンでクリックし、「プロパティ」を選択します。宛先ファイル・システムに書き込むための十分な権限がユーザーにあることを確認してください。
- 2) 宛先ファイル・システムが存在することを確認してください。
- 3) 宛先ファイル・システムがいっぱいではないことを確認してください。

### AMQ7792

相関 ID が無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

相関 ID が無効です。

## 応答

- 1) -c オプションを使用してファイルを受信するときに、有効な相関 ID が指定されたことを確認してください。
- 2) 長さは 48 文字でなければなりません。
- 3) 相関 ID を表示するには、受信コマンドの -v オプションを使用してください。

### AMQ7793

メッセージ ID が無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

メッセージ ID が無効です。

## 応答

- 1) -u オプションを使用して「その他」のメッセージを受信するときに、有効なメッセージ ID が指定されていることを確認してください。
- 2) 長さは 48 文字でなければなりません。

### AMQ7794

受信するメッセージがありません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

指定のキューには FTA ファイルがありません。

**応答**

送信側を調べて、ファイルが実際に送信されたことを確認してください。

**AMQ7795**

ファイルは固有ではないため削除できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイルは固有ではないため削除できません。

**応答**

なし。

**AMQ7796**

既存ファイルを置換できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

既存ファイルを置換できません。

**応答**

-y オプションを使用してコマンドを再発行してください。

**AMQ7797**

WebSphere MQ ライブラリーをロードできません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

WebSphere MQ ライブラリーをロードできません。

**応答**

なし。

**AMQ7798**

<insert\_3>が見つかりません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

このアプリケーションには、<insert\_3>が必要です。

**応答**

<insert\_3> が使用可能であり、正しくインストールされていることを確認してください。

**AMQ7799**

<insert\_3>を開始できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

このアプリケーションは、<insert\_3>を開始できません。

**応答**

<insert\_3> が使用可能であり、正しくインストールされていることを確認してください。

**AMQ7800**

CorrelId <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7801**

ディレクトリー <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7802**

UserData <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7803**

FileName <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7804**

長さ <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7805**

MsgId <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7806**

WebSphere MQ Web 管理サーバーを始動できませんでした: <insert\_1>。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ポート <insert\_1>で Web 管理サーバーを始動しようとしたましたが、失敗しました。

## 応答

製品が正しくインストールされ、必須レジストリー・キーおよび値が正しく、Web サーバー・ポートがまだ使用されていないことを確認してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ7807

WebSphere MQ Web 管理サーバーを実行中です。

## 重大度

0: 情報

## 説明

WebSphere MQ Web 管理サーバーを実行中です。ポート <insert\_4> で listen しています。ルート・ディレクトリーは <insert\_5> です。

## 応答

アクションは不要です。

## AMQ7808

WebSphere MQ Web 管理の内部ランタイム・エラー: <insert\_4>。

## 重大度

0: 情報

## 説明

WebSphere MQ Web 管理で次の内部ランタイム・エラーが発生しました: <insert\_4>。

## 応答

製品が正しくインストールされ、必須レジストリー・キーおよび値が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ7809

WebSphere MQ Publish/Subscribe Web 管理ユーザー制限に達しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

同時 Web 管理ユーザーの最大数に達しました (<insert\_4>)。

## 応答

Microsoft 管理コンソールの「Web 管理サーバー」プロパティ・ページを使用して、Web 管理の「MaxClients」パラメーターの値を増やします。

## AMQ7810 (Windows)

クラスの作成に失敗しました。理由コード: <insert\_1>。

## 重大度

20: エラー

## 説明

<insert\_4> error code <insert\_1> 上でクラス <insert\_3> を作成しようとしたのですが、検出されました。オペレーティング・システムによって生成された関連エラー・メッセージ: <insert\_5>

## 応答

システム資料を調べて、問題の修正に必要な一連のアクションを判断してください。

## AMQ7880 (Windows)

エラー・コード <insert\_1> starting <insert\_4>/<insert\_3> WebSphere MQ サービス。

## 重大度

0: 情報

#### 説明

サービスは <insert\_4>/<insert\_3>を開始できませんでした。報告されたエラー・メッセージは次のとおりです。 <insert\_5>

#### 応答

WebSphere MQ Explorer を使用して、サービスを開始できなかった理由を調べてください。このサービスのリカバリーがアクティブである場合には、MQ は回復しようとしています。

#### AMQ7881 (Windows)

<insert\_4>/<insert\_3> WebSphere MQ サービスを停止できません。戻りコード <insert\_1>。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WebSphere MQ サービスは、 <insert\_4>/<insert\_3>を停止できませんでした。報告されたエラー・メッセージは次のとおりです。 <insert\_5>

#### 応答

WebSphere MQ Explorer を使用して、サービスを停止できなかった理由を調べてください。

#### AMQ7882 (Windows)

<insert\_4>/<insert\_3> WebSphere MQ サービスをリカバリーしようとしています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ サービスは、 <insert\_4>/<insert\_3> が失敗したことを検出し、それを再始動しようとしています。

#### 応答

アクションは不要です。

#### AMQ7883 (Windows)

<insert\_4>/<insert\_3> WebSphere MQ サービスがリカバリーから開始されました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ サービスは、 <insert\_4>/<insert\_3>を正常に回復しました。

#### 応答

アクションは不要です。

#### AMQ7884 (Windows)

<insert\_4>/<insert\_3> WebSphere MQ サービスを回復できません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WebSphere MQ サービスが <insert\_4>/<insert\_3>を回復しようとしたましたが、すべての試みが失敗しました。このサービスを回復する試みは、これ以上行われません。

#### 応答

WebSphere MQ Explorer を使用して、サービスに障害が発生して再始動できなかった理由を調べてください。

#### AMQ7885 (Windows)

キュー・マネージャー <insert\_4>を削除できません。エラー <insert\_1>。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_4> を削除しようとしたましたが、失敗しました。WebSphere MQ がエラー・コード <insert\_1>: <insert\_5> を戻しました。

## 応答

キュー・マネージャー名が正しく指定されたことを確認して、再試行してください。

### AMQ7886 (Windows)

キュー・マネージャー <insert\_4> を作成できません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_4> を作成できませんでした。WebSphere MQ がエラー <insert\_1> を戻しました。 <insert\_5>

## 応答

返されたエラーの原因と障害を修正するために推奨される対応を調べるために、エラーおよびアプリケーション・イベント・ログを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ7890 (Windows)

WebSphere MQ パフォーマンス・データを含むマップ・ファイルを開けません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

WebSphere MQ 拡張可能カウンター dll が、キュー・パフォーマンス・データを収集するために使用するマップ・ファイルを開けませんでした。システムの仮想ストレージが不足している可能性があります。

## 応答

アクションは不要です。MQ キューのパフォーマンス統計は表示されません。

### AMQ7891 (Windows)

WebSphere MQ パフォーマンス・データにアクセスするための mutex を作成できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

WebSphere MQ 拡張可能カウンター dll が、キュー・パフォーマンス・データの収集を同期するために必要な mutex を作成できませんでした。

## 応答

アクションは不要です。MQ キューのパフォーマンス統計は表示されません。

### AMQ7892 (Windows)

WebSphere MQ パフォーマンス・データを含む共用メモリー・ファイルにマップできません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

WebSphere MQ 拡張可能カウンター dll が、キュー・パフォーマンス・データの収集に必要な共用メモリー・ファイルをマップできませんでした。

## 応答

アクションは不要です。MQ キューのパフォーマンス統計は表示されません。

### AMQ7893 (Windows)

WebSphere MQ サービスの「Performance」キーを開くことができません。状況コード: <insert\_1>。

## 重大度

20: エラー

## 説明

WebSphere MQ 拡張可能カウンター dll が、WebSphere MQ サービスの「Performance」キーからパフォーマンス・カウンター値を取得できませんでした。状況コードは、Windows レジストリー呼び出し RegOpenKeyEx からの戻り値です。

## 応答

アクションは不要です。MQ キューのパフォーマンス統計は表示されません。

### AMQ7894 (Windows)

WebSphere MQ サービスの「Performance&#xa5;First Counter」値を読み取れません。状況コード:<insert\_1>。

## 重大度

20: エラー

## 説明

WebSphere MQ 拡張可能カウンター dll が、WebSphere MQ サービスの「Performance&#xa5;First Counter」キーからパフォーマンス・カウンター値を取得できませんでした。状況コードは、Windows レジストリー呼び出し RegOpenKeyEx からの戻り値です。

## 応答

アクションは不要です。MQ キューのパフォーマンス統計は表示されません。

### AMQ7895 (Windows)

WebSphere MQ サービスの「Performance&#xa5;First Help」値を読み取れません。状況コード:<insert\_1>。

## 重大度

20: エラー

## 説明

WebSphere MQ 拡張可能カウンター dll が、WebSphere MQ サービスの「Performance&#xa5;First Help」キーからパフォーマンス・カウンター値を取得できませんでした。状況コードは、Windows レジストリー呼び出し RegOpenKeyEx からの戻り値です。

## 応答

アクションは不要です。MQ キューのパフォーマンス統計は表示されません。

### AMQ7901

データ変換出口 <insert\_3> がロードされていません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

データ変換出口プログラム <insert\_3> のロードに失敗しました。内部関数が例外 <insert\_4> を出しました。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ7903

データ変換出口 <insert\_3> が見つかりません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ユーザー定義の形式の WebSphere MQ メッセージに対してメッセージ・データ変換が要求されましたが、必要なデータ変換出口プログラム <insert\_3> が見つかりません。内部関数が例外 <insert\_4> を出しました。

**応答**

必要なデータ変換出口 <insert\_3> が存在することを確認してください。

**AMQ7904**

データ変換出口 <insert\_3> が見つからないか、ロードできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー定義形式の WebSphere MQ メッセージに対してメッセージ・データ変換が要求されましたが、必要なデータ変換出口プログラム <insert\_3>が見つからなかったか、ロードされていません。 <insert\_4> 関数呼び出しが戻りコード <insert\_1>を戻しました。

**応答**

必要なデータ変換出口ルーチンが動的にロードされるモジュール用の標準ディレクトリーのいずれかに存在することを確認してください。必要に応じて、生成された出力を調べて、要求された変換対象の MQ メッセージのメッセージ記述子 (MQMD 構造体) を検査します。これは、メッセージの発信場所を判別する上で役立ちます。

**AMQ7905**

データ変換出口で予期しない例外 <insert\_4> が発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

データ変換出口プログラム <insert\_3>が、予期しない例外 <insert\_4>で終了しました。メッセージは変換されていません。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ7907**

データ変換出口で予期しない例外が発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

データ変換出口ルーチン <insert\_3>が予期しない例外で終了しました。メッセージは変換されていません。

**応答**

データ変換出口ルーチンのエラーを訂正します。

**AMQ7908 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリーの CRL サーバーの詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アクティブ・ディレクトリーの CRL サーバーの詳細を表示します。

**応答**

なし。

**AMQ7909 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリーの CRL サーバーの詳細を表示できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アクティブ・ディレクトリーの CRL サーバー定義が見つかりませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ7910 (Windows)**

使用法: setmqscp [-a [-m QmgrName | \*]] -r [-m QmgrName | \*]] -d]

**重大度**

0: 情報

**AMQ7911 (Windows)**

ご使用のドメインにデフォルトのアクティブ・ディレクトリーを配置できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コンピューターがメンバーになっているドメインで、アクティブ・ディレクトリーを持つドメイン・コントローラーは見つかりませんでした。

**応答**

デフォルトのアクティブ・ディレクトリーがドメインで使用可能でない場合、MQ MQI クライアント接続のアクティブ・ディレクトリー・サポートを使用できません。

**AMQ7912 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリーのサポート・ライブラリーの初期化に失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

アクティブ・ディレクトリー・クライアント接続用の WebSphere MQ サポート・ライブラリーを初期化できませんでした。

**応答**

この機能を使用する前に、アクティブ・ディレクトリー・クライアントの前提条件ソフトウェアがマシンにインストールされていることを確認してください。

**AMQ7913 (Windows)**

WebSphere MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナを作成できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

WebSphere MQ は、アクティブ・ディレクトリーにドメインのシステム・コンテナの子として IBM-MQClientConnections コンテナを作成できませんでした。

**応答**

システム・コンテナのサブコンテナを作成するためのアクセス権があることを確認して、システム・コンテナの otherWellKnownObjects プロパティーを変更します。

**AMQ7914 (Windows)**

キュー・マネージャー <insert\_3> のクライアント接続テーブルの移行が、理由コード <insert\_1><insert\_4> で失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このキュー・マネージャーのクライアント接続テーブルは、現時点では移行できません。

**応答**

クライアント接続テーブルが存在し、壊れていないようにし、ご使用のドメインにおいて Active Directory 内に新しいオブジェクトを作成する権限を持っているようにしてください。

**AMQ7915 (Windows)**

接続 <insert\_3> のサービス接続ポイントを作成しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このクライアント接続用のサービス接続ポイントが正常に作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ7916 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリーのチャンネル定義テーブルが開けませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM-MQClientConnections アクティブ・ディレクトリー・コンテナがグローバル・カタログで見つかりませんでした。

**応答**

setmqscp を使用してコンテナ・オブジェクトが作成されていること、およびコンテナおよびその子オブジェクトを読み取るためのアクセス権があることを確認してください。

**AMQ7917 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリー・チャンネルの詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アクティブ・ディレクトリー・チャンネルの詳細を表示します。

**応答**

なし。

**AMQ7918 (Windows)**

WebSphere MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナを削除できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナを削除しようとして問題が発生しました。コンテナをディレクトリーから削除するには、その前にコンテナが空になっている必要があります。

**応答**

なし。

**AMQ7919 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリーのクライアント・チャンネルの詳細を表示できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アクティブ・ディレクトリー・クライアント・チャンネル定義が見つかりませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ7920 (Windows)**

使用法: setmqcrl [-m QmgrName] [-a] [-d] [-r]

**重大度**

0: 情報

**AMQ7921**

MQDXP 構造で不正な目印フィールドが検出されました。

**重大度**

30: 重大エラー

## 説明

内部形式変換ルーチンに渡された MQDXP 構造には、不正確な目印フィールドが含まれています。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) の IBM WebSphere MQ サポート Web ページ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ7922

PCF メッセージが不完全です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージの長さが <insert\_1> バイトのみであり、PCF ヘッダーが含まれていないため、メッセージ・データ変換でプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) のメッセージを変換できません。メッセージは切り捨てられたか、メッセージに無効なデータが含まれています。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

## AMQ7923

メッセージに認識されない整数エンコード- <insert\_1>がありました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージの整数エンコード値 <insert\_1>が認識されなかったため、メッセージ・データ変換はメッセージを変換できません。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

## AMQ7924

PCF ヘッダーの長さが正しくありません (長さ = <insert\_1>)。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージ・データ変換で、プログラマブル・コマンド形式 (PCF) のメッセージを変換できません。PCF ヘッダー構造に誤った長さフィールドが含まれているためです。メッセージは切り捨てられたか、メッセージに無効なデータが含まれています。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

## AMQ7925

メッセージ・バージョン <insert\_1> はサポートされていません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージの Version フィールドに誤った値が含まれているため、メッセージ・データ変換はメッセージを変換できません。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7926

PCF メッセージに誤ったパラメーター・カウント値 <insert\_1>があります。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージ・データ変換で、プログラマブル・コマンド形式 (PCF) のメッセージを変換できません。PCF ヘッダーのパラメーター・カウント・フィールドが誤っているためです。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7927

PCF 構造体番号 <insert\_1> (タイプ = <insert\_2>) のタイプが正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

内部形式コンバーターに渡されたプログラマブル・コマンド形式 (PCF) 構造体に、誤ったタイプ・フィールドが含まれていました。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7928

PCF 構造番号 <insert\_1> の長さが正しくありません (長さ = <insert\_2>)。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

内部形式コンバーターに渡されたプログラマブル・コマンド形式 (PCF) 構造体に、誤った長さフィールドが含まれていました。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7929

PCF 構造体が不完全です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージ内のタイプ値 <insert\_2>の構造体番号 <insert\_1>が不完全であるため、メッセージ・データ変換でプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) のメッセージを変換できません。メッセージは切り捨てられたか、メッセージに無効なデータが含まれています。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7930

PCF 構造番号 <insert\_1> (CCSID = <insert\_2>) の CCSID が正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

内部形式コンバーターに渡されたプログラマブル・コマンド形式 (PCF) 構造体に、誤った CCSID が含まれています。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7931

PCF 構造番号 <insert\_1> の長さが正しくありません (長さ = <insert\_2>)。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージ・データ変換で、プログラマブル・コマンド形式 (PCF) のメッセージを変換できません。メッセージの構造の 1 つに誤った長さフィールドが含まれているためです。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

### AMQ7932

PCF 構造番号 <insert\_1> (カウント = <insert\_2>) のカウントが正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージ・データ変換で、プログラマブル・コマンド形式 (PCF) のメッセージを変換できません。メッセージの StringList 構造に誤ったカウント・フィールドが含まれているためです。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子、メッセージのヘッダー、および誤った構造体を含むファイルを使用して、メッセージのソースを判別し、無効なデータがどのようにしてメッセージに含まれるようになったのかを確認してください。

### AMQ7933

PCF 構造体のストリング長が正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メッセージの構造体番号 <insert\_1> に誤ったストリング長の値 <insert\_2> が含まれているため、メッセージ・データ変換でプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) のメッセージを変換できません。

## 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子、メッセ

ージのヘッダー、および誤った構造体を含むファイルを使用して、メッセージのソースを判別し、無効なデータがどのようにしてメッセージに含まれるようになったのかを確認してください。

#### AMQ7934

MQCCSI\_DEFAULT と、MQCCSI\_EMBEDDED または MQEPH\_CCSID\_EMBEDDED の組み合わせが正しくありません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

メッセージ自体に MQCCSI\_EMBEDDED の CodedCharSetId フラグがあり、メッセージの構造体 <insert\_1> に MQCCSI\_DEFAULT の CodedCharSetId フィールドが含まれていたため、メッセージ・データ変換は、プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) でメッセージを変換できませんでした。これらの組み合わせは正しくありません。

#### 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子、メッセージのヘッダー、および誤った構造体を含むファイルを使用して、メッセージのソースを判別し、無効なデータがどのようにしてメッセージに含まれるようになったのかを確認してください。

#### AMQ7935

メッセージ・ヘッダーの CCSID が正しくありません (CCSID = <insert\_1>)。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

メッセージのメッセージ記述子に誤った CodedCharSetId フィールドが含まれていたため、メッセージ・データ変換でメッセージを変換できませんでした。

#### 応答

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。メッセージ記述子を含むファイルを使用してメッセージ・ソースを判別し、無効なデータがメッセージに含まれた理由を調べてください。

#### AMQ7936

ファイル <insert\_3> はすでに存在しています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

出力ファイルはすでに存在しますが、REPLACE が指定されていません。

#### 応答

REPLACE を指定して既存のファイルを上書きするか、別の出力ファイル名を選択してください。

#### AMQ7937

MQFMT\_IMS\_VAR\_STRING 形式のメッセージの構造の長さ <insert\_1> が無効です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

データ変換の試行時にエラーが検出されました。長さの有効な範囲は 4 (ストリング・データなし) から 32767 です。メッセージは、変換されずに理由コード MQRC\_CONVERTED\_STRING\_TOO\_BIG で返されます。

#### 応答

データ変換前にメッセージの内容を調べて、メッセージ形式を修正してください。1 文字当たり複数バイトを使用してデータを変換する場合は、各文字のバイト数がデータ変換時に変更される可能性があることに注意してください。これが原因で、メッセージ長が変更されます。

#### AMQ7943

使用法: crtmqcvx SourceFile TargetFile

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ7953**

1つの構造が解析されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

crtmqcvx コマンドが1つの構造を解析しました。

**応答**

なし。

**AMQ7954**

<insert\_1> 個の構造が解析されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

crtmqcvx コマンドが<insert\_1> 構造を解析しました。

**応答**

なし。

**AMQ7955**

予期しないフィールド: <insert\_1>。

**重大度**

0: 情報

**説明**

構造内のフィールドは、認識されないタイプでした。

**応答**

フィールドを訂正し、コマンドを再試行してください。

**AMQ7956**

配列のディメンションが正しくありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

構造の配列フィールドに誤ったディメンション値が指定されています。

**応答**

フィールドを訂正し、コマンドを再試行してください。

**AMQ7957**

行<insert\_1>に警告があります。

**重大度**

20: エラー

**説明**

構造体の可変長フィールドの後に別のフィールドが含まれています。可変長フィールドは構造の最後のフィールドでなければなりません。

**応答**

構造体を訂正し、コマンドを再試行してください。

**AMQ7958**

フィールド<insert\_3>の行<insert\_1>にエラーがあります。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

フィールド名 <insert\_3> は、タイプ 'float' のフィールドです。 float 型のフィールドは、このコマンドによってサポートされていません。

**応答**

構造体を訂正して float 型のフィールドを除去するか、これらのフィールドの変換をサポートするために独自のルーチンを作成してください。

**AMQ7959**

フィールド <insert\_3> の行 <insert\_1> にエラーがあります。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

フィールド名 <insert\_3> は、タイプ 'double' のフィールドです。 double 型のフィールドは、このコマンドによってサポートされていません。

**応答**

構造体を訂正して double 型のフィールドを除去するか、これらのフィールドの変換をサポートするために独自のルーチンを作成してください。

**AMQ7960**

フィールド <insert\_3> の行 <insert\_1> にエラーがあります。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

フィールド名 <insert\_3> は 'pointer' フィールドです。 pointer 型のフィールドは、このコマンドによってサポートされていません。

**応答**

構造体を訂正して pointer 型のフィールドを除去するか、これらのフィールドの変換をサポートするために独自のルーチンを作成してください。

**AMQ7961**

フィールド <insert\_3> の行 <insert\_1> にエラーがあります。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

フィールド名 <insert\_3> は「ビット」フィールドです。 ビット・フィールドは、このコマンドによってサポートされていません。

**応答**

構造体を訂正してビット・フィールドを除去するか、これらのフィールドの変換をサポートするために独自のルーチンを作成してください。

**AMQ7962**

入力ファイルが指定されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このコマンドでは、入力ファイルが指定されている必要があります。

**応答**

入力ファイルの名前を指定して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7963**

出力ファイルが指定されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このコマンドでは、出力ファイル名が指定されている必要があります。

**応答**

出力ファイルの名前を指定して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7964**

予期しないオプション <insert\_3>。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

指定されたオプションは、このコマンドに無効です。

**応答**

有効なオプションを指定してコマンドを再試行してください。

**AMQ7965**

引数の数が正しくありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

コマンドに誤った数の引数が渡されました。

**応答**

正しい数の引数を渡してコマンドを再試行してください。

**AMQ7968**

ファイル <insert\_3> をオープンできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ファイル <insert\_3> をオープンできません。

**応答**

ファイルに対する正しい許可があることを確認して、コマンドを再試行してください。

**AMQ7969**

構文エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

入力ファイルのこの行に言語構文エラーが含まれています。

**応答**

構文エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。

**AMQ7970**

行 <insert\_1> に構文エラーがあります。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このメッセージは、入力ファイル内のどこで以前に報告されたエラーが検出されたかを示します。

**応答**

エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。

**AMQ7985 (Windows)**

WebSphere MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナはすでに存在しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM-MQClientConnections アクティブ・ディレクトリー・コンテナはすでに存在し、再作成の必要はありません。

**応答**

なし。

**AMQ7986 (Windows)**

WebSphere MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナが正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM-MQClientConnections Active Directory コンテナが正常に作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ7987 (Windows)**

接続 <insert\_3>のサービス接続ポイントを除去しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このクライアント接続用のサービス接続ポイントが正常に除去されました。

**応答**

なし。

**AMQ7988 (Windows)**

接続 <insert\_3>のサービス接続ポイントの除去に失敗しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このクライアント接続用のサービス接続ポイントを除去できませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ7989 (Windows)**

WebSphere MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナが正常に除去されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM-MQClientConnections アクティブ・ディレクトリー・コンテナが正常に除去されました。

**応答**

なし。

**AMQ7990 (Windows)**

WebSphere MQ アクティブ・ディレクトリー・コンテナは存在しません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM-MQClientConnections Active Directory コンテナが存在しません。

**応答**

なし。

**AMQ7A01 (IBM i)**

MQ データ・タイプの変換

**AMQ7A02 (IBM i)**

MQ バージョンの表示

**AMQ7A03 (IBM i)**

MQ リスナーの作成

**AMQ7A04 (IBM i)**

リスナー名

**AMQ7A05 (IBM i)**

リスナー制御

**AMQ7A06 (IBM i)**

リスナー・バックログ

**AMQ7A07 (IBM i)**

MQ リスナーの変更

**AMQ7A08 (IBM i)**

MQ リスナーのコピー

**AMQ7A09 (IBM i)**

元リスナー

**AMQ7A0A (IBM i)**

コピー先リスナー

**AMQ7A0B (IBM i)**

MQ リスナーの表示

**AMQ7A0C (IBM i)**

MQ リスナーの削除

**AMQ7A0D (IBM i)**

PORT と一緒にの LSRNAME は許可されません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

リスナー・オブジェクトをポートと一緒に指定することはできません。

**応答**

リスナー・オブジェクトかポート番号のいずれかを指定してください。

**AMQ7A0E (IBM i)**

IPADDR と一緒にの LSRNAME は許可されません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

リスナー・オブジェクトを IP アドレスと一緒に指定することはできません。

**応答**

リスナー・オブジェクトか IP アドレスのいずれかを指定してください。

**AMQ7A0F (IBM i)**

MQ リスナー・オブジェクトの処理

**AMQ7A10 (IBM i)**

MQ サービスの作成

**AMQ7A11 (IBM i)**

MQ サービスの変更

**AMQ7A12 (IBM i)**

MQ サービスのコピー

**AMQ7A13 (IBM i)**

サービス名

**AMQ7A14 (IBM i)**

プログラムを開始

**AMQ7A15 (IBM i)**

開始プログラム実引数

**AMQ7A16 (IBM i)**

終了プログラム

**AMQ7A17 (IBM i)**

終了プログラム実引数

**AMQ7A18 (IBM i)**

標準出力

**AMQ7A19 (IBM i)**

標準エラー

**AMQ7A1A (IBM i)**

サービス・タイプ

**AMQ7A1B (IBM i)**

サービス制御

**AMQ7A1C (IBM i)**

元サービス

**AMQ7A1D (IBM i)**

対象サービス

**AMQ7A1E (IBM i)**

MQ サービスの表示

**AMQ7A1F (IBM i)**

スタンバイ QMGR の許可

**AMQ7A20 (IBM i)**

MQ サービスの削除

**AMQ7A21 (IBM i)**

MQ サービス・オブジェクトの処理

**AMQ7A23 (IBM i)**

MQ サービスの開始

**AMQ7A24 (IBM i)**

MQ サービスの終了

**AMQ7A25 (IBM i)**

チャンネル・イニシエーター制御

**AMQ7A26 (IBM i)**

コマンド・サーバー制御

**AMQ7A27 (IBM i)**

キュー・マネージャー状況表示

**AMQ7A28 (IBM i)**

リスナー状況の表示

**AMQ7A29 (IBM i)**

サービス状況の表示

**AMQ7A2A (IBM i)**

LSRNAME は OPTION と一緒には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

リスナー・オブジェクトを終了オプションと一緒に指定することはできません。

**応答**

リスナー・オブジェクトか終了オプションのいずれかを指定してください。

**AMQ7A2B (IBM i)**

サービス開始

**AMQ7A2C (IBM i)**

接続ハンドルの処理

**AMQ7A2D (IBM i)**

接続 ID

**AMQ7A2E (IBM i)**

キュー・マネージャー接続の終了

**AMQ7A2F (IBM i)**

MQ 接続の処理

**AMQ7A30 (IBM i)**

ヘッダー圧縮

**AMQ7A31 (IBM i)**

メッセージ圧縮

**AMQ7A32 (IBM i)**

メッセージ圧縮 \*ANY がチャンネル・タイプに無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージ圧縮値 \*ANY は \*RCVR、\*RQSTR、および \*SVRCN チャンネル・タイプの場合にのみ有効です。

**応答**

有効なメッセージ圧縮リストを指定してください。

**AMQ7A33 (IBM i)**

チャンネル・モニター

**AMQ7A34 (IBM i)**

チャンネル統計

**AMQ7A35 (IBM i)**

CLUSTER WORKLOAD ランク

**AMQ7A36 (IBM i)**

CLUSTER WORKLOAD 優先順位

**AMQ7A37 (IBM i)**

CLUSTER CHANNEL ウェイト

**AMQ7A38 (IBM i)**

クラスター・ワークロード・チャンネル

**AMQ7A39 (IBM i)**

クラスター・ワークロード・キューの使用

**AMQ7A3A (IBM i)**

キュー・モニター

**AMQ7A3B (IBM i)**

キュー・マネージャー統計

**AMQ7A3C (IBM i)**

クラスター送信側モニター

**AMQ7A3D (IBM i)**

キュー統計

**AMQ7A3E (IBM i)**

クラスター送信側統計

**AMQ7A3F (IBM i)**

統計インターバル

**AMQ7A40 (IBM i)**

MQ 経路情報の表示

**AMQ7A41 (IBM i)**

相関 ID

**AMQ7A42 (IBM i)**

メッセージの持続性

**AMQ7A43 (IBM i)**

メッセージ優先度

**AMQ7A44 (IBM i)**

レポート・オプション

**AMQ7A45 (IBM i)**

応答キュー

**AMQ7A46 (IBM i)**

応答キュー・マネージャー

**AMQ7A47 (IBM i)**

メッセージ有効期限

**AMQ7A48 (IBM i)**

有効期限を過ぎました

**AMQ7A49 (IBM i)**

経路の累算

**AMQ7A4A (IBM i)**

応答メッセージ

**AMQ7A4B (IBM i)**

送信メッセージ

**AMQ7A4C (IBM i)**

転送メッセージ

**AMQ7A4D (IBM i)**

最大アクティビティ

**AMQ7A4E (IBM i)**

経路詳細

**AMQ7A4F (IBM i)**

参照のみ

**AMQ7A50 (IBM i)**

表示メッセージ

**AMQ7A51 (IBM i)**

ターゲット・キュー・マネージャー

**AMQ7A52 (IBM i)**

表示情報

**AMQ7A53 (IBM i)**

待ち時間

**AMQ7A54 (IBM i)**

RTEINF(\*YES) は RPLYMSG(\*YES) に必要です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

RTEINF(\*YES) を指定せずに RPLYMSG(\*YES) を指定することはできません。

**応答**

RPLYMSG(\*YES) を指定する場合は RTEINF(\*YES) も指定する必要があります。

**AMQ7A55 (IBM i)**

RPLYQ は RPLYMQM に必要です。

**重大度**

30 : 重大エラー

**説明**

RPLYQ を指定せずに RPLYMQM を指定することはできません。

**応答**

RPLYMQM を指定する場合は RPLYQ も指定する必要があります。

**AMQ7A56 (IBM i)**

CRRLID が無効なパラメーターと一緒に指定されました。

**重大度**

30 : 重大エラー

**説明**

CRRLID パラメーターが CRRLID には無効な MSGPST、MSGPRTY、OPTION、RPLYQ、RPLYMQM、EXPIRY、EXPRPT、RTEINF RPLYMSG、DLVRMSG、FWDMSG、MAXACTS、DETAIL、および BIND の 1 つ以上と一緒に指定されました。

**応答**

CRRLID に有効なパラメーターのみを指定してください。

**AMQ7A57 (IBM i)**

DSPMSG(\*NO) が無効なパラメーターと一緒に指定されました。

**重大度**

30 : 重大エラー

**説明**

DSPMSG(\*NO) が、DSPMSG(\*NO) に無効な 1 つ以上の BROWSE、DSPINF、および WAIT と一緒に指定されました。

**応答**

DSPMSG(\*NO) に有効なパラメーターのみを指定してください。

**AMQ7A58 (IBM i)**

RPLYQ は DSPMSG(\*NO) および RPLYMSG(\*YES) に必要です。

**重大度**

30 : 重大エラー

**説明**

RPLYQ を指定せずに DSPMSG(\*NO) および RPLYMSG(\*YES) を指定することはできません。

**応答**

DSPMSG(\*NO) および RPLYMSG(\*YES) を指定する場合は RPLYQ も指定する必要があります。

**AMQ7A59 (IBM i)**

RPLYQ は DSPMSG(\*NO) および OPTION not \*NONE に必要です。

**重大度**

30 : 重大エラー

**説明**

RPLYQ を指定せずに DSPMSG(\*NO) および OPTION not \*NONE を指定することはできません。

**応答**

DSPMSG(\*NO) および OPTION not \*NONE を指定する場合は RPLYQ も指定する必要があります。

**AMQ7A5A (IBM i)**

WebSphere MQ コマンドの実行

**AMQ7A5B (IBM i)**

非持続メッセージ・クラス

**AMQ7A5C (IBM i)**

NPMCLASS はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

NPMCLASS パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

NPMCLASS パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7A5D (IBM i)**

MONQ はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MONQ パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

MONQ パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7A5E (IBM i)**

STATQ はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

STATQ パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

STATQ パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7A5F (IBM i)**

ACCTQ はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ACCTQ パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

ACCTQ パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7A60 (IBM i)**

すべてのキュー・マネージャーが静止されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

すべてのキュー・マネージャーが正常に静止されました。

**応答**

なし。

**AMQ7A61 (IBM i)**

MQMNAME は TRCEARLY(\*YES) には無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MQMNAME パラメーターは、TRCEARLY(\*NO) にのみ指定できます。TRCEARLY(\*YES) はすべてのキュー・マネージャーに適用されます。

## 応答

TRCEARLY(\*YES)が必要な場合はMQMNAMEをコマンドから除去してください。

### AMQ7A62 (IBM i)

MQMNAMEはSET(\*END)には無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

MQMNAMEパラメーターは、SET(\*ON)またはSET(\*OFF)にのみ指定できます。SET(\*END)はすべてのキュー・マネージャーに適用されます。

## 応答

SET(\*END)が必要な場合はMQMNAMEをコマンドから除去してください。

### AMQ7A63 (IBM i)

バインド・オプション

### AMQ7A64 (IBM i)

TGTMQMNAMEはチャンネル・タイプ\*CLTCNに対してのみ有効です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

TGTMQMNAMEパラメーターは、チャンネル・タイプ\*CLTCNと一緒にの場合にのみ指定できます。

## 応答

TGTMQMNAMEパラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドがCRTMQMCHLの場合はCHLTYPEに異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

### AMQ7A65 (IBM i)

JOBパラメーターに無効な値が指定されました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

JOBパラメーターに値が指定されましたが、パラメーターの形式が正しくありません。このパラメーターの値は、以下のいずれかの形式で指定できます。

generic-jobname

Job-name/User/Number

ジョブ名/ユーザー/番号/スレッド ID

完全修飾ジョブ名を指定せずにスレッド ID を指定できないことに注意してください。

## 応答

許容されているいずれかの形式で値を指定してから、コマンドをやり直してください。このコマンドのプロンプトを表示している場合は、まずジョブ名フィールドに文字を入力して、パラメーター入力他の場所に指定されている無効な値を消去しなければなりません。

### AMQ7A66 (IBM i)

データ・ディレクトリー接頭部

### AMQ7A67 (IBM i)

IPC ディレクトリー接頭部

### AMQ7A68 (IBM i)

切り替えの許可

### AMQ7A69 (IBM i)

ASP 装置

### AMQ7B00 (IBM i)

MQI アカウンティング

**AMQ7B01 (IBM i)**

入力ファイル

**AMQ7B02 (IBM i)**

キュー・アカウントイング

**AMQ7B03 (IBM i)**

入力を含むメンバー

**AMQ7B04 (IBM i)**

ACCOUNTING インターバル

**AMQ7B05 (IBM i)**

アカウントイング指定変更

**AMQ7B06 (IBM i)**

トレース・データ・サイズ

**AMQ7B07 (IBM i)**

再生のみを実行

**AMQ7B08 (IBM i)**

バックアップの活動化

**AMQ7B09 (IBM i)**

表示する接続ハンドルはありません

**AMQ7B0A (IBM i)**

トレース経路記録

**AMQ7B0B (IBM i)**

アクティビティー記録

**AMQ7B0C (IBM i)**

表示するキュー・マネージャー接続はありません

**AMQ7B0D (IBM i)**

表示するリスナー・オブジェクトはありません

**AMQ7B0E (IBM i)**

表示するサービス・オブジェクトはありません

**AMQ7B0F (IBM i)**

CLWLRANK はキュー・タイプ \*MDL には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLWLRANK パラメーターは、タイプが \*MDL のキューには指定できません。

**応答**

CLWLRANK パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ7B10 (IBM i)**

CLWLPRTY はキュー・タイプ \*MDL には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLWLPRTY パラメーターは、タイプが \*MDL のキューには指定できません。

**応答**

CLWLPRTY パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ7B11 (IBM i)**

LSRNAME は BACKLOG には使用できません

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

リスナー・オブジェクトをリスナー・バックログと一緒に指定することはできません。

**応答**

リスナー・オブジェクトかリスナー・バックログのいずれかを指定してください。

**AMQ7B12 (IBM i)**

MONCHL はチャンネル・タイプ \*CLTCN には無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MONCHL パラメーターは、チャンネル・タイプ \*CLTCN と一緒に指定できません。

**応答**

MONCHL パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ7B13 (IBM i)**

STATCHL はチャンネル・タイプ \*CLTCN および \*SVRCN に対して無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

STATCHL パラメーターは、チャンネル・タイプ \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR、または \*CLUSRCVR に対してのみ有効です。

**応答**

STATCHL パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ7B14 (IBM i)**

CLWLRANK はチャンネル・タイプ \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR にのみ有効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLWLRANK パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSSDR または \*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

CLWLRANK パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ7B15 (IBM i)**

CLWLPRTY はチャンネル・タイプ \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR にのみ有効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLWLPRTY パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSSDR または \*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

CLWLPRTY パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ7B16 (IBM i)**

CLWLWGHT はチャンネル・タイプ \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR にのみ有効です。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

CLWLWGHT パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR または \*CLUSRCVR の場合だけです。

#### 応答

CLWLWGHT パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B17 (IBM i)

CLWLUSEQ はキュー・タイプ \*LCL にのみ使用できます。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

CLWLUSEQ パラメーターは、タイプ \*LCL のキューにのみ指定できます。

#### 応答

CLWLUSEQ パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に \*LCL を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B18 (IBM i)

MCAUSRID はチャンネル・タイプ \*CLTCN には無効です。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

MCAUSRID パラメーターは、チャンネル・タイプ \*CLTCN と一緒に指定できません。

#### 応答

MCAUSRID パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B20 (IBM i)

メッセージの先読み

#### AMQ7B21 (IBM i)

MSGREADAHD はキュー・タイプ \*RMT には使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

MSGREADAHD パラメーターは、タイプが \*RMT のキューには指定できません。

#### 応答

MSGREADAHD パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMQ の場合は QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B22 (IBM i)

共有会話

#### AMQ7B23 (IBM i)

SHARECNV が有効なのは、CHLTYPE が \*SVRCN または \*CLTCN のときだけです。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

共有会話 (SHARECNV) パラメーターは、\*SVRCN または \*CLTCN 以外のチャンネル・タイプには指定できません。

#### 応答

SHARECNV パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B24 (IBM i)

最大プロパティ・データ長

**AMQ7B25 (IBM i)**

デフォルトの Put 応答

**AMQ7B26 (IBM i)**

メッセージ・マーク参照間隔

**AMQ7B27 (IBM i)**

プロパティ制御

**AMQ7B28 (IBM i)**

最大インスタンス数

**AMQ7B29 (IBM i)**

クライアントの最大インスタンス

**AMQ7B2A (IBM i)**

CLIENT CHANNEL ウェイト

**AMQ7B2B (IBM i)**

接続アフィニティ

**AMQ7B2C (IBM i)**

ターゲット・タイプ

**AMQ7B2D (IBM i)**

PROPCTL はキュー・タイプ \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

PROPCTL パラメーターは、タイプが \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

PROPCTL パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMQ の場合は QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7B2E (IBM i)**

TARGETTYPE は、キュー・タイプ \*ALS にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TARGETTYPE パラメーターは、タイプ \*ALS のキューにのみ指定できます。

**応答**

TARGETTYPE パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7B2F (IBM i)**

PROPCTL は、チャンネル・タイプ \*SDR、\*SRV、\*CLUSSDR、または \*CLUSRCVR でのみ許可されます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

PROPCTL パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SRV、\*CLUSSDR、または \*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

PROPCTL パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ7B30 (IBM i)**

MAXINST は、チャンネル・タイプ \*SVRCN でのみ許可されます。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

MAXINST パラメーターは、タイプ \*SVRCN のチャンネルにのみ指定できます。

#### 応答

MAXINST パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B31 (IBM i)

MAXINSTC は、チャンネル・タイプ \*SVRCN でのみ許可されます。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

MAXINSTC パラメーターは、タイプ \*SVRCN のチャンネルにのみ指定できます。

#### 応答

MAXINSTC パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B32 (IBM i)

CLNTWGHT は、チャンネル・タイプ \*CLTCN でのみ許可されます。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

CLNTWGHT パラメーターは、タイプ \*CLTCN のチャンネルにのみ指定できます。

#### 応答

CLNTWGHT パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B33 (IBM i)

AFFINITY は、チャンネル・タイプ \*CLTCN でのみ許可されます。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

AFFINITY パラメーターは、タイプ \*CLTCN のチャンネルにのみ指定できます。

#### 応答

AFFINITY パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ7B34 (IBM i)

MQ トピックの作成

#### AMQ7B35 (IBM i)

MQ トピックの変更

#### AMQ7B36 (IBM i)

MQ トピックのコピー

#### AMQ7B37 (IBM i)

MQ トピックの表示

#### AMQ7B38 (IBM i)

トピック名

#### AMQ7B39 (IBM i)

トピック・ストリング

#### AMQ7B3A (IBM i)

永続サブスクリプション

#### AMQ7B3B (IBM i)

永続的モデル・キュー

- AMQ7B3C (IBM i)**  
非永続的モデル・キュー
- AMQ7B3D (IBM i)**  
パブリッシュ
- AMQ7B3E (IBM i)**  
サブスクライブ
- AMQ7B3F (IBM i)**  
ワイルドカードの性質
- AMQ7B40 (IBM i)**  
持続メッセージ送達
- AMQ7B41 (IBM i)**  
非持続メッセージ送達
- AMQ7B42 (IBM i)**  
コピー元トピック
- AMQ7B43 (IBM i)**  
対象トピック
- AMQ7B44 (IBM i)**  
PubSub 最大メッセージ再試行数
- AMQ7B45 (IBM i)**  
PubSub NPM メッセージ
- AMQ7B46 (IBM i)**  
PubSub NPM メッセージ応答
- AMQ7B47 (IBM i)**  
PubSub 同期点
- AMQ7B48 (IBM i)**  
MQ サブスクリプションの変更
- AMQ7B49 (IBM i)**  
MQ サブスクリプションのコピー
- AMQ7B4A (IBM i)**  
元サブスクリプション
- AMQ7B4B (IBM i)**  
対象サブスクリプション
- AMQ7B4C (IBM i)**  
宛先キュー・マネージャー
- AMQ7B4D (IBM i)**  
宛先相関 ID
- AMQ7B4E (IBM i)**  
サブスクリプション・ユーザー ID
- AMQ7B4F (IBM i)**  
パブリッシュ APPL ID
- AMQ7B50 (IBM i)**  
サブスクリプション・ユーザー・データ
- AMQ7B51 (IBM i)**  
セレクター・ストリング
- AMQ7B52 (IBM i)**  
PubSub プロパティ
- AMQ7B53 (IBM i)**  
宛先クラス

**AMQ7B54 (IBM i)**

サブスクリプション有効範囲

**AMQ7B55 (IBM i)**

変数ユーザー

**AMQ7B57 (IBM i)**

要求パブリケーション

**AMQ7B58 (IBM i)**

パブリッシュ優先度

**AMQ7B59 (IBM i)**

ワイルドカード・スキーマ

**AMQ7B5A (IBM i)**

有効期限時刻

**AMQ7B5B (IBM i)**

MQ サブスクリプションの作成

**AMQ7B5C (IBM i)**

サブスクリプション名

**AMQ7B5D (IBM i)**

トピック・オブジェクト

**AMQ7B5E (IBM i)**

Destination

**AMQ7B5F (IBM i)**

MQ サブスクリプションの処理

**AMQ7B60 (IBM i)**

表示するサブスクリプションはありません

**AMQ7B61 (IBM i)**

MQ サブスクリプションの表示

**AMQ7B62 (IBM i)**

MQ サブスクリプションの削除

**AMQ7B63 (IBM i)**

パブリッシュ・アカウントिंग・トークン

**AMQ7B67 (IBM i)**

サブスクリプション ID

**AMQ7B68 (IBM i)**

元サブスクリプション ID

**AMQ7B69 (IBM i)**

Pubsub エンジン制御

**AMQ7B6A (IBM i)**

表示するメッセージ・プロパティはありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

メッセージにメッセージ・プロパティが含まれていません。

**応答**

なし。

**AMQ7B6B (IBM i)**

トレース・ディレクトリー

**AMQ7B6C (IBM i)**

トレース開始制御

**AMQ7B6D (IBM i)**

ユーザー

**AMQ7B6E (IBM i)**

トレース終了制御

**AMQ7B6F (IBM i)**

MQ トピック・ストリングの消去

**AMQ7B71 (IBM i)**

トピック・ツリー存続時間

**AMQ7B72 (IBM i)**

ジョブ情報

**AMQ7B73 (IBM i)**

スレッド ID

**AMQ7B74 (IBM i)**

タイプの消去

**AMQ7B75 (IBM i)**

有効範囲のクリア

**AMQ7B76 (IBM i)**

セキュリティー出口パラメーターの組み合わせが無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドにセキュリティー出口パラメーターの無効な組み合わせが指定されました。SCYEXIT パラメーターは、タイプが \*CLTCN のチャンネルには指定できません。CSCYEXIT パラメーターは、タイプ \*CLTCN のチャンネルにのみ指定できます。同じコマンドで SCYEXIT と CSCYEXIT の両方のパラメーターを一緒に指定することはできません。

**応答**

コマンドからセキュリティー出口パラメーターの無効な組み合わせを取り除いてから、コマンドをやり直してください。

**AMQ7B77 (IBM i)**

送信出口パラメーターの組み合わせが無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドに送信出口パラメーターの無効な組み合わせが指定されました。SNDEXIT パラメーターは、タイプが \*CLTCN のチャンネルには指定できません。CSNDEXIT パラメーターは、タイプ \*CLTCN のチャンネルにのみ指定できます。同じコマンドで SNDEXIT と CSNDEXIT の両方のパラメーターを一緒に指定することはできません。

**応答**

コマンドから送信出口パラメーターの無効な組み合わせを取り除いてから、コマンドをやり直してください。

**AMQ7B78 (IBM i)**

受信出口パラメーターの組み合わせが無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドに受信出口パラメーターの無効な組み合わせが指定されました。RCVEXIT パラメーターは、タイプが \*CLTCN のチャンネルには指定できません。CRCVEXIT パラメーターは、タイプ \*CLTCN のチャンネルにのみ指定できます。同じコマンドで RCVEXIT と CRCVEXIT の両方のパラメーターを一緒に指定することはできません。

**応答**

コマンドから受信出口パラメーターの無効な組み合わせを取り除いてから、コマンドをやり直してください。

**AMQ7B79 (IBM i)**

コマンドは WebSphere MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーに適用されません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このコマンドはヌル操作を実行します。

**応答**

この機能を実行する代替りの方法については、「Publish/Subscribe ユーザーズ・ガイド」資料を参照してください。

**AMQ8000-8999: 管理****AMQ8001**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8002**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8003**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が開始しました。

**応答**

なし。

**AMQ8004**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ8005**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8006**

IBM WebSphere MQ キューが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ queue <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8007**

IBM WebSphere MQ キューが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ queue <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8008**

IBM WebSphere MQ キューが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ queue <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8010**

IBM WebSphere MQ プロセスが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ プロセス <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8011**

IBM WebSphere MQ プロセスが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ process <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8012**

IBM WebSphere MQ プロセスが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ process <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8014**

IBM WebSphere MQ チャンネルが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ チャンネル <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8015**

IBM WebSphere MQ チャンネルが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ チャンネル <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8016**

IBM WebSphere MQ チャンネルが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ チャンネル <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8018**

IBM WebSphere MQ チャンネルの開始が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> が開始されています。チャンネル開始機能が開始されました。チャンネルが実際に開始される前に、ネットワーク全体で一連の操作が行われます。通信が開始されているチャンネルと通信プロトコルが折衝される短時間の間、チャンネル状況は「BINDING」と表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8019**

IBM WebSphere MQ チャンネルの停止が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> の停止が要求されました。

**応答**

なし。

**AMQ8020**

IBM WebSphere MQ チャンネルの Ping が完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> の ping が完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ8021**

IBM WebSphere MQ リスナーの開始要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リスナーの開始要求が受け入れられて、処理されています。

**応答**

リスナーの開始要求が失敗した場合は、エラーの関連情報をキュー・マネージャーのエラー・ログで入手できます。リスナーが開始されると、リスナーの状況は MQSC コマンド「DISPLAY LSSTATUS」を使用してモニターされます。IBM i では、'WRKMQMLSR OPTION (\*STATUS)' コマンドを使用してリスナーの状況をモニターすることもできます。

**AMQ8022**

IBM WebSphere MQ キューが消去されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー <insert\_3> 上のすべてのメッセージが削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8023**

IBM WebSphere MQ チャンネルのリセット。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> がリセットされました。チャンネルの新しいシーケンス番号は <insert\_1> です。

**応答**

なし。

**AMQ8024**

IBM WebSphere MQ チャンネル・イニシエーターが始動しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー <insert\_3> のチャンネル・イニシエーターが開始されました。

**応答**

なし。

**AMQ8025**

IBM WebSphere MQ チャンネルが解決しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ チャンネル <insert\_3> の未確定メッセージが解決されました。

応答

なし。

**AMQ8026**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーの終了が受け入れられました。

重大度

0: 情報

説明

キュー・マネージャー <insert\_5>に対して制御された停止要求が開始されました。

応答

なし。

**AMQ8027**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーが開始されました。

重大度

0: 情報

説明

コマンド・サーバーが開始されました。

応答

なし。

**AMQ8028**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーが終了しました。

重大度

0: 情報

説明

コマンド・サーバーが停止しました。

応答

なし。

**AMQ8029**

IBM WebSphere MQ 権限が認可されました。

重大度

0: 情報

説明

オブジェクト <insert\_5> に対する権限が付与されました。

応答

なし。

**AMQ8030**

IBM WebSphere MQ 権限が取り消されました。

重大度

0: 情報

説明

オブジェクト <insert\_3> に対する権限が取り消されました。

応答

なし。

**AMQ8031 (IBM i)**

メッセージ・キュー・マネージャーが接続されました。

重大度

0: 情報

説明

メッセージ・キュー・マネージャーが接続されました。

応答

なし。

**AMQ8032 (IBM i)**

メッセージ・キュー・マネージャーが切断されました。

重大度

0: 情報

説明

メッセージ・キュー・マネージャーが切断されました。

応答

なし。

**AMQ8033**

IBM WebSphere MQ オブジェクトが再作成されました。

重大度

0: 情報

説明

MQ オブジェクト <insert\_5> がイメージから再作成されました。

応答

なし。

**AMQ8034**

IBM WebSphere MQ オブジェクト・イメージが記録されました。

重大度

0: 情報

説明

MQ オブジェクト <insert\_3> のイメージが記録されました。

応答

なし。

**AMQ8035**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバー状況.: 実行中

重大度

0: 情報

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ8036**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバー状況.: 停止中

重大度

0: 情報

説明

なし。

応答

なし。

**AMQ8037**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバー状況.: 始動中

重大度

0: 情報

説明

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8038**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバー状況.: キューを使用不可にして実行中

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8039**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバー状況.: 停止

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8040**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーが終了しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8041**

前に接続したプロセスがまだ実行中のため、キュー・マネージャーが再始動または削除できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

前回実行時にキュー・マネージャーに接続されたプロセスがまだアクティブです。キュー・マネージャーを再始動できません。

**応答**

プロセスを停止して、キュー・マネージャーの開始を試行してください。

**AMQ8041 (IBM i)**

キュー・マネージャーを再始動または削除できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

前回実行時にキュー・マネージャーに接続されたジョブがまだアクティブです。キュー・マネージャーを再始動または削除できません。

**応答**

WRKMQM からオプション 22 を使用して、キュー・マネージャーに接続されているジョブを識別します。接続されたジョブを終了して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8042**

プロセス <insert\_1> はまだ実行中です。

**重大度**

0: 情報

**AMQ8043**

非実行時アプリケーションが実行時のみのキュー・マネージャーに接続しようとしてしました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

非実行時アプリケーションが、非実行時アプリケーションのサポートがインストールされていないノード上のキュー・マネージャーに接続しようとしてしました。接続の試行は、理由 `MQRC_ENVIRONMENT_ERROR` で拒否されます。

**応答**

ノードが実行時アプリケーションのみをサポートするように意図されている場合、非実行時アプリケーションがキュー・マネージャーへの接続を試行した理由を調べてください。ノードが非実行時のみのアプリケーションをサポートするように意図されている場合は、基本オプションがインストールされているかどうかを調べてください。非実行時アプリケーションがこのノードで実行される場合は、基本オプションがインストールされている必要があります。

**AMQ8044 (Windows)**

アクティブ・ディレクトリーからキュー・マネージャーを除去しているときにエラーが発生しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーを Windows アクティブ・ディレクトリーから除去しようとして失敗しました。原因として、適切な項目をオープンまたは変更できなかったか、サービス制御点がすでに除去されていたことが考えられます。

**応答**

アカウントにアクティブ・ディレクトリーからオブジェクトを削除する権限があること、および項目がすでに削除されていないことを確認してください。

**AMQ8045**

WebSphere MQ チャンネルが使用中です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プロセスが、実行中のテレメトリー・チャンネルを削除しようとしているか、既に使用されているポートを使用して新しいテレメトリー・チャンネルを定義しようとしています。プロセスが新しいテレメトリー・チャンネルを定義しようとしている場合、チャンネルは定義されますが開始されません。

**応答**

ポートを使用しているプロセスを停止し、これまで実行されていたチャンネルを削除するか、または新しく定義したチャンネルを開始してください。

**AMQ8046**

<insert\_3>のオブジェクトを移行しています。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8047**

チャンネル移行統計: <insert\_1> 移行。 <insert\_2> が失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

以前のバージョンの IBM WebSphere MQ チャンネル定義から移行されたチャンネル・オブジェクトの数と発生した障害に関する情報。

**応答**

なし。

**AMQ8048**

デフォルトのオブジェクト統計: <insert\_1> が作成されました。 <insert\_2> が置き換えられました。  
<insert\_3> が失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

正常に作成または置換されたオブジェクトの数とデフォルト・オブジェクトの作成中に発生した障害に関する情報。

**応答**

なし。

**AMQ8049**

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、不適切な権限です。理由コードは <insert\_1> です。

**応答**

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分にあることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

**AMQ8050**

<insert\_3> のデフォルト・オブジェクトを作成または置換しています。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8051**

発生した障害の詳細については、AMQERR01.LOG を調べてください。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8051 (Tandem)**

For details of the failures that occurred, please check MQERRLG1.

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8052**

Completing setup.

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8053**

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、接続の中断です。理由コードは <insert\_1> です。

## 応答

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

## AMQ8054

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、ストレージが使用不可であったことです。理由コードは <insert\_1> です。

## 応答

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

## AMQ8055

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、オブジェクトの損傷です。理由コードは <insert\_1> です。

## 応答

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

## AMQ8056

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、チャンネル定義エラーです。エラー・コードは <insert\_1> (X<insert\_2>) です。

## 応答

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

## AMQ8057

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、チャンネル定義ファイル内の無効なレコードです。エラー・コードは <insert\_1> (X<insert\_2>) です。

**応答**

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

**AMQ8058**

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、チャンネル定義ファイルが見つからなかったことです。エラー・コードは <insert\_1> (X<insert\_2>) です。

**応答**

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

**AMQ8059**

オブジェクト <insert\_4>。作成または置換できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> のデフォルト・オブジェクト <insert\_4> を作成または置換中にエラーが発生しました。エラーの原因は、予期しないエラー、エラー・コード <insert\_1> (X<insert\_2>) です。

**応答**

問題についてより詳しくは、このログを調べてください。ディスク・スペースやストレージなど、リソースが十分であることを確認してください。損傷を受けたオブジェクトや壊れたオブジェクトがある場合、バックアップ・オブジェクトで置換してください。他のすべてが失敗した場合は、dltmqm を使用してキュー・マネージャー <insert\_5> を削除し、crtmqm を使用して再度作成してください。

**AMQ8060**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> がスタンバイとして開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> がスタンバイ・インスタンスとして開始され、既存の 1 次インスタンスで障害が発生した場合に 1 次インスタンスになる準備ができました。

**応答**

なし。

**AMQ8061 (Windows)**

コマンド <insert\_4> は無効です。

**重大度**

10: 警告

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> の IBM WebSphere MQ サービス・コマンド・ファイル <insert\_3> の行 <insert\_1> にあるコマンド <insert\_4> は、サービス・コマンド・ファイルでの使用には無効です。この行は無視されます。

#### 応答

ファイルの内容を調べ、操作をやり直してください。

#### AMQ8062 (Windows)

コマンド <insert\_3>からの予期しない戻りコード <insert\_1>。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

コマンド <insert\_3>によって、予期しない戻りコード <insert\_1>が戻されました。このコマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4>の IBM WebSphere MQ サービスによって発行されました。

#### 応答

コマンドおよびパラメーターが正しいことを確認してください。

#### AMQ8063 (Windows)

コマンド <insert\_3>の発行は許可されていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

現行ユーザー <insert\_5> は、コマンド <insert\_3>の発行を許可されていません。これは、ユーザーが管理者グループのメンバーであるが、現在昇格されていない場合に発生する可能性があります。コマンドは無視される。

#### 応答

ローカル 'mqm' セキュリティー・グループにユーザーを追加して、操作を再試行してください。

#### AMQ8064 (Windows)

トラステッド・アプリケーションの開始を許可されていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

ユーザー <insert\_5> は、トラステッド・アプリケーション <insert\_3>の開始を許可されていません。アプリケーションは開始されていません。

#### 応答

ローカル 'mqm' セキュリティー・グループにユーザーを追加して、アプリケーションを再始動してください。

#### AMQ8065 (Windows)

ローカル・グループ <insert\_3> が見つかりません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

ローカル・グループ <insert\_3> が使用できません。ユーザーが許可されていることを確認できません。機能は続行できません。

#### 応答

必要なローカル・グループを作成して、操作を再試行してください。

#### AMQ8066 (Windows)

ローカル mqm グループが見つかりません。

#### 重大度

20: エラー

**説明**

ローカル mqm グループを使用できません。ユーザーが許可されていることを確認できません。機能は続行できません。

**応答**

ローカル mqm グループを作成して、操作を再試行してください。

**AMQ8067**

IBM WebSphere MQ チャネルが自動定義されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャネル <insert\_5> が自動定義されました。

**応答**

なし。

**AMQ8068**

Setup completed.

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8069**

crtmqm コマンドの ApplicationGroup に mqm ユーザー ID が入っていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が作成されませんでした。crtmqm コマンドで指定された ApplicationGroup には、RestrictedMode オプション (-g) を指定した場合には mqm ユーザー ID が入っていなければなりません。

**応答**

なし。

**AMQ8070**

crtmqm コマンドの ApplicationGroup が定義されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が作成されませんでした。RestrictedMode オプション (-g) が指定されましたが、ApplicationGroup が存在しません。

**応答**

なし。

**AMQ8071**

RestrictedMode オプションは、このプラットフォームではサポートされていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が作成されませんでした。RestrictedMode オプションが指定されましたが、このプラットフォームではサポートされていません。

**応答**

なし。

**AMQ8072 (Windows)**

チャネルの管理を許可されていません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> のコマンド・サーバーがチャンネルの管理コマンドを受け取りました。ユーザー <insert\_5> には、IBM WebSphere MQ チャンネルを管理する権限がありません。コマンド・サーバーはコマンドを処理しませんでした。

## 応答

ローカル 'mqm' セキュリティー・グループにユーザーを追加して、セキュリティ・ポリシーを必ず要求されているように設定してください。

## AMQ8073 (Windows)

SID: (<insert\_3>) を解決できなかったため、許可が失敗しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

オブジェクト権限マネージャーは、指定された SID をエンティティーおよびドメイン情報に解決できませんでした。

## 応答

アプリケーションがこのシステムで認識される SID を指定していること、必要なすべてのドメイン・コントローラーが使用可能であること、およびセキュリティ・ポリシーが要求したとおりに設定されていることを確認してください。

## AMQ8074 (Windows)

SID <insert\_3> がエンティティー <insert\_4> と一致しないため、許可が失敗しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

オブジェクト権限マネージャーが矛盾したデータを受信しました。指定された SID は、指定されたエンティティー情報の SID と一致していません。

## 応答

アプリケーションが有効なエンティティーおよび SID 情報を指定していることを確認してください。

## AMQ8075 (Windows)

エンティティー <insert\_3> の SID を取得できないため、許可が失敗しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

オブジェクト権限マネージャーは、指定されたエンティティーの SID を取得できませんでした。

## 応答

エンティティーが有効であること、および必要なすべてのドメイン・コントローラーを必ず使用可能にしてください。

## AMQ8076 (Windows)

エンティティー <insert\_3> に SID が指定されていないため、許可が失敗しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

指定されたエンティティーの SID 情報がオブジェクト権限マネージャーに提供されず、セキュリティ・ポリシーが「NTSIDsRequired」に設定されています。

## 応答

アプリケーションが有効な SID を指定し、セキュリティ・ポリシーが要求したとおりに設定されているようにしてください。

## AMQ8077

エンティティー <insert\_3> には、オブジェクト <insert\_4> にアクセスするための十分な権限がありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたエンティティは、必要なオブジェクトにアクセスすることが許可されていません。要求された以下の許可は許可されていません: <insert\_5>

**応答**

要求したオブジェクトに対する正しいレベルの権限がこのエンティティに設定されていること、またはそのエンティティが特権グループのメンバーであることを確認してください。

**AMQ8078**

キュー・マネージャー <insert\_3> が終了するのを待機しています。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8079 (Windows)**

ユーザー <insert\_3>のグループ・メンバーシップ情報を検索しようとしたときに、アクセスが拒否されました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ユーザー <insert\_4>の権限で実行されている IBM WebSphere MQ が、指定されたユーザーのグループ・メンバーシップ情報を検索できませんでした。

**応答**

Active Directory アクセス許可により、ユーザー <insert\_4> がユーザー <insert\_3>のグループ・メンバーシップを読み取ることができることを確認します。ドメイン・ユーザーのグループ・メンバーシップ情報を取得するには、MQ がドメイン・ユーザーの権限で実行され、ドメイン・コントローラーが使用可能でなければなりません。

**AMQ8079 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニター・ジョブが開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

選択された開始キュー上のメッセージを処理するために、キュー・マネージャー <insert\_3> に対してメッセージ・キュー・マネージャー・トリガー・モニター・ジョブが開始されました。ジョブの詳細については、前に発行されたメッセージを参照してください。

**応答**

なし。

**AMQ8080 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニター・ジョブの開始に失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

メッセージ・キュー・マネージャーのトリガー・ジョブが、マネージャー <insert\_3> に対して開始できませんでした。障害理由コードは <insert\_2> です。詳細については、前に出されたメッセージを参照してください。

**応答**

なし。

**AMQ8081 (Windows)**

キュー・マネージャーの管理を許可されていません。

**重大度**

10: 警告

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> のコマンド・サーバーが、キュー・マネージャーの管理コマンドを受け取りました。ユーザー <insert\_5> には、IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーを管理する権限がありません。コマンド・サーバーはコマンドを処理しませんでした。

#### 応答

ローカル 'mqm' セキュリティー・グループにユーザーを追加して、セキュリティー・ポリシーを必ず要求されているように設定してください。

#### AMQ8082 (Windows)

クラスターの管理を許可されていません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> のコマンド・サーバーがクラスターの管理コマンドを受け取りました。ユーザー <insert\_5> には、IBM WebSphere MQ クラスターを管理する権限がありません。コマンド・サーバーはコマンドを処理しませんでした。

#### 応答

ローカル 'mqm' セキュリティー・グループにユーザーを追加して、セキュリティー・ポリシーを必ず要求されているように設定してください。

#### AMQ8083

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が開始しています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が開始しています。

#### 応答

なし。

#### AMQ8084

IBM WebSphere MQ 接続が見つかりません。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

指定された接続が存在しません。

#### 応答

接続名を訂正して、コマンドを再試行してください。

#### AMQ8085

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が再生のために開始されています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が再生のために開始されています。strmqm コマンドが「-r」オプションを使用して発行されました。詳しくは、IBM WebSphere MQ システム管理の資料を参照してください。

#### 応答

なし。

#### AMQ8086

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されています。

#### 重大度

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されています。strmqm コマンドが「-a」オプションを使用して発行されました。詳しくは、IBM WebSphere MQ システム管理の資料を参照してください。

**応答**

なし。

**AMQ8086 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が活動化されています。STRMQM コマンドが ACTIVATE(\*YES) オプションを使用して発行されました。詳しくは、IBM WebSphere MQ システム管理の資料を参照してください。

**応答**

なし。

**AMQ8087**

リスナー <insert\_3> を QM オブジェクトに移行しようとしたのですが、<insert\_1> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

レガシー・サービスの処理中に、リスナー <insert\_3> を <insert\_4> という名前の MQ オブジェクトに移行できませんでした。オブジェクトの作成は <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ8088**

トリガー・モニター <insert\_3> を QM オブジェクトに移行しようとしたのですが、<insert\_1> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

レガシー・サービスの処理中に、トリガー・モニター <insert\_3> を <insert\_4> という名前の MQ オブジェクトに移行できませんでした。オブジェクトの作成は <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ8089**

チャンネル・サービス <insert\_3> を QM オブジェクトに移行しようとしたのですが、<insert\_1> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

レガシー・サービスの処理中に、チャンネル・サービス <insert\_3> を <insert\_4> という名前の MQ オブジェクトに移行できませんでした。オブジェクトの作成は <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ8090**

チャンネル・イニシエーター <insert\_3> を QM オブジェクトに移行しようとしたましたが、<insert\_1> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

レガシー・サービスの処理中に、チャンネル・イニシエーター <insert\_3> を <insert\_4> という名前の MQ オブジェクトに移行できませんでした。オブジェクトの作成は <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ8091**

カスタム・サービス <insert\_3> を QM オブジェクトにマイグレーションしようとしたましたが、<insert\_1> で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

レガシー・サービスの処理中に、カスタム・サービス <insert\_3> を <insert\_4> という名前の MQ オブジェクトに移行できませんでした。オブジェクトの作成は <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ8092**

サービス・マイグレーション統計: <insert\_1> がマイグレーションされました。<insert\_2> が失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

以前のバージョンの IBM WebSphere MQ サービスから移行された サービス・オブジェクトの数と発生した障害に関する情報。

**応答**

なし。

**AMQ8093**

IBM WebSphere MQ サブスクリプションが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サブスクリプション <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8094**

IBM WebSphere MQ サブスクリプションが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サブスクリプション <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8095**

IBM WebSphere MQ サブスクリプションが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サブスクリプション <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8096**

IBM WebSphere MQ サブスクリプションが照会されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サブスクリプション <insert\_3> が照会されました。

**応答**

なし。

**AMQ8097**

デフォルト・オブジェクト <insert\_3>。属性 <insert\_1> を値 <insert\_2> に変更できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャーをより新しいリリースにマイグレーションしているときに、デフォルト・オブジェクトの1つで属性の値の変更が試みられました。上に名前を挙げたデフォルト・オブジェクトの属性を変更することができませんでした。IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_4> のデフォルト・オブジェクト <insert\_3> の整数属性 <insert\_1> を変更中に、予期しないエラーが発生しました。

**応答**

このエラーの原因として最も可能性が高いのは、オブジェクト <insert\_3> が、属性 <insert\_1> が適用されない、競合するタイプのオブジェクトとして再定義されていることです。例えば、もともとローカル・キューだったデフォルト・キューが別名キューに変更されると、キュー・マネージャーは属性 MQIA\_MAX\_MSG\_LENGTH (13) を設定できない可能性があります。MAXMSGL は別名キューでサポートされる属性ではないからです。カスタマー構成を確認し、それに応じた変更を、指定されているデフォルト・オブジェクト用のユーザー定義の置換に加える必要がないか調べてください。

**AMQ8098**

IBM WebSphere MQ サブスクリプションがコピーされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ subscription <insert\_3> がコピーされました。

**応答**

なし。

**AMQ8099**

IBM WebSphere MQ サブスクリプション状況の照会がありました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サブスクリプション状況 <insert\_3> が照会されました。

**応答**

なし。

**AMQ8101**

IBM WebSphere MQ エラー (<insert\_1>) が発生しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド処理中に、IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーから 16 進値 <insert\_1> の予期しない理由コードを受け取りました。(範囲 X'07D1' から X'0BB7' の 16 進値は MQI 理由コード 2001 から 2999 に対応することに注意してください。) 詳細をログから入手できる場合があります。理由コード値が、エラーが特定のパラメーターに関連していることを示している場合、関係するパラメーターは <insert\_4> です。

**応答**

エラーを訂正し、コマンドを再実行します。

**AMQ8102**

<insert\_4> に指定されている IBM WebSphere MQ オブジェクト名が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4> で指定されたオブジェクト名 <insert\_3> が無効です。オブジェクト名の長さは 48 文字を超えてはならず、チャンネル名の場合は 20 文字を超えてはなりません。この名前には、小文字の a-z、大文字の A-Z、数字の 0-9、ピリオド (.)、スラッシュ (/)、下線 (\_)、およびパーセント記号 (%) だけを含めることができます。

**応答**

パラメーター値の長さを変更するかパラメーター値を変更して、有効な文字の組み合わせが含まれるようにしてから、コマンドを再実行します。

**AMQ8103**

ストレージが不足しています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

必要な操作を実行するために使用可能なストレージが足りません。

**応答**

いくらかのストレージを解放し、コマンドを再実行します。

**AMQ8104**

IBM WebSphere MQ directory <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ディレクトリー <insert\_3> が見つかりませんでした。このディレクトリーは、IBM WebSphere MQ が正常にインストールされると作成されます。詳しくはログを参照します。

**応答**

IBM WebSphere MQ のインストールが正常に行われたことを確認してください。エラーを訂正し、コマンドを再実行します。

**AMQ8105**

オブジェクト・エラーです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクト・エラーが発生しました。詳しくはログを参照します。

**応答**

エラーを訂正し、コマンドを再実行します。

**AMQ8106**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーを作成中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーを作成しています。

**応答**

作成プロセスが完了するまで待機し、コマンドを再実行します。

**AMQ8107**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーは実行中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーは実行中です。

**応答**

なし。

**AMQ8108**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が終了しています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> が終了します。

**応答**

キュー・マネージャーが終了するまで待機し、コマンドを再実行します。

**AMQ8109**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーを削除中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーを削除しています。

**応答**

削除プロセスが完了するまで待ってください。

**AMQ8110**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーはすでに存在します。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> はすでに存在しています。

**応答**

なし。

**AMQ8112 (IBM i)**

PRCNAME はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

PRCNAME パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

PRCNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8113 (IBM i)**

TRGENBL はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TRGENBL パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

TRGENBL パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8114 (IBM i)**

GETENBL はキュー・タイプ \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

GETENBL パラメーターは、タイプが \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

GETENBL パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8115 (IBM i)**

SHARE はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

SHARE パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

SHARE パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8116 (IBM i)**

MSGDLYSEQ はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGDLYSEQ パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

MSGDLYSEQ パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8117**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーの削除が未完了です。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> の削除は、部分的にしか成功しませんでした。オブジェクトは検出されなかったか、削除できませんでした。詳しくはログを参照します。

#### 応答

残りのキュー・マネージャー・オブジェクトを削除します。

#### AMQ8118

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーが存在しません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> が存在しません。

#### 応答

Either create the queue manager (crtmqm command) or correct the queue manager name used in the command and then try the command again.

#### AMQ8119

サポートされないスレッド・モデルが検出されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

現在のスレッド・モデルには必要なレベルの機能が含まれていないため、コマンドが実行できませんでした。

#### 応答

Linux では、これは、プロセス共有 mutex サポートを提供しない LinuxThreads などのスレッド化モデルを使用することによって発生する可能性があります。いくつかのシステムでは、環境変数 LD\_ASSUME\_KERNEL を設定すると、ネイティブ・カーネル・スレッドの代わりに LinuxThreads が使用されます。

#### AMQ8119 (IBM i)

TRGTYPE はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

TRGTYPE パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

#### 応答

TRGTYPE パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ8120 (IBM i)

TRGDEPTH はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

TRGDEPTH パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

#### 応答

TRGDEPTH パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ8121 (IBM i)

TRGMSGPTY はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

TRGMSGPTY パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

TRGMSGPTY パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8122 (IBM i)**

TRGDATA はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TRGDATA パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

TRGDATA パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8123 (IBM i)**

RTNITV はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

RTNITV パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

RTNITV パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8124 (IBM i)**

MAXMSGLEN はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MAXMSGLEN パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

MAXMSGLEN パラメーターをコマンドから削除するか、または、CRTMQMQ コマンドの場合は QTYPE に別の値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8125 (IBM i)**

BKTTHLD はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

BKTTHLD パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

BKTTHLD パラメーターをコマンドから削除するか、または、CRTMQMQ コマンドの場合は QTYPE に別の値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8126 (IBM i)**

BKTQNAME はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

BKTQNAME パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

BKTQNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8127 (IBM i)**

INITQNAME はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

INITQNAME パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

INITQNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8128 (IBM i)**

USAGE はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

USAGE パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

USAGE パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8129 (IBM i)**

DFNTYPE はキュー・タイプ \*MDL にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

DFNTYPE パラメーターは、タイプ \*MDL のキューにのみ指定できます。

**応答**

DFNTYPE パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8130 (IBM i)**

TGTQNAME は、キュー・タイプ \*ALS にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TGTQNAME パラメーターは、タイプ \*ALS のキューにのみ指定できます。

**応答**

TGTQNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8131 (IBM i)**

RMTQNAME はキュー・タイプ \*RMT にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

RMTQNAME パラメーターは、タイプ \*RMT のキューにのみ指定できます。

**応答**

RMTQNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8132 (IBM i)**

RMTMQMNAME はキュー・タイプ \*RMT にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

RMTMQMNAME パラメーターは、タイプ \*RMT のキューにのみ指定できます。

**応答**

RMTMQMNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8133 (IBM i)**

TMQNAME はキュー・タイプ \*RMT にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TMQNAME パラメーターは、タイプ \*RMT のキューにのみ指定できます。

**応答**

TMQNAME パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8134 (IBM i)**

HDBNKCNT はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

HDBNKCNT パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

HDBNKCNT パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8135**

権限がありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

要求された操作を IBM WebSphere MQ オブジェクトに対して実行する許可がありません。要求した操作を実行するための許可がないか、または指定した MQ オブジェクトに対する許可がありません。コピー・コマンドの場合、指定したソース MQ オブジェクトに対する許可がない可能性があります。作成コマンドの場合、指定したタイプのシステム・デフォルト MQ オブジェクトに対する許可がない可能性があります。サブスクリプションの作成または変更の場合は、サブスクライブ・ユーザーが存在しないか、宛先キューに必要な権限を持っていないことを示している可能性もあります。

**応答**

機密保護担当者または IBM WebSphere MQ 管理者から必要な権限をもらってください。次にコマンドを再試行してください。Windows プラットフォームで amqmdain を実行している場合には、ユーザー MUSR\_MQADMIN は許可されない可能性があります。

**AMQ8136 (IBM i)**

プロンプト制御プログラムによってエラーが検出されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プロンプト制御プログラムがエラーを検出しました。

**応答**

以前リストされた、ジョブ・ログ中のメッセージを参照してください。エラーを訂正してから、コマンドのプロンプトを再度出してください。

**AMQ8137**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーはすでに始動中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> が既に開始しているため、strmqm コマンドは失敗しました。

**応答**

strmqm コマンドが完了するまで待機します。

**AMQ8138**

IBM WebSphere MQ キューのタイプが正しくありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー <insert\_5> はローカル・キューではないため、この操作は無効です。

**応答**

QNAME パラメーターを変更して、正しいタイプのキューを指定します。

**AMQ8139**

すでに接続されています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーへの接続はすでに存在します。

**応答**

なし。

**AMQ8140**

リソース・タイムアウト・エラーです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

内部 WebSphere MQ キュー・マネージャー・コンポーネント間の通信でタイムアウトが発生しました。これはシステムの負荷が大きいとき最も発生する可能性があります。

**応答**

システムの負荷が減少するまで待機し、コマンドを再試行します。

**AMQ8141**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーは始動中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> が開始しています。

**応答**

キュー・マネージャーの始動プロセスが完了するまで待機し、コマンドを再試行します。

**AMQ8142**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーが停止されています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> が停止しました。

**応答**

strmqm コマンドを使用してキュー・マネージャーを開始し、コマンドを再試行します。

**AMQ8143**

IBM WebSphere MQ キューが空ではありません。

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

<insert\_2> に指定されているキュー <insert\_5> が空でないか、コミットされていない更新を含んでいます。

#### 応答

コミットされていない更新をコミットまたはロールバックします。コマンドが DELETE QLOCAL の場合、CLEAR QLOCAL コマンドを使用してキューからメッセージを消去します。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ8144

ログが使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ ログイン・リソースが使用できません。

#### 応答

dltmqm コマンドを使用してキュー・マネージャーを削除してから、crtmqm コマンドを使用してキュー・マネージャーを作成します。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ8145

接続が切断されました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

コマンド処理中に IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーへの接続に失敗しました。これは、別のユーザーが送出した endmqm コマンド、またはキュー・マネージャー・エラーが原因である可能性があります。

#### 応答

strmqm コマンドを使用してメッセージ・キュー・マネージャーを開始し、プログラムが開始するまで待ってから、コマンドを再実行します。

#### AMQ8146

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーが使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーが停止されたか、または作成されていないため、これを使用できません。

#### 応答

必要に応じ、crtmqm コマンドを使用してメッセージ・キュー・マネージャーを作成するか、または strmqm コマンドを使用してメッセージ・キュー・マネージャーを開始します。次にコマンドを再試行してください。

#### AMQ8146 (IBM i)

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーが使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャーが停止されたか、または作成されていないため、これを使用できません。

#### 応答

必要に応じ、CRTMQM コマンドを使用してメッセージ・キュー・マネージャーを作成するか、STRMQM コマンドを使用してメッセージ・キュー・マネージャーを開始してから、再試行します。キュー・マネージャーが指定されていない場合、デフォルトのキュー・マネージャーが作成されていて、WRKMQM コマンドを使用して開始されていることを確認してください。

#### AMQ8147

IBM WebSphere MQ object <insert\_3> が見つかりません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

入力されたコマンドが Change または Display であった場合は、指定されたオブジェクト <insert\_3> が存在しません。入力されたコマンドが Copy (コピー) の場合、複写元のオブジェクトが存在しません。CREATE コマンドを入力した場合は、指定したタイプのシステム・デフォルト MQ オブジェクトは存在しません。

## 応答

オブジェクト名を訂正し、コマンドを再実行します。または新しいキューまたはプロセス・オブジェクトを作成している場合は、すべてのパラメーターを明示的に指定するか、必要なタイプのシステム・デフォルト・オブジェクトが存在することを確認します。システム・デフォルトのキュー名は、SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE、SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE、および SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE です。システム・デフォルトのプロセス名は、SYSTEM.DEFAULT.PROCESS です。

### AMQ8147 (IBM i)

IBM WebSphere MQ object <insert\_3> が見つかりません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

入力されたコマンドが Change、Delete、または Display であった場合は、指定された MQ オブジェクト <insert\_3> が存在しません。COPY コマンドを入力した場合は、ソース MQ オブジェクトは存在しません。CREATE コマンドを入力した場合は、指定したタイプのシステム・デフォルト MQ オブジェクトは存在しません。

## 応答

MQ オブジェクト名を訂正し、コマンドを再実行します。または新しい MQ オブジェクトを作成している場合は、すべてのパラメーターを明示的に指定するか、必要なタイプのシステム・デフォルト・オブジェクトが存在することを確認します。

### AMQ8148

IBM WebSphere MQ オブジェクトが使用中です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

オブジェクト <insert\_3> は、MQ アプリケーション・プログラムによって使用されています。

## 応答

オブジェクトが使用中でなくなるまで待機してから、コマンドを再実行します。コマンドが ALTER または CHANGE の場合は、変更によってアプリケーション・プログラムが影響を受けてもかまわなければ、FORCE を指定してオブジェクトの処理を強制的に行います。オブジェクトが送達不能キューで、オープン入力カウントがゼロでない場合は、オブジェクトが MQ チャネルによって使用されている可能性があります。オブジェクトがその他のキュー・オブジェクトで、オープン出力カウントがゼロでない場合は、オブジェクトは MQ チャネル (タイプ RCVR または RQSTR) によって使用されている可能性があります。どちらの場合も、問題を解決するためには、STOP CHANNEL および START CHANNEL コマンドを使用して、チャネルを停止してから再始動します。キュー USAGE を変更するには、キューが空でない場合は FORCE オプションを使用する必要があります。

### AMQ8149

IBM WebSphere MQ オブジェクトが壊れています。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

<insert\_4> で指定されたオブジェクト <insert\_3> に損傷があります。

## 応答

オブジェクトの内容は無効です。必要に応じて、DISPLAY CHANNEL、DISPLAY QUEUE、または DISPLAY PROCESS コマンドを送出して、損傷したオブジェクトの名前を判別します。適切なオブジェ

クト・タイプに対して DEFINE コマンドを使用して、損傷オブジェクトを取り替えてから、コマンドを再実行します。

#### **AMQ8150**

IBM WebSphere MQ オブジェクトはすでに存在します。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

<insert\_5> コマンドで指定されたオブジェクト <insert\_3> はすでに存在しているため、作成できませんでした。

#### **応答**

オブジェクトの名前が正しいかどうか調べ、REPLACE を指定してコマンドを再実行するか、またはオブジェクトを削除します。次にコマンドを再試行してください。

#### **AMQ8151**

IBM WebSphere MQ オブジェクトのタイプが異なります。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

オブジェクト <insert\_3> に指定されたタイプが、変更または定義されているオブジェクトのタイプと異なります。

#### **応答**

オブジェクト・タイプに対して正しい MQ コマンドを使用して、コマンドを再試行してください。

#### **AMQ8152**

ソース IBM WebSphere MQ オブジェクトのタイプが異なります。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

ソースのオブジェクトのタイプが指定されたものと違います。

#### **応答**

コマンドの名前またはソースのオブジェクト名を訂正して、コマンドを再実行するか、REPLACE オプションを使用してコマンドを再実行します。

#### **AMQ8153**

指定したキューのために十分なディスク・スペースがありません。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

指定されたキューに対し、十分なディスク・スペースが利用できないため、コマンドは失敗しました。

#### **応答**

ディスク・スペースを解放し、コマンドを再実行します。

#### **AMQ8154**

API 出口のロード・エラーです。

#### **重大度**

40: 停止エラー

#### **説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーは API 交差出口をロードできませんでした。

#### **応答**

API 交差出口プログラムが有効で、その名前およびディレクトリーが正しく指定されていることを確認します。エラーを訂正し、コマンドを再実行します。

#### **AMQ8155**

接続の限界を超えました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーの接続制限数を超過しました。

**応答**

キュー・マネージャーに接続可能な IBM WebSphere MQ アプリケーション・プログラムの最大数を超過しました。あとでコマンドを再実行します。

**AMQ8156**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーは静止中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーは静止しています。

**応答**

キュー・マネージャーは endmqm に指定された -c により停止しています。キュー・マネージャーが再始動されるまで待ってから、コマンドを再実行します。

**AMQ8157**

セキュリティー・エラーです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

セキュリティー管理プログラムによりエラーが報告されました。

**応答**

システム管理者に連絡し、エラーが訂正されるまで待ってから、コマンドを再実行します。

**AMQ8158 (IBM i)**

API 出口が見つかりませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

API 交差出口プログラムが見つかりませんでした。

**応答**

MQI 用の API 交差出口プログラムが存在していること、およびその名前とライブラリーが正しく指定されていることを確認してください。エラーを訂正してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8159 (IBM i)**

MAXDEPTH はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MAXDEPTH パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

MAXDEPTH パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8160 (IBM i)**

DFTSHARE はキュー・タイプ \*ALS または \*RMT には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

DFTSHARE パラメーターは、タイプが \*ALS または \*RMT のキューには指定できません。

**応答**

DFTSHARE パラメーターをコマンドから除去するか、コマンドが CRTMQMQ の場合は、QTYPE に異なる値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8161 (IBM i)**

AUT(\*MQMPASSID) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

AUT(\*MQMPASSID) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ指定することができます。

**応答**

別の値を指定するように AUT パラメーターを変更してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8162 (IBM i)**

AUT(\*MQMPASSALL) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

AUT(\*MQMPASSALL) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ指定することができます。

**応答**

別の値を指定するように AUT パラメーターを変更してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8163 (IBM i)**

AUT(\*MQMSETID) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

AUT(\*MQMSETID) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ指定することができます。

**応答**

別の値を指定するように AUT パラメーターを変更してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8164 (IBM i)**

AUT(\*MQMSETALL) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

AUT(\*MQMSETALL) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ指定することができます。

**応答**

別の値を指定するように AUT パラメーターを変更してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8165 (IBM i)**

AUT(\*MQMALTUSR) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

AUT(\*MQMALTUSR) は OBJTYPE(\*ADM) にのみ指定することができます。

**応答**

別の値を指定するように AUT パラメーターを変更してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8166 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ 参照オブジェクトが見つかりません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

REFOBJ および REFOBJTYPE パラメーターで指定されたオブジェクトが存在しません。

**応答**

参照オブジェクト名およびタイプを訂正して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8167 (IBM i)**

参照されるオブジェクト名が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

REFOBJで指定された、参照されるオブジェクト名が無効です。この名前の長さは48桁を超えてはならず、次の文字しか入れることはできません。小文字の a-z、大文字の A-Z、数字の 0-9、ピリオド (.)、スラッシュ (/)、下線 (\_)、およびパーセント記号 (%) です。

**応答**

パラメーター値の長さを変更するか、あるいは有効な文字の組み合わせを含むようにパラメーター値を変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8168 (IBM i)**

パラメーター USER のユーザー・プロファイル名が見つかりませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

パラメーター USER に指定されたユーザー・プロファイル名は、システムで見つけることができず、特殊値 \*PUBLIC ではありません。

**応答**

ユーザー・プロファイル名を訂正するか、あるいはユーザー・プロファイルの作成 (CRTUSRPRF) コマンドを使用して、ユーザー・プロファイルを作成して、要求を再試行してください。

**AMQ8169 (IBM i)**

パラメーター AUTL の権限リストが存在しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

パラメーター AUTL に指定された権限リストが存在しません。これが破棄されている可能性があります。

**応答**

存在している権限リストを指定するか、あるいは権限リストの作成 (CRTAUTL) コマンドを使用して、権限リストを作成してください。要求を再試行してください。

**AMQ8170 (IBM i)**

REFOBJTYPE(\*OBJTYPE) および OBJTYPE(\*ALL) は一緒に使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

REFOBJTYPE(\*OBJTYPE) は、特定のオブジェクト・タイプでのみ指定できます。

**応答**

REFOBJTYPE または OBJTYPE 入力値を特定のオブジェクト・タイプに変更してください。その後で、権限の認可 (GRTRMQMAUT) コマンドを再試行してください。

**AMQ8171 (IBM i)**

\*AUTL の権限は USER(\*PUBLIC) でのみ許可されています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

AUT(\*AUTL) が、USER パラメーターが \*PUBLIC に設定されていない、権限の認可 (GRTRMQMAUT) コマンドまたは権限の取り消し (RVKMQMAUT) コマンドで指定されました。権限リストに据え置くことができるのは、\*PUBLIC の権限だけです。

**応答**

AUT パラメーターをユーザーに対して正しい権限に変更するか、または USER パラメーターを \*PUBLIC に変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8172**

すでに切断されています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

コマンド処理中に発行された MQDISC 要求に対する応答として、MQI 理由コード 2018 が IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーから返されました。

**応答**

なし。

**AMQ8173**

表示するプロセスがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムに定義されたマッチング・プロセスがありません。

**応答**

DEFINE PROCESS コマンドを使用してプロセスを作成します。

**AMQ8174**

表示するキューがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムに定義されたマッチング・キューがありません。

**応答**

適切なコマンド、すなわち DEFINE QALIAS、DEFINE QLOCAL、DEFINE QMODEL、または DEFINE QREMOTE を使用して、必要なタイプのキューを定義します。

**AMQ8175 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレースが開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トレースが正常に開始されました。

**応答**

なし。

**AMQ8176 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレースが書き込まれました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トレースが正常に書き込まれました。

**応答**

なし。

**AMQ8177 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレースが停止しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トレースが停止されました。

**応答**

なし。

**AMQ8178 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレースが開始されませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

トレースは正常に開始されませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8179 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレース出力エラーです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

トレースが正常に出力されませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8180 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレース終了要求が失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

トレースを終了する要求が正常に行われませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8181 (IBM i)**

表示するジョブはありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

このシステムで実行されているもので、一致するジョブはありません。

**応答**

別のジョブ名を STRMQMSRV コマンドから指定してください。

**AMQ8182 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレースはすでにオフになっています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

トレースをオフにしようとしたますが、トレースはアクティブではありませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8183 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トレースはすでに実行中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

トレースを開始しようとしたのですが、トレースはすでに実行中です。

**応答**

トレースを実行したままにするか、トレース設定を変更したい場合はトレースをオフにし、適切な設定でトレースをもう一度オンにしてください。

**AMQ8184 (IBM i)**

要求されたジョブが見つかりません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

指定されたジョブが、IBM WebSphere MQ for IBM i トレースを制御するテーブルに見つかりません。その結果として、トレース・アクションは実行できません。

**応答**

適切なジョブ名を指定してください。

**AMQ8185**

オペレーティング・システム・オブジェクトはすでに存在します。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MQ に認識されていないオブジェクトが MQ ディレクトリー内にすでに存在し、またこのオブジェクトには新規オブジェクトに使用する名前が指定されているため、IBM WebSphere MQ オブジェクトを作成できません。前のメッセージをログで参照します。

**応答**

非 MQ オブジェクトを MQ ライブラリーから除去してから、コマンドを再試行してください。

**AMQ8186**

イメージは IBM WebSphere MQ オブジェクト <insert\_5>には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_5> type <insert\_3> は、現在オンラインになっているログで完全には使用できないため、再作成できません。このオブジェクトを再作成するためにオンラインに取り込む必要のあるログに関する情報については、エラー・ログの初期のメッセージを参照します。

**応答**

関係のあるログをオンラインに取り込み、コマンドを再実行します。

**AMQ8187**

IBM WebSphere MQ object <insert\_5> は現在オープンしています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_5>(タイプ <insert\_3>) は現在使用中であるため、<insert\_1> コマンドを発行できません。コマンドに対して総称リストが提示された場合、コマンドはそのリストの他のオブジェクトに対しても送出されます。

**応答**

オブジェクトが使用中でなくなるまで待機してから、コマンドを再実行します。

**AMQ8188**

IBM WebSphere MQ オブジェクト <insert\_5>に対する権限が不十分です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_5> type <insert\_3>に対して <insert\_1> コマンドを発行する権限がありません。コマンドに総称リストが指定されている場合、そのコマンドはリスト内の他のオブジェクトに対して引き続き発行されます。

**応答**

そのオブジェクトを使用するのに必要な許可を取得してから、コマンドを再実行します。

**AMQ8189 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ object <insert\_3> に損傷があります。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクト <insert\_3> type <insert\_4> に損傷があり、それに対して <insert\_5> コマンドを出すことができません。コマンドに対して総称リストが提示される場合、コマンドはそのリストの他のオブジェクトに対しても送出されます。

**応答**

REPLACE を指定して、適切な DEFINE コマンドをオブジェクトに対して送出してから、コマンドを再実行します。

**AMQ8190**

<insert\_3> が <insert\_1> オブジェクトで成功し、<insert\_2> オブジェクトで失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクトの総称リストで実行された操作が完全に正常終了しませんでした。

**応答**

発生したエラーの詳細についてログを調べ、適切な処置を行います。

**AMQ8191**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーは始動中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーは始動中です。

**応答**

strmqcsv コマンドが完了するまで待機してから、操作を再実行してください。

**AMQ8191 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーは始動中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーは始動中です。

**応答**

STRMQMCSVR コマンドが完了するまで待ってから、操作を再試行してください。

**AMQ8192**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに始動中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーがすでに始動されているため、コマンド・サーバーの始動要求は失敗しました。

**応答**

strmqcsv コマンドが完了するのを待ちます。

**AMQ8192 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに始動中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーがすでに始動されているため、コマンド・サーバーの始動要求は失敗しました。

**応答**

STRMQMCSVR コマンドが完了するまで待ってください。

**AMQ8193**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーは終了中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーは終了中です。

**応答**

endmqcsv コマンドが完了するまで待機してから、コマンドを再実行してください。

**AMQ8193 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーは終了中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーは終了中です。

**応答**

ENDMQMCSVR コマンドが完了するまで待ってから、コマンドを再試行してください。

**AMQ8194**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに終了中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーがすでに終了中のため、コマンド・サーバーの終了要求は失敗しました。

**応答**

endmqcsv コマンドが完了するまで待機します。

**AMQ8194 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに終了中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーがすでに終了中のため、コマンド・サーバーの終了要求は失敗しました。

**応答**

ENDMQMCSVR コマンドが完了するまでお待ちください。

**AMQ8195**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに実行中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーが既に実行されているため、strmqcsv コマンドは失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8195 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに実行中です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーがすでに実行されているため、STRMQMCSVR コマンドは失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8196**

IBM WebSphere MQ コマンド・サーバーはすでに停止されています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド・サーバーがすでに停止されているため、コマンド・サーバーの終了要求は失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8197**

削除された IBM WebSphere MQ キューが壊れています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

削除された MQ キュー <insert\_3> に損傷があり、そこに含まれていたすべてのメッセージが失われました。

**応答**

なし。

**AMQ8198 (IBM i)**

プログラム <insert\_3> が呼び出されましたが、パラメーターの数が正しくありません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プログラム <insert\_3> への呼び出しで渡されたパラメーターの数が正しくありません。

**応答**

呼び出し側プログラムを訂正してから、操作を再試行してください。

**AMQ8199 (IBM i)**

プログラム QMQM に渡された呼び出し識別子パラメーターにエラーがあります。

**重大度**

20: エラー

**説明**

プログラム QMQM に渡された最初のパラメーターである呼び出し識別子が、必要なバック 10 進数形式になっていないか、あるいはその値がサポートされていません。許可されている呼び出し識別子の値は、RPG コピー・ファイル CMQR に含まれています。

**応答**

呼び出し側プログラムを訂正して、呼び出しを再試行してください。

**AMQ8200 (IBM i)**

MODENAME は TRPTYPE(\*LU62) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MODENAME パラメーターは、TRPTYPE(\*LU62) にのみ指定することができます。

**応答**

MODENAME パラメーターをコマンドから除去するか、あるいは \*LU62 を指定するように TRPTYPE パラメーター値を変更してから、このコマンドを再試行してください。

**AMQ8201 (IBM i)**

TPGMNAME は、TRPTYPE(\*LU62) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TPGMNAME パラメーターは、TRPTYPE(\*LU62) にのみ指定することができます。

**応答**

TPGMNAME パラメーターをコマンドから除去するか、あるいは \*LU62 を指定するように TRPTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8202**

TMQNAME は、チャンネル・タイプが \*SDR または \*SVR の場合にのみ許可されます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TMQNAME パラメーターは、チャンネル・タイプが \*SDR または \*SVR の場合にのみ指定できます。

**応答**

コマンドから TMQNAME パラメーターを除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は CHLTYPE パラメーター値を変更して \*SDR または \*SVR を指定します。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8203 (IBM i)**

CONNNAME を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR および \*CLUSRCVR の場合だけです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CONNNAME パラメーターはチャンネル・タイプ \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR または \*CLUSRCVR の場合にしか指定できません。

**応答**

CONNNAME パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR または \*CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8204**

MCANAME は、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR、または \*CLUSRCVR の場合にのみ許可されます

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MCANAME パラメーターは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR、または \*CLUSRCVR の場合にのみ指定できます。

**応答**

コマンドから MCANAME パラメーターを削除するか、またはコマンドが CRTMQMCHL であれば、CHLTYPE パラメーターの値を変更して \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR、または \*CLUSRCVR を指定します。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8205**

DSCITV は、チャンネル・タイプが \*CLUSSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR の場合にのみ許可されます。

**重大度**

40: 停止エラー

## 説明

DSCITV パラメーターは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR の場合にのみ指定できます。

## 応答

コマンドから DSCITV パラメーターを削除するか、またはコマンドが CRTMQMCHL であれば、CHLTYPE パラメーターの値を変更して \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR を指定します。次にコマンドを再実行してください。

## AMQ8206

SHORTRTY を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、CLUSRCVR、\*SDR または \*SVR の場合です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

SHORTRTY パラメーターは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR の場合にのみ指定できます。

## 応答

コマンドから SHORTRTY パラメーターを除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE パラメーターを変更して、\*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR を指定します。次にコマンドを再実行してください。

## AMQ8207

SHORTTMR を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、CLUSRCVR、\*SDR または \*SVR の場合です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

SHORTTMR パラメーターは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR の場合にのみ指定できます。

## 応答

コマンドから SHORTTMR パラメーターを除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE パラメーターを変更して、\*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR を指定します。次にコマンドを再実行してください。

## AMQ8208

LONGRTY を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR または \*SVR の場合です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

LONGRTY パラメーターは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR の場合にのみ指定できます。

## 応答

コマンドから LONGRTY パラメーターを除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE パラメーターを変更して、\*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR を指定します。次にコマンドを再実行してください。

## AMQ8209

LONGTMR を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR または \*SVR の場合です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

LONGTMR パラメーターは、チャンネル・タイプが \*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR の場合にのみ指定できます。

**応答**

コマンドから LONGTMR パラメーターを除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE パラメーターを変更して、\*CLUSDR、\*CLUSRCVR、\*SDR、または \*SVR を指定します。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8210**

PUTAUT は、チャンネル・タイプが \*RCVR、\*RQSTR、または \*CLUSRCVR の場合にのみ許可されます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

PUTAUT パラメーターは、チャンネル・タイプが \*RCVR、\*RQSTR、または \*CLUSRCVR の場合にのみ指定できます。

**応答**

コマンドから PUTAUT パラメーターを削除するか、またはコマンドが CRTMQMCHL であれば、CHLTYPE パラメーターの値を変更して \*RCVR、\*RQSTR、または \*CLUSRCVR を指定します。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8211**

BATCHINT は、チャンネル・タイプ \*SDR または \*SVR でのみ許可されます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

BATCHINT パラメーターは、チャンネル・タイプ \*SDR または \*SVR でのみ指定できます。

**応答**

コマンドから BATCHINT パラメーターを除去するか、コマンドが CRTMQMCHL の場合は、CHLTYPE パラメーター値を変更して \*SDR または \*SVR を指定します。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8212 (IBM i)**

TRPTYPE(\*LU62) には TPGMNAME パラメーターが必要です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

必須パラメーターが指定されていません。

**応答**

パラメーター TPGMNAME の値を入力してください。

**AMQ8213 (IBM i)**

チャンネル・タイプ \*SDR または \*SVR には TMQNAME パラメーターが必要です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

チャンネル・タイプ \*SDR または \*SVR には、TMQNAME パラメーターを指定しなければなりません。

**応答**

パラメーター TMQNAME の値を入力してください。

**AMQ8214**

CONNAME パラメーターが欠落しています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

チャンネル・タイプが SDR、RQSTR、CLNTCONN、CLUSDR の場合は、CONNAME パラメーターを指定する必要があります。TRPTYPE が TCP でないなら、チャンネル・タイプが CLUSRCVR の場合にもこのパラメーターを指定する必要があります。

**応答**

パラメーター CONNAME の値を入力してください。

**AMQ8214 (IBM i)**

CONNNAME パラメーターが欠落しています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

チャンネル・タイプ\*SDR、\*RQSTR、\*CLTCN および\*CLUSDR では、CONNNAME パラメーターを指定する必要があります。チャンネル・タイプ\*CLUSRCVR でも、TRPTYPE が\*TCP でない場合には必要です。

**応答**

パラメーター CONNNAME の値を入力してください。

**AMQ8215 (IBM i)**

CVTMSG を使用できるのは、チャンネル・タイプが\*SDR、\*SVR、\*CLUSDR または\*CLUSRCVR の場合だけです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CVTMSG パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが\*SDR、\*SVR、\*CLUSDR または\*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

CVTMSG パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には、\*SDR、\*SVR、\*CLUSDR または CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8216 (IBM i)**

MODENAME は TRPTYPE(\*LU62) にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MODENAME パラメーターは、TRPTYPE(\*LU62) にのみ指定することができます。

**応答**

MODENAME パラメーターをコマンドから除去するか、あるいは\*LU62 を指定するように TRPTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8217 (IBM i)**

CONNNAME を使用できるのは、チャンネル・タイプが\*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または\*CLUSRCVR の場合だけです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CONNNAME パラメーターはチャンネル・タイプ\*SDR、\*SVR、\*RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR の場合にしか指定できません。

**応答**

CONNNAME パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には\*SDR、\*SVR、\*RQSTR、CLUSDR または CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8218**

システムは、入力されたパラメーターの組み合わせを受け入れることができません。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ8219**

コマンド・サーバー・キューがオープンしています。あとで再試行してください。

**重大度**

30: 重大エラー

**応答**

少し待機してから、あとで再実行します。

**AMQ8220 (IBM i)**

PNGMQMCHL コマンドが完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

PNGMQMCHL コマンドは、<insert\_1> バイトのデータを <insert\_3> に送信し、データを <insert\_4>.<insert\_5> 秒で受信しました。要求された長さがオペレーティング・システムおよび通信プロトコルの、1 回の通信伝送に許可された最大数より大きい時には、バイト数はコマンドで要求された量より少なくなります。

**応答**

なし。

**AMQ8221 (IBM i)**

ping データ長が切り捨てられました。指定された長さ <insert\_1>、実際の長さ <insert\_2>。

**重大度**

10: 警告

**説明**

送信された ping データの長さは、現行構成における制約のために削減されました。

**応答**

なし。

**AMQ8222 (IBM i)**

PNGMQMCHL コマンドによって送信および受信されたデータが同一ではありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ping データ比較がオフセット <insert\_1> で失敗しました。データ送信 <insert\_3>、データ受信 <insert\_4>。

**応答**

これは通信の障害が原因である可能性があります。他のメッセージが出されている可能性があります。

**AMQ8223 (IBM i)**

表示するチャンネルはありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムで定義されているチャンネルはありません。

**応答**

CRTMQMCHL コマンドを使用してチャンネルを作成してください。

**AMQ8224 (IBM i)**

元のチャンネル <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ソース IBM WebSphere MQ チャンネルが存在しません。

**応答**

MQ チャンネル名を訂正して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8225 (IBM i)**

取り出しチャンネルと受け入れチャンネルが等しくなっています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

取り出しチャンネル名と受け入れチャンネル名に同じ名前が指定されています。

**応答**

異なる 2 つの名前を選択してください。そのうちの 1 つには、取り出しチャンネルが存在していなければなりません。

**AMQ8226**

IBM WebSphere MQ チャンネルはすでに存在します。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> は既に存在しているため、作成できません。

**応答**

名前が正しいかどうか調べ、REPLACE を指定してコマンドを再実行します。またはチャンネルを削除してからコマンドを再実行します。

**AMQ8227**

チャンネル <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルが見つかりませんでした。

**応答**

チャンネル名が正しくない場合は訂正し、コマンドを再実行します。DEFINE CHANNEL の場合は、エラーのチャンネル名が存在するかどうか調べます。

**AMQ8229 (IBM i)**

表示するメッセージ・キュー・マネージャーはありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

管理するメッセージ・キュー・マネージャーはありません。

**応答**

PF6 キーまたは ADMQMNAM コマンドを使用して、キュー・マネージャーを追加してください。

**AMQ8230 (IBM i)**

表示するキュー・マネージャー・オブジェクトはありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーに表示するオブジェクトがないか (これはまれです)、あるいは選択基準の結果として表示するオブジェクトがゼロとなっているかのどちらかです。

**応答**

選択基準を変更または除去してください。

**AMQ8231 (IBM i)**

表示する応答がありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

表示するコマンドまたはコマンド応答がありません。

**応答**

なし。

**AMQ8232 (IBM i)**

表示するメッセージはありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キューが空であるか、あるいはキューが存在しません。

**応答**

なし。

**AMQ8233 (IBM i)**

表示するメッセージ・データがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

メッセージにデータが含まれていません。

**応答**

なし。

**AMQ8234 (IBM i)**

表示する応答データがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このコマンドについて表示する応答データがありません。これは、おそらくコマンドがまだ完了していないためです。

**応答**

なし。

**AMQ8235 (IBM i)**

表示するコマンド・パラメーターがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

一部のコマンドには、必須パラメーターが含まれていません。

**応答**

なし。

**AMQ8236 (IBM i)**

チャンネル <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

CHGMQMCHL が、存在しないチャンネルに対して発行されました。

**応答**

IBM WebSphere MQ チャンネル名を訂正して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8237 (IBM i)**

NPMSPEED を使用できるのは、チャンネル・タイプが\*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR の場合のみです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

NPMSPEED パラメーターはチャンネル・タイプ\*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR の場合にしか指定できません。

## 応答

NPMSPPEED パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再実行してください。

### AMQ8238 (IBM i)

キュー・マネージャーの接続はすでにオープンしています。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

MQCONN 呼び出しは発行されましたが、スレッドまたはプロセスはすでに異なるキュー・マネージャーにすでに接続されています。スレッドまたはプロセスが一度に接続できるキュー・マネージャーは1つだけです。

## 応答

MQDISC 呼び出しを使用して、すでに接続されているキュー・マネージャーから切断した後で、もう一度 MQCONN を発行して、新しいキュー・マネージャーに接続してください。既存のキュー・マネージャーから切断すると、現在オープンされているすべてのキューがクローズされます。MQDISC 呼び出しは、コミットされていない作業単位がすべてコミットされるか、バックアウトされた後で使用することをお勧めします。

### AMQ8239 (IBM i)

LOCLADDR は、チャンネル・タイプ\*RCVR または\*SVRCN には無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

LOCLADDR パラメーターは、チャンネル・タイプ\*SDR、\*SVR、RQSTR、\*CLUSSDR、\*CLUSRCVR、または\*CLTCN にのみ指定できます。

## 応答

CONNAME パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSSDR、\*CLTCN または\*CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再実行してください。

### AMQ8240 (IBM i)

<insert\_3>で予期しないエラー <insert\_1> が発生しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

<insert\_3> 処理中に、予期しない戻りコード <insert\_1> が戻されました。

## 応答

このメッセージは、内部エラーと関連しています。WRKPRB を使用して問題 ID を記録し、QPSRVDMP、QPJOBLOG、および QPDSPJOB ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8241 (IBM i)

予期しないメッセージ形式 <insert\_3> を受け取りました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

内部応答キューのメッセージで、予期しないメッセージ形式 <insert\_3> を受け取りました。

**応答**

このメッセージは、おそらくこのキューに誤って送られたメッセージです。エラーのあるメッセージは、SYSTEM.ADMIN.EXCEPTION.QUEUE に書き出されるので、そこで WRKMQMMSG コマンドを使用して表示することができます。

**AMQ8242**

SSLCIPH 定義が間違っています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

SSLCIPH パラメーターの定義が間違っています。

**応答**

SSLCIPH 定義を訂正し、コマンドを再実行します。

**AMQ8243**

SSLPEER 定義が間違っています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

SSLPEER パラメーターの定義が間違っています。構文が間違っているか、または無効な属性タイプを指定している可能性があります。

**応答**

SSLPEER 定義を訂正し、コマンドを再実行します。

**AMQ8266 (IBM i)**

表示するオブジェクトがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定された名前およびタイプのオブジェクトがありません。

**応答**

なし。

**AMQ8276**

接続の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DISPLAY CONN コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

**AMQ8278 (IBM i)**

最大ハンドル限界に達しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

メッセージ・キュー・マネージャーに指定した最大ハンドル限界を超えようとしてしました。

**応答**

CHGMQM コマンドを使用して、メッセージ・キュー・マネージャーに指定した最大ハンドル限界を増やしてください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8280 (IBM i)**

キューが存在しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

表示されているキューがこのキュー・マネージャーには存在しません。

**応答**

キューの名前を確認し、操作を再試行してください。タイプ \*ALS のキューの表示を試行している場合、キュー定義が存在するキュー定義を参照しているか確認してください。

**AMQ8282 (IBM i)**

キュー・マネージャー <insert\_3> が、接続されているキュー・マネージャーに定義されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

必要なキュー・マネージャー名が「キュー・マネージャーの追加」パネルで正しく入力されていないか、あるいはキュー・マネージャーが接続したキュー・マネージャーで定義されていないかのいずれかです。

**応答**

名前を訂正するか、<insert\_3> と使用法 \*TMQ (伝送キュー) を持つローカル・キューを作成し、接続されたキュー・マネージャーとキュー・マネージャー <insert\_3> の両方に送信側チャンネルと受信側チャンネルを作成することによって、接続されたキュー・マネージャーに <insert\_3> を定義します。

**AMQ8284 (IBM i)**

このユーザーには、<insert\_3> をキューに入れる権限がありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー <insert\_3> (キュー・マネージャー <insert\_4>) は使用を許可されていません。

**応答**

使用を許可されたキュー <insert\_3> を持っています。キュー・マネージャー <insert\_4> がローカル・キュー・マネージャーでない場合は、このキュー・マネージャーの伝送キューに対する権限がない可能性があります。

**AMQ8287**

表示する状況を持つチャンネルがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

表示する状況情報を持つチャンネルがありません。これは、チャンネルが前に開始されていなかったか、またはチャンネルは開始されましたが伝送順序がまだ完了していない、のいずれかであることを示しています。

**応答**

なし。

**AMQ8288 (IBM i)**

コマンド <insert\_1> は許可されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ コマンド <insert\_1> に対して要求された操作を実行する権限がありません。

**応答**

IBM WebSphere MQ 管理者から必要な権限を取得してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8289 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ コマンドを要求する操作を実行する許可がありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ユーザー・プロファイルが QMQMADM グループのメンバーではないので、IBM WebSphere MQ コマンドを要求する操作を実行する許可がありません。

**応答**

MQ 管理者にユーザー・プロファイル \*ALLOBJ 権限をもらえるよう尋ねるか、ユーザー・プロファイルを QMQADM グループ (基本グループか追加グループとしてどちらか) に追加してください。

**AMQ8291 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ リモート・トレースはすでに実行中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リモート・トレースを開始しようとしたのですが、トレースはすでに実行中です。

**応答**

リモート・トレースを実行したままにするか、設定を変更したい場合はリモート・トレースをオフにし、適切な設定でトレースをもう一度オンにしてください。

**AMQ8294 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ リモート・トレースはすでにオフになっています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リモート・トレースを終了しようとしたのですが、トレースはすでにオフになっています。

**応答**

リモート・トレースをオフのままにしてください。

**AMQ8295 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ オブジェクトが許可リストによって保護されていません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

指定されたオブジェクトは、許可を取り消されることを許可リストによって保護されていません。

**応答**

権限の表示 (DSPMQMAUT) コマンドを使用して、オブジェクトを保護している許可リスト (があれば) を判別してください。オブジェクトを保護している許可リストに対して RVKMQMAUT コマンドを再発行して、許可リストの権限を取り消してください。

**AMQ8296**

<insert\_1> MQSC コマンドが正常に完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> コマンドが正常に完了しました。 <insert\_5> からの <insert\_1> MQ コマンドがエラーなしで処理され、レポートがプリンター・スプール・ファイルに書き込まれました。

**応答**

なし。

**AMQ8297**

<insert\_1> MQSC コマンドが正常に検査されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_3> コマンドは正常に完了しました。 <insert\_5> からの <insert\_1> MQ コマンドが検査され、レポートがプリンター・スプール・ファイルに書き込まれました。

**応答**

なし。

**AMQ8298**

MQSC コマンド・プロセスのエラー・レポートが生成されました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

<insert\_5> コマンドが一連の MQ コマンドを処理しようとしたのですが、いくつかのエラーを検出しました。しかし、操作は部分的に完了している可能性があります。

## 応答

<insert\_5> コマンドが実行された場合は、レポートがプリンター・スプール・ファイルに書き込まれました。検出されたエラーの詳細についてスプール・プリンター・ファイルを調べ、<insert\_3> の MQSC ソースを訂正して、操作を再試行してください。

### AMQ8299

MQSC プロセスのために <insert\_3> をオープンできません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

<insert\_5> コマンドは、<insert\_3> for MQ コマンド処理のオープンに失敗しました。

## 応答

目的のファイルが存在すること、ファイルを正しく指定したことを確認してください。指定を訂正するかまたはオブジェクトを作成して、操作をやり直してください。

### AMQ8300 (IBM i)

定義された出口プログラム/ユーザー・データ・フィールドが多すぎます。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

許可された最大合計の 6 つより多くの出口プログラムまたはユーザー・データ・フィールド、あるいはその両方を定義したチャンネルを作成または変更しようとした。

## 応答

最大で 6 つの出口プログラムまたはユーザー・データ・フィールド、あるいはその両方が定義されるように、チャンネルを再度定義してください。

### AMQ8301 (IBM i)

IBM WebSphere MQ ストレージ・モニター・ジョブを開始できませんでした。

## 重大度

50: システム・エラー

## 説明

ストレージ・モニター・プロセス (サブシステム QSYSWRK のジョブ QMQM) を開始しようとしたのですが失敗しました。

## 応答

ジョブ・ログを調べて失敗の原因を確認し、コマンドを再試行してください。

### AMQ8302

IBM WebSphere MQ サービスの初期化中に内部障害が発生しました。

## 重大度

50: システム・エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ サービスを初期化しようとしたときに、エラーが発生しました。

## 応答

xcsInitialize の呼び出しが戻りコード FAIL、STOP、または STOP\_ALL で終了しました。この問題を診断するためのメッセージについては、ログを参照してください。

### AMQ8303

要求の処理に使用できる記憶域が不足しています。

## 重大度

50: システム・エラー

**AMQ8304**

トレースを開始できません。実行中のトレースが多過ぎます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

同時に最大 15 個のトレースを実行できます。すでにこれだけの数のトレースが実行中です。

**応答**

他の 1 つ以上のトレースを停止させて、コマンドを再試行してください。

**AMQ8305**

トレースを開始できません。実行中のトレースが多過ぎます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

最大 9 つのトレースを同時に実行できますが、すでにこれだけの数のトレースが実行中です。

**応答**

他の 1 つ以上のトレースを停止させて、コマンドを再試行してください。

**AMQ8306 (IBM i)**

BATCHSIZE はチャンネル・タイプ \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR の場合にしか使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

BATCHSIZE パラメーターはチャンネル・タイプ \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR の場合にしか指定できません。

**応答**

BATCHSIZE パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8307 (IBM i)**

SEQNUMWRAP はチャンネル・タイプ \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR の場合にしか使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

SEQNUMWRAP パラメーターはチャンネル・タイプ \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR の場合にしか指定できません。

**応答**

SEQNUMWRAP パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、CLUSSDR または CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8308 (IBM i)**

MSGRTYEXIT はチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR の場合にしか使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGRTYEXIT パラメーターはチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR にのみ指定することができます。

**応答**

MSGRTYEXIT パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8309 (IBM i)**

MSGRTYDATA はチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR の場合にしか使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGRTYDATA パラメーターはチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR にのみ指定することができます。

**応答**

MSGRTYDATA パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には、\*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8310 (IBM i)**

MSGRTYNBR はチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR の場合にしか使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGRTYNBR パラメーターはチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR にのみ指定することができます。

**応答**

MSGRTYNBR パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には、\*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8311 (IBM i)**

MSGRTYITV はチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR の場合にしか使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGRTYITV パラメーターはチャンネル・タイプ \*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR にのみ指定することができます。

**応答**

MSGRTYITV パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には、\*CLUSRCVR、\*RCVR または \*RQSTR を指定するように CHLTYPE パラメーターを変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8312 (IBM i)**

CLUSTER は、キュー・タイプ \*ALS、\*LCL および \*RMT にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLUSTER パラメーターは、キュー・タイプ \*ALS、\*LCL および \*RMT の場合しか指定できません。

**応答**

CLUSTER パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMQ の場合には、QTYPE パラメーター値を変更して \*ALS、\*LCL または \*RMT を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8313 (IBM i)**

CLUSNL は、キュー・タイプ \*ALS、\*LCL および \*RMT にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLUSNL パラメーターは、キュー・タイプ \*ALS、\*LCL および \*RMT の場合しか指定できません。

**応答**

CLUSNL パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMQ の場合には、QTYPE パラメーター値を変更して \*ALS、\*LCL または \*RMT を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8314 (IBM i)**

DEFBIND は、キュー・タイプ \*ALS、\*LCL および \*RMT にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

DEFBIND パラメーターは、キュー・タイプ \*ALS、\*LCL および \*RMT の場合しか指定できません。

**応答**

DEFBIND パラメーターをコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMQ の場合には、QTYPE パラメーター値を変更して \*ALS、\*LCL または \*RMT を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8315**

表示する NAMELIST がありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムには一致する NAMELIST が定義されていません。

**応答**

NAMELIST の作成 (CRTMQMNL) コマンドを使用して NAMELIST を作成してください。

**AMQ8316**

表示するクラスター・キュー・マネージャーがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムには、一致するクラスター・キュー・マネージャーが定義されていません。

**応答**

なし。

**AMQ8317 (IBM i)**

CLUSTER を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR の場合だけです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLUSTER パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

コマンドから CLUSTER パラメーターを除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL である場合には、CHLTYPE パラメーター値が \*CLUSSDR または \*CLUSRCVR となるように指定変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8318 (IBM i)**

CLUSNL を使用できるのはチャンネル・タイプが \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR の場合だけです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CLUSNL パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*CLUSSDR および \*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

コマンドから CLUSNL パラメーターを除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL である場合には、CHLQTYPE パラメーター値が \*CLUSDR または \*CLUSRCVR となるように指定変更してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ8319**

MSGEXIT を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または \*CLUSRCVR である場合のみです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGEXIT パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または \*CLUSRCVR である場合のみです。

**応答**

MSGEXIT パラメーターをコマンドから削除するか、あるいは、CRTMQMCHL コマンドの場合は、CHLTYPE パラメーター値を変更して \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または \*CLUSRCVR を指定してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ8320 (IBM i)**

MSGUSRDATA を使用できるのは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSDR または \*CLUSRCVR の場合だけです。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MSGUSRDATA パラメーターを指定できるのは、チャンネル・タイプが \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または \*CLUSRCVR の場合だけです。

**応答**

コマンドから MSGUSRDATA パラメーターを除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL である場合には、CHLTYPE パラメーター値が \*SDR、\*SVR、\*RCVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または \*CLUSRCVR となるように指定変更してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ8321 (IBM i)**

プロセス <insert\_3> はまだ実行中です。

**重大度**

0: 情報

**AMQ8322 (IBM i)**

TIMEOUT は ENDCCTJOB(\*YES) と一緒にのみ使用できます。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

接続されたジョブが ENDCCTJOB オプションを \*YES にセットして終了されたときのみ、TIMEOUT パラメーターは指定できます。

**応答**

TIMEOUT パラメーターをコマンドから除去するか、キュー・マネージャーを完全に静止したい場合は、ENDCCTJOB パラメーターを \*YES に変更してください。次にコマンドを再実行してください。

**AMQ8323 (IBM i)**

OPTION(\*PREEMPT) は ENDCCTJOB(\*YES) と一緒に使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャーの先制終了を実行するとき、ENDCCTJOB(\*YES) パラメーターは使用できません。

**応答**

ENDCCTJOB(\*YES) パラメーターを ENDCCTJOB(\*NO) に変更するか、先制終了をせずにキュー・マネージャーを完全に静止したい場合は、OPTION(\*PREEMPT) パラメーターを別の値に変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8324 (IBM i)**

OPTION(\*WAIT) は MQMNAME(\*ALL) と一緒には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

OPTION(\*WAIT) パラメーターは、キュー・マネージャーのすべてをシャットダウンするときには使用できません。

**応答**

コマンドから OPTION(\*WAIT) パラメーターを除去するか、個々のキュー・マネージャー名を指定して、OPTION(\*WAIT) パラメーターでキュー・マネージャーを1つずつシャットダウンしてください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8325 (IBM i)**

MQMNAME(\*ALL) は ENDCCTJOB(\*NO) と一緒には使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MQMNAME(\*ALL) パラメーターは、パラメーターは、キュー・マネージャーのフル・シャットダウンの実行時のみ使用できます。

**応答**

個々のキュー・マネージャー名を指定して1つずつキュー・マネージャーをシャットダウンするか、ENDCCTJOB パラメーターを \*YES にしてください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8330**

実行中

**重大度**

0: 情報

**AMQ8331**

正常に終了

**重大度**

0: 情報

**AMQ8332**

即時に終了

**重大度**

0: 情報

**AMQ8333**

割り込みして終了しました。

**重大度**

0: 情報

**AMQ8334**

予期せず終了

**重大度**

0: 情報

**AMQ8335**

始動中

**重大度**

0: 情報

**AMQ8336**

静止中

**重大度**

0: 情報

**AMQ8337**

即時に終了中

**重大度**

0: 情報

**AMQ8338**

割り込みして終了しています。

**重大度**

0: 情報

**AMQ8339**

削除しています。

**重大度**

0: 情報

**AMQ8340**

使用不可

**重大度**

0: 情報

**AMQ8341**

サブプール (< insert\_3 >) < insert\_4 > PID (< insert\_1 >)

**重大度**

0: 情報

**AMQ8342**

表示する権限がありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムに定義されている権限レコードには、入力パラメーターを満たすものはありません。

**応答**

適切な入力を使用して、システムで定義されているすべての権限をリストするか、別の入力を使用してコマンドを再入力します。

**AMQ8343**

スタンバイとして実行中

**重大度**

0: 情報

**AMQ8343 (IBM i)**

要求した操作はユーザー QMQMADM には無効です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

権限 \*REMOVE または \*NONE を使用して、有効な IBM WebSphere MQ オブジェクトに対してユーザー QMQMADM に割り当てられた権限を完全に削除することは許可されていません。

**応答**

このコマンドのユーザー・リストから QMQMADM を除去してください。

**AMQ8344**

別の場所で実行中

## 重大度

0: 情報

### AMQ8344 (IBM i)

削除オプションは総称プロファイルにのみ有効です。

## 重大度

0: 情報

### 説明

削除オプションは、この権限プロファイルからすべてのユーザーを削除することにより権限プロファイルを削除するため、オブジェクト名または特殊な値 &CLASS に対して妥当ではありません。

### 応答

オブジェクトからユーザーを削除するには、WRKMQMAUTD コマンドを使ってください。

### AMQ8345 (IBM i)

BATCHHB は、チャンネル・タイプ\*RCVR、\*RQSTR、\*SVRCN または\*CLTCN には無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

### 説明

BATCHHB パラメーターは、チャンネル・タイプ\*SDR、\*SVR、\*CLUSDR、または\*CLUSRCVR にのみ指定することができます。

### 応答

BATCHHB パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*CLUSDR、または\*CLUSRCVR を指定するように CHLTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再実行してください。

### AMQ8346 (IBM i)

QMNAME と QMID のパラメーターの組み合わせが不適切です。

## 重大度

40: 停止エラー

### 説明

削除するキュー・マネージャー名(QMNAME)のパラメーターが\*QMID ではなく、削除するキュー・マネージャー ID(QMID)のパラメーターが値を持っています。

### 応答

QMNAME が\*QMID でない限り、QMID に値は指定できません。QMNAME パラメーターに指定されている値、または QMID パラメーターの値を変更してから、要求を再実行してください。

### AMQ8347 (IBM i)

USERID は、チャンネル・タイプ\*RCVR、\*SVRCN または\*CLUSRCVR には無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

### 説明

USERID パラメーターは、チャンネル・タイプ\*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または\*CLTCN にのみ指定することができます。

### 応答

USERID パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または\*CLTCN を指定するように CHLTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再実行してください。

### AMQ8348 (IBM i)

PASSWORD は、チャンネル・タイプ\*RCVR、\*SVRCN または\*CLUSRCVR には無効です。

## 重大度

40: 停止エラー

### 説明

PASSWORD パラメーターは、チャンネル・タイプ\*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または\*CLTCN にのみ指定することができます。

**応答**

PASSWORD パラメーターをこのコマンドから除去するか、あるいはコマンドが CRTMQMCHL の場合には \*SDR、\*SVR、\*RQSTR、\*CLUSDR、または \*CLTCN を指定するように CHLTYPE パラメーター値を変更してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8349 (IBM i)**

<insert\_3> に対する権限変更が失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オブジェクトに対する権限変更が要求されましたが、変更できませんでした。

**応答**

付与する権限が <insert\_3> のオブジェクト・タイプに関連していることを確認してください。

**AMQ8350**

使用法: dspmqver [-p Components] [-f Fields] [-b] [-v]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ8351**

IBM WebSphere MQ Java 環境が正しく構成されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

Java アプリケーションを実行しようとするコマンドが発行されました。しかし、有効な JRE (Java ランタイム環境) が見つからないか、IBM WebSphere MQ Java 環境変数がセットアップされていません。コマンドを正常に実行できませんでした。

**応答**

有効な JRE (Java ランタイム環境) がインストールされていることを確認し、setjmsenv スクリプトを使用して IBM WebSphere MQ Java 環境変数を設定してください。コマンドを再試行する。

**AMQ8352**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が 1 次インスタンスになりました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> は以前にスタンバイ・インスタンスとして実行されていましたが、現在は 1 次インスタンスになっています。

**応答**

なし。

**AMQ8353**

静止要求が受け入れられました。キュー・マネージャーは、すべての未解決の作業が完了したときに停止して、スタンバイ・キュー・マネージャーへの切り替えを許可します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

残っている作業がないときに、キュー・マネージャーの終了を要求しました。すでに実行中のアプリケーションは作業を完了できますが、まもなくキュー・マネージャーは新しいアプリケーションを拒否するようになります。キュー・マネージャーが停止すると、スタンバイ・キュー・マネージャーへの切り替えが許可されます。

**応答**

なし。

**AMQ8354**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が終了し、スタンバイ・キュー・マネージャーへの切り替えが許可されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_5> が終了しました。キュー・マネージャーが停止すると、スタンバイ・キュー・マネージャーへの切り替えが許可されます。

**応答**

なし。

**AMQ8355**

IBM WebSphere MQ スタンバイ・キュー・マネージャー <insert\_5> は 1 次インスタンスになることを許可されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ スタンバイ・キュー・マネージャー <insert\_5> は、ファイル・システム内のデータに対するロックを取得しましたが、1 次インスタンスになることを許可されていませんでした。最も可能性が高い原因は、キュー・マネージャーが切り替えを許可せずに停止されたことです。

**応答**

なし。

**AMQ8367**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のアクティブ・インスタンスが終了していません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

スタンバイ・インスタンスを終了する '-x' オプションを使用して、IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のローカル・インスタンスを終了しようとした。そのローカル・インスタンスはスタンバイ・インスタンスではありません。

**応答**

'-x' オプションを指定しないで endmqm コマンドを発行してください。

**AMQ8368**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のスタンバイ・インスタンスが終了しませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> のローカル・インスタンスを終了しようとした。これはスタンバイ・インスタンスであるため、endmqm の '-x' オプションを指定する必要があります。

**応答**

'-x' オプションを指定して endmqm コマンドを発行してください。

**AMQ8370**

使用法: runmqdmn -q Queue -a Assembly

[-m QueueManager] [-c ClassName] [-u Text] [-s Syncpoint]

[-n MaxThreads] [-t Timeout] [-b BackoutThreshold]

[-r BackoutQueue] [-p Context] [-d]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ8371**

<insert\_3> は有効なコマンド行オプションではありません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

オプション <insert\_3> がコマンド行でアプリケーションに指定されました。このオプションはアプリケーションで有効なコマンド行オプションではありません。

**応答**

アプリケーションの使用法情報を確認して、再試行してください。

**AMQ8372**

必須のコマンド行オプション <insert\_3> が欠落しています。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

アプリケーションは、いくつかの必須コマンド行オプションを必要とします。<insert\_3>のいずれかが指定されていません。

**応答**

アプリケーションの使用法情報を確認して、すべての必須パラメーターが指定されていることを確認してから、再試行してください。

**AMQ8373**

コマンド行オプション <insert\_3> (<insert\_4>) に無効な値が指定されました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンド行オプション <insert\_3> (<insert\_4>) に指定された値が無効です。

**応答**

アプリケーションの使用法情報を確認して、すべてのオプションが有効な範囲の値を指定することを確認してから、再試行してください。

**AMQ8374**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が存在しません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が存在しません。

**応答**

Either create the queue manager (crtmqm command) or correct the queue manager name used in the command and then try the command again.

**AMQ8375**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が使用不可です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は停止しているか、または接続できないため、使用できません。

## 応答

strmqm コマンドを使用して必要に応じてメッセージ・キュー・マネージャーを開始するか、または偶発的な問題 (例: ネットワーク接続) を修正してからコマンドを再試行してください。

### AMQ8376

IBM WebSphere MQ queue <insert\_3> が見つかりません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

キュー <insert\_3> が見つかりませんでした。作成されていない可能性があります。

## 応答

指定されたキューの名前が正しいことを確認してください。キュー名は大文字と小文字を区別します。キューが作成されていない場合は、runmqsc コマンドを使用してキューを作成してください。次にコマンドを再試行してください。

### AMQ8377

アプリケーションが予期しないエラー <insert\_1> を受け取りました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラー <insert\_1> が予期せずアプリケーションに戻されました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ8378

予期しない例外が .NET フレームワークから受信されました。

<insert\_3>

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

アプリケーションが、基本となる .NET フレームワークから例外を受信しました。この例外に関する情報が続けて表示されます:

<insert\_4>

## 応答

例外内に含まれる情報を調べて、ローカルで解決できるかどうかを判断してください。

問題をローカルに解決できない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ8379

アセンブリー <insert\_3> をロードできませんでした。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ .NET モニターがアセンブリー <insert\_3> をロードしようとしたましたが、基礎となる .NET フレームワークから、見つからないことを示す例外を受け取りました。 <insert\_4>

## 応答

アセンブリーが存在し、アプリケーションを実行するユーザーがそれにアクセス可能であることを確認してから再試行します。

アセンブリーを使用可能にする必要がある場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ8380

IMQObjectTrigger を実装するクラスが <insert\_3> に見つかりませんでした。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ .NET モニターは、IMQObjectTrigger インターフェースを実装する参照先アセンブリー <insert\_3> 内のクラスを識別できませんでした。

## 応答

IBM WebSphere MQ .NET モニターでは、IMQObjectTrigger インターフェースをインプリメントする単一のクラスが、参照されるアセンブリーに存在するか、または実行するアセンブリーでクラスが識別される必要があります。IMQObjectTrigger をインプリメントする単一のクラスを含むようにアセンブリーを変更するか、またはコマンド行でクラス名を指定して、再試行してください。

## AMQ8381

<insert\_3>にある IMQObjectTrigger (<insert\_1>) をインプリメントするクラスが多すぎます。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ .NET モニターは、参照されるアセンブリー <insert\_3> 内で <insert\_1> クラスを検出しました。これらのクラスはすべて、IMQObjectTrigger インターフェースを実装しています。

## 応答

IBM WebSphere MQ .NET モニターでは、IMQObjectTrigger インターフェースをインプリメントする単一のクラスが、参照されるアセンブリーに存在するか、または実行するアセンブリーでクラスが識別される必要があります。IMQObjectTrigger をインプリメントする単一のクラスを含むようにアセンブリーを変更するか、またはコマンド行でクラス名を指定して、再試行してください。

## AMQ8382

バックアウトしきい値 (<insert\_1>) を超えるメッセージが <insert\_4> に移動しました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー <insert\_3> の処理中に、バックアウト・カウントが指定のバックアウトしきい値 (<insert\_1>) を超えたメッセージが <insert\_4> に正常に移動されました。

## 応答

バックアウト・キューに移動されたメッセージのバックアウト・カウントが、指定された(または入力キュー BOTHRESH 属性から選択された)バックアウトしきい値よりも大きい値です。このメッセージが入力キューにロールバックされた理由を調べて、問題を解決してください。バックアウト処理が不要な場合は、コマンド行オプションやキュー定義を変更して .NET モニターから必要な動作を実行してください。

## AMQ8383

バックアウトしきい値 (<insert\_1>) を破るメッセージを移動できませんでした。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

キュー <insert\_3> の処理中に、バックアウト・カウントが指定のバックアウトしきい値 (<insert\_1>) を超えたメッセージが検出されましたが、バックアウト・キューまたは送達不能キューに移動できませんでした。

## 応答

バックアウトされたメッセージは、別のキューに移動することができなかつたため、入力キューに残されました。この結果、.NET モニターが終了しました。

バックアウト・キューまたは送達不能キューがいつばいか、または書き込み不可にされている可能性があります。この場合は、最初にこの問題を解決してください。

バックアウト処理によってメッセージが別のキューに入れられた場合は、コマンド行オプション、入力キュー定義、およびキュー・マネージャーの送達不能キュー属性を調べて、それらが正しいことを確認してから、再試行してください。

## AMQ8390

使用法: endmqdnm -q Queue [-m QueueManager]

## 重大度

0: 情報

## 説明

これは正しい使用法を示したものです。

## 応答

なし。

## AMQ8391

<insert\_3> は有効なコマンド行オプションではありません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

オプション <insert\_3> がコマンド行でアプリケーションに指定されました。このオプションは、有効な一連のコマンド行オプションのいずれでもありません。

## 応答

アプリケーションの使用法情報を確認して、再試行してください。

## AMQ8392

必須のコマンド行オプション <insert\_3> が欠落しています。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

アプリケーションは、必須コマンド行オプションを必要とします。<insert\_3>のいずれかが指定されていません。

## 応答

アプリケーションの使用法情報を確認して、すべての必須パラメーターが指定されていることを確認してから、再試行してください。

## AMQ8393

コマンド行オプション <insert\_3> (<insert\_4>) に無効な値が指定されました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

コマンド行オプション <insert\_3> (<insert\_4>) に指定された値が無効です。

## 応答

アプリケーションの使用法情報を確認して、すべてのオプションが有効な範囲の値を指定することを確認してから、再試行してください。

## AMQ8394

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が存在しません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が存在しません。

## 応答

Either create the queue manager (crtmqm command) or correct the queue manager name used in the command and then try the command again.

## AMQ8395

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> が使用不可です。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_3> は停止しているか、または接続できないため、使用できません。

## 応答

strmqm コマンドを使用して必要に応じてメッセージ・キュー・マネージャーを開始するか、または偶発的な問題 (例: ネットワーク接続) を修正してからコマンドを再試行してください。

## AMQ8396

IBM WebSphere MQ queue <insert\_3> が見つかりません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

キュー <insert\_3> が見つかりませんでした。作成されていない可能性があります。

## 応答

指定されたキューの名前が正しいことを確認してください。キュー名は大文字と小文字を区別します。キューが作成されていない場合は、runmqsc コマンドを使用してキューを作成してください。次にコマンドを再試行してください。

## AMQ8397

アプリケーションが予期しないエラー <insert\_1> を受け取りました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

エラー <insert\_1> が予期せずアプリケーションに戻されました。

## 応答

生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ8398

予期しない例外が .NET フレームワークから受信されました。

<insert\_3>

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

アプリケーションが、基本となる .NET フレームワークから例外を受信しました。この例外に関する情報が続けて表示されます:

<insert\_4>

## 応答

例外内に含まれる情報を調べて、ローカルで解決できるかどうかを判断してください。

問題をローカルに解決できない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### **AMQ8401**

<insert\_1> 個の MQSC コマンドが読み取られました。

##### 重大度

0: 情報

##### 説明

MQSC スクリプトには、<insert\_1> コマンドが含まれています。

##### 応答

なし。

#### **AMQ8402**

<insert\_1> コマンドに構文エラーがあります。

##### 重大度

0: 情報

##### 説明

MQSC スクリプトに、構文エラーのある <insert\_1> コマンドが含まれています。

##### 応答

なし。

#### **AMQ8403**

<insert\_1> 個の有効な MQSC コマンドを処理できませんでした。

##### 重大度

0: 情報

##### 説明

MQSC スクリプトに、処理に失敗した <insert\_1> 個のコマンドが含まれています。

##### 応答

なし。

#### **AMQ8404**

コマンドは失敗しました。

##### 重大度

0: 情報

##### 説明

MQSC コマンドは認識されていますが、処理できません。

##### 応答

なし。

#### **AMQ8405**

次のコマンド・セグメントの終わりまたは終わりの近くで構文エラーが見つかりました:-

##### 重大度

0: 情報

##### 説明

MQSC スクリプトに、構文エラーのある <insert\_1> コマンドが含まれています。

##### 応答

なし。

#### **AMQ8406**

MQSC で予期しない「入力の終わり」に到達しました。

##### 重大度

0: 情報

**説明**

MQSC コマンドに継続文字が含まれていますが、コマンドを完了せずに「入力の終わり」に到達しました。

**応答**

なし。

**AMQ8407**

プロセスの内容を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY PROCESS コマンドが正常に完了して、このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8408**

キュー・マネージャーの内容を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY QMGR コマンドが正常に完了して、このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8409**

キューの内容を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY QUEUE コマンドが正常に完了して、このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8410**

構文解析プログラム・エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC 構文解析プログラムで内部エラーが発生しました。

**応答**

なし。

**AMQ8411**

キーワードの重複エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトのコマンドに重複したキーワードが含まれています。

**応答**

なし。

**AMQ8412**

数値範囲エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC コマンド・キーワードに割り当てられた値は、許可される範囲の外にあります。

**応答**

なし。

**AMQ8413**

ストリング長エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC キーワードに割り当てられたストリングは、NULL であるか、このキーワードに許可される最大長より長くなっています。

**応答**

なし。

**AMQ8414**

チャンネルの内容を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY CHL コマンドが正常に完了して、このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8415**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーの Ping コマンドが完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC PING QMGR コマンドが正常に完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ8416**

コマンド・サーバーからの応答の待機中に MQSC がタイムアウトになりました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC は、リモート・コマンド・サーバーからの応答メッセージを指定された時間内に受信しませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8417**

チャンネル状況の内容を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY CHANNEL STATUS コマンドが正常に完了して、このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8418**

<insert\_1> 個のコマンド応答を受け取りました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・モードで実行中に、<insert\_1> コマンド応答をリモート・コマンド・サーバーから受信しました。

**応答**

なし。

**AMQ8419**

キューがすでに DCE セルにあります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キューはすでにセルにあります。つまり、その SCOPE 属性はすでに CELL になっています。

**応答**

なし。

**AMQ8420**

チャンネル状況が見つかりません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定されたチャンネルの状況が見つかりませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8421**

必要なキーワードが指定されていません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このコマンドに必要なキーワードが指定されていません。

**応答**

なし。

**AMQ8422**

MQSC が応答キューで前のコマンドに対する次の応答を検出しました:-

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC が応答キューで追加のコマンド応答を検出しました。このメッセージの後に表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8423**

セル・ディレクトリーが使用できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DCE セル・ディレクトリーを使用できないため、要求された操作は失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8424**

名前キーワードでエラーが検出されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC コマンドのキーワードに、無効な名前ストリングが含まれていました。原因として、MQ の名前で受け入れられない文字が含まれていることが考えられます。このエラーの原因となる代表的なキーワードは、QLOCAL (およびその他の q タイプ)、CHANNEL、XMITQ、INITQ、MCANAME などです。

**応答**

なし。

**AMQ8425**

属性値エラー。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC コマンドのキーワードに、無効な値が含まれていました。

**応答**

なし。

**AMQ8426**

有効な MQSC コマンドは次のとおりです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

テキストに有効な MQSC コマンドが示されています。

**応答**

なし。

**AMQ8427**

MQSC コマンドの有効な構文は次のとおりです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

示されているテキストは、MQSC コマンドに有効な構文です。

**応答**

なし。

**AMQ8428**

TYPE キーワードはすでに指定されています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

TYPE はすでに DISPLAY verb の後に指定されています。例えば、DISPLAY QUEUE(\*) type(QLOCAL) type(QALIAS) のようになっています。

**応答**

2 番目の TYPE キーワードを削除して、コマンドを再実行してください。

**AMQ8429 (IBM i)**

Error detected in a exit parameter.

**重大度**

0: 情報

**説明**

出口パラメーターで構文エラーが発生しました。原因として、出口名として受け入れられない文字が含まれていることが考えられます。MSGEXIT、RCVEXIT、SCYEXIT、および SENDEXIT 定義のパラメーターを確認してください。

**応答**

なし。

**AMQ8430**

リモートキュー・マネージャー名が不明です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リモート・キュー・マネージャー名が、このキュー・マネージャーに認識されません。リモート・キュー・マネージャー名と同じ名前の伝送キューが存在することを確認してください。

**応答**

リモート・キュー・マネージャーと同じ名前の伝送キューが存在しない場合は作成してください。

**AMQ8431**

伝送キューが存在していません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

伝送キューがこのキュー・マネージャーには存在しません。

**応答**

なし。

**AMQ8432**

REPOS と REPOSNL の両方のフィールドを設定することはできません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

REPOS と REPOSNL の両方のフィールドを設定しようとした。これらのいずれかのフィールドにのみ、ブランク以外の値を設定できます。両方のフィールドをブランクにすることもできます。

**応答**

なし。

**AMQ8433**

CLUSTER と CLUSNL の両方のフィールドを設定することはできません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

CLUSTER と CLUSNL の両方のフィールドを設定しようとした。これらのいずれかのフィールドにのみ、ブランク以外の値を設定できます。両方のフィールドをブランクにすることもできます。

**応答**

なし。

**AMQ8434**

リポジトリは使用できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リポジトリを使用できないため、データにアクセスできません。キュー・マネージャーを停止して、再始動する。

**応答**

なし。

**AMQ8435**

All valid MQSC commands were processed.

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトに、処理できなかったコマンドは含まれていません。

**応答**

なし。

**AMQ8436**

有効な MQSC コマンドの 1 つを処理できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトに、処理できなかった 1 つのコマンドが含まれています。

**応答**

なし。

**AMQ8437**

MQSC コマンドを読み取りません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトにコマンドは含まれていません。

**応答**

なし。

**AMQ8438**

One MQSC command read.

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトに 1 つのコマンドが含まれています。

**応答**

なし。

**AMQ8439**

No commands have a syntax error.

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトに、構文エラーのあるコマンドは含まれていません。

**応答**

なし。

**AMQ8440**

コマンドの 1 つに構文エラーがあります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトに、構文エラーのある 1 つのコマンドが含まれています。

**応答**

なし。

**AMQ8441**

クラスター・キュー・マネージャーの詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY CLUSQMGR コマンドが正常に完了し、詳細がこのメッセージに続きます。

**応答**

なし。

**AMQ8442**

CLUSTER または CLUSNL フィールドが設定されている場合には、USAGE を XMITQ に設定することはできません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

CLUSTER または CLUSNL フィールドに値が指定されている場合に USAGE を XMITQ に設定しようとして、USAGE の値を変更するか、CLUSTER および CLUSNL フィールドをブランクに設定して、コマンドを再試行してください。

**応答**

なし。

**AMQ8442 (IBM i)**

USAGE can not be set to \*TMQ with either the CLUSTER or CLUSNL fields set.

**重大度**

0: 情報

**説明**

CLUSTER または CLUSNL フィールドに値が指定されている場合に USAGE を \*TMQ に設定しようとして、USAGE の値を変更するか、CLUSTER および CLUSNL フィールドをブランクに設定して、コマンドを再試行してください。

**応答**

なし。

**AMQ8443**

CLUSTER フィールドと CLUSNL フィールドは、どちらか一方にしか値を設定できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

CLUSTER フィールドと CLUSNL フィールドの両方を設定しようとして、値を設定できるのはどちらか一方のフィールドのみです。もう一方は空白にする必要があります。どちらか一方のフィールドの値を空白に変更し、コマンドを再試行してください。

**応答**

なし。

**AMQ8444**

CLUSTER フィールドまたは CLUSNL フィールドに値を設定する必要があります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

CLUSTER フィールドと CLUSNL フィールドの両方が空白です。空白にできるのはどちらか一方のフィールドのみです。もう一方には値を設定する必要があります。どちらか一方のフィールドに値を設定し、コマンドを再試行してください。

**応答**

なし。

**AMQ8445**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトをオープンできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー・オブジェクトを開こうとして失敗しました。

**応答**

以前リストされた、ジョブ・ログ中のメッセージを参照してください。

**AMQ8446**

チャンネルは現在アクティブです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルが現在アクティブであるため、要求された操作は失敗しました。

**応答**

以前リストされた、ジョブ・ログ中のメッセージを参照してください。

**AMQ8447**

チャンネル <insert\_3> で要求された操作は、このチャンネル・タイプには無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> が適切なタイプではないため、要求された操作を実行できません。例えば、送信側、サーバー、およびクラスター送信側のチャンネルのみを解決できます。

**応答**

正しい操作が要求されたことを確認してください。操作が正しい場合は、正しいチャンネル名が指定されたことを確認してください。

**AMQ8448**

チャンネル <insert\_3> が実行されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> を停止する要求は、チャンネルが実行されていないために失敗しました。

**応答**

正しい操作が要求されたことを確認してください。操作が正しい場合は、正しいチャンネル名が指定されたことを確認してください。

**AMQ8449**

MQGET でキュー <insert\_3> が使用禁止になっています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー <insert\_3> が以前に MQGET で禁止されていたため、MQGET が失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8450**

キュー状況の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY QSTATUS コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されません。

**AMQ8451 (IBM i)**

CONNNAME を指定している場合は STATUS(\*STOPPED) を使用できません。

**重大度**

0: 情報

#### 説明

ENDMQMCHL コマンドで CONNAME を指定している場合は、STATUS(\*STOPPED) パラメーターを使用できません。

#### 応答

このコマンドから CONNAME パラメーターを削除するか、STATUS(\*INACTIVE) を指定して、指定された接続名に関するチャンネル・インスタンスを終了してください。

#### AMQ8452 (IBM i)

STATUS(\*STOPPED) not allowed with RQMNAME specified.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

ENDMQMCHL コマンドで RQMNAME が指定されている場合、STATUS(\*STOPPED) パラメーターを使用できません。

#### 応答

RQMNAME パラメーターをコマンドから除去するか、STATUS(\*INACTIVE) を指定して、指定されたりモート・キュー・マネージャーのチャンネル・インスタンスを終了します。

#### AMQ8453

パス <insert\_3> が無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ を実行しているオペレーティング・システムに対して、構文的に正しくないパスを入力しました。

#### 応答

IBM WebSphere MQ を実行しているオペレーティング・システムに対して正しいパス名の構文を判別して、この情報を使用して有効なパスを入力します。

#### AMQ8454

パラメーター <insert\_3> で構文エラーが検出されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

<insert\_3> に入力されたデータは、このパラメーターの IBM WebSphere MQ によって定められた構文規則に準拠していません。

#### 応答

IBM WebSphere MQ コマンド・リファレンスと併せて、このパラメーターに対して入力したデータを注意深く確認して、エラーの原因を判別します。

#### AMQ8455

パスワード長さに誤りがあります

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

パスワード・ストリングの長さは、IBM WebSphere MQ によって最も近い 8 バイトに切り上げられます。この切り上げにより、SSLCRYP ストリングの全長がその最大長を超えます。

#### 応答

パスワード、または SSLCRYP ストリングの前のフィールドのサイズを減らしてください。

#### AMQ8456

コマンド内でパラメーターが重複しています。

#### 重大度

20: エラー

**説明**

コマンドに、一緒に使用できないパラメーターが含まれています。

**応答**

「IBM WebSphere MQ MQSC リファレンス」を参照して、このコマンドで許容されるパラメーターの組み合わせを判別してください。

**AMQ8457**

IBM WebSphere MQ 接続が停止されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

STOP CONN コマンドが、指定された接続を正常に停止しました。

**応答**

なし。

**AMQ8458**

IBM WebSphere MQ 接続が停止されませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

STOP CONN コマンドは、指定された接続を停止することができませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8459**

見つかりませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定された ID は見つかりませんでした。コマンドを再試行して、有効な ID を指定してください。

**応答**

なし。

**AMQ8460**

接続 ID の構文エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

無効な接続 ID を指定しました。有効な接続 ID には 16 進文字が使用されています。接続 ID のすべての文字は 0 から 9、a から z、または A から Z の範囲内になければなりません。

**応答**

接続 ID を訂正して、上記の仕様に準拠するようにしてください。

**AMQ8461**

接続 ID が見つかりませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

このキュー・マネージャーに関連付けられていない接続 ID を指定しました。

**応答**

接続 ID を訂正して、このキュー・マネージャーに関連付けられた接続 ID を示すようにしてください。コマンド DISPLAY CONN を使用して、このコマンドで使用できる接続 ID を確認してください。

**AMQ8462**

必須パラメーター <insert\_3> が欠落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力したコマンドには、指定されていない <insert\_3> パラメーターが必要です。

**応答**

欠落していた必須パラメーターを必ず指定してください。

**AMQ8463**

少なくとも 1 つの <insert\_3> を指定する必要があります。

**重大度**

20: エラー

**説明**

少なくとも 1 つのパラメーター <insert\_3> を指定しなければなりません。

**応答**

必須パラメーターは必ず指定してください。

**AMQ8464**

IBM WebSphere MQ subscription <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

入力されたコマンドが Change または Display であった場合、指定されたサブスクリプション <insert\_3> は存在しません。COPY コマンドを入力した場合は、ソース・サブスクリプションは存在しません。CREATE コマンドを入力した場合は、システム・デフォルト MQ サブスクリプションは存在しません。

**応答**

指定したサブスクリプション名またはサブスクリプション ID を訂正して、コマンドを再実行してください。新しいサブスクリプションを作成する場合は、すべてのパラメーターを明示的に指定するか、システム・デフォルト・サブスクリプション SYSTEM.DEFAULT.SUB が存在することを確認してください。

**AMQ8465**

<insert\_3> 属性は、既存のサブスクリプションに対して変更できません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

サブスクリプションの変更または置き換えができませんでした。

**応答**

サブスクリプションの変更または置き換えができませんでした。コマンドに変更可能な属性のみが含まれていることを確認してください。

**AMQ8466**

リモート・キュー <insert\_3> をオープンできませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キューをオープンできませんでした。

**応答**

リモート・キューがリモート・キュー・マネージャー上で正しく定義されていることを確認してください。

**AMQ8467**

キーワードのバイト値を表す 16 進数ストリングに構文エラーがありました。

**重大度**

0: 情報

## 説明

入力された 16 進数ストリングに構文エラーが検出されました。このエラーは次の理由のいずれかで発生することがあります。

- ストリングが長すぎた。
- ストリングに無効な 16 進数文字が含まれていた。

有効な文字は 0 から 9、A から F および a から f です。文字数が奇数の 16 進数ストリングの前にはゼロが付けられます。例えば、DETCORL(A) は DETCORL(0A) と解釈されます。

## 応答

なし。

### AMQ8468

DESTCLAS(MANAGED) を使用する場合、DEST フィールドは設定できません

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

DESTCLAS(MANAGED) と DEST の両方を設定しようとした。DESTCLAS(MANAGED) を使用する場合は、宛先を指定しないでください。宛先が必要である場合には、DESTCLAS(PROVIDED) を使用する必要があります。

## 応答

なし。

### AMQ8469

IBM WebSphere MQ subscription <insert\_3> が使用中です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

指定されたサブスクリプション <insert\_3> は、現在別のアプリケーションによって使用されています。

## 応答

どのアプリケーションも指定されたサブスクリプションを使用していないことを確認してから、コマンドを再試行してください。

### AMQ8470

オブジェクト <insert\_3> は有効なサブスクリプション宛先ではありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

オブジェクト <insert\_3> は、サブスクリプション宛先に対して許可されているタイプではありません。

## 応答

QALIAS をサブスクリプション宛先オブジェクトとして使用する場合は、その TARGTYPE 属性に QUEUE の値があることを確認してください。

### AMQ8471

IBM WebSphere MQ トピック・ストリングのエラー

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

提供されたトピック・ストリング (TOPICSTR) は、無効です。

## 応答

トピック・ストリング定義を訂正して、コマンドを再試行してください。

### AMQ8472

IBM WebSphere MQ トピック・ストリングが見つかりません

## 重大度

30: 重大エラー

**説明**

提供されたトピック・ストリングがトピック・ツリーに存在しません。

**応答**

使用されたトピック・ストリングを訂正して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8473**

提供されたトピック・ストリングを使用する IBM WebSphere MQ トピックは、既に存在します

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

提供されたトピック・ストリングは、以前に作成されたトピック・オブジェクトに対して指定されています。許可されるトピック・オブジェクトは、トピック・ストリングごとに最大でも 1 つです。

**応答**

指定されたトピック・ストリングが不正確である場合は、トピック・ストリングを変更して、操作を再試行してください。または、以前に作成されたトピック・オブジェクトが不必要である場合には、まずそのトピック・オブジェクトを削除してから操作を再試行してください。

**AMQ8474**

必須パラメーター SUB が無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力されたコマンドには有効な SUB パラメーターが必要です。

**応答**

必須パラメーターが正しいことを確認してください。

**AMQ8475**

サブスクリプションはすでに存在します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

サブスクリプション <insert\_3> は既に存在するため、作成できませんでした。

**応答**

名前が正しいかどうか調べ、REPLACE を指定してコマンドを再実行するか、またはサブスクリプションを削除します。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8476**

必須パラメーター <insert\_3> が欠落しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

入力したコマンドには、指定されていない <insert\_3> パラメーターが必要です。

**応答**

欠落していた必須パラメーターを必ず指定してください。

**AMQ8477**

指定されたオプションが無効です。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

コマンドに提供されたオプションの組み合わせが無効です。

**応答**

指定されたオプションをチェックして、正しくしてください。

**AMQ8478**

Standby queue manager.

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

このキュー・マネージャーは、スタンバイ・キュー・マネージャーです。キュー・マネージャーを管理するには、その1次インスタンスを使用する必要があります。

## 応答

キュー・マネージャーの1次インスタンスに対してコマンドを再発行してください。

## AMQ8480

サブスクリプション <insert\_3> を作成できませんでした。MQSUB 関数呼び出しからの理由コードは <insert\_1> でした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

サブスクリプション名 '<insert\_3>' を作成しようとしたのですが、エラーが検出されました。失敗の理由は <insert\_1> です。この理由コードは、MQSUB 関数呼び出しから戻されます。

## 応答

IBM WebSphere MQ Messages の資料で理由コードを確認して根本的な問題を修正し、コマンドを再試行してください。

## AMQ8482

PSCLUS(DISABLED) によりクラスター・トピックが禁止されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャー属性、PSCLUS が DISABLED に設定されているため、クラスター・トピックは定義できず、既存のトピックに変更を加えて CLUSTER 属性を設定することはできません。トピック <insert\_3> は、このシステム上で作成または変更されていません。

## 応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスタリングを有効にする必要がある場合には、そのクラスターに参加しているすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を ENABLED に変更します。

## AMQ8483

クラスター・トピックが存在するため、PSCLUS を変更できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャー属性 PSCLUS が DISABLED に設定されており、このクラスターではキュー・マネージャー間のパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティが実行されないようになっています。しかし、クラスター・トピックがすでに存在するため、設定を変更できません。PSCLUS 属性は変更されません。

## 応答

このクラスターでパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティを無効にする必要がある場合には、まずクラスター・トピック・オブジェクトをすべて削除してから PSCLUS 属性を変更し直します。

## AMQ8491

Telemetry サービスからの応答を待機している間にタイムアウトになりました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

テレメトリー・サービス 'SYSTEM.MQXR.SERVICE' からの応答を待機している間にタイムアウトになりました。

## 応答

**where** 節を使用して、テレメトリー・サービスからの応答として想定する応答数を減らしてください。

**AMQ8492**

応答の数は <insert\_1> に制限されています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

応答数は ReplyToQueue 'SYSTEM.MQSC.REPLY.QUEUE' の **MAXDEPTH** までに制限されています。

**応答**

**where** 節を使用して、テレメトリー・サービスからの応答として想定する応答数を減らしてください。  
あるいは、ReplyToQueue 'SYSTEM.MQSC.REPLY.QUEUE' の **MAXDEPTH** を増やしてください。

**AMQ8498**

キュー・マネージャー <insert\_3>の MQSC を開始しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC スクリプトには、 <insert\_1> コマンドが含まれています。

**応答**

なし。

**AMQ8499**

使用法: runmqsc [-e] [-v] [-w WaitTime [-x]] [QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8499 (Tandem)**

Usage: runmqsc [-e] [-v] [-w WaitTime] [-x] [-i In] [-o Out] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8500**

IBM WebSphere MQ が MQ ファイルを表示します

**重大度**

0: 情報

**AMQ8501**

共通サービスの初期化が、戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによる共通サービスの初期化要求が、戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8502**

共有メモリーの接続が戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによる共用メモリーへの接続要求が、戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8503**

イベント・セマフォの通知が戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによるイベント・セマフォのポスト要求が、戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8504**

コマンド・サーバー MQINQ が理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによる IBM WebSphere MQ キュー <insert\_3>に対する MQINQ 要求が、理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8505**

メモリーの再割り振りが戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによるメモリーの再割り振り要求が、戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8506**

コマンド・サーバー MQGET が理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによる IBM WebSphere MQ キュー <insert\_3>に対する MQGET 要求が、理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8507**

未配布メッセージに対するコマンド・サーバー MQPUT1 要求が、理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーが MQPUT1 を使用して送達不能キューにメッセージを書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1>で失敗しました。MQDLH 理由コードは <insert\_2>でした。

**応答**

なし。

**AMQ8508**

キュー・マネージャーのオブジェクト・リスト削除が戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによるキュー・マネージャー・オブジェクト・リストの削除要求が、戻りコード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8509**

コマンド・サーバーの MQCLOSE 応答先キューが理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーによる応答先キューに対する MQCLOSE 要求が、理由コード <insert\_1>で失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8510**

コマンド・サーバー・キューがオープンしています。後でやり直してください。

**重大度**

30: 重大エラー

**AMQ8511**

使用法: strmqcsv [QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**AMQ8512**

使用法: endmqcsv [-c | -i] QMgrName

**重大度**

0: 情報

**AMQ8513**

使用法: dspmqcsv [QMgrName]

**重大度**

0: 情報

**AMQ8514**

<insert\_1> 秒後に応答を受信しませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンド・サーバーは、<insert\_1> 秒のタイムアウトに達する前に、開始要求に対して実行の状況を報告しませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8515 (Tandem)**

MQSeries Alter MQ Files

**重大度**

0: 情報

**説明**

altmqfls コマンドのタイトル。

**応答**

なし。

**AMQ8516 (Tandem)**

MQSeries Clean Queue Manager

**重大度**

0: 情報

**説明**

cleanqm コマンドのタイトル。

**応答**

なし。

**AMQ8517 (Tandem)**

The messages files are partitioned and cannot be moved.

**重大度**

0: 情報

**説明**

altmqfls コマンドの区画エラー。

**応答**

なし。

**AMQ8518**

LOGGEREV は、リニア・ログ・キュー・マネージャーを使用している場合のみ有効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

LOGGEREV 属性は、キュー・マネージャーがリニア・ログ・キュー・マネージャーとして作成された場合のみ ENABLED に設定できます。 ロギングについて詳しくは、メッセージの消失を確実に回避する(ロギング)を参照してください。

**応答**

システム管理者は、管理対象のキュー・マネージャーがリニア・ログ・キュー・マネージャーとして作成された場合以外は、キュー・マネージャーの LOGGEREV 属性の変更を試行すべきではありません。

**AMQ8519**

トピック・オブジェクト <insert\_3> は永続サブスクリプションを許可していません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

トピック・オブジェクト <insert\_3> は、永続サブスクリプションを許可しないように定義されています。

**応答**

サブスクリプションを作成する対象のトピック・オブジェクトが、永続サブスクリプションを許可していることを確認してください。

**AMQ8520**

指定されたキュー名は DEFXMITQ では無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定したキューは、クラスター化による独占的な使用に対して予約されているので、デフォルトの伝送キューとして使用できない。

**応答**

DEFXMITQ の値を変更して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8549**

ストリングの全長が最大値 999 文字を超えています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル出口ストリングの全長は 999 文字です。MQSC キーワードに割り当てられたストリング・リストは、このキーワードに許可される最大値の 999 文字より長くなっています。

**応答**

なし。

**AMQ8550**

namelist の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY NAMELIST コマンドが正常に完了して、このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8551**

IBM WebSphere MQ 名前リストが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ namelist <insert\_5> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8552**

IBM WebSphere MQ 名前リストが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ namelist <insert\_5> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8553**

IBM WebSphere MQ 名前リストが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ namelist <insert\_5> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8554**

ストリング・リストのストリング・カウント・エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

ストリング・リスト内のストリングの数が、キーワードに許可される最大数より多くなっています。リスト内のストリングの数を減らして、コマンドを再試行してください。

**応答**

なし。

**AMQ8555**

ストリング・リストのストリング長エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キーワードに割り当てられたストリング・リスト内のストリングが、このキーワードに許可される最大長より長くなっています。

**応答**

なし。

**AMQ8556**

RESUME QUEUE MANAGER が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

RESUME QUEUE MANAGER コマンドが処理のために受け入れられました。コマンドはリポジトリに送信され、リポジトリはコマンドを処理して、このキュー・マネージャーがクラスターに戻されたことを他のすべてのリポジトリに通知します。

**応答**

なし。

**AMQ8557**

SUSPEND QUEUE MANAGER が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

SUSPEND QUEUE MANAGER コマンドが処理のために受け入れられました。コマンドはリポジトリに送信され、リポジトリはコマンドを処理して、このキュー・マネージャーがクラスターから切断されることを他のすべてのリポジトリに通知します。

**応答**

なし。

**AMQ8558**

REFRESH CLUSTER が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

REFRESH CLUSTER コマンドが処理のために受け入れられました。コマンドはリポジトリに送信され、リポジトリはコマンドを処理して、クラスターのリフレッシュが必要であることを他のすべてのリポジトリに通知します。

**応答**

なし。

**AMQ8559**

RESET CLUSTER が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

RESET CLUSTER コマンドが処理のために受け入れられました。コマンドはリポジトリに送信され、リポジトリはコマンドを処理して、クラスターのリセットが必要であることを他のすべてのリポジトリに通知します。

**応答**

なし。

**AMQ8560**

IBM WebSphere MQ セキュリティー・キャッシュがリフレッシュされました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

オブジェクト権限マネージャーのセキュリティ・キャッシュがリフレッシュされました。

**応答**

なし。

**AMQ8561 (Tandem)**

IBM WebSphere MQ for HP Integrity NonStop Server はこのオプションをサポートしていません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8561 (Windows)**

Domain controller unavailable.

**重大度**

10: 警告

**説明**

IBM WebSphere MQ は、ユーザー <insert\_3>の情報を取得するためにドメイン・コントローラーに接続できませんでした。

**応答**

ユーザー <insert\_3> が定義されているドメインのドメイン・コントローラーが使用可能であることを確認してください。あるいは、現在ネットワークに接続されていないコンピューターを使用していて、ドメイン・ユーザー ID を使用してログオンした場合、代わりにローカル・ユーザー ID を使用することができます。

**AMQ8562**

ネイティブ JNI ライブラリー <insert\_3> のバージョンが IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_4>のバージョンと矛盾しているため、Java アプリケーションはキュー・マネージャーに接続できませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ネイティブ JNI ライブラリー <insert\_3> は、IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー <insert\_4>と比較して古くなっています。

**応答**

Java ライブラリーのパスが現行バージョンの JNI ライブラリーを指すようにしてください。

**AMQ8562 (Tandem)**

Command line does not exist

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8563**

IBM WebSphere MQ 認証情報オブジェクトが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ 認証情報オブジェクト <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8564**

IBM WebSphere MQ 認証情報オブジェクトが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ 認証情報オブジェクト <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8565**

キュー状況が見つかりませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定されたキューのキュー状況が見つかりませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8566**

認証情報の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY AUTHINFO コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8567**

IBM WebSphere MQ 認証情報が変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ 認証情報 <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8568**

ネイティブ JNI ライブラリー <insert\_3> が見つかりませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ライブラリーが見つからなかったため、ネイティブ JNI ライブラリー <insert\_3> をロードできませんでした。

**応答**

Java ライブラリーのパスが JNI ライブラリーのロケーションを指すようにしてください。

**AMQ8568 (IBM i)**

No authinfo objects to display.

**重大度**

0: 情報

**説明**

このシステムには一致する authinfo オブジェクトが定義されていません。

**応答**

DEFINE AUTHINFO コマンドを使用して authinfo オブジェクトを作成してください。

**AMQ8569**

フィルター指定でエラーが発生しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

無効なフィルターが指定されました。WHERE ステートメントを確認して、演算子がパラメーターのタイプとして有効であること、パラメーターがフィルタリングできること、およびフィルターに指定した値が、フィルタリングする属性のタイプとして有効であることを確認してください。

**応答**

なし。

**AMQ8570**

<insert\_3>の属性値エラーです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キーワード <insert\_3> に、この構成には無効な値が含まれていました。「MQSC コマンド・リファレンス」を確認して、<insert\_3>の有効な値を判別してください。

**応答**

なし。

**AMQ8571**

<insert\_1> 権限は、理由 "1111"により <insert\_2> グループから取り消されませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

キュー・マネージャーの移行の一環として、<insert\_3> オブジェクトの <insert\_2> グループから <insert\_1> 権限を取り消そうとしました。その試行は失敗しました。理由: "1111"

**応答**

管理者は、失敗の原因を判別してから、**setmqaut** コマンドを使用して、<insert\_3> オブジェクトの <insert\_2> グループから <insert\_1> 権限を手動で取り消す必要があります。

**AMQ8572**

IBM WebSphere MQ オブジェクトをローカル・グループから保護すると、望ましくない結果になることがあります。

**重大度**

10: 警告

**説明**

複数インスタンス・キュー・マネージャー環境において、IBM WebSphere MQ オブジェクトをローカル・グループから保護するように要求が出されました。これらのオブジェクトへのアクセスは、切り替え時に拒否される場合があります。

**応答**

管理者は、要求が意図的なものかどうかを判別し、**setmqaut** コマンドを使用して、対応するドメイン・グループに対して IBM WebSphere MQ オブジェクトを保護する必要があります。

**AMQ8574**

プライマリー・インストールの設定のリフレッシュ "*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*)

**重大度**

10: 警告

**説明**

インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定する要求が発行されましたが、このインストール済み環境は既にプライマリー・インストールとして設定されています。このコマンドは続行されて、このインストール済み環境をプライマリー・インストールとして識別する設定をリフレッシュします。

**応答**

なし。

**AMQ8575**

インストール・タスク・ファイル "*<insert\_1>*" にアクセスできません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ インストール・タスク・ファイル "*<insert\_1>*" にアクセスしようとしたのですが、発行されたコマンドはファイルにアクセスできませんでした。

**応答**

ファイルへのアクセス失敗についての詳細を示す、これ以外のメッセージが発行されている場合があります。ファイルが存在すること、およびアクセス権が正しいことを確認してください。エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

**AMQ8576**

"*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*) がプライマリー・インストールとして設定されました。更新を完了するには、オペレーティング・システムを再始動する必要があります。

**重大度**

0: 情報

**説明**

インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定するために必要なすべてのタスクが完了しました。インストール済み環境がまだプライマリー・インストールとして設定されていない場合は、インストール構成も更新され、インストール済み環境 "*<insert\_1>*" がプライマリー・インストールとして識別されるようになりました。

マシン全体に更新が見えるようにするには、オペレーティング・システムの再始動が必要です。

**応答**

なし。

**AMQ8577**

"*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*) をプライマリー・インストールとして設定できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドはインストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定しようとしたのですが、インストール済み環境をプライマリー・インストールとして設定するために必要な1つ以上のタスクが正常に完了しませんでした。このコマンドで実行された更新はすべて取り消されました。

**応答**

この失敗についての詳細を示す、これ以外のメッセージが発行されています。識別されたエラーを修正して、コマンドを再発行してください。

**AMQ8578**

プライマリー・インストール "*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*) の構成のリフレッシュに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

## 説明

コマンドは、インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定するために必要なタスクをリフレッシュしようとしたのですが、1つ以上のタスクが正常に完了しませんでした。インストール "*<insert\_1>*" は、依然としてプライマリー・インストールとして設定されています。

## 応答

この失敗についての詳細を示す、これ以外のメッセージが発行されています。識別されたエラーを修正して、コマンドを再発行してください。

### AMQ8579

プライマリー・インストールを "*<insert\_2>*" から "*<insert\_1>*" に変更することはできません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

コマンドは、インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定しようとしたのですが、インストール済み環境 "*<insert\_2>*" が既にプライマリー・インストールとして設定されているため、操作を実行できませんでした。

## 応答

インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定するには、まず、コマンド "**setmqinst -x -n *<insert\_2>***" を使用して、インストール済み環境 "*<insert\_2>*" をプライマリー・インストールとして設定解除する必要があります。その後、コマンドを再発行して、インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定できます。

### AMQ8580

プライマリー・インストールとしての "*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*) の設定解除に失敗しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

コマンドは、インストール済み環境 "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定解除しようとしたのですが、インストール済み環境をプライマリー・インストールとして設定解除するために必要な1つ以上のタスクが正常に完了しませんでした。このインストールはプライマリー・インストールに設定されたままです。

## 応答

この失敗についての詳細を示す、これ以外のメッセージが発行されています。識別されたエラーを修正して、コマンドを再発行してください。

### AMQ8581

"*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*) は現在プライマリー・インストールとして設定されていません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

コマンドがインストール "*<insert\_1>*" をプライマリー・インストールとして設定解除しようとしたのですが、インストール "*<insert\_1>*" は現在プライマリー・インストールとして設定されていません。

## 応答

提供されているインストール済み環境の名前が正しいことを確認してから、必要に応じてコマンドを再発行してください。

### AMQ8582

"*<insert\_1>*" (*<insert\_2>*) がプライマリー・インストールとして設定解除されました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

プライマリー・インストールとしてのインストール "*<insert\_1>*" を設定解除するために必要なすべてのタスクが完了しました。

## 応答

なし

**AMQ8583**

<insert\_3> location <insert\_4> のインストール詳細が欠落しているか、破損しています。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドは、インストール <insert\_3> location <insert\_4> のインストール詳細にアクセスしようとしたのですが、インストール詳細が見つからなかったか、または壊れています。

**応答**

dspmqinst コマンドを使用して、インストール構成ファイルの内容を確認してください。項目が欠落しているか、壊れている場合は、crtmqinst コマンドを -r パラメーターと共に使用して、このインストール済み環境の構成情報を再作成してください。

**AMQ8584**

インストール構成を更新するための権限が不十分です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

インストール <insert\_3> location <insert\_4> の IBM WebSphere MQ インストール構成を更新しようとしたのですが、更新を行うための十分な権限が現行ユーザーにないため、要求は拒否されました。

**応答**

インストール構成を更新するための十分な権限を持つユーザーから、コマンドを発行してください。

**AMQ8585**

<insert\_3> パラメーターに無効な値が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

<insert\_3> パラメーターに指定された値が無効です。

**応答**

指定された値について、以下の点を確認してください。

- 正しく指定されている。
- 有効な文字のみを含む。
- パラメーターの最大長を超えていない。

**AMQ8586**

使用方法: setmqinst (-n InstName | -p InstPath) (-i | -x | -d Text)

-d Descriptive text.  
-i Set this installation as the primary installation.  
-n Installation name.  
-p Installation path.  
-x Unset this installation as the primary installation.

**重大度**

0: 情報

**説明**

このメッセージは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ8587**

その他のインストール済み環境がいくつか (1111) あります。"-i" パラメーターを使用してそれらを表示してください。

**重大度**

0: 情報

説明

応答

なし。

#### AMQ8588

パラメーターが検出されませんでした。この環境は、**setmqenv** コマンドの発行元のシステムに対して設定されました。

重大度

10: 警告

説明

**setmqenv** のパラメーターが検出されなかったため、この環境は、**setmqenv** の発行元のシステムに対して設定されました。指定したパラメーターが無視された場合は、使用しているシェル・スクリプトがデータの供給先スクリプトへパラメーターを渡せないことが原因と考えられます。

応答

別のインストール済み環境用に環境をセットアップしようとしたが、パラメーターを指定しなかった場合は、正しいパラメーターを指定してコマンドを再発行してください。**setmqenv** にパラメーターを指定しても、そのパラメーターが無視される場合には、環境をセットアップするシステムから **setmqenv** コマンドを発行してください。他のインストール済み環境のパスを調べるには **dspmqinst** コマンドを使用し、特定のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール済み環境を調べるには **dspmq** コマンドを使用します。

#### AMQ8589

インストール済み環境 "<insert\_1>" (<insert\_2>) は暗黙的に 1 次です。

重大度

10: 警告

説明

コマンドはプライマリー・インストール "<insert\_1>" を変更しようとしたますが、このインストール済み環境は暗黙的にプライマリーであり、このインストール済み環境をアンインストールすることによってのみ非プライマリーにすることができます。

応答

インストール済み環境 "<insert\_1>" が必要であることを確認してください。必要な場合は、他のインストール済み環境をプライマリーにすることはできません。

#### AMQ8590

インストール "<insert\_1>" (<insert\_2>) がインストールされていません。

重大度

20: エラー

説明

現在インストールされていないインストール済み環境を指定して、コマンドが発行されました。このコマンドを実行するためには、このインストール済み環境がインストールされている必要があります。

応答

なし。

#### AMQ8592

キュー・マネージャー "<insert\_1>" は現在、インストール済み環境 "<insert\_2>" に関連付けられています。

重大度

0: 情報

説明

インストール済み環境 "<insert\_2>" に関連付けられたキュー・マネージャー "<insert\_1>" を持つコマンドが発行されました。キュー・マネージャーは、次の始動時にこのインストールによって実行されます。

応答

なし

### AMQ8593

インストール済み環境 "*<insert\_1>*" ("*<insert\_2>*") のインストール状態が無効として検出されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

インストール済み環境 "*<insert\_1>*" ("*<insert\_2>*") の状態を変更しようとしたのですが、このインストール済み環境の現在の状態に関連するエラーが検出されたため、変更を行うことができませんでした。

#### 応答

インストール済み環境 "*<insert\_1>*" を無効にした可能性がある、システムに対する最近の変更を調べてください。IBM サポートに連絡する必要がある場合があります。その場合は、失敗したコマンドのトレースが必要になることがあります。

### AMQ8595

**setmqenv** コマンドが **source** コマンドの前ではありませんでした。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

**setmqenv** を含んだコマンド・スクリプトは、それが実行されているシェルの環境を変更します。**setmqenv** の前にソース・コマンドがないため、新しいシェルで実行され、新しいシェルで環境を変更します。**setmqenv** コマンドが終了すると、新規シェルが終了し、コントロールは古いシェルに戻ります。古いシェルは、新規シェルから環境への変更を継承しません。その結果、**setmqenv** コマンドを含む古いシェルの環境は変更されません。

#### 応答

**setmqenv** を **source** コマンドに優先させます。ドットの後にはスペースが続く組み合わせは、ソース・コマンドの同義語です。例えば以下ようになります。

```
. setmqenv -s
```

### AMQ8597

このプロセスで使用できるのは、インストール済み環境「*<insert\_4>*」のみです。

#### 重大度

10: エラー

#### 説明

キュー・マネージャーへの最初の接続が行われる前に、このプロセスで MQ\_long 共有ライブラリー "*<insert\_3>*" が検出されました。

この共有ライブラリーにアプリケーションをリンクすることは推奨されません。このようにリンクすると、そのアプリケーション内から複数のインストール済み環境を使用することが妨げられるため、このようなアプリケーションを再リンクする必要があります。

一時的な回避策として、このプロセスは、インストール済み環境「*<insert\_4>*」に関連付けられたキュー・マネージャーに接続できます。「*<insert\_4>*」以外のインストール済み環境に関連付けられているキュー・マネージャーに接続しようとする、理由コード MQRC\_INSTALLATION\_MISMATCH または MQRC\_FASTPATH\_NOT\_AVAILABLE で失敗します。

複数のインストール済み環境をフル機能で使用するには、このアプリケーションを再リンクする必要がありますが、そのとき **-lmqmcs** および **-lmqzse** をリンク・ステップから省略します。

#### 応答

コマンド行で、**-lmqmcs** オプションと **-lmqzse** オプションを指定せずにアプリケーションをリンクし直します。アプリケーションが **libmqmcs** または **libmqzse** なしで再リンクされると、これらの制限が解除され、アプリケーションは「*<insert\_4>*」以外のインストール済み環境からキュー・マネージャーへの接続をサポートします。

このメッセージは、AMQ\_NO\_MQMCS\_MSG 環境変数に任意の値を設定することによって抑止できます。

### AMQ8601

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターが開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターが開始されました。

**応答**

なし。

**AMQ8601 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターが開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トリガー・モニターは、開始キュー <insert\_3>で開始されました。

**応答**

なし。

**AMQ8602**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターが終了コード <insert\_1>で終了しました。この値がゼロ以外の場合は、エラー状態を示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターが終了コード <insert\_1>で終了しました。

**応答**

前に出された、トリガー・モニターからのエラー・メッセージを調べてください。

**AMQ8603**

使用法: runmqtrm [-m QMgrName] [-q InitQ]

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8604**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターの使用が許可されていません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

要求されたキュー・マネージャーまたは開始キューに対する権限がないため、トリガー・モニターを実行できません。

**応答**

機密保護担当者または IBM WebSphere MQ 管理者から必要な権限をもらってください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8605**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターがキュー・マネージャーを使用することはできません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トリガー・モニターに指定されたキュー・マネージャーが存在しないか、アクティブではありません。

**応答**

正しいキュー・マネージャーを指定したことを確認してください。キュー・マネージャーがアクティブでない場合は、システム管理者に開始するよう依頼してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8606**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターに使用できるストレージが不足しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターを実行するための十分なストレージがありませんでした。

**応答**

いくらかのストレージを解放し、コマンドを再実行します。

**AMQ8607**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターの接続が失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQCONN からの MQI 理由コード <insert\_1> のため、要求されたキュー・マネージャーへのトリガー・モニターの接続が失敗しました。

**応答**

キュー・マネージャーの状態についてシステム管理者に問い合わせてください。

**AMQ8608**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターの接続が中断されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トリガー・モニターの実行中に、キュー・マネージャーへの接続が失敗しました。これは、別のユーザーが送出した endmqm コマンド、またはキュー・マネージャー・エラーが原因である可能性があります。

**応答**

キュー・マネージャーの状態についてシステム管理者に問い合わせてください。

**AMQ8609**

開始キューが見つからないか、またはタイプが誤っています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

指定された開始キューが見つからなかったか、キュー・タイプが開始キューに対して正しくありません。

**応答**

指定したキューが存在し、ローカル・キューであること、または指定したキューが既存のローカル・キューの別名であることを確認します。

**AMQ8610**

開始キューは使用中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターは、開始キューを開くことができませんでした。このキューが別のアプリケーションによる排他使用のためにオープンしているためです。

**応答**

キューが使用中でなくなるまで待機してから、コマンドを再試行します。

**AMQ8611**

開始キューを開けませんでした。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターは開始キューをオープンできませんでした。理由コード <insert\_1> が MQOPEN から戻されました。

**応答**

システム管理者にご相談ください。

**AMQ8612**

トリガー・メッセージを待機中です

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターは、メッセージが開始キューに到着するのを待機しています。

**応答**

なし。

**AMQ8613**

開始キューが変更または削除されました

**重大度**

0: 情報

**説明**

開始キューがオープンされてから削除または変更されたため、IBM WebSphere MQ トリガー・モニターは続行できません。

**応答**

コマンドを再試行する。

**AMQ8614**

開始キューに入力できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

入力が有効になっていないため、IBM WebSphere MQ トリガー・モニターは開始キューから読み取ることができません。

**応答**

システム管理者にキューを入力用に使用可能にするよう依頼してください。

**AMQ8615**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターがメッセージの取得に失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQGET からの MQI 理由コード <insert\_1> のために、IBM WebSphere MQ トリガー・モニターが失敗しました。

**応答**

システム管理者にご相談ください。

**AMQ8616**

アプリケーション・トリガーの終わりです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アプリケーションをトリガーするアクションは完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ8617**

トリガー・メッセージが無効です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トリガー・モニターは、有効なトリガー・メッセージとして認識されないメッセージを受信しました。キュー・マネージャーに送達不能キューがある場合、トリガー・モニターは、メッセージをそのキューに入れようとしています。その操作が成功した場合、トリガー・モニターは続行します。そうでない場合、トリガー・モニターは、メッセージ記述子の Report オプションでメッセージの破棄が可能になっているかどうかを調べます。可能になっている場合、メッセージは破棄されて、トリガー・モニターは続行します。可能になっていない場合、操作は取り消されて、トリガー・モニターは終了します。

**応答**

トリガー・メッセージが無効であった理由を調査します。正しいキューからコンシュームするようにトリガー・モニターを開始していることを確認してください。トリガー・モニターには、アプリケーション・キューではなく開始キューの名前が指定されていなければなりません。アプリケーション・キューからコンシュームするように開始している場合、それを訂正する必要があります。

**AMQ8618**

トリガーされたアプリケーションの開始中にエラー <insert\_1> が発生しました (errno <insert\_2>)。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トリガー・メッセージで識別されたアプリケーションを開始しようとしたときに、エラーが検出されました。system() 呼び出しが <insert\_1> を戻しました。これにより、errno の値が設定されることがあります。この場合、値は <insert\_2> でした。

**応答**

トリガー・モニターが開始しようとしているアプリケーションが使用可能なことを確認してください。トリガーされたアプリケーションが開始できなかった理由については、system() 呼び出しの資料を参照してください。

**AMQ8619**

アプリケーション・タイプ <insert\_1> はサポートされていません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

アプリケーション・タイプ <insert\_1> を指定するトリガー・メッセージを受け取りました。トリガー・モニターはこのタイプをサポートしていません。

**応答**

この開始キューに別のトリガー・モニターを使用してください。

**AMQ8620**

トリガー・メッセージ (警告あり) <insert\_1>

**重大度**

0: 情報

**説明**

トリガー・モニターは、警告の付いたメッセージを受信しました。例えば、メッセージが切り捨てられたか、トリガー・モニターのデータ表現に変換できなかった可能性があります。警告の理由コードは <insert\_1> です。

**応答**

なし。

**AMQ8621**

使用法: runmqtmc [-m QMgrName] [-q InitQ]

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8622**

使用法: CICS-Transaction-Name [MQTMC2 structure]

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8623**

IBM WebSphere MQ リスナーが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ listener <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8624**

IBM WebSphere MQ サービスが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サービス <insert\_3> が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8625**

IBM WebSphere MQ サービスが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サービス <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8626**

IBM WebSphere MQ リスナーが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ listener <insert\_3> が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8627**

IBM WebSphere MQ サービス・オブジェクトが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ サービス・オブジェクト <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8628**

IBM WebSphere MQ リスナー・オブジェクトが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ リスナー・オブジェクト <insert\_3> が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8629**

サービス情報の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY SERVICE コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されません。

**応答**

なし。

**AMQ8630**

リスナー情報の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY LISTENER コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されません。

**応答**

なし。

**AMQ8631**

リスナー状況の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY LSSTATUS コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されません。

**AMQ8632**

サービス状況の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY SVSTATUS コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されません。

**AMQ8633**

トピックの詳細を表示します。

## 重大度

0: 情報

## 説明

MQSC DISPLAY TOPIC コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

### AMQ8634 (Tandem)

キュー <insert\_1> のメッセージ・オーバーフロー・ファイルを作成できませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

大容量メッセージ (キューのメッセージ・オーバーフローしきい値より大きなメッセージ) を保持するためのファイルを作成しようとしたのですが、キュー・マネージャーはファイルの固有のファイル名を識別できませんでした。原因として、大容量メッセージ保管用のデフォルト・ロケーションが使用されている場合に、キューまたはキュー・マネージャー全体の既存の大容量メッセージが多すぎるものが考えられます。

## 応答

atmqfls を使用して、このキューの大容量メッセージ保管用のサブボリュームを変更します。

### AMQ8635 (Tandem)

A Queue Server has ended normally.

## 重大度

0: 情報

## 説明

CPU <insert\_1> のキュー・サーバーが正常に終了しました。プロセスの名前は <insert\_3> です。

## 応答

なし。

### AMQ8636 (Tandem)

A Queue Server has ended with errors.

## 重大度

0: 情報

## 説明

CPU <insert\_1> のキュー・サーバーがエラーで終了しました。プロセスの名前は <insert\_3> です。キュー・サーバーによって報告されたエラー戻りコードは <insert\_2> です。キュー・サーバーは、キュー・マネージャーによって自動的に再始動される必要があります。

## 応答

キュー・サーバーが正しく再始動したことを確認します。キュー・マネージャーの FD サブボリュームで、キュー・サーバーによって生成された可能性がある FFST ファイルを探して調べます。プロセス名を使用して、関連のある FFST を見つけてください。障害の原因となったイベントまたは症状のチェーンを再構成して、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ8637 (Tandem)

A Queue Server has detected a CPU failure.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> は、CPU <insert\_1> が失敗したことを検出しました。この CPU で実行されていたキュー・マネージャーのコンポーネントがある場合、これらのコンポーネントは使用できなくなり、アプリケーション接続およびチャネルはドロップされた可能性があります。キュー・マネージャーは、新しい接続およびチャネルで引き続き使用できるはずですが、この CPU で実行されていた状況サーバーおよびキュー・サーバーのプロセスは、他の使用可能な CPU で置き換えられます。

## 応答

通常は不要です。アプリケーションで、障害を起こした CPU で実行されていたエージェント・プロセスを使用した進行中の MQI 操作から理由コード MQRC\_CONNECTION\_BROKEN (2009) を受け取る可能性があります。即時に正常な再接続を行えるはずですが。

### AMQ8638 (Tandem)

A Queue Server completed takeover processing.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> が、障害を起こした 1 次キュー・サーバー・プロセスからの前のテークオーバーに関連した処理、またはそれが実行されていた CPU の障害に関連した処理を完了しました。この時点の後で通常処理が再開して、キュー・サーバーは、Single Point of Failure に対する回復力のある状態に戻ります。

## 応答

通常は不要です。このメッセージは、テークオーバーが完了したという肯定確認を提供するためにログに記録されます。

### AMQ8639 (Tandem)

A Queue Server processed expired messages.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> が、有効期限が切れた <insert\_1> 個のメッセージを検出して処理しました。

## 応答

通常は不要です。このメッセージは、キュー・サーバーごとに期限の切れたメッセージの数に関する情報を提供するためにログに記録されます。特定のキュー・サーバーで性能低下が発生した場合、そのキュー・サーバー・プロセスによって処理される期限切れのメッセージの数が過度に多くないことを確認してください。

### AMQ8640 (Tandem)

Signal delivery timeout expired for an MQGET.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> がオープンに失敗し、アプリケーション・プロセス <insert\_4> にシグナルを送信できませんでした。アプリケーションが発行した MQGMO\_SET\_SIGNAL オプション付き MQGET はキュー・サーバーによって取り消されましたが、通知をアプリケーションに送信できません。

## 応答

通常処理を再開できるように、アプリケーションでの手操作による介入が必要になる可能性があります。シグナルを設定した MQGET 呼び出しに関連する通知は、これ以上、アプリケーションに送信されません。アプリケーションは、キューを再オープンして、MQGET 呼び出しを再発行し、この状況からリカバリーすることができます。

### AMQ8641 (Tandem)

Signal delivery open error for an MQGET.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> は、シグナル IPC を送信するためのアプリケーション・プロセス <insert\_4> のオープンに失敗しました。ファイル・システム・エラー番号は <insert\_1> でした。アプリケーションによって発行された MQGMO\_SET\_SIGNAL オプションを指定した MQGET がキュー・サーバーによって取り消されましたが、アプリケーションに通知を送信できません。

## 応答

通常処理を再開できるように、アプリケーションでの手操作による介入が必要になる可能性があります。シグナルを設定した MQGET 呼び出しに関連する通知は、これ以上、アプリケーションに送信されません。アプリケーションは、キューを再オープンして、MQGET 呼び出しを再発行し、この状況からリカバリーすることができます。

### AMQ8642 (Tandem)

Signal delivery error for an MQGET.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> が、アプリケーション・プロセス <insert\_4> にシグナル IPC を送達できませんでした。ファイル・システム・エラー番号は <insert\_1> でした。アプリケーションによって発行された MQGMO\_SET\_SIGNAL オプションを指定した MQGET がキュー・サーバーによって取り消されましたが、アプリケーションに通知を送信できません。

## 応答

通常処理を再開できるように、アプリケーションでの手操作による介入が必要になる可能性があります。シグナルを設定した MQGET 呼び出しに関連する通知は、これ以上、アプリケーションに送信されません。アプリケーションは、キューを再オープンして、MQGET 呼び出しを再発行し、この状況からリカバリーすることができます。

### AMQ8643 (Tandem)

Signal delivery canceled for an MQGET.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> は、シグナル IPC を送信するために、指定された Waitinterval の有効期限が切れる前に MQGMO\_SET\_SIGNAL オプションを指定した MQGET を終了する必要がありましたが、アプリケーション・プロセス <insert\_4> を開くことができませんでした。アプリケーションが発行した MQGMO\_SET\_SIGNAL オプション付き MQGET はキュー・サーバーによって取り消されましたが、通知をアプリケーションに送信できません。

## 応答

通常処理を再開できるように、アプリケーションでの手操作による介入が必要になる可能性があります。シグナルを設定した MQGET 呼び出しに関連する通知は、これ以上、アプリケーションに送信されません。アプリケーションは、キューを再オープンして、MQGET 呼び出しを再発行し、この状況からリカバリーすることができます。

### AMQ8644 (Tandem)

Queue Server memory threshold exceeded.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> がしきい値のメモリー使用量 (<insert\_1> バイト) に達しました。未使用のキューはディスクへのアンロードに適格です。

## 応答

キュー・サーバーがキューで過負荷になっていないこと、またはキュー・サーバーによってサポートされるキューでメッセージが予期せず増加していないことを確認します。

### AMQ8645 (Tandem)

Memory usage for Queue Server now below threshold.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・サーバー・プロセス <insert\_3> のメモリー使用量が、未使用のキューがディスクにアンロードされるしきい値 (<insert\_1> バイト) より小さくなりました。

応答

なし。

#### **AMQ8646 (Tandem)**

NonStop TM/MP reports transactions disabled

重大度

0: 情報

説明

キュー・サーバー <insert\_3> は、Compaq NonStop TM/MP が NSK システム上のトランザクションを使用不可にしたことを検出しました。キュー・マネージャーのキュー・サーバーは持続メッセージに対する MQPUT または非ブラウザ MQGET 操作、あるいは同期点操作を受け入れられなくなりました。持続メッセージに対する操作を実行しようとする、理由コード MQRC\_SYNCPOINT\_NOT\_AVAILABLE で拒否されます。

応答

NonStop TM/MP は、MQSeries のクリティカル・リソースです。即座にシステム・ユーティリティーを使用して原因を判別し、修正してください。

#### **AMQ8647 (Tandem)**

NonStop TM/MP reports transactions enabled

重大度

0: 情報

説明

キュー・サーバー <insert\_3> は、NSK システムで Compaq NonStop TM/MP トランザクションが有効になっていることを検出しました。

応答

通常、処置は不要です。トランザクションが以前に使用不可に設定されていた場合、このメッセージは、システムが通常操作に戻ったことを示しています。

#### **AMQ8648 (Tandem)**

A Queue Server has started

重大度

0: 情報

説明

CPU <insert\_1> のキュー・サーバーが開始しました。このプロセスの名前は <insert\_3> です。

応答

なし。

#### **AMQ8649**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーのリセットが受け入れられました。

重大度

0: 情報

説明

MQSC RESET QMGR コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

応答

なし。

#### **AMQ8650**

Activity information unavailable.

重大度

0: 情報

説明

DSPMQRTE コマンドは、アクティビティー情報を予期していましたが、その情報は使用できませんでした。これは必ずしもエラーの原因となるわけではありません。アクティビティー情報が使用不可である理由として、以下が挙げられます。

- 1) 経路上のいずれかのキュー・マネージャーでトレース経路メッセージングがサポートされていなかった。
- 2) 経路上のいずれかのキュー・マネージャーが、経路情報を応答キューに戻すことを許可しなかった。詳しくは、ActivityRecording および TraceRouteRecording キュー・マネージャー属性に関する資料を参照してください。
- 3) レポートが応答キューに戻る経路を検出できなかった。

#### 応答

アクティビティー情報を使用可能にする必要があったかどうかを判断してください。「outline」冗長オプション (-v フラグとともに使用) を指定してコマンドを実行すると、アクティビティー情報が生成されたときのメッセージの場所の判別に役立つ可能性があります。

#### AMQ8650 (IBM i)

Activity information unavailable.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

DSPMQMRTE コマンドは、アクティビティー情報を予期していましたが、その情報は使用できませんでした。これは必ずしもエラーの原因となるわけではありません。アクティビティー情報が使用不可である理由として、以下が挙げられます。

- 1) 経路上のいずれかのキュー・マネージャーでトレース経路メッセージングがサポートされていなかった。
- 2) 経路上のいずれかのキュー・マネージャーが、経路情報を応答キューに戻すことを許可しなかった。詳しくは、ActivityRecording および TraceRouteRecording キュー・マネージャー属性に関する資料を参照してください。
- 3) レポートが応答キューに戻る経路を検出できなかった。

#### 応答

アクティビティー情報を使用可能にする必要があったかどうかを判断してください。DSPINF(\*ALL) を指定してコマンドを実行すると、アクティビティー情報が生成されたときのメッセージの場所の判別に役立つ可能性があります。

#### AMQ8651

DSPMQRTE コマンドはエラーで終了しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

DSPMQRTE コマンドは要求の処理を終了しましたが、実行エラーが検出されました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

#### 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

#### AMQ8651 (IBM i)

DSPMQMRTE command has finished with errors.

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

DSPMQMRTE コマンドは要求の処理を終了しましたが、実行エラーが検出されました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

#### 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

#### AMQ8652

DSPMQRTE コマンドは終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドは要求の処理を終了しました。実行エラーが検出されませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8652 (IBM i)**

DSPMQRTE command has finished.

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドは要求の処理を終了しました。実行エラーは検出されませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ8653**

DSPMQRTE コマンドがオプション <insert\_3>で開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

コマンド行オプション <insert\_3> を指定して DSPMQRTE コマンドを開始しました。このコマンドは現在要求を処理中です。

**応答**

そのコマンドが、要求した処理を完了するまでお待ちください。これ以降に発行されるメッセージを使用して、要求の結果を判断できます。

**AMQ8653 (IBM i)**

DSPMQRTE command started.

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドが開始され、現在、コマンドは要求を処理しています。

**応答**

そのコマンドが、要求した処理を完了するまでお待ちください。これ以降に発行されるメッセージを使用して、要求の結果を判断できます。

**AMQ8654**

経路トレース・メッセージがキュー・マネージャー <insert\_3>に到着しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドは、トレース経路メッセージがキュー・マネージャー <insert\_3>の宛先キューに正常に到着したことの確認を受け取りました。

**応答**

なし。

**AMQ8654 (IBM i)**

経路トレース・メッセージがキュー・マネージャー <insert\_3>に到着しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドは、トレース経路メッセージがキュー・マネージャー <insert\_3>の宛先キューに正常に到着したことの確認を受け取りました。

応答

なし。

#### AMQ8655

トレース経路メッセージの有効期限が切れました。

重大度

0: 情報

説明

DSPMQRTE コマンドは、トレース経路メッセージの有効期限が切れたことの確認を受け取りました。

応答

DSPMQRTE コマンドによって生成されるトレース経路メッセージの有効期限の間隔は、必要な場合は `-xs` オプションを使用して変更できます。

#### AMQ8655 (IBM i)

トレース経路メッセージの有効期限が切れました。

重大度

0: 情報

説明

DSPMQMRTE コマンドは、トレース経路メッセージの有効期限が切れたことの確認を受け取りました。

応答

DSPMQMRTE コマンドによって生成されるトレース経路メッセージの有効期限の間隔は、必要な場合は `EXPIRY` パラメーターを使用して変更できます。

#### AMQ8656

DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー `<insert_4>` から例外レポートをフィードバック `<insert_1>` `<insert_3>` とともに受け取りました。

重大度

0: 情報

説明

DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージにより、キュー・マネージャー `<insert_4>` で例外が発生しました。レポートの `Feedback` フィールドは、`<insert_1>` または `<insert_3>` でした。

応答

提供されたフィードバックを使用して、トレース経路メッセージが例外を引き起こした理由を判断してください。

#### AMQ8656 (IBM i)

DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー `<insert_4>` から例外報告書をフィードバック `<insert_1>` `<insert_3>` とともに受け取りました。

重大度

0: 情報

説明

DSPMQMRTE コマンドのトレース経路メッセージにより、キュー・マネージャー `<insert_4>` で例外が発生しました。レポートの `Feedback` フィールドは、`<insert_1>` または `<insert_3>` でした。

応答

提供されたフィードバックを使用して、トレース経路メッセージが例外を引き起こした理由を判断してください。

#### AMQ8657

DSPMQRTE コマンドは `<insert_3> 0x<insert_4>` を使用しました。

重大度

0: 情報

説明

トレース経路メッセージを生成するように指定された DSPMQRTE コマンドが開始されました。これが行われ、経路トレース・メッセージに `<insert_3> X<insert_4>` がありました。

## 応答

<insert\_3> を使用して、この経路トレース要求に対する応答を検索することができます。応答が戻されると予想されるキューとして、またはトレース経路メッセージの到着先となると予想されるキューとして指定された宛先キューおよび i フラグとともにこの ID を指定して、DSPMQRTE コマンドを再実行してください。これは、別のキュー・マネージャー上にある可能性があります。

### AMQ8657 (IBM i)

DSPMQRTE コマンドは <insert\_3> 0x<insert\_4> を使用しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

トレース経路メッセージを生成するように指定された DSPMQRTE コマンドが開始されました。これが行われ、経路トレース・メッセージに <insert\_3> X<insert\_4> がありました。

## 応答

<insert\_3> を使用して、この経路トレース要求に対する応答を検索することができます。CRLIDとしてこの ID を指定して、応答が戻されると予想されるキューとして、またはトレース経路メッセージの到着先となると予想されるキューとして指定された宛先キューを指定して、DSPMQRTE コマンドを再実行してください。これは、別のキュー・マネージャー上にある可能性があります。

### AMQ8658

DSPMQRTE コマンドは指定ターゲットにメッセージを書き込むことができませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQRTE コマンドがトレース経路メッセージを書き込むという要求が失敗しました。コマンドによって発行された直前のメッセージを使用して、メッセージを書き込めなかった理由を識別することができます。

## 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

### AMQ8658 (IBM i)

DSPMQRTE command failed to put a message on the target queue.

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQRTE コマンドがトレース経路メッセージを宛先キューに書き込むという要求が失敗しました。コマンドによって発行された直前のメッセージを使用して、メッセージを宛先キューに書き込めなかった理由を識別することができます。

## 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

### AMQ8659

DSPMQRTE コマンドは、キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4> にメッセージを正常に書き込みました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQRTE コマンドがメッセージを宛先キューに書き込むという要求が成功しました。ターゲット・キューは、キュー・マネージャー <insert\_4> 上の <insert\_3> に解決されました。

## 応答

なし。

### AMQ8659 (IBM i)

DSPMQRTE コマンドは、メッセージをキュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4> に正常に書き込みました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTE コマンドがメッセージを宛先キューに書き込むという要求が成功しました。ターゲット・キューは、キュー・マネージャー <insert\_4>上の <insert\_3> に解決されました。

## 応答

なし。

## AMQ8660

DSPMQMRTE コマンドが次のアクティビティーを正しく配列できませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTE コマンドは以下のアクティビティーを受信しましたが、正しい順序で印刷できませんでした。これは、通常、TraceRoute PCF グループを含まないか、または正しい順序での印刷を可能にする RecordedActivities パラメーターがないアクティビティー・レポートを受け取ったためです。

## 応答

アクティビティーを正しく配列するために必要な情報がないアクティビティー・レポートを生成しているアプリケーションを見つけて、訂正してください。

## AMQ8660 (IBM i)

DSPMQMRTE command could not correctly order the following activities:

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTE コマンドは以下のアクティビティーを受信しましたが、正しい順序で印刷できませんでした。これは、通常、TraceRoute PCF グループを含まないか、または正しい順序での印刷を可能にする RecordedActivities パラメーターがないアクティビティー・レポートを受け取ったためです。

## 応答

アクティビティーを正しく配列するために必要な情報がないアクティビティー・レポートを生成しているアプリケーションを見つけて、訂正してください。

## AMQ8661

DSPMQMRTE コマンドはキュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>に書き込まれません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

トレース経路メッセージをローカル・キューに送達しないように指定した (-d yes の指定なし) DSPMQMRTE コマンドを開始しました。しかし、宛先キューは伝送キューを解決しないと判断されました。したがって、DSPMQMRTE コマンドは経路トレース・メッセージをキュー・マネージャー <insert\_4>上のターゲット・キュー <insert\_3> に書き込まないことを選択しました。

## 応答

宛先キューがローカル・キューを解決することが予想されていたかどうかを判別してください。

## AMQ8661 (IBM i)

DSPMQMRTE コマンドはキュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>には書き込まれません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

トレース経路メッセージをローカル・キューに送達しないように指定 (DLVRMSG(\*NO) を指定) した DSPMQMRTE コマンドを開始しました。しかし、宛先キューは伝送キューを解決しないと判断されました。したがって、DSPMQMRTE コマンドは、トレース経路メッセージをキュー・マネージャー <insert\_4>上のターゲット・キュー <insert\_3> に書き込まないことを選択しました。

## 応答

宛先キューがローカル・キューを解決することが予想されていたかどうかを判別してください。

**AMQ8662**

経路トレース・メッセージがキュー・マネージャー <insert\_3>に送信されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_3> 上のトレース経路メッセージが要求側アプリケーションに正常に送達されたことの確認を受け取りました。

**応答**

なし。

**AMQ8662 (IBM i)**

経路トレース・メッセージがキュー・マネージャー <insert\_3>に送信されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_3> のトレース経路メッセージが要求側アプリケーションに正常に送達されたことの確認を受け取りました。

**応答**

なし。

**AMQ8663**

クライアント接続はこの環境ではサポートされていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

クライアント接続を使用してキュー・マネージャーに接続しようとした。しかし、クライアント接続はこの環境ではサポートされていません。

**応答**

サーバー接続を使用してキュー・マネージャーに接続してください。

**AMQ8664**

DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_3>に接続できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3>に接続するように指定して、DSPMQRTE コマンドを開始しました。コマンドは、そのキュー・マネージャーに接続できませんでした。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

**応答**

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

**AMQ8664 (IBM i)**

DSPMQRTE コマンドはキュー・マネージャー <insert\_3>に接続できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3>に接続する必要があることを指定して、DSPMQRTE コマンドを開始しました。コマンドは、そのキュー・マネージャーに接続できませんでした。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

**応答**

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

**AMQ8665**

DSPMQRTE コマンドに無効な CorrelId <insert\_3>が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効な CorrelId <insert\_3> を指定したオプション -i を指定して、DSPMQRTE コマンドが開始されました。 相関 ID が長すぎるか、またはその形式が正しくありません。

**応答**

コマンド構文を参照してから、コマンドを再試行してください。

**AMQ8665 (IBM i)**

DSPMQMRTTE コマンドに無効な CorrelId <insert\_3> が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効な CorrelId <insert\_3> を持つ CRLID を指定して、DSPMQMRTTE コマンドを開始しました。

**応答**

コマンド構文を参照してから、コマンドを再試行してください。

**AMQ8666**

キュー・マネージャー <insert\_4> 上のキュー <insert\_3>。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは、宛先キューに到達しようとして、キュー・マネージャー <insert\_4> 上のキュー <insert\_3> に関する経路を取ったことが確認されました。

**応答**

結果のメッセージの経路となった他のキューまたはトピックを示す 後続のメッセージを待機してください。

**AMQ8666 (IBM i)**

キュー・マネージャー <insert\_4> 上のキュー <insert\_3>。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQMRTTE コマンドの経路トレース・メッセージは、宛先キューに到達しようとして、キュー・マネージャー <insert\_4> 上のキュー <insert\_3> に関する経路を取得したことが確認されました。

**応答**

メッセージの経路に指定された別のキューを示す 後続のメッセージを待機してください。

**AMQ8667**

DSPMQRTE コマンドは、応答キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4> をオープンできませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

応答キュー <insert\_3> を指定して DSPMQRTE コマンドを開始しました。しかし、DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4> 上のその名前前のキューを正常にオープンできませんでした。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別することができます。-rq オプションを指定しなかった場合は、応答キューは、SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE でモデルにされた一時動的キューになります。

**応答**

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。オープン可能な応答キューを指定してから、コマンドを再試行してください。

**AMQ8667 (IBM i)**

DSPMQMRTTE コマンドは、応答キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4> をオープンできませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

応答キュー <insert\_3>を指定して DSPMQMRTE コマンドを開始しました。しかし、DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4>上のその名前のキューを正常にオープンできませんでした。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別することができます。RPLYQ パラメーターを指定しなかった場合、応答キューは、SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE でモデルにされた一時動的キューになります。

## 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。オープン可能な応答キューを指定してから、コマンドを再試行してください。

## AMQ8668

DSPMQMRTE コマンドは、キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>をオープンできませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

-q オプションを使用して、キュー <insert\_3>を指定した DSPMQMRTE コマンドを開始しました。しかし、DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4>上のその名前のキューを正常にオープンできませんでした。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別することができます。

## 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。-q オプションを使用して、オープン可能なキューを指定してから、コマンドを再試行してください。

## AMQ8668 (IBM i)

DSPMQMRTE コマンドは、キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>をオープンできませんでした。

## 重大度

20: エラー

## 説明

QNAME パラメーターにキュー <insert\_3>を指定して DSPMQMRTE コマンドを開始しました。しかし、DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4>上のその名前のキューを正常にオープンできませんでした。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別することができます。

## 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。QNAME パラメーターを使用して、オープン可能なキューを指定してから、コマンドを再試行してください。

## AMQ8669

DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4>上のキュー・マネージャー <insert\_3>の解決に失敗しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

DSPMQMRTE コマンドはキュー・マネージャー <insert\_3> (-qm オプションで提供) をキュー・マネージャー <insert\_4>で解決しようとしたましたが、失敗しました。-q オプションで指定したキューをオープンできませんでした。

## 応答

キュー・マネージャー <insert\_3> がキュー・マネージャー <insert\_4>で解決できることを確認するか、-qm オプションを使用して別のキュー・マネージャーを指定してください。コマンドを再試行する。

**AMQ8669 (IBM i)**

DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_4>上のキュー・マネージャー <insert\_3> の解決に失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQMRTE コマンドは、キュー・マネージャー <insert\_3> (TGTMQM パラメーターで指定) をキュー・マネージャー <insert\_4> で解決しようとしたましたが、失敗しました。QNAME パラメーターで指定されたキューを開くことができませんでした。

**応答**

キュー・マネージャー <insert\_3> がキュー・マネージャー <insert\_4> で解決できることを確認するか、TGTMQM パラメーターで別のキュー・マネージャーを指定してください。コマンドを再試行する。

**AMQ8670**

サーバー・モジュール <insert\_3> のロードが失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

サーバー・モジュール <insert\_3> を動的にロードしようとしたましたが、失敗しました。通常これは、クライアント・モジュールのみインストールされていることが原因です。

**応答**

インストールされているモジュールを確認し、該当する場合は -c オプションを指定してコマンドを再試行してください。

**AMQ8671**

応答キューが必要なときに、DSPMQRTE コマンドに指定されませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQRTE コマンドは -rq オプションによって指定された応答キューを必要としましたが、応答キューは指定されていませんでした。-n (表示なし) オプションと応答生成オプション (-ar または -ro [activity|coal|cod|exception|expiration]) の両方が指定された場合、応答キューの指定は必須です。

**応答**

応答キューを指定して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8672**

DSPMQRTE コマンドは、キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>からメッセージを取得できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQRTE コマンドはキュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>からメッセージを取得しようとしたましたが、失敗しました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

**応答**

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

**AMQ8672 (IBM i)**

DSPMQMRTE コマンドは、キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>からメッセージを取得できませんでした。

**重大度**

20: エラー

## 説明

DSPMQMRTTE コマンドは、キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>からメッセージを取得しようとしたが、失敗しました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

## 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

## AMQ8673

DSPMQMRTTE コマンドに、無効なオブジェクト名 <insert\_4>を指定したオプション <insert\_3> が指定されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

無効なオブジェクト名 <insert\_4> を指定したオプション <insert\_3> を指定して、DSPMQMRTTE コマンドが開始されました。通常、IBM WebSphere MQ オブジェクトの名前には 48 文字まで使用できます。オブジェクト名には以下の文字を使用できます。

- 1) 英大文字 (A から Z)。
- 2) 英小文字 (a から z)。
- 3) 数字 (0 から 9)。
- 4) ピリオド (.)、スラッシュ (/)、下線 (\_)、パーセント (%)。

詳細および制限については、IBM WebSphere MQ システム管理の資料を参照してください。

## 応答

有効なオブジェクト名を指定して、コマンドを再試行してください。

## AMQ8673 (IBM i)

DSPMQMRTTE コマンドに無効なオブジェクト名 <insert\_4>が指定されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

無効なオブジェクト名 <insert\_4> を指定して DSPMQMRTTE コマンドを開始しました。通常、IBM WebSphere MQ オブジェクトの名前には 48 文字まで使用できます。オブジェクト名には以下の文字を使用できます。

- 1) 英大文字 (A から Z)。
- 2) 英小文字 (a から z)。
- 3) 数字 (0 から 9)。
- 4) ピリオド (.)、スラッシュ (/)、下線 (\_)、パーセント (%)。

詳細および制限については、IBM WebSphere MQ システム管理の資料を参照してください。

## 応答

有効なオブジェクト名を指定して、コマンドを再試行してください。

## AMQ8674

現在、DSPMQMRTTE コマンドは情報が表示されるのを待っています。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTTE コマンドはトレース経路メッセージを正常に生成して書き込み、現在は、トレース経路メッセージが宛先に到達した経路を示す応答が応答キューに戻されるのを待っています。

## 応答

応答キューに戻される応答と経路に関する情報が表示されるのを待ってください。

**AMQ8674 (IBM i)**

DSPMQMRTE command is now waiting for information to display.

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQMRTE コマンドはトレース経路メッセージを正常に生成して書き込み、現在は、トレース経路メッセージが宛先に到達した経路を示す応答が応答キューに戻されるのを待っています。

**応答**

応答キューに戻される応答と経路に関する情報が表示されるのを待ってください。

**AMQ8675**

DSPMQMRTE コマンドに無効なオプション <insert\_3> が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

認識されなかった <insert\_3> のオプションを指定して、DSPMQMRTE コマンドを開始しました。コマンドは終了します。

**応答**

コマンド構文を参照して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8676**

DSPMQMRTE コマンドに、オプションの無効な組み合わせが指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効なオプションの組み合わせを指定して、DSPMQMRTE コマンドが開始されました。-ts または -q の一方のみを指定する必要があります。-i オプションは、-ac、-ar、-d、-f、-l、-n、-o、-p、-qm、-ro、-rq、-rqm、-s、-t、-xs、-xp のうちの 1 つ以上のオプションとともに指定することはできません。-n オプションは、-b、-i、-v、-w のうちの 1 つ以上のオプションとともに指定することはできません。-ar オプションは、-ac オプションも指定されている場合にのみ指定することができます。-rqm オプションは、-rq オプションも指定されている場合にのみ指定することができます。

**応答**

コマンドの資料を参照して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8677**

DSPMQMRTE コマンドに、矛盾する値を持つオプション <insert\_3> が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

競合するオプション <insert\_3> の値を指定して DSPMQMRTE コマンドを開始しました。少なくとも 2 つの値が同じオプションに指定されていますが、これらの値が互いに競合しています。DSPMQMRTE コマンドは終了します。

**応答**

コマンド構文を参照して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8677 (IBM i)**

DSPMQMRTE command was supplied a parameter with conflicting values.

**重大度**

20: エラー

**説明**

競合する値を指定して、DSPMQMRTE コマンドが開始されました。少なくとも 2 つの値が同じパラメーターに指定されていますが、これらの値が互いに競合しています。DSPMQMRTE コマンドは終了します。

**応答**

コマンド構文を参照して、コマンドを再試行してください。

**AMQ8678**

DSPMQRTE コマンドに、無効な値 <insert\_4>を指定したオプション <insert\_3> が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効なオプション値を指定して、DSPMQRTE コマンドが開始されました。 オプション <insert\_3> の <insert\_4> 値が認識されないか、形式が正しくありません。

**応答**

コマンド構文を参照してから、コマンドを再実行してください。

**AMQ8678 (IBM i)**

DSPMQMRTTE コマンドに無効な値 <insert\_4>が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効なパラメーター値を指定して、DSPMQMRTTE コマンドが開始されました。 値 <insert\_4> が認識されないか、または形式が正しくありません。

**応答**

コマンド構文を参照してから、コマンドを再実行してください。

**AMQ8679**

永続メッセージは、応答キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>では許可されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQRTE コマンドがターゲット・キューに持続トレース経路メッセージを書き込むように指定されました (-l オプションの資料を参照)。しかし、応答キューは一時動的キューであり、このキューには持続応答が戻されることが期待されていたため、持続メッセージは応答キューで許可されません。トレース経路メッセージは宛先キューに書き込まれませんでした。

**応答**

応答キューが一時動的キューではないことを確認してください。 -rq オプションを使用して応答キューを指定してください。

**AMQ8679 (IBM i)**

永続メッセージは、応答キュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>では許可されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQMRTTE コマンドがターゲット・キューに持続トレース経路メッセージを書き込むように指定されました (MSGPST パラメーターの資料を参照)。しかし、応答キューは一時動的キューであり、このキューには持続応答が戻されることが期待されていたため、持続メッセージは応答キューで許可されません。トレース経路メッセージは宛先キューに書き込まれませんでした。

**応答**

応答キューが一時動的キューではないことを確認してください。 RPLYQ パラメーターを使用して応答キューを指定してください。

**AMQ8680**

DSPMQRTE コマンドがキュー・マネージャー <insert\_3>のオープンに失敗しました。

**重大度**

20: エラー

#### 説明

DSPMQRTE コマンドは照会のためにキュー・マネージャー <insert\_3> をオープンしようとしたが、オープンに失敗しました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

#### 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

#### AMQ8680 (IBM i)

DSPMQRTE コマンドがキュー・マネージャー <insert\_3> のオープンに失敗しました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

DSPMQRTE コマンドは照会のためにキュー・マネージャー <insert\_3> をオープンしようとしたが、オープンに失敗しました。コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別できます。

#### 応答

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。

#### AMQ8681

DSPMQRTE コマンドがエラーを検出しました。理由 <insert\_1> <insert\_3>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

DSPMQRTE コマンドが要求の実行中に MQI 呼び出しからのエラーを検出しました。失敗の理由は、<insert\_1> または <insert\_3> です。

#### 応答

失敗の理由の説明については、IBM WebSphere MQ メッセージの資料を参照してください。修正処置を行って、コマンドを再試行してください。

#### AMQ8681 (IBM i)

DSPMQRTE コマンドがエラーを検出しました。理由 <insert\_1> <insert\_3>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

DSPMQRTE コマンドが要求の実行中に MQI 呼び出しからのエラーを検出しました。失敗の理由は、<insert\_1> または <insert\_3> です。

#### 応答

失敗の理由の説明については、IBM WebSphere MQ メッセージの資料を参照してください。修正処置を行って、コマンドを再試行してください。

#### AMQ8682

キュー・マネージャー <insert\_4> 上のアプリケーション <insert\_3> によって経路トレース・メッセージが処理されました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

DSPMQRTE コマンドは、トレース経路メッセージをターゲット・キューに正常に書き込んだ後、そのメッセージを処理したアプリケーション <insert\_3> にキュー・マネージャー <insert\_4> によって配信されました。

#### 応答

このアプリケーションがトレース経路メッセージを処理することが予想されていたかどうかを判断してください。

#### AMQ8682 (IBM i)

キュー・マネージャー <insert\_4> 上のアプリケーション <insert\_3> によって経路トレース・メッセージが処理されました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTE コマンドは、トレース経路メッセージをターゲット・キューに正常に書き込んだ後、そのメッセージを処理したアプリケーション <insert\_3> にキュー・マネージャー <insert\_4> によって送達されました。

## 応答

このアプリケーションがトレース経路メッセージを処理することが予想されていたかどうかを判断してください。

## AMQ8683

経路トレース・メッセージが <insert\_1> の最大活動限界に達しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは、参加プログラムのアクティビティー数が最大限界に達してから拒否されました。制限は <insert\_1> に設定されました。最大アクティビティー数の制限は、-s オプションを使用して設定します。

## 応答

コマンドからの出力を使用して、トレース経路メッセージがアクティビティーの最大限度に達することが予想されているかどうかを判断してください。

## AMQ8683 (IBM i)

経路トレース・メッセージが <insert\_1> の最大活動限界に達しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTE のトレース経路メッセージは、参加プログラムのアクティビティー数が最大限界に達してから拒否されました。制限は <insert\_1> に設定されました。アクティビティーの最大数の制限は、MAXACTS パラメーターを使用して設定します。

## 応答

コマンドからの出力を使用して、トレース経路メッセージがアクティビティーの最大限度に達することが予想されているかどうかを判断してください。

## AMQ8684

経路トレース・メッセージが、経路トレース不能キュー・マネージャー <insert\_3> に達しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは、トレース経路メッセージングをサポートしないキュー・マネージャーに送信されたため、拒否されました。コマンドで指定された転送オプションは、トレース経路メッセージングをサポートするキュー・マネージャーへのトレース経路メッセージの転送のみを許可するため、この動作が要求されました。指定されたオプションに従って、トレース経路メッセージを処理できないキュー・マネージャーにメッセージを送信すると、トレース経路メッセージがリモート・キュー・マネージャーのローカル・キューに書き込まれるなどの望ましくない結果になる可能性があります。この状態を許容できる場合は、「-f all」オプションを指定できます。

## 応答

該当する場合は、別の転送オプションを使用してコマンドを再試行してください。

## AMQ8684 (IBM i)

経路トレース・メッセージが、経路トレース不能キュー・マネージャー <insert\_3> に達しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

DSPMQMRTE コマンドのトレース経路メッセージは、トレース経路メッセージングをサポートしないキュー・マネージャーに送信されたため、拒否されました。コマンドで指定された転送オプションは、

トレース経路メッセージングをサポートするキュー・マネージャーへのトレース経路メッセージの転送のみを許可するため、この動作が要求されました。指定されたオプションに従って、トレース経路メッセージを処理できないキュー・マネージャーにメッセージを送信すると、トレース経路メッセージがリモート・キュー・マネージャーのローカル・キューに書き込まれるなどの望ましくない結果になる可能性があります。この状態を許容できる場合は、FWDMSG(\*ALL)を指定できます。

#### 応答

該当する場合は、別の転送オプションを使用してコマンドを再試行してください。

#### AMQ8685

無効な転送オプション X<insert\_1>が原因で、経路トレース・メッセージが拒否されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

1つ以上の転送オプションが認識されず、MQROUTE\_FORWARD\_REJ\_UNSUP\_MASK ビット・マスクにあったため、DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは拒否されました。最後に監視されたときの転送オプション (16 進数) は X<insert\_1>でした。

#### 応答

認識されない転送オプションを挿入したアプリケーションを変更して、有効でサポートされる転送オプションを挿入してください。

#### AMQ8685 (IBM i)

無効な転送オプション X<insert\_1>が原因で、経路トレース・メッセージが拒否されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

1つ以上の転送オプションが認識されず、MQROUTE\_FORWARD\_REJ\_UNSUP\_MASK ビット・マスクにあったため、DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは拒否されました。最後に監視されたときの転送オプション (16 進数) は X<insert\_1>でした。

#### 応答

認識されない転送オプションを挿入したアプリケーションを変更して、有効でサポートされる転送オプションを挿入してください。

#### AMQ8686

配信オプション X<insert\_1>が無効であるため、経路トレース・メッセージが拒否されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

1つ以上の送達オプションが認識されず、MQROUTE\_DELIVER\_REJ\_UNSUP\_MASK ビット・マスクにあったため、DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは拒否されました。最後に監視されたときの 16 進数の配信オプションは X<insert\_1>でした。

#### 応答

認識されない送達オプションを挿入したアプリケーションを変更して、有効でサポートされる送達オプションを挿入してください。

#### AMQ8686 (IBM i)

配信オプション X<insert\_1>が無効であるため、経路トレース・メッセージが拒否されました。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

1つ以上の送達オプションが認識されず、MQROUTE\_DELIVER\_REJ\_UNSUP\_MASK ビット・マスクにあったため、DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは拒否されました。最後に監視されたときの 16 進数の配信オプションは X<insert\_1>でした。

#### 応答

認識されない送達オプションを挿入したアプリケーションを変更して、有効でサポートされる送達オプションを挿入してください。

**AMQ8687**

プログラムは終了中です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

プログラムの操作で、UNIX システムの SIGINT シグナルまたは Windows システムの CTRL+c/ CTRL+BREAK シグナルによる割り込みがありました。プログラムは終了中です。

**応答**

プログラムが終了するまで待ってください。

**AMQ8688**

DSPMQRTE コマンドが予期しないエラーを検出しました。理由 <insert\_1> <insert\_3>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQRTE コマンドが要求の実行中に予期しないエラーを検出しました。失敗の理由は、<insert\_1> または <insert\_3> です。IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ8688 (IBM i)**

DSPMQRTE コマンドが予期しないエラーを検出しました。理由 <insert\_1> <insert\_3>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

DSPMQRTE コマンドが要求の実行中に予期しないエラーを検出しました。失敗の理由は、<insert\_1> または <insert\_3> です。IBM WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

**応答**

システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ8689**

クライアント・モジュール <insert\_3> のロードが失敗しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

クライアント・モジュール <insert\_3> を動的にロードしようとしたましたが、失敗しました。通常これは、クライアント・モジュールがインストールされていないことが原因です。

**応答**

インストールされているモジュールを確認して、該当する場合は -c オプションを指定せずにコマンドを再試行してください。

**AMQ8690**

IBM WebSphere MQ トピックが作成されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トピック &lt;insert\_3&gt; が作成されました。

**応答**

なし。

**AMQ8691**

IBM WebSphere MQ トピックが変更されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トピック &lt;insert\_5&gt; が変更されました。

**応答**

なし。

**AMQ8692**

IBM WebSphere MQ トピック・オブジェクトが削除されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

IBM WebSphere MQ トピック・オブジェクト &lt;insert\_3&gt; が削除されました。

**応答**

なし。

**AMQ8694**

DSPMQRTE コマンドは、トピック・ストリング &lt;insert\_3&gt;、キュー・マネージャー &lt;insert\_4&gt; にメッセージを正常に書き込みました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドがメッセージを書き込むという要求が成功しました。指定された宛先は、キュー・マネージャー &lt;insert\_4&gt; 上のトピック・ストリング &lt;insert\_3&gt; に解決されました。

**応答**

なし。

**AMQ8695**

キュー・マネージャー &lt;insert\_4&gt; 上のトピック・ストリング &lt;insert\_3&gt;。

**重大度**

0: 情報

**説明**

DSPMQRTE コマンドのトレース経路メッセージは、キュー・マネージャー &lt;insert\_4&gt; 上のトピック・ストリング &lt;insert\_3&gt; に関する経路を取ったことが確認されました。

**応答**

結果のメッセージの経路となった他のキューまたはトピックを示す 後続のメッセージを待機してください。

**AMQ8696**

DSPMQRTE コマンドは、トピック・ストリング &lt;insert\_3&gt;、キュー・マネージャー &lt;insert\_4&gt; をオープンできませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

-ts オプションを使用して、トピック・ストリング &lt;insert\_3&gt; を指定して DSPMQRTE コマンドを開始しました。しかし、DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー &lt;insert\_4&gt; 上のそのトピック・ス

トリングを正常にオープンできませんでした。 コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別することができます。

**応答**

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。 `-ts` オプションを使用して、オープン可能なトピック・ストリングを指定してから、コマンドを再実行してください。

**AMQ8697**

DSPMQRTE コマンドは、トピック `<insert_3>`、キュー・マネージャー `<insert_4>` をオープンできませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

`-to` オプションを使用して、トピック `<insert_3>` を指定して DSPMQRTE コマンドを開始しました。しかし、DSPMQRTE コマンドは、キュー・マネージャー `<insert_4>` 上のその名前のトピック・オブジェクトを正常にオープンできませんでした。 コマンドによって出された前のメッセージを使用して、エラーを識別することができます。

**応答**

コマンドによってそれまでに発行されたメッセージを参照してください。 `-to` オプションを使用して、オープン可能なトピックを指定してから、コマンドを再実行してください。

**AMQ8698**

指定されたキーワードが多すぎます。

**重大度**

0: 情報

**説明**

コマンドに指定されたキーワードが多すぎます。

**応答**

なし

**AMQ8701**

使用法: `rcdmqimg [-z] [-l] [-m QMgrName] -t ObjType [GenericObjName]`

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8702**

使用法: `rcrmqobj [-z] [-m QMgrName] -t ObjType [GenericObjName]`

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8703**

使用法: `dspmqfls [-m QMgrName] [-t ObjType] GenericObjName`

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ8704 (Tandem)**

Usage: altmqfls [--qmgr QMgrName] [--type ObjType] [--volume Volume] [--server ServerName] [--qsoptions options] [--msgofthresh Threshold] [--browse Bytes] [--meascount counter] [--qsize (primaryextent,secondaryextent, maxextents)] [--oflowsize (primaryextent,secondaryextent, maxextents)] ObjectName

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8705**

キュー・マネージャー状況の詳細を表示します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC DISPLAY QMSTATUS コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8706**

IBM WebSphere MQ リスナー停止要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル・リスナー・プログラムが停止するように要求されました。このコマンドは非同期で実行されるため、このメッセージが表示された後に完了する場合があります。

**応答**

要求の進行について詳しくは、キュー・マネージャーのエラー・ログを参照してください。

**AMQ8707 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ DLQ Handler 始動

**重大度**

0: 情報

**AMQ8708**

送達不能キュー・ハンドラーが INPUTQ (<insert\_3>) の処理を開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) が開始しており、入力ファイルの解析はエラーなしで終了し、メッセージで識別されたキューの処理を開始しようとしています。

**応答**

なし。

**AMQ8708 (IBM i)**

送達不能キュー・ハンドラーが INPUTQ (<insert\_3>) の処理を開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) が開始しており、入力ファイルの解析はエラーなしで終了し、メッセージで識別されたキューの処理を開始しようとしています。

**応答**

なし。

**AMQ8709**

送達不能キュー・ハンドラーが終了しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) が終了します。理由は、WAIT 間隔が満了し、送達不能キューにメッセージがないためか、キュー・マネージャーが終了するためか、または送達不能キュー・ハンドラーがエラーを発見したためです。送達不能キューがエラーを検出した場合、前述のメッセージがエラーを識別します。

**応答**

なし。

**AMQ8709 (IBM i)**

送達不能キュー・ハンドラーが終了しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) が終了します。理由は、WAIT 間隔が満了し、送達不能キューにメッセージがないためか、キュー・マネージャーが終了するためか、または送達不能キュー・ハンドラーがエラーを発見したためです。送達不能キューがエラーを検出した場合、前述のメッセージがエラーを識別します。

**応答**

なし。

**AMQ8710**

使用法: runmqdlq [QName[QMgrName]]

**重大度**

0: 情報

**説明**

runmqdlq の使用法を示す構文。

**応答**

なし。

**AMQ8711 (IBM i)**

ジョブ <insert\_3> が予期せずに終了しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

コマンド <insert\_5> の実行により、ジョブ <insert\_3> が開始されましたが、ジョブが予期せずに終了しました。

**応答**

ジョブ <insert\_3> のログを調べて、それが終了した理由を判別してください。

**AMQ8712**

このキュー・マネージャーではパブリッシュ/サブスクライブは使用できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

そのキュー・マネージャーの構成では、パブリケーションまたはサブスクリプションのコマンドはすべて禁止されています。

**応答**

キュー・マネージャーのオプションをチェックして、正しいことを確認してください。

**AMQ8721**

送達不能キュー・メッセージに有効な接頭部 MQDLH がありません。

## 重大度

10: 警告

### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) が、指名された送達不能キューからのメッセージを検索しましたが、メッセージに認識可能な MQDLH 接頭部が付いていませんでした。これは、通常、アプリケーションが送達不能キューに直接メッセージの書き込みを行い、それらのメッセージの接頭部に、有効な MQDLH を付けていないことが原因である。このメッセージは送達不能キューに残され、送達不能キュー・ハンドラーは送達不能キューの処理を続行する。送達不能キュー・ハンドラーが、このメッセージの前の位置に再配置され、前の走査で処理されなかったメッセージを処理するたびに、送達不能キューは失敗したメッセージを再処理し、このメッセージを再実行します。

### 応答

送達不能キューから無効なメッセージを除去します。有効な MQDLH 接頭部が付いていないメッセージを、送達不能キューに書き込まないでください。有効接頭部 MQDLH が付いていないメッセージの処理が可能な送達不能キュー・ハンドラーが必要な場合は、amqsdlq と呼ばれるサンプル・プログラムを必要に応じて変更しなければなりません。

## AMQ8721 (IBM i)

送達不能キュー・メッセージに有効な接頭部 MQDLH がありません。

## 重大度

10: 警告

### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) が、指名された送達不能キューからのメッセージを検索しましたが、メッセージに認識可能な MQDLH 接頭部が付いていませんでした。これは、通常、アプリケーションが送達不能キューに直接メッセージの書き込みを行い、それらのメッセージの接頭部に、有効な MQDLH を付けていないことが原因である。このメッセージは送達不能キューに残され、送達不能キュー・ハンドラーは送達不能キューの処理を続行する。送達不能キュー・ハンドラーが、このメッセージの前の位置に再配置され、前の走査で処理されなかったメッセージを処理するたびに、送達不能キューは失敗したメッセージを再処理し、このメッセージを再実行します。

### 応答

送達不能キューから無効なメッセージを除去します。有効な MQDLH 接頭部が付いていないメッセージを、送達不能キューに書き込まないでください。有効接頭部 MQDLH が付いていないメッセージの処理が可能な送達不能キュー・ハンドラーが必要な場合は、amqsdlq と呼ばれるサンプル・プログラムを必要に応じて変更しなければなりません。

## AMQ8722

送達不能キュー・ハンドラーがメッセージを書き込めません: 規則 <insert\_1> 理由 <insert\_2>。

## 重大度

10: 警告

### 説明

このメッセージは、送達不能キュー・ハンドラーがメッセージを別のキューに宛先変更するよう要求されたときにそれができない場合に、送達不能キュー・ハンドラーにより作成されます。宛先変更が失敗した理由が送達不能キューにメッセージが書き込まれた理由と同じである場合、新しいエラーは発生せずメッセージは作成されないものと想定されます。メッセージの再試行カウントが増分され、送達不能キュー・ハンドラーは続行します。

### 応答

送達不能キュー・ハンドラーが送達不能キューにメッセージを書き込めない原因を調べます。メッセージに対する処置の決定に使用される規則の行番号は、送達不能キュー・ハンドラーがメッセージを書き込もうとしたキューの識別に使用されます。

## AMQ8723

パブリッシュ/サブスクライブ状況の詳細を表示します。

## 重大度

0: 情報

### 説明

MQSC DISPLAY PUBSUB コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されません。

**AMQ8724**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーのリフレッシュが受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSC REFRESH QMGR コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

**応答**

なし。

**AMQ8729**

現時点でリスナーを停止することはできません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リスナーを停止するように要求されましたが、現時点でリスナーを停止することはできません。リスナーを停止できない理由は、以下のとおりです。

リスナーにアクティブ・チャンネルがあり、使用されている通信プロトコルは LU 6.2、SPX、または NETBIOS である。

リスナーにアクティブ・チャンネルがあり、使用されている通信プロトコルが TCP/IP であり、チャンネルのスレッドがリスナー・プロセス内で実行されるように制限されている。

**応答**

STOP CHANNEL コマンドを使用してチャンネルを終了して、要求を再発行してください。

**AMQ8730**

リスナーはすでにアクティブです。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リスナーを開始するように要求されましたが、リスナーはすでに実行されていて開始することはできません。

**応答**

リスナーを実行させない場合は、STOP LISTENER コマンドを使用してリスナーを停止してから、コマンドを再発行してください。

**AMQ8731**

リスナーがアクティブではありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リスナーを停止するように要求されましたが、リスナーは実行されていません。

**応答**

リスナーが実行中の場合でも、START LISTENER コマンドを使用してリスナーを開始してください。

**AMQ8732**

サービスの停止要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

サービスの停止要求が受け入れられ、処理中です。

**応答**

なし。

**AMQ8733**

サービスの開始要求が受け入れられました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

サービスの開始要求が受け入れられ、処理中です。

**応答**

なし。

**AMQ8734**

コマンドが失敗しました - プログラムを開始できませんでした。

**重大度**

20: エラー

**説明**

アクションの完了のために実行するよう定義されたプログラムを開始できなかったため、要求されたコマンドが失敗しました。

プログラムを開始できなかった理由は以下のとおりです。

プログラムが指定された位置に存在しない。

WebSphere MQ ユーザーに、このプログラムを実行できる十分なアクセス権限がない。

プログラムに STDOUT または STDERR が定義されている場合、IBM WebSphere MQ ユーザーには、指定された場所への十分なアクセス権限がありません。

**応答**

失敗原因の詳細についてキュー・マネージャーのエラー・ログを参照し、コマンドの再発行の前に修正してください。

**AMQ8735**

コマンドが失敗しました - アクセスが否認されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

実行を定義されたプログラムを実行しようとしてアクセスを拒否されたため、要求されたコマンドが失敗しました。

**応答**

オブジェクトの定義を調べて、プログラム・ファイルへのパスが正しいことを確認してください。定義されたパスが正しい場合は、指定された場所にプログラムが存在し、WebSphere MQ ユーザーがプログラムを実行するアクセス権を持つことを確認してください。

**AMQ8737**

サービスがすでにアクティブです。

**重大度**

10: 警告

**説明**

サービスの開始要求が出されましたが、サービスはすでに実行中であり、開始できません。

**応答**

サービスを実行させない場合は、STOP SERVICE コマンドを使用してサービスを停止してから、コマンドを再発行してください。サービスの複数のインスタンスを実行させる場合は、サービス定義を SERVTYPE(COMMAND) に変更して、サービスの複数のインスタンスを同時に実行できるようにすることができます。ただし、タイプ COMMAND のサービスの状況を SVSTAUS コマンドによって入手することはできません。

**AMQ8738**

サービスがアクティブではありません。

**重大度**

10: 警告

#### 説明

サービスの停止要求が出されましたが、サービスは実行中ではありません。

#### 応答

サービスが実行されている必要がある場合は、START SERVICE コマンドを使用してサービスを開始してください。

#### AMQ8739

STOPCMD がブランクのサービスに対しては停止を実行できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

サービスの停止要求が出されましたが、サービスに停止コマンドが定義されていないため、アクションを実行できませんでした。

#### 応答

サービスの定義を調べて、必要な場合はサービスの定義を更新し、STOP が発行されたときに実行するコマンドを指定してください。タイプが 'SERVER' のサービスの場合、STOP の実行時に実行されるコマンドはサービスの開始時に保管されるため、サービス定義に対する変更は、更新に続いてサービスが再始動されるまで有効になりません。

#### AMQ8740

STARTCMD がブランクのサービスに対しては開始を実行できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

サービスの開始要求が出されましたが、サービスに開始コマンドが定義されていないため、アクションを実行できませんでした。

#### 応答

サービスの定義を調べて、必要な場合はサービスの定義を更新し、START が発行されたときに実行するコマンドを指定してください。

#### AMQ8741

キュー・マネージャーに接続できませんでした。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、キュー・マネージャー <insert\_3> に接続できませんでした。このメッセージは通常、要求されたキュー・マネージャーが開始されていないか静止している場合、またはプロセスに十分な権限がない場合に発行されます。エラーを識別するために、完了コード (<insert\_1>) および理由 (<insert\_2>) を使用することができます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8741 (IBM i)

キュー・マネージャーに接続できませんでした。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) がキュー・マネージャー <insert\_3> に接続できませんでした。このメッセージは通常、要求されたキュー・マネージャーが開始されていないか静止している場合、またはプロセスに十分な権限がない場合に発行されます。エラーを識別するために、完了コード (<insert\_1>) および理由 (<insert\_2>) を使用することができます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8742**

キュー・マネージャーをオープンできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) がキュー・マネージャー・オブジェクトを開くことができませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはプロセスが十分な許可を持っていないために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8742 (IBM i)**

キュー・マネージャーをオープンできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) がキュー・マネージャー・オブジェクトを開くことができませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはプロセスが十分な許可を持っていないために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8743**

キュー・マネージャーを照会できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) がキュー・マネージャーを照会できませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはキュー・マネージャーが終了するために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8743 (IBM i)**

キュー・マネージャーを照会できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) がキュー・マネージャーを照会できませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはキュー・マネージャーが終了するために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8744**

キュー・マネージャーをクローズできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) が、キュー・マネージャーをクローズできませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはキュー・マネージャーが終了するために出されま

す。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8744 (IBM i)

キュー・マネージャーをクローズできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) が、キュー・マネージャーをクローズできませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはキュー・マネージャーが終了するために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8745

送達不能キューをブラウズするためにオープンすることができません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) が、ブラウズのために送達不能キュー <insert\_3> をオープンできませんでした。通常このメッセージは、別の処理が排他アクセスするために送達不能キューをオープンしたため、または無効な送達不能キュー名が指定されたために出されます。その他に可能性のある理由としては、リソース不足や不十分な許可が含まれます。エラーを識別するために、完了コード (<insert\_1>) および理由 (<insert\_2>) を使用することができます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8745 (IBM i)

送達不能キューをブラウズするためにオープンすることができません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、ブラウズのために送達不能キュー <insert\_3> をオープンできませんでした。通常このメッセージは、別の処理が排他アクセスするために送達不能キューをオープンしたため、または無効な送達不能キュー名が指定されたために出されます。その他に可能性のある理由としては、リソース不足や不十分な許可が含まれます。エラーを識別するために、完了コード (<insert\_1>) および理由 (<insert\_2>) を使用することができます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8746

送達不能キューをクローズできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) が、送達不能キューをクローズできませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはキュー・マネージャーが終了するために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8746 (IBM i)**

送達不能キューをクローズできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) が、送達不能キューをクローズできませんでした。通常このメッセージは、リソース不足のため、またはキュー・マネージャーが終了するために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8747**

整数パラメーターが暗黙的値の範囲外です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能ハンドラーに指定された整数パラメーター (<insert\_2>) が、行 <insert\_1> の <insert\_3> の有効範囲外でした。

**応答**

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

**AMQ8748**

送達不能キューからメッセージを取得できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、送達不能キューから次のメッセージを取得できませんでした。通常このメッセージは、キュー・マネージャーの終了やリソースの問題のため、または別の処理が送達不能キューを削除したために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8748 (IBM i)**

送達不能キューからメッセージを取得できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、送達不能キューから次のメッセージを取得できませんでした。通常このメッセージは、キュー・マネージャーの終了やリソースの問題のため、または別の処理が送達不能キューを削除したために出されます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

**AMQ8749**

送達不能キューでアクションをコミット/バックアウトできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、送達不能キューで更新のコミットまたはバックアウトできませんでした。通常このメッセージは、キュー・マネージャーの終了、またはリソース不足のために出されます。キュー・マネージャーが終了している場合、送達不能キューへの更新 (および関連す

る更新)はキュー・マネージャーが再始動するときにバックアウトされます。リソースに問題がある場合は、送達不能キュー・ハンドラーが終了すると更新がバックアウトされます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8749 (IBM i)

送達不能キューでアクションをコミット/バックアウトできません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、送達不能キューで更新のコミットまたはバックアウトをできませんでした。通常このメッセージは、キュー・マネージャーの終了、またはリソース不足のために出されます。キュー・マネージャーが終了している場合、送達不能キューへの更新(および関連する更新)はキュー・マネージャーが再始動するときにバックアウトされます。リソースに問題がある場合は、送達不能キュー・ハンドラーが終了すると更新がバックアウトされます。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

完了コードおよび理由コードに基づいて、適切な処置を行ってください。

#### AMQ8750

runmqdlq に指定した入力が無効ではありません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

runmqdlq に入力提供されなかったか、または runmqdlq への入力に無効なメッセージ・テンプレートが含まれていたかのいずれかです。runmqdlq に入力提供されてもそれが無効であった場合、エラーの原因を説明するメッセージが既に作成されています。送達不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

#### AMQ8750 (IBM i)

STRMQMDLQ に指定した入力が無効ではありません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

STRMQMDLQ に何も入力されなかったか、STRMQMDLQ の入力に間違ったメッセージ・テンプレートが含まれていました。STRMQMDLQ に入力はされたが、それが間違った値であった場合、そのエラーの原因を説明するメッセージが最初に出ます。送達不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

#### AMQ8751

専用記憶域を入手できません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、専用ストレージを取得できませんでした。この問題は、通常、何らかのさらにグローバルな問題の結果として発生します。例えば、メッセージが DLQ に書き込まれる原因となる問題が持続していて、その同じ問題(キューが満杯など)のために送達不能キュー・ハンドラーがメッセージに対して要求されたアクションを取れない場合、または、送達不能キューに多数のメッセージが含まれていてルール・テーブルがそれらのメッセージを無視するように送達不能キュー・ハンドラーに指示している場合、送達不能キュー・ハンドラーは各メッセージに付随する再試行回数を記憶するために大量の状況データを維持することが必要になります。

## 応答

何らかのさらにグローバルな問題が存在しているか、および送達不能キューに多数のメッセージが含まれているかどうかを調査してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ](#)または [IBM SupportAssistant の Web ページ](#)の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ8751 (IBM i)

専用記憶域を入手できません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、専用ストレージを取得できませんでした。この問題は、通常、何らかのさらにグローバルな問題の結果として発生します。例えば、メッセージが DLQ に書き込まれる原因となる問題が持続していて、その同じ問題 (キューが満杯など) のために送達不能キュー・ハンドラーがメッセージに対して要求されたアクションを取れない場合、または、送達不能キューに多数のメッセージが含まれていてルール・テーブルがそれらのメッセージを無視するよう送達不能キュー・ハンドラーに指示している場合、送達不能キュー・ハンドラーは各メッセージに付随する再試行回数を記憶するために大量の状況データを維持することが必要になります。

## 応答

何らかのさらにグローバルな問題が存在しているか、および送達不能キューに多数のメッセージが含まれているかどうかを調査してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ](#)または [IBM SupportAssistant の Web ページ](#)の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ8752

パラメーター (<insert\_3>) が、行 <insert\_1>の最大長を超えています。

## 重大度

20: エラー

## 説明

送達不能ハンドラーに入力されたパラメーターは、そのタイプのパラメーターの最大長を超えました。

## 応答

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

### AMQ8753

行 <insert\_1>で重複したパラメーター (<insert\_3>) が見つかりました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

送達不能キュー・ハンドラーの 1 つの入力行に対し、同じタイプの複数のパラメーターが提供されました。

## 応答

入力を修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

### AMQ8754

トピック状況の詳細を表示します。

## 重大度

0: 情報

## 説明

MQSC DISPLAY TPSTATUS コマンドが正常に完了しました。このメッセージの後に詳細が表示されます。

### AMQ8755

IBM WebSphere MQ トピック・ストリングは、正常に消去されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

トピック・ストリングのすべてのメッセージが削除されました。

**AMQ8756**

専用記憶域を解放中にエラーを検出しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

専用ストレージを解放しようとして、エラーが送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) に出されました。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

このメッセージの前には、エラーを検出した内部ルーチンからのメッセージまたは FFST 情報が出されるはずですが、前述のエラー情報に関連する処置を行ってください。

**AMQ8756 (IBM i)**

専用記憶域を解放中にエラーを検出しました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

専用ストレージの領域を解放しようとしたときに、エラーが送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) に通知されました。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

このメッセージの前には、エラーを検出した内部ルーチンからのメッセージまたは FFST 情報が出されるはずですが、前述のエラー情報に関連する処置を行ってください。

**AMQ8757**

整数パラメーター (<insert\_3>) が、行 <insert\_1> の許容範囲外です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラーに入力として提供された整数は、送達不能キュー・ハンドラーのサポートする有効な整数の範囲外でした。

**応答**

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

**AMQ8758**

<insert\_1> 個のエラーが runmqdlq への入力で検出されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) の入力でエラーが検出されました。エラー・メッセージはこれらのエラーごとに作成されました。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

**AMQ8758 (IBM i)**

<insert\_1> 個のエラーが STRMQMDLQ への入力で検出されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) の入力でエラーが検出されました。エラー・メッセージはこれらのエラーごとに作成されました。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

**AMQ8759**

<insert\_1>行目の送達不能キュー・ハンドラーに対するパラメーターの組み合わせが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

無効な組み合わせの入力パラメーターが送達不能キュー・ハンドラーに提供されました。可能性のある原因としては、ACTION が指定されていない、ACTION(FWD) は指定されているが FWDQ が指定されていない、ACTION(FWD) を指定せずに HEADER(YES|NO) を指定した、などがあります。

**応答**

入力データを修正し、送達不能キュー・ハンドラーを再始動してください。

**AMQ8760**

プロセスの初期化中に予期しない障害が発生しました: 理由 = <insert\_1>。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、MQ サービスの使用に必要な基本的な初期化を実行できませんでした。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ8760 (IBM i)**

プロセスの初期化中に予期しない障害が発生しました: 理由 = <insert\_1>。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、MQ サービスの使用に必要な基本的な初期化を実行できませんでした。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ8761**

キュー・マネージャーへの接続中に予期しない障害が発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、要求されたキュー・マネージャーに接続できませんでした。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ8761 (IBM i)

キュー・マネージャーへの接続中に予期しない障害が発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、要求されたキュー・マネージャーへ接続できませんでした。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ8762

キュー・マネージャーを開こうとしたときに予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、キュー・マネージャーを開くことができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ8762 (IBM i)

キュー・マネージャーを開こうとしたときに予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、キュー・マネージャーを開くことができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ (<https://www.ibm.com/support/home/product/>)

P439881V74305Y86/IBM\_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### AMQ8763

キュー・マネージャーの照会中に予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、キュー・マネージャーに照会できませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送達不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### AMQ8763 (IBM i)

キュー・マネージャーの照会中に予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、キュー・マネージャーの照会ができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送達不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### AMQ8764

キュー・マネージャーをクローズしようとしたときに予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、キュー・マネージャーを閉じることができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、

ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ8764 (IBM i)**

キュー・マネージャーをクローズしようとしたときに予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### **重大度**

30: 重大エラー

#### **説明**

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、キュー・マネージャーをクローズできませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ8765**

ブラウズのために送達不能キューをオープン中に予期しない障害が発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### **重大度**

30: 重大エラー

#### **説明**

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、参照のために送達不能キューを開くことができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ8765 (IBM i)**

ブラウズのために送達不能キューをオープン中に予期しない障害が発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### **重大度**

30: 重大エラー

#### **説明**

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、ブラウズするために送達不能キューを開くことができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場

合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ8766**

送達不能キューのクローズ中に予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### **重大度**

30: 重大エラー

#### **説明**

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、送達不能キューを閉じることができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ8766 (IBM i)**

送達不能キューのクローズ中に予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### **重大度**

30: 重大エラー

#### **説明**

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、送達不能キューをクローズできませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ8767**

送達不能キューからメッセージを取得中に予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### **重大度**

30: 重大エラー

#### **説明**

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、送達不能キューから次のメッセージを取得できませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### **応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8767 (IBM i)

送達不能キューからメッセージを取得中に予期しないエラーが発生しました: CompCode = <insert\_1>  
理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、送達不能キューから次のメッセージを受け取ることができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8768

送達不能キューでのアクションのコミット/バックアウト中に予期しないエラーが発生しました:  
CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、送達不能キューの更新をコミットまたはバックアウトできませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8768 (IBM i)

送達不能キューでのアクションのコミット/バックアウト中に予期しないエラーが発生しました:  
CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

予期しないエラーのため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、送達不能キューの更新のコミットまたはバックアウトの処理ができませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

#### 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8769

キュー・マネージャーから切断できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

予期しないエラーにより、送達不能キュー・ハンドラー (runmqdlq) は、キュー・マネージャーから切断できませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ8769 (IBM i)

キュー・マネージャーから切断できません: CompCode = <insert\_1> 理由 = <insert\_2>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

予期せぬエラーが発生したため、送達不能キュー・ハンドラー (STRMQMDLQ) は、キュー・マネージャーから切断できませんでした。エラーを識別するために、完了コードおよび理由を使用できます。送信不能キュー・ハンドラーは終了します。

## 応答

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録、生成出力ファイルの保管を行ってください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ8770 (IBM)

コマンド <insert\_5> の <insert\_3> をオープンできません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

<insert\_5> コマンドは、IBM WebSphere MQ 処理のための <insert\_3> のオープンに失敗しました。

## 応答

目的のファイルまたはメンバーが存在するか、また正しく指定されたかを確認してください。指定を訂正するか、またはオブジェクトを作成して、操作を再試行してください。

## AMQ8771 (DEC)

OpenVMS Cluster Failover Set Configuration and State.

## 重大度

0: 情報

## AMQ8772 (DEC)

キュー・マネージャー名: <insert\_3> シーケンス番号: <insert\_1>

## 重大度

0: 情報

## AMQ8773 (DEC)

TCP/IP アドレス: <insert\_3> リスナー・ポート番号: <insert\_4>

## 重大度

0: 情報

**AMQ8774 (DEC)**

Queue Manager state in failover set: STARTED

重大度

0: 情報

**AMQ8775 (DEC)**

Queue Manager state in failover set: STOPPED

重大度

0: 情報

**AMQ8776 (DEC)**

Node specific configuration and state

重大度

0: 情報

**AMQ8777 (DEC)**

ノード名: <insert\_3> 優先順位: <insert\_1> TCP/IP インターフェース: <insert\_4>

重大度

0: 情報

**AMQ8778 (DEC)**

Queue Manager state : RUNNING

重大度

0: 情報

**AMQ8779 (DEC)**

Queue Manager state : AVAILABLE

重大度

0: 情報

**AMQ8780 (DEC)**

Queue Manager state : EXCLUDED

重大度

0: 情報

**AMQ8781 (DEC)**

Failover Monitor state: STARTED

重大度

0: 情報

**AMQ8782 (DEC)**

Failover Monitor state: STOPPED

重大度

0: 情報

**AMQ8783 (DEC)**

Failover Monitor state: WATCHING

重大度

0: 情報

**AMQ8784 (DEC)**

ノード <insert\_3> がフェイルオーバー・セット構成ファイルにありません。

重大度

20: エラー

**AMQ8785 (DEC)**

キュー・マネージャーのフェイルオーバー・モニターが開始されていません: <insert\_3>

重大度

20: エラー

**AMQ8786 (DEC)**

Failover set update operation in progress

**重大度**

10: 警告

**AMQ8787 (DEC)**

Usage:

Start the queue manager in the failover set

failover -m <キュー・マネージャ> [-n <node name>] -s

End the queue manager in the failover set

failover -m <キュー・マネージャ> -e

Failover the running queue manager to another node

failover -m <キュー・マネージャ> [-n <node name>] -f

Stop a failover monitor on a node

failover -m <キュー・マネージャ> -n <ノード名> -h

Query the state of the queue manager

failover -m <キュー・マネージャ> -q

Set the symbols MQS\$QMGR\_NODE, MQS\$AVAILABLE\_NODES and MQS\$MONITOR\_NODES

failover -m <キュー・マネージャ> -l

Change the state of the failover set

failover -m <キュー・マネージャ> -c -cluster stopped|started

Change the state of the queue manager on a node

failover -m <queue manager> -n <node name> -c -qmgr available|running|excluded

Change the state of the monitor on a node

failover -m <queue manager> -n <node name> -c -monitor stopped|started|watcher

Clear the update in progress flag

failover -m <キュー・マネージャ> -u

**重大度**

0: 情報

**AMQ8788 (DEC)**

使用法: failover\_monitor -m <queue manager> [-d]

**重大度**

0: 情報

**AMQ8789 (DEC)**

Error opening failover initialisation file FAILOVER.INI

**重大度**

20: エラー

**AMQ8790 (DEC)**

Error in the format of the initialisation file FAILOVER.INI

**重大度**

20: エラー

**AMQ8791 (DEC)**

No node available on which to start the queue manager

**重大度**

20: エラー

**AMQ8792 (DEC)**

Operation not allowed; Use a Failover command

**重大度**

20: エラー

**AMQ8793 (DEC)**

The ending of the queue manager was forced

**重大度**

10: 警告

**AMQ8794 (DEC)**

The ending of the queue manager timed out before completion

**重大度**

20: エラー

**AMQ8795 (DEC)**

キュー・マネージャー終了タイムアウト: <insert\_1>

**重大度**

0: 情報

**AMQ8796 (DEC)**

ノードで既に実行中のフェイルオーバー・モニターがあります: <insert\_3>

**重大度**

20: エラー

**AMQ8797 (Tandem)**

キュー・ファイルを <insert\_3>に移動できません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSeries altmqfls ユーティリティーは、指定されたキュー・ファイルをボリューム <insert\_3>に移動できません。

**応答**

dspsmqfls ユーティリティーを使用して、キュー・ファイルがまだボリューム <insert\_3> 上にないことを確認します。ボリューム <insert\_3> に、このキュー・マネージャーまたはこのキュー・マネージャーが使用するサブボリュームと同じサブボリューム内の他のキュー・マネージャーのキュー・ファイルがまだ含まれていないことを確認してください。

**AMQ8798 (Tandem)**

キュー・ファイルが <insert\_3>に移動されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

MQSeries altmqfls ユーティリティーは、指定されたキュー・ファイルをボリューム <insert\_3>に正常に移動しました。

**応答**

なし。

**AMQ8801 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss <insert\_3> は初期化中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が始動シーケンスを開始しています。EC Boss のプロセス名は <insert\_3>です。

**AMQ8802 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss <insert\_3> の初期化が完了しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss がプロセス始動アクションを完了しました。EC Boss のプロセス名は <insert\_3> です。

**AMQ8803 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss <insert\_3> 制御されたシャットダウンが開始されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が、制御されたシャットダウン状態に入りました。キュー・マネージャーは新しい作業を受け入れません。進行中の操作が完了すると、接続は終了します。接続がなくなった時点でキュー・マネージャーは終了します。

**AMQ8804 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss <insert\_3> の静止シャットダウンが開始されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が静止シャットダウン状態に入りました。キュー・マネージャーは新しい作業を受け入れませんが、既存の接続が終了する前に完了することを許可します。

**AMQ8805 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss <insert\_3> の即時シャットダウンが開始されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が即時シャットダウン状態に入りました。現行接続は強制終了し、キュー・マネージャーは直ちに終了します。

**AMQ8806 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC/EC Boss <insert\_3> がファイル <insert\_5> にアクセスできない

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC、または EC Boss (プロセス名 <insert\_3>) が、<insert\_5> という名前のファイルにアクセスできませんでした。このファイルはキュー・マネージャーの操作に不可欠であり、問題が修正されるまでキュー・マネージャーは正常に開始しません。

**応答**

キュー・マネージャーを終了し、<insert\_5> という名前のファイルの存在またはファイル属性を確認してください。ファイルが存在すること、および適切なファイル・セキュリティとタイプ属性があることを確認し、問題を修正してキュー・マネージャーを再始動してください。

**AMQ8807 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC/EC Boss <insert\_3> がファイル <insert\_5> でファイル・エラー <insert\_1> を取得しました

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

ファイル <insert\_5> に対して入出力操作を試みているときに、キュー・マネージャー <insert\_4> の EC または EC Boss (プロセス名 <insert\_3>) がタンデム・ファイル・エラー <insert\_1> を取得しました。

入出力操作の正常終了は、キュー・マネージャーの正しい操作にとって重要な場合があります、問題が修正されるまでキュー・マネージャーが正しく動作しない場合があります。

#### 応答

キュー・マネージャーを終了し、`<insert_5>`という名前のファイルのファイル属性を確認してください。ファイルに適切なファイル・セキュリティおよびタイプ属性があることを確認し、問題を訂正して、キュー・マネージャーを再始動してください。

#### AMQ8808 (Tandem)

誤ったキュー・マネージャー名`<insert_4>`がプロセスに提供されました。`<insert_4>`

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー・プロセス(プロセス名`<insert_3>`)に、無効または存在しないキュー・マネージャー名`<insert_4>`が指定されました。その結果、プロセスの初期化が失敗しました。

#### 応答

キュー・マネージャーを終了し、構成データベースで使用されているキュー・マネージャー名を確認します。問題を解決した後、キュー・マネージャーを再始動してください。

#### AMQ8809 (Tandem)

キュー・マネージャー`<insert_4>`が開始しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

EC Boss は、`<insert_4>`という名前のキュー・マネージャーが「開始済み」状態になったことを報告しました。

#### AMQ8810 (Tandem)

キュー・マネージャー`<insert_4>`の EC 番号`<insert_1>`、プロセス名`<insert_3>`が初期化中です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

`<insert_4>`という名前のキュー・マネージャー内の EC が開始し、プロセスの初期化を実行しています。

#### AMQ8811 (Tandem)

キュー・マネージャー`<insert_4>`の EC 番号`<insert_1>`、プロセス名`<insert_3>`が初期化を完了しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

`<insert_4>`という名前のキュー・マネージャー内の EC がプロセスの初期化を完了しました。

#### AMQ8812 (Tandem)

キュー・マネージャー`<insert_4>`の EC 番号`<insert_1>`、プロセス名`<insert_3>`が制御されたシャットダウンを開始しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

`<insert_4>`という名前のキュー・マネージャー内の EC が、制御されたシャットダウンが開始されたことを報告しました。EC は現在実行中のすべてのエージェントが終了するのを待ってから、最終シャットダウン・アクションを実行します。

#### AMQ8813 (Tandem)

キュー・マネージャー`<insert_4>`の EC 番号`<insert_1>`、プロセス名`<insert_3>`が静止シャットダウンを開始しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> という名前のキュー・マネージャーの EC が、静止シャットダウンが開始されたことを報告しました。EC は現在実行中のすべてのエージェントが終了するのを待ってから、最終シャットダウン・アクションを実行します。

### AMQ8814 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1>、プロセス名 <insert\_3> が即時シャットダウンを開始しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> という名前のキュー・マネージャーの EC が、即時シャットダウンが開始されたことを報告しました。EC は、現在実行中のエージェントが終了するのを待たずに直ちに終了します。

### AMQ8815 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1>、プロセス名 <insert\_3> がシャットダウンしました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> という名前のキュー・マネージャーの EC が、シャットダウン・アクションを完了したことを報告しました。キュー・マネージャー内のすべての EC がシャットダウン・アクションを完了した時点で、キュー・マネージャーは終了します。

### AMQ8816 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> が開始しましたが、登録されているのは <insert\_2> EC の <insert\_1> のみです。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> という名前のキュー・マネージャーが開始状態になり、接続を受け入れるようになります。ただし、EC Boss に登録されているのは、予期される <insert\_2> EC の <insert\_1> のみです。キュー・マネージャーのロード・balancing と全体パフォーマンスは不利な影響を受けますが、キュー・マネージャーが接続にサービスを提供することは可能です。

## 応答

ログを調べて、欠落 EC を開始できなかった原因を判別します。キュー・マネージャーを終了し、可能であれば問題を修正してください。キュー・マネージャーを再始動し、キュー・マネージャーが正しく開始されることを確認します。

### AMQ8817 (Tandem)

リソースの問題が原因で、キュー・マネージャー <insert\_4> のプロセス <insert\_3> が要求を処理できません。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

<insert\_3> という名前のプロセスは、メモリーやディスク・スペースなどのリソースの割り振りに失敗したため、別のプロセスからの要求を処理できませんでした。リソース自体の重要度によっては、これがさらにエラーを引き起こしたり、キュー・マネージャーの特定のコンポーネントの障害につながる場合があります。

## 応答

ログを調べて障害の原因を判別します。訂正可能なリソースの問題があれば訂正し、操作を再試行してください。

### AMQ8818 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が、プロセス <insert\_3> からの登録を拒否しました。

## 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

<insert\_3> という名前のプロセスが EC Boss に登録しようとした。EC Boss は登録情報に問題を検出したため、その試行を拒否しました。

#### 応答

ログを調べて問題の詳細情報を確認してください。プロセスの ID を判別し、プロセスが EC であるかどうかを確認します。プロセスが EC でない場合、またはプロセスを識別できない場合は、セキュリティーの脅威が存在する可能性があります。

#### AMQ8819 (Tandem)

EC 番号 <insert\_1> がキュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss に登録されました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

EC 番号 <insert\_1> が EC Boss に登録されました。キュー・マネージャー内の予期されるすべての EC が登録されると、キュー・マネージャーは開始済み状態になります。

#### AMQ8820 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> のプロセス <insert\_3> が、プロセス <insert\_5> から不明なメッセージを受け取りましたが、リジェクトされました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

プロセス <insert\_3> が、正しい形式でないか、または不明なソースからのメッセージを受信し、リジェクトしました。

#### 応答

ログを分析して詳細情報があるかどうかを調べます。プロセスを識別してセキュリティーの脅威が存在しないことを確認するようにしてください。

#### AMQ8821 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が、EC 番号 <insert\_1> の障害を検出しました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

EC Boss は、EC 番号 <insert\_1> が予期せずに終了したことを検出しました。この EC に対して実行される再始動の最大回数をまだ超えていなければ、PATHWAY はこの EC の再始動を試みます。

#### 応答

ログを分析して詳細情報があるかどうかを調べます。

#### AMQ8822

応答が無効です。再入力してください (y または n):

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

なし。

#### AMQ8823 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> のプロセス <insert\_3> が、不明なソース <insert\_5> からメッセージを受信し、リジェクトしました。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_4> のプロセスが、キュー・マネージャーとの通信が許可されていないか、または登録されていないソースからメッセージを受け取りました。このプロセスは、<insert\_5> によって識別されます。メッセージを受信したプロセスは、<insert\_3> によって識別されます。

## 応答

ログを分析して、メッセージ送信元の ID に関して詳細情報があるかどうかを調べます。送信者の ID を判別し、セキュリティの脅威が存在しないことを確認するようにしてください。

### AMQ8824 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が、エージェント・プロセス <insert\_3> のコンテキスト・データに矛盾を検出しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC Boss は、エージェント <insert\_3> に関して以前に保持していた情報が新しい情報と整合していないことを検出しました。

## 応答

ログを調べて、プロセス <insert\_3> に関する詳細情報があるかどうかを確認してください。

### AMQ8825 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が EC Boss の障害を検出しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC は、キュー・マネージャーの EC Boss に障害が起こったことを検出しました。EC Boss の再始動最大回数を超えていなければ、PATHWAY は EC Boss の再始動を試みます。

## 応答

ログを分析して、EC Boss の障害に関して詳細情報があるかどうかを調べます。問題が再発する場合は、キュー・マネージャーを終了し、問題を解決してから再始動してください。問題を構成の問題と特定できない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 <https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/> IBM MQ、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8826 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、 <insert\_5> エージェント・サービス <insert\_3> の障害を検出しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC は、 <insert\_3> の <insert\_5> エージェント・プロセスが失敗しました。エージェント・プロセスの再始動最大回数をまだ超えていなければ、EC は必要時にこのエージェント・プロセスの再始動を試みます。

## 応答

ログを分析して、エージェント・プロセスの障害に関して詳細情報があるかどうかを調べます。問題が再発する場合は、キュー・マネージャーを終了し、問題を解決してから再始動してください。問題を構成の問題と特定できない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8827 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が EC Boss との通信に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC は EC Boss との通信を試みましたが、失敗しました。通信できなかったことに関して、EC は EC Boss の障害と認識しています。

## 応答

ログを分析して、EC Boss と通信できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。問題が再発する場合は、キュー・マネージャーを終了し、問題を解決してから再始動してください。問題を構成の問題と特定できない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8828 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、 <insert\_5> エージェント・プロセス <insert\_3> との通信に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC はエージェント・プロセスとの通信を試みましたが、失敗しました。通信できなかったことに関して、EC はエージェントの障害と認識しています。各種要因によっては、EC はこのエージェントの再始動を試みる場合があります。

## 応答

ログを分析して、エージェントと通信できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。問題が再発する場合は、キュー・マネージャーを終了し、問題を解決してから再始動してください。問題を構成の問題と特定できない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8829 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が <insert\_5> エージェントの開始に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC はエージェント・プロセスを作成しようとしたのですが、失敗しました。エージェント再始動の最大回数をまだ超えていなければ、EC はこのエージェント・プロセスの再始動を試みます。

## 応答

ログを分析して、エージェントを開始できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。問題が再発する場合は、キュー・マネージャーを終了し、問題を解決してから再始動してください。問題を構成の問題と特定できない場合は、システム提供の標準機能を使用して、問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保管してください。ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認するには、 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかを使用します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ8830 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、チャンネル <insert\_5> のチャンネル停止要求の処理に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ECはチャンネル停止要求を処理しようとしたのですが、失敗しました。この障害は、EC Boss を通じて元のリクエスターに伝えられます。

## 応答

ログを分析して、チャンネル停止要求にサービスを提供できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。チャンネル停止要求の発信元には、この障害がその理由と共に通知されます。

### AMQ8831 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、エージェント・プロセス <insert\_3> からのエージェント「完了」要求の処理に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ECはエージェント「完了」要求を処理しようとしたのですが、失敗しました。エージェントの「完了」要求は、エージェント・プロセス <insert\_3> がその作業を完了し、終了するかアイドル状態にするかをECに尋ねていることを示します。何らかの理由で、ECはこの要求を処理できませんでした。ECはエージェント・プロセスを強制終了します。

## 応答

ログを分析して、エージェント「完了」要求にサービスを提供できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

### AMQ8832 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、アイドル状態の <insert\_5> エージェント・プロセス <insert\_3> を作成しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ECがアイドル・エージェントを正常に作成しました。

### AMQ8833 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、<insert\_5> エージェント・プロセス <insert\_3> の活動化に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ECは、接続またはチャンネル開始要求の処理を行うためのアイドル・エージェントの活動化ができませんでした。ECはその要求を満たすことができませんでした。ECは、要求の発信元に障害の完了コードおよび理由コードを返します。

## 応答

ログを分析して、エージェントを活動化できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

### AMQ8834 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> 内の EC 番号 <insert\_1> は、<insert\_5> エージェント・プロセス <insert\_3> の非活動化に失敗しました。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

ECは、エージェントが接続またはチャンネルの処理を完了したことを示した後で、アクティブ・エージェントを非活動化できませんでした。

## 応答

ログを分析して、エージェントを非活動化できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

**AMQ8835 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> 破棄されたアイドル <insert\_5> エージェント・プロセス <insert\_3> の EC 番号 <insert\_1>。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

EC は、アイドル・エージェント・プロセスを正常に破棄しました。通常、EC はこの操作をアイドル・エージェントのプールを管理する結果として実行します。特定 (構成可能) 回数を超えて使用されたエージェントは破棄され、その代わりに新しいエージェントが作成されます。

**AMQ8836 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、アイドル状態の <insert\_5> エージェント・プロセス <insert\_3> の破棄に失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

EC は、アイドル・エージェント・プロセスを破棄できませんでした。通常、EC はこの操作をアイドル・エージェントのプールを管理する結果として実行します。特定 (構成可能) 回数を超えて使用されたエージェントは破棄され、その代わりに新しいエージェントが作成されます。

**応答**

ログを分析して、エージェントを破棄できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

**AMQ8837 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、アイドル状態の <insert\_5> エージェントの作成に失敗しました。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

EC は、アイドル状態の <insert\_5> エージェント・プロセスの作成に失敗しました。通常、EC はこの操作をアイドル・エージェントのプールを管理する結果として実行します。特定 (構成可能) 回数を超えて使用されたエージェントは破棄され、その代わりに新しいエージェントが作成されます。

**応答**

ログを分析して、エージェントを作成できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

**AMQ8838 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、アイドル状態の <insert\_5> エージェントの作成を開始しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

EC は、アイドル状態の <insert\_5> エージェント・プロセスの作成を正常に開始しました。通常、EC はこの操作をアイドル・エージェントのプールを管理する結果として実行します。特定 (構成可能) 回数を超えて使用されたエージェントは破棄され、その代わりに新しいエージェントが作成されます。

**AMQ8839 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、チャンネル <insert\_5> に対する <insert\_3> 要求を完了できませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

EC は、<insert\_3> 要求の処理を完了できませんでした。要求の発信元に完了状況および理由コードが渡されます。

**応答**

ログを分析して、要求の処理を完了できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

**AMQ8840 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC 番号 <insert\_1> が、エージェント・プロセス <insert\_3> のエージェント状況要求を完了できませんでした。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

EC は、エージェント状況要求の処理を完了できませんでした。EC Boss または EC が、エージェントに関するコンテキスト情報で矛盾を検出しました。

**応答**

ログを分析して、要求の処理を完了できなかったことに関して詳細情報があるかどうかを調べます。

**AMQ8841 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC プロセス <insert\_3> は、EC Boss の初期化を待機しています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

EC は、EC Boss がキュー・マネージャーの RUNTIME ファイル内の項目を初期化および作成するのを待機しています。

**AMQ8842 (Tandem)**

Error attempting to create queue manager.

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MQ 検査要求 omvStartChildProcess が失敗しました。

**応答**

なし。

**AMQ8843 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_3> が正常に作成されました。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8844 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_3> が既に作成されています。

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ8845 (Tandem)**

An MQSeries NonStop Server has restarted its backup process

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

MQSeries NonStop サーバー・プロセス <insert\_3> がバックアップ・プロセスの障害を検出し、CPU <insert\_1> で新しいバックアップを再開しました。

**応答**

標準オペレーティング・システム機能を使用して NonStop Server のバックアップが失敗した原因を診断し、修正を試行してください。MQSeries は中断なしに続行します。

**AMQ8846 (Tandem)**

MQSeries NonStop Server takeover initiated

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

MQSeries NonStop サーバーのバックアップ・プロセス <insert\_3> が、その 1 次プロセスの障害を検出し、新しいバックアップを引き継いで開始中です。新しい NonStop サーバーの 1 次プロセスが CPU <insert\_1> で実行されています。

## 応答

標準オペレーティング・システム機能を使用して 1 次 NonStop Server の失敗の原因を診断し、修正を試行してください。MQSeries は中断なしに続行します。

### AMQ8847 (Tandem)

キュー・マネージャー <insert\_4> の EC Boss が、要求を処理する EC を検出できませんでした。

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

EC Boss は、アプリケーションによって (接続を開始するために) または管理コマンドによって (例えば、チャンネルを開始または停止するために) 出された要求を処理するアクティブな EC を検出することができませんでした。キュー・マネージャー内のすべての EC が繰り返し失敗して、PATHWAY によって許可される再開の最大回数を越えた可能性があります。

## 応答

ログを分析して、キュー・マネージャーの状態に関して詳細情報があるかどうかを調べます。キュー・マネージャーを終了して再始動する必要があります。

### AMQ8850 (Tandem)

Warning: MQSeries Licence Exception Detected MQSeries has detected that this environment exceeds the authorized licence registration. Please review your licence registration by running the installation program INSTMQM with the -l option and if necessary, obtain the required extra use-authorization from your program provider to avoid being in breach of your MQSeries licence agreement.

## 重大度

0: 情報

## 説明

なし。

## 応答

なし。

### AMQ8851 (Tandem)

MQSeries CleanRDF utility has detected an error

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

CleanRDF (キュー・マネージャー <insert\_5>) が、rdfpurge ファイル <insert\_3> で (n) <insert\_4> エラーを検出しました。ファイル・システムがエラー・コード <insert\_1> を戻しました。

## 応答

標準オペレーティング・システム機能を使用してこのファイルの状態を検査し、エラーが一時的なものと判断される場合はユーティリティを再起動してください。

### AMQ8852 (Tandem)

MQSeries CleanRDF utility has detected an error

## 重大度

40: 停止エラー

## 説明

CleanRDF (キュー・マネージャー <insert\_5>) が、バックアップ・システム <insert\_4> にアクセスできないことを検出しました。ファイル・システムがエラー・コード <insert\_1> を戻しました。

**応答**

エラーが一時的なものと判断される場合は、システム管理者に連絡してユーティリティを再起動してください。

**AMQ8853 (Tandem)**

MQSeries CleanRDF utility has detected an error

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CleanRDF (キュー・マネージャー <insert\_5>) が TM/MP <insert\_4> エラーを検出しました。システムは、エラー・コード <insert\_1> を戻しました。

**応答**

エラーが一時的なものと判断される場合は、システム管理者に連絡してユーティリティを再起動してください。

**AMQ8854 (Tandem)**

MQSeries CleanRDF utility has detected an error

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CleanRDF (キュー・マネージャー <insert\_5>) がファイル <insert\_3> で (n) <insert\_4> エラーを検出しました。システムは、エラー・コード <insert\_1> を戻しました。

**応答**

ユーティリティを再起動する前に、この名前のファイルが 1 次システムとバックアップ・システムの両方で同じボリュームおよびサブボリューム (必要な場合は作成してください。形式は無関係です。) に存在することを確認します。

**AMQ8855 (Tandem)**

MQSeries CleanRDF utility has detected an error

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CleanRDF (キュー・マネージャー <insert\_5>) が、FUP プロセス <insert\_3> について (n) <insert\_4> エラーを検出しました。システムは、エラー・コード <insert\_1> を戻しました。

**応答**

標準オペレーティング・システム機能を使用して、MQRDFUPPROGNAME および MQRDFUPPROCESSNAME 環境パラメータを確認します。エラーが一時的なものと判断される場合は、ユーティリティを再起動してください。

**AMQ8856 (Tandem)**

MQSeries CleanRDF utility has detected an error

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

CleanRDF (キュー・マネージャー <insert\_5>) が、ファイル <insert\_3> をバックアップ・システム <insert\_4> に複製しようとして、エラーを検出しました。システムは、エラー・コード <insert\_1> を戻しました。

**応答**

標準オペレーティング・システム機能を使用して、1 次システムおよびバックアップ・システムでのこのファイルの状態を確認します。エラーが一時的なものと判断される場合は、ユーティリティを再起動してください。

**AMQ8857 (Tandem)**

MQSeries CleanRDF utility STATISTICS Message

**重大度**

40: 停止エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> の CleanRDF が操作を完了しました。 <insert\_1> 個のファイルが削除されました。 <insert\_2> 個のファイルがスキップされました。 <insert\_3> 個の静的ファイルがバックアップ・システム <insert\_4> に複製されました。

#### AMQ8871

エンティティ、プリンシパル、またはグループが不明です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

許可エンティティ (プリンシパルまたはグループのどちらか) が見つかりません。

#### AMQ8874 (Tandem)

Placeholder for new message

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

これは、新しいメッセージ用のプレースホルダーです。

#### AMQ8875 (Tandem)

Placeholder for new message

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

これは、新しいメッセージ用のプレースホルダーです。

#### AMQ8876 (Tandem)

Placeholder for new message

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

これは、新しいメッセージ用のプレースホルダーです。

#### AMQ8877

WebSphere MQ チャンネル認証レコードが設定されています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

WebSphere MQ チャンネル認証レコードが設定されています。

#### AMQ8878

チャンネル認証レコードの詳細を表示します。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

チャンネル認証の表示コマンドが正常に完了しました。 このメッセージの後に詳細が表示されます。

#### AMQ8879

チャンネル認証レコード・タイプが無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

コマンドに指定されたタイプ・パラメーターが無効です。

#### 応答

有効なタイプを指定してください。「WebSphere MQ MQSC リファレンス」を参照して、このコマンドで許容されるパラメーターの組み合わせを判別してください。

**AMQ8880**

チャンネル認証レコード・アクションが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドに指定されたアクション・パラメーターが無効です。

**応答**

有効なアクションを指定してください。「WebSphere MQ MQSC リファレンス」を参照して、このコマンドで許容されるパラメーターの組み合わせを判別してください。

**AMQ8881**

チャンネル認証レコード・ユーザー・ソースが無効です。

**重大度**

20: エラー

**説明**

コマンドに指定されたユーザー・ソース・パラメーターが無効です。

**応答**

有効なユーザー・ソースを指定してください。「WebSphere MQ MQSC リファレンス」を参照して、このコマンドで許容されるパラメーターの組み合わせを判別してください。

**AMQ8882**

このチャンネル認証レコード・タイプでは許可されないパラメーターです。

**重大度**

20: エラー

**説明**

このパラメーターは、設定対象または表示対象のチャンネル認証レコードのタイプに対して許可されていません。

**応答**

エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なレコード・タイプを判別してください。

**AMQ8883**

チャンネル認証レコードは既に存在します。

**重大度**

20: エラー

**説明**

チャンネル認証レコードを追加しようとしたますが、チャンネル認証レコードは既に存在しています。

**応答**

アクションに MQACT\_REPLACE を指定してください。

**AMQ8884**

チャンネル認証レコードが見つかりません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

指定されたチャンネル認証レコードが存在しません。

**応答**

存在するチャンネル認証レコードを指定してください。

**AMQ8885**

チャンネル認証レコードのこのアクションでは許可されないパラメーターです。

**重大度**

20: エラー

#### 説明

チャンネル認証レコードに適用されているアクションではこのパラメーターは許可されません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なアクションを判別してください。

#### 応答

パラメーターを除去してください。

#### AMQ8886

このチャンネル認証レコードのユーザー・ソース値では許可されないパラメーターです。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

このパラメーターは、値がユーザー・ソース・フィールドに含まれているチャンネル認証レコードに対して許可されていません。エラーになったパラメーターの説明を参照し、このパラメーターが有効なユーザー・ソースの値を判別してください。

#### 応答

パラメーターを除去してください。

#### AMQ8887

パラメーターが、このチャンネル認証レコードのマッチングの値に対して許可されていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

このパラメーターは、値がマッチング・フィールドに含まれている照会チャンネル認証レコードに対して許可されていません。エラーになったパラメーターの記述を参照して、このパラメーターが有効になる マッチングの値を判別してください。

#### 応答

パラメーターを除去してください。

#### AMQ8888

チャンネル認証レコードの警告値が無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

コマンドに指定された警告パラメーターが無効です。

#### 応答

警告に有効な値を指定してください。「WebSphere MQ MQSC リファレンス」を参照して、このコマンドで許容されるパラメーターの組み合わせを判別してください。

#### AMQ8891

チャンネル認証プロファイルの名前が無効です。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

コマンドで使用されたチャンネル・プロファイル名が無効である。これは、WebSphere MQ 名で受け入れられない文字が含まれていたか、指定されたプロファイル・タイプでは無効な文字が含まれていたことが原因である可能性があります。

#### 応答

なし。

#### AMQ8901 (Tandem)

A Status Server has started

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

CPU <insert\_1> の状況サーバーが始動しました。このプロセスの名前は <insert\_3>です。

**応答**

なし。

**AMQ8902 (Tandem)**

A Status Server has ended normally.

**重大度**

0: 情報

**説明**

CPU <insert\_1> の状況サーバーが正常に終了しました。プロセスの名前は <insert\_3>です。

**応答**

なし。

**AMQ8903 (Tandem)**

A Status Server has ended with errors.

**重大度**

0: 情報

**説明**

CPU <insert\_1> の状況サーバーがエラーで終了しました。プロセスの名前は <insert\_3>です。状況サーバーによって報告されたエラー戻りコードは <insert\_2>です。状況サーバーは、キュー・マネージャーによって自動的に再始動されます。

**応答**

状況サーバーが正しく再始動したことを確認します。キュー・マネージャーの FD サブボリュームで、状況サーバーによって生成された可能性がある FFST ファイルを探して調べます。プロセス名を使用して、関連のある FFST を見つけてください。障害の原因となったイベントまたは症状のチェーンを再構成して、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant/](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant/) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ8904 (Tandem)**

A Status Server has detected a CPU failure.

**重大度**

0: 情報

**説明**

状況サーバー・プロセス <insert\_3> が、CPU <insert\_1> が失敗したことを検出しました。この CPU で実行されていた状況マネージャーのコンポーネントがある場合、これらのコンポーネントは使用できなくなり、アプリケーション接続およびチャネルはドロップされた可能性があります。状況マネージャーは、新しい接続およびチャネルで引き続き使用できるはずですが、この CPU で実行されていた状況サーバーおよびキュー・サーバーのプロセスは、他の使用可能な CPU で置き換えられます。

**応答**

通常は不要です。アプリケーションで、障害を起こした CPU で実行されていたエージェント・プロセスを使用した進行中の MQI 操作から理由コード MQRC\_CONNECTION\_BROKEN (2009) を受け取る可能性があります。即時に正常な再接続を行えるはずですが。

**AMQ8905 (Tandem)**

A Status Server completed takeover processing.

**重大度**

0: 情報

**説明**

状況サーバー・プロセス <insert\_3> が、障害を起こした 1 次状況サーバー・プロセスからの前のテークオーバーに関連した処理、またはそれが実行されていた CPU の障害に関連した処理を完了しました。この時点の後で通常処理が再開して、状況サーバーは、Single Point of Failure に対する回復力のある状態に戻ります。

## 応答

通常は不要です。このメッセージは、テークオーバーが完了したという肯定確認を提供するためにログに記録されます。

### **AMQ8906 (Tandem)**

More Channel Status' hardened than Max allowed.

## 重大度

0: 情報

## 説明

QMIMI ファイルの MAXACTIVECHANNELS より多くのチャンネル状況が STATABLE にハード化されました。

## 応答

なし。

### **AMQ8919**

一致する IBM WebSphere MQ キュー・マネージャー名がありません。

## 重大度

30: 重大エラー

### **AMQ8934 (IBM i)**

メッセージ...:

## 重大度

10: 警告

### **AMQ8935 (IBM i)**

原因.....:

## 重大度

10: 警告

### **AMQ8936 (IBM i)**

回復手順.....:

## 重大度

10: 警告

### **AMQ8937 (IBM i)**

技術説明.....:

## 重大度

10: 警告

### **AMQ8A01 (IBM i)**

MSG キュー・マネージャー作成

### **AMQ8A02 (IBM i)**

メッセージ・キュー・マネージャーの削除

### **AMQ8A04 (IBM i)**

MQ メッセージの処理

### **AMQ8A05 (IBM i)**

Change Message Queue Manager

### **AMQ8A06 (IBM i)**

メッセージ・キュー・マネージャーの表示

### **AMQ8A07 (IBM i)**

End Message Queue Manager

### **AMQ8A08 (IBM i)**

Start Message Queue Manager

### **AMQ8A09 (IBM i)**

MQ キューの変更

**AMQ8A0A (IBM i)**  
MQ キューのクリア

**AMQ8A0B (IBM i)**  
MQ キューのコピー

**AMQ8A0C (IBM i)**  
MQ キューの作成

**AMQ8A0D (IBM i)**  
MQ キューの削除

**AMQ8A0E (IBM i)**  
MQ キューの表示

**AMQ8A0F (IBM i)**  
MQ キューの処理

**AMQ8A10 (IBM i)**  
Change MQ Process

**AMQ8A11 (IBM i)**  
MQ プロセスのコピー

**AMQ8A12 (IBM i)**  
MQ プロセスの作成

**AMQ8A13 (IBM i)**  
MQ プロセスの削除

**AMQ8A14 (IBM i)**  
MQ プロセスの表示

**AMQ8A15 (IBM i)**  
MQ プロセスの処理

**AMQ8A16 (IBM i)**  
MQ コマンド・サーバーの始動

**AMQ8A17 (IBM i)**  
MQ コマンド・サーバーの終了

**AMQ8A18 (IBM i)**  
MQ コマンド・サーバーの表示

**AMQ8A19 (IBM i)**  
MQ の設定

**AMQ8A20 (IBM i)**  
Quiesce Message Queue Managers

**AMQ8A21 (IBM i)**  
Quiesce Retry Delay

**AMQ8A23 (IBM i)**  
キュー状況の処理

**AMQ8A30 (IBM i)**  
Create MQ Channel

**AMQ8A31 (IBM i)**  
Display MQ Channel

**AMQ8A32 (IBM i)**  
Start MQ Listener

**AMQ8A33 (IBM i)**  
Ping MQ Channel

**AMQ8A34 (IBM i)**  
Delete MQ Channel

- AMQ8A36 (IBM i)**  
Work with MQ Channels
- AMQ8A37 (IBM i)**  
Change MQ Channel
- AMQ8A38 (IBM i)**  
Copy MQ Channel
- AMQ8A39 (IBM i)**  
Reset MQ Channel
- AMQ8A40 (IBM i)**  
End MQ Channel
- AMQ8A41 (IBM i)**  
Start MQ Channel
- AMQ8A42 (IBM i)**  
Start MQ Channel Initiator
- AMQ8A43 (IBM i)**  
Grant MQ Object Authority
- AMQ8A44 (IBM i)**  
Revoke MQ Object Authority
- AMQ8A45 (IBM i)**  
Display MQ Object Authority
- AMQ8A46 (IBM i)**  
Display MQ Object Names
- AMQ8A47 (IBM i)**  
IBM WebSphere MQ 権限のリフレッシュ
- AMQ8A48 (IBM i)**  
Work with MQ Authority
- AMQ8A49 (IBM i)**  
MQ サービスの開始
- AMQ8A50 (IBM i)**  
MQ サービスの終了
- AMQ8A51 (IBM i)**  
Connect MQ
- AMQ8A52 (IBM i)**  
Disconnect MQ
- AMQ8A53 (IBM i)**  
Work with MQ Authority Data
- AMQ8A54 (IBM i)**  
Resolve MQ Channel
- AMQ8A55 (IBM i)**  
Work with MQ Channel Status
- AMQ8A56 (IBM i)**  
SSL クライアント認証
- AMQ8A57 (IBM i)**  
SSL CipherSpec
- AMQ8A58 (IBM i)**  
SSL ピア名
- AMQ8A59 (IBM i)**  
ローカル通信アドレス

**AMQ8A5A (IBM i)**  
バッチ・ハートビート間隔

**AMQ8A5B (IBM i)**  
キューの削除

**AMQ8A5C (IBM i)**  
リポジトリのリフレッシュ

**AMQ8A5D (IBM i)**  
IP アドレス

**AMQ8A60 (IBM i)**  
クラスター名

**AMQ8A61 (IBM i)**  
クラスター名リスト

**AMQ8A62 (IBM i)**  
モード名

**AMQ8A63 (IBM i)**  
パスワード

**AMQ8A64 (IBM i)**  
トランザクション・プログラム名

**AMQ8A65 (IBM i)**  
User Profile

**AMQ8A66 (IBM i)**  
ネットワーク接続優先順位

**AMQ8A67 (IBM i)**  
バッチ間隔

**AMQ8A68 (IBM i)**  
バッチ間隔

**AMQ8A69 (IBM i)**  
Cluster Workload Exit Data

**AMQ8A6A (IBM i)**  
クラスター・ワークロード出口

**AMQ8A6B (IBM i)**  
Repository Cluster

**AMQ8A6C (IBM i)**  
Repository Cluster Namelist

**AMQ8A6D (IBM i)**  
Cluster Workload Exit Data Length

**AMQ8A6E (IBM i)**  
最大メッセージ長

**AMQ8A6F (IBM i)**  
デフォルト・キュー・マネージャー

**AMQ8A70 (IBM i)**  
デフォルトのバインディング

**AMQ8A71 (IBM i)**  
Channel Table

**AMQ8A72 (IBM i)**  
Change MQ Namelist

**AMQ8A73 (IBM i)**  
名前のリスト

- AMQ8A74 (IBM i)**  
名前リスト
- AMQ8A75 (IBM i)**  
Create MQ Namelist
- AMQ8A76 (IBM i)**  
MQ オブジェクトの再作成
- AMQ8A77 (IBM i)**  
MQ オブジェクト・イメージの記録
- AMQ8A78 (IBM i)**  
IBM WebSphere MQ コマンドの開始
- AMQ8A7A (IBM i)**  
Copy MQ Namelist
- AMQ8A7B (IBM i)**  
コピー元名前リスト
- AMQ8A7C (IBM i)**  
コピー先名前リスト
- AMQ8A7D (IBM i)**  
Delete MQ Namelist
- AMQ8A7E (IBM i)**  
Display MQ Namelist
- AMQ8A7F (IBM i)**  
Work with MQ Namelist
- AMQ8A80 (IBM i)**  
Group Profile
- AMQ8A81 (IBM i)**  
User Profile
- AMQ8A82 (IBM i)**  
Service Component
- AMQ8A83 (IBM i)**  
Work with MQ Queue Manager
- AMQ8A84 (IBM i)**  
Work with MQ Clusters
- AMQ8A85 (IBM i)**  
Start MQ Trigger Monitor
- AMQ8A86 (IBM i)**  
End MQ Listeners
- AMQ8A87 (IBM i)**  
Work with MQ Transactions
- AMQ8A88 (IBM i)**  
Resolve MQ Transaction
- AMQ8A89 (IBM i)**  
Work with MQ Cluster Queues
- AMQ8A8A (IBM i)**  
ジャーナル・レシーバー・データの表示
- AMQ8A8B (IBM i)**  
Start MQ Pub/Sub Broker
- AMQ8A8C (IBM i)**  
End MQ Pub/Sub Broker

**AMQ8A8D (IBM i)**

Display MQ Pub/Sub Broker

**AMQ8A8E (IBM i)**

Clear MQ Pub/Sub Broker

**AMQ8A8F (IBM i)**

Delete MQ Pub/Sub Broker

**AMQ8B01 (IBM i)**

メッセージ・キュー・マネージャー名

**AMQ8B02 (IBM i)**

テキスト '記述'

**AMQ8B03 (IBM i)**

トリガー間隔

**AMQ8B04 (IBM i)**

未配布メッセージ・キュー

**AMQ8B05 (IBM i)**

デフォルト伝送キュー

**AMQ8B06 (IBM i)**

最大ハンドル限界

**AMQ8B07 (IBM i)**

最大未コミット・メッセージ

**AMQ8B08 (IBM i)**

キュー名

**AMQ8B09 (IBM i)**

出力

**AMQ8B0A (IBM i)**

ライブラリー

**AMQ8B0B (IBM i)**

出力を受け取るファイル

**AMQ8B0C (IBM i)**

OPTION(\*MVS) not valid without specifying a value for WAIT.

**重大度**

40 : 停止エラー

**説明**

WAIT パラメーターに値を指定せずに OPTION(\*MVS) パラメーターを指定することはできません。

**応答**

OPTION(\*MVS) パラメーターをコマンドから除去するか、WAIT パラメーターに値を指定してください。次にコマンドを再試行してください。

**AMQ8B0D (IBM i)**

出力を受け取るメンバー

**AMQ8B0E (IBM i)**

Replace or add records

**AMQ8B0F (IBM i)**

オプション

**AMQ8B10 (IBM i)**

モード (Mode)

**AMQ8B11 (IBM i)**

PUT 可能

- AMQ8B12 (IBM i)**  
デフォルトのメッセージ優先順位
- AMQ8B13 (IBM i)**  
デフォルトのメッセージ持続性
- AMQ8B14 (IBM i)**  
プロセス名
- AMQ8B15 (IBM i)**  
トリガー発行可能
- AMQ8B16 (IBM i)**  
GET 可能
- AMQ8B17 (IBM i)**  
共用可能
- AMQ8B18 (IBM i)**  
デフォルト共用オプション
- AMQ8B19 (IBM i)**  
メッセージ・デリバリー・シーケンス
- AMQ8B1A (IBM i)**  
バックアウト・カウンットのハード化
- AMQ8B1B (IBM i)**  
トリガー・タイプ
- AMQ8B1C (IBM i)**  
トリガー項目数
- AMQ8B1D (IBM i)**  
トリガー・メッセージ優先順位
- AMQ8B1E (IBM i)**  
トリガー・データ
- AMQ8B1F (IBM i)**  
保存間隔
- AMQ8B20 (IBM i)**  
キューの最大長
- AMQ8B21 (IBM i)**  
最大メッセージ長
- AMQ8B22 (IBM i)**  
バックアウトしきい値
- AMQ8B23 (IBM i)**  
バックアウト・リキュー名
- AMQ8B24 (IBM i)**  
開始キュー
- AMQ8B25 (IBM i)**  
使用法
- AMQ8B26 (IBM i)**  
定義タイプ
- AMQ8B27 (IBM i)**  
ターゲット・オブジェクト
- AMQ8B28 (IBM i)**  
リモート・キュー
- AMQ8B29 (IBM i)**  
リモート・メッセージ・キュー・マネージャー

**AMQ8B2A (IBM i)**  
伝送キュー

**AMQ8B2B (IBM i)**  
コピー元キュー名

**AMQ8B2C (IBM i)**  
コピー先キュー名

**AMQ8B2D (IBM i)**  
置換

**AMQ8B2E (IBM i)**  
キュー・タイプ

**AMQ8B2F (IBM i)**  
アプリケーション・タイプ

**AMQ8B30 (IBM i)**  
アプリケーション ID

**AMQ8B31 (IBM i)**  
ユーザー・データ

**AMQ8B32 (IBM i)**  
環境データ

**AMQ8B33 (IBM i)**  
コピー元プロセス

**AMQ8B34 (IBM i)**  
コピー先プロセス

**AMQ8B36 (IBM i)**  
ジョブ名

**AMQ8B37 (IBM i)**  
Number

**AMQ8B3A (IBM i)**  
メッセージの変換

**AMQ8B3B (IBM i)**  
メンバーへの置換

**AMQ8B3C (IBM i)**  
ハートビート間隔

**AMQ8B3D (IBM i)**  
非持続メッセージ速度

**AMQ8B3E (IBM i)**  
強制

**AMQ8B3F (IBM i)**  
No Jobs to display

**AMQ8B41 (IBM i)**  
キュー定義の有効範囲

**AMQ8B42 (IBM i)**  
キュー項目数の高しきい値

**AMQ8B43 (IBM i)**  
キュー項目数の低しきい値

**AMQ8B44 (IBM i)**  
キュー・フル・イベント可能

**AMQ8B45 (IBM i)**  
キュー高イベント可能

- AMQ8B46 (IBM i)**  
キュー低イベント可能
- AMQ8B47 (IBM i)**  
サービス・インターバル
- AMQ8B48 (IBM i)**  
サービス・インターバル・イベント
- AMQ8B49 (IBM i)**  
配布リスト・サポート
- AMQ8B4A (IBM i)**  
親メッセージ・キュー・マネージャー
- AMQ8B4B (IBM i)**  
親リンクの切断
- AMQ8B4C (IBM i)**  
子メッセージ・キュー・マネージャー
- AMQ8B53 (IBM i)**  
権限イベント可能
- AMQ8B54 (IBM i)**  
禁止イベント可能
- AMQ8B55 (IBM i)**  
ローカル・エラー・イベント可能
- AMQ8B56 (IBM i)**  
リモート・エラー・イベント可能
- AMQ8B57 (IBM i)**  
パフォーマンス・イベント可能
- AMQ8B58 (IBM i)**  
開始および停止イベント可能
- AMQ8B59 (IBM i)**  
自動チャネル定義
- AMQ8B5A (IBM i)**  
自動チャネル定義イベントが有効
- AMQ8B5B (IBM i)**  
自動チャネル定義出口プログラム
- AMQ8B5C (IBM i)**  
システム・オブジェクトの再定義
- AMQ8B5D (IBM i)**  
待機時間
- AMQ8B5E (IBM i)**  
開始状況の詳細
- AMQ8B60 (IBM i)**  
トランザクション・タイプ
- AMQ8B61 (IBM i)**  
LOG RECOVERY イベント可能
- AMQ8B62 (IBM i)**  
IP プロトコル
- AMQ8B63 (IBM i)**  
構成イベント可能
- AMQ8B64 (IBM i)**  
Refresh Message Queue Manager

**AMQ8B65 (IBM i)**

リフレッシュ・タイプ

**AMQ8B66 (IBM i)**

Include Interval

**AMQ8B67 (IBM i)**

IBM WebSphere MQ キュー・マネージャーがリフレッシュされました。

**AMQ8B68 (IBM i)**

チャンネル・イベント可能

**AMQ8B69 (IBM i)**

SSL イベント可能

**AMQ8B6A (IBM i)**

フィルター・コマンド

**AMQ8B6B (IBM i)**

Filter keyword

**AMQ8B6C (IBM i)**

Filter operator

**AMQ8B6D (IBM i)**

Filter value

**AMQ8B6E (IBM i)**

フィルター値 <insert\_3> は、キーワード <insert\_4>では無効です。

**重大度**

30 : 重大エラー

**説明**

フィルター値 <insert\_3> は、キーワード <insert\_4>では無効です。

**応答**

キーワード <insert\_4>に有効なフィルター値を指定してください。

**AMQ8B70 (IBM i)**

Change MQ AuthInfo object

**AMQ8B71 (IBM i)**

Copy MQ AuthInfo object

**AMQ8B72 (IBM i)**

Create MQ AuthInfo object

**AMQ8B73 (IBM i)**

Delete MQ AuthInfo object

**AMQ8B74 (IBM i)**

Display MQ AuthInfo object

**AMQ8B75 (IBM i)**

コピー元認証情報名

**AMQ8B76 (IBM i)**

認証情報名

**AMQ8B77 (IBM i)**

認証情報タイプ

**AMQ8B78 (IBM i)**

ユーザー名

**AMQ8B79 (IBM i)**

ユーザー・パスワード

**AMQ8B7A (IBM i)**

Work with AuthInfo objects

- AMQ8B7B (IBM i)**  
コピー先認証情報名
- AMQ8B80 (IBM i)**  
Change MQ Processor Allowance
- AMQ8B81 (IBM i)**  
Display MQ Processor Allowance
- AMQ8B82 (IBM i)**  
Sufficient Licence Units
- AMQ8C01 (IBM i)**  
コピー元チャネル
- AMQ8C02 (IBM i)**  
チャネル名
- AMQ8C03 (IBM i)**  
チャネル・タイプ
- AMQ8C04 (IBM i)**  
SSL 鍵リセット・カウント
- AMQ8C05 (IBM i)**  
リモート・キュー・マネージャー
- AMQ8C07 (IBM i)**  
伝送キュー
- AMQ8C08 (IBM i)**  
接続名
- AMQ8C09 (IBM i)**  
MSG チャネル・エージェント
- AMQ8C10 (IBM i)**  
MSG チャネル AGENT ユーザー ID
- AMQ8C12 (IBM i)**  
バッチ・サイズ
- AMQ8C13 (IBM i)**  
切断間隔
- AMQ8C14 (IBM i)**  
短期再試行カウント
- AMQ8C15 (IBM i)**  
短期再試行間隔
- AMQ8C16 (IBM i)**  
長期再試行カウント
- AMQ8C17 (IBM i)**  
長期再試行間隔
- AMQ8C18 (IBM i)**  
セキュリティー出口
- AMQ8C19 (IBM i)**  
メッセージ出口
- AMQ8C20 (IBM i)**  
送信出口
- AMQ8C21 (IBM i)**  
受信出口
- AMQ8C22 (IBM i)**  
SSL CRL NAMELIST

- AMQ8C23 (IBM i)**  
SSL キー・リポジトリー
- AMQ8C24 (IBM i)**  
書き込む権限
- AMQ8C25 (IBM i)**  
シーケンス番号折り返し
- AMQ8C27 (IBM i)**  
トランスポート・タイプ
- AMQ8C28 (IBM i)**  
データ・カウント
- AMQ8C29 (IBM i)**  
Count
- AMQ8C30 (IBM i)**  
コピー先チャネル
- AMQ8C31 (IBM i)**  
メッセージ順序番号
- AMQ8C32 (IBM i)**  
SSL Cryptographic Hardware
- AMQ8C33 (IBM i)**  
セキュリティー出口ユーザー・データ
- AMQ8C34 (IBM i)**  
送信出口ユーザー・データ
- AMQ8C35 (IBM i)**  
受信出口ユーザー・データ
- AMQ8C36 (IBM i)**  
メッセージ出口ユーザー・データ
- AMQ8C37 (IBM i)**  
解決オプション
- AMQ8C38 (IBM i)**  
接続名
- AMQ8C39 (IBM i)**  
伝送キュー名
- AMQ8C40 (IBM i)**  
SSL リポジトリー・パスワード
- AMQ8C41 (IBM i)**  
最初のメッセージ
- AMQ8C42 (IBM i)**  
メッセージの最大数
- AMQ8C43 (IBM i)**  
最大メッセージ・サイズ
- AMQ8C44 (IBM i)**  
MSG 再試行出口
- AMQ8C45 (IBM i)**  
MSG 再試行出口データ
- AMQ8C46 (IBM i)**  
MSG 再試行回数
- AMQ8C47 (IBM i)**  
メッセージ再試行間隔

- AMQ8C48 (IBM i)**  
コード化文字セット
- AMQ8C49 (IBM i)**  
最大メッセージ長
- AMQ8C50 (IBM i)**  
リポジトリ名
- AMQ8C51 (IBM i)**  
リポジトリ名前リスト
- AMQ8C52 (IBM i)**  
クラスター・ワークロード出口長
- AMQ8C53 (IBM i)**  
クラスター・ワークロード出口
- AMQ8C54 (IBM i)**  
クラスター・ワークロード出口データ
- AMQ8C55 (IBM i)**  
Suspend Cluster Queue Manager
- AMQ8C56 (IBM i)**  
Reset Cluster
- AMQ8C57 (IBM i)**  
Refresh MQ Cluster
- AMQ8C58 (IBM i)**  
Resume Cluster Queue Manager
- AMQ8C59 (IBM i)**  
アクション
- AMQ8C5A (IBM i)**  
削除対象のキュー・マネージャー名
- AMQ8C5B (IBM i)**  
Work with MQ Listeners
- AMQ8C5C (IBM i)**  
削除対象のキュー・マネージャー ID
- AMQ8C60 (IBM i)**  
Display Cluster Message Queue Manager
- AMQ8C61 (IBM i)**  
クラスター・キュー MGR 名
- AMQ8C62 (IBM i)**  
End MQ Listeners
- AMQ8C63 (IBM i)**  
ポート番号
- AMQ8C64 (IBM i)**  
メッセージ・チャネル・エージェントのタイプ
- AMQ8C65 (IBM i)**  
タスク・ユーザー ID
- AMQ8D01 (IBM i)**  
Trace MQ
- AMQ8D02 (IBM i)**  
トレース・オプション設定
- AMQ8D03 (IBM i)**  
トレース・レベル

**AMQ8D04 (IBM i)**  
トレース・タイプ

**AMQ8D05 (IBM i)**  
最大使用ストレージ

**AMQ8D06 (IBM i)**  
早期トレース

**AMQ8D07 (IBM i)**  
タイプの除外

**AMQ8D08 (IBM i)**  
トレース・インターバル

**AMQ8D0A (IBM i)**  
Output member options

**AMQ8D10 (IBM i)**  
オブジェクト名

**AMQ8D11 (IBM i)**  
オブジェクト・タイプ

**AMQ8D12 (IBM i)**  
ユーザー名

**AMQ8D13 (IBM i)**  
Authority

**AMQ8D14 (IBM i)**  
Authorization list

**AMQ8D15 (IBM i)**  
Reference object name

**AMQ8D16 (IBM i)**  
Reference object type

**AMQ8D17 (IBM i)**  
オブジェクト名

**AMQ8D18 (IBM i)**  
プロセス名

**AMQ8D19 (IBM i)**  
キュー名

**AMQ8D1A (IBM i)**  
QUEUE MANAGER ライブラリー

**AMQ8D1B (IBM i)**  
ASP 番号

**AMQ8D1C (IBM i)**  
ジャーナル・レシーバーしきい値

**AMQ8D1D (IBM i)**  
ジャーナル・バッファー・サイズ

**AMQ8D20 (IBM i)**  
チャンネル名

**AMQ8D22 (IBM i)**  
クラスター名

**AMQ8D23 (IBM i)**  
クラスター NAMELIST 名

**AMQ8D24 (IBM i)**  
ユーザー名

**AMQ8D25 (IBM i)**

チャンネル状況

**AMQ8D26 (IBM i)**

接続されているジョブの終了

**AMQ8D27 (IBM i)**

タイムアウト間隔 (秒)

**AMQ8D28 (IBM i)**

オブジェクト/プロファイルの名前

**AMQ8D29 (IBM i)**

サービス・コンポーネント名

**AMQ8D2A (IBM i)**

Work with MQ Topics

**AMQ8D2B (IBM i)**

トピック名

**AMQ8D2C (IBM i)**

No topics to display

**AMQ8D2D (IBM i)**

Delete MQ Topic

**AMQ8D2E (IBM i)**

MQ トピックの表示

**AMQ8D30 (IBM i)**

キープアライブ・インターバル

**AMQ9000-9999: リモート****AMQ9001**

チャンネル <insert\_3> が正常に終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> が正常に終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9002**

チャンネル <insert\_3> が開始しています。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> が開始しています。

**応答**

なし。

**AMQ9003 (IBM i)**

チャンネル <insert\_3> の最後のメッセージ・シーケンス番号は <insert\_1> です。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> の最後のメッセージ・シーケンス番号は <insert\_1> です。

**応答**

なし。

**AMQ9004 (IBM i)**

チャンネル <insert\_3> 状況情報。

**重大度**

0: 情報

**説明**

チャンネル <insert\_3> 状況情報: 未確定のメッセージ数- <insert\_1> 未確定シーケンス番号- <insert\_2> 未確定論理作業単位 ID- <insert\_4>

**応答**

なし。

**AMQ9181**

出口によって設定された応答が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が、チャンネル出口パラメーター (MQCXP) の ExitResponse フィールドに無効な応答コード <insert\_1> を返しました。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効な応答コードを設定した理由を調べてください。

**AMQ9182**

出力ルーチンが設定した 2 次応答が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が、無効なチャンネル出口パラメーター (MQCXP) の ExitResponse2 フィールドに、2 次応答コード <insert\_1> を戻しました。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効な 2 次応答コードを設定した理由を調べてください。

**AMQ9184**

出力ルーチンが設定した出力バッファ・アドレスが無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル出口パラメーター (MQCXP) の ExitResponse2 フィールドの 2 次応答コードが MQXR2\_USE\_EXIT\_BUFFER に設定されている場合、ユーザー出口 <insert\_3> が、無効な出口バッファのアドレス <insert\_1> を返しました。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効な出力バッファ・アドレスを設定した理由を調べてください。最も可能性の高い原因は、値の設定に失敗したために値が 0 になっていることです。

**AMQ9185**

出口ルーチンが設定した出口スペースが無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が出口スペース値 <insert\_1> を戻しましたが、これはチャンネル出口パラメーター (MQCXP) の ExitSpace フィールドには無効です。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効な出口スペース値を設定した理由を調べてください。エラーを訂正してください。

**AMQ9186**

送信出口で予約済みの出口スペースが多すぎます。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

出口の初期化時に、チャンネル <insert\_3> の送信出口チェーン内の送信出口は、チャンネル出口パラメーター (MQCXP) の ExitSpace フィールドに値を戻しました。これらの ExitSpace 値の合計は <insert\_1> です。1 回の伝送で送信できる最大バイト数は、<insert\_2> です。各伝送では、少なくとも 1024 バイトのメッセージ・データ用のスペースを残しておく必要があります。そのため、送信出口によって予約された出口スペースが多すぎます。チャンネルは停止します。

**応答**

送信出口プログラムが設定した出口スペース値が大きすぎる理由を調べてください。エラーを訂正してください。

**AMQ9187**

出口により設定されたヘッダー圧縮値は無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が、チャンネル記述 (MQCD) の HdrComp リスト・フィールドに指定された折衝されたサポート値の 1 つではないヘッダー圧縮値 <insert\_1> をチャンネル出口パラメーター (MQCXP) の CurHdr 圧縮フィールドに戻しました。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムがサポートされる折衝値の 1 つではないヘッダー圧縮値を指定した理由を調べてください。

**AMQ9188**

出口により設定されたメッセージ圧縮値は無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が、チャンネル記述 (MQCD) の MsgComp リスト・フィールドに指定された折衝されたサポート値の 1 つではないメッセージ圧縮値 <insert\_1> をチャンネル出口パラメーター (MQCXP) の CurMsg 圧縮フィールドに戻しました。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムがサポートされる折衝値の 1 つではないメッセージ圧縮値を指定した理由を調べてください。

**AMQ9189**

出力ルーチンが設定したデータ長が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が、ゼロ以下のデータ長の値 <insert\_1> を戻しました。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャンネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効なデータ長を設定した理由を調べてください。

**AMQ9190**

出力ルーチンのエラーのため、チャンネルが停止しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_3> が、ID <insert\_1> および理由 <insert\_2> を持つチャネル <insert\_4> に対して呼び出されましたが、前のメッセージで報告されたように、無効な値が戻されました。チャネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効な値を設定した理由を調べてください。

**AMQ9195**

データ長が最大セグメント長より大きすぎます。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

送信出口 <insert\_3> によって設定されたデータ長 <insert\_1> が、最大セグメント長 (<insert\_2>) より大きくなっています。最大セグメント長は、1 回の伝送で送信できる最大バイト数から、送信出口チェーン内の現行の送信出口に続くすべての送信出口が必要とするユーザー出口スペースを差し引いた値です。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効なデータ長を設定した理由を調べてください。エラーを訂正してください。

**AMQ9196**

データ長が、エージェント・バッファー長より長すぎます。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

出口 <insert\_3> によって設定されたデータ長 <insert\_1> が、エージェント・バッファー長より大きくなっています。ユーザー出口が指定されたエージェント・バッファーにデータを返しましたが、指定された長さがバッファーの長さより大きくなっています。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効なデータ長を設定した理由を調べてください。エラーを訂正してください。

**AMQ9197**

データ長が、出力バッファー長より長過ぎます。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

出口 <insert\_3> によって設定されたデータ長 <insert\_1> が、出力バッファー長より大きくなっています。ユーザー出口が指定された出力バッファーにデータを返しましたが、指定された長さがバッファーの長さより大きくなっています。より詳細な情報を提供するメッセージ AMQ9190 が出され、チャネルは停止します。

**応答**

ユーザー出口プログラムが無効なデータ長を設定した理由を調べてください。

**AMQ9201**

<insert\_3> をホストするための割り振りが失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4> を使用して会話をホスト <insert\_3> に割り振ろうとしましたが、失敗しました。

## 応答

このエラーの原因として、ホスト <insert\_3>へのチャンネル定義に含まれている <insert\_4> パラメータの項目が正しくないことが考えられます。エラーを訂正して、やり直してください。エラーが解決しない場合は、エラー値を記録して、システム管理者に連絡してください。 <insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。ホスト <insert\_3> のリスニング・プログラムが実行されていない可能性があります。その場合は、関連する操作を実行して、プロトコル <insert\_4> のリスニング・プログラムを開始し、再試行してください。

## AMQ9202

リモート・ホスト <insert\_3> が使用できません。後で再試行してください。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> を使用して会話をホスト <insert\_3> に割り振ろうとしましたが、失敗しました。ただし、エラーは一時的なものである可能性があり、後で <insert\_4> 会話を正常に割り振ることができる可能性があります。

## 応答

後で接続を再試行してください。障害が解決しない場合は、エラー値を記録して、システム管理者に連絡してください。 <insert\_4> からの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) です。失敗の理由として、このホストが宛先ホストに到達できないことが考えられます。また、ホスト <insert\_3> のリスニング・プログラムが実行されていなかった可能性もあります。その場合は、関連する操作を実行して <insert\_4> リスニング・プログラムを開始し、再試行してください。

## AMQ9203

<insert\_4> の構成エラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ホスト <insert\_3> への通信の構成中にエラーが発生しました。 <insert\_4> 会話をホスト <insert\_3> に割り振ることができませんでした。

## 応答

構成エラーは次のいずれかになります。

1. 通信プロトコルが LU 6.2 である場合、伝送パラメータの 1 つ (モードまたは TP 名) が誤っている可能性があります。エラーを訂正し、やり直してください。モード名は、ホスト <insert\_3> で定義されているモードと同じでなければなりません。 <insert\_3> 上の TP 名を定義する必要があります。
2. 通信プロトコルが LU 6.2 である場合、LU 6.2 セッションが確立されていない可能性があります。システム管理者に連絡してください。
3. 通信プロトコルが TCP/IP である場合、指定されたホスト名が誤っている可能性があります。エラーを訂正し、やり直してください。
4. 通信プロトコルが TCP/IP である場合、指定されたホスト名をネットワーク・アドレスに解決できない可能性があります。また、ホスト名がネーム・サーバーにない可能性があります。

<insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。

エラー値を記録して、システム管理者に連絡してください。

## AMQ9204

ホスト <insert\_3> への接続が拒否されました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> を介したホスト <insert\_3> への接続が拒否されました。

## 応答

リモート・システムは、このホストからの接続を許可するには構成されていない可能性があります。 <insert\_4> リスナー・プログラムがホスト <insert\_3>で開始されていることを確認してください。

会話が LU 6.2 を使用する場合、リモート・ホストに指定されたユーザー ID またはパスワードのいずれかが誤っている可能性があります。

会話が TCP/IP を使用する場合、リモート・ホストがローカル・ホストを有効なホストとして認識していない可能性があります。

<insert\_4><insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> X (<insert\_2>) でした。

エラー値を記録して、システム管理者に連絡してください。

## AMQ9205

指定されたホスト名が無効です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

指定された <insert\_4> ホスト名 <insert\_3> をネットワーク・アドレスに解決できませんでした。 ネーム・サーバーにホストが含まれていないか、ネーム・サーバーが利用不能です。

## 応答

ホスト上の <insert\_4> 構成を確認してください。

## AMQ9206

ホスト <insert\_3>にデータを送信中にエラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> を介して <insert\_3>にデータを送信中にエラーが発生しました。 これは通信障害が原因である可能性があります。

## 応答

<insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> X (<insert\_2>) でした。 これらの値を記録して、システム管理者に連絡してください。

## AMQ9207

ホスト <insert\_3> から受信したデータが無効です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4>を介してホスト <insert\_3> から誤ったデータ・フォーマットを受け取りました。 不明なホストがデータを送信しようとしている可能性があります。 受信した無効データを含む FFST ファイルが生成されました。

## 応答

システム管理者に連絡してください。

## AMQ9208

ホスト <insert\_3>からの受信でエラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4>を介して <insert\_3> からデータを受信中にエラーが発生しました。 これは通信障害が原因である可能性があります。

## 応答

<insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。 これらの値を記録して、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9209**

ホスト <insert\_3> への接続がクローズされました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4>を介して <insert\_3> からデータを受信中にエラーが発生しました。リモート・ホストへの接続が予期せず終了しました。

**応答**

システム管理者に連絡してください。

**AMQ9210**

リモート接続が失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・ホストからの着信接続がありましたが、ローカル・ホストはバインドを完了できませんでした。

**応答**

<insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。これらの値を記録し、<insert\_4> 構成を検査するシステム管理者に連絡してください。

**AMQ9211**

記憶域の割振りエラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムは十分な記憶域を取得できませんでした。

**応答**

記憶域を使用しているいくつかのプログラムを停止して、操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9212**

TCP/IP ソケットを割り振りできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

おそらくストレージの問題により、TCP/IP ソケットを作成できなかった。

**応答**

<insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。プログラムを再試行してください。障害が解決しない場合は、エラー値を記録して、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9213**

<insert\_4> の通信エラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

通信で予期しないエラーが発生しました。

**応答**

<insert\_4> <insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。これらの値を記録して、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9214**

サポートされていない通信プロトコルを使用しようとしました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

サポートされない通信プロトコル・タイプ <insert\_2>を使用しようとしてしました。

**応答**

チャンネル定義ファイルを調べてください。入力された通信プロトコルが現在サポートされていない可能性があります。

**AMQ9215**

通信サブシステムが使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

通信サブシステムを使用しようとしてしましたが、開始されていませんでした。

**応答**

通信サブシステムを開始して、プログラムを再実行してください。

**AMQ9216**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] [-n TPName]

**重大度**

20: エラー

**説明**

応答側チャンネル・プログラムに渡された値が無効です。無効なパラメーターは次のとおりです。

<insert\_4>

応答側チャンネル・プログラムは終了します。

**応答**

チャンネル・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9216 (AIX)**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName]

**重大度**

20: エラー

**説明**

応答側チャンネル・プログラムに渡された値が無効です。無効なパラメーターは次のとおりです。

<insert\_4>

応答側チャンネル・プログラムは終了します。

**応答**

チャンネル・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9216 (HP-UX)**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName]

**重大度**

20: エラー

**説明**

応答側チャンネル・プログラムに渡された値が無効です。無効なパラメーターは次のとおりです。

<insert\_4>

応答側チャンネル・プログラムは終了します。

**応答**

チャンネル・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9217**

TCP/IP リスナー・プログラムが始動できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リスナー・プログラムの新規インスタンスを開始しようとしたが、プログラムは拒否されました。

**応答**

失敗の原因として、サブシステムが開始されていなかったか (この場合はサブシステムを開始してください)、待機しているプログラムが多すぎる (この場合は、後でリスナー・プログラムの開始を試行してください) が考えられます。

**AMQ9218**

<insert\_4> リスナー・プログラムがポート番号 <insert\_1> にバインドできませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4> ソケットをリスナー・ポートにバインドしようとしたが、失敗しました。

**応答**

この障害は、同じポート番号を使用する別のプログラムが原因である可能性がある。ポート <insert\_5> <insert\_1> に対する <insert\_3> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_2> でした。これらの値を記録して、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9219**

TCP/IP リスナー・プログラムが着信会話のための新しい接続を作成できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

接続要求を受け取ったために新規ソケットを作成しようとしたが、エラーが発生しました。

**応答**

この障害は一時的なものであることがあります。後で再試行してください。問題が解決しない場合は、戻りコード <insert\_1> を記録し、システム管理者に連絡してください。いくつかのジョブを解放するか、通信システムを再始動する必要がある可能性があります。

**AMQ9220**

<insert\_4> 通信プログラムをロードできませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4> ライブラリーまたはプロシージャ <insert\_3> をロードしようとしたが、エラー・コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

ライブラリーをシステムにインストールする必要があるか、プログラムが見つけられるように環境を変更する必要があります。

**AMQ9221**

サポートされないプロトコルが指定されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_3> の指定された値は、サポートされているプロトコルの 1 つとして認識されませんでした。

**応答**

パラメーターを修正して操作をやり直してください。

**AMQ9222**

構成ファイルが見つかりません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

構成ファイル <insert\_3> が見つかりません。このファイルには、通信パラメーターのデフォルトの定義が含まれています。デフォルト値が使用されます。

**応答**

なし。

**AMQ9223**

プロトコル・タイプを入力してください。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

実行中の操作では、プロトコルのタイプを入力する必要があります。

**応答**

プロトコル・パラメーターを追加して操作をやり直してください。

**AMQ9224**

スタンザ <insert\_4> の .ini ファイル項目 <insert\_3> (行 <insert\_1>、ファイル <insert\_5>) に予期しない内容が含まれています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

スタンザ <insert\_4> (行 <insert\_1>、.ini ファイル <insert\_5> 上) の <insert\_3> という名前のエントリは、有効なキーワードではないか、無効な値を持っています。

**応答**

.ini ファイルを修正して、操作を再試行してください。

**AMQ9224 (Windows)**

レジストリー値が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

WebSphere MQ レジストリー値名 <insert\_3> が無効であるか、値データが無効です。

**応答**

レジストリー値を訂正して操作をやり直してください。

**AMQ9225**

ファイル構文エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

INI ファイルの処理中に、行 <insert\_1> で構文エラーが検出されました。

**応答**

問題を解決して操作をやり直してください。

**AMQ9225 (Windows)**

ファイル構文エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

構成データの処理中に構文エラーが検出されました。

**応答**

問題を解決して操作をやり直してください。

**AMQ9226**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] -t (TCP | LU62 | NETBIOS | SPX) [ProtocolOptions]

## 重大度

10: 警告

## 説明

リスナー・プログラムに渡された値が無効でした。

このプログラムに渡されるパラメーター・ストリングは、次のとおりです。

[-m QMgrName] (-t TCP [-p Port] |

-t LU62 [-n TPName] |

-t NETBIOS [-l LocalName] [-e Names] [-s Sessions]

[-o Commands] [-a Adapter] |

-t SPX [-x Socket])

指定されていないパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

## 応答

リスナー・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

## AMQ9226 (AIX)

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] -t TCP [ProtocolOptions]

## 重大度

10: 警告

## 説明

リスナー・プログラムに渡された値が無効でした。

このプログラムに渡されるパラメーター・ストリングは、次のとおりです。

[-m QMgrName] -t TCP [-p Port]

指定されていないパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

## 応答

リスナー・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

## AMQ9226 (Unix)

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] -t TCP [ProtocolOptions]

## 重大度

10: 警告

## 説明

リスナー・プログラムに渡された値が無効でした。

このプログラムに渡されるパラメーター・ストリングは、次のとおりです。

[-m QMgrName] -t TCP [-p Port]

指定されていないパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

## 応答

リスナー・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

## AMQ9227

<insert\_3> ローカル・ホスト名が指定されていません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_3> プロセスがネットワークに登録するためには、名前が必要です。

## 応答

構成ファイルにローカル名を追加して操作をやり直してください。

## AMQ9228

<insert\_4> 応答側プログラムを開始できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

応答側プログラムのインスタンスを開始しようとしたが、プログラムは拒否されました。

**応答**

失敗の原因として、サブシステムが開始されていなかったか (この場合はサブシステムを開始してください)、待機しているプログラムが多すぎる (この場合は、後で応答側プログラムの開始を試行してください) が考えられます。 <insert\_5> 理由コードは <insert\_1> でした。

**AMQ9229**

アプリケーションが終了しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

アプリケーションを終了する要求を発行しました。

**応答**

なし。

**AMQ9230**

予期しない <insert\_4> イベントが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ネットワーク・イベントの処理中に、予期しないイベント <insert\_1> が発生しました。

**応答**

なし。

**AMQ9231**

指定されたパラメーターが無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4> <insert\_5> パラメーターの値は <insert\_3> となります。この値が指定されていないか、あるいは正しく指定されていません。

**応答**

<insert\_5> パラメーターの値を確認し、必要に応じて訂正してください。障害が解決しない場合は、戻りコード (<insert\_1>, <insert\_2>) を記録してください。および「<insert\_4>」を参照して、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9232**

<insert\_3> が指定されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

この操作には、<insert\_3> フィールドの指定が必要です。

**応答**

<insert\_3> を指定して、操作を再試行してください。

**AMQ9233**

<insert\_3> スレッドの作成中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

## 説明

プロセスは、新しいスレッドを作成しようとして失敗しました。この問題の主に考えられる原因は、オペレーティング・システムのリソース (例えばメモリー) の不足です。任意の直前の FFST を使用して、障害の理由を判別してください。障害の理由を記述する WebSphere MQ 内部戻りコードは <insert\_1> です。

## 応答

システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9235

指定されたローカル通信アドレスを解決できません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ローカル通信アドレス (LOCLADDR) 値 <insert\_3> を IP アドレスに解決できません。

## 応答

IP アドレスに解決できるローカル通信アドレス値を入力して、再試行してください。

### AMQ9236

指定されたパートナー LU が無効でした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> パートナー LU 名 <insert\_3> が無効でした。

## 応答

パートナー LU 名が誤って入力されたか、または <insert\_4> 通信構成にありませんでした。エラーを訂正し、やり直してください。

### AMQ9237

<insert\_4> の構成エラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> 会話をホスト <insert\_3> に割り振ることができませんでした。構成エラーは次のいずれかになります。

1. 伝送パラメーターの 1 つ (モード、または TP 名) が誤っている可能性があります。エラーを訂正し、やり直してください。モード名は、ホスト <insert\_3> で定義されているモードと同じでなければなりません。<insert\_3> 上の TP 名を定義する必要があります。
2. LU 6.2 セッションが確立されていない可能性があります。システム管理者に連絡してください。<insert\_4> からの戻りコードは、関連する <insert\_5> <insert\_2> を持つ <insert\_1> です。

## 応答

エラー値を記録して、システム管理者に連絡してください。

### AMQ9238

<insert\_4> の通信エラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

通信で予期しないエラーが発生しました。

**応答**

<insert\_4> <insert\_3> 呼び出しからの戻りコードは、<insert\_1> とそれに関連する <insert\_5> <insert\_2> でした。

**AMQ9239**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] -n TpName -g Gateway-name

**重大度**

10: 警告

**説明**

リスナー・プログラムに渡された値が無効でした。このプログラムに渡されるパラメーター・ストリングは、次のとおりです。パラメーターに使用されているデフォルト値が指定されていません。[-m QMgrName] -n TpName -g Gateway-name

**応答**

リスナー・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9240**

SPX ソケットはすでに使用中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

Listener は、ソケット <insert\_2> をオープンしようとしたときに、戻りコード <insert\_1> を受け取りました。

**応答**

指定されたソケットは、すでに別のプロセスによって使用されています。別のソケットを使用するには、RUNMQLSR に対するコマンド行で別のソケットを指定するか、qm.ini ファイルのデフォルトを更新します。

**AMQ9240 (Windows)**

SPX ソケットはすでに使用中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リスナーは、ソケット <insert\_2> を開こうとしたときに、戻りコード <insert\_1> を受け取りました。

**応答**

指定されたソケットは、すでに別のプロセスによって使用されています。別のソケットを使用するには、runmqslsr コマンドに対するコマンド行で別のソケットを指定するか、構成データのデフォルトを更新します。

**AMQ9240 (IBM i)**

SPX ソケットはすでに使用中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

Listener は、ソケット <insert\_2> をオープンしようとしたときに、戻りコード <insert\_1> を受け取りました。

**応答**

指定されたソケットは、すでに別のプロセスによって使用されています。別のソケットを使用するには、STRMQLSR に対するコマンド行で別のソケットを指定するか、qm.ini ファイルのデフォルトを更新します。

**AMQ9241**

SPX が使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

WebSphere MQ は、SPX 通信を開始しようとしたときに、戻りコード <insert\_1> を受け取りました。

**応答**

IPX/SPX サポートがマシンにインストールされていること、および WebSphere MQ SPX チャネルの開始を試行する前に開始されていることを確認してください。

**AMQ9242**

SPX リソースの問題です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

WebSphere MQ は、SPX 通信を開始しようとしたときに、リソースの問題を示す戻りコード <insert\_1>を受け取りました。

**応答**

IPX/SPX を介した通信を開始する前に、十分な IPX/SPX リソースが使用可能であるようにしてください。

**AMQ9243**

キュー・マネージャー <insert\_3> が存在しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

存在しないキュー・マネージャーに対してアクションを実行しようとした。誤ったキュー・マネージャー名を指定した可能性があります。

**応答**

誤った名前を指定した場合は、その名前を訂正し、コマンドを再度実行依頼してください。キュー・マネージャーが存在しない場合は、キュー・マネージャーを作成して、コマンドを再度実行依頼してください。

**AMQ9244**

デフォルトのキュー・マネージャーが存在しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

存在しないキュー・マネージャーに対してアクションを実行しようとした。

**応答**

デフォルトのキュー・マネージャーを作成して、コマンドを再度実行依頼してください。

**AMQ9245 (Windows)**

Unable to obtain account details for channel MCA user ID.

**重大度**

10: 警告

**説明**

WebSphere MQ は、MCA ユーザー ID <insert\_3> のアカウント詳細を取得できませんでした。このユーザー ID は、キュー・マネージャー <insert\_5> 上のチャネル <insert\_4> の MCA ユーザー ID であり、チャネル定義で定義されているか、チャネル出口またはクライアントによって提供されている可能性があります。

**応答**

ユーザー ID を正しくし、Windows ローカル・システム、ローカル・ドメイン、またはトラステッド・ドメインで定義されているようにしてください。ドメイン・ユーザー ID の場合、必要なすべてのドメイン・コントローラーを必ず使用可能にしてください。

**AMQ9246**

ポート <insert\_1> 上の TCP/IP リスナーは、新しいチャネルを開始できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

## 説明

ポート <insert\_1>で listen している TCP/IP リスナー内で新規チャンネルを開始することにより、キュー・マネージャーに接続しようとしていました。このリスナー上で実行されるチャンネルが使用できる最大ソケット番号は、<insert\_2>です。この最大数を超えるソケット番号が新規チャンネルに割り振られました。この接続の試行は拒否されましたが、リスナーは引き続き後続の接続要求を listen します。新規リスナー・チャンネルに割り振られたソケット番号は、そのリスナー・プロセス内で現在実行中のチャンネルの数に関連しています。この問題は、このリスナーが listen するポートに送信されるチャンネルが多すぎるために起こっています。

## 応答

リスナー・プロセスを追加して、別のポートで listen を開始する必要があります。キュー・マネージャーへのチャンネルのいくつかを、既存リスナーが listen するポートから新規ポートに指定変更する必要があります。

### AMQ9247

SSPI セキュリティー: SSPI から不良な戻り呼び出し。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSPI チャンネル出口が SSPI から不正な戻りコードを受け取ったため、チャンネル <insert\_3> がクローズされました。

## 応答

該当する SSPI マニュアルを参照して、呼び出し <insert\_5> の状況 <insert\_4> の意味を調べ、エラーを訂正してください。

### AMQ9248

プログラムは、<insert\_3> ソケットにバインドできませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ソケット <insert\_4> にバインドしようとしていましたが、戻りコード <insert\_1> で失敗しました。失敗した <insert\_3> 呼び出しは <insert\_5> でした。この問題の原因として最も可能性が高いのは、<insert\_3> ローカル・アドレスの構成が正しくないか、開始ポートと終了ポートのパラメーターが正しくないことです。

## 応答

システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9255

リスナーは既に実行中です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

指定されたネットワーク・リソースに対してすでにリスナーが実行されているため、WebSphere MQ リスナーを開始する要求は失敗しました。

## 応答

なし。

### AMQ9259

ホスト <insert\_3> からの接続がタイムアウトになりました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_4> を介したホスト <insert\_3> からの接続がタイムアウトになりました。

**応答**

データが予期される時間内に受信されなかった理由を調べてください。問題を解決してください。チャンネルを再接続するか、またはチャンネルが再接続を再試行するまで待ってください。

**AMQ9262 (HP-UX)**

GSKit SSL support not available for 32-bit client applications.

**重大度**

20: エラー

**説明**

32 ビット・クライアント・アプリケーションから SSL チャンネルを開始しようとしてしました。しかし、GSKit SSL 32 ビット・サポートは、WebSphere MQ for HP-UX (Itanium プラットフォーム) では提供されていません。

**応答**

クライアント・アプリケーションを 64 ビット・アプリケーションとしてコンパイルするか、非 SSL チャンネルを使用するようにアプリケーションを変更します。

**AMQ9268 (rrcI\_SCTQ\_SWITCH\_SUCCESS)**

クラスター送信側チャンネル <insert one> は、伝送キュー <insert three> を使用するように正常に切り替えられました。

**重大度**

00: 情報

**説明**

クラスター送信側チャンネル <insert one> の伝送キューが、<insert two> から <insert three> に正常に切り替えられました。

**応答**

なし。

**AMQ9270**

共用会話は開始できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ソケット <insert\_2> 上で会話 <insert\_1> の共用を開始しようとしてしました (チャンネル <insert\_3>)。チャンネルのサーバー接続側で拒否されました。

**応答**

チャンネル <insert\_3> のサーバー接続側の診断情報を調べて、会話が開始しなかった理由を確認してください。可能であれば、障害の原因となっているエラーを修正して、再試行してください。

**AMQ9271**

チャンネル <insert\_3> がタイムアウトになりました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> の相手側からの受信を待機中にタイムアウトになりました。接続のリモート・エンドのアドレスは <insert\_4> でした。

**応答**

<insert\_5> 呼び出しからの戻りコードは <insert\_1> (X<insert\_2>) でした。これらの値を記録して、システム管理者に連絡してください。

**AMQ9272**

スレッド mutex セマフォのエラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プロセスは、スレッド mutex セマフォに操作を試行しました。この問題の主に考えられる原因は、オペレーティング・システムのリソース (例えばメモリー) の不足です。任意の直前の FFST を使用し

て、障害の理由を判別してください。 WebSphere MQ 関数は強制終了されました <insert\_3>。失敗の理由を記述する内部戻りコードは <insert\_1>です。

#### 応答

システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ9273

スレッド・イベント・エラーです。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

プロセスは、スレッド・イベントに操作を試行しました。この問題の主に考えられる原因は、オペレーティング・システムのリソース (例えばメモリー) の不足です。任意の直前の FFST を使用して、障害の理由を判別してください。関係する WebSphere MQ 機能は <insert\_3> であり、障害の理由を記述する内部戻りコードは <insert\_1>です。

#### 応答

システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQ9280 (rrcE\_SSL\_SUITE\_B\_INVALID\_VALUE)

スイート B を要求するパラメーターに無効値が含まれています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

WebSphere MQ クライアントで実行中の SSL または TLS チャネルの開始に失敗しました。これは、MQSUIBTEB 環境変数、または MQSCO EncryptionPolicySuiteBStrength フィールドに無効値が含まれているためです。指定された値は '<insert\_1>' でした。

チャネルは '<insert\_2>' です。その名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャネルは始動されませんでした。

#### 応答

MQSUIBTEB 環境変数、または MQSCO EncryptionPolicySuiteBStrength フィールドを有効な値に設定してください。

チャネルを再始動します。

スイート B の構成について詳しくは、[WebSphere MQ セキュリティー資料](#)を参照してください。

#### AMQ9281 (rrcE\_SSL\_SUITE\_B\_BAD\_COMBINATION)

スイート B を要求するパラメーターに無効な組み合わせの値が含まれています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

MQ クライアントで実行中の SSL または TLS チャネルの開始に失敗しました。これは、MQSUIBTEB 環境変数、または MQSCO EncryptionPolicySuiteBStrength フィールドに相互に排他的な値が含まれているためです。各値はすべて有効ですが、それらの中には一緒に使用できないものがあります。指定された値は '<insert\_1>' でした。

チャネルは '<insert\_1>' です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャネルは始動されませんでした。

#### 応答

MQSUIBTEB 環境変数、または MQSCO EncryptionPolicySuiteBStrength フィールドを有効な組み合わせの値に設定してください。

チャンネルを再始動します。

スイート B の構成について詳しくは、[WebSphere MQ セキュリティー資料](#)を参照してください。

#### **AMQ9282 (rrcE\_SSL\_CIPHER\_INVALID\_SUITE\_B)**

構成済みの Suite B セキュリティー・レベルに対して CipherSpec が無効です。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

ユーザーが、スイート B モードで実行するように構成されたキュー・マネージャーまたは WebSphere MQ クライアントでチャンネルを開始しようとしています。ユーザーが指定した CipherSpec は、構成済みの Suite B セキュリティー・レベルに適合していません。

チャンネルは '<insert\_1>' です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

リモート・ホストのアドレスは '<insert\_2>' です。

##### **応答**

構成済みの Suite B セキュリティー・レベルに適合する、Suite B 準拠の CipherSpec で実行するように、チャンネルを再定義してください。または、正しい CipherSpec でチャンネルが定義されている場合、キュー・マネージャーまたは IBM WebSphere MQ クライアントをスイート B モードで実行しないようにします。この場合は、スイート B モードが構成されていないことを確認してください。エラーを修正した後、チャンネルを再開してください。

スイート B セキュリティー・レベルまたは CipherSpec について詳しくは、[WebSphere MQ セキュリティー資料](#)を参照してください。

FIPS 標準とスイート B 標準は定期的に更新されるため、このメッセージは WebSphere MQ メンテナンスの適用後に発生する可能性があります。そのような変更が生じたら、最新の標準を実装するために、WebSphere MQ も更新されます。その結果、メンテナンスの適用後に動作が変わることがあります。WebSphere MQ で施行されている FIPS 標準とスイート B 標準のバージョンの詳細については、[README ファイル](#)を参照してください。

#### **AMQ9285 (rrcE\_SSL\_CIPHER\_AND\_CERT\_INCOMPATIBLE)**

提案された CipherSpec はデジタル証明書と互換性がありません。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

提案された CipherSpec がデジタル証明書のいずれかと互換性がないため、SSL または TLS ハンドシェイクに失敗しました。

ローカル・システムとリモート・システムの両方で、チャンネル CipherSpec で使用するのに適したデジタル証明書を使用する必要があります。このエラーの一般的な原因には、次のようなものがあります。

(a) 非 RSA 公開鍵を含む証明書の使用時に、RSA ベースの CipherSpec が指定された。

(b) 非 EC 公開鍵を含む証明書の使用時に、Elliptic Curve ベースの CipherSpec が指定された。

チャンネルは '<insert\_1>' です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

##### **応答**

ローカル・システムとリモート・システムの両方で使用されるデジタル証明書で使用するのに適した、別の CipherSpec を指定してください。チャンネルを再始動します。

CipherSpec について詳しくは、[WebSphere MQ セキュリティー資料](#)を参照してください。

#### **AMQ9289 (rrcI\_SCTQ\_MSGMOVE\_NONE)**

メッセージ移動の完了 - 移動したメッセージはありません。

##### **重大度**

00: 情報

##### **説明**

クラスター送信側チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替え中にメッセージは移動されませんでした。メッセージ移動操作が完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9290 (rrcI\_SCTQ\_MSGMOVE\_IN\_PROGRESS)**

メッセージ移動が進行中- <n> 件のメッセージが移動されました。

**重大度**

00: 情報

**説明**

<n> メッセージは、クラスター送信側チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替え中に移動されました。メッセージ移動操作が進行中です。

**応答**

なし。

**AMQ9291 (rrcI\_SCTQ\_MSGMOVE\_COMPLETE)**

メッセージ移動完了- <n> 件のメッセージが移動しました。

**重大度**

00: 情報

**説明**

<n> メッセージは、クラスター送信側チャンネル <insert one> の伝送キューの切り替え中に移動されました。メッセージ移動操作が完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9301 (Tandem)**

An SNA communications error occurred.

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

通信で予期しないエラーが発生しました。

**応答**

SNAX/ICE <insert\_3> 要求からの応答戻りコードは、<insert\_4> ヘッダーの <insert\_1> でした。詳細戻りコードは <insert\_2> でした。

**AMQ9302 (Tandem)**

キュー・マネージャー <insert\_4> の TCP リスナー <insert\_3> が、使用可能なポートを検出できません。

**重大度**

40: 停止エラー

**説明**

TCP リスナーは、このキュー・マネージャー用に QMINI ファイルで構成されているすべてのポートを試行しましたが、listen に使用できるものではありませんでした。TCP リスナーは現在終了しています。TCP リスナーが必要でなかったか (すべてのキュー・マネージャー・ポートで実行されている TCP リスナーがすでにあるため)、あるいはキュー・マネージャーに構成の問題があります。

**応答**

QMINI ファイルの TCP/IP リスナー・スタンプを見直して、構成の問題があるかどうかを判別します。ポート番号自体が誤っているか、同じシステム上で別のキュー・マネージャーによって使用されているポート、または他のサービスとオーバーラップしている可能性があります。

**AMQ9401**

チャンネル <insert\_3> が自動定義されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

以前に存在しなかったチャンネル <insert\_3> が自動定義されました。

**応答**

なし。

**AMQ9402**

チャンネル <insert\_3> の自動定義出口がロードに失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_4> がロードされないため、チャンネル <insert\_3> の自動定義が失敗しました。

**応答**

ユーザー出口がキュー・マネージャー定義で正しく指定されており、ユーザー出口プログラムが正しく、使用可能であるようにしてください。

**AMQ9403**

チャンネル <insert\_3> の自動定義がユーザー出口によって抑止されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> の自動定義出口 <insert\_4> が障害コードを戻しました。

**応答**

なし。

**AMQ9404**

REFRESH CLUSTER REPOS(YES) のフェーズ 1 が完了した。

**重大度**

0: 情報

**説明**

REFRESH CLUSTER REPOS(YES) のフェーズ 1 が完了した。クラスターのリフレッシュ (<insert\_4>) コマンドにより、<insert\_1> オブジェクトがリフレッシュされ、<insert\_2> キュー・マネージャーにリパブリッシュされました。クラスター・リソースへのアクセスを試みるアプリケーションでは、REFRESH CLUSTER のフェーズ 2 が完了するまでクラスター・リソースの解決に失敗することがある。クラスターの他のメンバーから新しい情報がすべて受信されたときに、フェーズ 2 は完了しました。

**応答**

SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE をモニターし、リフレッシュ・プロセスが完了したことを示す確実に空の状態に達していることを判断する。

**AMQ9405**

FOROVE QUEUES (YES) コマンドが処理されました。クラスター <insert\_3> ターゲット <insert\_4>。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リポジトリ・キュー・マネージャーは、示されているクラスターおよびターゲット・キュー・マネージャーに対して、QUEUES(YES) オプションが指定された RESET ACTION(FORCEREMOVE) コマンドを正常に処理しました。

**応答**

なし。

**AMQ9406**

REFRESH CLUSTER REPOS (YES) コマンドが失敗しました。このキュー・マネージャーは、クラスター <insert\_4> のフル・リポジトリです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リポジトリ・キュー・マネージャーは、示されているクラスターに対して、REPOS(YES) オプションが指定された REFRESH CLUSTER コマンドを処理できませんでした。ローカル・キュー・マネージャーがクラスターの完全なリポジトリ管理サービスを提供するためです。コマンドは無視される。

## 応答

どちらも

- 1) REPOS(YES) を指定せずにコマンドを再発行します。
- 2) フル・リポジトリでないキュー・マネージャーでコマンドを発行します。
- 3) このキュー・マネージャー定義をフル・リポジトリでなくなるように変更します。

## AMQ9407

クラスター・キュー <insert\_3> が矛盾して定義されています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

UUID が <insert\_4> のキュー・マネージャー上のクラスター・キュー <insert\_3> の定義の DEFPRTY 値、DEFPSIST 値、および DEFBIND 値が、UUID が <insert\_5> のキュー・マネージャー上の同じクラスター・キューの定義と異なります。これで、両方の定義がローカル・リポジトリに存在するようになります。同一クラスター・キューのすべての定義は一致していなければなりません。特に、アプリケーションが、メッセージング動作の判定を、定義に不整合があるキュー・デフォルト値に依存している場合に、問題が発生します。これは、例えばアプリケーションがオプション MQOO\_BIND\_AS\_Q\_DEF を使用してクラスター・キューをオープンする場合に該当します。キューのインスタンスによって DEFBIND 値が異なる場合、メッセージ転送の動作はオープン時に選択されたキューのインスタンスによって変わります。一般的に、選択されるインスタンスはオープンごとに異なります。

## 応答

不整合が生じているそれぞれの値について、どれが正しいか判別してください。クラスター・キュー <insert\_3> の定義を変更して、すべての定義が正しい DEFPRTY、DEFPSIST、および DEFBIND 値を持つようにします。

## AMQ9408

送達不能キューへのチャネル <insert\_3> の BIND\_ON\_OPEN メッセージ。

## 重大度

0: 情報

## 説明

チャネル <insert\_3> のリモート CLUSRCVR は、そのチャネルに関連する未配布の BIND\_ON\_OPEN メッセージがローカル SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE。これらのメッセージは BIND\_ON\_OPEN を使用して書き込まれたため、別のチャネルに割り振ることができません。しかし、関連付けられているチャネルは現在、削除されているため、このチャネルを経由して送られる可能性はほとんどなくなっています。そのため、これらを伝送キューからローカル送達不能キューに移動しようとしていました。MQDLH の理由は、MQFB\_BIND\_OPEN\_CLUSRCVR\_DEL です。削除されたチャネルに関する内部 WebSphere MQ クラスタリング・メッセージも SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE から除去されるため（これらは廃棄されます）、キューの現行サイズが送達不能キューに移動されたユーザー・メッセージの数より多く減少する可能性があることに注意してください。

## 応答

送達不能キューの内容を調べてください。各メッセージは、書き込まれた理由および最初にアドレス指定された宛先を含む MQDLH 構造体に入れられます。また、以前のエラー・メッセージを調べて、送達不能キューにメッセージを書き込む試行が失敗しているかどうかを確認してください。

## AMQ9409

リポジトリ・マネージャーが異常終了しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリ・マネージャー・プロセスが異常終了しました。このプロセスが終了すると、チューニング・パラメーター TolerateRepositoryFailure が 'TRUE' に設定されていない限り、キュー・マネージャーも終了します。キュー・マネージャーが終了しない場合、それ以降のクラスター管理アクティビティが実行されず、このキュー・マネージャーがアクセスまたはホストするクラスター・リソースの可用性に影響が出ます。

**応答**

キュー・マネージャーとシステム・エラー・ログでリポジトリ・マネージャーに関する以前のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別するか、IBM サポートに連絡してください。キュー・マネージャーを再始動して、リポジトリ・マネージャーのプロセスを再開してください。

**AMQ9410**

リポジトリ・マネージャーは開始されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リポジトリ・マネージャーが正常に開始されました。

**応答**

なし。

**AMQ9411**

リポジトリ・マネージャーが正常に終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リポジトリ・マネージャーが正常に終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9412**

<insert\_3> のリポジトリ・コマンドを受け取りました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リポジトリ・マネージャーは、ID が <insert\_3> の他のキュー・マネージャー向けのコマンドを受け取りました。コマンドは、ID <insert\_4> のキュー・マネージャーによって送信されました。

**応答**

送信側のキュー・マネージャーのチャンネルおよびクラスター定義を確認してください。

**AMQ9413**

リポジトリ・コマンド・フォーマット・エラー、コマンド・コード <insert\_1>

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

内部エラーが発生しました。

**応答**

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9415**

リポジトリ・コマンドが予期しないものです。コマンド・コード <insert\_1>、クラスター・オブジェクト <insert\_3>、送信側 <insert\_4>

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

内部エラーが発生しました。

## 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9415 (IBM i)

内部エラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

リポジトリ・コマンドが予期しないものです。コマンド・コード <insert\_1>、クラスター・オブジェクト <insert\_3>、送信側 <insert\_4>

## 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9416

リポジトリ・コマンド処理エラー。RC=<insert\_2>、コマンド・コード <insert\_1>、クラスター・オブジェクト <insert\_3>、送信側 <insert\_4>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

内部エラーが発生しました。

## 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9416 (IBM i)

内部エラーが発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

リポジトリ・コマンド処理エラー。RC=<insert\_2>、コマンド・コード <insert\_1>、クラスター・オブジェクト <insert\_3>、送信側 <insert\_4>。

## 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9417

手動で定義された CLUSSDR チャンネルが強制的に除去されました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

管理者が、キュー・マネージャー <insert\_3> の削除または強制削除を要求しましたが、<insert\_3> に対して手動で定義された CLUSSDR チャンネルをまだ削除していません。<insert\_3> への自動定義チャ

ネルは削除されましたが、<insert\_3> は、手動で定義された CLUSSDR チャンネルが削除されるまで更新を受け取り続けます。

**応答**

<insert\_3> に対して手動で定義された CLUSSDR チャンネルを削除します。

**AMQ9418**

クラスター <insert\_3> のリポジトリーは 1 つだけです。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーは、それが唯一のリポジトリーとなっているクラスターに関する情報を受け取りました。

**応答**

クラスターの 2 番目のフル・リポジトリーを持つことになる、キュー・マネージャーの REPOS または REPOSNL 属性を変更して、クラスター名を指定します。

**AMQ9419**

クラスター <insert\_3> のクラスター受信側チャンネルがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

リポジトリー・マネージャーは、既知のクラスター受信側チャンネルがないクラスターに関する情報を受け取りました。

**応答**

ローカル・キュー・マネージャーでクラスターのクラスター受信側チャンネルを定義します。

**AMQ9420**

クラスター <insert\_3> のリポジトリーがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーは、既知のリポジトリーがないクラスターに関する情報を受け取りました。

**応答**

クラスターのフル・リポジトリーを持つことになる、キュー・マネージャーの REPOS または REPOSNL 属性を変更して、クラスター名を指定します。

**AMQ9421**

無効なクラスター・レコード・アクション・コードが検出されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

無効なレコードが SYSTEM.CLUSTER.REPOSITORY.QUEUE から読み取られました。無効なレコードを含む FFST レコードが生成されました。

**応答**

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9422**

リポジトリー・マネージャー・エラー、RC=<insert\_1>

**重大度**

30: 重大エラー

## 説明

内部エラーが発生しました。

## 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ9425

内部エラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリ・コマンド・マージ・エラー、コマンド・コード <insert\_1>、クラスター・オブジェクト <insert\_3>、送信側 <insert\_4>

## 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ9426

リポジトリ・コマンドの受信側が不明です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリ・マネージャーが、チャンネル <insert\_4> を使用して別のキュー・マネージャーにコマンドを送信しようとした。ID が <insert\_3> の受信側キュー・マネージャーを検出できませんでした。コマンド・コード <insert\_1>。

## 応答

送信側および受信側のキュー・マネージャーのチャンネルおよびクラスター定義を確認してください。

## AMQ9427

CLUSDR チャンネルが、リポジトリのキュー・マネージャーを指示しません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

CLUSDR チャンネルは、チャンネルがメンバーとなっているすべてのクラスターのリポジトリをホストするキュー・マネージャーを指示する必要があります。さらに、チャンネルの CLUSRCVR は、CLUSDR チャンネルと同じすべてのクラスターのメンバーでなければなりません。CLUSDR チャンネル <insert\_3> が指しているキュー・マネージャーは、クラスター <insert\_4> の基準を満たしていません。リモート・キュー・マネージャーの QMID は <insert\_5> です。

## 応答

ローカルおよびリモート・キュー・マネージャー上の定義を調べ、CLUSDR チャンネルがそのクラスターのリポジトリをホストするキュー・マネージャーを指示していること、およびチャンネルの CLUSRCVR がクラスターのメンバーであることを確認してください。

## AMQ9428

予期しないクラスター・キュー・オブジェクトのパブリッシュを受け取りました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ローカル・キュー・マネージャーが、クラスター <insert\_3> 上のリモート・キュー・マネージャーからクラスター・キュー・オブジェクトのパブリケーションを受け取りました。ローカル・キュー・マ

ネージャーは、クラスター <insert\_3> のリポジトリをホストしておらず、パブリッシュされたオブジェクトにサブスクライブしていないため、要求を破棄します。ローカル・キュー・マネージャーへのアクセスに使用されるリモート CLUSSDR チャンルのチャンネル名は <insert\_4> であり、リモート・キュー・マネージャーの QMID は <insert\_5> です。

#### 応答

ローカルおよびリモート・キュー・マネージャー上の定義を調べ、CLUSSDR チャンルが必ずそのクラスターのリポジトリ・キュー・マネージャーを指し示すようにしてください。

#### AMQ9429

予期しないクラスター・キュー削除の資料を受け取りました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ローカル・キュー・マネージャーが、クラスター <insert\_3> 上のリモート・キュー・マネージャーからクラスター・キュー削除のパブリケーションを受け取りました。ローカル・キュー・マネージャーは、クラスター <insert\_3> のリポジトリをホストしておらず、パブリッシュされたオブジェクトにサブスクライブしていないため、要求を破棄します。ローカル・キュー・マネージャーへのアクセスに使用されるリモート CLUSSDR チャンルのチャンネル名は <insert\_4> であり、リモート・キュー・マネージャーの QMID は <insert\_5> です。

#### 応答

ローカルおよびリモート・キュー・マネージャー上の定義を調べ、CLUSSDR チャンルが必ずそのクラスターのリポジトリ・キュー・マネージャーを指し示すようにしてください。

#### AMQ9430

予期しないクラスター・キュー・マネージャーの資料を受け取りました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ローカル・キュー・マネージャーは、クラスター <insert\_3> 上でクラスター・キュー・マネージャー・パブリケーションを受け取りました。ローカル・キュー・マネージャーは、クラスター <insert\_3> のリポジトリをホストしておらず、パブリッシュされたオブジェクトに関する情報をサブスクライブしておらず、パブリッシュされたオブジェクトがその CLUSSDR のいずれにも一致しないため、パブリケーションを受け取ってはなりません。パブリケーションをローカル・キュー・マネージャーに送信したキュー・マネージャーの QMID は <insert\_4> です (これは必ずしもパブリケーションを開始したキュー・マネージャーではないことに注意してください)。パブリケーションの送信に CLUSSDR チャンル <insert\_5> が使用されました。

#### 応答

送信側のキュー・マネージャーで CLUSSDR 定義を調べ、必ずそのクラスターのリポジトリ・キュー・マネージャーを指し示すようにしてください。

#### AMQ9431

リモート・キュー・マネージャーは、今後クラスターのリポジトリを扱いません。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

ローカル・キュー・マネージャーは、リモート・キュー・マネージャー QMID <insert\_3> から、クラスター <insert\_4> のリポジトリをホストしなくなったことを示すメッセージを受け取りました。CLUSSDR チャンル <insert\_5> が変更され、クラスター <insert\_4> 内のキュー・マネージャー <insert\_3> にアクセスするために使用できなくなりました。ローカル・キュー・マネージャーがクラスター <insert\_4> のリポジトリをホストしていない場合は、可能であれば、関連するサブスクリプションとパブリケーションが再作成されます。

#### 応答

なし。

#### AMQ9432

非リポジトリ・キュー・マネージャーが照会を受け取りました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ローカル・キュー・マネージャーは、クラスター <insert\_3> 上のリモート・キュー・マネージャーから照会を受け取りました。ローカル・キュー・マネージャーは、クラスター <insert\_3> のリポジトリをホストしないため、照会を破棄します。ローカル・キュー・マネージャーへのアクセスに使用されるリモート CLUSSDR チャンルのチャンネル名は <insert\_4> であり、リモート・キュー・マネージャーの QMID は <insert\_5> です。

## 応答

ローカルおよびリモート・キュー・マネージャー上の定義を調べ、CLUSSDR チャンルが必ずそのクラスターのリポジトリ・キュー・マネージャーを指し示すようにしてください。

## AMQ9433

CLUSRCVR は、一致する CLUSSDR と同じクラスターになければなりません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

CLUSRCVR チャンル <insert\_3> は、クラスター <insert\_4> のメンバーとして定義されていません。ローカル・キュー・マネージャーは、QMID <insert\_5> のリモート・キュー・マネージャー上の CLUSSDR チャンル <insert\_3> がクラスター <insert\_4> のメンバーとして定義されていることを示すコマンドを受け取りました。

## 応答

チャンネル <insert\_3> の CLUSRCVR 定義または CLUSSDR 定義を変更して、両方が同じクラスターのメンバーになるようにします。

## AMQ9434

<insert\_3> に認識されないメッセージがあります。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリ・マネージャーがそのキューの 1 つで、その形式を認識できないか、キュー・マネージャーまたはリポジトリ・マネージャーからのものでないメッセージを見つけました。このメッセージは送達不能キューに入れられました。

## 応答

送達不能キューのメッセージを調べて、メッセージの発信元を判別する。

## AMQ9435

リポジトリ・マネージャー・メッセージを書き込めません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリ・マネージャーは、ID が <insert\_3> である別のキュー・マネージャーの SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE にメッセージを送信しようとしたが、MQPUT 呼び出しが失敗しました。MQCC=<insert\_1>、MQRC=<insert\_2>。処理は続行されますが、リポジトリ情報が古くなっている可能性があります。

## 応答

MQCC <insert\_1> および MQRC <insert\_2> については、アプリケーション・プログラミング・リファレンス・マニュアルを参照してください。ローカル・キュー・マネージャーとターゲット・キュー・マネージャーのチャンネル定義とクラスター定義を確認し、それらの間のチャンネルが実行されていることを確認してください。問題が訂正されると、リポジトリ情報は、通常、自動的に更新される。REFRESH CLUSTER コマンドを使用して、リポジトリ情報が最新のものであることを確認してください。

## AMQ9436

リポジトリ・マネージャー・メッセージを送信できません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリー・マネージャーが、指定されたクラスター (<insert\_3>) のフル・リポジトリーを持つキュー・マネージャー上の SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE にメッセージを送信しようとしたましたが、MQPUT 呼び出しが失敗しました。MQCC=<insert\_1>、MQRC=<insert\_2>。処理は続行されますが、リポジトリー情報が古くなっている可能性があります。

## 応答

MQCC <insert\_1> および MQRC <insert\_2> については、アプリケーション・プログラミング・リファレンス・マニュアルを参照してください。ローカル・キュー・マネージャーとターゲット・キュー・マネージャーのチャンネル定義とクラスター定義を確認し、それらの間のチャンネルが実行されていることを確認してください。問題が訂正されると、リポジトリー情報は、通常、自動的に更新される。REFRESH CLUSTER コマンドを使用して、リポジトリー情報が最新のものであることを確認してください。

## AMQ9437

リポジトリー・マネージャーの変更をコミットできません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リポジトリー・マネージャーは内部操作をコミットしようとしたましたが、失敗しました。MQCMIT 呼び出しからの理由コードは <insert\_1> でした。

## 応答

理由コードを調べます。その時点で行われている他のキュー・マネージャー操作のコンテキストで妥当と思われる場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ9438

CLUSRCVR <insert\_3> の CONNAME を検出できませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

TCP/IP CLUSRCVR <insert\_3> が、ブランクまたは不在の CONNAME パラメーターで有効に指定されました。しかしリポジトリー・プロセス、amqrrmfa が CONNAME (IP アドレス) を取得しようとしたとき、取得できませんでした。キャッシュ内に、既存の一致する CLUSRCVR オブジェクトがある場合、その CONNAME が使用されます。使用された CONNAME は <insert\_4> でした。

## 応答

エラー・ログで、関連する TCP/IP 呼び出し (gethostname、gethostbyname または inet\_ntoa) からのメッセージを調べてください。すべてのエラー情報をシステム管理者に渡してください。

## AMQ9439

リポジトリーの破損: チャンネル <insert\_3> の CLQMGR オブジェクトが正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

内部エラーが発生しました。

## 応答

問題判別 にリストされた項目を収集し、[IBM WebSphere MQ サポート Web ページ \(https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ\)](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9440**

リセット・コマンドが失敗しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

クラスターのリセット (<insert\_3>) Qmname (<insert\_4>) コマンドが失敗しました。このコマンドを発行するには、キュー・マネージャー <insert\_5> がクラスター <insert\_3> のリポジトリでなければなりません。キュー・マネージャー属性 Repos または Reposnl を変更してクラスター <insert\_3> を組み込み、コマンドを再試行してください。

**応答**

なし。

**AMQ9441**

リセット・コマンドが処理されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

クラスターのリセット (<insert\_3>) Qmname (<insert\_4>) コマンドがこのリポジトリで処理され、<insert\_1> 個の他のキュー・マネージャーに通知が送信されました。

**応答**

なし。

**AMQ9442**

REFRESH CLUSTER コマンドのフェーズ 1 が完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

REFRESH CLUSTER コマンドのフェーズ 1 が完了しました。クラスターのリフレッシュ (<insert\_4>) コマンドにより、<insert\_1> オブジェクトがリフレッシュされ、<insert\_2> キュー・マネージャーにリパブリッシュされました。

クラスター・リソースにアクセスしようとしていたアプリケーションが、REFRESH CLUSTER のフェーズ 2 が完了するまでクラスター・リソースを解決できなかった可能性があります。クラスターの他のメンバーから新しい情報がすべて受信されたときに、フェーズ 2 は完了しました。

**応答**

SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE をモニターし、リフレッシュ・プロセスが完了したことを示す確実に空の状態に達していることを判断する。

**AMQ9443**

Qmgr クラスター中断コマンドが処理されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

Suspend Qmgr Cluster コマンドが完了しました。<insert\_1> オブジェクト suspended.I 名前リストの場合、クラスター名はリストの最初の名前になります。

**応答**

なし。

**AMQ9444**

Qmgr クラスター再開コマンドが処理されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

Resume Qmgr Cluster (<insert\_4>) コマンドが完了しました。<insert\_1> 個のオブジェクトが再開されました。名前リストの場合、このクラスター名はリストの最初の名前です。

**応答**

なし。

**AMQ9445**

チャンネル <insert\_3>の作成中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_4> が、チャンネル <insert\_3>を作成することによって、それ自体を置き換えようとしていました。チャンネルを作成しようとしていましたが、次の理由で失敗しました: "<insert\_5>"。前のメッセージに詳細情報が示されている場合があります。

**応答**

チャンネル <insert\_3>の正常な作成を妨げている問題を修正してください。チャンネル <insert\_4> を再始動します。

**AMQ9446**

チャンネル <insert\_3>の削除中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> は、チャンネル <insert\_4> を作成してそれを置き換えた後、それ自体を削除しようとしていました。チャンネルを削除しようとしていましたが、次の理由で失敗しました: "<insert\_5>"。

**応答**

チャンネル <insert\_3> がまだ存在する場合は、削除を妨げていた問題を修正してから、チャンネルを手動で削除してください。

**AMQ9447**

リポジトリ・マネージャーの変更をバックアウトできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リポジトリ・マネージャーは内部操作をバックアウトしようとしていましたが、失敗しました。MQBACK呼び出しからの理由コードは <insert\_1>でした。

**応答**

理由コードを調べます。その時点で行われている他のキュー・マネージャー操作のコンテキストで妥当と思われる場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用し、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9448**

リポジトリ・マネージャーが失敗しました。 <insert\_1> 分後に再試行します。キュー・マネージャーは <insert\_2> 分後に終了します。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リポジトリ・マネージャーで重大な問題が発生しました。詳細については、キュー・マネージャーまたはシステムのエラー・ログに含まれる過去のメッセージを参照してください。リポジトリ・マネージャーは、 <insert\_1> 分後にコマンドを再試行します。 <insert\_2> 分以内に問題が解決しない場合は、キュー・マネージャーは終了します。この問題が修正されないと、それ以降のクラスター管理アクティビティーが実行されず、このキュー・マネージャーがアクセスまたはホストするクラスター・リソースの可用性に影響が出ます。

**応答**

可能な場合は、検出された問題を修正し、修正できない場合には、IBM サポートに連絡してください。この問題によるキュー・マネージャーの終了を延期するには、SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE キ

キューを GET(DISABLED) に設定します。問題が修正されたら、このキューを GET(ENABLED) に設定し、リポジトリー・マネージャーがコマンドを再試行するのを待つか、キュー・マネージャーを再始動します。

#### AMQ9449

リポジトリー・マネージャーをエラーの後で再開しています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

リポジトリー・マネージャーをエラーの後で再開しています。先行のエラー・メッセージで障害の詳細を確認してください。

#### 応答

障害が再発する場合は、IBM サポートに連絡して、後続のエラー・メッセージで指示に従ってください。

#### AMQ9450

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] -f OutputFile [-v OutputFileVersion]

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

チャンネル・テーブル書き込み機能プログラムに渡された値が無効でした。

このプログラムに渡されるパラメーター・ストリングは、次のとおりです。

[-m QMgrName] -f OutputFile [-v OutputFileVersion]

ここで、OutputFileVersion は 2 または 5 (5 がデフォルト) にします。

指定されていないパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

#### 応答

チャンネル・テーブル書き込み機能プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

#### AMQ9451 (Tandem)

リポジトリーは CPU <insert\_1> で既にアクティブになっています。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

リポジトリー・マネージャーは、ここで指定された CPU のリポジトリー・マネージャーが既にアクティブだったことを初期化時に判別しました。これは、Pathway の構成が正しくないことが原因と考えられます。各 CPU がサポートできるアクティブなリポジトリー・マネージャーは、1 つだけです。

#### 応答

Pathway 構成においてリポジトリー・マネージャーが CPU あたり 1 つだけ定義されていることを確認してください。

#### AMQ9453

FORCEREMOVE コマンドが失敗しました。クラスター <insert\_3> target <insert\_4> が固有ではありません。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

リポジトリー・キュー・マネージャーが、示されているクラスターとターゲット・キュー・マネージャーに対して、RESET ACTION(FORCEREMOVE) コマンドを処理できませんでした。そのクラスター内に指定の名前のキュー・マネージャーが複数存在していることが原因です。コマンドは無視される。

#### 応答

除去するキュー・マネージャーの名前ではなく ID (QMID) を指定してコマンドを再発行する。

### AMQ9453 (Tandem)

CPU <insert\_2> のリポジトリ・マネージャー (CPU <insert\_1>) パートナーがクローズしました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

ここで最初に指定された CPU で実行中のリポジトリ・マネージャーは、2 番目に指定された CPU のパートナー・リポジトリ・マネージャーが終了していることを通知しました。これは、キュー・マネージャーがシャットダウン中であることの結果である可能性があります。あるいは、パートナー・リポジトリ・マネージャーが強制的に停止させられたか、パートナー・リポジトリ・マネージャーにエラーが発生したことを表している可能性もあります。

#### 応答

キュー・マネージャーがシャットダウン中である場合、このメッセージは通知にすぎません。それ以外の場合は、WebSphere MQ エラー・ログまたはシステム・ログ、あるいはその両方を調べて、パートナー・リポジトリ・マネージャーが終了した理由を判別する必要があります。

### AMQ9455

FORCEREMOVE コマンドが失敗しました。クラスター <insert\_3>、ターゲット <insert\_4>が見つかりません。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

リポジトリ・キュー・マネージャーが、示されているクラスターとターゲット・キュー・マネージャーに対して、RESET ACTION(FORCEREMOVE) コマンドを処理できませんでした。ローカル・リポジトリで、そのキュー・マネージャーの情報が見つからなかったことが原因です。コマンドは無視される。

#### 応答

キュー・マネージャーの正しい名前または ID を指定して、コマンドを実行し直してください。

### AMQ9456

クラスター <insert\_5>のフル・リポジトリからキュー <insert\_3>、キュー・マネージャー <insert\_4>の更新を受信しませんでした。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

リポジトリ・マネージャーは、最近 30 日の間に使用され、フル・リポジトリからこのキューに対して更新情報が送信されている必要のあるキューを検出しました。しかし、これは発生していません。

リポジトリ・マネージャーは、この後さらに 60 日間、このキューに関する情報を保管します。

#### 応答

このキューが必要である場合、以下を確認する。

- 1) フル・リポジトリとの間のクラスター・チャンネル、およびキューを管理しているキュー・マネージャーが稼働可能であること。
- 2) それらのキュー・マネージャーで稼働しているリポジトリ・マネージャーが異常終了していないこと。

### AMQ9457

使用可能なリポジトリ、クラスター <insert\_4>、チャンネル <insert\_5>、送信側 <insert\_3>。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

リポジトリ・キュー・マネージャーが、<insert\_3> という ID を持つ別のキュー・マネージャーからコマンドを受け取りました。これは、そのキュー・マネージャーが再びクラスター <insert\_4> のリポジトリであることを報告しています。クラスター送信側チャンネル <insert\_5> が変更され、クラスターに関連する他のキュー・マネージャーへのアクセスに使用できるようになりました。

## 応答

なし。

### AMQ9458

リポジトリ・キャッシュに排他的にアクセスすることができません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

あるプロセスが、キャッシュに対する排他的アクセスが必要な操作において、リポジトリ・キャッシュに対するアクセスを要求するものとして登録されたままになっています。キュー・マネージャー <insert\_3> は、プロセスが登録を除去するのを待ってからこのメッセージを出しますが、登録はまだ存在しています。リポジトリ・キャッシュへの排他的アクセスを妨げているプロセスには、<insert\_2> 個の未解決の登録があります。

## 応答

リポジトリ・キャッシュにアクセスする登録済みプロセス ID (PID) は <insert\_1> です。このプロセスがまだ実行中であるか、終了しているかを判別してください。プロセスが実行中でない場合、または問題が解決されない場合は、「システム管理ガイド」の『問題判別』の項にリストされている情報を収集し、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9459

PSCLUS (DISABLED) のため、<insert\_4> からのクラスター・トピック <insert\_3> がリジェクトされました。

## 重大度

10: 警告

## 説明

キュー・マネージャー属性、PSCLUS は DISABLED に設定されており、このクラスターではキュー・マネージャー間のパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーが実行されないようになっています。ただし、クラスター・トピック <insert\_3> に関する情報は、<insert\_4> からチャンネルを介してこのキュー・マネージャーに送信されました。クラスター・トピック定義は無視され、このキュー・マネージャーからは認識されません。

## 応答

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターリングを有効にする必要がある場合には、そのクラスターに含まれるすべてのキュー・マネージャーで PSCLUS 属性を ENABLED に変更します。PSCLUS のドキュメンテーションで詳しく説明されているとおり、場合によっては REFRESH CLUSTER コマンドと REFRESH QMGR コマンドを発行する必要があります。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターを使用しない場合は、クラスター・トピック・オブジェクトを削除し、すべてのキュー・マネージャーで PSCLUS を DISABLED にする必要があります。

### AMQ9465

新しいクラスター・トピックの定義が矛盾しています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

UUID <insert\_4> のキュー・マネージャー上のクラスター・トピック <insert\_3> の定義に、クラスター・キャッシュに既に存在する 1 つ以上のクラスター・トピックとは異なる <insert\_5> 属性値があります。既存のトピック・オブジェクトはメッセージ AMQ9466 によって報告されます。同一クラスター・トピックのすべての定義は一致していなければなりません。一致していないと、アプリケーションがメッセージング動作を決めるこれらの属性の 1 つに依存している場合に、問題が発生する可能性があります。例えば、アプリケーションがクラスター・トピックをオープンしてそのトピックのインスタンスによって TOPICSTR 値が異なる場合、メッセージ転送の動作はオープン時にたまたま選択されたトピックのインスタンスによって変わってしまいます。

## 応答

さまざまなキュー・マネージャー上のトピックの定義を変更して、すべての属性について同じ値が指定されるようにします。

### AMQ9466

クラスター・トピックの定義が矛盾しています。

## 重大度

10: 警告

## 説明

UUID <insert\_4> のキュー・マネージャー上のクラスター・トピック <insert\_3> の定義に、クラスター・キャッシュに追加されるクラスター・トピックとは異なる <insert\_5> 属性値があります。追加されようとしているトピック・オブジェクトはメッセージ AMQ9465 で報告されます。同一クラスター・トピックのすべての定義は一致していなければなりません。一致していないと、アプリケーションがメッセージング動作を決めるこれらの属性の1つに依存している場合に、問題が発生する可能性があります。例えば、アプリケーションがクラスター・トピックをオープンしてそのトピックのインスタンスによって TOPICSTR 値が異なる場合、メッセージ転送の動作はオープン時にたまたま選択されたトピックのインスタンスによって変わってしまいます。

## 応答

さまざまなキュー・マネージャー上のトピックの定義を変更して、すべての属性について同じ値が指定されるようにします。

## AMQ9467

トピック更新中のリポジトリ・エラー。

## 重大度

20: エラー

## 説明

クラスター・リポジトリ・マネージャーが、トピック <insert\_3> の更新中に、キュー・マネージャーから予期しないエラー・コードを受け取りました。完了コードは <insert\_1>、理由コードは <insert\_2> でした。

## 応答

理由コード <insert\_1> については、WebSphere MQ 製品資料を参照してください。

WebSphere MQ 製品資料の「トラブルシューティングおよびサポート」セクションにリストされている項目を収集し、IBM MQ サポート・サイト ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または「IBM Support Assistant (ISA)」 ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) のいずれかを使用します。ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ9468

クラスター受信側チャネル <insert\_3> が複数のキュー・マネージャーによって構成されています。

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_4> が、キュー・マネージャー <insert\_5> によって既に定義されている名前と同じ名前のクラスター受信側チャネルを使用してクラスターに結合しました。クラスター内で使用されるすべてのクラスター受信側チャネルには、固有の名前を付ける必要があります。クラスターに参加する最後のキュー・マネージャーのみが、指定されたチャネルを使用します。新しいキュー・マネージャーがメンバーである間は、キュー・マネージャー <insert\_5> はクラスターに正常に参加しません。

## 応答

クラスター内で現在別のキュー・マネージャーに関連付けられているチャネル名を使用することは、意図的な場合もあります。例えば、元のキュー・マネージャーが削除されて、新しいキュー・マネージャーとして再作成された可能性があります。しかし、複数のキュー・マネージャー間で、偶然にチャネル名が重複した場合にも、この動作が発生します。これが意図的でない場合は、キュー・マネージャーの構成について、さらに調査する必要があります。

## AMQ9469

クラスター &5 内のキュー・マネージャー &4 でホストされる CLUSRCVR チャネル &3 に関する更新を受け取っていません。

## 重大度

10: 警告

## 説明

リポジトリ・マネージャーは、CLUSRCVR チャンネルが、それを所有するキュー・マネージャーによってリパブリッシュされていない状態を検出しました。このリパブリッシュ・アクションは、その時点から現在までの間に自動的に <insert\_1> 発生していなければなりません。

リポジトリ・マネージャーは、この状態を約 1 時間ごとに検査し、約 <insert\_2> 日間継続します。この期間内に CLUSRCVR チャンネルに対する更新が受信された場合、これらのメッセージは停止します。更新が受信されない場合、これらのメッセージの書き込みが継続されます。ただし、更新が受信されないままこの期間が過ぎてしまった場合、ローカル・キュー・マネージャーはこのチャンネルについての情報を廃棄し、これらのメッセージは停止します。ほぼその時点で、このクラスター内の部分リポジトリ・キュー・マネージャーはこのチャンネルを使用できなくなることに注意する必要があります。

## 応答

いくつかの対応方法が考えられます。

1. チャンネルが意図的に削除され、もう必要ない場合、RESET CLUSTER コマンドを使用してチャンネルを完全に削除することを検討してください。
2. クラスター <insert\_5>内のローカル・キュー・マネージャーの CLUSRCVR に長時間実行の問題があります。これが該当する場合は、クラスターの更新が受信されるように、緊急に問題を修正してください。
3. クラスター <insert\_5>内のリモート・キュー・マネージャーの CLUSSDR に長時間実行の問題があります。これが該当する場合は、クラスターの更新が送信されるようにするために、問題を早急に修正してください。
4. リモート・キュー・マネージャー上のリポジトリ・マネージャーが異常終了していないか確認してください。
5. リモート・キュー・マネージャーは、このキュー・マネージャーと同期が取れていません。バックアップからのキュー・マネージャーのリストアが原因である可能性があります。リモート・キュー・マネージャーで REFRESH CLUSTER を発行して、クラスター内の他のキュー・マネージャーと同期する必要があります。
6. 上記の項目を確認しても、この問題が何日も続いてこのエラー・メッセージがローカル・キュー・マネージャーのエラー・ログに繰り返し出力される場合は、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9487

Remote queue manager is a standby queue manager.

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

リモート・キュー・マネージャーがスタンバイ・キュー・マネージャーであるため、チャンネル <insert\_3> をクローズしています。

#### 応答

なし。

### AMQ9488

Program cannot connect to the standby queue manager.

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_4> へ接続しようとしたますが、キュー・マネージャーがスタンバイ・キュー・マネージャーであるため、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

#### 応答

スタンバイ・キュー・マネージャーは接続を受け入れません。代わりに 1 次キュー・マネージャーに接続してください。

### AMQ9489

チャンネル <insert\_3> のインスタンスの最大数、<insert\_1> に達しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

サーバー接続チャンネル <insert\_3> は、同時に実行できるインスタンスの最大数が <insert\_1> になるように構成されています。この制限に達しました。

## 応答

新しいインスタンスを開始できるときに操作を再試行してください。

1つ以上のクライアント・アプリケーションからの多数の接続があるために限度に達した場合には、接続が少なくなるようにアプリケーションを変更することを考慮してください。

共用会話を利用していない場合には、この操作モードに切り替えることを考慮してください。そうすれば、複数のクライアント接続で1つのチャンネル・インスタンスを共用できるからです。

## AMQ9490

個々のクライアントについて、チャンネル <insert\_3> のインスタンスの最大数 <insert\_1> に達しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

サーバー接続チャンネル <insert\_3> は、個々のクライアントに対して同時に実行できるインスタンスの最大数が <insert\_1> になるように構成されています。リモート・ネットワーク・アドレス <insert\_4> を持つクライアントで、この制限に達しました。

## 応答

このクライアントで新しいインスタンスを開始できるときに操作を再試行してください。

関連したクライアント・アプリケーションからの多数の接続があるために限度に達した場合には、接続が少なくなるようにアプリケーションを変更することを考慮してください。

共用会話を利用していない場合には、この操作モードに切り替えることを考慮してください。そうすれば、複数のクライアント接続で1つのチャンネル・インスタンスを共用できるからです。

## AMQ9491

伝送キュー <insert\_3> が NOSHARE に設定されました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> のチャンネル <insert\_4> は開始できません。このキュー・マネージャーの PipeLine の長さが 1 より大きいため、このチャンネルの MCA では複数のスレッドが実行されます。伝送キュー <insert\_3> は共用不可に設定されているため、オープンできるのは最初のスレッドだけです。

## 応答

キュー・マネージャー <insert\_5> 上の伝送キュー <insert\_3> の定義を確認し、NOSHARE ではなく SHARE に設定してください。あるいは、PipeLineLength パラメーターを使用して、このキュー・マネージャー上のすべてのチャンネルが単一スレッドのみを使用するように設定することができます。

## AMQ9492

<insert\_3> 応答側プログラムがエラーを検出しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

応答側プログラムを開始しましたが、エラーが検出されました。

## 応答

エラー・ファイルで以前のエラー・メッセージを調べ、応答者プログラムによって検出されたエラーを判別してください。

## AMQ9494

チャンネル <insert\_3> でプロトコル・エラーが検出されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キュー・マネージャーとの通信中に、TCP/IP 読み取りおよび受信呼び出しが、中断されたことを示す EINTR を返しました。この直後にチャンネル・プログラムはプロトコル・エラーを検出しました。障害タイプは <insert\_1> で、関連データは <insert\_2> でした。

**応答**

AIX クライアントを実行している場合、シグナルによって中断されたシステム呼び出しが再開されるようにアプリケーションを作成することによって、TCP/IP 読み取り時の EINTR に起因する問題を回避します。sigaction(2) を指定してシグナル・ハンドラーを設定して、新しいアクション構造の sa\_flags フィールドに SA\_RESTART フラグを設定する必要があります。上記に示した再開ガイドラインに従うアプリケーションが搭載された AIX、AIX サーバー、または AIX クライアント以外のプラットフォームで実行している場合、エラー・ログを調べて障害の原因を判別するシステム管理者に連絡してください。

**AMQ9495**

CLWL 出口 <insert\_3> が動的キャッシュと矛盾しています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

CLWL 出口 <insert\_3> が ExitReason MQXR\_INIT に対して呼び出されたとき、値 <insert\_1> が ExitResponse2 フィールドに戻されました。これは、CLWL 出口が動的なキュー・マネージャー・キャッシュ・タイプと非互換であることを示します。キュー・マネージャー・キャッシュ・タイプを静的に変更するか(チューニング・パラメーター ClusterCacheType=STATIC を使用して)、CLWL 出口を動的キャッシュと互換性があるように書き換えます。CLWL 出口は抑止されています。

**応答**

なし。

**AMQ9496**

リモート出口によってチャンネルが終了されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・エンドのチャンネル出口が要求したため、チャンネル・プログラム <insert\_3> が終了しました。

**応答**

チャンネルのリモート・エンドのエラー・ログを調べて、リモート出口によってチャンネルが終了された理由を確認してください。

**AMQ9498**

指定された MQCD 構造が無効でした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_3> フィールドの値の値は <insert\_4> です。この値は、要求された操作には無効です。

**応答**

パラメーターを変更して操作をやり直してください。

**AMQ9499**

WebSphere MQ リスナーはまもなく終了します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

システムで検出された 1 つのリスナーがシャットダウンされる予定です。

**応答**

なし。

**AMQ9500**

リポジトリ記憶域がありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

リポジトリに使用可能な記憶域がなかったため、操作は失敗しました。 <insert\_3>から <insert\_1> バイトを割り振ろうとしました。

**応答**

さらに大容量のリポジトリを割り振るようにキュー・マネージャーを再構成します。

**AMQ9501**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] -c ChlName。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネル・プログラムに渡された値が無効です。このプログラムに渡されるパラメーター・ストリングは、次のとおりです。[-m QMgrName] -c ChlName 指定されていないパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

**応答**

チャンネル・プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9502**

チャンネルのタイプが要求されたアクションに適していません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

要求された操作は、チャンネル <insert\_3> で実行できません。一部の操作は、特定のチャンネル・タイプに対してのみ有効です。例えば、チャンネルの ping は、メッセージを送信するエンドからのみ行えます。

**応答**

チャンネル名が正しく指定されているかどうか確認してください。その後、チャンネルが正しく定義されていることも確認してください。

**AMQ9503**

チャンネル折衝に失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ネゴシエーションが失敗したため、このマシンとリモート・マシンの間のチャンネル <insert\_3> を確立できませんでした。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、問題判別の手順にしたがってチャンネル障害の原因を特定する必要があります。例えば、FFST ファイルを調べて、ローカルおよびリモート・システムのエラー・ログで障害の原因を説明するメッセージがあるか確認します。トレースを有効にして操作を繰り返すと、さらに情報を取得できることもあります。

**AMQ9504**

チャンネル <insert\_3> でプロトコル・エラーが検出されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キュー・マネージャーとの通信中に、チャンネル・プログラムがプロトコル・エラーを検出しました。障害タイプは <insert\_1> で、関連データは <insert\_2> でした。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、エラー・ログを調べて障害の原因を判別する必要があります。

**AMQ9505**

チャンネル順序番号折返し値が異なります。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> のシーケンス番号折返し値は <insert\_1> ですが、リモート・ロケーションで指定された値は <insert\_2> です。チャンネルを開始するには、2つの値が同じでなければなりません。

**応答**

ローカルまたはリモートのいずれかのチャンネル定義を変更して、メッセージ順序番号折返し値に指定された値が同一になるようにしてください。

**AMQ9506**

メッセージ受信確認が失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キュー・マネージャーがメッセージの最後のバッチを受け入れなかったため、チャンネル <insert\_3> が終了しました。

**応答**

リモート・サイトのチャンネルのエラー・ログに、障害の説明が記載されています。この問題を解決するには、リモート・システム管理者に連絡してください。

**AMQ9507**

チャンネル <insert\_3> は現在未確定です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルがホスト <insert\_4> で未確定であるため、要求された操作を完了できません。

**応答**

チャンネル状況を確認し、チャンネルを再始動して未確定状態を解決するか、RESOLVE CHANNEL コマンドを使用して問題を手動で修正します。

**AMQ9508**

プログラムがキュー・マネージャーに接続できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> へ接続しようとしたますが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

必ずキュー・マネージャーを使用可能にし、操作可能にしてください。

**AMQ9509**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトをオープンできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> のキューまたはキュー・マネージャー・オブジェクト <insert\_4> をオープンしようとしたますが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

キューを必ず使用可能にして、操作を再試行してください。

**AMQ9510**

メッセージをキューから取り出せません。

**重大度**

30: 重大エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のキュー <insert\_4> からメッセージを読み取ろうとしましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

#### 応答

理由コードが変換の問題を示している場合 (例えば、MQRC\_SOURCE\_CCSID\_ERROR)、キューからメッセージを除去します。それ以外の場合は、必要なキューが使用可能で、操作可能であるようにしてください。

#### AMQ9511

メッセージをキューに入れられません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_5> のキュー <insert\_4> にメッセージを書き込もうとしましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

#### 応答

必要キューが使用可能であり、操作可能であるようにしてください。

#### AMQ9512

ping 操作は、チャンネル <insert\_3> には無効です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

Ping を発行できるのは SENDER、SERVER、または CLUSSDR チャンネル・タイプの場合だけです。また、HP-UX または Linux プラットフォーム上の SSL チャンネルに対しては発行できません。

#### 応答

ローカル・チャンネルが受信側チャンネルである場合、リモート・キュー・マネージャーから ping を実行する必要があります。

#### AMQ9513

チャンネルの最大数に達しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

同時に使用できるチャンネルの最大数に達しました。許可されるチャンネルの数は、キュー・マネージャー構成ファイルの構成可能パラメーターです。

#### 応答

操作中のチャンネルの一部がクローズするのを待ちます。いくつかのチャンネルが使用可能になった後で操作をやり直してください。

#### AMQ9514

チャンネル <insert\_3> は使用中です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル <insert\_3> が現在アクティブであるため、要求された操作は失敗しました。

#### 応答

チャンネルを手動で終了するか、チャンネルがクローズするまで待ってから、操作をやり直してください。

#### AMQ9515

チャンネル <insert\_3> が変更されました。

#### 重大度

10: 警告

**説明**

示されている統計は要求されたチャンネルに関するものですが、これはチャンネルの新しいインスタンスです。前のチャンネル・インスタンスは終了した。

**応答**

なし。

**AMQ9516**

ファイル・エラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ファイル・システムが、エラー・コード <insert\_1> をファイル <insert\_3>に戻しました。

**応答**

ファイル <insert\_3> の名前を記録し、システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ファイル <insert\_3> が正しく、使用可能であることを確認する必要があります。

**AMQ9516 (IBM i)**

ファイル・エラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ファイル・システムが、エラー・コード <insert\_4> をファイル <insert\_3>に戻しました。

**応答**

ファイル <insert\_3> の名前を記録し、システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ファイル <insert\_3> が正しく、使用可能であることを確認する必要があります。

**AMQ9517**

ファイルが壊れています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムが、ファイル <insert\_3>の内容に損傷を検出しました。

**応答**

値を記録し、システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ファイル <insert\_3>の保管されたバージョンを復元する必要があります。戻りコードは <insert\_1> で、戻されたレコード長は <insert\_2>でした。

**AMQ9518**

ファイル <insert\_3>が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムでは、ファイル <insert\_3>が存在し、使用可能である必要があります。

**応答**

原因として、オプション環境変数の MQCHLLIB、MQCHLTAB、または MQDATA の無効値が考えられます。これらの変数が有効または設定されていない場合は、ファイルの名前を記録し、システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ファイル <insert\_3> がプログラムで使用可能であることを確認する必要があります。

**AMQ9519**

チャンネル <insert\_3>が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムがチャンネル <insert\_3>の定義を検出できなかったため、要求された操作は失敗しました。

**応答**

名前が正しく指定され、チャンネル定義が使用可能であることを確認します。

**AMQ9520**

チャンネルがリモートで定義されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・ロケーションにチャンネル <insert\_3> の定義がありません。

**応答**

定義済みチャンネルのリモート・ホスト・リストに適切な定義を追加して、操作をやり直してください。

**AMQ9521**

ホストはこのチャンネルでサポートされていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・ホスト <insert\_4> がチャンネル定義で指定されたホスト <insert\_3> と一致しないため、チャンネル <insert\_5> 間の接続が拒否されました。

**応答**

チャンネル定義を更新するか、リモート・マシン接続名の明示的な指定を除去します。

**AMQ9522**

状況テーブルのアクセス・エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムはチャンネルの状況テーブルにアクセスできませんでした。

**応答**

チャンネル状況テーブルにアクセスしようとしたときに、<insert\_1> の値がサブシステムから戻されました。システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ログ・ファイルを調べて、プログラムが状況テーブルにアクセスできなかった理由を判別する必要があります。

**AMQ9523**

リモート・ホストがプロトコル・エラーを検出しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> を介した通信中に、リモート・キュー・マネージャー・チャンネル・プログラムがプロトコル・エラーを検出しました。障害タイプは <insert\_1> で、関連データは <insert\_2> でした。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、エラー・ファイルを調べて障害の原因を判別する必要があります。

**AMQ9524**

リモート・キュー・マネージャーが使用できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キュー・マネージャーが現在使用できないため、チャンネル <insert\_3> を開始できません。

**応答**

リモート・キュー・マネージャーを開始するか、後で操作をやり直してください。

**AMQ9525**

リモート・キュー・マネージャーが終了中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キュー・マネージャーが終了中であるため、チャンネル <insert\_3> をクローズしています。

**応答**

なし。

**AMQ9526**

チャンネル <insert\_3> のメッセージ・シーケンス番号エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ローカルおよびリモートのキュー・マネージャーの次のメッセージ・シーケンス番号が一致しません。シーケンス番号 <insert\_2> が予期されていたときに、シーケンス番号 <insert\_1> のメッセージが送信されました。リモート・ホストは <insert\_4> です。

**応答**

不整合の原因を究明してください。同期情報が損傷しているか、以前のバージョンにバックアウトしたことも考えられる。その状態が解決できない場合は、チャンネルの送信終了時に RESET CHANNEL コマンドを使用して、シーケンス番号を手動でリセットすることが可能です。

**AMQ9527**

チャンネル <insert\_3> を介してメッセージを送信できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リモート・キュー・マネージャーがメッセージを受信できないため、チャンネルはクローズしました。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、リモート・キュー・マネージャーのエラー・ファイルを調べてメッセージを受信できない理由を判別する必要があります。その後で、チャンネルを再始動してください。

**AMQ9528**

ユーザーがチャンネル <insert\_3> のクローズを要求しました。

**重大度**

10: 警告

**説明**

ユーザーによる要求のためにチャンネルが閉じています。

**応答**

なし。

**AMQ9529**

宛先キューがリモート・ホストで認識されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージのターゲット・キューがリモート・ホストで不明であるため、チャンネル <insert\_3> を使用した通信が終了しました。

**応答**

リモート・ホストに正しく定義された宛先キューがあることを確認してから、チャンネルを再始動します。

**AMQ9530**

プログラムがキュー属性を得ることができませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のキュー <insert\_4> の属性を照会しようとしたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

キューを必ず使用可能にして、操作を再試行してください。

**AMQ9531**

伝送キューの指定エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル定義 <insert\_3> で伝送キューとして識別されたキュー <insert\_4> は伝送キューではありません。

**応答**

キュー名が正しく指定されていることを確認してください。正しい場合、キューのキュー使用法パラメーターを伝送キューのキュー使用法パラメーターに変更します。

**AMQ9532**

プログラムがキュー属性を設定できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のキュー <insert\_4> の属性を設定しようとしたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

キューを必ず使用可能にして、操作を再試行してください。

**AMQ9533**

チャンネル <insert\_3> は現在アクティブではありません。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネルは現在アクティブではなかったため、停止されませんでした。接続名別またはリモート・キュー・マネージャー名別にチャンネルの特定インスタンスを停止しようとしている場合、このメッセージは、チャンネルの指定されたインスタンスが実行されていないことを示しています。

**応答**

なし。

**AMQ9534**

チャンネル <insert\_3> は現在使用可能になっていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルが現在使用可能でないため、チャンネル・プログラムは終了しました。

**応答**

START CHANNEL コマンドを発行して、チャンネルを再度使用可能にします。

**AMQ9535**

ユーザー出口が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー出口 <insert\_4> が無効であるため、チャンネル・プログラム <insert\_3> が終了しました。

**応答**

ユーザー出口がチャンネル定義で正しく指定されており、ユーザー出口プログラムが正しく、使用可能であるようにしてください。

**AMQ9536**

チャンネルが出口により終了しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル・プログラム <insert\_3> が出口 <insert\_4> によって終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9537**

使用法: <insert\_3> [-m QMgrName] [-q InitQ]

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネル・イニシエーター・プログラムに渡された値が無効です。パラメーターは、次のようにして渡す必要があります。[-m QMgrName] [-q InitQ] 指定されていないパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

**応答**

プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9538**

コミット制御エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

コミットメント制御を開始しようとしてエラーが発生しました。コミットメント状況の照会時に例外 <insert\_3> を受け取ったか、またはコミットメント制御を開始できませんでした。

**応答**

この問題に関連する他のメッセージについては、エラー・ログを参照してください。

**AMQ9539**

使用可能なチャンネルがありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル・イニシエーター・プログラムが、MCA プログラムを開始してキュー <insert\_3> を処理するためのトリガー・メッセージを受け取りました。プログラムは、開始する定義済みの使用可能なチャンネルを見つけることができませんでした。

**応答**

伝送キューを処理するために使用可能な定義済みチャンネルがあることを確認します。

**AMQ9540**

コミットが失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リソース・マネージャーに変更をコミットしようとしたときに、戻りコード <insert\_1> を受け取ったため、プログラムが終了しました。コミット ID は <insert\_3> でした。

**応答**

システム管理者に連絡してください。

**AMQ9541**

データ変換に指定された CCSID がサポートされていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ソース CCSID <insert\_1> またはターゲット CCSID <insert\_2> が無効であるか、現在サポートされていないため、プログラムが終了しました。

**応答**

無効な CCSID を訂正するか、要求された CCSID をサポートできることを確認します。

**AMQ9542**

キュー・マネージャーが終了中です。

**重大度**

10: 警告

**説明**

The program will end because the queue manager is quiescing.

**応答**

なし。

**AMQ9543**

状況テーブルが壊れています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルの状況テーブルが壊れています。

**応答**

実行中のすべてのチャンネルを終了し、DISPLAY CHSTATUS コマンドを発行して、チャンネルの状況を確認してください。システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID の記録と、生成出力ファイルの保存を行ってください。 [https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)、または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ9544**

メッセージが宛先キューに書き込まれませんでした。

**重大度**

10: 警告

**説明**

チャンネル <insert\_3> の処理中に、1 つ以上のメッセージを宛先キューに書き込めなかったため、それらのメッセージを送達不能キューに書き込もうとしました。キューの場所は、<insert\_1> です。ここで、1 はローカル送達不能キュー、2 はリモート送達不能キューです。

**応答**

送達不能キューの内容を調べてください。各メッセージは、メッセージがキューに書き込まれた理由および最初にアドレス指定された場所を含む構造体に入れられます。前のエラー・メッセージも参照し、送達不能キューへのメッセージの書き込みの試行が失敗したかどうかを確認してください。処理プログラムのプログラム ID (PID) は <insert\_4> でした。

**AMQ9545**

切断間隔が満了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

切断インターバル時間内に伝送キューにメッセージが到着しなかったため、チャンネル <insert\_3> がクローズしました。

応答

なし。

**AMQ9546**

エラー戻りコードを受け取りました。

重大度

30: 重大エラー

説明

戻りコード <insert\_1> が関数 <insert\_3> から戻されたため、プログラムが終了しました。

応答

障害の原因を修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9547**

リモート・チャンネルのタイプが、要求されたアクションに適していません。

重大度

30: 重大エラー

説明

リモート・マシン上のチャンネル <insert\_3> が適切なタイプではないため、要求された操作を実行できません。例えば、ローカル・チャンネルが送信側として定義されている場合、リモート・マシンはそのチャンネルを受信側または要求側として定義する必要があります。

応答

チャンネル名が正しく指定されていることを確認してください。正しい場合、リモート・チャンネルが正しく定義されていることを確認してください。

**AMQ9548**

メッセージが送達不能キューに入れられました。

重大度

10: 警告

説明

処理中に、メッセージが送達不能キューに入れられました。

応答

送達不能キューの内容を調べてください。各メッセージは、メッセージがキューに書き込まれた理由および最初にアドレス指定された場所を含む構造体に入れられます。

**AMQ9549**

伝送キュー <insert\_3> は MQGET では禁止されています。

重大度

20: エラー

説明

伝送キューが以前に MQGET で使用禁止にされたため、MQGET は失敗しました。

応答

なし。

**AMQ9550**

現時点では、チャンネル・プログラム <insert\_3> を停止できません。

重大度

30: 重大エラー

説明

チャンネル・プログラムは即時に終了できませんが、まもなく終了するはずです。

応答

チャンネルが短時間で終了しない場合は、STOP CHANNEL コマンドを再発行してください。

**AMQ9551**

プロトコルがリモート・ホストでサポートされていません。

重大度

30: 重大エラー

#### 説明

<insert\_4> のホストに対してチャンネル <insert\_3> 上で実行している操作は、ターゲット・ホストによってサポートされていません。

#### 応答

接続名パラメーターが正しく指定されていること、および使用中の製品のレベルに互換性があることを確認してください。

#### AMQ9552

セキュリティ・フローを受信しませんでした。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル <insert\_3> を介した通信中に、ローカル・セキュリティ出口がリモート・マシンからのセキュリティ・データを要求しました。セキュリティ・データが受信されなかったため、チャンネルはクローズしました。

#### 応答

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、リモート・マシンのセキュリティ出口を確実に正しく定義する必要があります。

#### AMQ9553

この関数はサポートされていません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

試行された <insert\_3> 関数 <insert\_4> は、現在このプラットフォームではサポートされていません。

#### 応答

なし。

#### AMQ9554

ユーザーは許可を与えられていません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル操作を実行する許可がありません。

#### 応答

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ユーザーが正しいアクセス許可を持っているようにする必要があります。その後で、操作をやり直してください。

#### AMQ9555

ファイル形式エラーです。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ファイル <insert\_3> の形式が予期された形式ではありません。

#### 応答

ファイル名が正しく指定されていることを確認してください。

#### AMQ9556

チャンネル同期ファイルが欠落しているか、または壊れています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル同期ファイル <insert\_3> が欠落しているか、キュー・マネージャー <insert\_4> の保管されたチャンネル情報に対応していません。

## 応答

rcrmqobj コマンドを使用して同期ファイルを再作成します。

```
rcrmqobj -t syncfile (-m q-mgr-name)
```

### AMQ9556 (IBM i)

チャンネル同期ファイルが欠落しているか、または壊れています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル同期ファイル <insert\_3> が欠落しているか、キュー・マネージャー <insert\_4> の保管されたチャンネル情報に対応していません。

## 応答

RCRMQMOBJ コマンドを使用して同期ファイルを再作成します。

### AMQ9557

キュー・マネージャー・ユーザー ID 初期設定が失敗しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ユーザー ID を初期化するための呼び出しが、CompCode <insert\_1> および理由 <insert\_2> で失敗しました。

## 応答

エラーを訂正し、やり直してください。

### AMQ9558

リモート・チャンネル <insert\_3> は現在使用できません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル <insert\_3> のインスタンスをリモート・システム上で開始できなかったため、チャンネル・プログラムが終了しました。この原因は、次のいずれかである。

The channel is disabled.

The remote system does not have sufficient resources to run another instance of the channel.

In the case of a client-connection channel, the limit on the number of instances configured for the remote server-connection channel was reached.

## 応答

リモート・システムを調べて、チャンネルを必ず実行可能にしてください。操作を再試行してください。

### AMQ9560

同期ファイルの再作成 - プログラムが始動しました

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> の同期ファイルを再作成しています。

## 応答

なし。

### AMQ9561

同期ファイルの再作成 - プログラムが正常に完了しました

#### 重大度

0: 情報

**説明**

同期ファイルの再作成プログラムが正常に完了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9562**

同期ファイルは使用中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

同期ファイル <insert\_3> は使用中であり、再作成できません。

**応答**

チャンネル・アクティビティを停止して、rcrmqobj コマンドを再試行してください。

**AMQ9562 (IBM i)**

同期ファイルは使用中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

同期ファイル <insert\_3> は使用中であり、再作成できません。

**応答**

すべてのチャンネル・アクティビティを停止して、RCRMQMOBJ コマンドを再試行してください。

**AMQ9563**

同期ファイルが削除できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ファイル・システムが、エラー・コード <insert\_1> をファイル <insert\_3> に戻しました。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ファイル <insert\_3> が使用可能であり、使用中でないことを確認する必要があります。

**AMQ9564**

同期ファイルを作成できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ファイル・システムが、エラー・コード <insert\_1> をファイル <insert\_3> に戻しました。

**応答**

システム管理者に連絡してください。

**AMQ9565**

送達不能キューが定義されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_4> に送達不能キューが定義されていません。チャンネル <insert\_5> を介してメッセージを転送することはできません。理由コードは <insert\_1> です。宛先キューは <insert\_3> です。

**応答**

プログラムが送達不能キューにメッセージを書き込もうとする原因となった問題を解決するか、このキュー・マネージャーに送達不能キューを作成するかのいずれかを行ってください。

**AMQ9566**

MQSERVER 値が無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

MQSERVER 環境変数の値は <insert\_3> でした。変数の形式は「ChannelName/Protocol/ConnectionName」でなければなりません。

**応答**

MQSERVER 値を訂正して操作をやり直してください。

**AMQ9572**

メッセージ・ヘッダーが無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージ・ヘッダーが無効であるため、チャンネル <insert\_3> が停止しています。チャンネルの処理中に、ヘッダーが無効なメッセージが検出されました。送達不能キューは伝送キューとして定義されているため、メッセージがそこに入れられるとループが生じる可能性があります。

**応答**

メッセージのヘッダーが無効となる原因となった問題を修正します。

**AMQ9573**

アクティブ・チャンネルの最大数に達しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

他のチャンネルを開始するには、アクティブなチャンネルが多すぎます。現在定義されているアクティブ・チャンネルの最大数は <insert\_1> です。

**応答**

いくつかの作動中のチャンネルがクローズするまで待つか、チャンネル停止コマンドを使用していくつかのチャンネルをクローズします。いくつかのチャンネルが使用可能になった後で操作をやり直してください。アクティブ・チャンネルの最大数は、キュー・マネージャー構成ファイルの構成可能パラメーターです。

**AMQ9574**

これで、チャンネル <insert\_3> を開始できます。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> は開始を待機していましたが、アクティブ・チャンネルの最大数が実行中であったため、使用可能なチャンネルがありませんでした。1 つ以上のアクティブ・チャンネルがクローズしたため、このチャンネルを開始できるようになりました。

**AMQ9575**

DCE セキュリティー: ユーザーのログイン名を取得できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

WebSphere MQ MQI クライアント・アプリケーション・プロセス <insert\_1> を実行しているユーザーのログイン名を取得するためのシステム呼び出し <insert\_4> が、エラー値 <insert\_2> で失敗しました。これは、セキュリティ出口関数 create\_cred で発生しました。出口は、DCE デフォルト・ログイン・コンテキストを使用して、チャンネル <insert\_3> をオープンしようとしています。

**応答**

DCE デフォルト・ログイン・コンテキストを使用して実行する場合、アクションは不要です。DCE セキュリティー出口プリンシパルとしてユーザーのログイン名を使用して実行する場合は、MQ MQI クライアントを実行しているオペレーティング・システムの資料を調べて、<insert\_4> 呼び出しが成功するように必要に応じてオペレーティング・システムを再構成してください。

**AMQ9576**

DCE セキュリティー: 出口はメモリーを割り振れませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

DCE 出口は、必要なメモリーを取得できませんでした。 出口機能 <insert\_4> で障害が発生しました。 チャンネル <insert\_3> がクローズされました。

**応答**

より多くのメモリーを WebSphere MQ システムで使用できるようにして、関連するチャンネルを再始動します。

**AMQ9577**

DCE セキュリティー出口: パートナー名がありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

セキュリティー・コンテキストを開始する DCE セキュリティー出口に有効なパートナー名が渡されなかったため、チャンネル <insert\_3> がオープンされていません。 セキュリティー・コンテキストを開始するために DCE セキュリティー出口が呼び出される場合、MQCXP 構造の PartnerName フィールドに有効なパートナー名が指定されていることが不可欠です。 この呼び出しでは指定されていませんでした。 これは、使用法エラーの結果として発生する場合があります。例えば、セキュリティー出口をチャンネルの片側でのみ指定する場合などです。 エラーは、セキュリティー出口機能 savePartnerName から報告されました。

**応答**

DCE セキュリティー出口の使用法でエラーがないか確認します。例えば、一致するチャンネル定義の1つでのみ出口を指定していることが挙げられます。 検出されたエラーを訂正し、再試行してください。

**AMQ9578**

DCE セキュリティー: DCE 呼び出しからの戻りが正常ではありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

DCE チャンネル出口の1つが DCE から不良の戻りコードを受け取ったため、チャンネル <insert\_3> がクローズされました。

**応答**

major\_status <insert\_1> および minor\_status <insert\_2> 呼び出し <insert\_5> の意味については、該当する DCE マニュアルを参照してください。 その後、エラーを修正してください。 出口機能名は <insert\_4> です。

**AMQ9579**

DCE セキュリティー: パートナー名がターゲットと一致しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

トラステッド・チャンネル検査を実行するために DCE セキュリティー出口が要求されました。 チャンネル <insert\_3> の SCYDATA フィールドにターゲット・パートナー名 <insert\_4> が指定されました。 チャンネル <insert\_3> に関連付けられている実際のパートナー名は <insert\_5> でした。 そのため、セキュリティー出口はチャンネルを抑止しました。

**応答**

チャンネル <insert\_3> のチャンネル定義を調べ、パートナー・システム上の関連する名前が SCYDATA フィールドに指定されている名前と一致するように変更してください。

**AMQ9580**

DCE セキュリティー: 無効なメッセージを受け取りました。

**重大度**

30: 重大エラー

## 説明

チャンネル <insert\_3> 上の IBM 提供の DCE 出口が、一致する出口によって生成されていないメッセージ、または予期されたタイプのメッセージではないメッセージを受け取りました。header.mechanism フィールドの値は <insert\_1> でした。header.msgtype フィールドの値は <insert\_2> でした。エラーが検出された出口機能の名前は、<insert\_4> です。

## 応答

チャンネルの両側の出口が互換性のあるフローを生成していることを確認します。

### AMQ9581

DCE セキュリティー: 誤った出口が呼び出されました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

誤ったタイプの WebSphere MQ 出口として使用するために、チャンネル <insert\_3> 上の出口 <insert\_4> が呼び出されました。DCE\_SEC\_SCY\_CHANNELEXIT はセキュリティー出口として機能し、DCE\_SEC\_SRM\_CHANNELEXIT は送信、受信、またはメッセージ出口として機能します。出口に渡された ExitId パラメーターは <insert\_1> でした。

## 応答

出口定義を変更して、出口 <insert\_4> が正しく呼び出されるようにします。

### AMQ9582

DCE セキュリティー: 無効な出口機能が要求されました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

チャンネル <insert\_3> 上の出口 <insert\_4> が、無効な ExitReason (値 <insert\_1>) で呼び出されました。

## 応答

出口が互換性のあるリリースの WebSphere MQ 基本コードで実行されていることを確認してください。そうでない場合は、訂正してください。使用可能な場合は、生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

### AMQ9583

DCE セキュリティー出口は実行されませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

DCE\_SEC\_SRM\_CHANNELEXIT 出口がチャンネル <insert\_3> で呼び出されました。渡された pContext->メカニズム (<insert\_1>) の値が無効です。

## 応答

原因として、最初に DCE\_SEC\_SCY\_CHANNELEXIT セキュリティー出口を呼び出さずに DCE\_SEC\_SRM\_CHANNELEXIT 出口が呼び出されたことが考えられます。両方が実行されるか、どちらも実行されないように、システムを変更してください。

### AMQ9584

DCE セキュリティー: メッセージが短すぎます。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

着信メッセージを処理するために、DCE\_SEC\_SRM\_CHANNELEXIT 受信出口またはメッセージ出口がチャンネル <insert\_3> で呼び出されました。出口に指定された pDataLength パラメーターが、受信したメッセージが関連する出口の有効なメッセージとしては短すぎることを示しています。\*pData 長さの値は <insert\_1> でした。

**応答**

チャンネルの両側で互換性のある送信/受信/メッセージ出口が実行されるようにシステムを構成します。

**AMQ9585**

チャンネル・イニシエーターの最大数に到達しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

同時に使用できるチャンネル・イニシエーターの最大数に達しました。許可されるチャンネル・イニシエーターの数は、キュー・マネージャー構成ファイルの構成可能パラメーターです。

**応答**

1つ以上のチャンネル・イニシエーターがクローズするのを待って操作をやり直すか、さらに多くのイニシエーターを許可するように構成ファイルを変更してキュー・マネージャーを再始動します。

**AMQ9586**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを作成できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> でオブジェクト <insert\_4> を作成しようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9587**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトをオープンできません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> でオブジェクト <insert\_4> をオープンしようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9588**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを更新できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のオブジェクト <insert\_4> を更新しようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9589**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを照会できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のオブジェクト <insert\_4> を照会しようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9590**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを閉じることができません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のオブジェクト <insert\_4> をクローズしようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9591**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを準備できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> でオブジェクト <insert\_4> を準備しようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9592**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを解決できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のオブジェクト <insert\_4> を解決しようとしたましたが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9593**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトを削除できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_5> 上のオブジェクト <insert\_4> を削除しようとしたのですが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

システムで提供されている標準機能を使用して、問題 ID を記録してください。生成された出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能かどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9594**

使用法: runmqfmt [filename].

**重大度**

0: 情報

**説明**

runmqfmt の使用法の構文です。

**応答**

なし。

**AMQ9595**

使用法: endmqtsr [-w] [-m QMgrName]

**重大度**

10: 警告

**説明**

正しい使用法が示されています。

**応答**

endmqtsr プログラムに渡されたパラメーターを修正して、操作をやり直してください。

**AMQ9596**

キュー・マネージャー <insert\_3> がまだ実行中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> がまだ実行中のため、要求された操作を完了できません。

**応答**

キュー・マネージャーを終了して、操作をやり直してください。

**AMQ9597**

キュー・マネージャー <insert\_3> の WebSphere MQ リスナーがありません。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャー <insert\_3> のリスナー・プロセスがシステムに見つかりませんでした。

**応答**

なし。

**AMQ9598**

<insert\_1> WebSphere MQ リスナーはまもなく終了します。

**重大度**

0: 情報

**説明**

システムで検出された <insert\_1> リスナーのシャットダウンがスケジュールされています。

**応答**

なし。

**AMQ9599**

プログラムはキュー・マネージャー・オブジェクトをオープンできませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザー <insert\_3> がキュー・マネージャー <insert\_5> 上のキューまたはキュー・マネージャー・オブジェクト <insert\_4> をオープンしようとしたのですが、理由コード <insert\_1> で失敗しました。

**応答**

キューを必ず使用可能にして、操作を再試行してください。リモート・キュー・マネージャーからのメッセージの場合は、メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID に正しい権限があるか確認してください。

**AMQ9601**

プログラムは、このキュー・マネージャー上のキューを照会できませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

WebSphere MQ クラスターリング・リポジトリ・プログラムが、キュー・マネージャー <insert\_3> 上のキューを検出しようとした。呼び出しの1つが理由コード <insert\_1> で失敗しました。リポジトリ・コマンドがバックアウトされ、リポジトリ・プロセスが時間待ちになりました。

**応答**

エラーを訂正してください。リポジトリ・プロセスが再始動すると、バックアウト・コマンドを再度処理して続行します。

**AMQ9602**

最大チャンネル・プロセス数に達しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル・プロセスの数がすでに最大許容値を超えているため、チャンネルは開始できません。チャンネル・プロセスの最大数は、<insert\_1> として構成されています。この値は、キュー・マネージャー構成ファイル内の構成可能パラメーターです。

**応答**

操作中のチャンネルの一部がクローズするのを待ちます。いくつかのチャンネルが使用可能になった後で操作をやり直してください。

**AMQ9603**

プロセス・プール共用セグメントへのアクセス中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムは、プロセス・プール共用セグメントにアクセスできませんでした。

**応答**

チャンネル・プロセス・プール共用メモリーにアクセスしようとしたときに、<insert\_1> の値がサブシステムから戻されました。システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ログ・ファイルを調べて、プログラムがプロセス・プール共用セグメントにアクセスできなかった理由を判別する必要があります。

**AMQ9604**

チャンネル <insert\_3> が予期せずに終了しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> を実行しているプロセスまたはスレッドは、もう実行されていません。プロセス <insert\_2> のチェック・プロセス・システム・コールが、<insert\_1> を戻しました。

**応答**

実行中のチャンネルのリストからこのチャンネルの項目が除去されているため、即時アクションは必要ありません。システム管理者に連絡してください。システム管理者は、オペレーティング・システム・プロセス・ジョーカーを調べてチャンネル・プロセスが終了した理由を判別する必要があります。

**AMQ9605**

<insert\_1> WebSphere MQ リスナーが終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

システム内で検出された <insert\_1> 個のリスナーが終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9606**

WebSphere MQ リスナーが終了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

システムで検出された 1 つのリスナーが終了しました。

**応答**

なし。

**AMQ9608**

リモート・リソースをリカバリー中です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リソースがリカバリー中であるため、チャンネル <insert\_3> はリモート・キュー・マネージャーとの正常な接続を確立できませんでした。

**応答**

後でチャンネルを再始動してください。問題が解決しない場合は、リモート・キュー・マネージャーのエラー・ログを調べて、問題の原因に関する完全な説明を参照してください。

**AMQ9610**

AMQ<insert\_1> メッセージが抑制されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

<insert\_2> タイプ AMQ のメッセージ <insert\_1> が抑止されました。

**応答**

メッセージ抑止は、MQ\_CHANNEL\_SUPPRESS\_MSGS および MQ\_CHANNEL\_SUPPRESS\_INTERVAL の各環境変数によって制御されます。

**AMQ9611**

クライアント・チャンネル・テーブルの再ビルド・プログラムが正常に完了しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

クライアント・チャンネル・テーブルの再ビルド・プログラムが正常に完了しました。

## 応答

なし。

### AMQ9612

<insert\_1> WebSphere MQ リスナーを終了できませんでした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

指定されたキュー・マネージャーの WebSphere MQ リスナーを終了する要求が完了しましたが、<insert\_1> リスナーを停止できませんでした。リスナーを停止できない理由は次のとおりです。

リスナーのプロセスに、またアクティブになっているチャンネルが含まれている。

## 応答

アクティブ・チャンネルは、「STOP CHANNEL」コマンドを使用するか、またはキュー・マネージャーを終了して、end-listener 要求を再発行すると停止できます。

### AMQ9614 (IBM i)

証明書は信頼できる認証局によって署名されていません。

## 重大度

0: 情報

## 説明

チャンネル <insert\_3> を開始しようとしたのですが、失敗しました。SSL ハンドシェイクで使用された証明書が、このキュー・マネージャーの証明書トラスト・リストにリストされている認証局 (CA) によって署名されていないためです。このエラーが発生するのは、キュー・マネージャーの SSL 鍵リポジトリが「\*SYSTEM」として指定され、デジタル証明書マネージャーのアプリケーション定義が変更されて CA トラスト・リストが指定されている場合です。

## 応答

デジタル証明書マネージャーを使用して、必要な認証局 (CA) 証明書をアプリケーション定義 CA トラスト・リストに追加します。

### AMQ9615 (IBM i)

Queue Manager is not registered with DCM.

## 重大度

0: 情報

## 説明

キュー・マネージャーが SSL サーバー・アプリケーションとしてデジタル Certificate Manager (DCM) に登録されていないため、チャンネル <insert\_3> を開始しようとして失敗しました。このエラーが発生するのは、キュー・マネージャーの SSL 鍵リポジトリが「\*SYSTEM」として指定されていても WebSphere MQ がキュー・マネージャーを DCM に SSL サーバー・アプリケーションとして登録できない場合、またはキュー・マネージャーのアプリケーション定義が DCM から手動で除去されている場合です。

## 応答

CHGMQM SSLKEYR(\*SYSTEM) を発行して、キュー・マネージャーをデジタル証明書マネージャーに再登録してください。失敗する場合、デジタル証明書マネージャーを使用してアプリケーション定義を手動で追加する必要があります。詳細については、WebSphere MQ セキュリティー資料を参照してください。

### AMQ9616

提案された CipherSpec はサーバーでは使用できません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

チャンネルのサーバー側にある SSL または TLS サブシステムは、SSL または TLS クライアントによって提示されたこの CipherSpec を拒否するような構成となっています。この拒否は、セキュア・ソケット・ハンドシェイク中に発生しました (つまり、提案された CipherSpec がサーバー・チャンネル定義の CipherSpec と比較される前に発生しました)。

このエラーは一般に、受け入れ可能な CipherSpecs の選択が以下のいずれかの方法で制限された場合に発生します。

(a) サーバー・キュー・マネージャーの SSLFipsRequired 属性が YES に設定されており、チャンネルがサーバーで FIPS 認定されていない CipherSpec を使用している。

(b) サーバー・キュー・マネージャーの EncryptionPolicySuiteB 属性が NONE 以外の値に設定されており、チャンネルがサーバーの構成されたスイート B セキュリティー・レベルを満たしていない CipherSpec を使用している。

チャンネルは「<insert\_3>」です。場合によっては、その名前を判別できず、「? ???」と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

提案された CipherSpec が SSL サーバーで使用不可であった理由を分析してください。クライアント CipherSpec を変更するか、または SSL サーバーを変更して、元のクライアント CipherSpec を受け入れるようにしてください。チャンネルを再始動します。

FIPS 標準とスイート B 標準は定期的に更新されるため、このメッセージは WebSphere MQ メンテナンスの適用後に発生する可能性があります。そのような変更が生じたら、最新の標準を実装するために、WebSphere MQ も更新されます。その結果、メンテナンスの適用後に動作が変わることがあります。WebSphere MQ で施行されている FIPS 標準とスイート B 標準のバージョンの詳細については、[README ファイル](#) を参照してください。

#### AMQ9617

FIPS を要求するパラメーターの値が無効です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

MQ MQI クライアントで実行中の SSL チャンネルの開始に失敗しました。これは、MQSSLFIPS 環境変数または MQSCO FipsRequired フィールドに指定された値が無効であるためです。指定された値は "<insert\_3>" でした。

#### 応答

MQSSLFIPS 環境変数を設定するか、または MQSCO FipsRequired フィールドを有効な値に設定してください。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9618

SSLCRLNL 属性が名前のない名前リストを指しています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSLCRLNL キュー・マネージャー属性が空の名前のリストを持つ名前リストを指しているため、SSL チャンネルを開始できませんでした。

#### 応答

OCSP または CRL 検査が必要な場合は、SSLCRLNL によって参照される名前リストを、認証情報オブジェクト名の空ではないリストを使用してセットアップしてください。OCSP または CRL 検査が不要な場合は、SSLCRLNL キュー・マネージャー属性を消去してください。障害の発生したチャンネルを再始動してください。

#### AMQ9619

SSL はスレッド化されていない HP-UX MQ MQI クライアントからは実行できません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

HP-UX では、SSL は、スレッド化されていないクライアント・ライブラリーにリンクされた WebSphere MQ MQI クライアントからは実行できません。

#### 応答

スレッド化されたクライアント・ライブラリーにクライアント・アプリケーションを再リンクするか、またはこのアプリケーションから SSL を使用しないようにしてください。

## AMQ9620

チャンネル <insert\_3> 上の SSL 関数の呼び出しで内部エラーが発生しました。

### 重大度

30: 重大エラー

### 説明

SSL サポートを提供をするために使用される機能から、ソフトウェア問題を示すエラーが返されました。戻されたエラー・コードは <insert\_1> でした。関数呼び出しは <insert\_4> でした。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'???' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

### 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ9620 (IBM i)

<insert\_4> の呼び出しで予期しない SSL エラーが発生しました。

### 重大度

0: 情報

### 説明

チャンネル <insert\_3> の関数 <insert\_4> から予期しない SSL エラーが戻されました。戻されたエラー・コードは <insert\_1> でした。GSKit エラー・コードは、MQ のマニュアル、およびライブラリー QSYSINC 内の H ファイルの GSKSSL メンバーにも記載されています。

### 応答

「システム管理」マニュアルの「問題判別」セクションにリストされている項目を収集し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。

## AMQ9621

チャンネル <insert\_3> で SSL 関数の呼び出しでエラーが無視されました。

### 重大度

10: 警告

### 説明

SSL サポートを提供をするために使用される機能から、ソフトウェア問題を示すエラーが返されました。戻されたエラー・コードは <insert\_1> でした。関数呼び出しは <insert\_4> でした。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'???' と表示されます。このエラーは、チャンネル操作を中断するほど重大なものとは見なされません。チャンネル操作は影響を受けませんでした。

### 応答

なし。

## AMQ9622

AUTHINFO オブジェクト <insert\_1> が存在しません。

### 重大度

30: 重大エラー

### 説明

AUTHINFO オブジェクトの名前リストに <insert\_1> という名前が含まれていますが、その名前の AUTHINFO オブジェクトが存在しないため、チャンネルまたはチャンネル・プロセスを開始できませんでした。

### 応答

SSLRLNL キュー・マネージャー属性で指定された名前リストにあるすべての名前を SSL チャンネルで使用される AUTHINFO オブジェクトに対応させてください。障害の発生したチャンネルまたはチャンネル・プロセスを再始動してください。

**AMQ9623**

AUTHINFO オブジェクト <insert\_3> を照会中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

AUTHINFO オブジェクト <insert\_3> に対して照会が実行されたときに理由コード <insert\_1> が戻されたため、チャンネルまたはチャンネル・プロセスを開始できませんでした。

**応答**

「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」の MQRC\_ 値を参照して理由コード <insert\_1> の意味を判別し、エラーを訂正して、失敗したチャンネルまたはチャンネル・プロセスを再始動してください。

**AMQ9624**

AUTHINFO オブジェクト <insert\_3> のタイプが CRLLDAP でも OCSP でもありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSLCRLNL 名前リストで指定された AUTHINFO オブジェクトの AUTHTYPE が有効ではないため、チャンネルまたはチャンネル・プロセスを開始できませんでした。代わりに、タイプ値は <insert\_1> です。

**応答**

SSLCRLNL キュー・マネージャー属性で指定された名前リストには、AUTHTYPE が CRLLDAP または AUTHTYPE が OCSP の AUTHINFO オブジェクトのみを組み込んでください。チャンネルまたはチャンネル・プロセスを再始動してください。

**AMQ9625**

AUTHINFO オブジェクト <insert\_3> が無効な CONNAME で指定されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSLCRLNL 名前リストで指定された AUTHINFO オブジェクトに無効な CONNAME パラメーターが指定されているため、チャンネルまたはチャンネル・プロセスを開始できませんでした。無効な値は <insert\_4> です。

**応答**

無効なパラメーターを修正してください。チャンネルまたはチャンネル・プロセスを再始動してください。

**AMQ9626**

SSL の初期化でチャンネルがハングしています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSL サブシステムの初期化中に別のチャンネルがハングしているため、現行のチャンネルを開始できません。

**応答**

別のチャンネルがハングしている理由を調べてください。これが修正されたら、チャンネルを再始動します。

**AMQ9627**

SSL 鍵リポジトリ用のパスおよびシステム名が指定されていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSL 鍵リポジトリのディレクトリー・パスおよびファイル・ステム名が指定されていません。MQ MQI クライアント・システムでは、このファイルのデフォルト・ロケーションがありません。そのため、このファイルにアクセスできない場合は SSL 接続が不可能です。

**応答**

MQSSLKEYR 環境変数または MQCONNX API 呼び出しを使用して、SSL 鍵リポジトリのディレクトリー・パスおよびファイル・システム名を指定します。

**AMQ9628**

CRL を含む LDAP サーバーが無効な CONNAME で指定されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

CRL を含む LDAP サーバーの 1 つで無効な CONNAME が検出されたため、WebSphere MQ MQI クライアントは接続できませんでした。無効な値は <insert\_3> です。

**応答**

無効なパラメーターを修正してください。LDAP の詳細がキュー・マネージャー・システムで定義されている場合、クライアント定義を再生成します。再接続してください。

**AMQ9629**

SSL 暗号ハードウェア・パラメーターが不正です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSL 暗号ハードウェアの使用を指定または制御するために、ストリング <insert\_4> が提供されました。このストリングは、どの MQ SSL 暗号パラメーター・フォーマットにも準拠していません。チャンネルは <insert\_3> です。チャンネルは開始されませんでした。

**応答**

SSL 暗号ハードウェア・パラメーターを修正して、チャンネルを再始動してください。

**AMQ9630**

期限切れの SSL 証明書がロードされました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ロードされた SSL 証明書は壊れていませんでしたが、日付フィールドに対する妥当性検査に失敗しました。証明書の有効期限が切れているか、日付がまだ有効ではない (例えば、開始日が今日の日付を過ぎている) か、または有効期間の日付範囲が誤っています (例えば、終了日が開始日よりも前になっている)。

**応答**

指定された SSL 証明書の有効期限日付が有効であることを確認します。

**AMQ9631**

SSL ハンドシェイク中にネゴシエーションされた CipherSpec が、チャンネル <insert\_3> に必要な CipherSpec と一致しません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_3> のローカル・エンドとリモート・エンドの CipherSpecs が一致していません。この不一致が解決されるまで、チャンネルは実行されません。ローカル・チャンネル定義に必要な CipherSpec は <insert\_4> です。SSL ハンドシェイク中にネゴシエーションされる CipherSpec の名前は <insert\_5> です。ネゴシエーションされた CipherSpec の名前を判別できない場合は、コードが表示されます。

**応答**

<insert\_3> のチャンネル定義を変更して、両端の CipherSpecs が一致するようにし、チャンネルを再始動してください。チャンネルの一方のエンドで使用される証明書が Global Server Certificate である場合、ネゴシエーションされた CipherSpec は、チャンネルのどちらのエンドで指定されたものとも一致しない可能性があります。SSL プロトコルでは、Global Server Certificate が自動的にネゴシエーションを行って高水準の暗号化を選択することができるからです。このような場合、Global Server Certificate の要件に合致する CipherSpec を指定してください。

### AMQ9631 (IBM i)

チャンネル <insert\_3> の終端にある CipherSpecs が一致しません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル <insert\_3> のローカル・エンドとリモート・エンドの CipherSpecs が一致していません。この不一致が解決されるまで、チャンネルは実行されません。ローカル CipherSpec は <insert\_4> で、リモート CipherSpec は <insert\_5> です。

#### 応答

<insert\_3> のチャンネル定義を変更して、両端の CipherSpecs が一致するようにし、チャンネルを再始動してください。

### AMQ9633

チャンネル <insert\_3> の SSL 証明書が正しくありません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL ハンドシェイク中に検出された証明書は、以下のいずれかの理由により、不正であると見なされません。

- (a) フォーマットが正しくなく、検証できない。
- (b) フォーマットは正しいが、認証局 (CA) ルートに対する検証が失敗し、ローカル・システムに他の証明書が保持されていた。
- (c) LDAP サーバーの証明書失効リスト (CRL) に含まれていた。
- (d) CRL が指定されていたが、その CRL が LDAP サーバーで見つからなかった。
- (e) OCSP 応答側プログラムが、証明書が失効していることを示した。

チャンネルは <insert\_1> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「????」と表示されることがあります。リモート・ホストは '<insert\_3>' です。チャンネルは開始されませんでした。

検証できなかった証明書の詳細は、 '<insert\_2>' です。

証明書検証エラーは 2222 でした。

#### 応答

上記の原因のうち、ご使用のシステムに該当するものを確認してください。エラーを訂正して、チャンネルを再始動してください。

### AMQ9634

SSL セキュリティー・コンテキストが期限切れです。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

保護されたメッセージを暗号化または暗号化解除する SSL 操作中に、リモート通話者がシャットダウンしたため、通信の保護に使用され、以前にリモート通話者との間で確立された SSL セキュリティー・コンテキストが期限切れになりました。保護されたメッセージは暗号化または暗号化解除されませんでした。この障害により、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合、名前が不明です。SSL 操作は <insert\_4> で、その完了コードは <insert\_5> でした。

#### 応答

リモート通話者がシャットダウンした理由を判別して、必要な場合はチャンネルを再始動します。シャットダウンは、システム管理者による制御終了の結果、またはエラーによる予期しない終了の結果として行われた可能性があります。SSL 操作については、Windows Schannel 解説書で説明されています。

### AMQ9635

チャンネル <insert\_3> は有効な CipherSpec を指定しませんでした。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル <insert\_3> は有効な CipherSpec を指定しませんでした。

#### 応答

有効な CipherSpec を指定するようにチャンネル <insert\_3> を変更します。

#### AMQ9635 (IBM i)

チャンネル <insert\_3> は有効な CipherSpec を指定しませんでした。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル <insert\_3> が有効な CipherSpec を指定しなかったか、このマシンにインストールされている IBM 暗号アクセス・プロバイダー製品から使用できない CipherSpec を指定しました。128 ビット暗号化アルゴリズムを使用する CipherSpec は、5722-AC3 (128 ビット) IBM 暗号アクセス・プロバイダーでのみ使用可能です。

#### 応答

チャンネル <insert\_3> を変更して、このマシンにインストールされている IBM Cryptographic Access Provider 製品から入手できる有効な CipherSpec を指定します。使用している CipherSpec が、このマシンの 5722-AC2 (56 ビット) IBM 暗号アクセス・プロバイダーまたは 5722-AC3 (128 ビット) IBM 暗号アクセス・プロバイダーのライセンス・プログラムで使用可能であるようにしてください。

#### AMQ9636

SSL 識別名がピア名と一致しません。チャンネル <insert\_3>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネルのリモート・エンドの SSL 証明書に含まれている識別名 <insert\_4> が、チャンネル <insert\_3> のローカル SSL ピア名と一致しません。チャンネルを開始するには、リモート・エンドの識別名が、指定されたピア名 (総称名も可) と一致している必要があります。

#### 応答

このリモート・システムが接続できるようにする必要がある場合は、ローカル・チャンネルの SSL ピア名の指定を変更して、チャンネルのリモート・エンドの SSL 証明書での識別名と一致するようにするか、またはチャンネルのリモート・エンドの正しい証明書を取得します。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9637

チャンネルに証明書がありません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネルに、SSL ハンドシェイクのために使用する証明書がありません。チャンネル名は <insert\_3> です ('????' の場合)。SSL 処理のこの段階では不明です。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

適切な証明書がチャンネルの両方の終端の鍵リポジトリで正しく構成されていることを確認してください。

WebSphere MQ V5.3 から V6 に移行済みで証明書がない場合は、SSL 鍵リポジトリの移行中の障害が原因である可能性があります。関係のあるエラー・ログを調べてください。孤立した証明書がある場合は、関連する欠落した認証局 (署名者) 証明書を取得して、これらの証明書と孤立した証明書を WebSphere MQ 鍵リポジトリにインポートしてから、チャンネルを再始動する必要があります。

#### AMQ9638

チャンネル <insert\_3> の SSL 通信エラーです。

#### 重大度

30: 重大エラー

## 説明

前のメッセージで報告されているように、チャンネルで予期しない SSL 通信エラーが発生しました。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

これに先行するメッセージで報告された問題について調査する。ローカルおよびリモート・コンソールのログで、ネットワーク・エラーの報告がないかを調べる。エラーを訂正して、チャンネルを再始動してください。

### AMQ9639

リモート・チャンネル <insert\_3> が CipherSpec を指定しませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リモート・チャンネル <insert\_3> が CipherSpec を指定しませんでした。ローカル・チャンネルはそれが指定されることを予期していました。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

リモート・チャンネル <insert\_3> を変更して CipherSpec を指定し、チャンネルの両端の CipherSpecs が一致するようにします。

### AMQ9640

SSL 無効なピア名、チャンネル <insert\_3>、属性 <insert\_5>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

チャンネル <insert\_3> の SSL ピア名に、無効またはサポートされていない識別名属性キー <insert\_5> が含まれています。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

チャンネルの SSL ピア名を訂正する。チャンネルを再始動します。

### AMQ9641

チャンネル <insert\_3> のリモート CipherSpec エラーです。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

チャンネル <insert\_3> のリモート・エンドで CipherSpec エラーが発生しました。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

リモート・システムのエラー・ログを調べて、CipherSpec の問題を見つけます。

### AMQ9642

チャンネル <insert\_3> の SSL 証明書がありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

チャンネル <insert\_3> は、SSL ハンドシェイク中に使用する証明書を提供しませんでした。リモート・キュー・マネージャーは証明書を必要とします。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

ローカル・キュー・マネージャーの鍵リポジトリまたは MQ MQI クライアントの鍵リポジトリに、そのキュー・マネージャーまたはクライアントに関連付けられた SSL 証明書が必ず含まれるようにしてください。または、適切であれば、リモート・チャンネルの定義を変更して SSLCAUTH 属性を OPTIONAL に設定し、SSLPEER 値の設定は行わないようにしてください。

WebSphere MQ V5.3 から V6 に移行済みで証明書がない場合は、SSL 鍵リポジトリの移行中の障害が原因である可能性があります。関係のあるエラー・ログを調べてください。孤立した証明書がある場

合は、関連する欠落した認証局 (署名者) 証明書を取得して、これらの証明書と孤立した証明書を WebSphere MQ 鍵リポジトリにインポートしてから、チャンネルを再始動する必要があります。

#### AMQ9642 (IBM i)

チャンネル <insert\_3> の SSL 証明書がありません。

##### 重大度

0: 情報

##### 説明

チャンネル <insert\_3> は、SSL ハンドシェイク中に使用する証明書を提供しませんでした。リモート・キュー・マネージャーは証明書を必要とします。チャンネルは始動されませんでした。

##### 応答

キュー・マネージャーの SSL 鍵リポジトリが「\*SYSTEM」として指定されている場合、証明書がデジタル証明書マネージャーでキュー・マネージャーのアプリケーション記述と関連付けられているようにしてください。または、適切であれば、リモート・チャンネルの定義を変更して SSLCAUTH 属性を OPTIONAL に設定し、SSLPEER 値の設定は行わないようにしてください。

#### AMQ9643

チャンネル <insert\_3> のリモート SSL ピア名エラーです。

##### 重大度

30: 重大エラー

##### 説明

チャンネル <insert\_3> のリモート・エンドで SSL ピア名エラーが発生しました。チャンネルは始動されませんでした。

##### 応答

リモート・システムのエラー・ログを調べて、ピア名の問題を見つけます。

#### AMQ9645

正しくラベル付けされた SSL 証明書がチャンネル <insert\_3> にはありません。

##### 重大度

30: 重大エラー

##### 説明

使用中の鍵データベース・ファイルは、正しいラベルの SSL 証明書でセットアップされていません。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「????」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

##### 応答

正しいラベルの SSL 証明書を現行の鍵データベース・ファイルに追加します。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9646

チャンネル <insert\_3> は、どの LDAP CRL サーバーにも接続できませんでした。

##### 重大度

30: 重大エラー

##### 説明

LDAP 証明書失効リスト (CRL) サーバーが指定されましたが、いずれとも接続を確立できませんでした。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

##### 応答

LDAP CRL サーバーの指定が正しいことを確認してください。正しい場合、サーバーが稼働中であること、およびそれらのサーバーにアクセスするためのネットワーキングが正しく機能していることを確認してください。エラーがある場合は修正して、チャンネルを再始動してください。

#### AMQ9647

SSL 鍵リポジトリでの入出力エラー。

##### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL 鍵リポジトリを読み取ろうとして、入出力エラーが発生しました。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

鍵リポジトリの読み取り中に入出力の問題が発生した理由を分析してください。エラーが検出された場合は修正します。あるいは、一時的な問題の可能性があります。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9648

SSL 鍵リポジトリが無効な内部形式になっています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL 鍵リポジトリが無効な内部形式になっています。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

SSL 鍵リポジトリを再作成して、チャンネルを再始動してください。

#### AMQ9649

SSL 鍵リポジトリに重複した鍵があります。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL 鍵リポジトリに、同じ鍵を持つ複数の項目があります。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

鍵管理ツールを使用して、重複した鍵を除去してください。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9650

SSL 鍵リポジトリに、ラベルが重複している項目が含まれています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL 鍵リポジトリに、同じラベルを持つ複数の項目があります。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

鍵管理ツールを使用して、重複した項目を除去してください。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9651

SSL 鍵リポジトリが壊れているか、または不正なパスワードを持っています。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL 鍵リポジトリが壊れているか、そのパスワード ID が誤っています。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

鍵管理ツールを使用して、新規パスワードで鍵リポジトリを再作成してください。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9652

リモート SSL 証明書の有効期限が切れました。

#### 重大度

30: 重大エラー

## 説明

チャンネルのリモート・エンドで MQ によって使用されている SSL 証明書の有効期限が切れました。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

鍵管理ツールを使用して、MQ にチャンネルのリモート・エンドの現行 SSL 証明書を提供してください。チャンネルを再始動します。

### AMQ9653

SSL トレース・ファイルを開くことができませんでした。

## 重大度

10: 警告

## 説明

SSL トレース・ファイルを開くことができませんでした。SSL トレース・ファイルはディレクトリ /var/mqm/trace に作成され、AMQ.SSL.TRC および AMQ.SSL.TRC.1。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。このエラーは、チャンネル操作を中断するほど重大なものと見なされません。チャンネル操作は影響を受けませんでした。

## 応答

/var/mqm/trace というディレクトリがあること、および WebSphere MQ が実行されるユーザー ID にそのディレクトリのファイルを作成およびオープンするための許可とスペースがあることを確認してください。問題を修正すると、SSL トレース出力が得られます。

### AMQ9654

リモート・システムから無効な SSL 証明書を受信しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リモート・システムから受信した SSL 証明書は壊れていませんでしたが、ASN フィールドおよび日付ではない項目に対する妥当性検査に失敗しました。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

さらに、このエラーは証明書検証エラー 8(ssl\_rc) でも表示されます - GSK\_ERROR\_CERT\_VALIDATION。このエラーは、証明書を検証できないときや、証明書が鍵データベース内に存在しないために証明書チェーンを作成できないときに生じます。

## 応答

リモート・システムに有効な SSL 証明書があることを確認します。チャンネルを再始動します。

### AMQ9655

GSKit SSL サポートをロードしているときに問題が発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

MQ の一部としてインストールされる GSKit というコンポーネントを使用して MQ SSL サポートがこのプラットフォームで提供されています。GSKit で、ダイナミック・リンク・ライブラリーの 1 つをロードしているときに内部の問題が発生しました。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

MQ をアンインストールしてから、再インストールしてください。チャンネルを再始動します。

### AMQ9656

リモート・システムから無効な SSL 証明書を受信しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

リモート・システムから受信した SSL 証明書は壊れていませんでしたが、ASN フィールドに対する妥当性検査に失敗しました。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

リモート・システムに有効な SSL 証明書があることを確認します。チャンネルを再始動します。

### AMQ9657

鍵リポジトリを開くことができませんでした (チャンネル <insert\_3>)。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

鍵リポジトリを開くことができませんでした。鍵リポジトリは存在しないか、誤ったアクセス許可が関連付けられています。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

指定する鍵リポジトリが存在すること、および関連する MQ プロセスがその鍵リポジトリから読み取ることができるアクセス許可となっていることを確認します。チャンネルを再始動します。

### AMQ9658

無効な SSL 証明書が見つかりました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

壊れていないが、日付フィールドに対する妥当性検査に失敗した SSL 証明書が検出されました。証明書の有効期限が切れているか、日付がまだ有効ではない (つまり、開始日が今日よりも先の日付である) か、または有効期間の日付範囲が間違っています (例えば、終了日が開始日よりも前になっている)。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

ローカル・システムとリモート・システムの両方に、有効で最新の SSL 証明書があることを確認してください。チャンネルを再始動します。

### AMQ9659

障害が SSL ハンドシェイク中に起こりました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSL ハンドシェイクまたは関連するアクティビティー中に、障害が発生しました。障害 <insert\_4> が原因で、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合 名前は不明です。

## 応答

この問題に関連した情報については、WebSphere MQ エラー・ログで前に出されたメッセージを参照してください。

### AMQ9660

SSL キー・リポジトリ: パスワード保管ファイルがないか、または使用できません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSL 鍵リポジトリは、MQ がアクセスするためのパスワードを取得できないために使用できません。このエラーが発生した理由は次のとおりです。

- (a) 鍵データベース・ファイルおよびパスワードの保管ファイルが、鍵リポジトリ用に構成されたロケーションに存在しない。
- (b) 鍵データベース・ファイルは正しい場所に存在するが、パスワードの保管ファイルが作成されていない。
- (c) ファイルは正しい場所に存在するが、MQ が実行されているユーザー ID に読み取るためのアクセス権がない。

(d) ファイルの一方または両方が壊れている。

チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

#### 応答

鍵リポジトリ変数が鍵データベース・ファイルの場所に設定されているようにします。パスワードの保管ファイルが同じディレクトリー内の鍵データベース・ファイルに関連付けられ、MQ が実行されているユーザー ID に両方のファイルへの読み取り権限があるようにします。両方のファイルがすでに存在して正しい場所で読み取り可能である場合、それらを削除して再作成してください。チャンネルを再始動します。

#### AMQ9661

チャンネル <insert\_3> 上のピアからの SSL データが正しくありません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネルのリモート・エンドから不正な SSL データを受信したため、SSL チャンネルは停止しました。破損の性質について詳しくは、GSKit 戻り値 <insert\_1> を参照してください (GSKit 戻り値は、MQ マニュアルに記載されています)。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。

#### 応答

チャンネルのリモート・エンドで SSL をサポートするバージョンの MQ に接続していることを確認します。チャンネルの 2 つのエンドの間のネットワークを調べて、メッセージ破損の考えられる原因が存在するかどうか確認してください。問題がある場合は修正して、チャンネルを再始動してください。

#### AMQ9661 (IBM i)

チャンネル <insert\_3> 上のピアからの SSL データが正しくありません。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

チャンネルのリモート・エンドから不正な SSL データを受信したため、SSL チャンネルは停止しました。破損の性質について詳しくは、GSKit 戻り値 <insert\_1> を参照してください (GSKit 戻り値は、MQ マニュアルに記載されています)。また、ライブラリー QSYSINC 内の H ファイルの GSKSSL メンバーにも記載されています)。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。

#### 応答

リモート・キュー・マネージャーおよびチャンネル・リスナーが実行されていること、およびチャンネルのリモート・エンドで SSL をサポートするバージョンの MQ に接続していることを確認します。チャンネルの 2 つのエンドの間のネットワークを調べて、メッセージ破損の考えられる原因が存在するかどうか確認してください。問題がある場合は修正して、チャンネルを再始動してください。

#### AMQ9662

SSL はサポートしないものを見つけました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

このエラーは、次のようないくつかの理由によって発生します。

(a) 特定タイプの暗号ハードウェアがプラットフォームでサポートされていない (例えば、nCIPHER nFast および Rainbow Cryptoswift が現在ではサポートされていない)。

(b) 暗号ハードウェアの暗号方式がエラーを返した。

(c) リモート証明書の検査時に X509 一般名の形式がサポートされていなかった。MQ に組み込まれている GSKit SSL プロバイダーは、rfc822、DNSName、directoryname、uniformResourceID、および IPAddress の形式のみをサポートします。

チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

ご使用の暗号ハードウェアが現在のプラットフォームでサポートされていることを確認して、暗号ハードウェアをテストして正しく機能していることを確認してください。ご使用のリモート証明書が、リストされている X509 一般名の形式に準拠していることを確認してください。問題を修正してチャンネルを再始動してください。

### AMQ9663

リモート・システムから無効な SSL 証明書を受信しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

リモート・システムから受信した SSL 証明書は、その署名に対する妥当性検査に失敗しました。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

リモート・システムに有効な SSL 証明書があることを確認します。チャンネルを再始動します。

### AMQ9664

CRL LDAP サーバーのユーザー ID が正しくありません。SSL チャンネル <insert\_3>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

LDAP サーバーでの証明書失効リスト (CRL) の検査が、ローカルの MQ システムに構成されました。LDAP サーバーに構成されたユーザー ID 情報が間違っています。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、「????」と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

ローカルに構成した CRL LDAP サーバーのユーザー ID 情報を確認してください。見つかった問題を解決して、チャンネルを再始動してください。

### AMQ9665

SSL 接続がチャンネル <insert\_3> のリモート・エンドによってクローズされました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSL ハンドシェイク中に SSL 接続がチャンネルのリモート・エンドによってクローズされました。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

チャンネルのリモート・エンドで SSL 関連のエラーが発生しているかどうか確認します。エラーを修正してチャンネルを再始動してください。

### AMQ9666

CRL LDAP サーバーへのアクセス・エラー。SSL チャンネル <insert\_3>。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

LDAP サーバーでの CRL 検査が、ローカルの MQ システムに構成されました。リモート・システムから証明書を検証しようと CRL LDAP サーバーにアクセスしているときにエラーが見つかりました。以下の原因が考えられる。

- (a) どの LDAP サーバーにも接続できない、または
- (b) 証明書の発行者の識別名 (DN) が LDAP サーバーの DIT で定義されていない。

チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

ローカルに構成した CRL LDAP サーバーへのアクセスを確認してください。見つかった問題を訂正して、チャンネルを再始動してください。

### AMQ9667

CRL LDAP サーバーのユーザー名またはパスワードが正しくありません。SSL チャンネル <insert\_3>。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

LDAP サーバーでの証明書失効リスト (CRL) の検査が、ローカルの MQ システムに構成されました。LDAP サーバーに構成されたユーザー名またはパスワード情報が間違っています。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

ローカルに構成した CRL LDAP サーバーのユーザー名およびパスワード情報を確認してください。見つかった問題を解決して、チャンネルを再始動してください。

### AMQ9668

指定された PKCS #11 共用ライブラリーをロードできませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

GSK\_PKCS11 SSL CryptoHardware パラメーターの PKCS #11 ドライバー・パス・フィールドで MQ に指定された PKCS #11 共用ライブラリーをロードしようとして失敗しました。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「????」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

PKCS #11 共用ライブラリーが指定されたロケーションに存在し、有効であることを確認します。チャンネルを再始動します。

### AMQ9669

PKCS #11 トークンが見つかりませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

PKCS #11 ドライバーは、GSK\_PKCS11 SSL CryptoHardware パラメーターの PKCS #11 トークン・ラベル・フィールドで MQ に指定されたトークンを見つけることができませんでした。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

指定されたラベルの PKCS #11 トークンが存在することを確認してください。チャンネルを再始動します。

### AMQ9670

PKCS #11 カードが存在しません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

PKCS #11 カードがスロットに存在しません。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

正しい PKCS #11 カードがスロットに存在することを確認します。チャンネルを再始動します。

### AMQ9671

指定された PKCS #11 トークンのパスワードが無効です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

PKCS #11 トークンにアクセスするためのパスワードが無効です。これは、GSK\_PKCS11 SSL CryptoHardware パラメーターの PKCS #11 トークン・パスワード・フィールドで MQ に指定されています。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

GSK\_PKCS11 で指定された PKCS #11 トークン・パスワードが GSK\_PKCS11 で指定された PKCS #11 トークンへのアクセスを許可することを確認します。チャンネルを再始動します。

## AMQ9672

SSL セキュリティー呼び出しが失敗しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

セキュア・チャンネル (Schannel) SSL プロバイダーへの SSPI 呼び出しが失敗しました。この障害により、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合名前は不明です。

## 応答

Windows のチャンネル・リファレンス・マニュアルを参照して、SSPI 呼び出し <insert\_4> の状況 <insert\_5> の意味を判別してください。障害を訂正し、必要であればチャンネルを再始動してください。

## AMQ9673

SSL クライアントのハンドシェイクが失敗しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSL クライアントのハンドシェイク時に、セキュア・チャンネル (Schannel) SSL プロバイダーへの SSPI 呼び出しが失敗しました。この障害により、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合名前は不明です。

## 応答

Windows チャンネル・リファレンス・マニュアルを参照して、SSPI 呼び出し <insert\_5> の状況 <insert\_4> の意味を判別してください。障害を訂正し、必要であればチャンネルを再始動してください。

## AMQ9674

SSL セキュリティー呼び出し中に不明エラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

セキュア・チャンネル (Schannel) SSL プロバイダーへの SSPI 呼び出し中に不明エラーが発生しました。エラーの原因は、Windows SSL の問題による場合、一般的な Windows の問題による場合、または不正な WebSphere MQ データが呼び出し中に使用された場合があります。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。エラーにより、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合名前は不明です。

## 応答

Windows のチャンネル・リファレンス・マニュアルを参照して、SSPI 呼び出し <insert\_4> の状況 <insert\_5> の意味を判別してください。マニュアルを使用して問題を解決できる場合は、障害を訂正し、必要に応じてチャンネルを再始動してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9675

要求された証明書が見つかりませんでした。

### 重大度

30: 重大エラー

### 説明

証明書が見つからなかったため、ストア <insert\_3> 内の <insert\_4> <insert\_5> として識別された証明書の要求が失敗しました。Windows エラー・コードが <insert\_1> に設定されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

### 応答

この値がゼロ以外の場合は、Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1> の意味を判別してください。指定した証明書が正しい証明書ストアへコピーされ、削除されていないかどうかを確認してください。WebSphere MQ エクスプローラー管理アプリケーションを使用して、WebSphere MQ と併用するための証明書ストアを構成します。問題が解決しない場合は、ご使用のシステムで提供されている標準的な機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存して、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) のいずれかで解決策が既に示されているかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9676

Windows 暗号保守ライブラリーをロードできませんでした。

### 重大度

30: 重大エラー

### 説明

WebSphere MQ では、暗号機能を実行するために crypt32.dll が使用可能であることが必要です。このライブラリーをロードしようとして、Windows エラー・コード <insert\_1> が戻されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

### 応答

Windows 解説書を参照して、エラー・コード <insert\_1> の意味を判別してください。crypt32.dll ファイルが使用可能であり、破損していないことを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9677

Windows セキュリティー保守ライブラリーをロードできませんでした。

### 重大度

30: 重大エラー

### 説明

WebSphere MQ では、SSL 機能を実行または構成するために <insert\_3> が使用可能になっている必要があります。このライブラリーをロードしようとして、Windows エラー・コード <insert\_1> が戻されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

### 応答

Windows 解説書を参照して、エラー・コード <insert\_1> の意味を判別してください。<insert\_3> ファイルが使用可能であり、破損していないことを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ9678**

証明書 <insert\_4>/<insert\_5> はストア <insert\_3> に既に存在しています。

**重大度**

10: 警告

**説明**

証明書ストア <insert\_3> には、<insert\_4>、シリアル番号 <insert\_5> の発行者名で識別される、指定された証明書が既に含まれています。既存の証明書は置き換えられませんでした。

**AMQ9679**

証明書ストア <insert\_3> をオープンできませんでした。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

証明書ストア <insert\_3> をオープンできませんでした。また、Windows エラー・コード <insert\_1> で失敗しました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

**応答**

この値がゼロ以外の場合は、Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1> の意味を判別してください。ご使用の(クライアント接続の)MQSSLKEYR 環境変数、または (WebSphere MQ キュー・マネージャーの)SSLKEYR キュー・マネージャー属性が正しく定義されていること、および指定したファイル・パスが有効であることを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ9680**

指定した証明書ファイルで問題が見つかりました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ファイル <insert\_3> から証明書を読み取ろうとして、問題が発生しました。ファイルが壊れているか、正しくフォーマットされていない可能性があります。報告された Windows エラー・コードは <insert\_1> です。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

**応答**

証明書ファイルが有効で完全であること、および WebSphere MQ でサポートされるファイル形式のいずれかであることを確認してください。問題を解決できない場合は、システムで提供されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能かどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ9681**

このシステムでは要求された機能はサポートされていません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このシステムでサポートされていない SSL 関数が試行されました。a) 秘密鍵データを使用した pfx 形式の証明書ファイルのインポートは、Windows 2000 またはそれ以降でのみサポートされます。b) システムにインストール済みのセキュリティー・ライブラリーが正しいレベルでなく、前提条件の機能がありません。Windows 2000 以前のシステムでは、Internet Explorer 4.1 またはそれ以降をインストールする必要があります。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

前提条件ソフトウェアがない場合は、必要なレベルのソフトウェアをインストールして、操作を再試行してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9682

WebSphere MQ SSL ライブラリーが初期化されていません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

WebSphere MQ SSL ライブラリー「amqcssl.dll」が、最初に呼び出しプロセスによって初期化されずに呼び出されました。

## 応答

amqcssl 機能呼び出しを発行する前に初期化機能が呼び出されていることを確認します。

## AMQ9683

この証明書の秘密鍵データはエクスポート可能ではありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

証明書から秘密鍵データをエクスポートしようとしたのですが、証明書のプロパティでは許可されていません。WebSphere MQ では、証明書ストア間で個人証明書をコピーするときに、秘密鍵データがエクスポート可能であることが必要です。Windows 暗号 API がエラー・コード <insert\_1> を戻しました。

## 応答

認証局から証明書を要求する時には、秘密鍵データがエクスポート可能であるとマークし、WebSphere MQ により証明書および秘密鍵データを WebSphere MQ ストアにコピーできるようにする必要があります。この問題を解決するには、証明書ファイルを再度要求する必要がある場合があります。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9684

証明書のプロパティにアクセスしようとしたときに問題が発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

シリアル番号 <insert\_4>の <insert\_3> によって発行された証明書、またはその秘密鍵データは使用できないように見え、壊れている可能性があります。この証明書を使用しようとしたときに、Windows 戻りコード <insert\_1> が生成されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1>の意味を判別してください。証明書が有効であり、破損していないことを確認してください。証明書または秘密鍵データが壊れている可能性がある場合、システムから証明書を除去し、証明書を再インポートしてください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認しま

す。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ9685**

レジストリーへのアクセス中に問題が発生しました。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

このプロセスを起動したユーザーの個人レジストリー・ハイブ (HKEY\_LOCAL\_USER) をロードまたはアンロードしようとしていたときに、エラーが発生しました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

##### **応答**

問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ9686**

証明書ストアを管理しようとしたときに予期しないエラーが発生しました。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

証明書ストア <insert\_4>の関数 <insert\_3> を呼び出したときに、Windows 暗号 API がエラー・コード <insert\_1> を戻しました。このエラーは、証明書ストアの問題、一般的な Windows の問題、またはストア内の証明書の問題が原因である可能性があります。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

##### **応答**

Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1>の意味を判別してください。証明書ストアが有効であり、破損していないことを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

#### **AMQ9687**

入力された pfx パスワードが無効です。

##### **重大度**

30: 重大エラー

##### **説明**

証明書のインポートまたはコピーのために入力されたパスワードが間違っているため、操作を完了できませんでした。

##### **応答**

パスワードが正しいことを確認して、再試行してください。パスワードを忘れたり、紛失した場合、証明書を元のソースから再生成またはエクスポートする必要があります。

#### **AMQ9688**

この証明書の秘密鍵データは使用可能ではありません。

##### **重大度**

30: 重大エラー

## 説明

この証明書に関連付けられた秘密鍵データは、システム上に存在するものとして報告されますが、失敗し、Windows エラー・コード <insert\_1>が返されます。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

Windows 解説書を参照して、エラー・コード <insert\_1>の意味を判別してください。マニュアルを使用して問題を解決できる場合は、障害を訂正し、必要であれば操作を再試行してください。問題を解決できない場合は、システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、<https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/> IBM MQ または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9689

ストア <insert\_3> の削除中に不明なエラーが発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

キュー・マネージャー <insert\_3> の WebSphere MQ 証明書ストアを削除できませんでした。証明書ストアのファイル名は <insert\_4>です。Windows エラー・コードが <insert\_1>に設定されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1>の意味を判別してください。マニュアルを使用して問題を解決できる場合は、障害を訂正し、必要であれば操作を再試行してください。保管ファイルが存在しており、かつストアにアクセスする可能性がある (キュー・マネージャーなどの) 他のプロセスが実行中でないことを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9690

発行者の証明書にある公開鍵で、所有者の証明書を妥当性検査することができませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

発行者の証明書 (CA または署名者証明書) の公開鍵は、チャンネル <insert\_3>に割り当てられた所有者証明書の署名を検証するために使用されます。この検証は失敗したため、サブジェクト証明書は使用できません。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

発行者の証明書が有効かつ使用可能であり、最新のものであることを確認してください。証明書の発行者とともに、所有者の証明書および発行者の証明書が有効であることを調べてください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9691

WebSphere MQ MQI ライブラリーをロードできませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ライブラリー・ファイル <insert\_3> がシステム上で使用可能であることが予期されていますが、ロードしようとしたが、Windows 戻りコード <insert\_1> で失敗しました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

WebSphere MQ <insert\_3> ライブラリー・ファイルが存在し、ご使用のシステムで使用可能であることを確認してください。Windows 解説書を参照して、エラー・コード <insert\_1> の意味を判別してください。問題を解決できない場合は、システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9692

SSL ライブラリーはすでに初期化済みです。

## 重大度

20: エラー

## 説明

SSL ライブラリーはこのプロセスですでに初期化されており、SSL 属性に対する変更は有効にはなっておらず、元の値が依然として有効です。

## 応答

問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9693

LDAP サーバー用に入力されたパスワードが正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

CRL 情報の WebSphere MQ への提供に使用される 1 つまたは複数の LDAP サーバーにログインしようとしたが、入力されたパスワードが正しくないために拒否されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。エラーにより、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合 名前は不明です。

## 応答

AuthInfo オブジェクトに指定したパスワードが、入力したサーバー名ごとに正しいかを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9694

LDAP 検索に指定された DN 構文が無効です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

1 つまたは複数の AuthInfo オブジェクト定義で入力した識別名が無効であり、CRL LDAP サーバーへの要求が拒否されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。エラーにより、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合 名前は不明です。

## 応答

このチャンネルの AuthInfo オブジェクト定義で与えられた詳細が正しいかを調べてください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9695

LDAP サーバー用に入力されたユーザー名が正しくありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

CRL 情報を WebSphere MQ に提供する 1 つまたは複数の LDAP サーバーにログインしようとしたのですが、入力されたユーザー名が存在しないために拒否されました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。エラーにより、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合 名前は不明です。

## 応答

このチャンネルの AuthInfo オブジェクトに指定したユーザー名を、入力した LDAP サーバー名ごとに正しくしてください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9697

WebSphere MQ サービスにターゲット・サーバー上で連絡できませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ターゲット・サーバー <insert\_3> 上の WebSphere MQ サービスに接続しようとした。呼び出しは、戻りコード <insert\_1> で失敗しました。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

指定されたターゲット・サーバー名が正しいこと、および WebSphere MQ を管理するための十分なアクセス権限がそのサーバーにあることを確認してください。問題を解決できない場合は、システムに提供されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、解決策があるかどうかを確認してください。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9698

SSL セキュリティー呼び出しがハンドシェイク中に失敗しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSL ハンドシェイク時に、セキュア・チャンネル (Schannel) SSL プロバイダーへの SSPI 呼び出しが失敗しました。この障害により、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '????' の場合 名前は不明です。

## 応答

Windows のチャンネル・リファレンス・マニュアルを参照して、SSPI 呼び出し <insert\_4> の状況 <insert\_5> の意味を判別してください。障害を訂正し、必要であればチャンネルを再始動してください。

**AMQ9699**

SSL ハンドシェイク中に、SSL セキュリティー呼び出しで不明エラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSL ハンドシェイク時に、セキュア・チャンネル (Schannel) SSL プロバイダーへの SSPI 呼び出しで不明なエラーが発生しました。エラーの原因は、Windows SSL の問題による場合、一般的な Windows の問題による場合、または不正な WebSphere MQ データが呼び出し中に使用された場合があります。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。エラーにより、WebSphere MQ チャンネル名 <insert\_3> がクローズされました。名前が '???' の場合名前は不明です。

**応答**

Windows のチャンネル・リファレンス・マニュアルを参照して、SSPI 呼び出し <insert\_4> の状況 <insert\_5> の意味を判別してください。マニュアルを使用して問題を解決できる場合は、障害を訂正し、必要に応じてチャンネルを再始動してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

**AMQ9710**

SSL セキュリティーのリフレッシュに失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSL セキュリティーのリフレッシュ要求が失敗しました。

**応答**

エラー・ファイルにある前のエラー・メッセージを参照して、失敗の原因を判別してください。

**AMQ9711**

SSL セキュリティー・リフレッシュが成功しましたが、チャンネルの再始動に失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

このキュー・マネージャーの SSL 環境がリフレッシュされたため、現行の値と証明書がすべての SSL チャンネルに使用されます。しかし、セキュリティー・リフレッシュの開始時に実行されていたアウトバウンド SSL チャンネルの一部を、リフレッシュの完了後に再始動できませんでした。

**応答**

エラー・ファイルにある前のエラー・メッセージを参照して、どのチャンネルを再始動できなかったかを判別してください。必要な場合は、これらを再始動してください。

**AMQ9712**

チャンネル <insert\_3> の待機中に SSL セキュリティー・リフレッシュがタイムアウトになりました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

システムは、SSL のセキュリティー・リフレッシュを実行していました。この機能は、すべてのアウトバウンドおよびインバウンド SSL チャンネルの停止を要求します。これらのチャンネルが実際に停止するのを待機します。SSL チャンネル <insert\_3> がタイムアウト期間内に停止しませんでした。

**応答**

チャンネル <insert\_3> がハングしている理由を調べてください。ハングしたチャンネルを終了してください。SSL セキュリティー・リフレッシュを再実行してください。

**AMQ9713**

チャンネル <insert\_3> が終了しました。SSL リフレッシュが進行中です。

## 重大度

0: 情報

## 説明

このキュー・マネージャーでの SSL サポートは、セキュリティ・リフレッシュの最中です。アウトバウンド SSL チャンネル <insert\_3>を開始しようとした。SSL セキュリティ・リフレッシュの進行中は開始できません。チャンネルは、SSL セキュリティ・リフレッシュが完了すると自動的に再始動されます。

## 応答

なし。

## AMQ9714

受信キュー・マネージャーでの SSL リフレッシュ: チャンネルが開始されませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSL セキュリティ・リフレッシュが、この SSL チャンネルの受信側のキュー・マネージャーで進行中です。チャンネルは <insert\_3> です。場合によっては、その名前を判別できないため、「? ???」と表示されることがあります。チャンネルは始動されませんでした。

## 応答

SSL リフレッシュが完了したら、チャンネルを再始動してください。チャンネルは、接続を再試行するように構成されていれば自動的に再始動します。

## AMQ9715

SSL セッション ID の妥当性検査中に予期しないエラーが検出されました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

このエラーは、GSKit SSL プロバイダーに OS/400 プラットフォームでの前提条件の PTF が 1 つ以上ないときに発生する可能性があります。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、「? ???」と表示されます。

## 応答

GSKit SSL プロバイダーの保守レベルが最新であることを確認し、チャンネルを再始動してください。

## AMQ9716

チャンネル <insert\_2> のリモート SSL 証明書失効状況検査が失敗しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

WebSphere MQ は、次のいずれかの理由により、リモート SSL 証明書の失効状況を判別できませんでした。

- (a) 証明書を目的として、チャンネルが CRL サーバーまたは OCSP 応答側プログラムのいずれにも接続できなかった。
- (b) 接続された OCSP 応答側プログラムのいずれも、証明書の失効状況を認識していない。
- (c) OCSP 応答を受け取ったが、応答のデジタル署名を検査できなかった。

問題の証明書の詳細は、<insert\_1>です。

チャンネル名は <insert\_2> です。チャンネル名を判別できない場合は、「? ???」と表示されます。

チャンネルは開始されませんでした。

証明書の失効状況を判別できない限り、WebSphere MQ はチャンネルの開始を許可しません。

## 応答

証明書に AuthorityInfoAccess 拡張が含まれている場合は、その証明書拡張で指定されている OCSP サーバーが使用可能で、正しく構成されていることを確認してください。

証明書に CrlDistributionPoint 拡張が含まれている場合は、その証明書拡張で指定されている CRL サーバーが使用可能で、正しく構成されていることを確認してください。

CRL サーバーまたは OCSP サーバーを WebSphere MQ に指定した場合は、それらのサーバーが使用可能で、正しく構成されていることを確認してください。

OCSP サーバーからの応答のデジタル署名を検証するために必要な SSL 証明書が、ローカル・キー・リポジトリにあることを確認してください。

#### AMQ9717

チャンネル <insert\_2>のリモート SSL 証明書失効状況チェックが不明です。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

WebSphere MQ は、次のいずれかの理由により、リモート SSL 証明書の失効状況を判別できませんでした。

(a) 証明書を目的として、チャンネルが CRL サーバーまたは OCSP 応答側プログラムのいずれにも接続できなかった。

(b) 接続された OCSP 応答側プログラムのいずれも、証明書の失効状況を認識していない。

(c) OCSP 応答を受け取ったが、応答のデジタル署名を検査できなかった。

問題の証明書の詳細は <insert\_1> です。

チャンネル名は <insert\_2> です。チャンネル名を判別できない場合は、'????' と表示されます。

チャンネルを開始することはできますが、リモート SSL 証明書の失効状況は検査されていません。

#### 応答

証明書に AuthorityInfoAccess 拡張が含まれている場合は、その証明書拡張で指定されている OCSP サーバーが使用可能で、正しく構成されていることを確認してください。

証明書に CrlDistributionPoint 拡張が含まれている場合は、その証明書拡張で指定されている CRL サーバーが使用可能で、正しく構成されていることを確認してください。

CRL サーバーまたは OCSP サーバーを Websphere MQ に指定した場合は、それらのサーバーが使用可能で、正しく構成されていることを確認してください。

OCSP サーバーからの応答のデジタル署名を検証するために必要な SSL 証明書が、ローカル・キー・リポジトリにあることを確認してください。

検査を実施する必要がある場合は、証明書の失効の検査を必要とするように WebSphere MQ を構成する必要があります。証明書の失効の検査を構成する方法については、WebSphere MQ 製品資料のセキュリティーのセクションを参照してください。

#### AMQ9718

OCSP URL <insert\_1>が無効です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

SSLCRLNL 名前リストで指定された AUTHINFO オブジェクトのいずれかで OCSPURL パラメーターが無効であるため、WebSphere MQ は SSL チャンネルを開始できませんでした。

OCSP URL は <insert\_1> で、チャンネル名は <insert\_2> です。チャンネル名を判別できない場合は、'????' と表示されます。

#### 応答

OCSP URL をブランクにしてはなりません。有効な HTTP URL を指定する必要があります。OCSP URL を修正し、チャンネルまたはチャンネル・プロセスを再始動してください。

OCSP URL の使用方法については、WebSphere MQ 製品資料のセキュリティーのセクションを参照してください。

**AMQ9719**

FIPS モードに無効な CipherSpec です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ユーザーが、FIPS モードで実行するように構成されたキュー・マネージャーまたは MQ MQI クライアントでチャンネルを開始しようとしています。ユーザーは、FIPS 準拠ではない CipherSpec を指定しました。チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'????' と表示されます。

**応答**

FIPS 準拠の CipherSpec で実行するチャンネルを再定義してください。または、正しい CipherSpec でチャンネルを定義して、キュー・マネージャーまたは MQ MQI クライアントを FIPS モードで実行しないようにします。この場合には、FIPS モードが構成されていないことを確認してください。エラーを修正した後、チャンネルを再開してください。

**AMQ9720**

キュー・マネージャー:

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9721**

キュー・マネージャー名: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9722**

クライアント:

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9723**

クライアント証明書ストア: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9724**

有効期限時刻: <insert\_1>

移行状況: 移行予定

パスワード: \*\*\*\*\*

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9725**

有効期限時刻: <insert\_1>

移行状況: 失敗

パスワード: \*\*\*\*\*

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9726**

証明書に無効な日付があるため、証明書を移行できませんでした。

証明書の詳細は、以下のとおりです。

[Microsoft 証明書ストア]、[所有者]、[発行者]、[シリアル番号]:

<insert\_3>.

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

証明書の移行中に、証明書の日付フィールドが無効であることがわかりました。証明書の有効期限が切れているか、その「開始」日が今日の日付を過ぎているか、またはその「終了」日が「開始」日よりも前であるかのいずれかです。

証明書は移行されていません。

**応答**

証明書が移行に必要な場合は、GSKit 鍵データベース <insert\_5>にインポートする前に、有効な置き換えを取得してください。

**AMQ9727**

証明書に不完全な証明書パスがあるため、証明書を移行できませんでした。

証明書の詳細は、以下のとおりです。

[Microsoft 証明書ストア]、[所有者]、[発行者]、[シリアル番号]:

<insert\_3>.

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

証明書の移行中、証明書の認証局 (署名者) 証明書を検出できませんでした。そのため、証明書は孤立証明書と見なされます。

証明書のコピーがファイル名 <insert\_4> に書き込まれました。

ファイル名の接尾部が「.cer」の場合、その証明書は認証局 (署名者) 証明書です。ファイル名の接尾部が「.pfx」の場合、証明書は個人証明書であり、GSKit 鍵データベース <insert\_5> に指定されたパスワードと同じパスワードを持っています。証明書は移行されていません。

#### 応答

移行に証明書が必要な場合は、証明書をインポートする前に、GSKit 鍵データベース <insert\_5> に完全な証明書パスが存在することを確認してください。

#### AMQ9728

証明書は、GSKit 鍵データベース <insert\_5> にインポートできなかったため、移行できませんでした。

証明書の詳細は、以下のとおりです。

[Microsoft 証明書ストア]、[所有者]、[発行者]、[シリアル番号]:

<insert\_3>.

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

証明書の移行中に問題があったために、証明書をインポートできませんでした。

証明書のコピーがファイル名 <insert\_4> に書き込まれました。

ファイル名の接尾部が「.cer」の場合、その証明書は認証局 (署名者) 証明書です。ファイル名の接尾部が「.pfx」の場合、証明書は個人証明書であり、GSKit 鍵データベース <insert\_5> に指定されたパスワードと同じパスワードを持っています。証明書は移行されていません。

#### 応答

エラー・ログ内の前のメッセージを参照して、失敗の原因を判断してください。必要であれば、Windows または GSKit の解説書を参照して、原因を判断してください。

#### AMQ9729

証明書ファイル <insert\_3> を作成できません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

証明書の移行中に問題があったために、証明書をインポートできませんでした。この最初の問題に加えて、証明書のコピーをファイル <insert\_3> に書き込んで作成しようとしたときに、2 番目の問題が発生しました。証明書は、Microsoft 証明書ストア <insert\_4> にあります。この証明書は、GSKit 鍵データベース <insert\_5> を対象としています。ファイル名の接尾部が「.cer」の場合、証明書は認証局 (署名者) 証明書です。ファイル名の接尾部が「.pfx」の場合、その証明書は個人証明書です。証明書は移行されていません。

#### 応答

2 つの問題の原因を判断してください。エラー・ログ内の前のメッセージを参照して、最初の失敗の原因を判断してください。必要であれば、Windows または GSKit の解説書を参照して、原因を判断してください。2 番目の障害は、Windows の「CreateFile」関数の呼び出し中に、戻りコード <insert\_1> で発生しました。この失敗の場合は、ファイルがまだ存在していないこと、およびこのファイルを作成する権限があることを確認してください。

#### AMQ9730

証明書の移行が完了し、障害はありませんでした。マイグレーションされた証明書の数は <insert\_1> でした。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

Microsoft 証明書ストア <insert\_3> から GSKit 鍵データベース <insert\_4> への証明書の移行が完了し、移行の失敗はありませんでした。マイグレーションされた証明書の数は <insert\_1> でした。

## 応答

いずれかの証明書が移行された場合は、GSKit iKeyman GUI を使用して、意図した SSL チャンネルのサポートに必要なすべての証明書が GSKit 鍵データベースに含まれることを確認してください。証明書がマイグレーションされなかった場合は、<insert\_3> に認証局 (署名者) 証明書のデフォルト・セットのみが含まれていたことが原因と考えられます。新たに作成された GSKit 鍵データベースに、同等またはより新しい独自のセットがあるため、デフォルト・セットは移行されません。

証明書が移行されなかったことの原因となる障害がなかった場合には、他に障害がある可能性があり、この障害を解決する必要があります。そうでないと、この後も SSL チャンネルの開始に失敗する恐れがあります。エラー・ログを参照し、障害を調べてください。

## AMQ9732

<insert\_3> のレジストリー項目がすでに存在しています。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

コマンドが、キュー・マネージャーまたはクライアントの Microsoft 証明書ストアの自動移行を要求するために使用されました。しかし、このストアのレジストリーにはすでに項目があります。要求がキュー・マネージャーに対するものであった場合、<insert\_3> はキュー・マネージャー名です。それ以外の場合は、クライアントの Microsoft 証明書ストアの名前です。

## 応答

証明書転送 (amqtcert) コマンドをオプション「-a -l」付きで実行し、レジストリーの内容をリストして確認してください。項目を置換する必要がある場合は、amqtcert を「-r」オプション付きで使用して項目を除去してから、amqtcert を使用して自動移行を要求してください。

## AMQ9733

証明書を自動的に移行する要求が正常に完了しました。

## 重大度

0: 情報

## 説明

SSL 証明書を自動的に移行するための要求が出されました。この要求は、WebSphere MQ のインストール中か、または、証明書転送 (amqtcert) コマンドを使用して行われた可能性があります。この要求はすぐに実行され、移行は正常に完了しました。

## 応答

GSKit iKeyman GUI を使用して、意図した SSL チャンネルをサポートするために必要なすべての証明書が GSKit 鍵データベースに含まれることを確認してください。証明書が移行されなかった場合、これは、Microsoft 証明書ストアに証明書認証局 (署名者) の証明書のデフォルト・セットのみが含まれていたことが原因です。新たに作成された GSKit 鍵データベースに、同等またはより新しい独自のセットがあるため、デフォルト・セットは移行されません。

## AMQ9734

証明書の自動移行中に障害がありました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

SSL 証明書を自動的に移行するための要求が出されました。この要求は、WebSphere MQ のインストール中か、または、証明書転送 (amqtcert) コマンドを使用して行われた可能性があります。この要求は実行されましたが、移行プロセス中に障害が発生しました。

## 応答

エラー・ログ内の前のメッセージを参照して、失敗の原因を判断してください。すべての証明書が正常に移行されて、障害が移行プロセスのこの部分に影響しなかった可能性もあります。この場合は、GSKit iKeyman GUI を使用して、意図した SSL チャンネルをサポートするために必要なすべての証明書が GSKit 鍵データベースに含まれることを確認してください。

## AMQ9735

証明書の移行が予期せずを終了しました。GSKit の初期化中に障害が発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

証明書の移行プロセスが予期せずに終了しました。GSKit 環境が正常に初期化されていないと、移行ができません。この処理には、GSKit の初期化、鍵データベースの作成、および鍵データベース・パスワードの隠蔽が含まれます。これらの操作のいずれかで障害がありました。証明書は移行されませんでした。パスワードのスタッシュが失敗した場合は、鍵データベース <insert\_4> が作成されます。GSKit 操作 <insert\_3> 中に障害が発生し、GSKit 戻りコード <insert\_1> が生成されました。

## 応答

鍵データベースが作成された後、失敗の原因を解消してから、鍵データベースを削除します。続いて、関連レジストリーの状態情報を削除し、証明書の移行プロセスを再試行してください。システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9736

ライブラリー <insert\_3> が見つかりませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ライブラリー <insert\_3> を動的にロードしようとしたのですが、ライブラリーが見つからなかったために失敗しました。これが WebSphere MQ ライブラリーである場合は、WebSphere MQ サーバー・インストールでのみ使用可能であり、証明書転送 (amqtcert) コマンドを使用してキュー・マネージャー操作を実行する場合に必要です。これが GSKit ライブラリーである場合は、WebSphere MQ のインストール中にインストールされているはずです。

## 応答

WebSphere MQ MQI クライアントのみをインストールするときに、このコマンドを使用してキュー・マネージャー操作を実行しないでください。コマンドが WebSphere MQ サーバーのインストール済み環境で作成された場合、または欠落している GSKit ライブラリーである場合は、問題 ID を記録し、生成されたすべての出力ファイルを保存し、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9737

メモリーを割り振ることができません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

メモリーの割り振りを試みましたが失敗しました。

## 応答

コマンドに対してより多くのメモリーを準備してください。

## AMQ9739

証明書ストア <insert\_3> にアクセスできませんでした。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

証明書ストア <insert\_3> にアクセスできませんでした。Windows エラー・コード <insert\_1> で失敗しました。-c パラメーターを使用している場合は、amqtcert に指定された名前が正しいことを確認してください。-m パラメーターを使用している場合は、キュー・マネージャーに SSLKEYR 値が指定されていることを確認してください。

## 応答

この値がゼロ以外の場合は、Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1> の意味を判別してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ9740

証明書ストア <insert\_3> をオープンできませんでした。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

証明書ストア <insert\_3> を開くことができませんでした。Windows エラー・コード <insert\_1> で失敗しました。

## 応答

この値がゼロ以外の場合は、Windows 解説書を参照して、エラー <insert\_1> の意味を判別してください。問題を解決できない場合は、システムに付属の標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ9741

Windows の操作中に問題が発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

<insert\_3>の操作中に、Windows 戻りコード <insert\_1> が生成されました。

## 応答

Windows 解説書を参照して、操作 <insert\_3>の戻りコード <insert\_1> の意味を判別してください。

### AMQ9742

GSKit 操作中に問題が発生しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

<insert\_3>の操作中に、GSKit 戻りコード <insert\_1> が生成されました。

## 応答

システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

### AMQ9743

証明書の移行およびログへの記録に失敗しました。

証明書の詳細は、以下のとおりです。

[Microsoft 証明書ストア]、[所有者]、[発行者]、[シリアル番号]:

<insert\_3>.

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

証明書を GSKit 鍵データベース <insert\_5>に移行しようとして問題が発生しました。

#### 応答

エラー・ログ内の前のメッセージを参照して、移行が失敗した理由を判断してください。

#### AMQ9744

一致する自動移行レジストリー項目がありません。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

提供された入力に一致する自動証明書移行項目がレジストリーにありません。

#### 応答

その項目が正しく指定されていた場合、応答は必要ありません。それ以外の場合は、正しいパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

#### AMQ9745

amqtcert: 証明書を移行するための十分なメモリーがありません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

amqtcert が証明書ファイル <insert\_3>.sto' を移行中に、メモリーを割り振ろうとして失敗しました。移行が正常に完了しませんでした。

#### 応答

<insert\_3>.sto' を削除せずに、<insert\_4>.\* と呼ばれる他のすべてのファイルを削除します (これらのファイルは失敗した移行の結果として作成されたものです)。また、この移行を自動的に再実行する場合は、amqtcert で -r フラグを指定して、この .sto ファイルの自動移行レジストリー項目を除去します。次に、amqtcert で -a フラグを使用して、この .sto ファイルの新しい自動移行レジストリー項目を作成します。

より多くのメモリーを準備します。移行を再実行します。

#### AMQ9746

ファイル <insert\_3> が見つかりません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

コマンド引数として指定されたファイルが見つかりませんでした。ファイル名に文字「.sto」が自動的に付加されました。

#### 応答

ファイルが存在することと、そのファイルが、Microsoft 証明書ストアの絶対ディレクトリー・パス (相対ディレクトリー・パスではない) およびファイル名 (.sto 接尾部を除く) で指定されていることを確認してください。

#### AMQ9747

使用法: amqtcert [-a] [-c [Filename | \*]] [-e ExpirationTime] [-g FileName]

[-i ListNumber] [-l] [-m [QMgrName | \*]] [-p Password]

[-r] [-u ClientLogonID] [-w FileName]

#### 重大度

0: 情報

#### 応答

なし。

#### AMQ9748

Windows レジストリーへのアクセスで問題が発生しました。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

Windows レジストリーのキー、値、またはデータ・フィールドにアクセスしようとしたが失敗しました。レジストリーの一部が無効な状態になっているか、その部分にアクセスするための十分な権限がないために失敗した可能性があります。WebSphere MQ エラー記録ルーチンが呼び出されました。

## 応答

<insert\_3> に Windows 呼び出しの名前が含まれている場合は、Windows 解説書を参照して、その呼び出しの状況 <insert\_1> の意味を判別してください。システムに提供された標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してください。IBM WebSphere MQ サポート Web ページ ([https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ)) または IBM サポート・アシスタント ([https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant)) を使用して、ソリューションが既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9749

コマンド引数の組み合わせが無効です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

引数の組み合わせが無効であるため、コマンド構文が誤っています。

## 応答

有効な引数の組み合わせを使用してコマンドを再試行してください。

## AMQ9750

ファイル <insert\_3> はすでに存在しています。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ファイル <insert\_3> は既に存在しているため、作成できません。

## 応答

ファイルがディレクトリーに存在しないことを確認してください。必要な場合は、ファイルの名前変更、移動、または削除を行う前にファイルのコピーを作成してください。

## AMQ9751

要求された操作を実行する許可がありません。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

許可されていないコマンドを発行しようとした。

## 応答

システム管理者に連絡して、コマンドの実行を依頼するか、コマンドを実行するための権限を要求してください。

## AMQ9752

Windows の操作が失敗したため、証明書を移行できませんでした。

証明書の詳細は、以下のとおりです。

[Microsoft 証明書ストア]、[所有者]、[発行者]、[シリアル番号]:

<insert\_4> .

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

Windows 操作 <insert\_3> 中に障害が発生し、戻りコード <insert\_1> が返されたため、個人証明書を移行できませんでした。個人証明書は、GSKit 鍵データベースにインポートされる前に、その秘密鍵データとともに Microsoft 証明書ストアからエクスポートされます。エクスポート中に障害が発生しました。これはおそらく、個人証明書に関連する秘密鍵データへのアクセスまたは使用に関する問題が原因です。

## 応答

秘密鍵データが使用可能であり、このデータにアクセスする権限があることを確認してください。Windows 解説書を参照して、操作 <insert\_3> の戻りコード <insert\_1> の意味を判別してください。

## AMQ9753

ファイル <insert\_3> が空です。

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

ファイル <insert\_3> は空であるため、使用できません。

## 応答

正しいファイルを使用したことを確認し、必要な場合は、そのファイルが空であることの理由を調べてください。

## AMQ9754

GSKit の操作が失敗したため、証明書を移行できませんでした。

証明書の詳細は、以下のとおりです。

[Microsoft 証明書ストア]、[所有者]、[発行者]、[シリアル番号]:

<insert\_4> .

## 重大度

30: 重大エラー

## 説明

<insert\_3> の操作中に、GSKit 戻りコード <insert\_1> が生成されました。

## 応答

システムに用意されている標準機能を使用して問題 ID を記録し、生成された出力ファイルを保存してから、[https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM\\_MQ](https://www.ibm.com/support/home/product/P439881V74305Y86/IBM_MQ) または [https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other\\_software/ibm\\_support\\_assistant](https://www.ibm.com/support/home/product/C100515X13178X21/other_software/ibm_support_assistant) の IBM サポート・アシスタントを使用して、解決策が既に使用可能になっているかどうかを確認します。一致する項目が見つからない場合には、IBM サポートに連絡してください。これらのファイルは、問題が解決するまで廃棄しないでください。

## AMQ9755

証明書の移行は完了しましたが、いくつかの障害がありました。マイグレーションされた証明書の数は <insert\_1> でした。

## 重大度

0: 情報

## 説明

Microsoft 証明書ストア <insert\_3> から GSKit 鍵データベース <insert\_4> への証明書の移行が完了しましたが、1 つ以上の障害が発生しました。マイグレーションされた証明書の数は <insert\_1> でした。

## 応答

いずれかの証明書が移行された場合は、GSKit iKeyman GUI を使用して、意図した SSL チャネルのサポートに必要なすべての証明書が GSKit 鍵データベースに含まれることを確認してください。障害を解決する必要があります。そうでないと、この後も SSL チャネルの開始に失敗する恐れがあります。エラー・ログ内の前のメッセージを参照して、このような失敗の原因を判断してください。

## AMQ9756

Microsoft 証明書ストア <insert\_3> 内の証明書の数は <insert\_1> です。

## 重大度

0: 情報

**説明**

Microsoft 証明書ストア <insert\_3>内の証明書の数を示します。

**応答**

なし。

**AMQ9757**

証明書 <insert\_1>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9758**

件名: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9759**

発行者: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9760**

有効開始: <insert\_3> から <insert\_4>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9761**

証明書の使用法: < All>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9762**

証明書の使用法: <insert\_3>

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9763**

証明書タイプ: 個人

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9764**

証明書タイプ: 署名者

**重大度**

0: 情報

**説明**

なし。

**応答**

なし。

**AMQ9765**

コマンド・オプション "-i <insert\_1>" の個人証明書が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

証明書の転送 (amqtcert) コマンドは、値 <insert\_1> を指定した "-i ListNumber" オプションを使用して実行されました。しかし、この値に対応する個人証明書が見つかりませんでした。証明書の移行が失敗し、証明書がまったく移行されていません。

**応答**

示された個人証明書にオプションの値が正しく対応していることを確認してください。正しくない場合は、「-l List」オプションを使用してコマンドを実行して正しい数値を判別してください。「-i ListNumber」オプションを使用してコマンドを実行したときに、GSKit 鍵データベースと関連する鍵データベース・ファイルが作成されています。「-i」オプションでコマンドを再試行する前に、これらのデータベースとファイルを削除する必要があります。

**AMQ9766**

GSKit 鍵データベース <insert\_4> の作成中に障害が発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

GSKit は鍵データベースおよび関連するファイルを作成できませんでした。GSKit 操作 <insert\_3> 中に、戻りコード <insert\_1> が生成されました。これはおそらく、権限が不十分であるか、または使用可能なディスク・スペースが足りなかったことが原因です。

**応答**

十分な権限があること、および十分なディスク・スペースを使用できることを確認してください。

**AMQ9767**

使用法: strmqikm [iKeymanWorkingDirectory]

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ9768**

ディレクトリー <insert\_3> が見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

コマンド引数として指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

**応答**

ディレクトリーが存在することと、そのディレクトリーが絶対ディレクトリー・パス (相対ディレクトリー・パスではない) で指定されていることを確認してください。

**AMQ9769**

使用方法: runmqckm

- keydb -change pw 鍵データベースのパスワードを変更
- convert 鍵データベースの形式を変更
- create 鍵データベースを作成
- delete 鍵データベースを削除
- stashpw 鍵データベースのパスワードをファイルに隠す
- list 現在サポートされている鍵データベースのタイプ
- cert -add CA 証明書を追加
- create 自己署名証明書を作成
- delete 証明書を削除
- details 特定の証明書の詳細を表示
- export 個人証明書と関連秘密鍵を PKCS12 ファイルまたは鍵データベースへエクスポート
- extract 鍵データベースから証明書を抽出
- getdefault デフォルトの個人証明書を表示
- import 鍵データベースまたは PKCS12 ファイルから証明書をインポート
- list 鍵データベース内の証明書をリスト
- modify 証明書を変更 (注意: 変更可能なフィールドは「トラスト」のみ)
- receive 証明書を受信
- setdefault デフォルトの個人証明書を設定
- sign 証明書に署名
- certreq -create 証明書要求を作成
- delete 証明書要求データベースから証明書要求を削除
- details 特定の証明書要求の詳細を表示
- extract 証明書要求データベースから証明書を抽出
- list 証明書要求データベース内のすべての証明書要求をリスト
- recreate 証明書要求を再作成
- version iKeycmd バージョン情報を表示
- help このヘルプ・テキストを表示

**重大度**

0: 情報

**応答**

なし。

**AMQ9770**

SSL 鍵リポジトリのパスワードの有効期限が切れました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SSL 鍵リポジトリは、パスワードの有効期限が切れているため使用できません。

チャンネルは <insert\_3> です。名前を判別できない場合は、'???' と表示されます。チャンネルは始動されませんでした。

**応答**

鍵管理ツールを使用して SSL 鍵リポジトリのパスワードをリセットし、新規パスワードの保管ファイルが生成されているようにしてください。

**AMQ9771**

SSL ハンドシェイクに失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ホスト <insert\_3> との SSL ハンドシェイクが失敗しました。SSL ハンドシェイクは、Java Secure Socket Extension (JSSE) を使用して実行されました。

**応答**

使用された SSLSocketFactory は <insert\_5> でした。ここで、「default」は、JVM のデフォルトの SSLSocketFactory が使用されたことを示します。

<insert\_4> 呼び出しによってスローされた例外は <insert\_1> でした。失敗の説明については、例外メッセージを確認してください。

チャンネルのリモート・エンドのエラー・ログも調べてください。これらには、SSL ハンドシェイクが失敗した理由に関する追加情報が含まれている可能性があります。

**AMQ9774**

チャンネル認証テーブルのアクセス・エラーです。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

プログラムはチャンネル認証テーブルにアクセスできませんでした。

**応答**

チャンネル認証テーブルにアクセスしようとしたときに、<insert\_1> の値がサブシステムから戻されました。

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、ログ・ファイルを調べて、プログラムが認証テーブルにアクセスできなかった理由を判別します。

**AMQ9776**

チャンネルがユーザー ID によってブロックされました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルのアクティブ値が、ブロックする必要があるユーザー ID にマップされたため、インバウンド・チャンネル <insert\_3> がアドレス <insert\_4> からブロックされました。チャンネルのアクティブ値は <insert\_5> でした。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されるようにします。

DISPLAY CHLAUTH コマンドを使用して、チャンネル認証レコードを照会することができます。

**AMQ9777**

チャンネルがブロックされました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネルのアクティブ値が USERSRC (NOACCESS) で構成されたレコードと一致したため、インバウンド・チャンネル <insert\_3> がアドレス <insert\_4> からブロックされました。

チャンネルのアクティブ値は <insert\_5> でした。

**応答**

システム管理者に連絡してください。システム管理者は、チャンネル認証レコードを調べて、正しい設定が構成されるようにします。

DISPLAY CHLAUTH コマンドを使用して、チャンネル認証レコードを照会することができます。

**AMQ9778**

IP アドレスが無効です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IP アドレス <insert\_3> が無効であることが検出されました。

**応答**

コマンドの処理が強制終了されます。IP アドレス・パラメーターを正しく指定して、コマンドを再発行してください。

IP アドレス・パラメーターの仕様について詳しくは、WebSphere MQ 製品資料のコマンドに関するセクションを参照してください。

**AMQ9779**

IP アドレス範囲エラー。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IP アドレス <insert\_3> に無効な範囲が含まれています。例えば、範囲の最初の数値が 2 番目の数値と同じかそれより大きい場合です。

**応答**

コマンドの処理が強制終了されます。IP アドレス・パラメーターを正しく指定して、コマンドを再発行してください。

IP アドレス・パラメーターの仕様について詳しくは、WebSphere MQ 製品資料のコマンドに関するセクションを参照してください。

**AMQ9781**

IP アドレスが前の定義とオーバーラップしています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IP アドレス <insert\_3> が既存の IP アドレス <insert\_4> とオーバーラップしています。例えば、最初の数値が範囲内の 2 番目の数値以上であるとします。

**応答**

コマンドの処理が強制終了されます。前の定義とオーバーラップしない IP アドレス・パラメーターを使用してコマンドを再発行するか、既存のレコードを削除してからコマンドを再発行してください。

IP アドレス・パラメーターの仕様について詳しくは、WebSphere MQ 製品資料のコマンドに関するセクションを参照してください。

**AMQ9782**

リモート接続がブロックされました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

IP アドレス <insert\_3> からの接続は、ブロッキング・アドレス規則 <insert\_4> に一致したため、ブロックされました。

**応答**

チャンネル認証ブロック規則が正しいことを確認してください。必要な場合は、SET CHLAUTH コマンドを使用して、インバウンド接続を許可するように規則を変更してください。

IP アドレス・パラメーターの仕様について詳しくは、WebSphere MQ 製品資料のコマンドに関するセクションを参照してください。

**AMQ9783**

チャンネルは MCAUSER (<insert\_3>) を使用して実行されます。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

指定されたフィールドに一致するチャンネル認証 (CHLAUTH) レコードが見つかりませんでした。返される MCAUSER 値は、チャンネル・セキュリティ出口による、考えられるどのアクションも考慮していないことに注意してください。

**応答**

なし。

**AMQ9784**

突き合わせ実行検査で、<insert\_3> に総称値が見つかりました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

突き合わせ実行検査で、<insert\_3> に総称値が見つかりました。

MATCH(RUNCHECK) を使用するとき、すべての入力フィールドには、総称値が含まれてはなりません。

**応答**

すべてのフィールドに完全指定の値が含まれるようにして、コマンドを再発行してください。

**AMQ9785**

チャンネルは送達不能キューを使用しないように構成されています。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

チャンネル <insert\_5> を介してアドレス <insert\_4> からメッセージを転送することはできません。チャンネルは送達不能キューを使用しないように構成されています。理由コードは <insert\_1> で、宛先キューは <insert\_3> です。

**応答**

チャンネルが送達不能キューにメッセージを書き込もうとする原因となった問題を修正するか、このチャンネルが送達不能キューを使用できるようにしてください。

**AMQ9816**

TMF/ ゲートウェイに無効なプロセス名 <insert\_3> が指定されました。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、MQTMF\_GATEWAY\_NAME 環境変数に無効なプロセス名が指定されているため、キュー・マネージャー <insert\_4> の TMF/ ゲートウェイを使用して enlist することができません。

## 応答

TMF/ゲートウェイが実行されていて、MQTMF\_GATEWAY\_NAME 環境変数が TMF/ゲートウェイの Guardian プロセス名に正しく設定されていることを確認してください。

### AMQ9817

TMF/ゲートウェイでの enlist を可能にする PATHMON プロセス名が指定されていません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、TMF トランザクションの存在を検出し、そのトランザクションでキュー・マネージャーが適切に参加できるように、TMF/ゲートウェイを使用して参加することを試みています。

IBM WebSphere MQ Client for HP Integrity NonStop Server は、mqclient.ini ファイルでキュー・マネージャー <insert\_3> の TMF/ ゲートウェイ・サーバー・クラスをホストする PATHMON プロセスのプロセス名を見つけることができませんでした。

## 応答

キュー・マネージャー <insert\_3>の TMF/ ゲートウェイ・サーバー・クラスをホストしている PATHMON の Guardian プロセス名を指定した TMF スタンザを含む mqclient.ini ファイルが、IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server で使用できることを確認してください。

mqclient.ini ファイルには、キュー・マネージャー <insert\_3>に使用されるサーバー・クラス名を指定する TMFGateway スタンザも必要です。

HP Integrity NonStop Server 用の IBM WebSphere MQ クライアントで mqclient.ini ファイルを使用する方法については、IBM WebSphere MQ 製品資料を参照してください。

### AMQ9818

キュー・マネージャー <insert\_3>の TMF/ ゲートウェイで enlist できるようにするサーバー・クラスが提供されていません。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、TMF トランザクションの存在を検出し、そのトランザクションでキュー・マネージャーが適切に参加できるように、TMF/ゲートウェイを使用して参加することを試みています。

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、PATHMON プロセス <insert\_4>によってホストされるキュー・マネージャー <insert\_3> の mqclient.ini ファイルでサーバー・クラス名を検出できませんでした。

## 応答

mqclient.ini ファイルが、キュー・マネージャー <insert\_3>に使用されるサーバー・クラス名を指定した TMFGateway スタンザを含む HP Integrity NonStop Server 用の IBM WebSphere MQ クライアントによって使用可能であることを確認してください。

HP Integrity NonStop Server 用の IBM WebSphere MQ クライアントで mqclient.ini ファイルを使用する方法については、IBM WebSphere MQ 製品資料を参照してください。

### AMQ9819

キュー・マネージャー <insert\_5>の TMF/ ゲートウェイで enlist しているときにエラーが発生しました。

## 重大度

20: エラー

## 説明

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、TMF トランザクションの存在を検出し、PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされる TMF/ ゲートウェイ・サーバー・クラス

<insert\_4> を参加させて、トランザクションにキュー・マネージャーが正しく参加できるようにしようとしています。

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、TMF/ゲートウェイとの接続を確立しているときにエラーが発生しました。Pathsend エラー (<insert\_1>)、ファイル・システム・エラー (<insert\_2>)。

#### 応答

これらのエラーは通常、PATHMON プロセス <insert\_3> またはサーバー・クラス <insert\_4> の構成の問題の結果です。Pathsend エラー (<insert\_1>) およびファイル・システム・エラー (<insert\_2>) に基づく適切な修正処置については、HP NSS TS/MP Pathsend およびサーバー・プログラミング・マニュアルを参照してください。

#### AMQ9820

TMF トランザクションへの参加は、キュー・マネージャー <insert\_3> によってサポートされていません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ Client for HP Integrity NonStop Server は TMF トランザクションの存在を検出しましたが、IBM WebSphere MQ for z/OS キュー・マネージャー <insert\_3> は TMF トランザクションへの参加をサポートしていません。

#### 応答

接続先の z/OS キュー・マネージャーのバージョンは、TMF ゲートウェイをサポートしません。サポート対象リリースにアップグレードしてください。

#### AMQ9821

PATHMON プロセス <insert\_3> が見つかりません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、PATHMON プロセス <insert\_3> を見つけることができません。

#### 応答

構成エラーは次のいずれかになります。

1. mqclient.ini の TMF スタンザに無効なプロセス名が含まれている。
2. PATHMON プロセス <insert\_3> は現在実行されていません。

#### AMQ9822

サーバー・クラス <insert\_4> が見つかりません。

#### 重大度

20: エラー

#### 説明

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされるサーバー・クラス <insert\_4> を見つけることができません。

#### 応答

構成エラーは次のいずれかになります。

1. mqclient.ini TMFGateway スタンザに、キュー・マネージャー <insert\_5> に対して無効なサーバー・クラス名が含まれています。
2. PATHMON プロセス <insert\_3> は、サーバー・クラス <insert\_4> で構成されていません。
3. サーバー・クラス <insert\_4> が開始されていないか、現在凍結されています。

#### AMQ9823

PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされるサーバー・クラス <insert\_4> の使用を許可されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server は、PATHMON プロセス <insert\_3>によってホストされるサーバー・クラス <insert\_4> の使用を許可されていません。

**応答**

システム管理者に連絡して、適切なアクセス権があることを確認してください。適切なアクセス権があることを確認したら、操作を再試行してください。

**AMQ9824**

TMF/ゲートウェイ・サーバー・クラス <insert\_4> が適切に構成されていません。

**重大度**

20: エラー

**説明**

PATHMON プロセス <insert\_3> によってホストされる TMF/Gateway サーバー・クラス <insert\_4> が、適切に構成されていません。

**応答**

構成エラーは次のいずれかになります。

1. サーバー・クラスの構成で TMF が使用可能になっていない。
2. TMF/ゲートウェイとともに同時に参加する必要がある IBM WebSphere MQ client for HP Integrity NonStop Server アプリケーションの数に対して、サーバー・クラスに構成された MAXLINKS の設定が小さすぎる。
3. TMF/ゲートウェイが要求を処理するのに要する時間に対して、サーバー・クラスに構成された TIMEOUT の設定が小さすぎる。TIMEOUT を設定しないのが理想的ですが、設定する場合は、TMF/ゲートウェイに関連付けられたリモート・キュー・マネージャーが応答するのに要する時間を計算に入れる必要があります。

**AMQ9871**

クラスターの保守が <insert\_1> 分間実行されています。フェーズ <insert\_3> はこれまでに <insert\_2> 個のレコードを処理しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーは、メンバーとして属するクラスターに関連付けられている状態をリフレッシュおよび削除するために、定期的に保守サイクルを実行します。このメッセージは、その進行状況を示します。

**応答**

大規模なクラスターでは、この保守プロセスにかなりの時間がかかります。そのような場合、保守が完了するまでこのメッセージが定期的に表示されます。保守サイクルが完了すると、メッセージ AMQ9872 がこのログに書き込まれます。

**AMQ9872**

<insert\_1> 分後にクラスター保守が完了しました。 <insert\_2> レコードが処理されました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

キュー・マネージャーは、メンバーとして属するクラスターに関連付けられている状態をリフレッシュおよび削除するために、定期的に保守サイクルを実行します。このメッセージは、そのサイクルが完了したことを示します。このメッセージは、以前に報告されたメッセージ AMQ9871 の 1 つ以上のインスタンスに対応します。

**応答**

このメッセージは情報としてのみ提供され、ユーザー応答は不要です。

**AMQ9873**

クラスター・リポジトリ・キャッシュのリストア中にエラーが発生しました。理由 =< insert\_1>

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

クラスター・キャッシュの復元中にエラーが検出されました。このキュー・マネージャーが保持するクラスター・キャッシュが不完全になるため、このキュー・マネージャーから認識可能で、このキュー・マネージャーが所有するクラスター・リソースに不整合が生じる可能性があります。発生したエラーの詳細について、キュー・マネージャーおよびシステムのエラー・ログ内のメッセージを参照してください。

**応答**

この問題を解決するには、IBM サポートに連絡してください。

**AMQ9874**

リポジトリ・マネージャーで、エラーのため障害が発生しました。 <insert\_1> 分後に再試行してください。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

リポジトリ・マネージャーで問題が発生しました。詳細については、キュー・マネージャーまたはシステムのエラー・ログに含まれる過去のメッセージを参照してください。リポジトリ・マネージャーは、 <insert\_1> 分後にコマンドを再試行します。この問題が修正されないと、それ以降のクラスター管理アクティビティが実行されず、このキュー・マネージャーがアクセスまたはホストするクラスター・リソースの可用性に影響が出ます。

**応答**

可能な場合は、検出された問題を修正し、修正できない場合には、IBM サポートに連絡してください。問題が修正されたら、SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE キューが GET(DISABLED) に設定されている場合は、このキューを GET(ENABLED) に設定し、リポジトリ・マネージャーがコマンドを再試行するのを待ってください。リポジトリ・マネージャー・プロセスが終了した場合は、キュー・マネージャーを再始動してください。

**AMQ9875**

クラスターの REFRESH CLUSTER 処理が開始しました。

**重大度**

0: 情報

**説明**

REFRESH CLUSTER 処理がクラスター <insert\_3> に対して開始されました。このキュー・マネージャーで REFRESH CLUSTER コマンドが発行されました。これにより、フェーズ 1 で、クラスターに関するローカル・キャッシュに格納されたすべての情報が破棄され、必要に応じてクラスターの他のメンバーからの新しい情報が要求されます。フェーズ 2 では、受け取った情報が処理されます。大規模なクラスター構成の場合、このプロセスにはかなり時間がかかる可能性があります (特にフル・リポジトリ・キュー・マネージャーの場合)。この時間中に、クラスター・リソースへのアクセスを試みるアプリケーションは、クラスター・リソースの解決の失敗を検出することがあります。さらに、このキュー・マネージャーに対して行われたクラスター構成変更は、リフレッシュ・プロセスが完了するまで処理されない可能性がある。

**応答**

両方のフェーズが完了するまで、このキュー・マネージャー上のすべてのクラスター関連作業を延期する。フェーズ 1 の終了時に、このログにメッセージ AMQ9442 またはメッセージ AMQ9404 が発行されます。フェーズ 2 の完了は、SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE が一貫して空の状態に達したときに判別できる。

**AMQ9876**

クラスター管理は多数のキャッシュ・レコードの圧縮を開始します。

**重大度**

0: 情報

#### 説明

定期的なクラスター管理でそのローカル・キャッシュが圧縮される。圧縮は、CLUSTER REFRESH の実行などの特定の操作にかなりの時間がかかる可能性がある。圧縮タスク中は、クラスター管理コマンドは処理されない。圧縮タスクが完了すると、メッセージ AMQ9877 がこのログに書き込まれます。

#### 応答

なし。

#### AMQ9877

クラスター・キャッシュ圧縮が完了しました。

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

ラージ・キャッシュ圧縮が完了しました。このメッセージは、以前報告したメッセージ AMQ9876 に対応しています。

#### 応答

なし。

#### AMQ9880

クラスター <insert\_4> 内のオブジェクト <insert\_3> が記述文字のブランクの後に挿入されました。

#### 重大度

10: 警告

#### 説明

リポジトリ・マネージャーは、QMID <insert\_5> を持つキュー・マネージャーからオブジェクト <insert\_3> をクラスター <insert\_4> に挿入するコマンドを受け取りました。記述文字をソース CCSID <insert\_1> からローカル CCSID <insert\_2> に変換できませんでした。リポジトリ・マネージャーが、記述がブランクのレコードをローカル・キャッシュに挿入しました。

#### 応答

何もしないことも選択できます。オブジェクトが正常にローカル・クラスター・キャッシュに挿入され、使用可能です。

このオブジェクトをホストするキュー・マネージャーを開き、その説明にローカル・キュー・マネージャーで正常に変換できる文字セットのみが含まれるように変更を選択できます。

#### AMQ9913

指定されたローカル・アドレス <insert\_3> を IP アドレスに解決できません。戻りコードは <insert\_1> です。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ローカル・アドレスのホスト名を IP アドレスに解決しようとしたことが失敗しました。

#### 応答

ローカル・アドレスのホスト名が正しいこと、および DNS データベースに項目があることを確認してください。

#### AMQ9914

指定されたローカル・アドレスのタイプは、使用されている IP プロトコル (<insert\_3>) と互換性がありません。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

使用される IP プロトコルと非互換のローカル・アドレスを使用しようとした。

#### 応答

指定されたローカル・アドレスのタイプが IP プロトコルと同じタイプ (IPv4 または IPV6) であることを確認してください。

#### AMQ9915

IP プロトコル <insert\_3> がシステム上にありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

システムに存在しない IP プロトコルを使用しようとしてしました。

**応答**

必要な IP プロトコルをインストールするか、またはシステムで使用可能な IP プロトコルを使用してください。このエラーは、システムのメモリーやその他のシステム・リソースが不足している場合にも起こる可能性があります。

**AMQ9920**

SOAP 例外がスローされました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP メソッドで問題が発生し、例外がスローされました。例外の詳細:

<insert\_3>

**応答**

SOAP メソッドが例外をスローした理由を調べてください。

**AMQ9921**

送達不能キューへの書き込み中にエラーが発生しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージを送達不能キュー <insert\_3> に書き込もうとしたときに、エラーが発生しました。メッセージは <insert\_4> でした。

**応答**

送達不能キュー <insert\_3> が存在し、書き込み可能になっていることを確認してください。キュー・マネージャーの属性 DEADQ が正しくセットアップされていることを確認します。SOAP メッセージを再送してください。

**AMQ9922**

キュー <insert\_3> で最大待ち時間を超えました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージがキュー <insert\_3> に到着するのを待っている最大時間を超えました。

**応答**

キューで書き込みが禁止されていないことを確認してください。メッセージがキューに書き込まれていることを確認してください。

**AMQ9923**

コマンドにパラメーターが足りません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP コマンドが発行されましたが、パラメーターが足りません。

**応答**

正しい数のパラメーターを指定し、コマンドを再発行してください。

**AMQ9924**

使用法: amqwSOAPNETListener -u WebSphere MQUri

[-w WebServiceDirectory] [-n MaxThreads]

[-d StayAlive] [-i IdContext]

[-x TransactionalControl] [-a Integrity] [-? ThisHelp]

**重大度**

0: 情報

**説明**

これは正しい使用法を示したものです。

**応答**

なし。

**AMQ9925**

キュー・マネージャー <insert\_3> に接続できません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP アプリケーションまたは SOAP リスナーは、<insert\_4> バインディングを使用してキュー・マネージャー <insert\_3> に接続できません。

**応答**

バインディングが正しい値に設定されていること、およびキュー・マネージャーが存在することを確認してください。Java MQQueueManager クラスからのエラー・メッセージを調べてください。

**AMQ9926**

ヌルの SOAP アクションが、受信した SOAP メッセージに指定されていました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP メッセージ <insert\_3> に NULL SOAP アクションが指定されました。メッセージは処理されません。

**応答**

SOAP メッセージに適切な SOAP アクションを組み込んでください。

**AMQ9927**

MQ キューのバックアウトしきい値を超えました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

キュー <insert\_3> の WebSphere MQ バックアウトしきい値を超えました。メッセージ <insert\_4> を処理しています。

**応答**

キュー <insert\_3> のバックアウトしきい値を訂正し、SOAP メッセージを再送してください。

**AMQ9928**

SOAP メッセージにターゲット・サービスまたは URI がありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

ターゲット・サービスまたはターゲット URI が SOAP メッセージ <insert\_3> から欠落しています。

**応答**

SOAP メッセージにターゲット・サービスまたはターゲット URI を指定してください。

**AMQ9929**

メッセージ (<insert\_3>) のメッセージ・バックアウトが失敗しました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージのバックアウトが失敗しました。

**応答**

バックアウトが失敗した理由を調べてください。

**AMQ9930**

必須指定のオプション <insert\_3> がコマンドにありません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP コマンドが発行されましたが、必須オプション <insert\_3> が指定されていません。

**応答**

足りないオプションを指定して SOAP コマンドを再発行してください。

**AMQ9931**

無効な値 <insert\_3> がオプション <insert\_4> に指定されました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

オプションに無効な値を指定して SOAP コマンドが発行されました。

**応答**

正しいオプション値を指定して SOAP コマンドを再発行してください。

**AMQ9932**

アプリケーション・ホスト・クラスが見つかりません。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

アプリケーション・ホスト・クラス <insert\_3> が見つかりませんでした。

**応答**

SOAP メッセージに正しいアプリケーション・ホスト・クラスを指定してください。

**AMQ9933**

オプション <insert\_3> と <insert\_4> は相互に排他的です。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

非互換オプション <insert\_3> および <insert\_4> を指定して SOAP コマンドが発行されました。

**応答**

互換性のあるオプション値を指定して、SOAP コマンドを再発行してください。

**AMQ9934**

URL <insert\_3> を解析できませんでした。 MQCC\_FAILED (2) MQRC\_SOAP\_URL\_ERROR (2212)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

URL <insert\_3> を解析できませんでした。 MQCC\_FAILED (2) MQRC\_SOAP\_URL\_ERROR (2212)

**応答**

URL を訂正し、再試行してください。

**AMQ9935**

URL <insert\_3> が無効です。 MQCC\_FAILED (2) MQRC\_SOAP\_URL\_ERROR (2212)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

URL <insert\_3> が検証に失敗しました。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_URL\_ERROR(2212)

**応答**

URL を訂正し、再試行してください。

**AMQ9936**

<insert\_3> バインディングを使用して接続を取得できません。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_CONNECTION\_ERROR(2273).

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_3> バインディングを使用して接続を取得できません。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_CONNECTION\_ERROR(2273).

**応答**

キュー・マネージャーが使用可能で、稼働中であることを確認してください。

**AMQ9937**

asyncResult がヌルです。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

asyncResult がヌルです。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**応答**

SOAP 応答が受信されなかった理由を調べてください。

**AMQ9938**

SOAP/WebSphere MQ がタイムアウトになりました。

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

MQGET 操作がタイムアウトになりました。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**応答**

SOAP 応答が受信されなかった理由を調べてください。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**AMQ9939**

SOAP/WebSphere MQ エラー。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP エラーが検出されました。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**応答**

失敗の理由について、WebSphere MQ ログを調べてください。

**AMQ9940**

レポート・メッセージがMQWebResponseに戻されました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

レポート・メッセージがMQWebResponseに戻されました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR.(2210)

**応答**

失敗の理由について、レポート・メッセージを調べてください。

**AMQ9941**

RFH2 ヘッダーが認識されません。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_CF\_MD\_FORMAT\_ERROR(3023)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

RFH2 ヘッダーが認識されません。 MQCC\_FAILED(2) MQRCCF\_MD\_FORMAT\_ERROR(3023)

**応答**

メッセージが RFH2 ヘッダーと一緒に送信されなかった理由を調べてください。

**AMQ9942**

メッセージ形式が MQFMT\_NONE ではありません。 MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

メッセージ形式が MQFMT\_NONE ではありません。 MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**応答**

メッセージ形式を訂正し、再試行してください。

**AMQ9943**

RFH2 バージョンが認識できません。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

RFH2 バージョンが認識できません。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**応答**

RFH2 メッセージ内のバージョンを訂正し、再試行してください。

**AMQ9944**

RFH2 の長さが無効です。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

RFH2 の長さが無効です。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**応答**

RFH2 の長さを訂正し、再試行してください。

**AMQ9945**

RFH2 <insert\_3> フォルダーの長さが無効です。 MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

RFH2 <insert\_3> フォルダーの長さが無効です。 MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**応答**

RFH2 メッセージを訂正し、再試行してください。

**AMQ9946**

実際のメッセージの長さが無効です。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

実際のメッセージの長さが無効です。 MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR(2421)

**応答**

RFH2 メッセージを訂正し、再試行してください。

**AMQ9947**

RFH2 フォルダー <insert\_3> <insert\_4>が無効です。MQCC\_FAILED (2)  
MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR (2421)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

RFH2 フォルダー <insert\_3> <insert\_4>が無効です。MQCC\_FAILED (2)  
MQRC\_RFH\_FORMAT\_ERROR (2421)

**応答**

RFH2 フォルダーの構文/形式を訂正し、再試行してください。

**AMQ9948**

バックアウトしきい値を超えました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_BACKOUT\_THRESHOLD\_REACHED(2362)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

バックアウトしきい値を超えました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_BACKOUT\_THRESHOLD\_REACHED(2362)

**応答**

バックアウトしきい値のリミットを訂正し、再試行してください。

**AMQ9949**

<insert\_3> が RFH2 から欠落しています。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_PARM\_MISSING(2339)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

<insert\_3> が RFH2 から欠落しています。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_PARM\_MISSING(2339)

**応答**

RFH2 メッセージを訂正し、再試行してください。

**AMQ9950**

SOAP URL に宛先サービスがありません。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_URL\_ERROR(2212)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

SOAP URL に宛先サービスがありません。MQCC\_FAILED(2) MQRC\_SOAP\_URL\_ERROR(2212)

**応答**

URL を訂正し、再試行してください。

**AMQ9951**

非同期要求が正常にキューに入れられました。MQCC\_OK(0)

**重大度**

30: 重大エラー

**説明**

非同期要求が正常にキューに入れられました。MQCC\_OK(0)

**応答**

応答が予想される場合、待機してください。

**AMQ9952**

予期しないメッセージ・タイプを受け取りました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_UNEXPECTED\_MSG\_TYPE.(2215)

**重大度**

30: 重大エラー

#### 説明

間違ったタイプのメッセージを受け取りました。例えば、要求されていないレポート・メッセージなどです。

#### 応答

IBM 提供の SOAP/WebSphere MQ 送信プログラムを使って WebSphere MQ SOAP を実行している場合、IBM に連絡してください。カスタマイズされた送信プログラムを使って WebSphere MQ SOAP を実行している場合、SOAP/WebSphere MQ 要求メッセージに正しいオプションが指定されているか確認してください。

#### AMQ9953

RFH2 ヘッダーの ContentType または TransportVersion に誤った値が含まれています。  
MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_HEADER\_FIELD\_ERROR(2228)

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

RFH2 ヘッダーの ContentType または TransportVersion に誤った値が含まれています。  
MQCC\_FAILED(2) MQRC\_RFH\_HEADER\_FIELD\_ERROR(2228)

#### 応答

メッセージ形式を訂正し、再試行してください。

#### AMQ9954

ViaTran.Redirect がトランザクション外部から呼び出されました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR(2410)

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

ViaTran.Redirect がトランザクション外部から呼び出されました。MQCC\_FAILED(2)  
MQRC\_SOAP\_DOTNET\_ERROR(2410)

#### 応答

ViaTran.Redirect はトランザクション内のみで呼び出されることを確認してください。

#### AMQ9955

使用法: amqswsdl [?] Uri inputFile outputFile

#### 重大度

0: 情報

#### 説明

これは正しい使用法を示したものです。

#### 応答

なし。

#### AMQ9990 (IBM i)

キーワード <insert\_3> がこのコマンドには無効であるか、コマンドが不完全です。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

コマンドが不完全、または無効なキーワードが指定された、またはキーワードのパラメーター値が指定されませんでした。

#### 応答

コマンドを完全なものにする、またはキーワードを訂正、またはパラメーター値を追加して、このコマンドを再試行してください。

#### AMQ9991 (IBM i)

指定された値は、コマンドによって使用できません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

<insert\_3> は、パラメーター <insert\_4> には無効です。

#### 応答

パラメーターに定義されている値の1つを入力して、このコマンドを再試行してください。パラメーターおよびコマンドの詳細については、CLの解説書または該当するライセンス・プログラムの解説書に記載されています。

#### AMQ9992 (IBM i)

対応する括弧が見つかりません。

#### 重大度

40: 停止エラー

#### 説明

対応する左または右括弧が欠落しています。

#### 応答

欠落した括弧を追加するか、あるいは余分な括弧を除去してください。

#### AMQ9999

チャンネル・プログラムが異常終了しました。

#### 重大度

30: 重大エラー

#### 説明

チャンネル・プログラム <insert\_3> が異常終了しました。

#### 応答

エラー・ファイル内のチャンネル・プログラム <insert\_3> の前のエラー・メッセージを調べて、障害の原因を判別してください。詳しくは、[DQMの問題判別](#)を参照。

## AMQXR メッセージ

#### AMQCO1001E

MQXR サービスが予期せず通信例外={0}(例外) をキャッチしました。

#### 説明

コミュニケーション・マネージャーが例外をキャッチし、例外の応答として、適切なアクションを取ることができませんでした。

#### ユーザー処置

根本的な例外の原因を調べて解決してください。

#### AMQCO1002E

予期せぬ状態で選択キー={0}が見つかりました。

#### 説明

予期していない状態で選択キーが見つかりました。

#### ユーザー処置

IBM サポートにお問い合わせください。

#### AMQCO1003E

接続={0}(接続) には get 要求を満たせるだけの十分なデータがありません。

#### 説明

アプリケーションは、すぐに使用可能なデータよりも多くのデータを読み取ろうとしました。アプリケーションは使用可能な量の情報を処理した後、制御を解放し、さらにデータが使用可能になったときに再び呼び出されるのを待機する必要があります。

#### ユーザー処置

この例外を処理するようにアプリケーションを変更するか、または get() が成功するかどうかを判別するために get() メソッドが呼び出される前に Connection.available() を使用してください。

#### AMQCO1004E

接続のクローズ・エラー: {0}。

#### 説明

接続をクローズする際にエラーが発生しました。セッションが正常に完了しなかった可能性があります。

#### ユーザー処置

セッションが正常に完了していることを確認してください。

#### AMQCO1005E

チャンネル "{1}" の SSL 鍵リポジトリ・ファイルが無効であるか、または見つかりません。次の例外がスローされました: {0}

#### 説明

チャンネルに指定された SSL 鍵リポジトリ・ファイルは無効です。

#### ユーザー処置

指定された SSL 鍵リポジトリ・ファイルの妥当性を調べてください。

#### AMQCO1006I

チャンネル "{0}" が停止しました。

#### 説明

チャンネルは停止されました。このチャンネルでは、これ以上クライアントとの通信は発生しません。

#### ユーザー処置

アクションは不要です。

#### AMQCO1007E

接続「{0}」において「{1}」ミリ秒間にデータが送信または受信されなかったため、接続が閉じられました。

#### 説明

アプリケーションが接続のアイドル・タイマーを {1} ミリ秒に設定しましたが、その時間内にデータが送受信されなかったため、接続が閉じられました。

#### ユーザー処置

接続でデータが送信または受信されなかった理由を判別して、適切な場合には idleTimer をより長い値に設定してください。

#### AMQCO1008E

「{1}」のクライアントがチャンネル「{0}」への接続を試行する際に SSL ハンドシェイク・エラーが発生しました: {2}。

#### 説明

SSL ハンドシェイクをクライアント・アプリケーションで実行している際にエラーが発生しました。これは多くの場合、クライアントが MQXR サービスによって信頼されていない証明書を提示しているために発生します。

#### ユーザー処置

例外の情報を使用して、問題を診断および修正してください。

#### AMQCO1009E

無効な鍵ストア名="{1}" が指定されました。

#### 説明

指定された鍵ストア名またはパスフレーズは無効です。

#### ユーザー処置

有効な鍵ストア・ファイル名とパスワードを指定してください。

#### AMQCO1010E

"{1}" のクライアントがチャンネル "{0}" に接続しようとしたときに SSL 例外が発生しました: {2}。

#### 説明

SSL 操作をクライアント・アプリケーションで実行している際にエラーが発生しました。

#### ユーザー処置

例外の情報を使用して、問題を診断および修正してください。

#### AMQCO2001E

エラー (プローブ: {0}) が発生し、障害データ検知 (FDC) ファイルに書き込みが行われました。

**説明**

問題が検出され、診断を補助するために FDC ファイルに書き込みが行われました。

**ユーザー処置**

FDC ファイルを参照して問題を解決してください。問題を解決できない場合には、IBM サポート・センターに連絡してください。

**AMQCO2002I**

トレースが使用不可です。

**説明**

MQXR サービスの (問題の診断のために使用される) トレースは現在実行されていません。

**ユーザー処置**

アクションは不要です。

**AMQCO2003I**

トレースが有効です。

**説明**

MQXR サービスの (問題の診断のために使用される) トレースは現在実行されています。

**ユーザー処置**

アクションは不要です。

**AMQCO2004I**

メッセージ "{1}" の "{0}" 個のインスタンスが抑制されました。

**説明**

メッセージ ID 「{1}」の最後のメッセージが書き込まれてから、そのメッセージ ID のうち {0} 個がログから抑制されました。

**ユーザー処置**

抑制されたメッセージに対してさらに必要な処置はありません。

**AMQCO9999E**

{0}

**説明**

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

**ユーザー処置**

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

**AMQHT1001E**

無効テキスト={0}(ストリング) が、HTTP 要求または応答に見つかりました。

**説明**

HTTP 要求または応答に、「<https://www.w3.org/pub/WWW/Protocols/>」で説明されていない予期しないデータが含まれていました。

**ユーザー処置**

HTTP 要求または応答の発信元またはソースが、有効な要求または応答を生成していることを確認してください。

**AMQHT1002E**

HTTP ヘッダー・テキスト={0}(ストリング) は無効でした。

**説明**

HTTP 要求または応答に、予期せぬテキストが含まれていました。

**ユーザー処置**

HTTP 要求または応答の発信元またはソースが、有効な要求または応答を生成していることを確認してください。

**AMQHT1003E**

ストリング={1}(ストリング) の位置={0} のテキストが無効です。

#### 説明

Java Script Object Notation (JSON) ストリングに、「<http://www.json.org/>」に記載されていない予期せぬデータが含まれていました。

#### ユーザー処置

発信元 (JSON) が有効なデータを生成しているかを確認してください。

#### AMQHT2001E

WebSocket が状況コード = {0} で閉じます。

#### 説明

WebSocket はリモート・エンドによって閉じられました。

#### ユーザー処置

予期せず閉じられた場合は、Websocket の状況コードを参照して、Websocket が閉じられた理由を特定してください。

#### AMQHT9999E

{0}

#### 説明

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

#### ユーザー処置

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

#### AMQXR0001I

クライアント {0} は正常に切断されました。

#### 説明

MQTT 切断フローが受信され、処理されました。

#### ユーザー処置

なし。

#### AMQXR0002E

チャンネル {2} で、MQXR サービスが MQTT クライアント {0} からメッセージを受け取ったときに、スロー可能な {1} の結果になりました。

#### 説明

ネットワーク接続から間違ったデータを受け取り、処理できなかったため、サーバーによって接続が閉じられました。

#### ユーザー処置

クライアントが解釈不能のデータを送信した理由を判別してください。

#### AMQXR0003I

MQXR JAAS {0} : {1}。

#### 説明

MQXR サービス内の JAAS コールバックが、メッセージをユーザーに表示するよう要求しました。

#### ユーザー処置

JAAS が発行したメッセージ内のテキストに説明されているセキュリティー問題の原因を判別してください。

#### AMQXR0004E

MQSeries verb={0}(ストリング) が、cc={1}(int) {2} rc={3}(int) {4} を返しました。

#### 説明

WebSphere MQ verb が、予期せぬ理由コードおよび完了コードを返しました。

#### ユーザー処置

エラーの原因を判別するため、理由コードを検索してください。

#### AMQXR0005I

{0} バージョン {1} の実行中。

#### 説明

コマンドが実行中です。

#### ユーザー処置

なし。

#### AMQXR0006E

無効な引数 {0} 使用法: runMQXRService -m <queueManagerName> -d <Qmgr データ・ディレクトリー> -g <MQ グローバル・データ・ディレクトリー>

#### 説明

runMQXRService コマンド引数が間違っています。

#### ユーザー処置

コマンドを訂正してください。

#### AMQXR0007E

無効な引数 {0} 使用法: endMQXRService -m <queueManagerName> -d <Qmgr データ・ディレクトリー> -g <MQ グローバル・データ・ディレクトリー>

#### 説明

endMQXRService コマンド引数が間違っています。

#### ユーザー処置

コマンドを訂正してください。

#### AMQXR0008E

MQXR サービスの開始中の例外: {0}

#### 説明

MQXR サービスは開始されていましたが、問題が検出されました。以前のエラーまたは FDC に詳細が記載されています。

#### ユーザー処置

以前のエラーまたは FDC を使用して、問題を診断し、対処してから、MQXR サービスを再開してください。

#### AMQXR0009E

MQXR サービスのシャットダウン中の例外: {0}

#### 説明

MQXR サービスはシャットダウンされましたが、問題が検出されました。以前のエラーまたは FDC に詳細が記載されています。

#### ユーザー処置

以前のエラーまたは FDC を使用して、問題を診断し、対処してください。

#### AMQXR0010E

チャンネル {2} 上で MQTT CONNECT パケット内に無効な ClientIdentifier {0} を「{1}」から受け取りました。

#### 説明

MQXR サービスは無効な ClientIdentifier を受け取りました。それはキュー・マネージャー名としては文字が少なすぎるか、多すぎるか、または無効な文字が含まれていました。

#### ユーザー処置

有効な文字を使用するように ClientIdentifier を変更してください。

#### AMQXR0011E

チャンネル「{2}」上で ClientIdentifier「{0}」UserName「{1}」からのトピック「{3}」のパブリッシュ中にエラーが発生しました。「{4}」操作中に、理由コード「{5}」「{6}」を受け取りました。

#### 説明

クライアントからのパブリッシュを完了できませんでした

#### ユーザー処置

理由コードを使用して問題の原因を診断し、必要に応じてクライアントまたはサーバーの構成を変更して、パブリッシュを再試行してください。

#### AMQXR0012E

チャンネル「{2}」で、ClientIdentifier「{0}」userName「{1}」のトピック「{3}」に対するサブスクリプション中にエラーが発生しました。「{4}」操作中に、理由コード「{5}」「{6}」を受け取りました。

**説明**

クライアントからのサブスクライブを完了できませんでした

**ユーザー処置**

理由コードを使用して問題の原因を診断し、必要に応じてクライアントまたはサーバーの構成を変更して、クライアントの再接続とサブスクライブの再試行を行ってください。

**AMQXR0013E**

チャンネル「{0}」(ホスト:「{1}」上、ポート「{2}」)の始動時のエラー。例外は「{3}」でした。

**説明**

サービスが、指定されたポートの接続を listen できませんでした。

**ユーザー処置**

例外を使用して問題を診断および修正し、影響のあるチャンネルを再開してください。

**AMQXR0014E**

チャンネル「{0}」始動時のエラー。詳しくは、以前のエラーまたは FDC を参照してください。

**説明**

以前のエラーまたは FDC で報告された問題のために、サービスが、指定されたポートの接続を listen できませんでした。

**ユーザー処置**

以前のエラーまたは FDC を使用して問題を診断および修正し、影響のあるチャンネルを再開してください。

**AMQXR0015I**

MQXR サービスが正常に開始されました ({0} 個のチャンネルが実行中、{1} 個のチャンネルが停止中)

**説明**

MQXR サービスが、開始時に発生した処理を完了しました

**ユーザー処置**

アクションは不要です。

**AMQXR0016I**

チャンネル「{0}」が始動しました

**説明**

このチャンネルはクライアント接続に使用できるようになりました

**ユーザー処置**

アクションは不要です

**AMQXR0017I**

新しいチャンネル(「{0}」)が作成されました

**説明**

ユーザーからの要求に対応して、新規チャンネルが作成されました

**ユーザー処置**

アクションは不要です

**AMQXR0018I**

チャンネル「{0}」が変更されました

**説明**

ユーザーからの要求に対応して、チャンネルの一部の設定が変更されました。チャンネルが再開されるまで、一部の設定は無効です。

**ユーザー処置**

アクションは不要です

**AMQXR0019I**

チャンネル「{0}」が削除されました

**説明**

ユーザーからの要求に対応して、新規チャンネルが削除されました

**ユーザー処置**

アクションは不要です

**AMQXR0020I**

チャンネル「{0}」がパージされました

**説明**

このチャンネルからクライアントが切断され、それに関連付けられた状態が除去されました

**ユーザー処置**

アクションは不要です

**AMQXR0021W**

ネットワーク・アドレス「{1}」のクライアント「{0}」が例外「{2}」によって異常切断されました。

**説明**

例外で示されている理由のために、MQTT クライアントがネットワークから切断されました。

**ユーザー処置**

アクションが必要か判別するために例外の原因を検討する必要があります。

**AMQXR0022I**

クライアント「{0}」は以前はネットワーク・アドレス「{1}」で接続されていましたが、現在は「{2}」で接続されています。

**説明**

既存の接続の代わりとなる新しい接続がクライアント用に作成されました。

**ユーザー処置**

これが意図的である場合、必要ありません。

**AMQXR0023I**

チャンネル {1} 上の MQTT プロトコル・バージョンはサポートされていません。例外 {0} がスローされました。

**説明**

MQTT クライアントがサポートされていないプロトコル・バージョンを使用して接続しようとした。その接続はサーバーによって閉じられています。

**ユーザー処置**

サポートされているプロトコル・バージョンを使用するようにクライアントを再構成してください。

**AMQXR0024I**

デバイス用の Telemetry デーモンがチャンネル {1} 上の専用プロトコルを使用して接続を試行し、例外 {0} がスローされました。

**説明**

デバイス用の Telemetry デーモンには通信のための専用プロトコルが含まれています。このプロトコルはサポートされていないので、サーバーによって接続が閉じられました。

**ユーザー処置**

ユーザー・アクションは不要です。デーモンはサポートされているプロトコルを使用して再接続する必要があります。このメッセージを削除するには、この接続にプライベート・プロトコルを使用しないように、デバイス用の Telemetry デーモンを再構成します。

**AMQXR0030W**

ClientIdentifier "{0}" からの Will メッセージが無効です。

**説明**

接続パケット内の Will メッセージの形式が誤っています。クライアント接続はサーバーにより閉じられます。

**ユーザー処置**

クライアント・アプリケーションを調べて、will メッセージにゼロ以外の長さのトピック名と有効な Qos があることを確認してください。

**AMQXR1001E**

MQTTV3Exception メッセージ={0}(ストリング)。

**説明**

com.ibm.mqttv3.internal.MQTTException のインスタンスがキャッチされ、ラップされました。

#### ユーザー処置

IBM サポートにお問い合わせください。

#### AMQXR1002E

MQTTV5Exception メッセージ={0}(ストリング)。

#### 説明

com.ibm.mqtt.encoding.internal.MQTTException のインスタンスがキャッチされ、ラップされました。

#### ユーザー処置

IBM サポートにお問い合わせください。

#### AMQXR1003E

タイプ={0}(バイト) の無効なメッセージを受け取りました。

#### 説明

無効な MQTT メッセージ・タイプを受け取りました。接続は切断されます。

#### ユーザー処置

MQXR サービスに接続されているクライアントが、無効な MQTT メッセージを送信しています。\\どんなクライアントが MQXR サービスに接続し、どんなデータを送信したかを見極めてください。クライアント・コードの提供者に連絡してください。WebSphere MQ インストールで提供されているクライアントを使用している場合には、\\IBM サポートに連絡してください。

#### AMQXR1004E

バージョン={0}(バイト) サブバージョン={1}(バイト) の無効なメッセージを受け取りました。

#### 説明

無効な MQTT メッセージ・バージョンを受け取りました。接続は切断されます。

#### ユーザー処置

MQXR サービスに接続されたクライアントは、無効な MQTT メッセージを送信しています。どんなクライアントが MQXR サービスに接続し、どんなデータを送信したかを見極めてください。クライアント・コードの提供者に連絡してください。WebSphere MQ インストールで提供されているクライアントを使用している場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQXR1005E

メッセージ={0}(16 進数) の無効なメッセージを受け取りました。

#### 説明

無効な MQTT メッセージを受け取りました。接続は切断されます。

#### ユーザー処置

MQXR サービスに接続されたクライアントは、無効な MQTT メッセージを送信しています。どんなクライアントが MQXR サービスに接続し、どんなデータを送信したかを見極めてください。クライアント・コードの提供者に連絡してください。WebSphere MQ インストールで提供されているクライアントを使用している場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQXR1006E

無効な MultiByteLength={0}(long) の MQTT メッセージを受け取りました。

#### 説明

無効なマルチバイトの長さを含む、無効 MQTT メッセージを受け取りました。接続は切断されます。

#### ユーザー処置

MQTT クライアント・アプリケーションが正しくないデータを送信した可能性があり、それは正しくない長さに解釈されます。MQTT クライアント・アプリケーションを確認し、それが正しいデータを送信しているか検査してください。クライアント・コードの提供者に連絡してください。WebSphere MQ インストールで提供されているクライアントを使用している場合には、IBM サポートに連絡してください。

#### AMQXR1007E

タイプ={0}(int) の無効な属性が検出されました。

#### 説明

無効な MQTT 属性が見つかったため、このメッセージの処理は中止され、接続は閉じられます。

#### ユーザー処置

診断情報を収集して、IBM サポートに連絡してください。

**AMQXR1008E**

{0}(ストリング)のために無効なマップされたメッセージが検出されました。

**説明**

無効なマップされたメッセージが検出され、処理できません。

**ユーザー処置**

メッセージの発生元を判別して、メッセージを修正して、マップされたメッセージではなく、正しい形式で作成されるようにします。

**AMQXR1009E**

{0}(ストリング)のために無効な WebSocket メッセージが検出されました。

**説明**

無効な WebSocket メッセージが検出され、処理できません。

**ユーザー処置**

メッセージの発生元を判別して、メッセージを正しい形式に修正してください。

**AMQXR1010E**

qos={0}(int)の無効なメッセージを受け取りました。

**説明**

無効な MQTT QoSを受け取りました。

**ユーザー処置**

MQXR サービスに接続されたクライアントは、無効な MQTT メッセージを送信しています。どんなクライアントが MQXR サービスに接続し、どんなデータを送信したかを見極めてください。クライアント・コードの提供者に連絡してください。WebSphere MQ インストールで提供されているクライアントを使用している場合には、IBM サポートに連絡してください。

**AMQXR2001E**

MQXR サービスを終了するためのコマンドが、キュー・マネージャー {0} への接続に失敗しました。例外: {1}

**説明**

管理層がキュー・マネージャーに接続できませんでした。

**ユーザー処置**

キュー・マネージャーがもう稼働していない場合には、アクションは不要です。キュー・マネージャーが依然として稼働している場合は、管理層が接続できない理由を確認してください。

**AMQXR2002E**

MQXR サービスを終了するためのコマンドが、キュー {0} のオープンに失敗しました。例外: {1}

**説明**

MQXR サービスの終了要求の送信に必要なキューを、管理層が開けませんでした。

**ユーザー処置**

キューを開けなかった理由を判別し、サービスの停止を再試行してください。

**AMQXR2003E**

MQXR サービスを終了するためのコマンドが失敗しました。失敗した操作: {0}、例外 ({1}): {2}

**説明**

管理層は、MQXR サービスの終了に必要なメッセージの put または get に失敗しました。

**ユーザー処置**

問題を修正してから、再びサービスの停止を試行してください。

**AMQXR2004E**

MQXR サービスの停止中にエラーが発生しました。完了コード: {0}、理由コード: {1}

**説明**

MQXR サービスがシャットダウンされているときにエラーが発生しました。

**ユーザー処置**

理由コードを使用して問題を診断してください。

**AMQXR2005E**

キュー・マネージャー・リソースの解放中にエラーが発生しました。オブジェクト: {0}、例外: {1}

**説明**

リソースのクリーンアップ中に、EndMQXRService コマンドが一過性の問題を検出しました。

**ユーザー処置**

なし。

**AMQXR2010E**

MQXR サービスはファイル {0} にアクセスできませんでした。例外: {1}

**説明**

ファイルは無効であるか、無効な形式か、またはアクセス権が正しくありません。

**ユーザー処置**

ファイルのアクセス権を調べ、ファイルが有効であることを確認してください。

**AMQXR2011I**

プロパティ {0}、値 {1}

**説明**

runMQXRService コマンドは、割り当てられた値を持つプロパティを読み取りました。

**ユーザー処置**

なし。

**AMQXR2012E**

無効なプロパティ・キー={0}、値={1}

**説明**

runMQXRService コマンドは、間違ったプロパティ・ファイルを読み取っています。

**ユーザー処置**

エラーのあるプロパティを調べて修正し、コマンドを再発行してください。

**AMQXR2014E**

{0} から {1} への名前変更に失敗しました。

**説明**

ファイルの名前を変更できませんでした

**ユーザー処置**

ターゲット・ファイルとディレクトリーの許可を確認し、必要に応じて変更してください

**AMQXR2013E**

チャンネル={0} に指定された認証方式に重複があります。前={1}、重複={2}

**説明**

runMQXRService コマンドは 2 つの認証方式を指定するプロパティ・ファイルを読み取りましたが、許可されるのは 1 つだけです。

**ユーザー処置**

プロパティ・ファイルを調べ、指名されたチャンネルの定義を見つけてください。認証方式を 1 つだけ指定するようにファイルを修正し、チャンネルを再始動してください。

**AMQXR2014E**

MQXR チャンネル (channelName = "{0}") の始動中に次の例外がスローされました : {1}

**説明**

MQXR チャンネルは開始されましたが、問題が検出されました。以前のエラーまたは FDC に詳細が記載されています。

**ユーザー処置**

以前のエラーまたは FDC を使用して、問題を診断し、対処してから、MQXR チャンネルを再開してください。

**AMQXR2015E**

MQXR チャンネル (channelName = "{0}") の停止中に次の例外がスローされました : {1}

**説明**

MQXR チャンネルは停止しましたが、問題が検出されました。以前のエラーまたは FDC に詳細が記載されています。

#### ユーザー処置

以前のエラーまたは FDC を使用して、問題を診断し、対処してから、MQXR チャンネルを再開してください。

#### AMQXR2020E

クライアント {0} は、サブスクライブしていないトピック「{1}」からアンサブスクライブしようとしてしました。

#### 説明

MQTT クライアントは、サブスクライブしていないトピックからアンサブスクライブしようとしてしました。

#### ユーザー処置

アプリケーション・ロジックが正しいことを確認し、アプリケーションが不整合な状態になった原因の可能性のある、以前のエラーを調べてください。

#### AMQXR2021E

クライアント {0} は、サブスクライブしていないキュー「{1}」からアンサブスクライブしようとしてしました。

#### 説明

MQTT クライアントは、サブスクライブしていないキューからアンサブスクライブしようとしてしました。

#### ユーザー処置

アプリケーション・ロジックが正しいことを確認し、アプリケーションが不整合な状態になった原因の可能性のある、以前のエラーを調べてください。

#### AMQXR2050E

JAAS 構成をロードできません: {0}。次の例外が発生しました: {1}

#### 説明

JAAS 構成は接続時にユーザーの認証を試みますが、それはロードできませんでした

#### ユーザー処置

チャンネルによって選択された JAAS 構成が jaas.config ファイルに存在し、有効であることを確認してください。

#### AMQXR2051E

ClientIdentifier {0} のログインが、例外 {1} を伴って失敗しました。

#### 説明

JAAS ログインが、示された例外を伴って失敗しました。

#### ユーザー処置

クライアントによって送信されたユーザー名とパスワードが正しいことを確認してください。

#### AMQXR2053E

トレース・ファクトリーでエラーが発生しました。次の例外が発生しました: {1}

#### 説明

トレースの開始または停止で問題が発生しました。

#### ユーザー処置

例外を使用して問題を診断および修正し、トレースを再開してください。

#### AMQXR9999E

{0}

#### 説明

このメッセージで十分な情報が得られない場合には、さらに助けを得るため、前のメッセージを確認してください。

#### ユーザー処置

詳しくは、前のメッセージを参照してください。

## MQJMS メッセージ

メッセージ番号が MQJMS で始まるメッセージのリスト。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS0000	MQJMS_EXCEPTION_ILLEGAL_STATE	メソッド "{0}" が呼び出されたタイミングが不正または不適切であったか、要求された操作に対してプロバイダーの状況が適切ではありません。
MQJMS0002	MQJMS_EXCEPTION_INVALID_CLIENTID	WebSphere MQ classes for JMS が無効な接続のクライアント ID を設定しようとした。
MQJMS0003	MQJMS_EXCEPTION_INVALID_DESTINATION	宛先が不明または無効です。
MQJMS0004	MQJMS_EXCEPTION_INVALID_SELECTOR	WebSphere MQ classes for JMS が JMS Provider に無効な構文のメッセージ・セレクターを指定しています。
MQJMS0005	MQJMS_EXCEPTION_MESSAGE_EOF	StreamMessage または BytesMessage の読み取り中に予期せずストリームの終わりに達しました。
MQJMS0006	MQJMS_EXCEPTION_MESSAGE_FORMAT	WebSphere MQ クラス (JMS 用) がメッセージでサポートされていないデータ・タイプを使用しようとしたか、または間違っただ型のデータを読み取ろうとした。
MQJMS0007	MQJMS_EXCEPTION_MESSAGE_NOT_READABLE	WebSphere MQ classes for JMS が書き込み専用メッセージを読み取ろうとした。
MQJMS0008	MQJMS_EXCEPTION_MESSAGE_NOT_WRITABLE	WebSphere MQ classes for JMS が読み取り専用メッセージを書き込もうとした。
MQJMS0009	MQJMS_EXCEPTION_RESOURCE_ALLOCATION	WebSphere MQ クラス (JMS 用) がメソッドに必要なリソースを割り振れません。
MQJMS0010	MQJMS_EXCEPTION_TRANSACTION_IN_PROGRESS	トランザクションが進行中のため操作が無効です。
MQJMS0011	MQJMS_EXCEPTION_TRANSACTION_ROLLED_BACK	Session.commit の呼び出しにより現行トランザクションがロールバックされました。
MQJMS1000	MQJMS_EXCEPTION_MSG_CREATE_ERROR	JMS メッセージの作成に失敗しました。
MQJMS1001	MQJMS_EXCEPTION_UNKNOWN_ACK_MODE	不明な応答モード "{0}"。
MQJMS1004	MQJMS_EXCEPTION_CONNECTION_CLOSED	接続がクローズされました。
MQJMS1005	MQJMS_EXCEPTION_BAD_STATE_TRANSITION	"{0}" から "{1}" の状態遷移が処理されていません。
MQJMS1006	MQJMS_EXCEPTION_BAD_VALUE	"{0}" の値が無効です: "{1}"。

表 3. MQJMS メッセージ。

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS1007	MQJMS_E_BAD_EXIT_CLASS	出口クラス "{0}" のインスタンスの作成に失敗しました。
MQJMS1008	MQJMS_E_UNKNOWN_TRANSPORT	transportType の不明な値: "{0}"。
MQJMS1009	MQJMS_E_NO_STR_CONSTRUCTOR	ストリング引数を持つコンストラクターがありません。
MQJMS1010	MQJMS_E_NOT_IMPLEMENTED	実装されていません。
MQJMS1011	MQJMS_E_SECURITY_CREDS_INVALID	MQ バインドの使用時にはセキュリティー証明書を指定できません。
MQJMS1012	MQJMS_E_NO_MSG_LISTENER	メッセージ・リスナーがありません。
MQJMS1013	MQJMS_E_SESSION_ASYNC	セッションが非同期送達を使用している間は操作は無効です。
MQJMS1014	MQJMS_E_IDENT_PRO_INVALID_OP	認識されたプロデューサーについて操作が無効です。
MQJMS1015	MQJMS_E_UNKNOWN_TARGET_CLIENT	ターゲット・クライアントの不明な値: "{0}"。
MQJMS1016	MQJMS_E_INTERNAL_ERROR	内部エラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。詳細: "{0}"。
MQJMS1017	MQJMS_E_NON_LOCAL_RXQ	非ローカル MQ キューが受信または参照で無効です。
MQJMS1018	MQJMS_E_NULL_CONNECTION	有効な接続が使用可能になっていません。
MQJMS1019	MQJMS_E_SESSION_NOT_TRANSACTED	非トランザクション化セッションの操作が無効です。
MQJMS1020	MQJMS_E_SESSION_IS_TRANSACTED	トランザクション化セッションの操作が無効です。
MQJMS1021	MQJMS_E_RECOVER_BO_FAILED	回復が失敗しました: 無応答メッセージは再送達されない可能性があります。
MQJMS1022	MQJMS_E_REDIRECT_FAILED	メッセージのリダイレクトに失敗しました。
MQJMS1023	MQJMS_E_ROLLBACK_FAILED	ロールバックが失敗しました。

表 3. MQJMS メッセージ。

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS1024	MQJMS_E_SESSION_CLOSED	セッションがクローズされました。
MQJMS1025	MQJMS_E_BROWSE_MSG_FAILED	メッセージの参照に失敗しました。
MQJMS1026	MQJMS_E_EXCP_LSTNR_FAILED	ExceptionListener が例外をスローしました: "{0}"。
MQJMS1027	MQJMS_E_BAD_DEST_STR	"{0}" からの宛先の再設定に失敗しました。
MQJMS1028	MQJMS_EXCEPTION_NULL_ELEMENT_NAME	エレメント名がヌルです。
MQJMS1029	MQJMS_EXCEPTION_NULL_PROPERTY_NAME	プロパティ名がヌルです。
MQJMS1030	MQJMS_EXCEPTION_BUFFER_TOO_SMALL	アプリケーションによって提供されたバッファが小さすぎます。
MQJMS1031	MQJMS_EXCEPTION_UNEXPECTED_ERROR	内部エラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。
MQJMS1032	MQJMS_E_CLOSE_FAILED	close() が "{0}" のために失敗しました。
MQJMS1033	MQJMS_E_START_FAILED	start() が "{0}" のために失敗しました。
MQJMS1034	MQJMS_E_MSG_LSTNR_FAILED	MessageListener が "{0}" をスローしました。
MQJMS1042	MQJMS_E_DELIVERY_MODE_INVALID	無効な送達モード。
MQJMS1044	MQJMS_E_INVALID_HEX_STRING	ストリングは有効な 16 進数ではありません - "{0}"。
MQJMS1045	MQJMS_E_S390_DOUBLE_TOO_BIG	数値は、倍精度 S/390 浮動 "{0}" の範囲にありません。
MQJMS1046	MQJMS_E_BAD_CCSID	文字セット "{0}" はサポートされていません。
MQJMS1047	MQJMS_E_INVALID_MAP_MESSAGE	マップ・メッセージの形式が正しくありません。
MQJMS1048	MQJMS_E_INVALID_STREAM_MESSAGE	ストリーム・メッセージの形式が正しくありません。
MQJMS1049	MQJMS_E_BYTE_TO_STRING	WebSphere MQ classes for JMS が、バイト配列をストリングに変換しようと試みました。

表 3. MQJMS メッセージ。

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS1050	MQJMS_E_BAD_RFH2	MQRFH2 ヘッダーの形式が正しくありません。
MQJMS1051	MQJMS_MSG_CLASS	JMS メッセージ・クラス。
MQJMS1052	MQJMS_E_BAD_MSG_CLASS	認識できない JMS メッセージ・クラス。
MQJMS1053	MQJMS_E_INVALID_SURROGATE	無効な UTF-16 サロゲートが見つかりました "{0}"。
MQJMS1054	MQJMS_E_INVALID_ESCAPE	無効な XML エスケープ・シーケンスが見つかりました "{0}"。
MQJMS1055	MQJMS_E_BAD_TYPE	メッセージ内のプロパティまたはエレメントに非互換のデータ・タイプ "{0}"。
MQJMS1056	MQJMS_E_UNSUPPORTED_TYPE	サポートされていないプロパティまたはエレメントのデータ・タイプ "{0}"。
MQJMS1057	MQJMS_E_NO_SESSION	メッセージにはセッションが関連付けられていません。
MQJMS1058	MQJMS_E_BAD_PROPERTY_NAME	無効なメッセージ・プロパティ名: "{0}"。
MQJMS1059	MQJMS_E_NO_UTF8	致命的エラー - UTF8 はサポートされていません。
MQJMS1060	MQJMS_E_SERIALISE_FAILED	オブジェクトを直列化できません。
MQJMS1061	MQJMS_E_DESERIALISE_FAILED	オブジェクトを非直列化できません。
MQJMS1062	MQJMS_EXCEPTION_HAPPENED	メッセージ本文を読み取っているときに例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS1063	MQJMS_CHARS_OMITTED	"{0}" 文字が省略されました。
MQJMS1064	MQJMS_ENCODINGS	整数エンコード: "{0}" = 浮動小数点エンコード "{1}"。
MQJMS1065	MQJMS_E_COULD_NOT_WRITE	メッセージ本文を書き込んでいるときに例外が発生しました。
MQJMS1066	MQJMS_E_BAD_ELEMENT_NAME	無効なメッセージ・エレメント名: "{0}"。
MQJMS1067	MQJMS_E_BAD_TIMEOUT	タイムアウトが MQ では無効です。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS1068	MQJMS_E_NO_XARESOURCE	XAResource の取得に失敗しました。
MQJMS1069	MQJMS_E_NOT_ALLOWED_WITH_XA	XASession では許可されていません。
MQJMS1072	MQJMS_E_QMGR_NAME_INQUIRE_FAILED	キュー・マネージャー名を照会できませんでした。
MQJMS1073	MQJMS_E_QUEUE_NOT_LOCAL_OR_ALIAS	指定された MQ キューは QLOCAL でも QALIAS でもありません。
MQJMS1074	MQJMS_E_NULL_MESSAGE	ヌル・メッセージを処理できません。
MQJMS1075	MQJMS_E_DLH_WRITE_FAILED	送達不能ヘッダーの書き込みエラー。
MQJMS1076	MQJMS_E_DLH_READ_FAILED	送達不能ヘッダーの読み取りエラー。
MQJMS1077	MQJMS_E_CONN_DEST_MISMATCH	接続/宛先の不一致。
MQJMS1078	MQJMS_E_INVALID_SESSION	無効なセッション・オブジェクト。
MQJMS1079	MQJMS_E_DLQ_FAILED	メッセージを送達不能キューに書き込めません。
MQJMS1080	MQJMS_E_NO_BORQ	「バックアウト-再キューイング」キューが定義されていません。
MQJMS1081	MQJMS_E_REQUEUE_FAILED	メッセージの再キューイングに失敗しました。
MQJMS1082	MQJMS_E_DISCARD_FAILED	メッセージの廃棄に失敗しました。
MQJMS1085	MQJMS_E_RFH_WRITE_FAILED	RFH の書き込みエラー。
MQJMS1086	MQJMS_E_RFH_READ_FAILED	RFH の読み取りエラー。
MQJMS1087	MQJMS_E_RFH_CONTENTS_ERROR	認識できない、または無効な RFH 内容。
MQJMS1088	MQJMS_E_CC_MIXED_DOMAIN	混合ドメインのコンシューマーが同じ入力进行操作するのは禁止されています。
MQJMS1089	MQJMS_E_READING_MSG	メッセージ本文を読み取っているときに例外が発生しました: "{0}"。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS1091	MQJMS_E_UNIDENT_PRO_INVALID_OP	識別されていないプロデューサーに対する操作が無効です。
MQJMS1093	MQJMS_E_NULL_PARAMETER	コンストラクターにヌルのパラメーターが渡されました: "{0}"。
MQJMS1094	MQJMS_E_INVALID_QUANTITY_HINT	quantityHint が無効です。
MQJMS1096	MQJMS_E_INVALID_MESSAGE_REFERENCE	MessageReference が無効です。
MQJMS1098	MQJMS_E_INVALID_MSG_REF_VERSION	MessageReference のバージョンが無効です。
MQJMS1099	MQJMS_E_INVALID_THREAD_VERSION	MQQueueAgentThread のバージョンが無効です。
MQJMS1102	MQJMS_E_MULTICAST_NOT_AVAILABLE	マルチキャスト接続が確立できません。
MQJMS1103	MQJMS_E_MULTICAST_LOST_MESSAGES	信頼性の高いマルチキャスト・モードで "{0}" メッセージを失いました。
MQJMS1104	MQJMS_E_MULTICAST_HEARTBEAT_TIMEOUT	タイムアウトによりマルチキャスト接続が切断されました。
MQJMS1105	MQJMS_E_MULTICAST_PORT_INVALID	disthub マルチキャスト用の特定ローカル・ポートに接続できません。
MQJMS1106	MQJMS_DIR_PGM_LIB_NOT_FOUND	PGM/IP で必要なネイティブ・ライブラリーをロードできません。
MQJMS1110	MQJMS_E_11_NOTSUPPORTED	JMS1.1 操作はこのタイプでサポートされていません。
MQJMS1111	MQJMS_E_11_SERVICES_NOT_SETUP	JMS1.1 必要なキューまたはパブリッシュ/サブスクライブのサービスがセットアップされていません。
MQJMS1112	MQJMS_E_11_INVALID_DOMAIN_SPECIFIC	JMS1.1 ドメイン特定のオブジェクトには無効な操作です。
MQJMS1113	MQJMS_E_11_INVALID_CROSS_DOMAIN	JMS1.1 クロスドメイン・オブジェクトには無効な操作です。
MQJMS2000	MQJMS_EXCEPTION_MQ_Q_CLOSE_FAILED	MQ キューのクローズに失敗しました。
MQJMS2001	MQJMS_EXCEPTION_MQ_NULL_Q	MQ キュー参照がヌルです。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS2002	MQJMS_EXCEPTION_GET_MSG_FAILED	MQ キューからメッセージを取得できませんでした。
MQJMS2003	MQJMS_EXCEPTION_QMDISC_FAILED	キュー・マネージャーの切断に失敗しました。
MQJMS2004	MQJMS_EXCEPTION_MQ_NULL_QMGR	MQQueueManager 参照がヌルです。
MQJMS2005	MQJMS_EXCEPTION_QMGR_FAILED	"{0}" の MQQueueManager の作成に失敗しました。
MQJMS2006	MQJMS_EXCEPTION_SOME_PROBLEM	MQ の問題: "{0}"。
MQJMS2007	MQJMS_EXCEPTION_PUT_MSG_FAILED	メッセージを MQ キューに送信できませんでした。
MQJMS2008	MQJMS_EXCEPTION_MQ_Q_OPEN_FAILED	MQ キュー "{0}" のオープンに失敗しました。
MQJMS2009	MQJMS_EXCEPTION_MQ_QM_COMMIT_FAILED	MQQueueManager.commit() が失敗しました。
MQJMS2010	MQJMS_EXCEPTION_MQ_UNKNOWN_DEFTYPE	MQ キュー definitionType の不明な値: "{0}"。
MQJMS2011	MQJMS_EXCEPTION_MQ_Q_INQUIRE_FAILED	MQ キュー項目数の照会に失敗しました。
MQJMS2012	MQJMS_EXCEPTION_XACLOSE_FAILED	XACLOSE が失敗しました。
MQJMS2013	MQJMS_EXCEPTION_AUTHENTICATION_FAILED	無効なセキュリティ認証が MQQueueManager に指定されました。
MQJMS2014	MQJMS_EXCEPTION_XACLIENT_FAILED	キュー・マネージャーが XA クライアント接続を拒否しました。
MQJMS3000	MQJMS_E_TMPQ_FAILED	"{0}" からの一時キューの作成に失敗しました。
MQJMS3001	MQJMS_E_TMPQ_CLOSED	一時キューは既にクローズまたは削除されています。
MQJMS3002	MQJMS_E_TMPQ_INUSE	一時キューが使用中です。
MQJMS3003	MQJMS_E_TMPQ_DEL_STATIC	静的キューは削除できません。
MQJMS3004	MQJMS_E_TMPQ_DEL_FAILED	一時キューの削除に失敗しました。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS3005	MQJMS_PS_GENERAL_ERROR	パブリッシュ/サブスクライブが "{0}" のために失敗しました。
MQJMS3006	MQJMS_PS_TOPIC_NULL	トピック参照がヌルです。
MQJMS3008	MQJMS_PS_COMMAND_MSG_BUILD	コマンド "{0}" の作成に失敗しました。
MQJMS3009	MQJMS_PS_COMMAND_MSG_FAILED	コマンドを MQ キューにパブリッシュできませんでした。
MQJMS3010	MQJMS_PS_PUBLISH_MSG_BUILD	パブリッシュ・メッセージの作成に失敗しました。
MQJMS3011	MQJMS_PS_PUBLISH_MSG_FAILED	メッセージを MQ キューにパブリッシュできませんでした。
MQJMS3013	MQJMS_PS_STORE_ADMIN_ENTRY	admin エントリーの保管に失敗しました。
MQJMS3014	MQJMS_PS_SUB_Q_OPEN_FAILED	サブスクライバー・キュー "{0}" のオープンに失敗しました。
MQJMS3017	MQJMS_PS_SUB_Q_DELETE_FAILED	サブスクライバー・キュー "{0}" の削除に失敗しました。
MQJMS3018	MQJMS_PS_UNKNOWN_DS	不明な永続サブスクリプション "{0}"。
MQJMS3019	MQJMS_E_TMPT_DELETED	TemporaryTopic は既に削除されています。
MQJMS3020	MQJMS_E_TMPT_OUTOFSCOPE	TemporaryTopic が有効範囲にありません。
MQJMS3021	MQJMS_PS_INVALID_SUBQ_PREFIX	無効なサブスクライバー・キュー接頭部: "{0}"。
MQJMS3022	MQJMS_PS_SUBQ_REQUEUE	永続再サブスクライブは同じサブスクライバー・キューを使用しなければなりません。指定: "{0}" オリジナル: "{1}"。
MQJMS3023	MQJMS_PS_SUB_ACTIVE	サブスクリプションにアクティブな TopicSubscriber があります。
MQJMS3024	MQJMS_PS_NULL_CLIENTID	未初期設定クライアント ID が間違って使用されました。
MQJMS3025	MQJMS_E_TMPT_IN_USE	TemporaryTopic は使用中です。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS3026	MQJMS_ERR_QSENDER_CLOSED	QueueSender がクローズされました。
MQJMS3028	MQJMS_PUBLISHER_CLOSED	TopicPublisher がクローズされました。
MQJMS3031	MQJMS_CLIENTID_FIXED	接続の使用後に clientID を設定することはできません。
MQJMS3032	MQJMS_CLIENTID_NO_RESET	clientID のリセットは許可されていません。
MQJMS3033	MQJMS_QRECEIVER_CLOSED	QueueReceiver がクローズされました。
MQJMS3034	MQJMS_SUBSCRIBER_CLOSED	TopicSubscriber がクローズされました。
MQJMS3037	MQJMS_MESSAGEPRODUCER_CLOSED	Message Producer がクローズされました。
MQJMS3038	MQJMS_MESSAGECONSUMER_CLOSED	Message Consumer がクローズされました。
MQJMS3039	MQJMS_PS_NULL_NAME	ヌル名の使用は許可されていません。
MQJMS3040	MQJMS_E_BROKER_MESSAGE_CONTENT	ブローカーの制御メッセージ内容が無効です: "{0}"。
MQJMS3041	MQJMS_E_ALREADY_SET	フィールド "{0}" は既に設定されています。
MQJMS3042	MQJMS_E_UNREC_BROKER_MESSAGE	Pub/Sub ブローカーから認識できないメッセージを受け取りました。
MQJMS3043	MQJMS_E_CLEANUP_REP_BAD_LEVEL	クリーンアップの繰り返しには無効なレベルです。
MQJMS3044	MQJMS_E_CLEANUP_NONE_REQUESTED	クリーンアップ・レベル NONE が要求されました。
MQJMS3045	MQJMS_E_CLEANUP_Q_OPEN_1	"{0}" をオープンできません。FORCE または NONDUR レベルのクリーンアップが実行中の可能性があります。
MQJMS3046	MQJMS_E_CLEANUP_Q_OPEN_2	"{0}" をオープンできません。別の JMS アプリケーションがこのキュー・マネージャーで Pub/Sub を使用している可能性があります。
MQJMS3047	MQJMS_PS_SUBSTORE_NOT_SUPPORTED	キュー・マネージャーがサブスクリプション・ストア・タイプをサポートしていません。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS3048	MQJMS_PS_INCORRECT_SUBSTORE	サブスクリプション・ストア・タイプが正しくありません。
MQJMS3049	MQJMS_PS_WRONG_SUBSCRIPTION_TYPE	MQJMS_Messages.MQJMS_PS_WRONG_SUBSCRIPTION_TYPE = このサブスクリプション・ストアのサブスクリプション・タイプが正しくありません。
MQJMS3050	MQJMS_PS_SUBSCRIPTION_IN_USE	サブスクリプションは既に使用中であるため、更新できません。
MQJMS3051	MQJMS_PS_INVALID_SUB_NAME	サブスクリプション名が無効です。
MQJMS4124	MQJMS_ADMIN_PROPVAL_NULL	"{0}" のプロパティ値がヌルです。
MQJMS4125	MQJMS_ADMIN_INV_PROP	"{0}" のプロパティが無効です: "{1}"。
MQJMS4131	MQJMS_ADMIN_OBJTYPE_MISMATCH	予想されたオブジェクト・タイプと実際のタイプが一致しません。
MQJMS5053	MQJMS_UTIL_PS_NO_BROKER	*** ブローカーの応答がありません。ブローカーが実行されていることを確認してください。WebSphere MQ ブローカーを使用している場合は、brokerVersion が V1 に設定されていることを確認してください。***
MQJMS5087	MQJMS_UTIL_PS_INTERNALQ	内部キュー "{0}" へのアクセス中に予期しないエラー "{1}" が発生しました。
MQJMS6040	MQJMS_DIR_IMB_BADSOCKNAME	ソケット・ファミリー名 "{0}" が無効です。
MQJMS6041	MQJMS_DIR_IMB_NOCLASS	ソケット・ファクトリー・クラス "{0}" をロードしようとしたときに例外が発生しました。例外: <"{1}">。
MQJMS6056	MQJMS_DIR_MIN_NOMORE	これ以上 BaseConfig パラメーターを変更できないため、パラメーター "{0}" を変更できません。
MQJMS6057	MQJMS_DIR_MIN_BADSET	パラメーター "{0}" を値 "{1}" に設定できません。
MQJMS6058	MQJMS_DIR_MIN_BADGET	BaseConfig パラメーター "{0}" の取得中にエラーが発生しました。
MQJMS6059	MQJMS_DIR_MIN_SECLDERR	最小クライアント・セキュリティー・インプリメンテーションのロード中に例外が発生しました。

表 3. MQJMS メッセージ。

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS6 060	MQJMS_DIR_MIN_UNXEXC	予期しない例外が最小クライアント "{0}" で発生しました。
MQJMS6 061	MQJMS_DIR_MIN_BADTOP	指定されたトピックの形式が正しくありません "{0}"。
MQJMS6 062	MQJMS_DIR_MIN_EOF	最小クライアントでデータを受信中に EOF が見つかりました。
MQJMS6 063	MQJMS_DIR_MIN_BRKERR	ブローカーが最小クライアント接続でのエラーを示しました。
MQJMS6 064	MQJMS_DIR_MIN_BADMSG	Connector.send が、正しくないメッセージ値で呼び出されました。
MQJMS6 065	MQJMS_DIR_MIN_BADFIELD	正しくない値がフィールドに見つかりました: "{0}"。
MQJMS6 066	MQJMS_DIR_MIN_INTERR	予期しない内部エラーが最小クライアントで発生しました。
MQJMS6 067	MQJMS_DIR_MIN_NOTBYTES	バイト・メッセージ操作が、バイト・メッセージではない項目に関して要求されました。
MQJMS6 068	MQJMS_DIR_MIN_NOTTEXT	テキスト・メッセージ操作が、テキスト・メッセージではない項目に関して要求されました。
MQJMS6 069	MQJMS_DIR_MIN_NOTSTREAM	ストリーム・メッセージ操作が、ストリーム・メッセージではない項目に関して要求されました。
MQJMS6 070	MQJMS_DIR_MIN_NOTMAP	マップ・メッセージ操作が、マップ・メッセージではない項目に関して要求されました。
MQJMS6 071	MQJMS_DIR_MIN_BADBRKMSG	ブローカーが認証中に無効なメッセージを送信しました。
MQJMS6 072	MQJMS_DIR_MIN_UNVPRO	ブローカーが認証中に使用不可のプロトコルを要求しました。
MQJMS6 073	MQJMS_DIR_MIN_AUTHREJ	認証に失敗したため、最小クライアント接続が拒否されました。
MQJMS6 074	MQJMS_DIR_MIN_NOQOP	最小クライアントで使用可能な QOP がありません。
MQJMS6 079	MQJMS_DIR_JMS_NOTHDPPOOL	スレッド・プーリング・サポートをロードしようとしたときに例外が発生しました: "{0}"。

表 3. MQJMS メッセージ。

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS6081	MQJMS_DIR_JMS_FMTINT	前の読み取りが完了する前にストリーム・メッセージからの読み取りを実行しようとした。
MQJMS6083	MQJMS_DIR_JMS_THDEXC	スレッド・プール・インスタンスの初期化中に例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS6085	MQJMS_DIR_JMS_NEXCLIS	ExceptionListener が設定されていません。
MQJMS6088	MQJMS_DIR_JMS_KILLMON	クライアント・サイドの接続モニターを終了中です。
MQJMS6090	MQJMS_DIR_JMS_LSTACT	リスナーがアクティブな MessageConsumer 上で同期受信を実行しようとした。
MQJMS6091	MQJMS_DIR_JMS_TCSTSTP	接続時の送達を開始または停止中に IOException が発生しました: "{0}"。
MQJMS6093	MQJMS_DIR_JMS_RUNKEXC	同期受信中に例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS6096	MQJMS_DIR_JMS_INVPRI	"{0}" の JMSPriority レベルが、JMS に指定された範囲の外にあります。
MQJMS6097	MQJMS_DIR_JMS_BADID	指定された JMSMessageID "{0}" が無効です。
MQJMS6105	MQJMS_DIR_JMS_NOMORE	これ以上クライアント・パラメーターを変更することはできません。
MQJMS6106	MQJMS_DIR_JMS_BADNUM	パラメーター "{0}" の初期化中に例外が発生しました。例外: "{1}"。
MQJMS6115	MQJMS_DIR_JMS_TCFLEERR	TopicConnection の作成中に例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS6116	MQJMS_DIR_JMS_CLOSED	クローズされたエンティティでこの操作を行うことはできません。
MQJMS6117	MQJMS_DIR_JMS_BDTPIMPL	トピックの "{0}" 実装はサポートされていません。
MQJMS6118	MQJMS_DIR_JMS_PBNOWLD	トピック "{0}" にはワイルドカードが含まれていますが、パブリッシュには無効です。
MQJMS6119	MQJMS_DIR_JMS_PBIOERR	パブリッシュ中に IOException が発生しました: "{0}"。
MQJMS6120	MQJMS_DIR_JMS_TMPVIO	現行接続で作成されていない一時トピックの使用を試みました。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS6 121	MQJMS_DIR_JMS_TSIOERR	サブスクリプション中に IOException が発生しました: "{0}"。
MQJMS6 232	MQJMS_DIR_JMS_TSBADMTD	TopicSubscriber の作成中にマッチング・エンジンにサブスクリプションを追加しようとしたが、次の例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS6 233	MQJMS_DIR_MTCH_UNKEXC	予期しない例外がマッチング・エンジンで見つかりました: "{0}"。
MQJMS6 234	MQJMS_DIR_MTCH_NULRM	トピック "{0}" を持つオブジェクトを空のマッチング・エンジンから除去しようとした: "{1}"。
MQJMS6 235	MQJMS_DIR_MTCH_NULCH	トピック "{0}" を持つオブジェクトをマッチング・エンジンから除去しようとしたが、キャッシュ・エントリがありませんでした: "{1}"。
MQJMS6 236	MQJMS_DIR_MTCH_BDTYP	クラス "{0}" の不明な検査タイプがタイプ固有のマッチング・エンジンで見つかりました。
MQJMS6 237	MQJMS_DIR_MTCH_UNKNM	"{0}" という名前の不明なフィールドにアクセスしようとした。
MQJMS6 238	MQJMS_DIR_MTCH_BDMSG	メッセージのフィールドにアクセスしようとしたときに次の例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS6 239	MQJMS_DIR_MTCH_ECPREP	キャッシュがロードされていないときに EvalCache GET または PUT 操作が行われました。
MQJMS6 240	MQJMS_DIR_MTCH_ECNMIN	EvalCache GET または PUT 操作で無効な ID が指定されました。
MQJMS6 241	MQJMS_DIR_MTCH_TOMNY	指定されたコンテンツの属性が多すぎます。
MQJMS6 242	MQJMS_DIR_MTCH_DUPDET	重複する MatchTarget が MatchSpace で見つかりました。
MQJMS6 243	MQJMS_DIR_MTCH_NOTPK	MatchTarget "{0}" を MatchSpace から除去しようとしたが、キー (トピック) がありません。
MQJMS6 244	MQJMS_DIR_MTCH_NOSUB	キー (トピック) "{0}" を持つ MatchTarget "{1}" が見つからなかったために、それを MatchSpace から除去できませんでした。
MQJMS6 245	MQJMS_DIR_MTCH_NLTOP	MatchTarget を MatchSpace にキー (トピック) なしで追加しようとした。

表 3. MQJMS メッセージ.

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS6 246	MQJMS_DIR_MTCH_BDWLD	トピック・ワイルドカード文字 "{0}" の不正な使用が見つかりました。
MQJMS6 247	MQJMS_DIR_MTCH_BDSEP	トピック・セグメント区切り文字 "{0}" が不正な位置で使用されています。
MQJMS6 248	MQJMS_DIR_MTCH_CNTLD	サブスクリプション・セレクター・パーサーのロードまたは呼び出し中にエラーが発生しました。
MQJMS6 249	MQJMS_DIR_MTCH_PSTPER	サブスクリプション・セレクターの構文解析中に次の例外が発生しました: "{0}"。
MQJMS6 250	MQJMS_DIR_MTCH_BDESC	次のパターンを終了するためにエスケープ文字が使用されました: "{0}"。
MQJMS6 251	MQJMS_DIR_MTCH_BDESCL	パターン・ツールに渡されたエスケープ文字 "{0}" の長さが 1 文字を超えています。
MQJMS6 252	MQJMS_DIR_MTCH_UNXTYP	メッセージ・フィールドにはタイプ "{0}" の値が含まれていると予想されましたが、タイプ "{1}" の値が含まれていました。
MQJMS6 228	MQJMS_DIR_MIN_AUTHEXC	例外 "{0}" が発生したため、最小クライアント認証が失敗しました。
MQJMS6 229	MQJMS_DIR_MIN_QOPDIS	QOP が要求されましたが、この最小クライアントについては使用不可になっています。
MQJMS6 312	MQJMS_DIR_MIN_NOSUB	トピック "{0}" のサブスクリプションは許可されていません。
MQJMS6 311	MQJMS_DIR_MIN_NOXASUP	トランザクション内のトランスポート・タイプ 'DIRECT' はサポートされていません
MQJMS6 350	MQJMS_DIR_MIN_NOTOBJECT	オブジェクト・メッセージ操作が、オブジェクト・メッセージではない項目に関して要求されました。
MQJMS6 351	MQJMS_DIR_MIN_TSBADSYN	<"{0}";"{1}"> のサブスクリプションを作成中に例外が発生しました: "{2}"。
MQJMS6 401	MQJMS_DIR_MIN_PER_NOT_SUPPORTED	永続メッセージは、トランスポート・タイプ 'DIRECT' ではサポートされていません。
MQJMS6 402	MQJMS_DIR_MIN_TTL_NOT_SUPPORTED	存続時間 > 0 は、トランスポート・タイプ 'DIRECT' ではサポートされていません。

表 3. MQJMS メッセージ。

MQJMS で始まるメッセージのメッセージ番号、定数、および説明テキストのリスト。

(続き)

メッセージ ID	メッセージ定数	説明
MQJMS6 403	MQJMS_DIR_MIN_EXP_NOT_SUPPORTED	トピック期限 > 0 は、トランスポート・タイプ 'DIRECT' ではサポートされていません。
MQJMS6 404	MQJMS_DIR_MIN_ACK_NOT_SUPPORTED	クライアント応答は、トランスポート・タイプ 'DIRECT' ではサポートされていません。

#### 関連資料

[WMQ JMS 例外メッセージ](#)

## IBM WebSphere MQ Advanced Message Security のメッセージ

### AMS0000

#### AMS0001

{0}

### AMS1000

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、セキュリティー・ポリシーの取得に失敗しました。理由コード: "{0}"

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、セキュリティー・ポリシーを取得できませんでした。

#### アクション

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

### AMS1010

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、受信メッセージの保護の解除に失敗しました。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターで、受信したメッセージの保護を解除するときにエラーが発生しました。

#### アクション

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

### AMS1011

内部エラーが発生しました。IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、着信メッセージからの文字セットとエンコーディング取得に失敗しました。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターで、着信メッセージから CCSID とエンコードを取得するときにエラーが発生しました。

#### アクション

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1020

使用法: 鍵ストアのパスワードと秘密鍵のパスワードを指定します `java -cp{0} com.ibm.mq.es.config.KeyStoreConfigProtector keystorepass privkeypass`

### AMS1030

次のシステム・プロパティーの検索に失敗しました: "{0}"

#### 説明

特定のシステム・プロパティの検索中にエラーが発生しました。

#### アクション

これらのシステム・プロパティを検索するには、Java ランタイムの java.policy で適切な Java 権限がセットアップされていることを確認してください。

#### AMS1035

不明なメッセージ・コード: "{0}"

#### 説明

リソース・バンドル内でメッセージ・コードのテキストが見つかりませんでした。

#### アクション

表示されているメッセージ・コードについての情報を検索します。適切な IBM WebSphere MQ 言語パックがこのマシンにインストールされていることを確認してください。

#### AMS1040

鍵ストア構成ファイルからの鍵ストア・プロパティ読み取りに失敗しました。

#### 説明

鍵ストア構成ファイルからプロパティを読み取るときにエラーが発生しました。

#### アクション

鍵ストア構成ファイルが使用可能であること、および Java アプリケーションがこのファイルの読み取り権限を持っていることを確認してください。

#### AMS1041

鍵ストア "{1}" から、別名 "{0}" の証明書を検索できませんでした

#### 説明

別名の証明書を鍵ストアから検索できませんでした。

#### アクション

適切な証明書管理ツールを使用して、別名の証明書を鍵ストアに確実に含めてください。

#### AMS1042

鍵ストア "{1}" から、別名 "{0}" の証明書を検索できませんでした

#### 説明

別名の証明書を鍵ストアから検索できませんでした。

#### アクション

適切な証明書管理ツールを使用して、別名の証明書を鍵ストアに確実に含めてください。

#### AMS1043

鍵ストア "{1}" から、別名 "{0}" の証明書を検索できませんでした

#### 説明

別名の証明書を鍵ストアから検索できませんでした。

#### アクション

適切な証明書管理ツールを使用して、別名の証明書を鍵ストアに確実に含めてください。

#### AMS1044

鍵ストア "{1}" から、別名 "{0}" の秘密鍵を検索できませんでした

#### 説明

別名の秘密鍵を鍵ストアから検索できませんでした。

#### アクション

適切な証明書管理ツールを使用して、別名の秘密鍵を鍵ストアに確実に含めてください。

#### AMS1045

鍵ストア "{1}" から、別名 "{0}" の秘密鍵を検索できませんでした

#### 説明

別名の秘密鍵を鍵ストアから検索できませんでした。

#### アクション

適切な証明書管理ツールを使用して、別名の秘密鍵を鍵ストアに確実に含めてください。

**AMS1046**

鍵ストア "{0}" から別名を検索できませんでした

**説明**

鍵ストアから別名を検索しているときにエラーが発生しました。

**アクション**

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

**AMS1047**

別名 "{0}" が鍵ストア "{1}" 内に見つかりませんでした

**説明**

鍵ストアの中に別名が見つかりません。

**アクション**

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

**AMS1048**

鍵ストア "{1}" から、別名 "{0}" の証明書チェーンを検索できませんでした

**説明**

鍵ストアから別名の証明書チェーンを検索しているときにエラーが発生しました。

**アクション**

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

**AMS1049**

鍵ストア "{1}" にある別名 "{0}" のエントリーに証明書が含まれているかどうかを検証できませんでした。

**説明**

鍵ストアにある別名のエントリーに証明書が含まれているかどうかを検証するときに、エラーが発生しました。

**アクション**

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

**AMS1050**

鍵ストア "{1}" にある別名 "{0}" のエントリーに秘密鍵が含まれているかどうかを検証できませんでした。

**説明**

鍵ストアにある別名のエントリーに秘密鍵が含まれているかどうかを検証するときに、エラーが発生しました。

**アクション**

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

**AMS1051**

鍵ストア "{0}" の初期化に失敗しました

**説明**

鍵ストアの初期化に失敗しました。

**アクション**

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

**AMS1052**

鍵ストア "{1}" にある別名 "{0}" のパスワードの保護に失敗しました

**説明**

鍵ストアにある別名のパスワードを保護するときに、エラーが発生しました。

#### アクション

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

#### AMS1053

鍵ストア "{1}" にある別名 "{0}" のパスワードの保護の解除に失敗しました

#### 説明

鍵ストアにある別名のパスワードの保護を解除するときに、エラーが発生しました。

#### アクション

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

#### AMS1054

次の受信側に対する証明書を取得できませんでした: "{0}"

#### 説明

受信側の証明書を取得しているときにエラーが発生しました。

#### アクション

これらの受信者の証明書がローカル鍵ストアまたはユーザー・レジストリーに存在することを確認してください。

#### AMS1055

受信側証明書の検索を試行しているときに、エラーが発生しました。

#### 説明

受信側証明書の検索を試行しているときに、エラーが発生しました。

#### アクション

この問題を修正するために実行するアクションについて、詳しくは後続のメッセージを参照してください。

#### AMS1056

メッセージに IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーが含まれていないか、無効なヘッダーが含まれています。

#### 説明

メッセージに IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーが含まれていないか、無効なヘッダーが含まれています。

#### アクション

送信側と受信側で IBM WebSphere MQ Advanced Message Security セキュリティー・ポリシーが同じであることを確認してください。

#### AMS1057

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを、"{0}" から UTF8 に変換できませんでした。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを UTF8 に変換するときにエラーが発生しました。

#### アクション

ご使用の Java ランタイムで、この文字エンコードがサポートされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### AMS1058

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを、"{0}" から UTF8 に変換できませんでした。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを UTF8 に変換するときにエラーが発生しました。

#### アクション

ご使用の Java ランタイムで、この文字エンコードがサポートされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1059**

内部エラーが発生しました。IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを、バイト配列に変換できませんでした。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーをバイト配列に変換するときに内部エラーが発生しました。

**アクション**

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1060**

受信側名 "{0}" のフォーマットが無効です。

**説明**

受信側名のフォーマットが無効です。

**アクション**

受信側の拡張属性を、有効な値に設定してください。

**AMS1061**

指定された別名 "{0}" が鍵ストア "{1}" 内に見つかりませんでした

**説明**

鍵ストアでこの別名が見つかりませんでした。

**アクション**

適切な証明書管理ツールを使用して、指定された別名を鍵ストアに確実に含めてください。

**AMS1062**

指定された別名 "{0}" が鍵ストア "{1}" 内に見つかりませんでした

**説明**

鍵ストアでこの別名が見つかりませんでした。

**アクション**

適切な証明書管理ツールを使用して、指定された別名を鍵ストアに確実に含めてください。

**AMS1063**

別名 "{0}" は、鍵エントリーではありません。鍵ストア: "{1}"

**説明**

指定された別名は、鍵エントリーではありません。

**アクション**

適切な証明書管理ツールを使用して、指定された別名を鍵エントリーにしてください。

**AMS1064**

鍵ストアのパスワードには、ASCII 文字のみを含めることができます。

**説明**

鍵ストアのパスワードに非 ASCII 文字が含まれています。

**アクション**

ASCII 文字だけが含まれるように鍵ストア・パスワードを変更してください。

**AMS1065**

鍵ストア構成ファイルから、次の鍵を読み取れませんでした: "{0}"

**説明**

鍵ストア構成ファイルからプロパティを読み取るときに、エラーが発生しました。

**アクション**

鍵ストア構成ファイルのプロパティの値が正しいことを確認してください。

**AMS1066**

PKCS11 鍵ストアは次の PKCS11 構成で正常に初期化されました: "{0}"。

**説明**

PKCS11 ハードウェアに基づく鍵ストアが正常に初期化されました。

## アクション

アクションは不要です。

### AMS1100

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、鍵ストア構成ファイルを解析できませんでした。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、鍵ストア構成ファイルを解析できませんでした。

## アクション

鍵ストア構成ファイルにすべての必要な鍵が含まれていること、重複鍵が含まれていないことを確認してください。

### AMS1101

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 鍵ストア構成ファイルに次の複写鍵が存在します: "{0}"。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 鍵ストア構成ファイルに次の複写キーが存在します。

## アクション

鍵ストア構成ファイルにすべての必要な鍵が含まれていること、重複鍵が含まれていないことを確認してください。

### AMS1102

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 鍵ストア構成ファイルに絶対パス "{0}" が含まれていなければなりません。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security では絶対パスを想定していますが、相対パスが見つかりました。

## アクション

鍵ストア構成ファイルに絶対パスを含めてください。

### AMS1120

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターが受け取った保護品質は無効です。保護品質: "{0}"

#### 説明

Java インターセプターが受け取った保護品質は無効です。

## アクション

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1121

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターが受け取った保護品質は無効です。保護品質: "{0}"

#### 説明

Java インターセプターが受け取った保護品質は無効です。

## アクション

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1122

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターが受け取った暗号強度 "{0}" は無効です。

#### 説明

Java インターセプターが受け取った暗号強度は無効です。

## アクション

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1123**

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターが受け取った署名アルゴリズム "{0}" は無効です。

**説明**

Java インターセプターが受け取った署名アルゴリズムは無効です。

**アクション**

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1124**

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターが受け取った署名アルゴリズム "{0}" は無効です。

**説明**

Java インターセプターが受け取った署名アルゴリズムは無効です。

**アクション**

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1125**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、メッセージの保護に失敗しました。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターはメッセージを保護できませんでした。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1126**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、メッセージの保護に失敗しました。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターはメッセージを保護できませんでした。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1127**

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、保護されたメッセージ内に複数の送信側証明書を検出しました。

**説明**

保護されたメッセージでは、1つの送信側証明書だけが想定されます。

**アクション**

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1128**

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、保護されたメッセージ内に、送信側の証明書を検出できませんでした。

**説明**

Java インターセプターは、送信側の証明書を見つけることができませんでした。保護されたメッセージには、送信側の証明書が含まれることが想定されています。

**アクション**

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1129**

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターが受け取った保護されたメッセージの構文は無効です。

**説明**

Java インターセプターが受け取った、保護されたメッセージの構文が無効です。

**アクション**

セキュリティー・ポリシーが正しく指定されていることを確認して、失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1130**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、メッセージの保護の解除に失敗しました。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、メッセージの保護を解除できませんでした。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1131**

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、受け取ったメッセージから受信側を検出できませんでした。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、受け取ったメッセージから受信側を取得できませんでした。

**アクション**

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1132**

サブジェクト名 "{0}" の送信側の証明書が無効です。

**説明**

送信側の証明書が無効です。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1133**

サブジェクト名 "{0}" の送信側の証明書が無効です。

**説明**

送信側の証明書が無効です。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1134**

サブジェクト名 "{0}" の受信側の証明書が無効です。

**説明**

受信側の証明書が無効です。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1135**

保護メッセージ・タイプは、オブジェクト・スペースに指定された保護品質 (QOP) と一致しません。期待される QOP は "{0}" ですが、実際の QOP は "{1}" です。

**説明**

保護メッセージ・タイプは、オブジェクト・スペースで指定された QOP と一致しません。

**アクション**

セキュリティー・ポリシーが正しく指定されていることを確認してください。

**AMS1136**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、保護されたメッセージの暗号化の解除に失敗しました。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、保護されたメッセージの暗号化を解除できませんでした。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1137**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、保護されたメッセージの署名の検証に失敗しました。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、保護されたメッセージ署名を検証できませんでした。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1138**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書の trust チェーンの検証に失敗しました。証明書のサブジェクト名: "{0}"

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書の trust チェーンを検証することができませんでした。

**アクション**

エラーの原因について、詳しくはこの例外の後続のメッセージを参照してください。

**AMS1139**

保護メッセージの暗号強度が一致しません。期待される暗号強度は "{0}" ですが、実際の暗号強度は "{1}" です。

**説明**

保護メッセージの暗号化は、オブジェクト・スペースで指定されたものと一致しません。

**アクション**

セキュリティー・ポリシーが正しく指定されていることを確認してください。

**AMS1140**

この暗号化メッセージの受信側は、メッセージ宛先リスト "{0}" にありません。

**説明**

メッセージを受信するユーザーの証明書が、メッセージの RecipientsInfo リストに含まれていません。

**アクション**

セキュリティー・ポリシー定義でユーザーが宛先リストに含まれることを確認してください。

**AMS1200**

サブジェクト名が "{0}" である証明書は、まだ有効ではありません。この証明書は、"{1}" 以降に有効になります。

**説明**

証明書の有効期間がまだ始まっていません。

**アクション**

証明書の有効期間になり次第、失敗した操作を再試行します。または、有効な証明書を使用するよう構成を変更します。

**AMS1201**

サブジェクト名が "{0}" である証明書は、期限切れです。証明書の有効期限は "{1}" です。

**説明**

証明書の有効期限が切れています。

#### アクション

有効な証明書を使用するよう構成を変更してください。

#### AMS1202

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書の有効期間の検証に失敗しました。証明書のサブジェクト名は "{0}" です。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書の有効期間を検証できませんでした。

#### アクション

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### AMS1203

サブジェクト名が "{0}" である証明書で、無効なキー使用ビットが見つかりました。"{1}" のキー使用ビットは、"{3}" ではなく、"{2}" に設定されていなければなりません。

#### 説明

無効なキー使用ビットが証明書で見つかりました。

#### アクション

有効なキー使用拡張を持つ証明書を使用するよう、構成を変更してください。証明書の設定について、詳しくは「管理ガイド」を参照してください。

#### AMS1204

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、暗号化アルゴリズム名を取得できませんでした。

#### 説明

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、暗号化アルゴリズム名を取得できませんでした。

#### アクション

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### AMS1205

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、受信側の証明書を取得できませんでした。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、メッセージを暗号化しようとしたが、受信側の証明書が見つかりませんでした。

#### アクション

適切なセキュリティ・ポリシーで指定されたすべての証明書が鍵ストアに含まれていることを確認してください。

#### AMS1206

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、受信側の証明書を取得できませんでした。

#### 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、メッセージを暗号化しようとしたが、受信側の証明書が見つかりませんでした。

#### アクション

適切なセキュリティ・ポリシーで指定されたすべての証明書が鍵ストアに含まれていることを確認してください。

#### AMS1207

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、署名アルゴリズム名を取得できませんでした。

## 説明

内部エラーが発生しました: IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、署名アルゴリズム名を取得できませんでした。

## アクション

失敗した操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1208

サブジェクト名 "{0}" の証明書用の適切な鍵ビットが見つかりませんでした。実際の値は "{1}" で、適切な値は "{2}" です。少なくとも 1 ビットは状態が一致していなければなりません。

## 説明

無効なキー使用ビットが証明書で見つかりました。

## アクション

有効なキー使用拡張を持つ証明書を使用するよう、構成を変更してください。証明書の設定について、詳しくは「管理ガイド」を参照してください。

### AMS1209

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、"{0}" によって署名された CRL 署名を検証できませんでした。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、特定の発行者 DN によって署名された CRL を検証できませんでした。

## アクション

発行者の証明書がローカル鍵ストアに存在することを確認してください。

### AMS1210

証明書取り消しリスト "{0}" をロードできませんでした。

## 説明

CRL が見つからないか、これにアクセスできません。

## アクション

有効な CRL を指すよう構成を変更してください。CRL が読み取り可能であることを確認してください。

### AMS1211

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書失効リストにアクセスできませんでした。

## 説明

CRL が見つからないか、これにアクセスできません。

## アクション

有効な CRL を指すよう構成を変更してください。CRL が読み取り可能であることを確認してください。

### AMS1212

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書を妥当性検査できませんでした。BasicConstraint CA が true に設定された証明書をエンド・エンティティーとして使用することはできません。サブジェクト名は "{0}" です。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書を検証することができませんでした。

### AMS1213

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書を妥当性検査できませんでした。サブジェクト名が "{0}" である証明書は取り消されました。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security Java インターセプターは、証明書を検証することができませんでした。

**AMS1300**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: キュー・マネージャー情報を保存できませんでした。("{0}")

**説明**

内部エラーが発生したため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、キュー・マネージャー接続 (hconn) 情報を保存できませんでした。

**アクション**

この問題が発生し続ける場合には、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1310**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security は、オブジェクト処理から現在のキュー名を解決できませんでした。("{0}")

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、オブジェクト処理から現在のキュー名を解決できませんでした。 Message Queue Interface (MQI) 以外の何らかの内部 WebSphere MQ アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) によってキューが開かれている可能性があります。

**アクション**

アプリケーションで内部 WebSphere MQ API を使ってキューを開かないようにしてください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1311**

MQOPEN() の呼び出しが失敗しました。理由コードは("{0}")です。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターによる WebSphere MQ MQOPEN() 関数の呼び出しは、ここに示されているエラーを伴って失敗しました。

**アクション**

エラー・コードの説明および推奨される修正アクションについては、WebSphere MQ の資料を参照してください。キュー・マネージャーが作動可能で、キューが存在することを確認してください。

**AMS1312**

MQCLOSE() の呼び出しが失敗しました。理由コードは("{0}")です。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターによる WebSphere MQ MQCLOSE() 関数の呼び出しは、ここに示されている WebSphere MQ 理由コードを伴って失敗しました。

**アクション**

エラー・コードの説明および推奨される修正アクションについては、IBM WebSphere MQ の資料を参照してください。キュー・マネージャーが作動可能であること、および保護オブジェクト・スペースが存在し、正しいことを確認してください。IBM WebSphere MQ Advanced Message Security が正しく構成されて実行されていることを確認してください。

**AMS1313**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: 指定された署名アルゴリズム "{0}" が無効であるため、メッセージを保護できませんでした。

**説明**

予期されない署名アルゴリズムが指定されました。

**アクション**

これは内部エラーです。IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**AMS1325**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: 現在のキュー・オブジェクト・ハンドルからキュー情報を解決できませんでした。("{0}")

**説明**

現在のキューが IBM WebSphere MQ Advanced Message Security によって開かれなかったか、そのキューが閉じられたため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、現在のキュー・オブジェクト処理からキュー情報を解決できませんでした。

## アクション

そのキューが別の WebSphere MQ アプリケーションによってまだ開かれていないこと、以前に閉じられていないことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1326

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: ローカル・キュー・マネージャー CodedCharSetId を検出できませんでした ("{0}").

## 説明

内部エラーが発生したため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、ローカル・キュー・マネージャーの CodedCharSetId を検出できませんでした。

## アクション

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security を介してキュー・マネージャーが接続されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1327

キュー "{1}" の保護品質 "{0}" が無効です

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、キューに関するセキュリティ・ポリシーで指定された保護品質が無効であることを検出しました。

## アクション

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security セキュリティー・ポリシー定義でキューに関して指定された暗号化と署名アルゴリズムの値が有効であることを確認してください。

### AMS1328

無保護メッセージがキュー "{0}" に書き込まれました。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、選択されたキューの中に、保護レベル「なし」のメッセージを正常に書き込みました。

## アクション

アクションは不要です。

### AMS1329

保安全性保護メッセージがキュー "{0}" に書き込まれました。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、選択されたキューの中に、保護レベル「保安全性」のメッセージを正常に書き込みました。

## アクション

アクションは不要です。

### AMS1330

プライバシー保護が設定されているメッセージがキュー "{0}" に書き込まれました。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、選択されたキューの中に、保護レベル「プライバシー」のメッセージを正常に書き込みました。

## アクション

アクションは不要です。

### AMS1331

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: キュー・マネージャー・プロパティー ("{0}") について照会できませんでした。

## 説明

内部エラーが発生したため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、キュー・マネージャーのプロパティーについて照会できませんでした。

## アクション

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security を介してキュー・マネージャーが接続されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1340**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: 現在のキュー・オブジェクト・ハンドルからキュー情報を解決できませんでした。("{0}")

**説明**

現在のキューが IBM WebSphere MQ Advanced Message Security によって開かれなかったか、そのキューが閉じられたため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、現在のキュー・オブジェクト処理からキュー情報を解決できませんでした。

**アクション**

そのキューが別の WebSphere MQ アプリケーションによってまだ開かれていないことと、以前に閉じられていないことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1341**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security は、現在のメッセージに有効な「PDMQ」形式ヘッダーを見つけました。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、現在のメッセージ内で有効な IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを検出しました。

**アクション**

アクションは不要です。

**AMS1342**

現在のメッセージの「PDMQ」形式ヘッダーは無効です。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、現在のメッセージ内で有効な IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーを検出ませんでした。

**アクション**

キュー・オブジェクトの保護品質 (QoP) 設定を確認します。キューの QoP 設定が「なし」以外の場合、このキューに IBM WebSphere MQ プレーン・テキスト・メッセージが送られないようにしてください。

**AMS1343**

メッセージの保護品質("{0}")は、キュー "{2}" で設定されている品質保護("{1}")と一致しません。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、キューとキュー内のメッセージとの間で保護品質 (QoP) の不一致を検出しました。通常、QoP の不一致が発生するのは、メッセージの PUT と GET の間でキューの QoP が変更された場合です。

**アクション**

メッセージの PUT と GET で同じキューの保護品質が使用されていることを確認してください。キューの QoP が変更された場合は、そのキューに入っているすべてのメッセージをクリーンアップしてから、通常の操作を再開してください。

**AMS1344**

"{0}" - メッセージは、"{3}" を使用して、"{1}" によって、"{2}" に署名されました。

**説明**

メッセージに署名があることを示す通知メッセージです。署名者の名前、メッセージのタイム・スタンプ、使用された署名アルゴリズムが表示されています。

**アクション**

アクションは不要です。

**AMS1345**

"{0}" - メッセージは、"{3}" と "{4}" を使用して "{2}" で "{1}" によって署名および暗号化されました。

**説明**

これはメッセージが署名および暗号化されたことを示す通知メッセージです。署名者の名前、メッセージ・タイム・スタンプ、署名アルゴリズム名、および暗号化アルゴリズム名が表示されています。

**アクション**

アクションは不要です。

**AMS1346**

メッセージに有効な保護タイプがありません。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、メッセージ・ヘッダー内で無効な保護タイプを検出しました。一般的な原因は、IBM WebSphere MQ の無効なメッセージ・ヘッダーです。

**アクション**

操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1347**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターが問題のあるメッセージをエラー処理キュー "{0}" に書き込みました。

**説明**

これは、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security で解釈できなかったメッセージを、指定されたエラー処理キューに書き込んだことを示す通知メッセージです。

**アクション**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security で保護されているキューに、有効なメッセージだけが書き込まれていることを確認してください。

**AMS1348**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、問題のあるメッセージをエラー処理キューに登録できませんでした。MQ 理由コード ("{0}")

**説明**

ここに示されている IBM WebSphere MQ エラーが発生したため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターが解釈不能のメッセージをエラー処理キューに書き込めませんでした。

**アクション**

理由コードについての詳細情報は、IBM WebSphere MQ 資料を参照してください。問題が解決しない場合には、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1349**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: 送信元 CCSID "{0}" から宛先 CCSID "{1}" に、メッセージを変換できませんでした。IBM WebSphere MQ の完了コードは "{2}"、理由は "{3}" です。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、ソース・コード化文字セット ID (CCSID) からターゲット CCSID にメッセージを変換できませんでした。

**アクション**

IBM WebSphere MQ の資料で完了コードと理由コードについて調べて、修正アクションを行ってください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1350**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: キューからメッセージを取得できませんでした。MQGET() は失敗しました。IBM WebSphere MQ の完了コードは "{0}"、理由は "{1}" です。

**説明**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、キューからメッセージを取得できませんでした。

**アクション**

IBM WebSphere MQ の資料で完了コードと理由コードについて調べて、修正アクションを行ってください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**AMS1351**

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: 無保護メッセージ・サイズの "{0}" バイトが、オリジナル・メッセージ・サイズの "{1}" バイトと一致しません。

**説明**

無保護にした後に、メッセージのサイズが元のメッセージのサイズと一致なくなりました。メッセージ・ヘッダーが破壊されたか、改ざんされた可能性があります。

## アクション

送達不能キューに書き込まれたメッセージおよび監査ログを調べて、エラーの原因とメッセージの発信元を突き止めてください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1352

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security 内部エラー: 無保護メッセージ QoP が、ヘッダーで示されている QoP と一致しません。キュー・マネージャーは "{0}"、キューは "{1}"、メッセージ ID は "{2}" です

## 説明

保護解除中に、メッセージ・バッファ保護品質タイプと、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security ヘッダーで指定されている内容との間で不一致が検出されました。メッセージ・ヘッダーが破壊されたか、改ざんされた可能性があります。

## アクション

送達不能キューに書き込まれたメッセージおよび監査ログを調べて、エラーの原因とメッセージの発信元を突き止めてください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1353

キュー "{2}" で設定されている品質保護 ("{1}") より高い品質保護 ("{0}") のメッセージが受け入れられました。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、キューとキュー内のメッセージとの間で保護品質 (QoP) の不一致を検出しました。通常、QoP の不一致が発生するのは、メッセージの PUT と GET の間でキューの QoP が変更された場合です。

## アクション

メッセージの PUT と GET で同じキューの保護品質が使用されていることを確認してください。キューの QoP が変更された場合は、そのキューに入っているすべてのメッセージを削除してから、操作を再開してください。

### AMS1354

メッセージの署名者が許可署名者のリストに含まれていません。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターがメッセージに無許可ユーザーの署名が付いていることを検出しました。

## アクション

許可された署名者のリストにこの送信者が含まれていることを確認してください。

### AMS1355

メッセージをキュー ("{0}") からエラー処理キューに移動できませんでした。IBM WebSphere MQ 完了コード ("{1}")、理由コード ("{2}")。

## 説明

IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターは、エラー処理キューにメッセージを書き込むよう試みる前に、メッセージの削除に失敗しました。

## アクション

IBM WebSphere MQ の資料で完了コードと理由コードについて調べて、修正アクションを行ってください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### AMS1356

メッセージが大きすぎてバッファに収まりません。キュー ("{0}")、MQ 完了コード ("{1}")、理由コード ("{2}")。

## 説明

提供されているバッファが小さすぎるため、IBM WebSphere MQ Advanced Message Security インターセプターはデータの保護解除に失敗しました

## アクション

より大きいバッファを使って MQGET を発行してください。

### amq9001

チャンネル「&3」は正常に終了しました。

#### 説明

ホスト '& 5' へのチャンネル '& 3' が正常に終了しました。

#### アクション

なし。

#### amq9002

チャンネル「& 3」を開始しています。

#### 説明

チャンネル「& 3」を開始しています。

#### アクション

なし。

#### amq9005

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 ハードウェア・トークンにアクセスできませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 トークンを開こうとしましたが、失敗しました。GSKit ACME GSS マイナー理由& 1 で「& 3」を確認してください。

#### アクション

PKCS #11 トークンが存在していて、正しく構成されていることを確認してから、操作をやり直してください。トークンのラベル、PIN、ライブラリー名が正しく構成されていることを確認してください。

#### amq9006

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが PKCS #11 トークンを開こうとしませんでした。必要とされるすべての構成情報が提供されていませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 トークンを開こうとしませんでした。トークンのラベル、PIN、共有ライブラリー名のいずれか 1 つ以上が構成されていませんでした。

#### アクション

PKCS #11 トークンを使用する場合は、トークンのラベル、PIN、ライブラリー名が正しく構成されていることを確認してください。

#### amq9007

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 鍵証明書ラベルを変換できませんでした。

#### 説明

PKCS #11 トークンに格納されている鍵証明書項目を識別するために必要な Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 鍵証明書ラベルを、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが変換できませんでした。GSKit ACME GSS マイナー理由& 1 を確認してください。

#### アクション

PKCS #11 鍵証明書ラベルが正しく定義されていることを確認してください。

#### amq9008

鍵ストア・ファイル& 4 内のラベル& 3 の証明書を取得できません。GSKit ACME GSS マイナー理由は & 1 です。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストアから所定のラベルの証明書を読み取ることができませんでした。

#### アクション

構成ファイルの cms.certificate 項目としてラベルが正しく設定されていることを確認してください。鍵ストアに所定のラベルの証明書が含まれているかどうかを確認してください。

#### amq9009

資格情報を取得できません。GSKit ACME GSS マイナー理由は& 1 です。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが資格情報を取得できませんでした。

## アクション

構成内容を調べて、鍵ストア・データベースと stash ファイルが破損していないことを確認してください。

## amq9010

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー内部エラー: 指定された暗号化アルゴリズムが無効なため、メッセージを保護できませんでした& 1。

## 説明

値の ID として無効な値が指定されています。

## アクション

これは内部エラーです。IBM サービス担当員に連絡してください。

## amq9011

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがこの ACME 環境で Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 ハードウェア RSA 秘密鍵アルゴリズムをオンに設定できませんでした。GSKit ACME GSS マイナー理由& 1 を確認してください。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがこの ACME 環境で Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 暗号アルゴリズムを登録できませんでした。

## アクション

PKCS #11 トークンが正しく機能していることを確認してから、操作をやり直してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

## amq9012

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが公開鍵資格情報を取得できませんでした。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが Public Key Infrastructure (PKI) ログインを実行できませんでした。

## アクション

公開鍵資格情報の取得に関連するエラー・メッセージを確認して、障害の原因を突き止めてください。ユーザーに kdb ファイルと stash ファイルの読み取り権限があるかどうか、kdb ファイルに指定のラベルの証明書が入っているかどうかを確認してください。最後に、証明書の有効期限が切れていないかどうかを確認してください。

## amq9013

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: Independent Data Unit Protection (IDUP) 環境を終了できませんでした。GSKit 理由コード& 1。

## 説明

内部エラーが発生したため、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが GSKit IDUP 環境を解放できませんでした。

## アクション

製品資料にある GSKit の付録を調べて、GSKit 理由コードの説明を確認してから、修正処置を実行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

## amq9014

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターは、Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 トークンを閉じることができませんでした。GSKit ACME GSS マイナー理由& 1 を確認してください。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターは、Public-Key Cryptography Standards (PKCS) #11 トークンを閉じることができませんでした。

## アクション

PKCS #11 トークンが正しく機能していることを確認してから、操作をやり直してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9015**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部警告: GSKit が 3 をリリースできませんでした。  
GSKit 理由コード & 1。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの GSKit 呼び出しが指定の理由コードで失敗しました。リソースを解放してシステムに戻せなかったことが原因です。

#### **アクション**

アクションは不要です。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9016**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: GSKit は 3 を割り振ることができませんでした。GSKit 理由コード & 1。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの GSKit 呼び出しが指定の理由コードで失敗しました。システムがリソースを割り振れなかったことが原因です。

#### **アクション**

システムがアプリケーションを実行するために必要なハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしていることを確認してから、アプリケーションを再始動してください。

#### **amq9017**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: メッセージを無保護にすることができませんでした: GSKit エラー・コード & 1、理由 & 2。

#### **説明**

示されている GSKit エラーが発生したため、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがメッセージの検証または暗号化解除を実行できませんでした。いくつかの理由が考えられますが、いずれも内部の障害です。(1) メッセージが有効な PKCS#7 メッセージではありません。(2) 送信側の証明書に、メッセージの暗号化に必要な鍵使用法ビットがありません。(3) 送信側の証明書が信頼証明書として認識されませんでした。(4) 受信側がメッセージの受信者に含まれていません。

#### **アクション**

製品資料にある GSKit の情報を調べて、GSKit 理由コードの説明を確認してから、修正処置を実行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9018**

指定された SHA-2 アルゴリズム '& 3' は、このプラットフォームではサポートされていません。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがポリシーを適用できませんでした。このプラットフォームが SHA-2 署名アルゴリズムに対応していないことが原因です。

#### **アクション**

SHA-2 署名アルゴリズムを指定したポリシーでキューを開くすべてのプラットフォームに、必要な暗号ライブラリー・サポートがあることを確認してください。

#### **amq9019**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: 指定された署名アルゴリズムが無効であるため、メッセージを保護できませんでした & 1

#### **説明**

値の ID として無効な値が指定されています。

#### **アクション**

これは内部エラーです。IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9020**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: 受信側の DN が指定されていないので、メッセージを保護できませんでした。

#### **説明**

このポリシーは、プライバシーに設定されていますが、受信側 DN が含まれていません。

#### **アクション**

これは内部エラーです。IBM サービス担当員に連絡してください。

**amq9021**

DN& 3 の証明書のインポート中にエラーが発生しました。結果:& 1

**説明**

識別名が鍵ストアに存在しないか、無効です。

**アクション**

製品資料にある GSKit の付録を調べて、GSKit 理由コードの説明を確認してから、修正処置を実行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**amq9022**

DN& 3、結果& 1、理由& 2 の証明書のインポート中にエラーが発生しました。

**説明**

識別名が鍵ストアに存在しないか、無効です。

**アクション**

製品資料にある GSKit の付録を調べて、GSKit 理由コードの説明を確認してから、修正処置を実行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

**amq9023**

鍵ストア・ファイル '& 3' の名前にファイル拡張子 '& 4' が誤って指定されました。

**説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア・ファイルを検出できませんでした。鍵ストア構成項目の値に間違ってファイル拡張子が含まれているようです。

**アクション**

構成ファイルで指定されている鍵ストア・ファイル名にファイル拡張子が含まれていないことを確認してください。

**amq9024**

鍵ストア・ファイル '& 3' が存在せず、鍵ストア構成項目が誤って '& 4' で終了しています。鍵ストア構成の値にファイル拡張子が含まれていないこと、その値が既存のファイルを指していることを確認してください。

**説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア・ファイルを検出できませんでした。鍵ストア構成項目の値にファイル拡張子「& 4」が誤って含まれており、結果のファイル名「& 3」が存在しません。

**アクション**

鍵ストア構成の値にファイル拡張子が含まれていないこと、その値が既存のファイルを指していることを確認してください。

**amq9025**

鍵ストア・ファイル& 3& 4 が存在しません。鍵ストア構成エントリーの値が既存のファイルを指していることを確認してください。

**説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア・データベース・ファイルを検出できませんでした。

**アクション**

鍵ストア構成エントリーの値が既存のファイルを指していることを確認してください。

**amq9026**

鍵ストア・ファイル& 3& 4 を読み取ることができません。ファイルのアクセス権限を確認してください。

**説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア・データベース・ファイルを読み取ることができませんでした。

**アクション**

鍵ストア・データベース・ファイルに関する権限を正しく設定してください。

**amq9027**

鍵ストア・ファイル& 3& 4 にアクセスできません。エラー・コード& 1。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア・データベース・ファイルを開くことができませんでした。

## アクション

鍵ストア・ファイルにアクセスするアプリケーションに、鍵ストア・ファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

## amq9028

鍵ストア stash ファイル & 3 & 4 が存在しません。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア stash ファイルを検出できませんでした。

## アクション

鍵ストア stash ファイルにアクセスするアプリケーションに、そのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

## amq9029

鍵ストア stash ファイル & 3 & 4 を読み取ることができません。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア stash ファイルを読み取ることができませんでした。

## アクション

鍵ストア stash ファイルに関する権限を確認してください。

## amq9030

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: 現在のキュー・オブジェクト・ハンドル (& 1) からキュー情報を解決できませんでした。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが現在のキュー・オブジェクト・ハンドルからキュー情報を解決できませんでした。そのオブジェクト・ハンドルが無効であるか、認識されていないことが原因です。

## アクション

そのキューが別の WebSphere MQ アプリケーションによってまだ開かれていないこと、以前に閉じられていないことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

## amq9031

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがコールバック出口の実行前にエラーを検出しました。WebSphere MQ compcode & 1 : 理由 & 2。

## 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがインターセプターの実行前にエラーを示す WebSphere MQ 完了コードを受け取りました。

## アクション

製品資料で完了コードと理由コードの説明を調べて、修正処置を実行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

## amq9032

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがキュー・マネージャー CodedCharSetId (& 1) を検出できませんでした。キュー・マネージャーのプロパティーについての照会権限があることを確認してください。

## 説明

内部エラーが発生したため、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがローカル・キュー・マネージャーの CodedCharSetId を検出できませんでした。

## アクション

アプリケーションにキュー・マネージャーの照会権限があることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### amq9033

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーの内部エラー: ローカル・キュー・マネージャー CodedCharSetId (& 1) が見つかりませんでした。

#### 説明

内部エラーが発生したため、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが ローカル・キュー・マネージャーの CodedCharSetId を検出できませんでした。

#### アクション

問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### amq9034

メッセージに有効な保護タイプがありません。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがメッセージ・ヘッダーで無効な 保護タイプを検出しました。一般的な原因は、WebSphere MQ の無効なメッセージ・ヘッダーです。

#### アクション

操作を再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

### amq9035

メッセージの署名者が許可署名者のリストに含まれていません。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがメッセージに無許可ユーザーの署名が付いていることを検出しました。

#### アクション

メッセージの送信側に関連する ID に、このアプリケーションにメッセージを送信する権限があることを確認してください。キューのセキュリティ・ポリシーで、許可署名者のリストに送信側の名前が含まれていることを確認してください。

### amq9036

MQOPEN () 呼び出しが失敗しました: 理由コード (& 1)。

#### 説明

WebSphere MQ の MQOPEN() の呼び出しに対する WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターの呼び出しが失敗しました。示されたエラーが原因です。

#### アクション

エラー・コードの説明および推奨される修正アクションについては、製品資料を参照してください。キュー・マネージャーが操作可能な状態になっていること、キューが存在していることを確認してください。

### amq9037

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがキュー& 3 上のメッセージを CompCode& 1 理由コード& 2 で処理できませんでした。

#### 説明

キュー& 3 にセキュリティ・ポリシーを適用中に、予期しないエラーが発生しました。

#### アクション

これは内部エラーです。IBM サービス担当員に連絡してください。

### amq9038

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが WebSphere MQ ヘッダーの& 3 フィールドを CCSID& 1 から CCSID& 2 に変換できませんでした。WebSphere MQ でデフォルトのデータ変換が有効であることを確認してください。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプター内部エラー: データ変換が失敗しました。通常は、非互換文字セットの問題です。

#### アクション

WebSphere MQ でデフォルトのデータ変換を有効にしてください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9039**

&3-メッセージは&5を使用して&4によって署名されました。

#### **説明**

メッセージに署名があることを示す通知メッセージです。署名者の名前、メッセージのタイム・スタンプ、使用された署名アルゴリズムが表示されています。

#### **アクション**

なし。

#### **amq9040**

&3-メッセージは、&4によって&5を使用して署名および暗号化されました。

#### **説明**

メッセージに署名があり、暗号化もされていることを示す通知メッセージです。署名者の名前と暗号化アルゴリズムの名前が表示されています。

#### **アクション**

なし。

#### **amq9041**

メッセージは保護されませんでした。

#### **説明**

メッセージに署名がなく、暗号化もされていないことを示す通知メッセージです。

#### **アクション**

なし。

#### **amq9042**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー内部エラー: 無保護メッセージ・サイズ&1バイトが、元のメッセージ・サイズ&2バイトと一致しません。

#### **説明**

無保護にした後に、メッセージのサイズが元のメッセージのサイズと一致なくなりました。メッセージ・ヘッダーが破壊されたか、改ざんされた可能性があります。

#### **アクション**

SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE キューに書き込まれたメッセージを調べて、エラーの原因とメッセージの発信元を突き止めてください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9043**

メッセージ保護アルゴリズム&3は、必要な&4とは異なります。

#### **説明**

メッセージがキューで必要な暗号化強度に合致していないことを、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが検出しました。通常、このような状態になるのは、キューにメッセージが入っている間にキューの暗号化強度が変更された場合です。

#### **アクション**

メッセージの MQPUT と MQGET で同じ暗号化強度が使用されていることを確認してください。キューの暗号化強度が変更された場合は、そのキューに入っているすべてのメッセージを削除してから、通常の操作を再開してください。

#### **amq9044**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが問題のあるメッセージをエラー処理キュー&3に書き込みました。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーが解釈不能のメッセージを指定のエラー処理キューに書き込んだことを示す通知メッセージです。

#### **アクション**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーで保護されているキューに有効なメッセージだけが書き込まれていることを確認してください。

#### **amq9045**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが、問題のあるメッセージをエラー処理キューに書き込むことができませんでした。 WebSphere MQ 理由コード (& 1)

#### **説明**

ここに示されている WebSphere MQ エラーが発生したため、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが解釈不能のメッセージをエラー処理キューに書き込めませんでした。

#### **アクション**

製品資料で理由コードについての詳細を確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

#### **amq9046**

現在のメッセージの「PDMQ」形式ヘッダーは無効です。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが現在のメッセージで有効な WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・ヘッダーを検出できませんでした。

#### **アクション**

キューの QoP 設定が「なし」になっていない場合は、無保護メッセージがこのキューに送付されないことを確認してください。

#### **amq9047**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーが現在のメッセージで有効な「PDMQ」形式のヘッダーを検出しました。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが現在のメッセージで有効な WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・ヘッダーを検出しました。

#### **アクション**

なし。

#### **amq9048**

メッセージの保護品質 (& 1) が、キュー& 3 に設定されている保護品質 (& 2) と一致しません。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが、キューとキュー内のメッセージの保護品質 (QoP) が一致していないことを検出しました。通常、QoP の不一致が発生するのは、メッセージの PUT と GET の間でキューの QoP が変更された場合です。

#### **アクション**

メッセージの PUT と GET で同じキューの保護品質が使用されていることを確認してください。キューの QoP が変更された場合は、そのキューに入っているすべてのメッセージをクリーンアップしてから、通常の操作を再開してください。

#### **amq9049**

キュー& 3 に設定されている (& 2) より高い保護品質 (& 1) のメッセージが受け入れられました。

#### **説明**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが、キューとキュー内のメッセージの保護品質 (QoP) が一致していないことを検出しました。通常、QoP の不一致が発生するのは、メッセージの PUT と GET の間でキューの QoP が変更された場合です。

#### **アクション**

メッセージの PUT と GET で同じキューの保護品質が使用されていることを確認してください。キューの QoP が変更された場合は、そのキューに入っているすべてのメッセージを削除してから、操作を再開してください。

#### **amq9050**

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシーがセキュリティ・ポリシー定義にアクセスできませんでした。メジャー・コード& 1:マイナー・コード& 2

#### **説明**

セキュリティ・ポリシー定義にアクセスできません。

#### アクション

セキュリティ・ポリシー定義は、このアプリケーションからアクセス可能な状態になっている必要があります。このアプリケーションが SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE にアクセスするためのオブジェクト権限マネージャーのアクセス制御を確認してください。

#### amq9051

WebSphere MQ がセキュリティ・ポリシー定義を検出できませんでした。完了コード&1:理由&2

#### 説明

セキュリティ・ポリシー定義が定義されていません。

#### アクション

この操作を実行する前にセキュリティ・ポリシー定義を定義しておく必要があります。

#### amq9052

保護されていないメッセージがキュー&3 に入れられました。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティ・ポリシー・インターセプターが「なし」という QoP のメッセージを選択対象キューに正常に書き込みました。

#### アクション

なし。

#### amq9053

保全性保護されたメッセージがキュー&3 に入れられました。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティ・ポリシー・インターセプターが「保全性」という QoP のメッセージを選択対象キューに正常に書き込みました。

#### アクション

なし。

#### amq9054

プライバシー保護されたメッセージがキュー&3 に入れられました。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティ・ポリシー・インターセプターが「プライバシー」という QoP のメッセージを選択対象キューに正常に書き込みました。

#### アクション

なし。

#### amq9055

キュー&3 の保護品質 (QoP)&1 が無効です。

#### 説明

キューのセキュリティ・ポリシーで指定されている保護品質が無効であることを WebSphere MQ セキュリティ・ポリシー・インターセプターが検出しました。

#### アクション

WebSphere MQ セキュリティ・ポリシー定義で指定されているキューの暗号化アルゴリズムと署名アルゴリズムが有効な値になっていることを確認してください。

#### amq9056

WebSphere MQ セキュリティ・ポリシーの内部エラー: 指定された署名アルゴリズム&1 が無効であるため、メッセージを保護できませんでした。

#### 説明

無効な署名アルゴリズムが指定されました。

#### アクション

これは内部エラーです。IBM サービス担当員に連絡してください。

#### amq9057

WebSphere MQ セキュリティ・ポリシーの内部エラー: 指定された暗号化アルゴリズム&1 が無効であるため、メッセージを処理できませんでした。

#### 説明

無効な暗号化アルゴリズムが指定されました。

#### アクション

これは内部エラーです。IBM サービス担当員に連絡してください。

#### amq9058

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがキュー・マネージャー& 3 の属性を照会できません。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがキュー・マネージャー属性を照会できませんでした。完了コード& 1、理由コード& 2。

#### アクション

このアプリケーションに、キュー・マネージャー・オブジェクトを照会するための適切なアクセス制御権限が付与されていることを確認してください。

#### amq9059

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがキュー・マネージャー& 3 の構成イベントを生成できませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが構成イベントを生成できませんでした。comp コード& 1、理由コード& 2。

#### アクション

このプロセスの出力で SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT キューを使用できることを確認してください。

#### amq9060

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー鍵ストア構成ファイルに重複した鍵が含まれています:& 3。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー鍵ストア構成ファイルに重複した鍵が含まれています:& 3。

#### アクション

鍵ストア構成ファイルにすべての必要な鍵が含まれていること、重複鍵が含まれていないことを確認してください。

#### amq9061

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー鍵ストア構成ファイルに、鍵& 3 が含まれていません。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー鍵ストア構成ファイルに、鍵& 3 が含まれていません。

#### アクション

鍵ストア構成ファイルにすべての必要な鍵が含まれていること、重複鍵が含まれていないことを確認してください。

#### amq9062

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア構成ファイルを読み取ることができませんでした:& 3。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア構成ファイルを読み取ることができませんでした:& 3。

#### アクション

WebSphere MQ アプリケーションを実行するユーザーに、この構成ファイルの読み取り権限があることを確認してください。この構成ファイルが破損していたり、空になっていたりすることがないかどうかを確認してください。問題が解決しない場合は、最寄りの IBM サービス担当員に連絡してください。

#### amq9063

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア構成ファイルを解析できませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが鍵ストア構成ファイルを解析できませんでした。

#### アクション

鍵ストア構成ファイルにすべての必要な鍵が含まれていること、重複鍵が含まれていないことを確認してください。

#### amq9064

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターは、OCSP 検査を有効にすることができませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが OCSP 検査を構成しているときにエラーを検出しました。

#### アクション

OCSP 構成を調べて、すべてのパラメーターが正しく指定されていることを確認してください。

#### amq9065

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが OCSP 構成を処理できませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ の OCSP 構成に間違いがあります。

#### アクション

OCSP 構成を調べて、すべての必須パラメーターが指定されていることを確認してください。

#### amq9066

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターは、CRL 検査を有効にすることができませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが CRL 検査を構成しているときにエラーを検出しました。

#### アクション

CRL 構成を調べて、すべてのパラメーターが正しく指定されていることを確認してください。

#### amq9067

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが CRL 構成を処理できませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが CRL 構成情報を処理できませんでした。

#### アクション

CRL 構成を調べて、すべての必須パラメーターが指定されていることを確認してください。

#### amq9068

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターは、失効検査を有効にすることができませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターは、OCSP または CRL を有効にすることができませんでした。必要な機能が、現在使用中の GSKit のバージョンでサポートされていません。

#### アクション

現在有効になっているバージョンの GSKit は、WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー失効検査の最小要件に適合していません。最小要件に適合した新しいバージョンの GSKit をインストールしてください。

#### amq9069

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが証明書を検証できませんでした。GSKit 状況:& 3。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが証明書を検証できませんでした。

#### アクション

GSKit ログを読んで、検証が失敗した原因を突き止めてください。

#### amq9070

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが証明書を検証できませんでした。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターが証明書を検証できませんでした。

#### アクション

GSKit ログを読んで、検証が失敗した原因を突き止めてください。

#### amq9071

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプター内部エラー: GSKit 属性& 3 を読み取れませんでした。GSKit 理由コード:& 1。

#### 説明

GSKit gskacme\_cred\_get 関数が失敗しました。

#### アクション

この WebSphere MQ インストール済み環境で正しいバージョンの GSKit を使用していることを確認してください。

#### amq9072

証明書の失効状況は UNKNOWN です。GSKit ログ:& 3。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがこの証明書の失効状況を判別できませんでした。

#### アクション

GSKit ログを読んで、この証明書の DN と通し番号を確認してください。

#### amq9073

証明書の失効状況は UNKNOWN です。GSKit ログ:& 3。

#### 説明

WebSphere MQ セキュリティー・ポリシー・インターセプターがこの証明書の失効状況を判別できませんでした。

#### アクション

GSKit ログを読んで、この証明書の DN と通し番号を確認してください。

#### amq9074

この WebSphere MQ Advanced Message Security のコピーの試用期間ライセンスの有効期限が切れました。

#### 説明

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、試用モードで使用するために限定期間のみのライセンスが交付されていました。この期間の有効期限が切れました。

#### アクション

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピー用の製品ライセンスをインストールしてください。

#### amq9075

この WebSphere MQ Advanced Message Security のコピーのベータ・ライセンスの有効期限が切れました。

#### 説明

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、ベータ・テストで使用するために限定期間のみのライセンスが交付されていました。この期間の有効期限が切れました。

#### アクション

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピー用の製品ライセンスをインストールしてください。

#### amq9076

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーの試用期間は、残り& 1 日です。

#### 説明

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、限定期間のみのライセンスが交付されています。

#### アクション

なし。

**amq9077**

この WebSphere MQ Advanced Message Security のコピーの試行期間は今日が最終日です。

**説明**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、限定期間のみのライセンスが交付されています。

**アクション**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピー用の製品ライセンスをインストールしてください。

**amq9078**

この WebSphere MQ Advanced Message Security のコピーの試行期間は残り 1 日です。

**説明**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、限定期間のみのライセンスが交付されています。

**アクション**

なし。

**amq9079**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーのベータ・テスト期間は、残り 1 日です。

**説明**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、限定期間のみのライセンスが交付されています。

**アクション**

なし。

**amq9080**

この WebSphere MQ Advanced Message Security のコピーのベータ・テスト期間は残り 1 日です。

**説明**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、限定期間のみのライセンスが交付されています。

**アクション**

なし。

**amq9081**

この WebSphere MQ Advanced Message Security のコピーのベータ・テスト期間は今日が最終日です。

**説明**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピーには、限定期間のみのライセンスが交付されています。

**アクション**

WebSphere MQ Advanced Message Security のこのコピー用の製品ライセンスをインストールしてください。

**amq9082**

ポリシーが見つかりませんでした。

**説明**

定義されたポリシーはありません。

**アクション**

なし。



## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing

Legal and Intellectual Property Law

〒 103-8510

103-8510

東京 103-8510、日本

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION は、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。"" 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA

3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っていません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報 (提供されている場合) は、このプログラムで使用するアプリケーション・ソフトウェアの作成を支援することを目的としています。

本書には、プログラムを作成するユーザーが IBM WebSphere MQ のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースに関する情報が記載されています。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

**重要:** この診断、修正、およびチューニング情報は、変更される可能性があるため、プログラミング・インターフェースとして使用しないでください。

## 商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com®は、世界の多くの国で登録された IBM Corporation の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、"Copyright and trademark information" [www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。







部品番号:

(1P) P/N: